

あき やま おお まち い せき
秋山大町遺跡

— B・C・D・E地点の調査 —

2010

本庄市遺跡調査会

序

本庄市が生んだ「郷土の偉人」塙保己一は、我が国にとって貴重な文献資料が公家や武家等に所蔵され、誰もがこれらを学ぶことができないことや、これらの稀少な文献がしばしば失われていく状況を憂い、多くの史料を集成・校訂し、多くの困難を乗り越えながら、誰もが学べるように『群書類従』として刊行いたしました。私たちの文化財保護行政は、この塙保己一の偉大な業績に比べるべくありませんが、過去から伝えられた貴重な文化財を、誰でもが学べるように残し、そして伝えていくことが、なによりも先生のご精神の顕彰につながるのではないかと考えております。

ここに報告する秋山大町遺跡は、古墳時代後期を中心に、古代・中世に営まれた大規模な集落の跡であります。本書に記載された貴重な埋蔵文化財の数々は、ここに記録として保存し、この発掘調査報告書という形で永く後世に伝えることになりました。これらの埋蔵文化財は、将来の私たちの文化的な生活を形づくるためのひとつの基礎となりえるものであります。これらを守り伝えて行くことはもとより、誰もが学び、地域の理解のために生かし、多くの皆さまによって活用して行けるような環境を整えて行くことも、これからの文化財保護の課題であるといつてよいでしょう。

ここに、この発掘調査報告書が刊行できましたことは、三和シャッター工業株式会社をはじめとする関係各位ならびに関係諸機関の皆様のご理解とご協力の賜と深く感謝いたします。このささやかな調査報告書は、埋蔵文化財の保護・活用にとっての第一歩であるに過ぎませんが、この地域の住民皆様はもとより、教育や研究にたずさわる皆様のご参考となりえるならば幸いです。

平成22年11月15日

本 庄 市 遺 跡 調 査 会
会 長 茂 木 孝 彦

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市児玉町秋山字大町他に所在する秋山大町遺跡(No.54-267) B・C・D・E地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、三和シャッター工業株式会社(仮称)児玉工場造成事業に伴う事前の記録保存を目的として実施した。発掘期間は以下の通りである。

秋山大町遺跡 平成9年12月10日から、平成11年8月30日
3. 発掘調査は、児玉町遺跡調査会が行い、秋山大町遺跡B地点は、恋河内昭彦(児玉町教育委員会社会教育課)、松澤浩一(児玉町遺跡調査会調査員)および福山俊彰(山武考古学研究所調査員)が、C地点の発掘調査は、恋河内昭彦・松澤浩一(児玉町教育委員会社会教育課)・尾内俊彦(児玉町遺跡調査会調査員)が、D・E地点にかかる現地の発掘調査は、恋河内昭彦・徳山寿樹・松澤浩一(児玉町教育委員会社会教育課)がそれぞれ担当した。
4. 発掘調査の面積は以下の通りである。

秋山大町遺跡 B地点約7,760㎡ C1地点約2,090㎡ C2地点約30㎡ C3地点約310㎡
D地点約2,120㎡ E地点約3,660㎡
5. 整理および報告書にかかる業務の一部を、有限会社毛野考古学研究所に委託した。発掘調査および整理・報告書刊行に要した経費は、三和シャッター工業株式会社の委託金である。
6. 整理の期間は、平成21年4月8日から平成22年11月30日までである。
7. 本書の執筆は、Ⅰを本庄市教育委員会文化財保護課が、Ⅱを本庄市教育委員会文化財保護課鈴木徳雄が執筆し、これ以外を有限会社毛野考古学研究所宮本久子が担当した。Ⅲ-8・9の縄文土器に関しては、有限会社毛野考古学研究所伊藤順一が、石器に関しては有限会社毛野考古学研究所土井道昭が担当した。
8. 本書の編集は、本庄市教育委員会文化財保護課の指導に基づき、宮本が担当した。
9. 本書に掲載した出土遺物、遺構および遺物の実測図ならびに写真、その他報告書に関する資料は、本庄市教育委員会において保管している。
10. 三和シャッター工業株式会社(仮称)児玉工場造成計画にかかる秋山大町遺跡以外の秋山諏訪平遺跡・秋山大町東遺跡の発掘調査報告書は、『本庄市遺跡調査会報告書第37集』として刊行する。秋山大町遺跡を含めた考察は、第37集の第Ⅴ章にまとめて掲載している。
11. 発掘調査から整理調査、報告書の刊行に至るまで、以下の方々から貴重なご意見、ご指導、ご協力を賜りました。ご芳名を記し感謝申し上げます。(順不同・敬称略)

赤熊浩一、池田敏宏、大屋道則、岡本一雄、小川卓也、金子彰男、
雉岡恵一、坂本和俊、櫻井和哉、外尾常人、高橋一夫、田村 誠、
知久裕昭、利根川章彦、永井智教、中沢良一、長滝歳康、中村倉司、
中村岳彦、平田重之、福田貫之、藤野一之、丸山 修、宮本直樹、矢内 勲、
山口逸弘、埼玉縣市町村支援部生涯学習文化財課、児玉郡市文化財担当者会

秋山大町遺跡発掘調査組織

児玉町遺跡調査会（平成11年度：抜粋）





会 長	富丘文雄	児玉町教育委員会教育長
理 事	田島三郎	児玉町文化財保護審議委員長
	清水守雄	児玉町文化財保護審議委員
	武内和雄	児玉町文化財保護審議委員
	野口敏雄	児玉町文化財保護審議委員
	小島和子	児玉町文化財保護審議委員
	前川由雄	児玉町教育委員会社会教育課長
幹 事	三上元一	児玉町教育委員会社会教育課課長補佐
	萩原千恵子	〃 社会教育係主任
	鈴木徳雄	児玉町教育委員会社会教育課文化財係係長
調査員	恋河内昭彦	〃 文化財係主任
	徳山寿樹	〃 文化財係主事
	大熊季広	〃 文化財係主事
	松澤浩一	〃 文化財係主事
	尾内俊彦	児玉町遺跡調査会調査員

秋山大町遺跡整理・報告組織

本庄市遺跡調査会（平成22年度）

会 長	茂木孝彦	本庄市教育委員会教育長
理 事	清水守雄	本庄市文化財保護審議委員
	腰塚 修	本庄市教育委員会事務局長（会長代理）
監 事	八木 茂	本庄市監査委員事務局長
	田島弘行	本庄市会計課長
幹 事	金井孝夫	本庄市教育委員会文化財保護課長（事務局長）
	鈴木徳雄	〃 副参事兼課長補佐
	太田博之	〃 埋蔵文化財係長
	恋河内昭彦	〃 埋蔵文化財係主査
	大熊季広	〃 埋蔵文化財係主査
	松本 完	〃 埋蔵文化財係主任
	松澤浩一	〃 埋蔵文化財係主任
	的野善行	〃 埋蔵文化財係臨時職員

凡 例

1. 本書中に記載した、XY座標値は、日本測地系による座標である。各遺構図における方位針は北をさす。
2. 本書に掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は以下を原則とした。各挿図中にはスケールを付してある。
【遺構図】 住居跡…1/30・1/60 掘立柱建物跡…1/80 土坑…1/40 井戸…1/60
溜井…1/100 溝…1/400・1/80
【遺物図】 土器・埴輪…1/4・1/6 土製品・石器…1/2・1/3・1/4 鉄製品…1/2
3. 遺構断面図の水準値は、海拔を示し、単位はmである。数値のないものは標高値が不明となっている。
4. 遺構図中の土坑・ピット脇に配した「-」は深さを示す。単位はcmである。
5. 本書中の遺物観察表に記した記号は、以下の通りである。法量の単位はcm、重さはgである。()内の数値は復元値を示す。
A-法量。B-成形手法。C-整形・調整の特徴。D-胎土(材質)。E-色調。F-残存度。
G-備考。H-出土位置・層位。
6. 遺構図・遺物図中のトーンを示す内容は以下の通りである。
【遺構図】 …地山 …焼土
【遺物図】 …黒色処理 …赤彩
7. 本書中に使用した、As- A・As- Bは、浅間山噴出テフラを指す。前者が浅間A軽石・1783年(天明3年)、後者が浅間B軽石・1108年(天仁元年)降下である。
8. 本書掲載の地形図は、国土交通省国土地理院発行1/25,000「本庄」「寄居」、位置図は児玉町都市計画図1/2,500(昭和44年)に加筆したものをを用いた。

秋山大町遺跡

— B・C・D・E地点—

目 次

序 文

例 言

凡 例

目 次

第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	5
第Ⅲ章 秋山大町遺跡の調査	
第1節 遺跡の概要	12
第2節 基本層序	20
第3節 検出された遺構と遺物	
1. 竪穴住居跡	22
2. 掘立柱建物跡	212
3. 井戸・溜井	235
4. 土坑	252
5. ピット	260
6. 溝	261
7. 水田址	280
8. 埋甕	284
9. 包含層・遺構外出土遺物	286

写真図版 秋山大町遺跡

第 I 章 調査に至る経緯

本報告にかかる発掘調査は、三和シャッター工業株式会社による工場（仮称児玉工場）等の造成工事計画に伴って失われる埋蔵文化財の記録保存のために、三次にわたって実施されたものであり、発掘調査に至る経緯の概要は以下のとおりである。

埼玉県児玉郡児玉町大字秋山（現本庄市児玉町秋山）字大町ほかの約170,000㎡において、三和シャッター工業株式会社による工場等造成計画に基づく開発予定地内における埋蔵文化財の所在及び取り扱いについての照会があった。児玉町教育委員会では、この区域には周知の埋蔵文化財包蔵地である秋山諏訪平遺跡（No.54-044）および秋山大町遺跡（No.54-267）が該当しているとともに、埋蔵文化財の包蔵状況を把握するための試掘調査が必要である旨の回答を行った。平成3年6月、三和シャッター工業株式会社より試掘調査依頼書が児玉町教育委員会に提出されたところから、児玉町教育委員会では試掘の条件の整った区域から、順次所在確認と遺構深度等を確認するための試掘調査を実施し、平成3年10月4日付で試掘を実施した区域についての所在確認試掘調査の中間結果についての回答を行った。このうち、秋山諏訪平遺跡については周知の範囲と遺跡範囲に幾分の変更があったが、面積等に大きな変更のないことが確認された。また、秋山大町遺跡については古墳時代から平安時代の大規模な集落跡であることが確認され、東側の低地帯には水田跡が確認された。なお、試掘調査において秋山大町遺跡の東側に新たに古墳時代後期から平安時代にかかる集落跡が確認され、秋山大町遺跡とは相対的に独立した遺跡であると推定されたところから、これを秋山大町東遺跡（No.54-299）とした。

児玉町教育委員会は、これらの試掘調査等の結果を踏まえ、埋蔵文化財の現状変更を最小限に造成を実施するように三和シャッター工業株式会社と協議を行った。しかし、工場造成計画の実施にあたって埋蔵文化財への影響は避けがたく、造成に伴って埋蔵文化財が失われる区域の発掘調査を実施する必要が生じた。以上の協議を踏まえ、発掘調査は、児玉町教育委員会の指導に基づいて、児玉町遺跡調査会と三和シャッター工業株式会社との間で埋蔵文化財保存事業委託契約を締結することで実施する運びとなった。

ここに報告する秋山大町遺跡の発掘調査については、三和シャッター工業株式会社の工場等造成工事計画に基づいて実施された三次に及ぶ発掘調査のうち第二次調査、および第三次調査として実施したものであり、造成計画の実施に伴って失われる秋山大町遺跡のB・C・D・E地点とした4地点の発掘調査を実施した。ちなみに本遺跡のA地点については、児玉町教育委員会によって本遺跡B・C地点間で施工された農道改良工事に先だって実施されたものである。なお、第二次調査として実施した、工場棟造成および構内道路建設予定にかかる秋山大町遺跡B・C地点の発掘調査は、児玉町教育委員会と三和シャッター工業株式会社との協議をもとに、児玉町教育委員会の指導に基づいて児玉町遺跡調査会で実施することになった。

第二次調査にかかる秋山大町遺跡B・C地点の埋蔵文化財発掘の届出は、三和シャッター工業株式会社代表取締役高山俊隆から、文化財保護法第57条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が、平成9年12月1日付で児玉町教育委員会に提出されたので、同日児教社第190号で埼玉県教育委員会教育長あてに進達した。また、文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化

財発掘調査の届出について」が、平成9年12月1日付で児玉町遺跡調査会会長富丘文雄より児玉町教育委員会に提出されたので、同日児教社第191号で埼玉県教育委員会に進達した。なお、発掘の届出に対して、平成9年12月26日付教文第3-615号で「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」が、児玉町教育委員会を經由して三和シャッター工業株式会社代表取締役高山俊隆宛に通知された。また、埼玉県教育委員会教育長から平成9年12月26日付け教文第2-174号で児玉町遺跡調査会会長富丘文雄宛に「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。

なお、秋山大町遺跡B地点の現地の発掘調査は、恋河内昭彦（児玉町教育委員会社会教育課）、松澤浩一（児玉町遺跡調査会調査員）および福山俊彰（山武考古学研究所調査員）が担当し、平成9年12月10日から平成10年6月19日まで実施した。また、秋山大町遺跡C地点の発掘調査については、文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成10年6月25日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第55号で埼玉県教育委員会に進達した。なお、埼玉県教育委員会教育長からは、平成10年7月1日付け教文第2-65号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。秋山大町遺跡C地点の現地発掘調査は、恋河内昭彦・松澤浩一（児玉町教育委員会社会教育課）・尾内俊彦（児玉町遺跡調査会調査員）が担当し、平成10年7月1日から同年9月30日まで実施した。

秋山大町遺跡D・E地点については、三和シャッター工業株式会社の工場（仮称児玉工場）等造成工事計画に基づく第三次調査として実施された。この第三次調査にかかる文化財保護法第57条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」は、平成10年10月30日付けで児玉町教育委員会に提出されたので、同日児教社第129号で埼玉県教育委員会教育長あてに進達した。埼玉県教育委員会教育長からは、平成10年11月17日付教文第3-510号で「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」が、児玉町教育委員会を經由して三和シャッター工業株式会社代表取締役高山俊隆宛に通知された。

秋山大町遺跡D・E地点の発掘調査にかかる文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成10年11月5日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第131号で埼玉県教育委員会に進達した。埼玉県教育委員会教育長から、児玉町遺跡調査会会長富丘文雄宛に平成10年11月30日付け教文第2-137号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、平成11年度にかかる「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成11年4月1日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第20号で埼玉県教育委員会に進達し、この届出にかかる「埋蔵文化財の発掘調査について」は、埼玉県教育委員会教育長から平成11年5月7日付け教文第2-18号で児玉町遺跡調査会会長富丘文雄宛に通知があった。秋山大町遺跡D・E地点にかかる現地の発掘調査は、恋河内昭彦・徳山寿樹・松澤浩一（児玉町教育委員会社会教育課）が担当し、平成10年11月16日から平成11年8月31日まで実施した。ここに、秋山大町遺跡の現地発掘調査は、平成9年12月10日から二次にわたって断続的に実施され、平成11年8月30日に終了した。

なお、三和シャッター工業株式会社の工場（仮称児玉工場）等造成工事計画に基づく秋山大町遺跡以外の秋山諏訪平遺跡・秋山大町東遺跡の発掘調査の経緯については、『本庄市遺跡調査会報告書第37集』に詳述する。
(本庄市教育委員会文化財保護課)



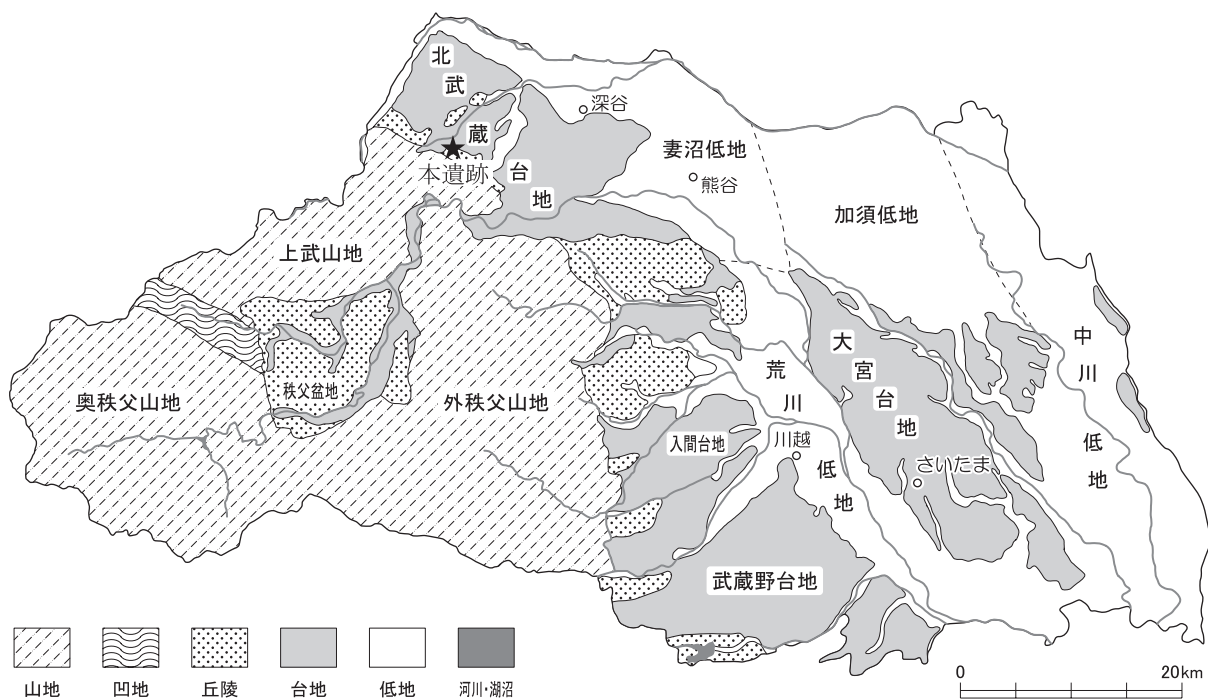
第1図 調査区の位置

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

秋山大町遺跡B・C・D・E地点、秋山大町東遺跡、秋山諏訪平遺跡D・E・F地点（ここでは記述の便宜を図るために、これらの遺跡を仮にひとつの「遺跡群」として記述する）の所在する本庄市は、平成18年1月10日に旧本庄市と旧児玉町が合併し、人口約82,000人の埼玉県北部の中心的な都市となった。「本庄市」の市域は、東西約17.2km、南北約17.3km、面積89.71km²に及び、東は深谷市および児玉郡美里町、西は児玉郡神川町、南は秩父郡皆野町および長瀨町、北西は児玉郡上里町、また北は利根川を挟んで群馬県伊勢崎市に接する、埼玉県の北西部に位置している。

本庄市の地形は、市域の南東側が八王子－高崎構造線に相当する断層崖を境に三波系結晶片岩帯に相当する上武山地が位置し、この上武山地に接して第三紀層を基盤にもつ児玉丘陵が平野部に突出している。また、この児玉丘陵の延長上には、やはり第三紀の残丘である生野山・浅見山等の丘陵が点列状に存在している。市域の北西側は関東平野西端を構成する神流川扇状地が展開しており、本庄台地とも呼称される。この扇状地扇中央部に相当する区域には、神川町大字二宮所在の延喜式内社である金鑽神社付近を水源とする金鑽川と、本庄市児玉町宮内付近に水源を発する現在の「女堀川」によって開析された沖積低地が形成されている。また神流川扇状地の扇端部に相当する深谷断層を境に、その北側には烏川によって形成されたと考えられる烏川低地が展開している。烏川や利根川は、たびたび流路が変化したことが知られているが、近世以降ではこの低地帯に利根川が流下している。



第2図 遺跡の位置

児玉丘陵の南側には、上武山地内の秩父郡皆野町金沢付近に水源を発する小山川(旧身馴川)^{みなれがわ}を挟んで松久丘陵が展開し、北東方向に発達した扇状地地形を天神川・志戸川水系の小河川によって開析された低地帯が展開している。また、この扇状地の東側には、諏訪山・山崎山といった第三紀層の独立丘が北東方向へ展開しており、本庄市域の地形と対比し得るような景観を呈している。この志戸川水系の沖積地には古くから水田が営まれ、圃場整備以前には条里形地割りが広域に認められ、埼玉県指定史跡「十条条里遺跡」の石碑がかつての景観を偲ばせている。これらの旧那珂郡の条里水田は、小山川の水源地で灌漑される区域をもっているが、小山川は児玉市街付近では伏流しており、美里町十条付近で表流量が増加しながら本庄市五十子付近で女堀川と、深谷市域において志戸川と合流し利根川へと注いでいる。

本遺跡群は、本庄市児玉市街の南東約2.5kmの児玉町秋山に位置し、利根川水系の小山川の右岸に相当する区域に位置している。本遺跡の東側には現在水田として利用されている小支谷を挟み、その対岸は児玉郡美里町大字広木に接している。この小支谷内には、児玉町秋山字郷戸付近の湧水に発する細流があり、東側の溜池に貯水され下流域の灌漑に供されている。

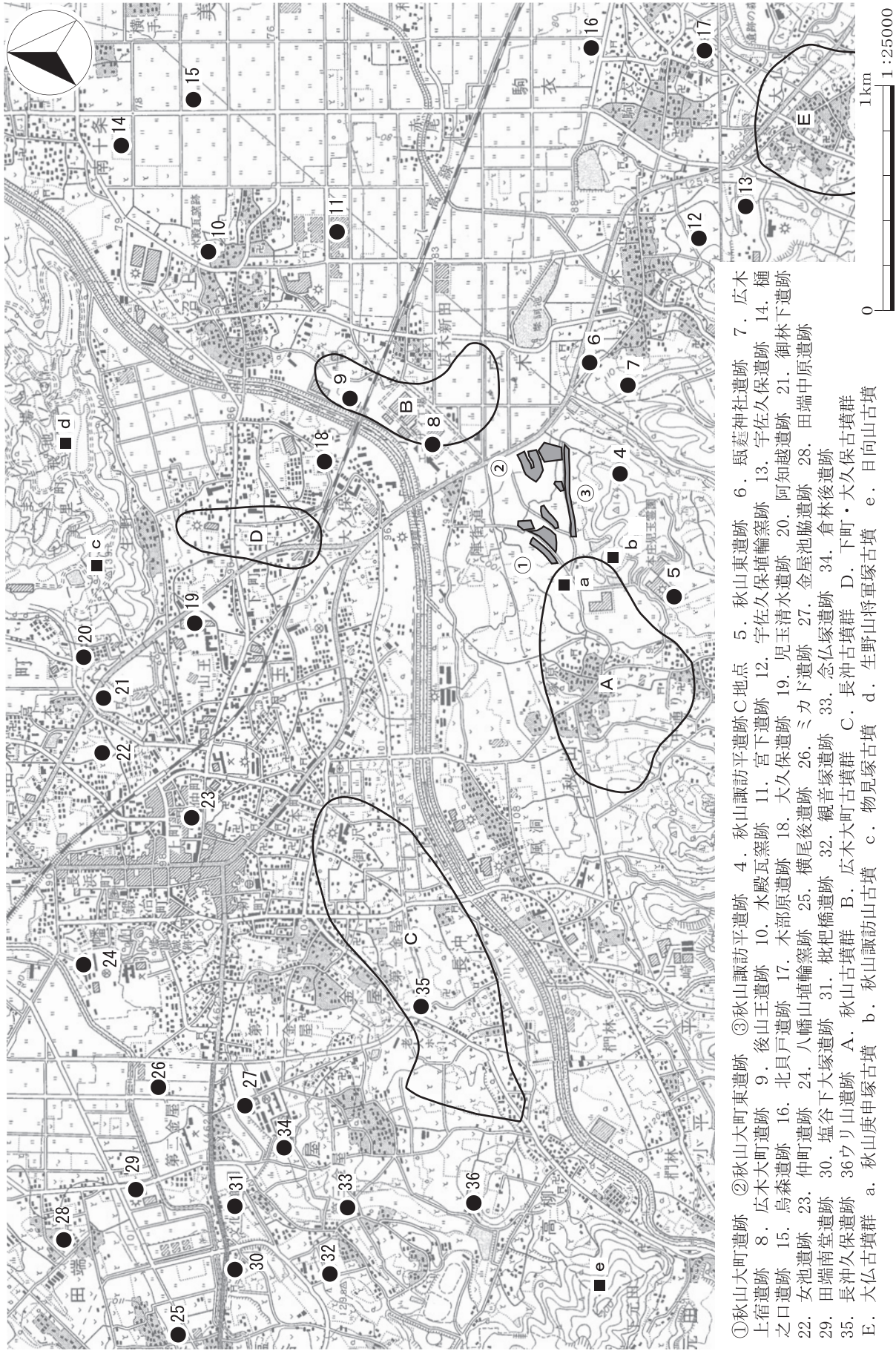
秋山諏訪平遺跡の範囲は、南は「諏訪山」と呼ばれる松久丘陵の一角を構成する残丘性の丘陵の頂上付近にまで及んでおり、本遺跡北端は、丘陵の北東斜面から「諏訪平」と呼ばれる台地上に展開している。この「諏訪山」は、近世以来秋山地区の入会地であり、現在も共有林として管理されている。この秋山「諏訪山」丘陵の西側には、八王子―高崎構造線付近より流下する秋山川が、北流しつつ小山川に注いでいる。また、丘陵の西側には秋山川によって形成された幾条かの東流する古い河道跡が確認しえる。

今回の調査にかかる秋山大町遺跡、および秋山大町東遺跡、秋山諏訪平遺跡は、それぞれ国道254号線の南側に位置し、南へ40m、「諏訪山」裾部の台地端部に相当する標高94m前後の緩い斜面に位置している。なお、調査地点付近での東側の谷との比高差は約4mを測る。

第2節 歴史的環境

本庄市域における古墳時代の遺跡は、古墳時代前期に入ると集落が増加するが、これは低地域の開発が急速に進展するためである。この開発は、主として生野山丘陵以北の「女堀川」流域の低地域の灌漑及び排水が進展したためであり、後張遺跡群をはじめとする集落が形成される。このような低地域の開発と集落の設営に伴って丘陵部を中心に鷲山古墳をはじめとする古式古墳が相次いで築造されることは注目すべき点である。こうした集落遺跡の占有の傾向は古墳時代中期以降において、継続するとともに、丘陵部にも開発が及んでいる。

本遺跡群の位置する小山川右岸の本庄市児玉町秋山地区は、旧武蔵国那珂郡に相当する区域である。この小山川の南側の区域には、秋山古墳群(A)、広木大町古墳群(B)が小山川に沿って列状に分布し、小山川南岸で独自の墓域を形成しているようである。また、旧那珂郡内においては古墳の分布が、天神川水系の諏訪山や山崎山と呼ばれる残丘を中心とする区域と、白石古墳群・大仏古墳群(E)・羽黒山古墳群・駒衣古墳群のような松久丘陵を中心とする区域にそれぞれ集中が認められる。このように、旧那珂郡に位置する古墳群は、大きく見ると天神川水系の区域と松久丘陵の区域、および小山川にそっ



第3図 周辺の遺跡

- ①秋山大町遺跡 ②秋山大町東遺跡 ③秋山諏訪平遺跡 ④秋山諏訪平遺跡C地点 ⑤秋山東遺跡 ⑥虱薙神社遺跡 ⑦広木上宿遺跡 ⑧広木大町遺跡 ⑨後山王遺跡 ⑩水殿瓦窯跡 ⑪宮下遺跡 ⑫宇佐久保遺跡 ⑬宇佐久保遺跡 ⑭樋之口遺跡 ⑮烏森遺跡 ⑯北貝戸遺跡 ⑰木部原遺跡 ⑱大久保遺跡 ⑲見玉清水遺跡 ⑳阿知越遺跡 ㉑御林下遺跡 ㉒女池遺跡 ㉓仲町遺跡 ㉔八幡山埴輪窯跡 ㉕横尾後遺跡 ㉖ミカド遺跡 ㉗金屋池脇遺跡 ㉘田端中原遺跡 ㉙田端南堂遺跡 ㉚塩谷下大塚遺跡 ㉛枇杷橋遺跡 ㉜観音塚遺跡 ㉝念仏塚遺跡 ㉞倉林後遺跡 ㉟長沖久保遺跡 ㊱ウリ山遺跡 A. 秋山古墳群 B. 広木大町古墳群 C. 長沖古墳群 D. 下町・大久保古墳群 E. 大仏古墳群 a. 秋山庚申塚古墳 b. 秋山諏訪山古墳 c. 物見塚古墳 d. 生野山將軍塚古墳 e. 日向山古墳

た志戸川水系の区域に大別することができる。これらの古墳群に対応する集落域を特定することは困難であるが、おそらくこの三つの大きな区域を基礎に那珂郡が設置されたものと考えてよいだろう。

このように考えるならば、本遺跡群は広義の志戸川水系に位置する遺跡と捉えることができる。しかし、本遺跡群の周辺は、今日は水田地帯であるが、北側に広木大町古墳群が位置していることから、古墳時代以降においては今日のように広域に水田が形成され中核的な耕作地として位置づけられていたと考えることはできない。また、この児玉町秋山大町から美里町広木大町の区域は、小山川に近く礫まじりの土壌であることから、この小山川氾濫原を中心に古墳群が形成されたものと見なしてよいだろう。なお、秋山諏訪平遺跡の南側の狭隘な谷戸には、丘陵部の湧水を集めた細流があり古くから水田として利用されていた様子が窺えるが、その可耕面積は少ない。また、秋山諏訪平遺跡D地点やE地点・F地点、また秋山大町遺跡E地点においては、それぞれの湧水利用のための溜井が検出されており、生活用水とともに灌漑に用いられていたと考えることができるが、基本的にこの区域は河川灌漑ではなく、湧水灌漑にかかる比較的小規模な水田地帯であったと考えてよいだろう。

本遺跡群の周辺は、このように谷戸の湧水および溜井灌漑にかかる区域であり、低台地部に秋山大町遺跡(①)、広木大町遺跡(8)(小淵他1980)が位置している。また、周辺には台地部に甄薙神社前遺跡(6)(中村他1980)が、丘陵部には秋山東遺跡(5)(恋河内1987)、広木上宿遺跡(7)(山本1996)、秋山郷戸遺跡等の古墳時代後期～平安時代の集落跡があり、とくに古墳時代後期には集落の形成は活発である。

本遺跡の近傍には、秋山古墳群(坂本他1990)が位置している。秋山古墳群を形成する古墳は、諏訪山丘陵上に位置する前方後円墳である秋山諏訪山古墳(b)や、二重の周堀をもつ秋山庚申塚古墳(a)を含む43基の古墳が現存する(坂本他1990)。このほか消滅した古墳も確認されており、少なくとも秋山古墳群は70基以上の古墳によって構成されていたことは確実である。この古墳群における古墳の分布する区域は、いくつかの地形的区分にわたっているが、特に古墳群中央に流下する秋山川が地形上の大きな境界を成し、古墳群を大きく東西の二群に区分している。この二つの区域の中心に、各々に、より高位で比較的分布の集中する丘陵区域と低位な段丘・台地区域の区分を認めることができるが、本遺跡群の位置する諏訪山丘陵裾部および諏訪平と呼ばれる台地面には古墳の分布は認められない。なお、秋山川東側の区域には、秋山川の旧河道の痕跡があるが、これらの古墳群内の支群や集落跡を隔てるものとなっている。

この秋山古墳群は、おおむね小山川(旧身馴川)の左岸に沿って帯上に展開しており、さらに小山川に沿った西側の本遺跡群より北東約500mには広木大町古墳群(小淵他1980・長滝他2004・2005)が位置している。また、秋山大町古墳群と広木大町古墳群との間に古墳時代後期を中心とする秋山大町遺跡が占地しているが、広木大町古墳群と秋山大町遺跡の間には集落の認められない区域が存在しているようであり、それぞれは別の集落遺跡を構成するものと見なしてよいだろう。また、秋山古墳群の対岸には、長沖古墳群(菅谷他1980他)が、広木大町古墳群の対岸にはやはり小山川に沿うように下町・大久保古墳群(D)の存在が知られている。女堀川流域の自然堤防上の集落とその後背湿地と共に、ひとつの生態的土地利用形態を形成しているものと考えられるものである。ともあれ、このようにこれらの古墳群は、おおむね小山川に沿って分布しており、また古墳群を構成する古墳の石室には、この小山川系の河床礫である三波川系の結晶片岩をその用材としているという共通性をもっている。

このような古墳時代以来の小山川を境界とする生活圏の違いは、小山川には表流水量が少なく、また灌漑に用いられるところの地下水位が相対的に低く、幾分標高の低い右岸の区域においてはこれを利用することができるが、左岸の区域においては取水が困難であり、ほとんど利用されていないという大きな相違点がある。

この旧那珂郡に相当する小山川(旧身馴川)灌漑地区は、志戸川や天神川の灌漑地区とは独立的な独自の水系であり、小山川の伏流水を利用して条里水田を灌漑するものである(鈴木1987)。このようにこの旧那珂郡地域には、小山川流域およびその灌漑区域・志戸川流域・天神川流域及び合流点以下の志戸川の流域区域の三つの単位と本遺跡群周辺のような丘陵部付近の湧水灌漑区域を認めてよいだろう。このように小山川右岸の旧那珂郡の区域では、先に見たように天神川と志戸川の水系および小山川の灌漑区域という三つの単位をもっていると見なすことができる。このうちでも古代祭祀の中心は、古墳時代以降の祭祀遺物が検出されている天神川流域のコブヶ谷戸祭祀遺跡(小沢1960)が先行し、志戸川流域の延喜式内社鬮墓神社がその後に関心となった過程を窺うことができるであろう。

本遺跡群の位置する児玉町秋山地区は、旧武蔵国那珂郡内に相当する区域である。旧児玉郡においては律令期の集落が、条里水田の展開する低地内の微高地上には極めて少なく、低地を臨む平坦な台地上に展開していることが知られているが、那珂郡においても同様の状況が予想される。古代児玉郡においては神流川からの導水にかかる「古九郷用水」によって灌漑が開始されており、律令期における集落の占地や水田の造成等の景観の形成が計画的かつ構造的に進行したことを示している。しかし、那珂郡に相当する小山川(旧身馴川)灌漑区域は、志戸川や天神川の灌漑区域とは独立的な独自の水系であり、小山川の伏流水を利用して条里水田を灌漑するものである(鈴木1987)。

古代「那珂郡」の形成を考える上では、飛鳥京跡から発見された「无耶志国仲評中里布奈大費一斗五升」と記された木簡に注目すべきである。この木簡は、飛鳥浄御原段階には、後の「那珂郡」が、すでに「仲評」として編成されていたことを示している。この「仲評中里」は現在の美里町中里附近と推定されるが、この「中里」は里から郷への変化を考えるならば、後の「那珂郡」に相当するものと考えてよいであろう。

『和名類聚抄』に記載されている古代那珂郡には、那珂郷・水俣(水保)郷・中澤郷・弘紀郷の四つの郷が知られている。それぞれの比定地は明らかではないが、和名抄で知られている古代那珂郡における四つの郷のうち、那珂郷については、先にみた木簡に記載された中里および郡衙が所在したと推定される「古郡」周辺に比定され、天神川水系がおおむねこれに相当すると推定される。水俣郷ないし水保郷については、『大日本地名辞書』によれば古郡および東児玉に比定されているが、古郡については那珂郡に比定し得ることから、おおむね小山川による灌漑区域が相当するものと考えておきたい。また、中澤郷については秋山字中澤に関連して秋山地区に比定する考案もあるが、秋山地区は広木に接しているとともに、今日までに知られている古代集落は比較的小規模であり、中澤の字名は中世の中澤氏との関連が予想し得るところから、ここでは後述する中澤氏の本貫地のある駒衣や大仏等の志戸川水系の区域に比定しておきたい。ちなみに、大仏廃寺の近傍の駒衣に所在する美里町北貝戸遺跡(16)(長滝他2006)では、奈良時代と推定される掘立柱建物跡群を含む遺構群が検出されており、この北貝戸遺跡にほど近い木部原遺跡(17)(中沢1996)では掘立柱建物跡群や銅椀が検出されるなど、この周辺が那珂郡の中心のひとつであったと推定されている。

このように考えるならば、弘紀郷については広木および秋山の地に比定することができるであろう。したがって本遺跡群の周辺は、弘紀郷を構成する集落の区域として位置づけることができる。しかし、秋山大町から広木大町の区域は、先に見たように小山川の氾濫原に近く、耕地として主要な区域を占めていたと考えることは難しい。なお、古墳時代後期において集落の密集した区域も、奈良時代の集落跡は比較的小規模である。しかし、児玉町東小平地区においては大形の塔心礎をもつ塔跡を伴う東小平中山廃寺が建立されており、在地社会に財力を蓄積した階層が形成されていたことにも注意されなければならない。この地区は奈良時代においては、集落が幾分衰退するものと推定されたが、平安時代においては再び集落形成が活発となるようである。

なお、「那珂郡」の郷について考える上では、承和十年(843年)「戸口増益」により小郡から下郡となり一郷が新設されたことが知られている点について注意しておくべきであろう。この新設された郷が、先の四郷のうちどの郷に相当するかは明らかではない。しかし、承和十年に新しく設置された郷は、条里水田が展開している伝統的な灌漑地域ではなく後発的に開発が行われたと考えられる広木地区や秋山地区を中心とした丘陵部と溜井・溜池灌漑にかかる区域である可能性を認めるべきであり、「戸口増益」の前提に広木に所在する^{まかいげ}摩訶池の大規模な改修を伴う開発があったと考えるならば、この郷は「弘紀郷」である可能性が高いだろう。なお、本遺跡群の北東約500mには延喜式内社である甕薙神社が鎮座している。甕薙神社は、律令的観念を担っており、大きな灌漑面積を有している摩訶池のほりにあり、この位置が弘紀郷であると考えられる美里町大字広木に所在するところから、この区域は、平安時代ごろより急速に勢力をつけたと考えることができる。このように考えるならば、新しくできた「弘紀郷」はおそらく「中澤郷」および「水俣郷」の一部の区域の住民を加えて新設されたものである可能性を認めることができるであろう。

この弘紀郷の成立を考えるうえで注目されるのは、広木にある常福寺の前身である「弘紀山龍華院」の旧位置であるとされる常福寺の背後にある丘陵部であり、また、この丘陵の麓下、常福寺西側の「御所の内」に位置する館跡を、万葉集に収載された防人歌の大伴部真足女の夫である檜前舎人石前の邸宅跡に比定されている。しかし、この館跡は基本的に中世初期の単郭の方形館の形態を採っていることからみても、そのまま古代まで遡るものとは考え難く、その形成時期については再検討されなければならない。ともあれ、この常福寺背後の丘陵上には中世の基壇状遺構や掘立柱建物跡が検出されている広木上宿遺跡(7)(山本1996・長滝他2010)が位置していることに注目しておくべきであろう。広木上宿遺跡は、本遺跡群の東側約500mの丘陵上に位置しており、小型宝塔5基、小型^{みかいふれんげ}未開敷蓮華5点および鎌倉時代の複数の軒平瓦や軒丸瓦等が出土している。この遺跡から検出された基壇状遺構は、浅間山系B軽石(As-B)降下以降の造成であることが確認されており、出土瓦等から12世紀から14世紀前半を前後する時期に造営されていたと推定されている。この中世寺院は、やはり先の常福寺の旧寺地として伝えられている「弘紀山龍華院」の存在とも関連して注目しておくべきであろう。ともあれ、広木や秋山を中心とした丘陵部の区域は古代においても一定の開発が認められるとはいえ、平安時代に入って急に開発が発展し、中世前半期には寺院が建立されるような区域に相当している。常福寺には、貞和六年(1350年)の修理銘をもつ平安後期の仏像があるなど、古い寺院であることが推定される(県史編纂室1984)。このように、常福寺は寺伝との関連を考えるならば、おそらく広木上宿遺跡に見るように中世初期の開山であると考えられるであろう。また、秋山地区に

は瓦当面に「徳治貳年般若寺」銘をもつ軒平瓦をもつ般若寺廢寺があり、この寺院も徳治二年(1307年)には建立されたと考えることができる。

なお、本遺跡群の北東約2kmに位置する、鎌倉二階堂の永福寺の同範瓦を焼成した水殿瓦窯跡(10)(丸山1990)の存在も注目されよう。この瓦窯跡は4基並列して瓦窯が存在しており小規模な生産であったとすることはできないだろう。この水殿瓦窯跡で生産された永福寺と同範の瓦、寛治・宝治年間(1234～1248年)の修理にかかる差し替え瓦であることを考えるならば、永福寺の修理についてこの地域との密接なつながりが予想されるべきであり、このことからこの地に瓦窯の操業に関与した鎌倉との密接な関係をもった在地領主が存在していたことを想起させるものである。ちなみに、水殿瓦窯跡のある美里町大字沼上は、那珂郡の水源地の近傍に位置し、児玉党系在地領主群との関連を予想することは難しく、中澤氏の本貫地に近接する場所であることに注目すべきであろう。中澤氏は、この地域の在地的な領主層であると考えられることができるが、この水殿瓦窯跡の確認されている操業時期は中澤基政の丹波国大山庄への西遷後の時期に相当していると考えられることにも注意しておきたい。

東寺領荘園主である大山庄の地頭として知られている中澤氏は、中澤基政が承久の乱の勲功によって承久三年(1221年)に地頭に補任され、仁治二年(1241年)地頭請が成立した。この中澤氏は、明徳元年(1390年)の中澤信明讓状に「武蔵国中澤郷内和田村藤三郎入道在家 同田壹町」云々とあり、現在の美里町大字駒衣字和田付近が名字の地であったことが推定されている。このように、中澤氏の本貫地と推定される「和田村」等の関連を考慮するならば、この区域が西遷以前においては中澤氏にかかる領域であったと考えてよいであろう。また、那珂郡には中澤基政の西遷以後においても、その一族が居住していたことが知られている。

14世紀中頃に編纂された『空華集』には、中澤^{じょうきゅう}広木常麻という人物が広木に居住していたことが記されている(湯山1985)。この中澤常麻は、鎌倉府で活躍したとされ、このように中澤氏は、中澤郷はもとより弘紀郷にも影響力を持っていたことは明らかである。したがって、先の広木上宿遺跡の寺院跡は、中澤氏との関連を想起させるものであると言ってよいだろう。また、応永12年(1405年)には、中澤四郎によって「廣木郷秋山村」が押領されたことが知られており、このような中澤氏と児玉町秋山字中澤のつながりを見ると、秋山の「中澤」の地はこのような中澤氏の進出に基づいて付された小字名と考えることが可能であろう。

那珂郡は、天神川水系を中心とする那珂郷、小山川水系の灌漑地域である水俣(水保)郷、志戸川水系を中心とする中澤郷があり、本来那珂郷に相当したと考えられる「古郡」に郡衙があったものと推定しておきたい。しかし、丹党の古郡氏は、建久元(1190)年に登場するが、この時点においてすでに郡衙の故地としての「古郡」という名称となっていたことは、12世紀末にはすでに郡衙が移動した後であったことを推定させるものである。また、先に見たように祭祀の中心は、古墳時代以来盛行していたコブヶ谷戸祭祀遺跡が平安時代に入ると衰退し、天神川流域から志戸川流域の式内社舘蕤神社に移ったと考えられることから、在地における宗教的権威と権力の交代が想起される場所である。なお、志戸川水系の中澤郷に推定される区域には、国分寺創建期の瓦を葺き、瓦塔と瓦堂をもつ大仏廢寺があり、8世紀後半期には「郡寺」的な寺院が建立されていたことは注意される(藤原他1982・長滝他2010)。大仏廢寺は、長期の存続は考えにくいとはいえ、先に見たように大仏廢寺の近傍には掘立柱建物群等が検出されている北貝戸遺跡や木部原遺跡が位置しており、8世紀後半以降この区域に

政治的な中心のひとつが位置していたことが想起されることであり、那珂郡においては古代以降、幾たびかの政治的な中心地の移動が想定されるであろう。

このように、本遺跡群の周辺は、承和十年に中澤郷の縁辺部であった弘紀郷が設置された区域に相当するものと考えられる。那珂郷に相当する小山川(旧身馴川)灌漑区域は、志戸川や天神川の灌漑区域とは独立的な独自の水系であり、小山川の伏流水を利用して条里形の水田を灌漑するものである。また、この小山川灌漑区域は、天神川流域に中心的に占拠する猪俣党系在地領主層の分布や「九郷用水」の水系を中心に占拠する児玉党系在地領主群の分布域と補完を成すように広がっており、これら在地領主群と独立した独自の区域であったとすることができる。

ともあれ、美里町広木地区や本遺跡群周辺の開墾は、本遺跡群の北東約800mに位置する摩訶池と呼ばれる広大な溜池の設置の問題を含めて再検討すべき課題も多いといえるが、中澤氏もまた、条里水田の縁辺部から丘陵部を中心に主要な経済基盤としたものと推定される。なお、本遺跡の東側に接して、「鎌倉街道^{かみつみち}上道」が通っており、小山川を挟んだ対岸の「児玉」の区域は、児玉党「児玉氏」の本貫地として位置づけられるとともに、この「鎌倉街道」の宿と市庭が発達していたことにも注意しておくべきであろう。このように本遺跡群の位置する本庄市児玉町秋山東部の区域とその周辺は、古墳時代より小山川の氾濫原を臨む区域として多様な土地利用が行われた区域に相当している。

(鈴木徳雄)

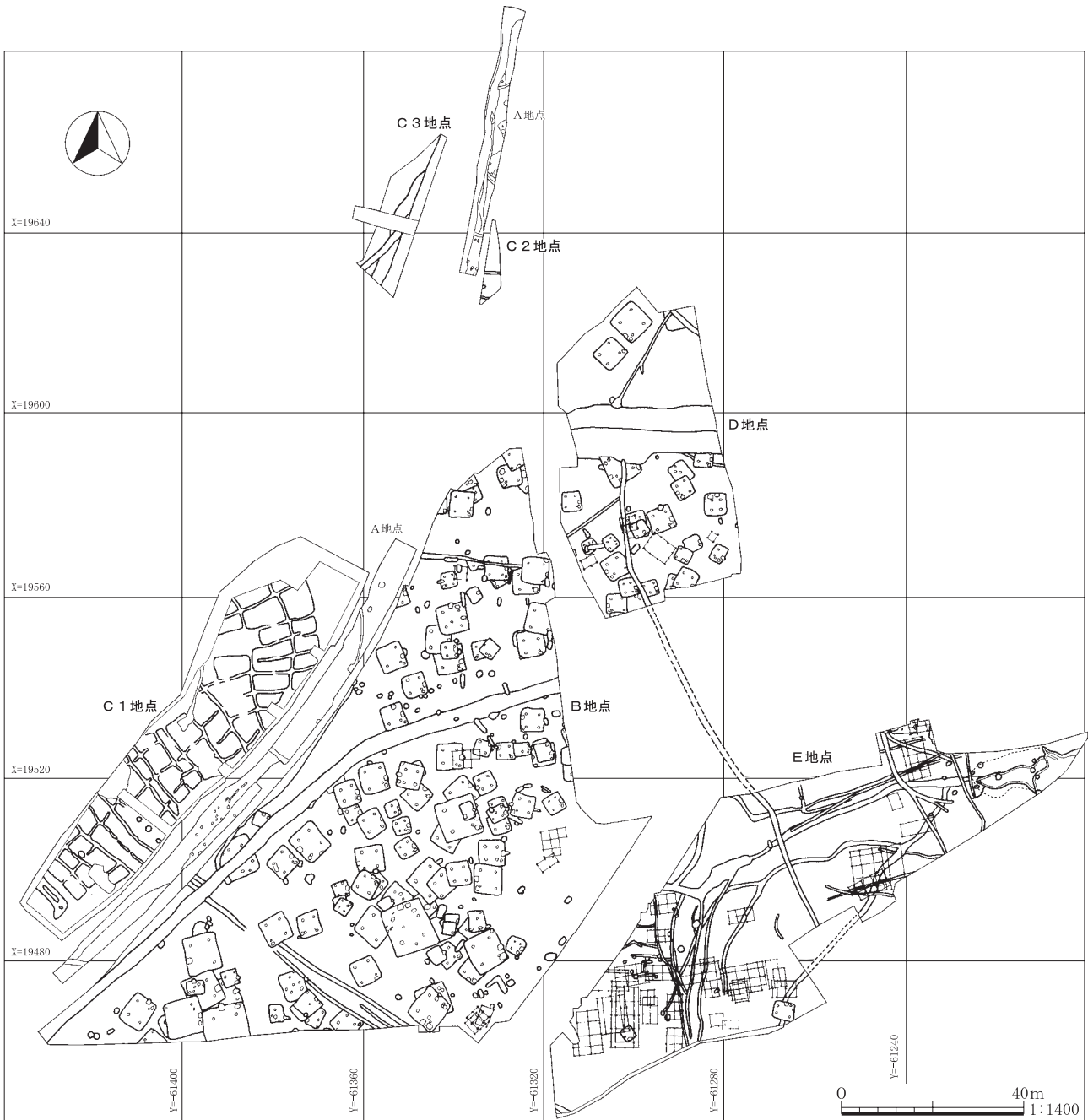
参考引用文献

- 小沢国平(1960)『コブヶ谷戸祭祀遺跡』美里町教育委員会
恋河内昭彦(1987)『秋山東遺跡』児玉町遺跡調査会報告書第2集
恋河内昭彦(2003)『大久保遺跡－B地点の調査－』児玉町遺跡調査会報告書第14集
坂本和俊他(1990)『秋山古墳群』児玉町史資料調査報告 古代第2集
櫻井和哉(2004)『児玉大久保遺跡－C地点の調査－』児玉町遺跡調査会報告書第17集
菅谷浩之他(1980)『長沖古墳群』児玉町遺跡調査会報告書第1集
鈴木徳雄(1987)「古代那珂郡における水利灌漑と在地信仰」『秋山東遺跡』児玉町遺跡調査会報告書第2集
鈴木徳雄(1996)「古代北武蔵の開発と集落」『月刊文化財』11月号 No.398
鈴木徳雄(1997)「古代北武蔵の土地利用と集落」『日本歴史』9月号第592号
鈴木徳雄他(2007)『秋山諏訪平遺跡－C地点の調査－』本庄市遺跡調査会報告書第17集
中村倉司他(1980)『珥薙神社前遺跡』埼玉県遺跡調査会報告書第39集
永井智教他(2005)『脊戸谷遺跡－宮内古墳群の調査－』児玉町遺跡調査会報告書第19集
中沢良一(1996)『木部原遺跡』美里町遺跡調査会報告書第4集
長滝歳康(1992)『後山王遺跡』美里町遺跡調査会
長滝歳康・中沢良一(2004)『広木大町古墳群第14号墳・川原遺跡』美里町遺跡調査会報告書第5集
長滝歳康・中沢良一(2005)『広木大町古墳群後山王地区後山王遺跡E地点』美里町遺跡調査会報告書第6集
長滝歳康・中沢良一(2006)『北貝戸遺跡・南十条遺跡』美里町遺跡発掘調査報告書第17集
長滝歳康・中沢良一(2010)『村後遺跡B地点・大仏廃寺跡・広木上宿遺跡Ⅱ』美里町遺跡発掘調査報告書第19集
松澤浩一(1998)「秋山諏訪平遺跡」『治水・利水遺跡を考える』第7回 東日本埋蔵文化財研究会
丸山陽一(1990)『国指定史跡水殿瓦窯跡試掘調査報告』美里町遺跡発掘調査報告書第6集
山本靖(1985)『広木上宿遺跡－古代・中世編－』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第170集
湯山学(1985)「武蔵国那珂郡中沢郷と中沢氏」『武蔵野』63－1
埼玉県教育委員会(1983)『鎌倉街道上道』歴史の道調査報告書第1集

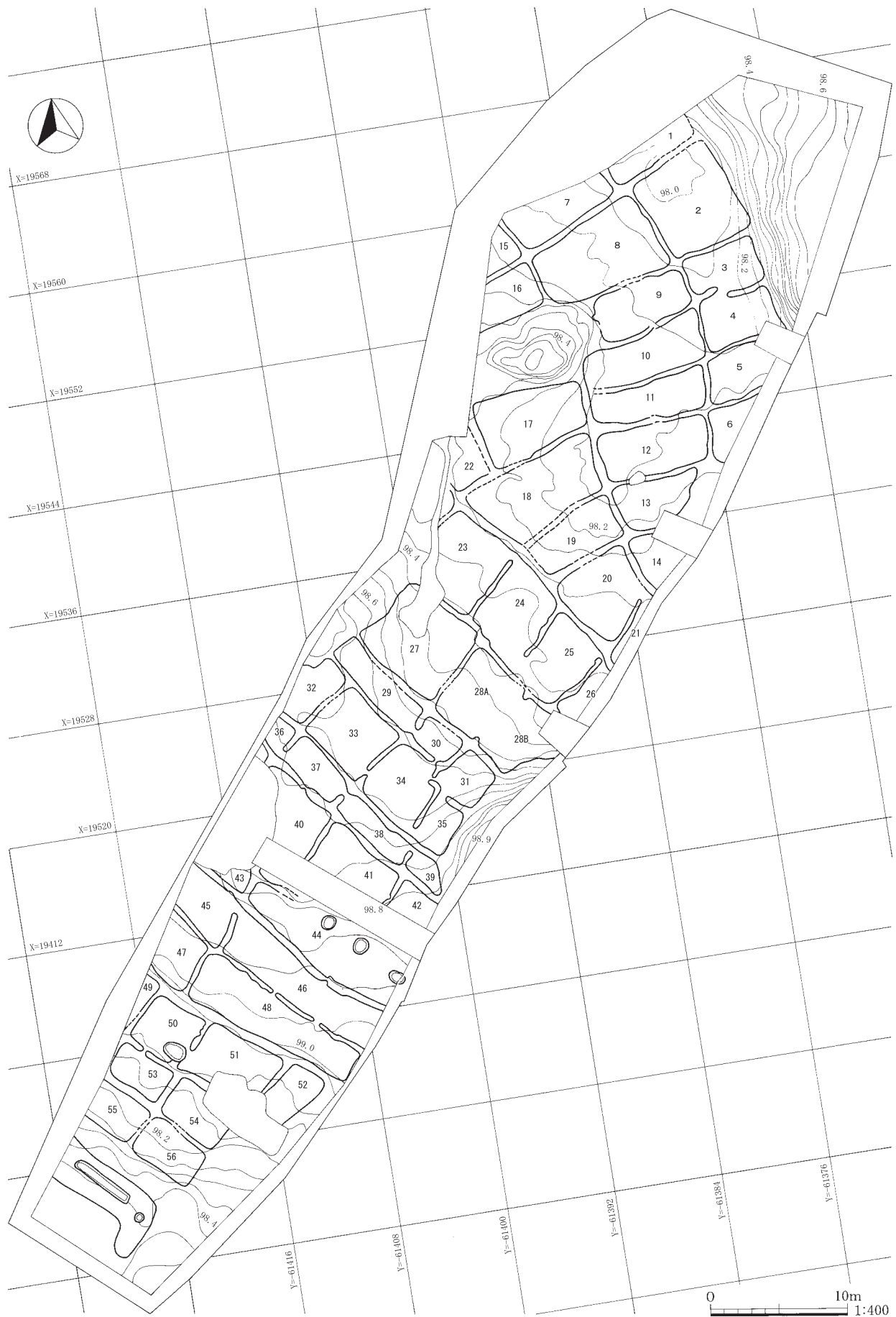
第Ⅲ章 秋山大町遺跡の調査

第1節 遺跡の概要

秋山大町遺跡は、A地点からE地点が調査されている。C地点は3地区調査され、それぞれC1地点・C2地点・C3地点と称される。本書は、農道改良工事によって調査されたA地点を除く4地点の報告である。検出された遺構は、竪穴住居が142軒、(古墳時代後期125軒、平安時代17軒) 掘立柱建物跡が40棟、土坑が179基、井戸が8基、溜井が1基、溝が42条である。この他に、B地点においては、縄文時代の遺物包含層と埋甕が3基発見されている。また、同じくB地点では、弥生時代前～中期の土器片も出土した。C1地点においてはAs-B軽石で埋没した小規模な谷戸水田址が発見されている。



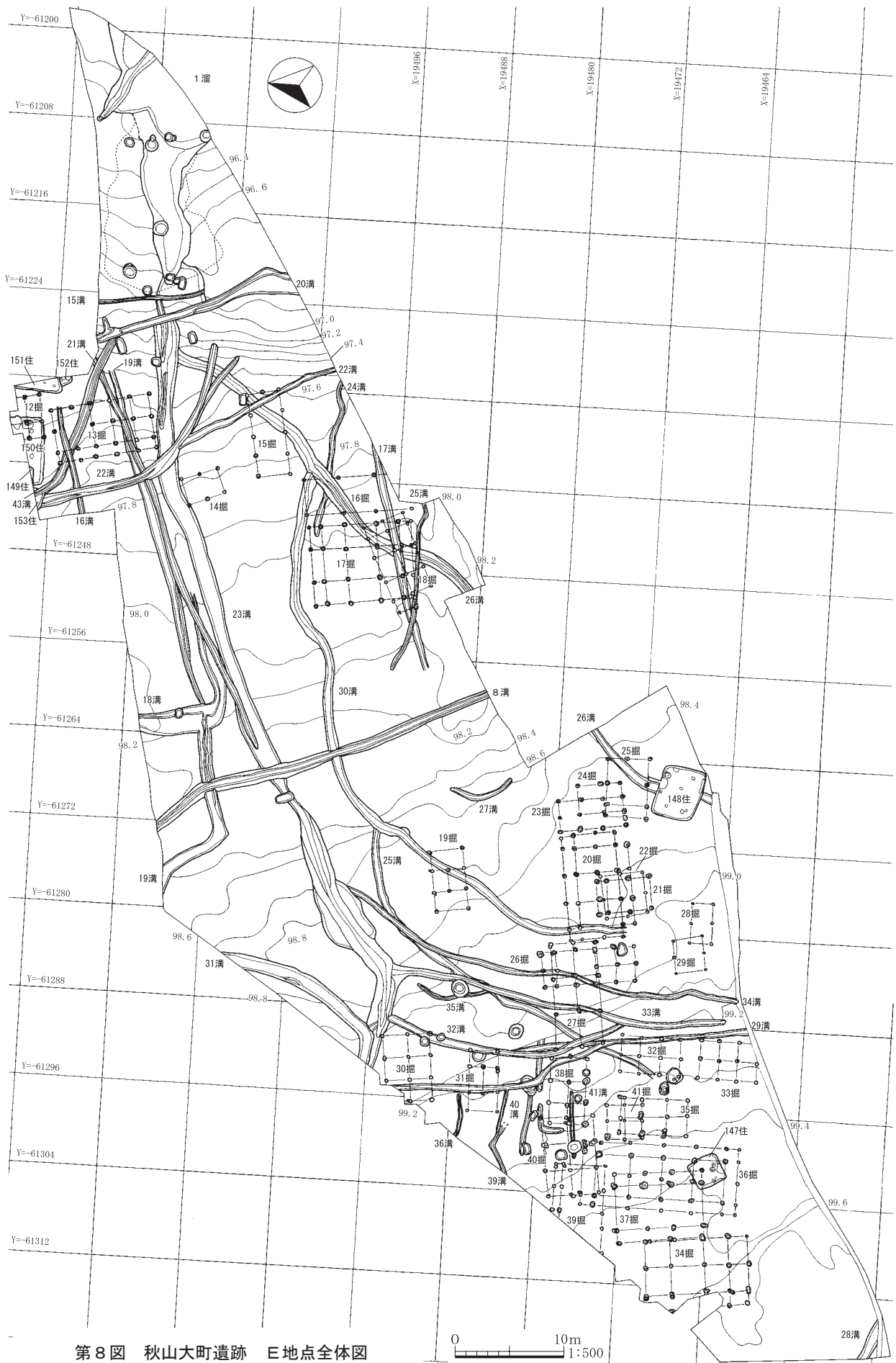
第4図 秋山大町遺跡 全体図



第6図 秋山大町遺跡 C1地点全体図



第7図 秋山大町遺跡 D地点全体図



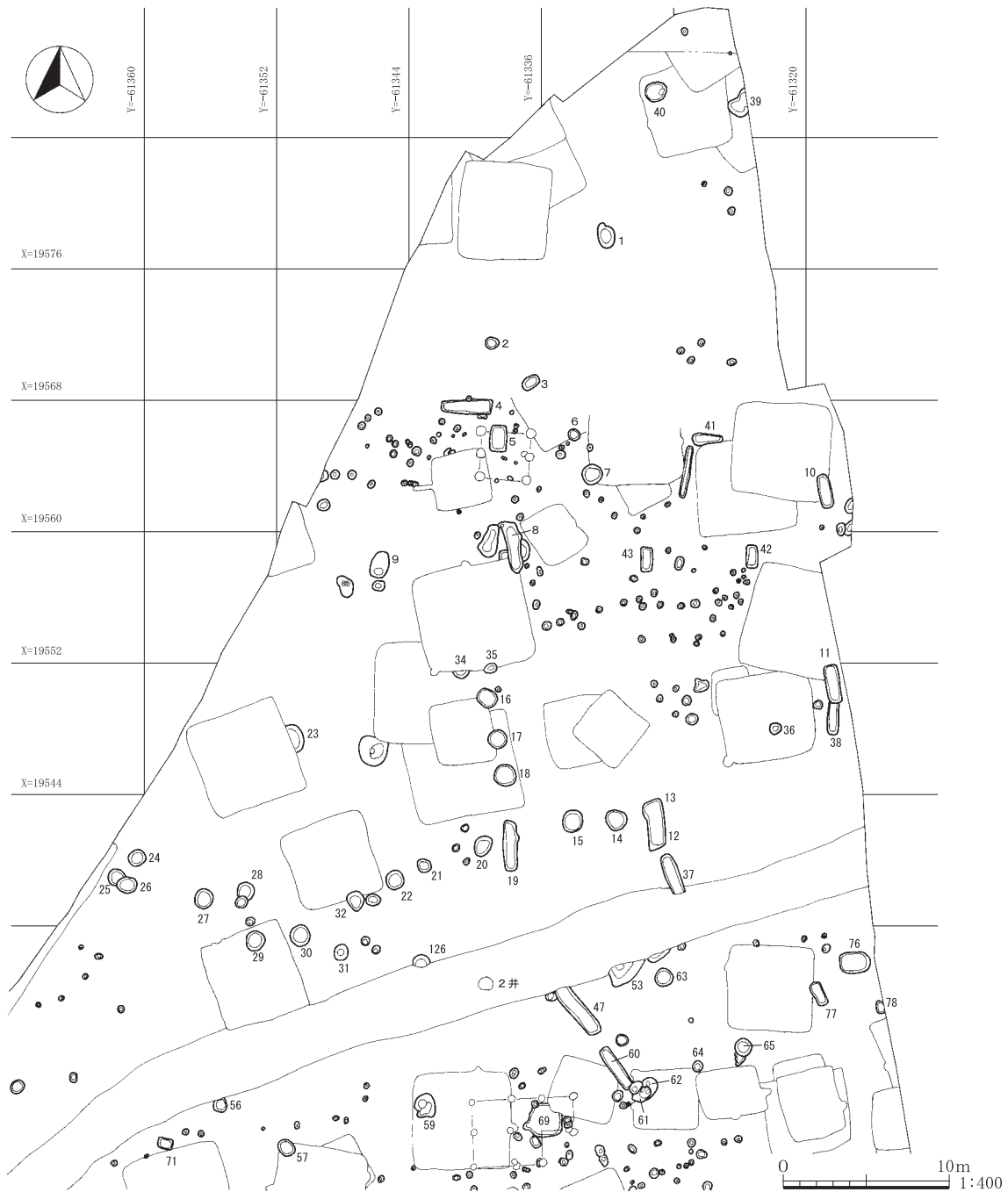
第8図 秋山大町遺跡 E地点全体図



第9図 秋山大町遺跡 土坑・ピット配置図(1)



第11図 秋山大町遺跡 土坑・ピット配置図 (3)



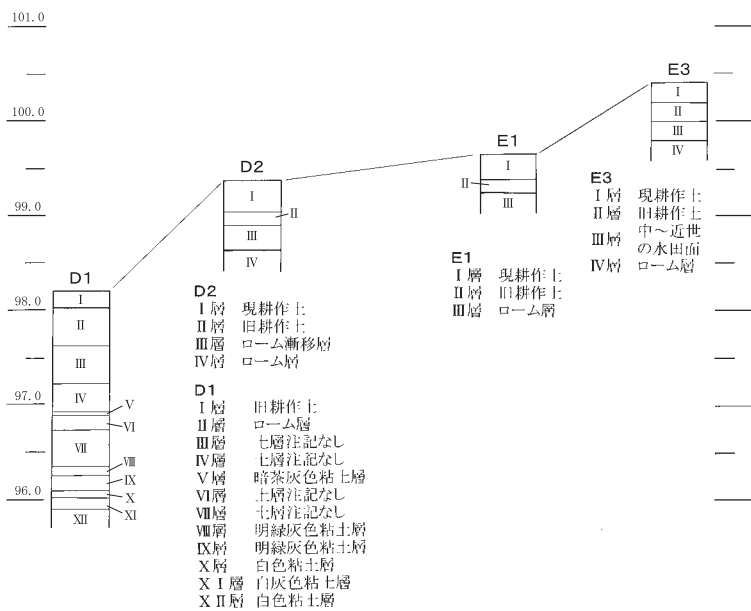
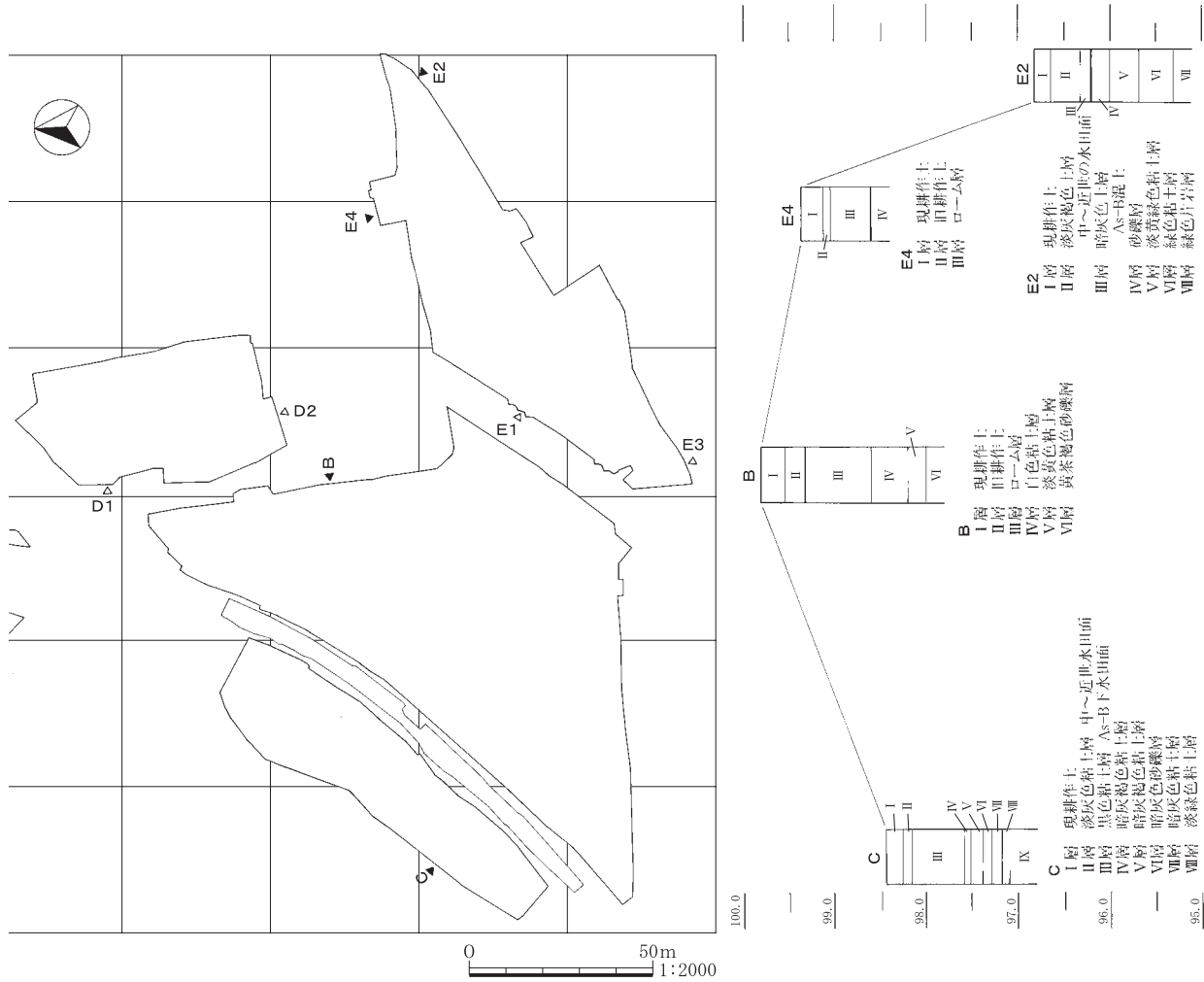
第12図 秋山大町遺跡 土坑・ピット配置図（4）

第2節 基本層序（第13図）

各調査区の基本層序は第13図の通りである。調査区ごとに基本層序に大きな差異が認められ、統一した層序とすることが困難であったため、各々に異なる土層番号を付して報告する。

A s-Aを含む耕作土を最上層とし、C点・E3点・E2点ではその下層に中～近世の水田面が確認された。D2点ではロームの漸移層が検出されたが、ここ以外の地点では削平を受ける等して消失してしまったものと思われる。基本的にローム層を遺構確認面としている。しかし、E2点・C点に

おいては、ローム層が確認されていない。D点・B点では、ローム層以下まで掘り下げを行い、白色粘土層を確認している。本遺跡の南には諏訪山が位置しており、北に向かって傾斜している様子が柱状図から看取できる。B地点が高く、東西に低い地形を呈する。低地部には秋山川の旧河道の存在が推定される。



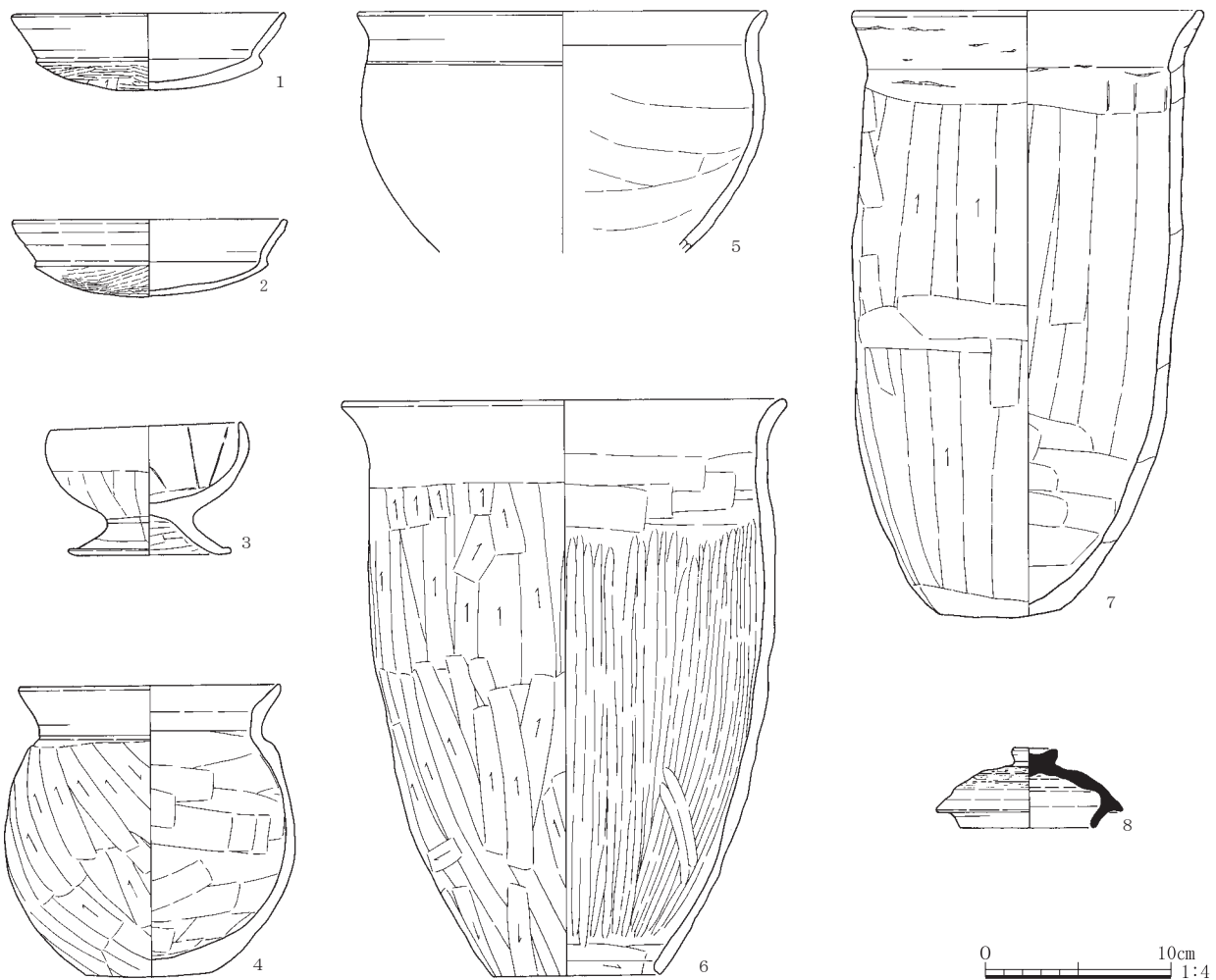
第13図 秋山大町遺跡 基本層序

第3節 検出された遺構と遺物

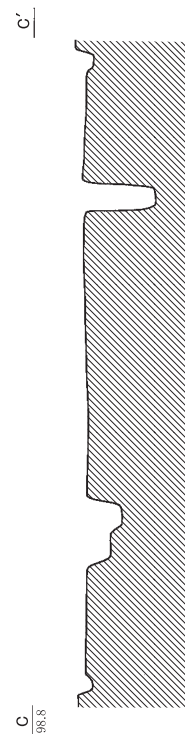
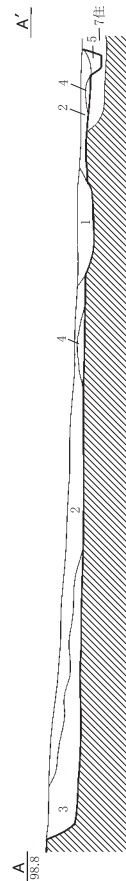
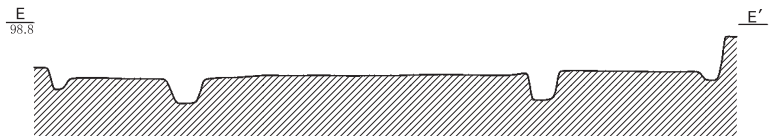
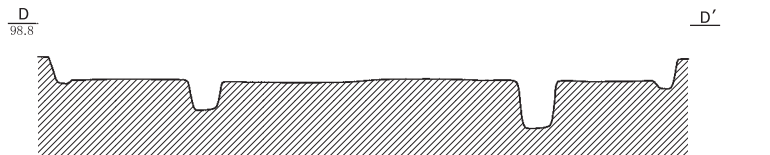
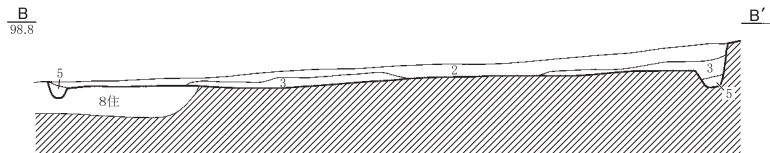
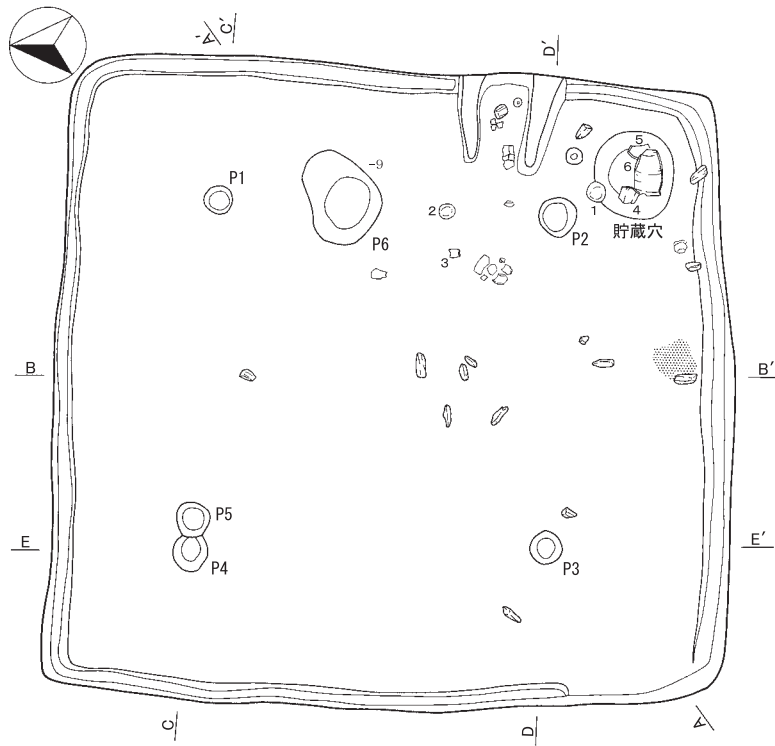
1. 竪穴住居跡

6号住居跡（第14・15図、図版3・50）

位置：B地点の北に位置している。7号住居跡・8号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は方形で、主軸方位：S-87°-E。規模：長軸5.36m、短軸5.08m。カマド：東壁の南寄りに付設される。袖は粘土を用いた付け袖。燃烧部は住居内にあり、奥壁は住居の壁と一致する。燃烧部の中央には礫が据えられており、支脚と考えられる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配されている。覆土内から遺物が多数出土している。柱穴：柱穴は6本検出され、P1～4が主柱穴だと思われる。周溝：西南隅以外で検出される。なお、カマドの袖下においても壁周溝が確認されたという所見があり、周溝掘削後にカマドを構築したものと推察される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマドと貯蔵穴から集中して出土している。時期：古墳時代後期。

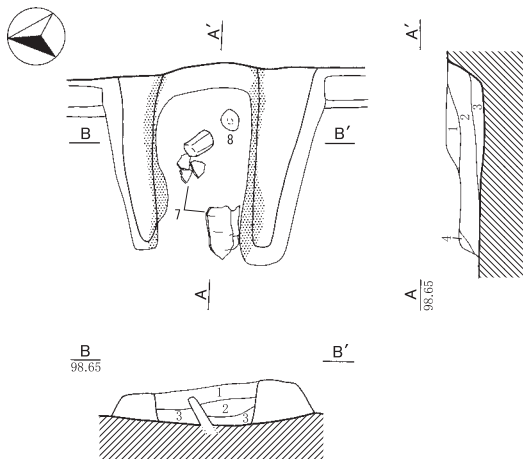


第14図 6号住居跡 出土遺物



6号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性強、しまりあり。
- 2層 暗茶褐色土層 小礫・焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性強、しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 ロームブロック・ローム粒子・小礫・炭化物粒子・焼土粒子を微量含む。粘性強、しまりあり。
- 4層 暗黄褐色土層 ロームブロックを均一に、小礫を微量含む。粘性強、しまりあり。
- 5層 暗黄褐色土層 ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりなし。



6号住居跡 カマド

- 1層 茶褐色土層 炭化物粒子(φ 1mm)、白色粒子(φ 1mm)を中量含む。粘性あり、しまり強。
- 2層 暗茶褐色土層 焼土粒子(φ 5~10mm)を多量、白色粒子(φ 1mm)・炭化物粒子(φ 1~3mm)を微量含む。粘性・しまりあり。
- 3層 黒褐色土層 ローム粒子(φ 1mm)を少量、焼土粒子(φ 1mm)を微量に含む。粘性弱、しまりあり。
- 4層 明褐色土層 片岩質小礫(φ 5mm)を中量、焼土粒子(φ 1mm)を微量に含む。粘性弱、しまりあり。



第15図 6号住居跡

6号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 14.8。器高 4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 内外面、スス附着。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 14.8。器高 4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 内面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	高坏	A. 口径 10.4。底径 8.8。器高 7.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテナデ。脚部ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 内外体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	小形壺	A. 口径 14.1。底径 6.7。器高 15.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテ～ナナメケズリ。底部ケズリ→ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 貯蔵穴。
5	鉢	A. 口径 (22.2)。残存高 13.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部剥落。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/4。G. 外面胴部、痘痕状に剥離する。H. 貯蔵穴。
6	大形甔	A. 口径 24.0。底径 9.1。器高 31.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部中位以下ヨコナデ→タテミガキ。底部付近ヨコケズリ。D. 石英・片岩。E. 内外一赤褐色。F. 完形。G. 外面、胴部にスス附着。内面、胴部にヨゴレ。H. 貯蔵穴。
7	甕	A. 口径 (18.9)。底径 6.5。器高 32.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ヨコナデ。底部ケズリ。内面、口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 内外面、胴部にスス附着。H. カマド。
8	須恵器 壺蓋	A. 口径 7.3。摘み径 2.5。器高 4.3。B. ロクロ成形。C. 外面、摘み部回転ナデ。天井部カキ目。下位回転ナデ。内面、回転ナデ。D. 石英。E. 内外一灰色。F. 完形。G. 在地産。H. カマド。

7号住居跡 (第16図、図版3・50)

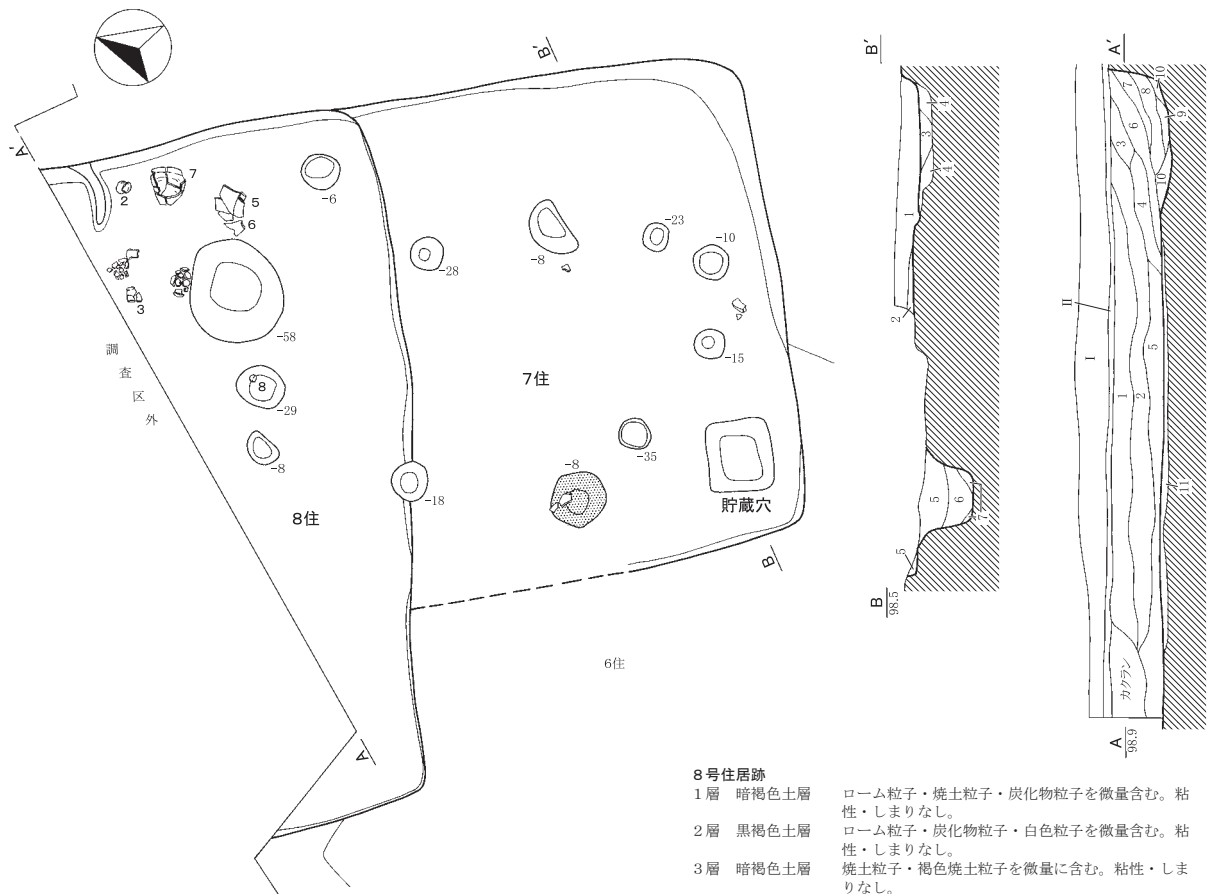
位置：B地点の北に位置し、北半分は8号住居跡との切り合いで消失している。6号住居跡と8号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-68°-W。規模：長軸3.97m。カマド：西壁のほぼ中央よりに焼土の詰まったピットがあり、カマドの掘り方が残存したものであろう。貯蔵穴：カマド痕に向かって左、住居の南西隅に検出される。方形を呈する。柱穴：住居内にピットが散在している。主柱穴は不明。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より出土している。時期：古墳時代後期。

8号住居跡 (第16・17図、図版3・50)

位置：B地点の北に位置し、住居跡の半分は調査区外となっている。6号住居跡・7号住居跡と重複し、前者より古く、後者より新しい。形態：平面形は方形を呈す。主軸方位：N-70°-E。規模：長軸5.54mを測る。カマド：東壁に付設され、半分は調査区外となる。袖は付け袖となる。燃焼部は住居内にあり、奥壁は住居の壁と一致する。柱穴：4本確認されている。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマド周辺に集中している。ピット内より須恵器の鈴台付高坏が出土した。時期：古墳時代後期。

7号住居跡 出土遺物観察表

1	小形甕	A. 口径 (13.3)。残存高 7.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。頸部ユビオサエ。胴部ナナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内一にぶい褐色。外一明褐色。F. 口縁部～胴部中位 1/2。H. 覆土。
2	甕	A. 底径 6.1。残存高 9.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテケズリ→下位ナナメケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ→下位ナナメナデ。D. 片岩・石英。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい褐色。F. 底部 3/4。G. 外面二次被熱。内面ヨゴレ。H. 覆土。
3	台石	A. 長 15.8。幅 11.05。厚 9.0。重 2500。D. 結晶片岩。H. 覆土。
4	スクレイパー	A. 長 6.5。幅 5.7。厚 1.6。重 47.12。D. 頁岩。H. 覆土。

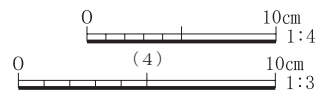
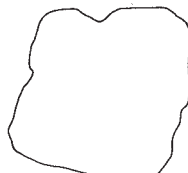
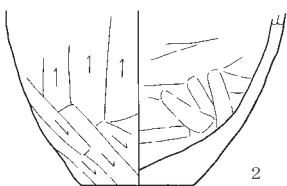
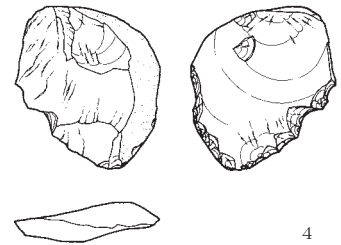
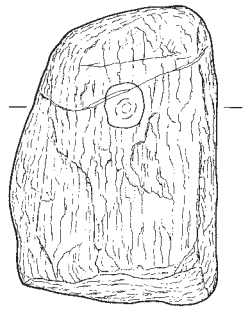
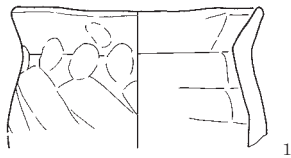


7号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 3層 黒色土層 ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりあり。掘り方。
- 4層 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性強、しまりあり。
- 5層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・小礫を微量含む。粘性・しまりなし。貯蔵穴。
- 6層 暗褐色土層 ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。貯蔵穴。
- 7層 暗黄褐色土層 ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりなし。貯蔵穴。

8号住居跡

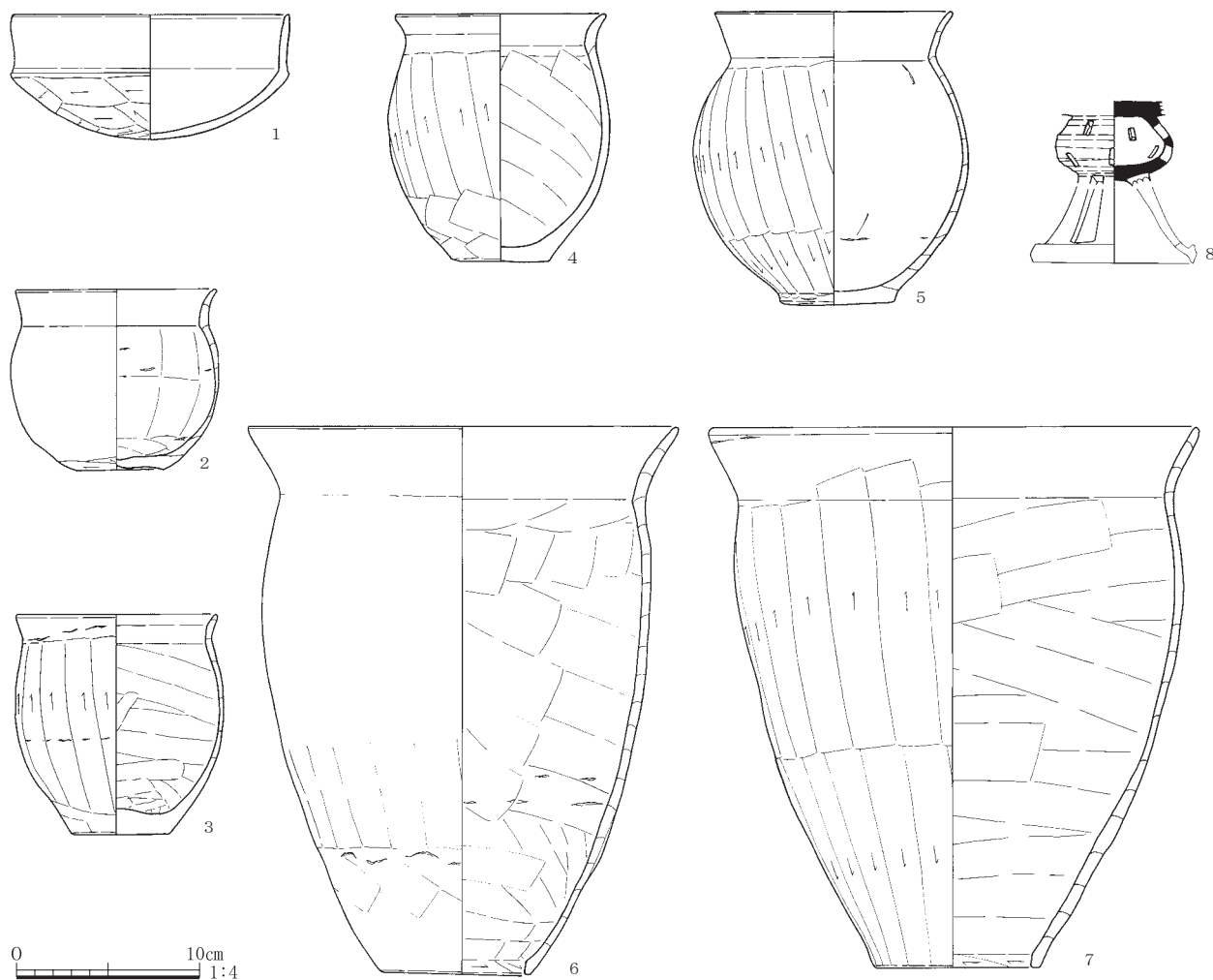
- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 2層 黒褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 3層 暗褐色土層 焼土粒子・褐色焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 4層 暗褐色土層 褐色土ブロックを均一に含む。粘性強、しまりあり。カマド崩壊土。
- 5層 暗茶褐色土層 ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化物粒子を微量含む。粘性強、しまりあり。カマド崩壊土。
- 6層 黒褐色土層 焼土粒子・褐色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。カマド崩壊土。
- 7層 暗赤褐色土層 焼土ブロックを均一に、褐色粘土ブロックを微量含む。粘性強、しまりあり。カマド崩壊土。
- 8層 黄褐色土層 黄褐色粘土ブロックを多量に含む。粘性強、しまりあり。カマド崩壊土。
- 9層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。カマド崩壊土。
- 10層 黒褐色土層 白色粘土粒子を均一に含む。粘性・しまりなし。カマド焼き口。
- 11層 黒色土層 ロームブロック・白色粘土ブロックを均一に含む。粘性なし、しまりあり。貼り床。



第16図 7号・8号住居跡 7号住居跡出土遺物

8号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(15.2)。器高6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・黒色粒子。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/3。H. 覆土。
2	小形甕	A. 口径11.0。底径4.8。器高9.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→下位ヨコケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内一暗褐色。外一暗橙褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下位及び内面胴部にヨゴレ。H. 覆土。
3	小形甕	A. 口径11.0。底径5.3。器高12.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一暗茶褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	小形甕	A. 口径11.6。底径5.5。器高13.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコ～ナナメナデ。D. 石英・白色粒子・赤色粒子。E. 内一暗褐色。外一暗橙褐色。F. ほぼ完形。G. 内面胴部にスス付着。H. 覆土。
5	小形甕	A. 口径13.0。底径6.3。器高16.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子・赤色粒子。E. 内外一暗褐色。F. ほぼ完形。G. 器面は二次被熱により荒れる。H. 覆土・カマド。
6	大形甕	A. 口径23.6。底径8.4。器高30.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ→ナデ。内面、ヨコナデ→下位ヨコケズリ。D. 白色粒子・黒色粒子。E. 内外一淡橙褐色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	大形甕	A. 口径26.8。底径9.0。器高29.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ→胴部下位ヨコケズリ。D. 赤色粒子・白色粒子。E. 内外一明橙褐色。F. 4/5。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
8	須恵器 鈴台付高坏	A. 残存高4.6。B. ロクロ成形。脚部貼り付け。C. 外面、胴部二段の方形透孔(上下6箇所)。脚部3方透孔。内面、自然釉。脚部接合部に回転キザミ。胴部の内部には鳴子として小礫が入っている。D. 白色粒子。E. 内外一暗灰色。F. 鈴台部のみ。G. 搬入。尾張産か。H. ピット。



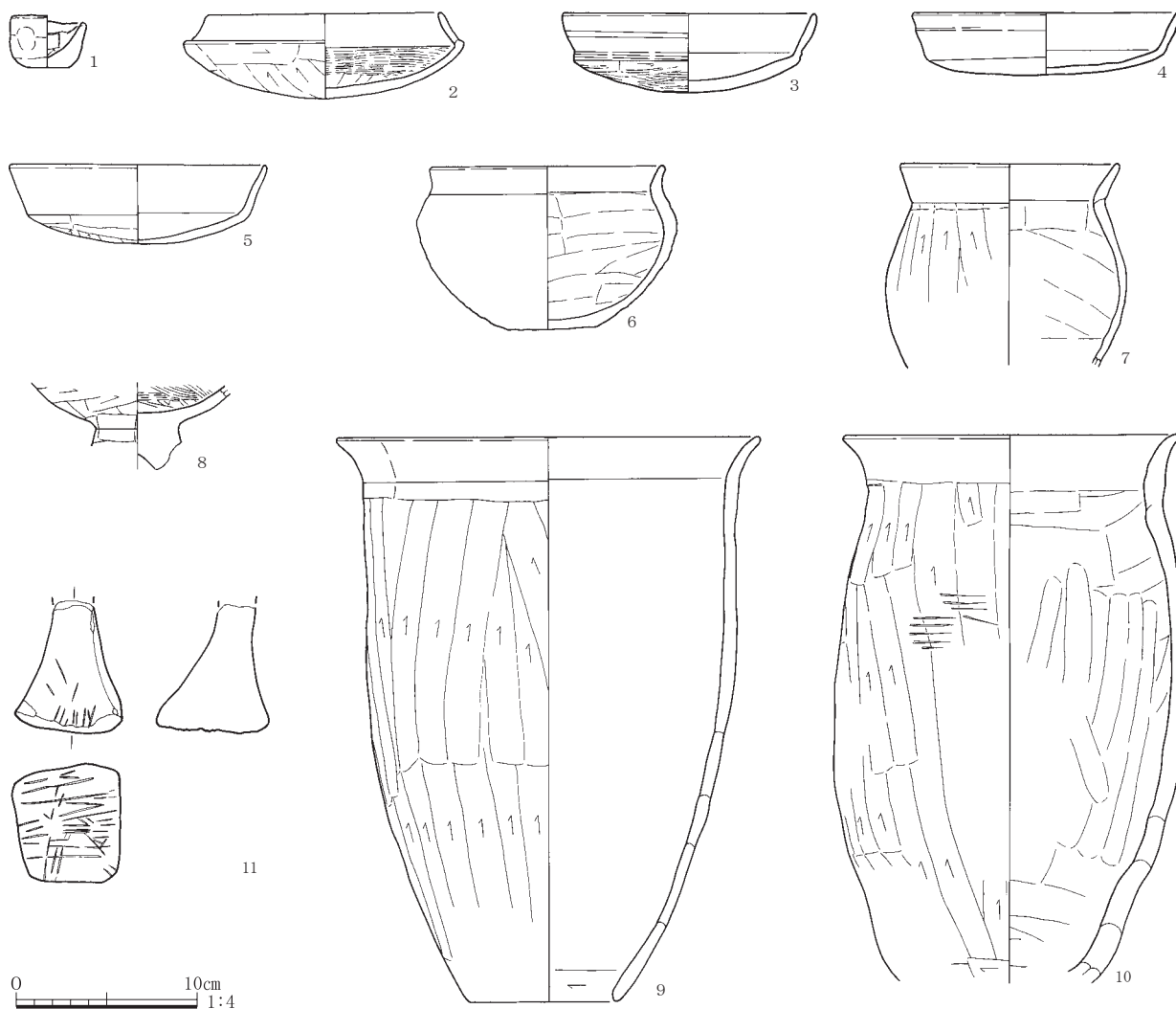
第17図 8号住居跡 出土遺物

9号住居跡（第18・19・20図、図版4・51）

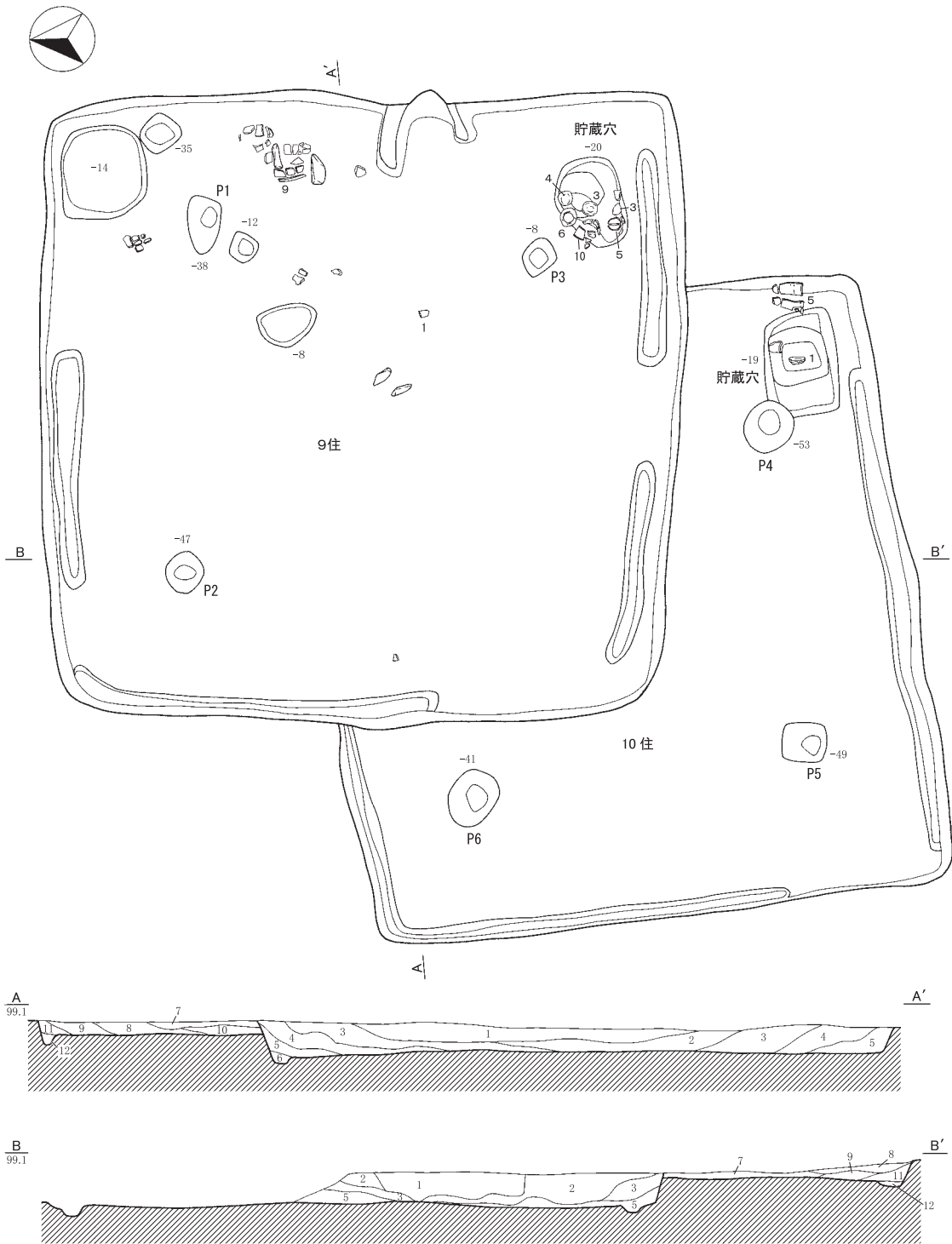
位置：B地点の北東に位置している。10号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-86°-E。規模：長軸5.91m、短軸5.85m。カマド：東壁に付設される。袖は褐色の粘土を用いた付け袖である。向かって右側の袖は攪乱によって破壊されている。燃烧部は住居よりやや外に出る。貯蔵穴：カマドに向かって右側の南東隅に配され、不整形を呈する。柱穴：住居内から7基のピットが確認される。主柱穴となるものは深さ30cm以上を測るP1とP2であろう。周溝：東壁以外に断続的に見られる。埋没状況：レンズ状堆積の自然埋没である。遺物：貯蔵穴内及び、カマドに向かって左側に分布している。時期：古墳時代後期。

10号住居跡（第19・21図、図版4・51）

位置：B地点北東に位置している。9号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-85°-E。規模：長軸5.78m、短軸5.50m。カマド：確認されなかったが、おそらく9号住居跡に破壊されたのだろう。貯蔵穴：南東隅に検出され、長方形を呈する。柱穴：主柱穴が3本確認される。もう1本は検出されていない。周溝：北から西壁と南壁に検出される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：貯蔵穴周辺から出土する。時期：古墳時代後期。



第18図 9号住居跡 出土遺物



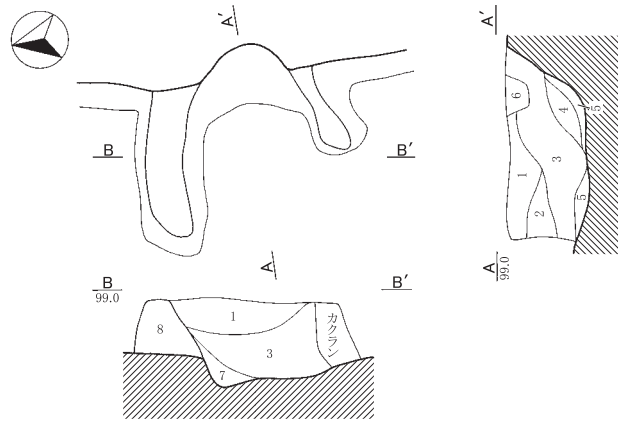
9号住居跡

- | | | |
|----|--------|--|
| 1層 | 淡黒褐色土層 | 炭化物粒子・炭化物ブロック(φ~10mm)・焼土粒子・焼土ブロック(φ7mm)を多量、黄褐色粘土を少量、白色粒子微量含む。粘性なし、しまりあり。 |
| 2層 | 暗茶褐色土層 | 炭化物粒子・黄褐色土粒子を多量、ロームブロック(φ~20mm)を少量含む。粘性なし、しまりあり。 |
| 3層 | 暗茶褐色土層 | ロームブロック(φ~2mm)・炭化物ブロック(φ3mm)、焼土ブロック(φ8mm)を微量含む。しまりやや強、粘性なし。 |
| 4層 | 暗褐色土層 | ローム粒子を多量、焼土ブロック・炭化物ブロック(φ3mm)を少量含む。しまり・粘性やや強。 |
| 5層 | 暗褐色土層 | ローム粒子多量、ロームブロック(φ8mm)・ローム粒子(φ3mm)を少量含む。しまり・粘性やや強。 |
| 6層 | 暗褐色土層 | ローム粒子を多量、白色粒子(φ3mm)を少量含む。粘性・しまりやや強。 |

10号住居跡

- | | | |
|-----|---------|--|
| 7層 | 茶褐色土層 | ローム粒子・白色粒子・炭化物ブロック(φ6mm)を少量含む。粘性なし、しまりやや強。 |
| 8層 | 黒褐色土層 | ローム粒子・ロームブロック(φ~6mm)を少量含む。粘性なし、しまりやや強。 |
| 9層 | 褐色土層 | ローム粒子多量、ロームブロック(φ3mm)を微量含む。粘性・しまりやや強。 |
| 10層 | 茶褐色土層 | ロームブロック(φ8mm)を少量含む。粘性・しまりやや強。 |
| 11層 | 薄灰黄褐色土層 | ローム粒子を多量、焼土粒子少量含む。粘性・しまりやや強。 |
| 12層 | 暗褐色土層 | ローム粒子を多量、白色粒子(φ3mm)を少量含む。粘性・しまりやや強。 |

第19図 9号・10号住居跡

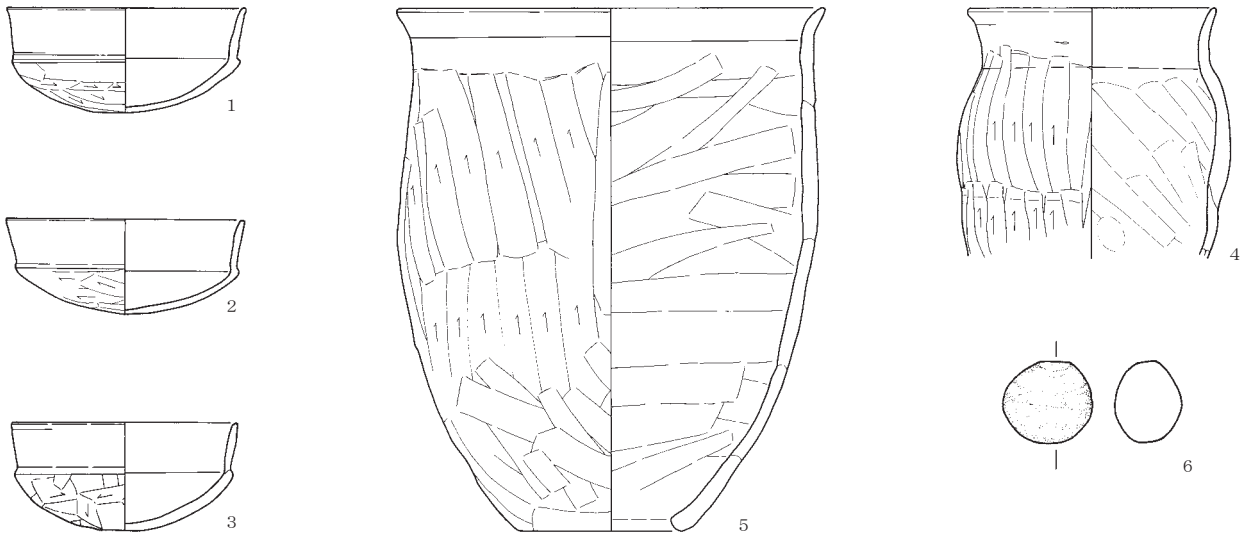


9号住居跡 カマド

- 1層 黒褐色土層 白色粒子(φ1~1mm)多量、ローム粒子(φ1~2mm)・焼土粒子(φ1mm)を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 2層 明黒褐色土層 ローム粒子(φ1~2mm)・焼土粒子(φ1mm)を微量含む。粘性あり、しまりなし。
- 3層 明黒褐色土層 ロームブロック(φ5~10mm)を多量、焼土粒子(φ3~5mm)を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 4層 暗褐色土層 ローム粒子(φ1~2mm)・ロームブロック(φ3~5mm)・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 5層 赤茶褐色土層 焼土粒子を多量、ローム粒子(φ3~5mm)を微量含む。粘性なし、しまりあり。燃焼面。
- 6層 赤褐色土層 焼土粒子を多量、ローム粒子(φ1mm)を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 7層 黄茶褐色土層 ローム粒子(φ2~3mm)・焼土ブロック(φ5~10mm)・白色粒子(φ1~1mm)を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 8層 灰褐色土層 焼土粒子を多量、ローム粒子(φ3~4mm)・白色粒子(φ1mm)を微量に含む。粘性あり、しまり強。

0 1 m
1:30

第20図 9号住居跡 カマド



第21図 10号住居跡 出土遺物

9号住居跡 出土遺物観察表

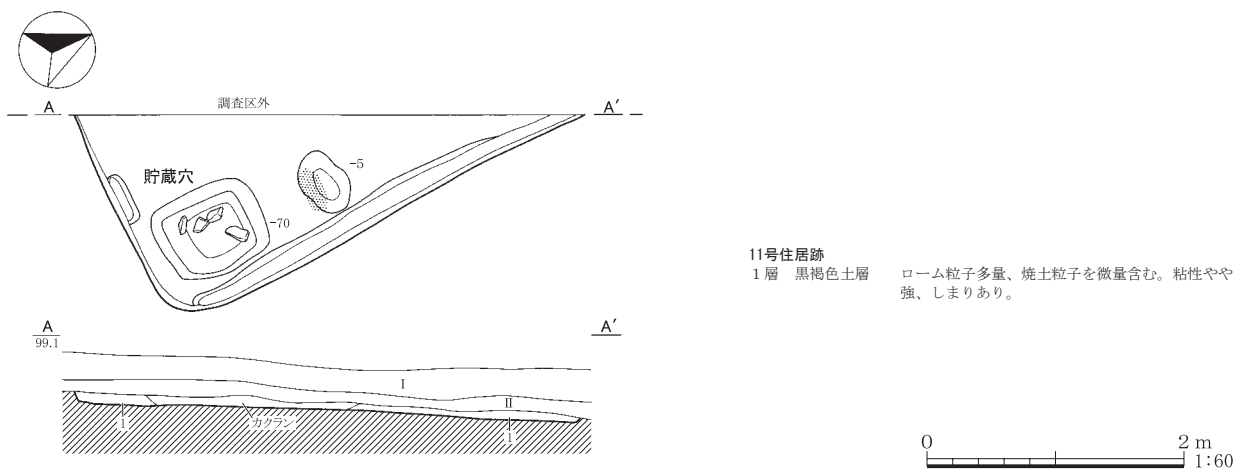
1	ミニチュア	A. 口径4.2。底径2.5。器高2.9。B. 手捏ね。C. 外面、ヨコナデ→コビオサエ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土。
2	坏	A. 口径13.1。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。体部タテナデ→上半ヨコミガキ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴。
3	坏	A. 口径14.1。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面黒色処理。H. 貯蔵穴。
4	坏	A. 口径14.8。器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、摩滅・剥落が著しい。D. 白色粒子。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面、痘痕状の剥離あり。H. 貯蔵穴。
5	坏	A. 口径14.2。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・雲母。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 貯蔵穴。
6	鉢	A. 口径13.1。底径4.9。器高9.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、痘痕状に剥離。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 内外面にスス付着。H. 貯蔵穴。
7	小形甕	A. 口径12.1。残存高11.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部~胴部上位ヨコナデ。胴部中位以下ナナメナデ。D. 石英。E. 内一灰赤色。外一赤褐色。F. 口縁部~胴部中位2/3。G. 内外面、二次被熱。H. 貯蔵穴。
8	高坏	A. 残存高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部ヨコナデ→ヨコケズリ。脚部ヨコナデ。内面、体部ヨコミガキ。D. 角閃石。E. 内一オレンジ黒。外一橙色。F. 破片。G. 内面、黒色処理。H. 覆土。
9	大形甕	A. 口径23.4。底径8.3。器高31.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、調整摩滅。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。二次被熱。H. 覆土。
10	甕	A. 口径18.4。残存高30.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→一部横位の擦痕あり。D. 片岩・角閃石。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい橙色。F. 2/3。G. 内外面、口縁部にスス付着。H. 覆土・貯蔵穴。
11	砥石	A. 残長7.2。幅6.0。厚6.2。重217.46。D. 流紋岩。G. 4面良く摩滅する。下面に摩滅はなく、刃痕が顕著。H. 覆土。

10号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 12.6。器高 5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴。
2	坏	A. 口径 12.6。器高 5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 2/3。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 (11.9)。器高 5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。G. 外面体部焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	小形甕	A. 口径 13.2。残存高 13.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部～胴部中位 2/3。H. 覆土。
5	大形甕	A. 口径 22.7。底径 8.7。器高 27.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・雲母。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
6	丸石	A. 長 4.7。幅 4.4。厚 3.7。重 99.2。D. 安山岩。F. 完形。G. 稜があるが人為的なものではないだろう。H. 覆土。

11号住居跡 (第22図、図版4)

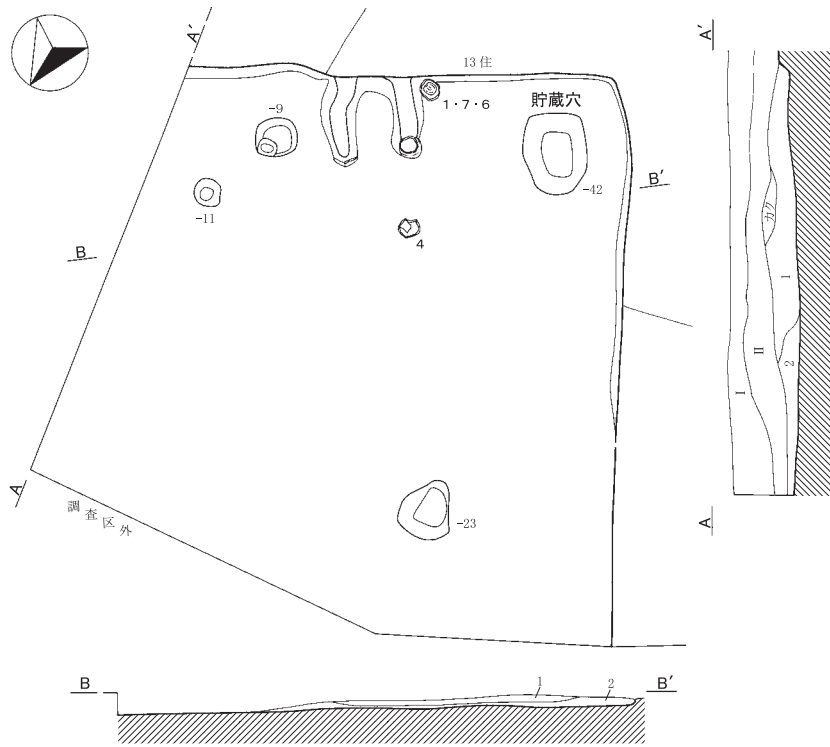
位置：B地点の北壁に住居の南東コーナー部分が検出された。形態：平面形は方形を呈するであろう。主軸方位：N-88°-Eか。カマド：東壁の南寄りに覆土に焼土を含むピットがあり、カマドの掘り方であろう。貯蔵穴：カマド痕に向かって右側、住居の南東コーナー部分に方形の貯蔵穴が検出されている。周溝：東壁と南壁の一部で確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土師器の破片が出土している。時期：古墳時代後期か。



第22図 11号住居跡

12号住居跡 (第23・24図、図版4・5・51)

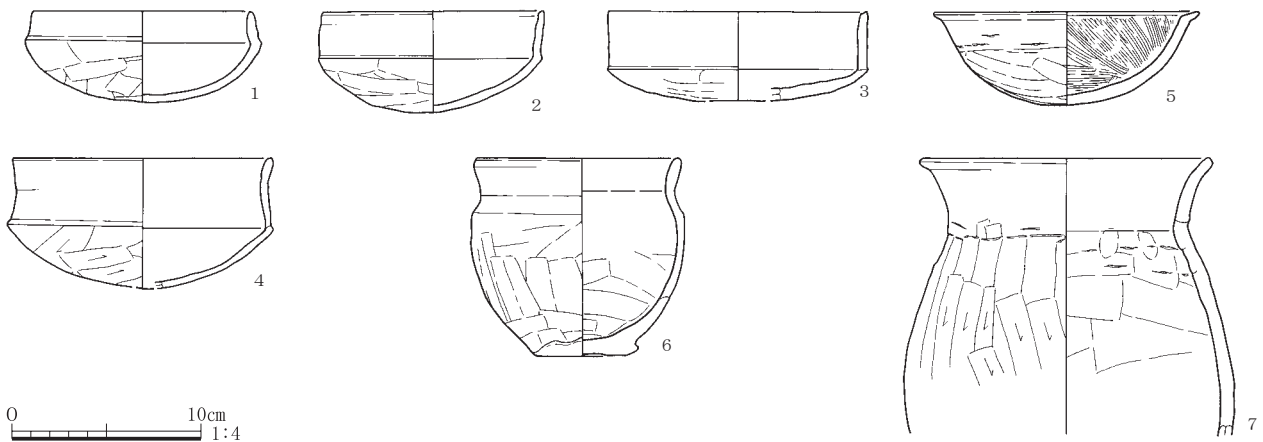
位置：B地点の北に位置し、南西コーナーを中心に検出されている。13号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：S-31°-E。カマド：住居の南壁に付設される。袖は付け袖で構築材に土師器の甕を用いる。燃焼部は住居内にあり、奥壁は住居の壁と一致する。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配される。柱穴：3本確認されたが、支柱穴は不明。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマドに向かって右側、壁と袖の付け根部分から坏と小形甕と甕の口縁部が入れ子になって出土している。時期：古墳時代後期。



12号住居跡
 1層 黒褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。
 2層 暗褐色土層 黄褐色土ブロック(φ~10mm)・ローム粒子多量含む。粘性なし、しまりあり。貼り床。

※標高不明。

第23図 12号住居跡



第24図 12号住居跡 出土遺物

12号住居跡 出土遺物観察表

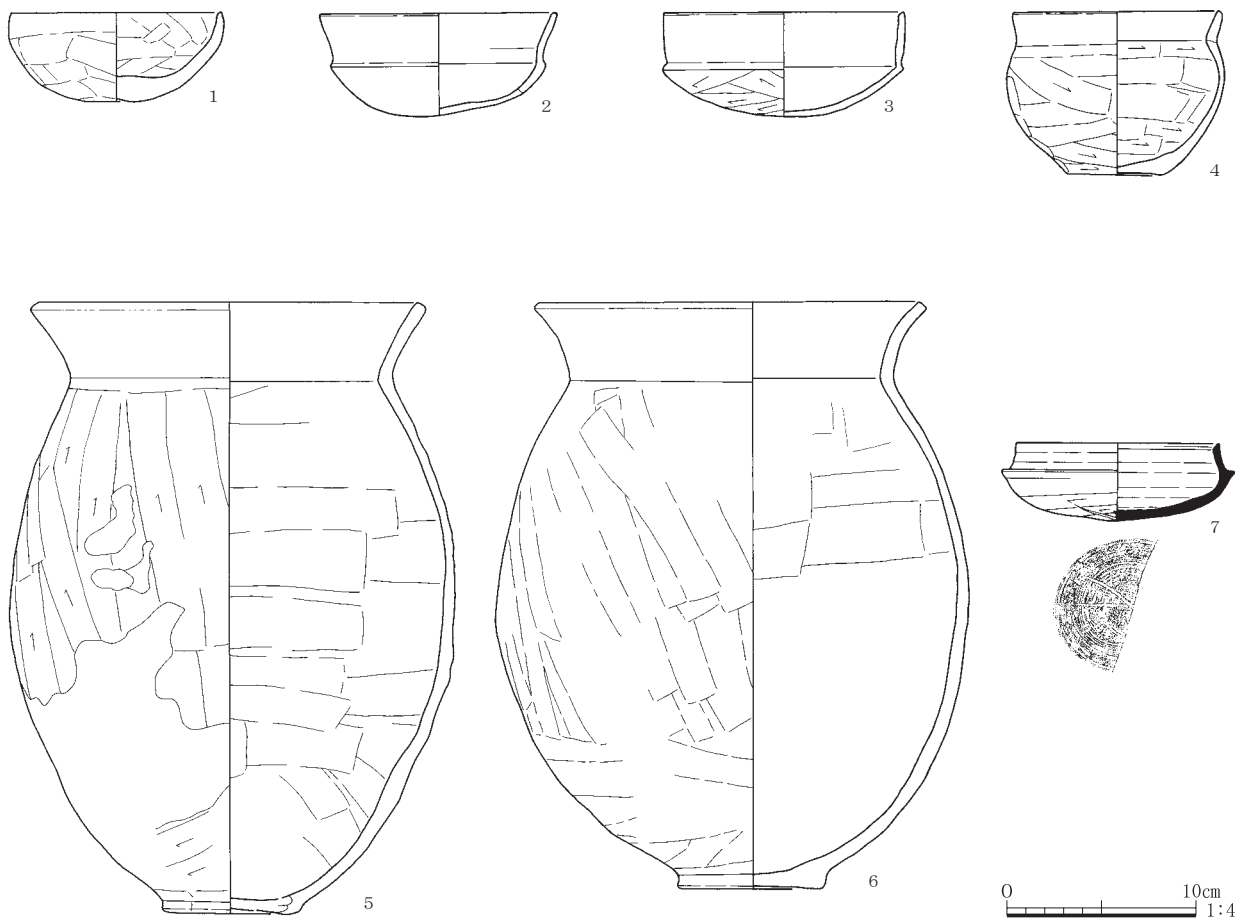
1	坏	A. 口径 11.6。器高 4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外-赤色。F. ほぼ完形。G. 内外面赤彩。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 11.8。器高 5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 角閃石・赤色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 13.8。器高 4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	坏	A. 口径 13.8。器高 4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい黄褐色。F. 4/5。H. 覆土。
5	坏	A. 口径 (14.0)。器高 (4.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナナメナデ。内面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ→ナナメミガキ。D. 石英・赤色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土。
6	小形甕	A. 口径 11.0。底径 5.7。器高 10.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外-にぶい褐色。F. 1/2。G. 外面胴部にスス附着。H. 覆土。
7	甕	A. 口径 15.5。残存高 14.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→タケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ユビオサエ→ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外-橙色。F. 口縁部~胴部中位ほぼ完形。G. 外面胴部中位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

13号住居跡（第25・26・27図、図版4・5・51・52）

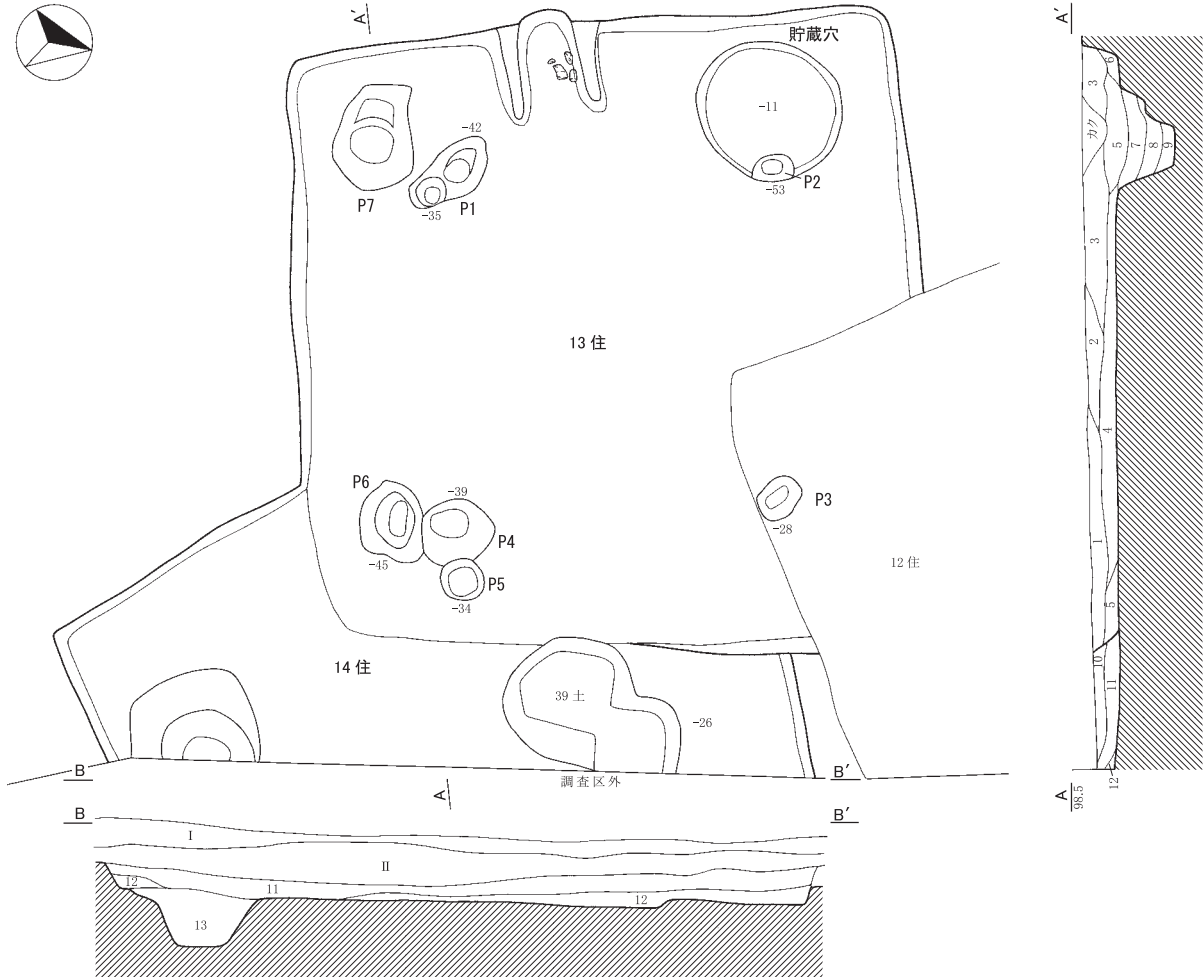
位置：B地点の北に位置している。12号住居跡・14号住居跡と重複し、前者との新旧関係は不明だが、後者より新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-77°-W。規模：長軸5.06m、短軸4.98m。カマド：西壁中央に付設される。燃烧部は住居内にあり、奥壁は住居の壁と一致する。燃烧部内から土師器の甕が2個体並んで出土している。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：7本確認される。P3は重複する12号住居内から検出されたが、本遺構の柱穴と考えられる。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド周辺から出土している。時期：古墳時代後期。

14号住居跡（第26図、図版5）

位置：B地点東壁に位置しており、住居跡の大半は調査区外となっている。13号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-33°-W。規模：推定長軸5.25m。柱穴：土坑状のピットが1本確認される。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：覆土から土器片が出土している。時期：古墳時代。



第25図 13号住居跡 出土遺物



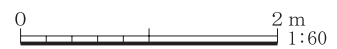
13号住居跡

- | | |
|------------|---|
| 1層 暗褐色土層 | 白色粒子(φ 3mm)・焼土ブロック(φ 2mm)を少量含む。粘性なし、しまりあり。 |
| 2層 暗褐色土層 | ロームブロック(φ ~10mm)・焼土ブロック(φ 2mm)を微量含む。粘性なし、しまりあり。 |
| 3層 黒褐色土層 | ローム粒子を非常に多く、ロームブロック(φ ~10mm)を多量含む。粘性なし、しまりあり。 |
| 4層 黒褐色土層 | ロームブロック(φ ~10mm)・焼土ブロック(φ 1mm)を多量含む。粘性なし、しまりあり。 |
| 5層 黒褐色土層 | ロームブロック(φ ~7mm)・白色粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性なし、しまりあり。 |
| 6層 黒褐色土層 | ロームブロックを多量、焼土を微量含む。粘性強、しまりあり。壁崩落土層。 |
| 7層 黒褐色粘質土層 | ローム粒子・焼土粒子を多量、ロームブロック・白色ブロック(φ 8mm)を少量含む。粘性強、しまりあり。 |
| 8層 黒褐色粘質土層 | ロームブロックを非常に多く含む。粘性強、しまりあり。 |
| 9層 黒褐色粘質土層 | ローム粒子・白色ブロック(φ 8mm)を少量含む。粘性強、しまりあり。 |

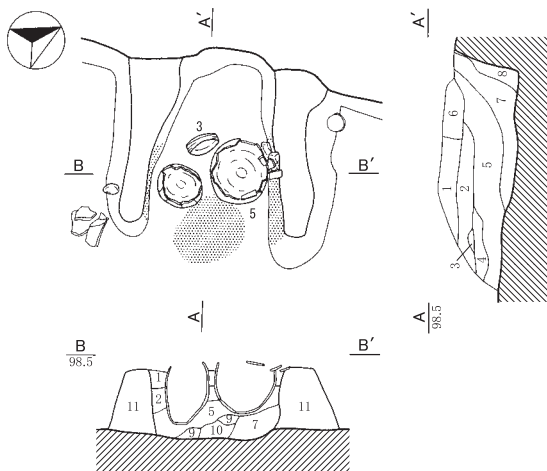
14号住居跡

- | | |
|------------|--|
| 10層 黒褐色土層 | ロームブロック(φ 9mm)・ローム粒子を微量含む。粘性強、しまりあり。 |
| 11層 黒褐色土層 | ロームブロック(φ ~8mm)・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性強、しまりあり。 |
| 12層 暗褐色土層 | ロームブロック(φ ~8mm)を少量含む。粘性強、しまりあり。 |
| 13層 土層注記なし | |

※B-B' 標高不明



第26図 13号・14号住居跡



13号住居跡 カマド

- | | |
|------------|---|
| 1層 茶褐色土層 | ローム粒子(φ 2mm)・焼土微量含む。粘性あり、しまりあり。 |
| 2層 茶褐色土層 | ローム粒子(φ 2mm)・焼土・炭化物を微量含む。粘性あり、しまりあり。 |
| 3層 暗茶褐色土層 | ロームブロック(φ 15mm)・焼土粒子を微量含む。粘性強、しまりあり。 |
| 4層 淡灰色粘土層 | 焼土を多量、炭化物粒を微量含む。粘性強、しまりあり。 |
| 5層 暗赤茶褐色土層 | 焼土ブロック(φ 10mm)・炭化物を多量、ロームブロック(φ 20mm)を少量含む。粘性やや強、しまりあり。 |
| 6層 黄茶褐色粘土層 | 焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性強、しまりあり。 |
| 7層 茶褐色土層 | 焼土粒子・炭化物粒子を少量、ローム粒子(φ 2mm)を微量含む。粘性やや強、しまりあり。 |
| 8層 黄褐色土層 | ロームブロック主体層。粘性弱、しまりあり。 |
| 9層 暗茶褐色土層 | 灰白色焼土粒・焼土粒子を少量含む。粘性やや強、しまりあり。 |
| 10層 暗茶褐色土層 | 焼土粒子多量、焼土ブロック(φ 5~10mm)を少量含む。粘性・しまりなし。 |
| 11層 茶褐色土層 | カマドの袖。粘性・しまり強。 |



第27図 13号住居跡 カマド

13号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径11.2。器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.5。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部摩滅。内面、ヨコナデ。D. 雲母。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.8。器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内一橙色。外一にぶい橙色。F. 完形。G. 内外面、黒色処理。H. カマド。
4	鉢	A. 口径11.0。底径5.0。器高8.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナメナデ・ケズリ。底部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ・ケズリ。D. 石英・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	甕	A. 口径20.9。底径(7.3)。器高32.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ・ヨコナデ。底部ケズリ→ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。G. 外面胴部中位以下に粘土・スス附着。H. カマド。
6	甕	A. 口径20.8。底径7.8。器高31.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ→上半タテナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 2/3。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
7	須恵器 坏	A. 口径10.7。器高4.1。B. ロクロ成形。C. 外面、口縁部回転ナデ。体部下半回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外一灰色。F. 1/2。G. 底部にヘラ記号「×」か。在地産か。H. 覆土。

15号住居跡（第28・29・30図、図版5・52）

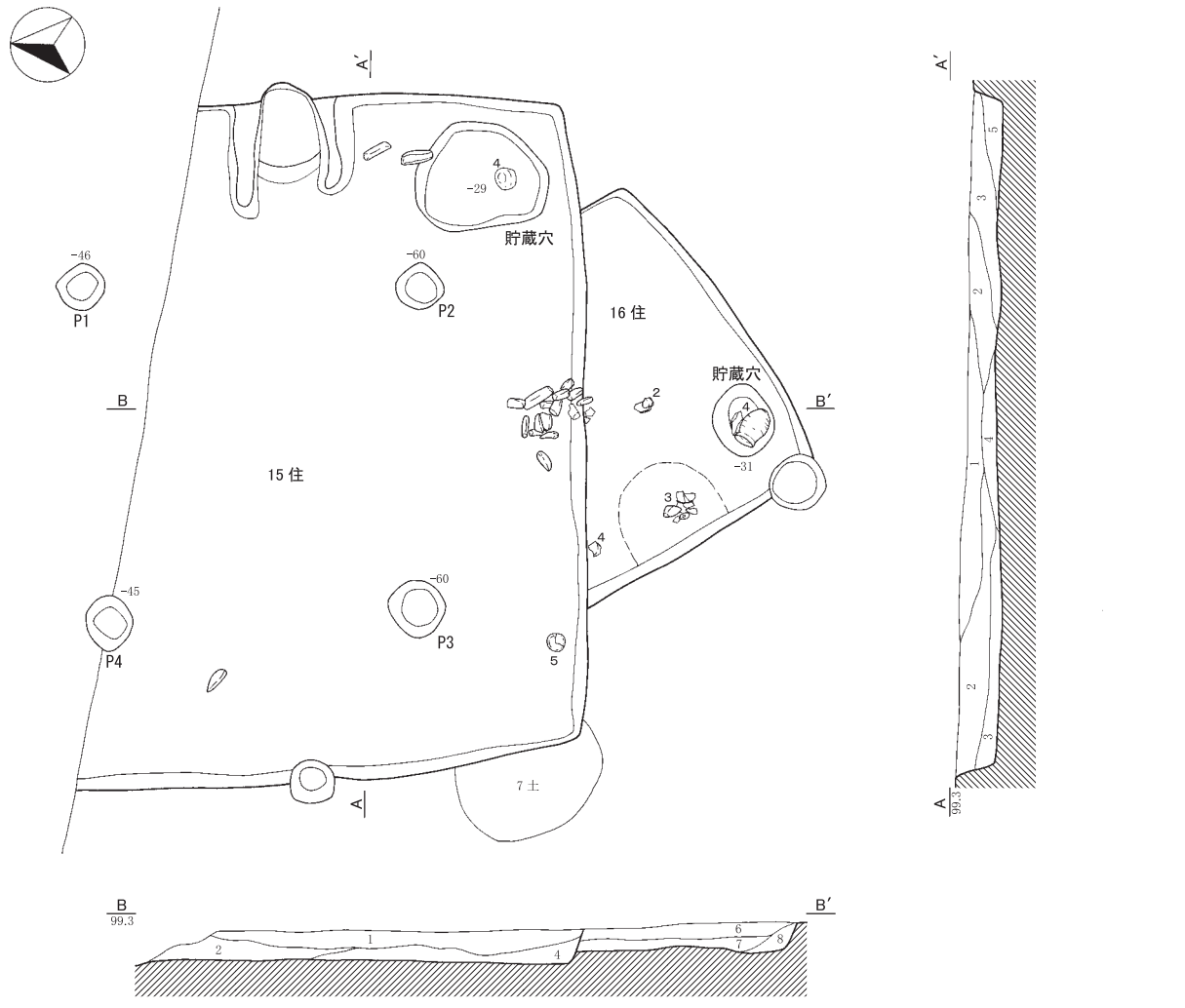
位置：B地点の北寄りに位置している。16号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈すると思われるが、北壁を削平されているため不明である。主軸方位：N-88°-E。規模：長軸5.55m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は住居外に延びる。袖は粘土を用いた付け袖である。貯蔵穴：カマドに向かって右に配される。不整の円形で深さは29cmであった。柱穴：4本確認され、深いもので60cmを測る。いずれも主柱穴である。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：カマドから土器片が出土している。16号住居跡との重複箇所において編み物石が多数検出される。時期：古墳時代後期。

16号住居跡（第28・31図、図版5・52）

位置：B地点の北寄りに位置している。15号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：大半が15号住居跡に破壊されるが、平面形は方形であろう。主軸方位：S-54°-W。規模：長軸2.80m。カマド：西壁に付設される。袖等はなく、カマドの痕跡が残る程度である。燃焼部には、支脚であろう礫が据えられている。柱穴：カマドに向かって左側のピットが貯蔵穴の可能性はある。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土や貯蔵穴より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。

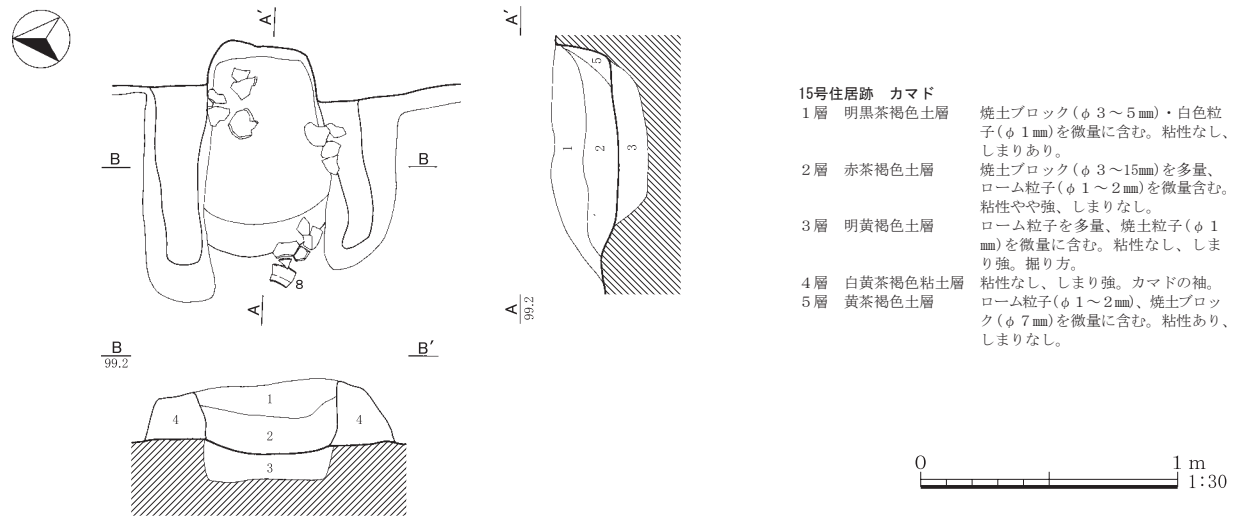
16号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径13.1。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
2	埴	A. 残存高10.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、胴部ヨコケズリ→上半ナメミガキ。内面、調整観察不可。D. 白色粒子。角閃石。E. 内一にぶい黄橙色。外一橙色。F. 胴部1/2。H. 覆土。
3	甕	A. 口径17.0。底径6.9。器高28.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部下半ヨコケズリ・ナデ→上半タテミガキ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 2/3。G. 内面口縁部に焼成時の黒斑あり。外面胴部下半にスス附着。H. カマド。
4	甕	A. 口径17.9。底径4.9。器高32.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 内外面、胴部に焼成時の黒斑あり。外面胴部下半にスス附着。H. 貯蔵穴。



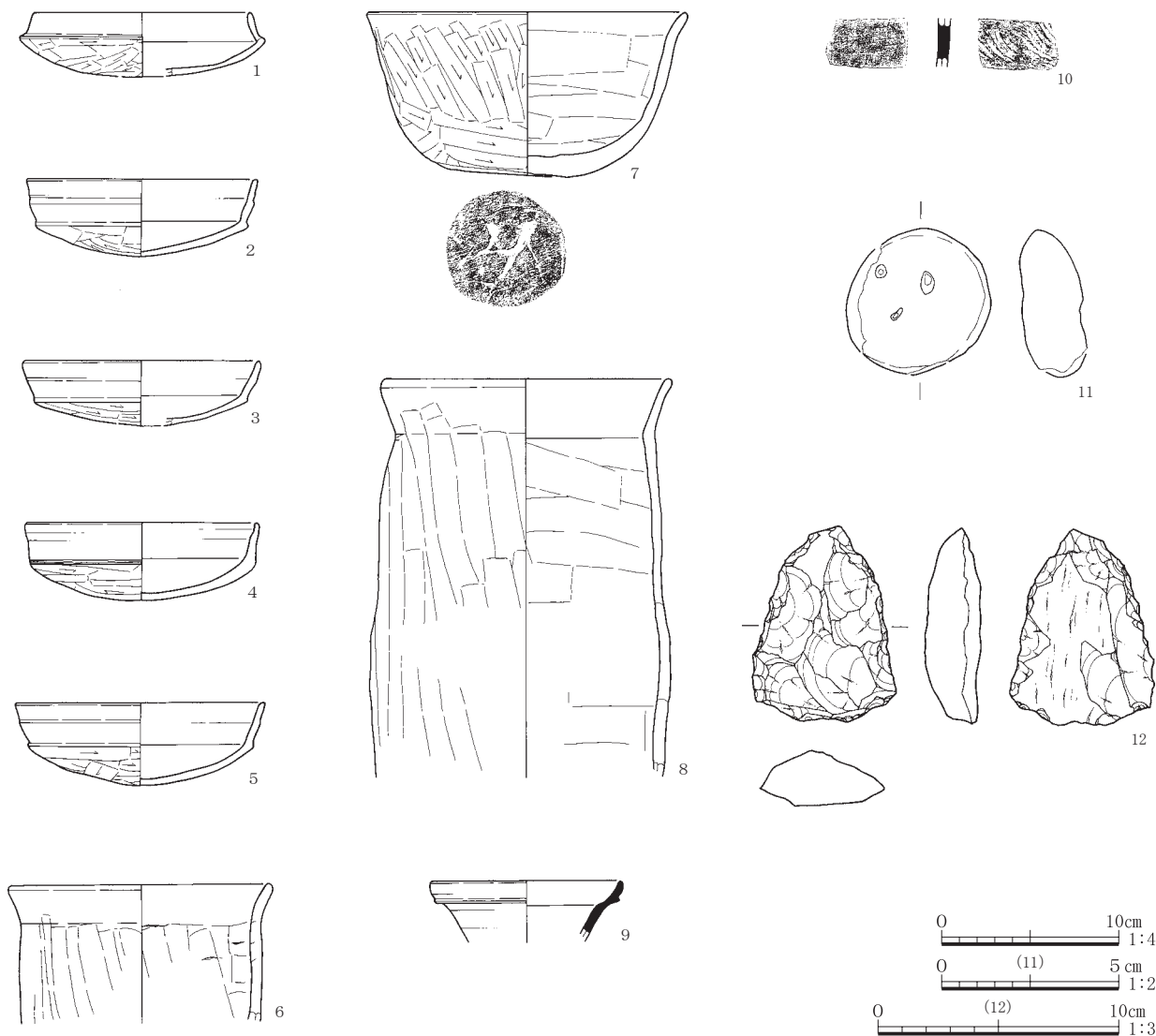
- 15号住居跡**
- 1層 褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまり強。
 - 2層 明赤褐色土層 ローム粒子・砂礫を含む。粘性やや強、しまり強。
 - 3層 褐色土層 ローム粒子・砂礫を多量に含む。粘性やや強、しまり強。
 - 4層 褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を多量に含む。粘性強、しまりなし。
 - 5層 暗赤茶褐色土層 焼土粒子を多量に含む。粘性・しまり強。
- 16号住居跡**
- 6層 暗褐色土層 焼土粒子・砂礫を少量含む。粘性弱、しまりあり。
 - 7層 褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
 - 8層 黄褐色土層 ローム主体層。粘性・しまりなし。

第28図 15号・16号住居跡

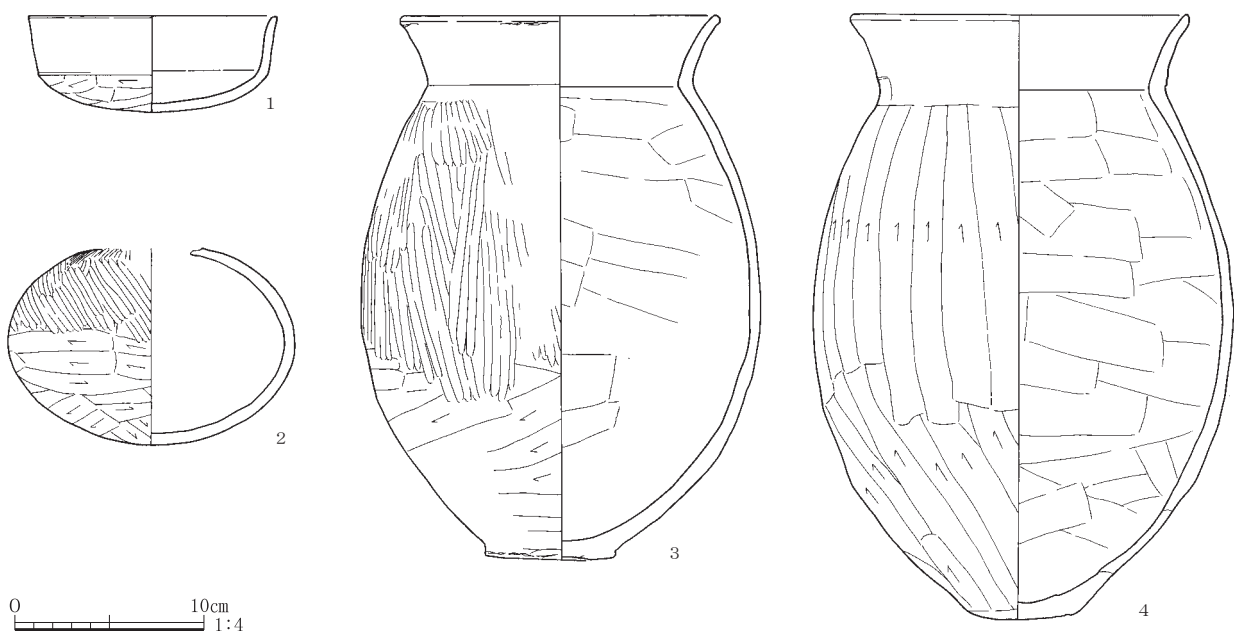


- 15号住居跡 カマド**
- 1層 明黒茶褐色土層 焼土ブロック(φ3~5mm)・白色粒子(φ1mm)を微量に含む。粘性なし、しまりあり。
 - 2層 赤茶褐色土層 焼土ブロック(φ3~15mm)を多量、ローム粒子(φ1~2mm)を微量含む。粘性やや強、しまりなし。
 - 3層 明黄褐色土層 ローム粒子を多量、焼土粒子(φ1mm)を微量に含む。粘性なし、しまり強。掘り方。
 - 4層 白黄茶褐色粘土層 粘性なし、しまり強。カマドの袖。
 - 5層 黄茶褐色土層 ローム粒子(φ1~2mm)、焼土ブロック(φ7mm)を微量に含む。粘性あり、しまりなし。

第29図 15号住居跡 カマド



第30图 15号住居跡 出土遺物



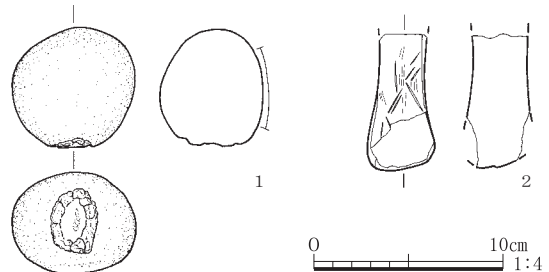
第31图 16号住居跡 出土遺物

15号住居跡 出土遺物観察表

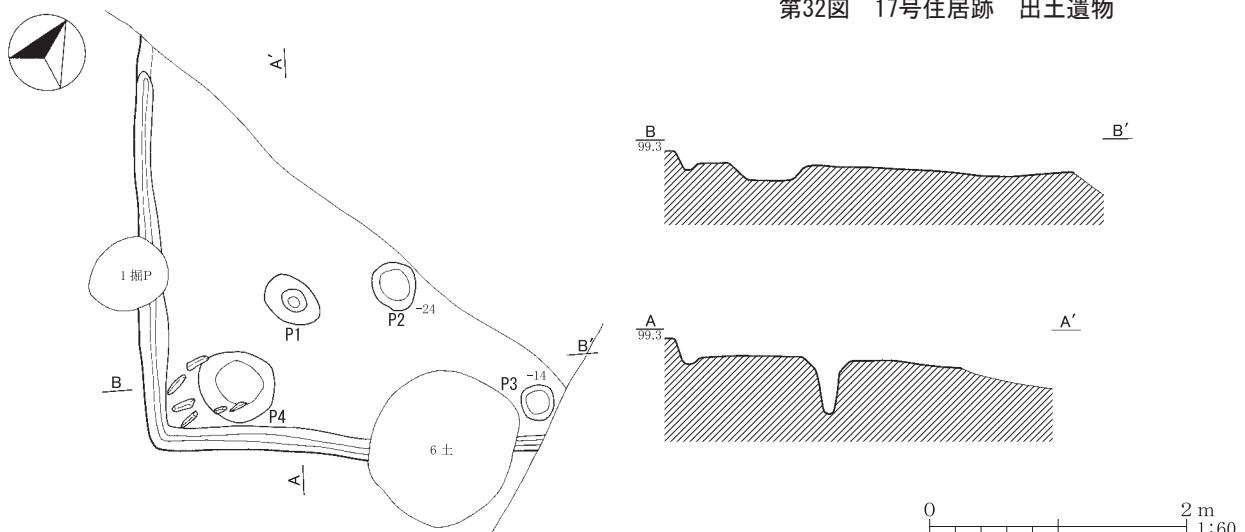
1	坏	A. 口径12.3。器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 4/5。G. 内外面黒色処理。H. 覆土。
2	坏	A. 口径13.0。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径13.5。器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土。
4	坏	A. 口径13.2。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
5	坏	A. 口径14.1。器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一灰黄色。F. ほぼ完形。G. 内面、黒色処理。外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	小形甕	A. 口径(14.9)。残存高7.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. 破片。G. 内面胴部スス附着。H. カマド。
7	鉢	A. 口径18.2。器高9.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部下半ヨコケズリ→上半ヨコケズリ。底部木葉痕→ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・片岩。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 内面スス附着。H. 覆土。
8	甕	A. 口径16.5。残存高22.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい橙色。F. 口縁部~胴部中位1/2。G. 外面胴部中位スス附着。H. カマド。
9	須恵器壺	A. 口径(10.9)。残存高3.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 白色粒子・片岩。E. 内外一灰黄色。F. 破片。G. 藤岡産。H. 覆土。
10	須恵器甕	A. 残存高2.8。B. タタキ成形。C. 外面、タタキ目→ナデ消し。内面、当て具痕。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。H. 覆土。
11	不明土製品	A. 径3.9。厚1.9。重21.7。C. ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 明褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
12	打製石斧	A. 長8.2。幅6.1。厚2.3。重124.17。D. ホルンフェス。G. 片面加工の撥型。H. 覆土。

17号住居跡 (第32・33図、図版5・52)

位置：B地点の北寄りに位置している。住居跡の半分以上を削平される。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-65°-E。柱穴：住居内から4本のピットが確認されている。P1は深さ43cmを測り、支柱穴の可能性が高い。周溝：残存部分には周溝が巡っていた。埋没状況：不明。遺物：P4周辺から編み物石が、覆土より砥石と磨り石が土器片とともに出土している。時期：古墳時代。



第32図 17号住居跡 出土遺物



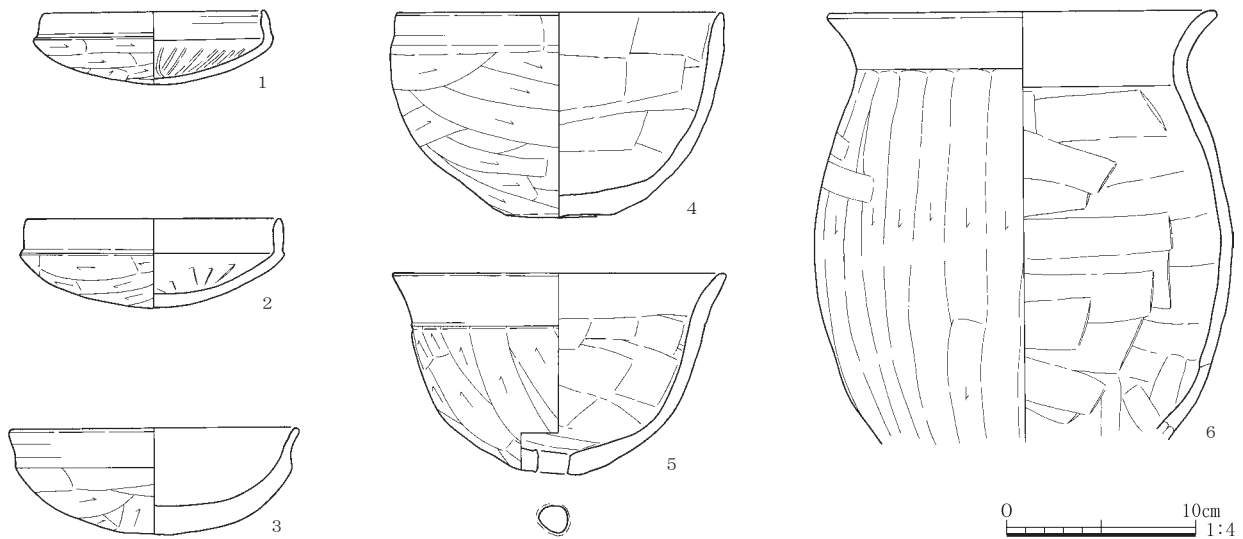
第33図 17号住居跡

17号住居跡 出土遺物観察表

1	磨石	A. 長6.3。幅6.6。厚5.5。重334.5。D. 石英斑石か。F. 完形。G. 全体的に摩耗して滑らか。下端部には敲打による凹穴あり。H. 覆土。
2	砥石	A. 残長7.2。幅3.5。厚3.4。重114.92。D. 流紋岩。F. 1/2。G. 側面の4面は摩滅。刃痕あり。H. 覆土。

18号住居跡 (第34・35図、図版5・6・53)

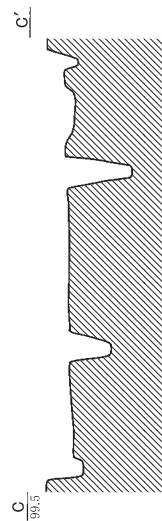
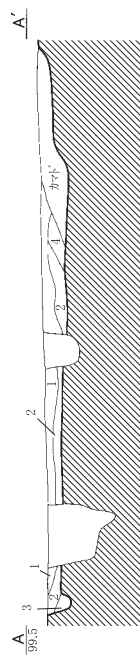
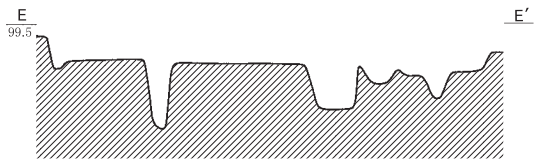
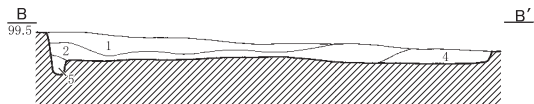
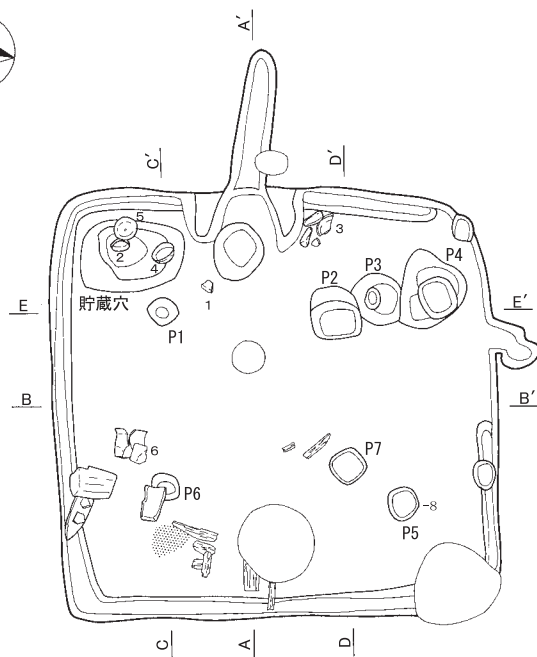
位置：B地点の北寄りに位置している。1号掘立柱建物跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-80°-W。規模：長軸3.49m、短軸3.40m。カマド：西壁に付設される。燃烧部は住居内に収まり、煙道が110cmほど住居外へと延びている。袖は付け袖である。貯蔵穴：カマドに向かって左側に長方形のピットがある。テラス状に10cm下がった後、更に40cmほど掘り込まれる構造となっている。柱穴：住居内から複数のピットが確認される。30cm以上の深さのものは支柱穴と捉えられる。周溝：北壁の一部以外に認められる。埋没状況：自然埋没であるが、床面直上に炭化材の分布があること、覆土内に焼土炭化物を一定量含むことから焼失住居だと考えられる。遺物：貯蔵穴から完形の土師器が出土するほか、住居の南半分に遺物が多く見られる。時期：古墳時代後期。



第34図 18号住居跡 出土遺物

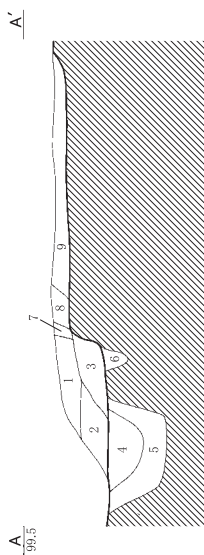
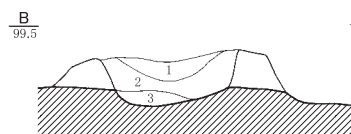
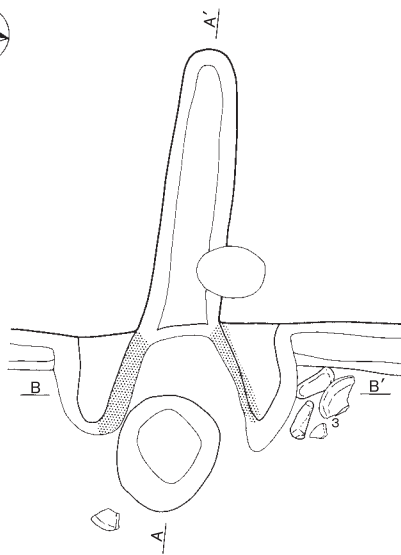
18号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径11.8。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ→体部放射状ミガキ。D. 角閃石。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 4/5。G. 内外面黒色処理。H. 覆土。
2	坏	A. 口径13.4。器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内外-橙色。F. 完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
3	坏	A. 口径15.3。器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい橙色。F. ほぼ完形。G. 外面、二次被熱か。H. 覆土。
4	鉢	A. 口径17.5。底径5.6。器高10.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子・角閃石。E. 内-にぶい赤褐色。外-橙色。F. 完形。H. 覆土・貯蔵穴。
5	小形甕	A. 口径17.8。底径3.6。器高10.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部焼成前穿孔。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外-橙色。F. 完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
6	甕	A. 口径(20.6)。残存高20.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→一部ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内-明赤褐色。外-にぶい橙色。F. 口縁部～胴部下位1/3。G. 外面胴部中位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。



18号住居跡

- 1層 黒褐色土層 ローム粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 2層 暗褐色土層 ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 4層 明黄褐色土層 ローム粒子を多量に含む。粘性・しまりなし。
- 5層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりなし。



18号住居跡 カマド

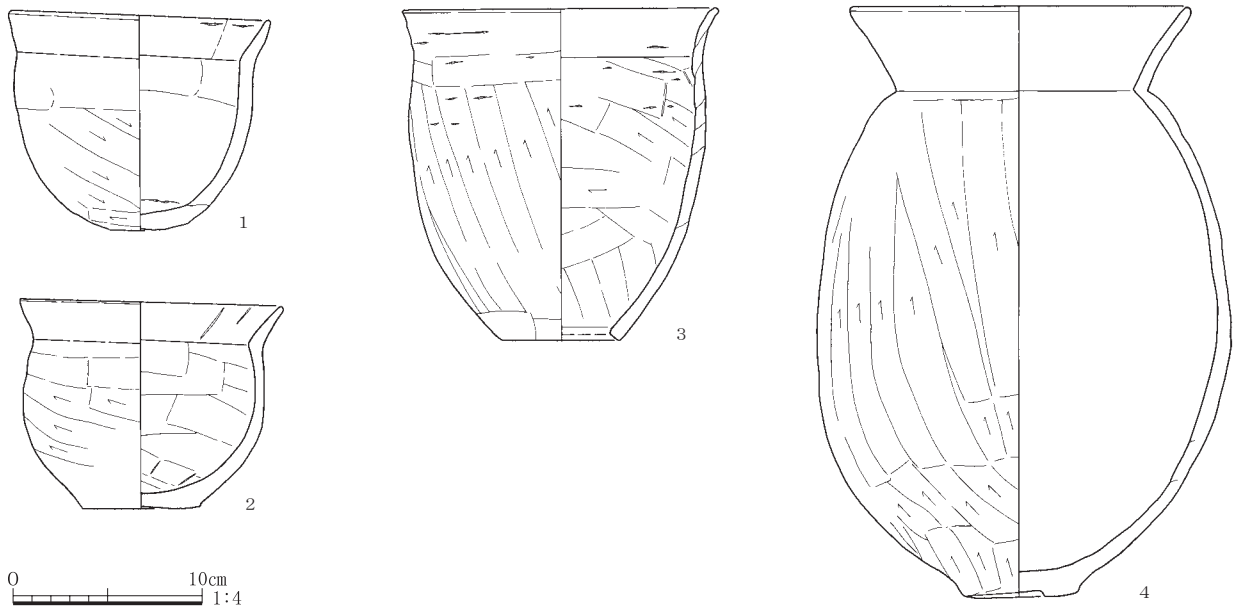
- 1層 茶褐色土層 ロームブロック・ローム粒子・焼土・炭化物を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 2層 茶褐色土層 焼土・炭化物を多量、ローム粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 3層 赤褐色土層 焼土粒子主体層。ローム粒子・炭化物を含む。粘性・しまりなし。
- 4層 暗茶褐色土層 ロームブロックを微量、ローム粒子・焼土・炭化物を含む。粘性・しまりあり。
- 5層 茶褐色土層 ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土・炭化物を少量含む。粘性・しまりあり。
- 6層 暗茶褐色土層 ロームブロックを微量、ローム粒子・焼土・炭化物を含む。粘性・しまりあり。
- 7層 茶褐色土層 焼土を多量、ローム粒子・炭化物・細砂を含む。粘性・しまりなし。
- 8層 赤褐色土層 焼土粒子主体層。ローム粒子・炭化物を含む。粘性・しまりなし。
- 9層 黒褐色土層 ローム粒子を多量、焼土・炭化物を微量に含む。粘性・しまりなし。



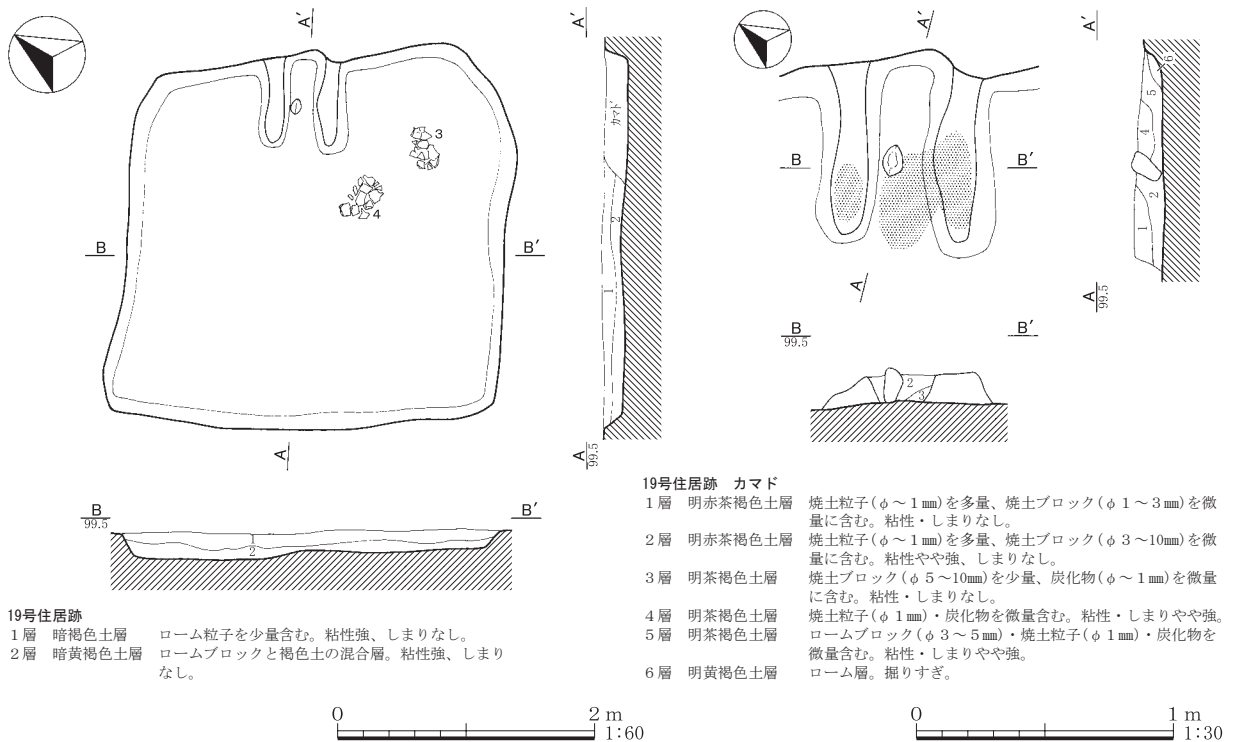
第35図 18号住居跡

19号住居跡（第36・37図、図版6・53）

位置：B地点の北寄りに位置している。重複はなく、単独で検出された。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-62°-E。規模：長軸2.99m、短軸2.90m。カマド：北壁に付設される。燃烧部は住居内にあり、奥壁は住居の壁と一致している。燃烧部の中央には、支脚であろう礫が据えられている。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドに向かって右側から土師器が出土している。時期：古墳時代後期。



第36図 19号住居跡 出土遺物



19号住居跡
 1層 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性強、しまりなし。
 2層 暗黄褐色土層 ロームブロックと褐色土の混合層。粘性強、しまりなし。

19号住居跡 カマド
 1層 明赤茶褐色土層 焼土粒子(φ~1mm)を多量、焼土ブロック(φ1~3mm)を微量に含む。粘性・しまりなし。
 2層 明赤茶褐色土層 焼土粒子(φ~1mm)を多量、焼土ブロック(φ3~10mm)を微量に含む。粘性やや強、しまりなし。
 3層 明茶褐色土層 焼土ブロック(φ5~10mm)を少量、炭化物(φ~1mm)を微量に含む。粘性・しまりなし。
 4層 明茶褐色土層 焼土粒子(φ1mm)・炭化物を微量含む。粘性・しまりやや強。
 5層 明茶褐色土層 ロームブロック(φ3~5mm)・焼土粒子(φ1mm)・炭化物を微量含む。粘性・しまりやや強。
 6層 明黄褐色土層 ローム層。掘りすぎ。

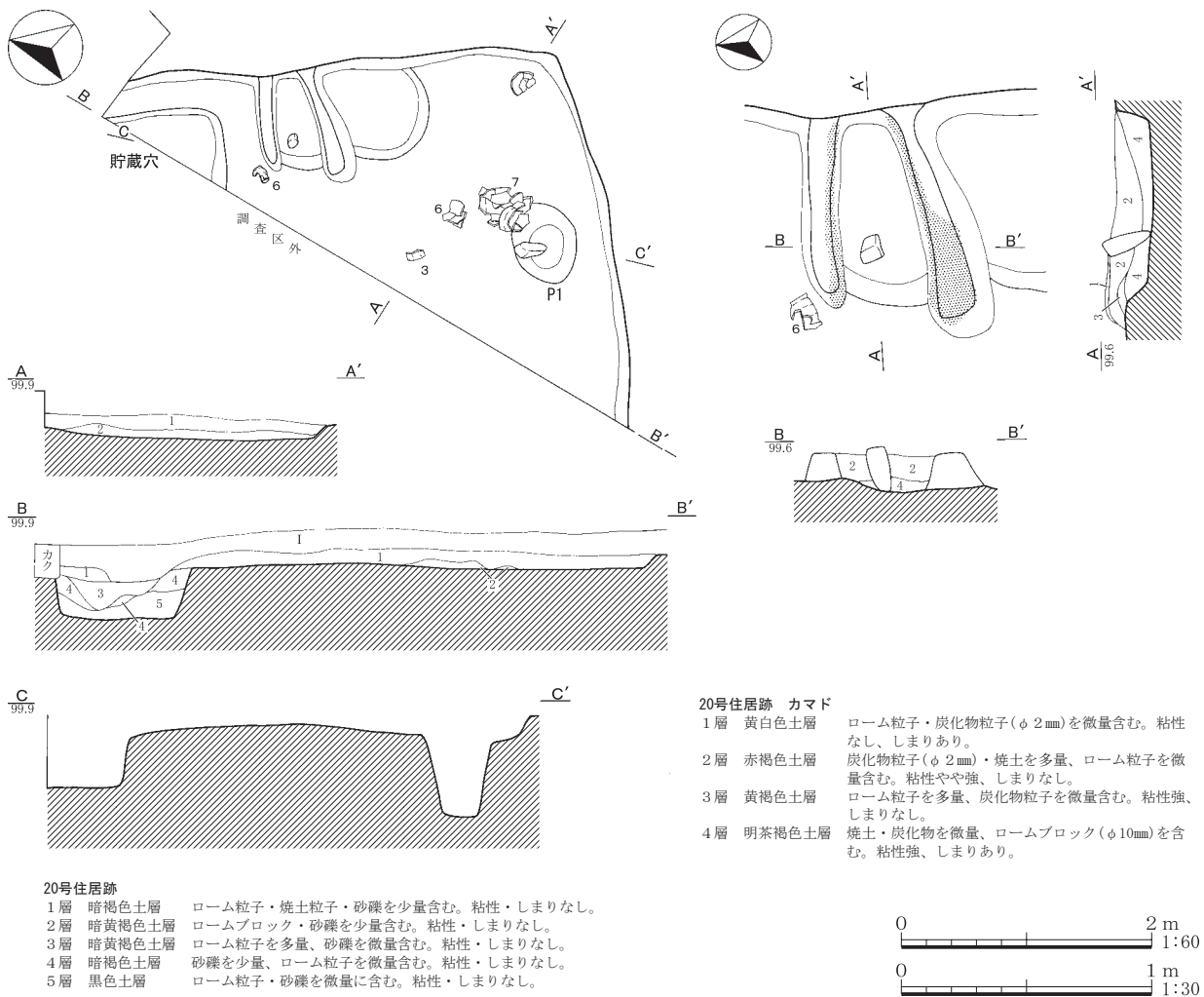
第37図 19号住居跡

19号住居跡 出土遺物観察表

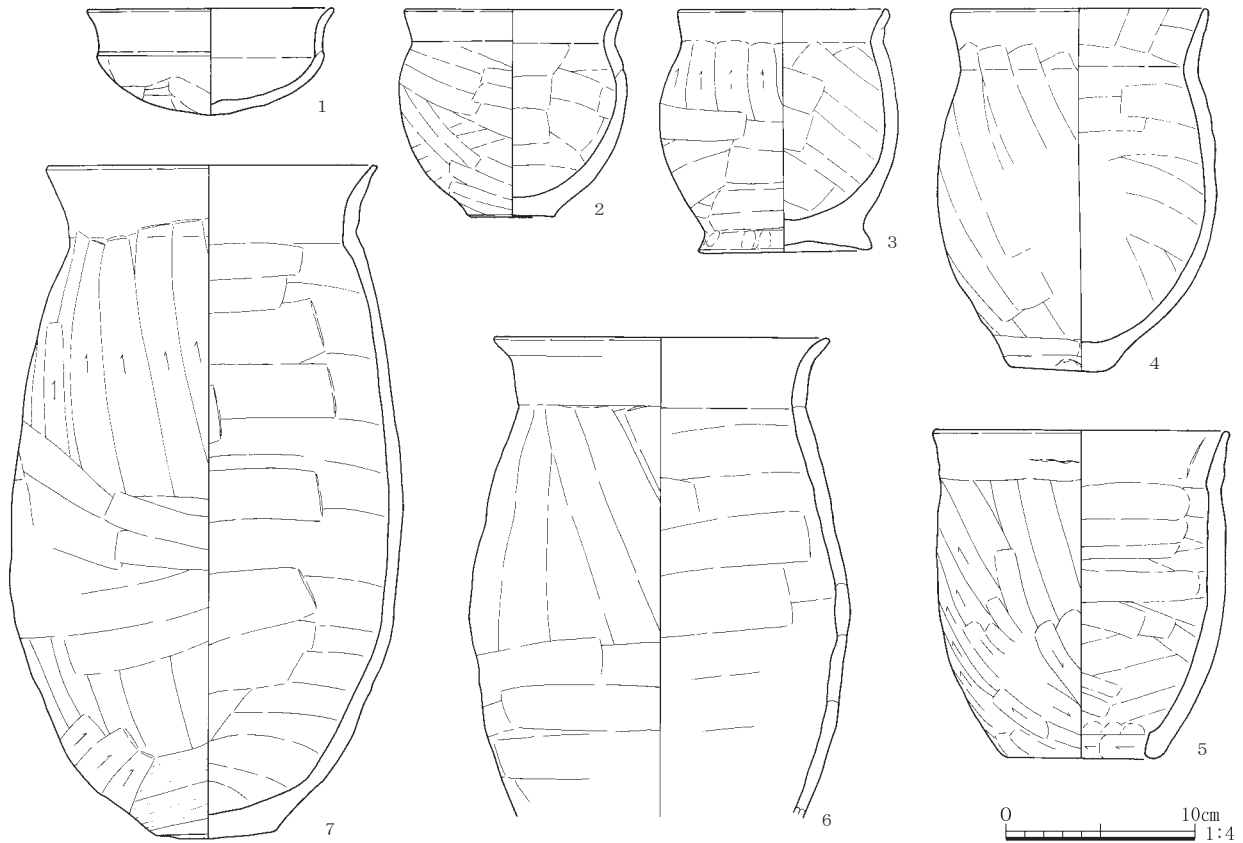
1	小形甕	A. 口径(13.8)。底径3.1。器高11.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部上半ヨコナデ。胴部下半ナメケズリ～ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一にぶい赤褐色。外一橙色。F. 2/3。G. 内面胴部にヨゴレ。H. 覆土。
2	小形甕	A. 口径(13.9)。底径6.3。器高11.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部中位ナメケズリ→下位ナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰黄褐色。F. 1/2。G. 内面底部にヨゴレ。H. 覆土。
3	小形甕	A. 口径16.8。底径6.3。器高17.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデ・ケズリ。D. 片岩・石英。E. 内一橙色。外一にぶい黄褐色。F. 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	甕	A. 口径(18.0)。底径6.0。器高31.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデだが、摩滅。D. 石英・片岩・石英。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 内面胴部下位～底部にヨゴレ。H. 覆土。

20号住居跡 (第38・39図、図版6・53)

位置：B地点の北、調査区西壁沿いに位置している。住居の3分の2は調査区外となる。形態：平面形は方形であろう。主軸方位：N-68.5°-E。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖で、燃燒部は住居内となる。貯蔵穴：カマドに向かって左に配される。半分は調査区外となる。柱穴：1本検出される。深さ64cmとしっかりとした掘り込みを有する。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマド周辺とP1周辺からまとまって出土している。時期：古墳時代後期。



第38図 20号住居跡



第39図 20号住居跡 出土遺物

20号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(13.0)。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・雲母。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
2	小形甕	A. 口径(11.6)。底径4.6。器高11.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい橙色。F. 2/3。G. 内面スス附着。H. 覆土。
3	小形甕	A. 口径11.3。底径9.2。器高12.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下半ヨコナデ、下位ユビオサエ。底部ケズリ・ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一にぶい赤褐色。外一明赤褐色。F. 4/5。G. 内面ヨゴレ。外面二次被熱。H. 覆土。
4	小形甕	A. 口径13.6。底径5.2。器高19.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメナデ→下位ヨコナデ。底部ケズリ→ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい橙色。F. 1/3。G. 内面底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	小形甕	A. 口径(15.7)。底径8.1。器高17.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメナデケズリ・ナデ内面、ヨコナデ。底部ケズリ。D. 片岩・石英。E. 内一橙色。外一にぶい橙色。F. 1/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	甕	A. 口径17.9。残存高25.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下半ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・雲母。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部2/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。内面胴部上位以上にヨゴレ。H. 覆土。
7	甕	A. 口径17.6。底径6.4。器高35.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ヨコナデ・下位ナメケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面、胴部下位にスス附着。H. 覆土。

21号住居跡(第40・41図、図版6・52・54)

位置：B地点の北東に位置する。削平をうけて、掘り方のみ残存していた住居である。22号住居跡、23号住居跡と重複し、前者より古く、後方より新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-9°-W。規模：長軸5.41m、短軸5.25m。貯蔵穴：南東コーナーにある楕円形のピットが貯蔵穴だと思われる。柱穴：6本確認される。P6～9は主柱穴で、P10は出入り口の可能性もある。

埋没状況：ロームブロックを含む覆土で埋没している。遺物：貯蔵穴内から土師器が集中して出土する。時期：古墳時代後期。

22号住居跡（第40・41図、図版7・54）

位置：B地点の北東に位置し、床面以上は削平され、掘り方が残存していた住居である。21号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は方形であろう。主軸方位：N-15°-E。規模：長軸6.30m。貯蔵穴：南壁沿いの楕円形のピットが貯蔵穴である。柱穴：7本検出され、P1～4が主柱穴の可能性が高い。埋没状況：ロームブロックを含む覆土で埋没している。遺物：貯蔵穴内から土師器が多数出土している。時期：古墳時代後期。

23号住居跡（第40図、図版6）

位置：B地点の北東に位置している。21号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：不明。長軸2.39m、短軸2.32m。埋没状況：単一土で埋没している。時期：古墳時代後期か。

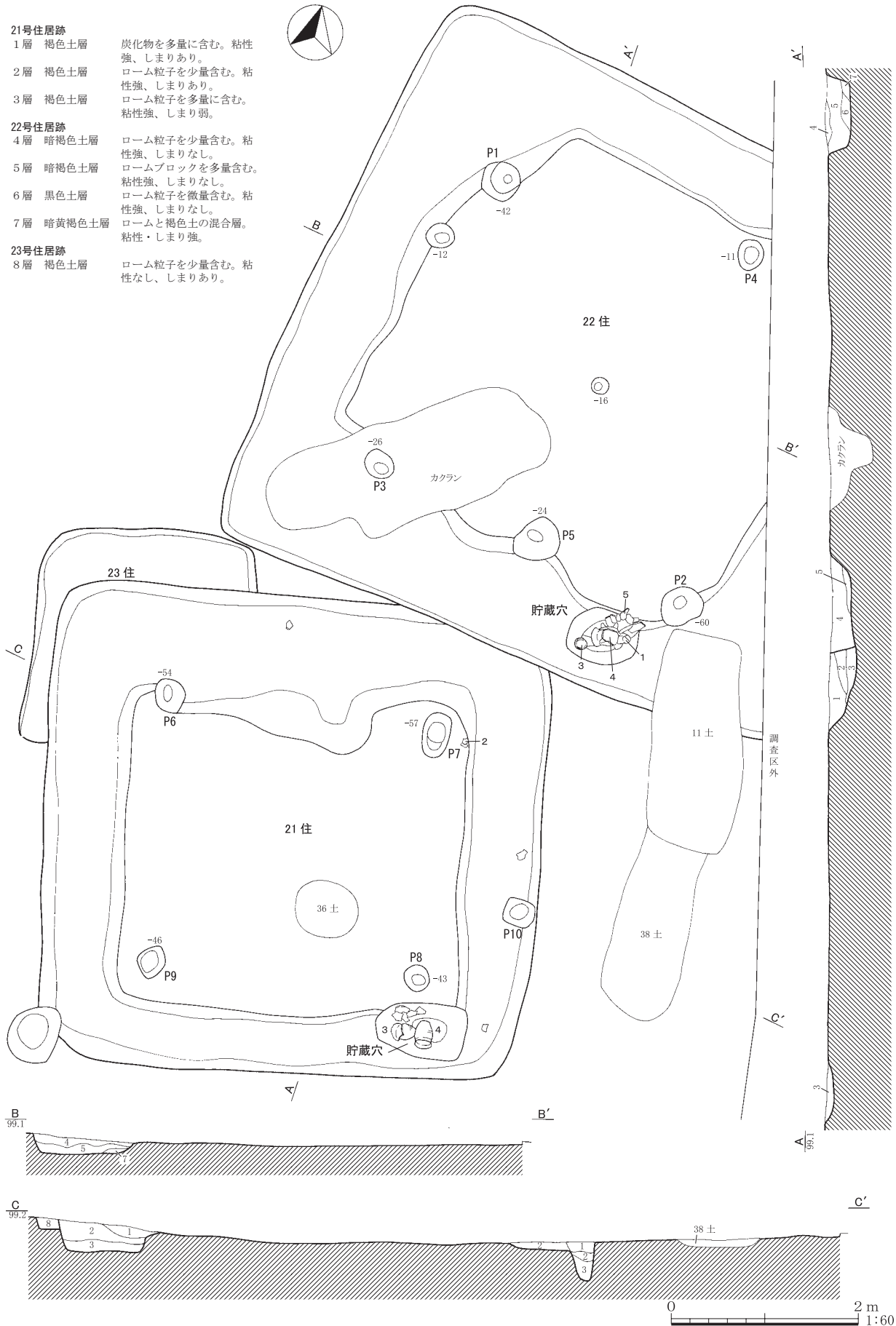
21号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(14.1)。残存高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・雲母。E. 内-にぶい赤褐色。外-にぶい黄褐色。F. 1/5。G. 外面口縁部にスス附着。H. 覆土。
2	高坏	A. 底径(8.9)。残存高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、体部ナデ。脚部ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 脚部2/3。H. 覆土。
3	甕	A. 口径17.8。底径5.8。器高30.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外-にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部上位に焼成時の黒斑あり。内面口縁部にスス附着。H. 貯蔵穴。
4	甕	A. 口径18.1。底径7.2。器高32.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・雲母・片岩。E. 内-にぶい黄褐色。外-赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内面胴部に焼成時の黒斑あり。外面胴部にスス附着。H. 貯蔵穴。

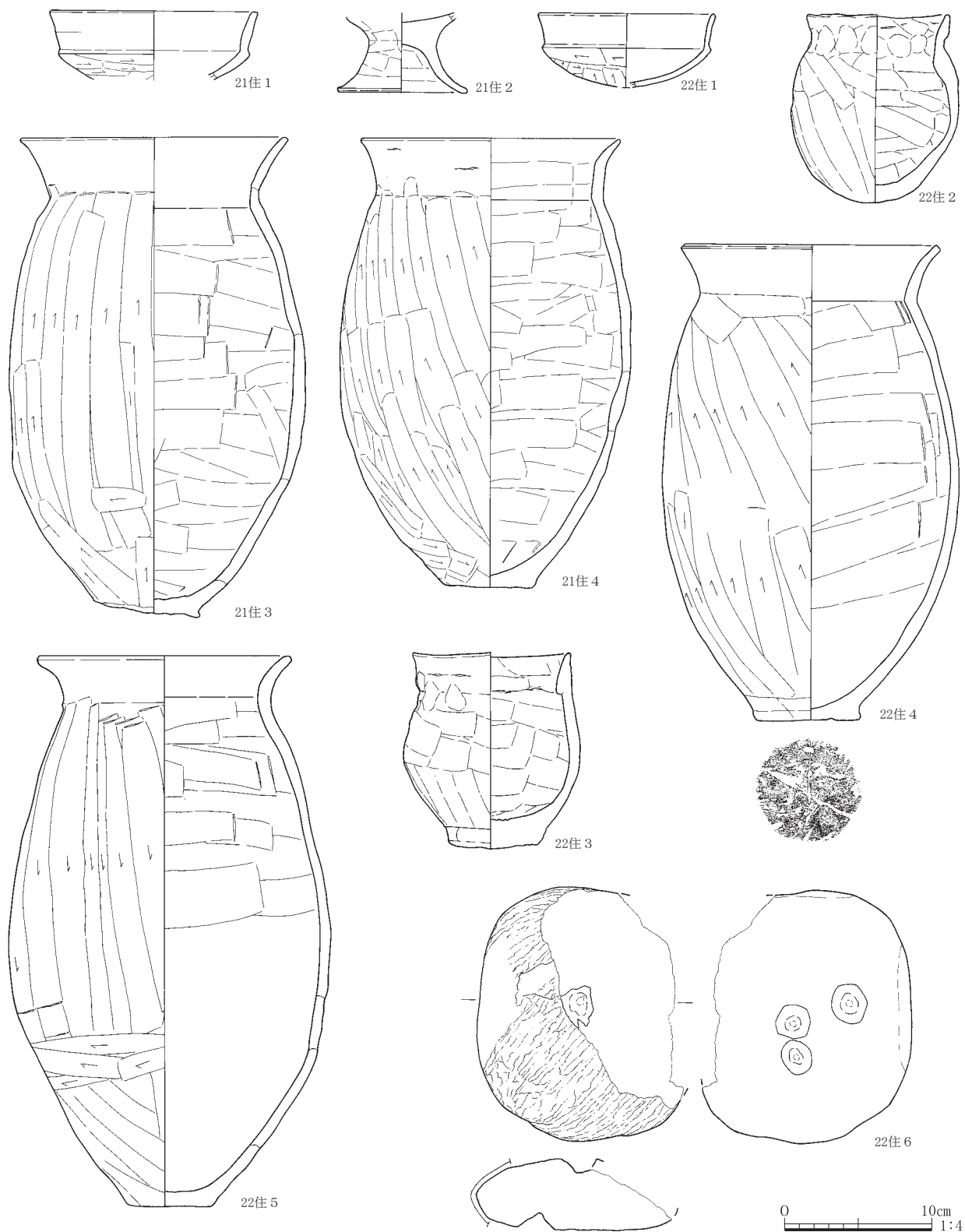
22号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.1)。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 1/3。H. 貯蔵穴。
2	小形甕	A. 口径9.6。器高12.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ→頸部ユビオサエ。胴部タテナデ。内面、口縁部ヨコナデ→頸部ユビオサエ。体部ヨコ～ナナメケズリ。D. 片岩・石英・雲母。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい褐色。F. 完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。二次被熱。H. 貯蔵穴。
3	小形甕	A. 口径13.0。底径5.9。器高13.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。頸部ユビオサエ。胴部タテナデ→上半・下位ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内-灰黄褐色。外-にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面二次被熱。内面、胴部上半にヨゴレ。H. 貯蔵穴。
4	甕	A. 口径17.6。底径7.2。器高32.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテ～ナナメケズリ→下位ヨコナデ。底部木葉痕。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 外面胴部二次被熱・粘土附着。H. 貯蔵穴。
5	甕	A. 口径17.2。底径5.7。器高37.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ヨコケズリ。下位ナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑・二次被熱。内面胴部中位帯状にヨゴレ。H. 貯蔵穴。
6	多孔石	A. 長17.3。幅14.1。厚4.8。重1630。D. 結晶片岩。G. 全体的に摩耗するが、裏面が顕著。H. 貯蔵穴。

- 21号住居跡
- 1層 褐色土層 炭化物を多量に含む。粘性強、しまりあり。
 - 2層 褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性強、しまりあり。
 - 3層 褐色土層 ローム粒子を多量に含む。粘性強、しまり弱。
- 22号住居跡
- 4層 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性強、しまりなし。
 - 5層 暗褐色土層 ロームブロックを多量含む。粘性強、しまりなし。
 - 6層 黒色土層 ローム粒子を微量含む。粘性強、しまりなし。
 - 7層 暗黄褐色土層 ロームと褐色土の混合層。粘性・しまり強。
- 23号住居跡
- 8層 褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。



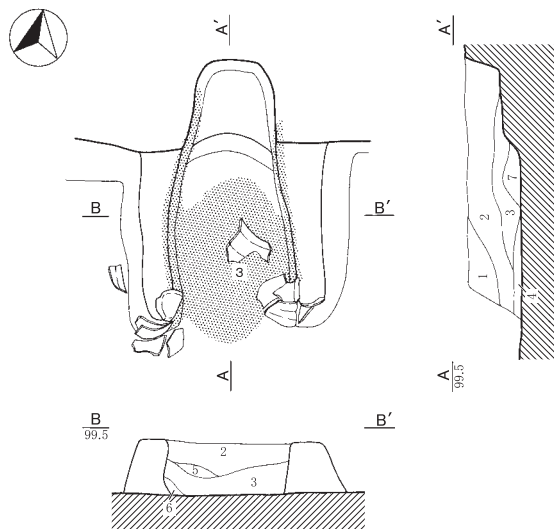
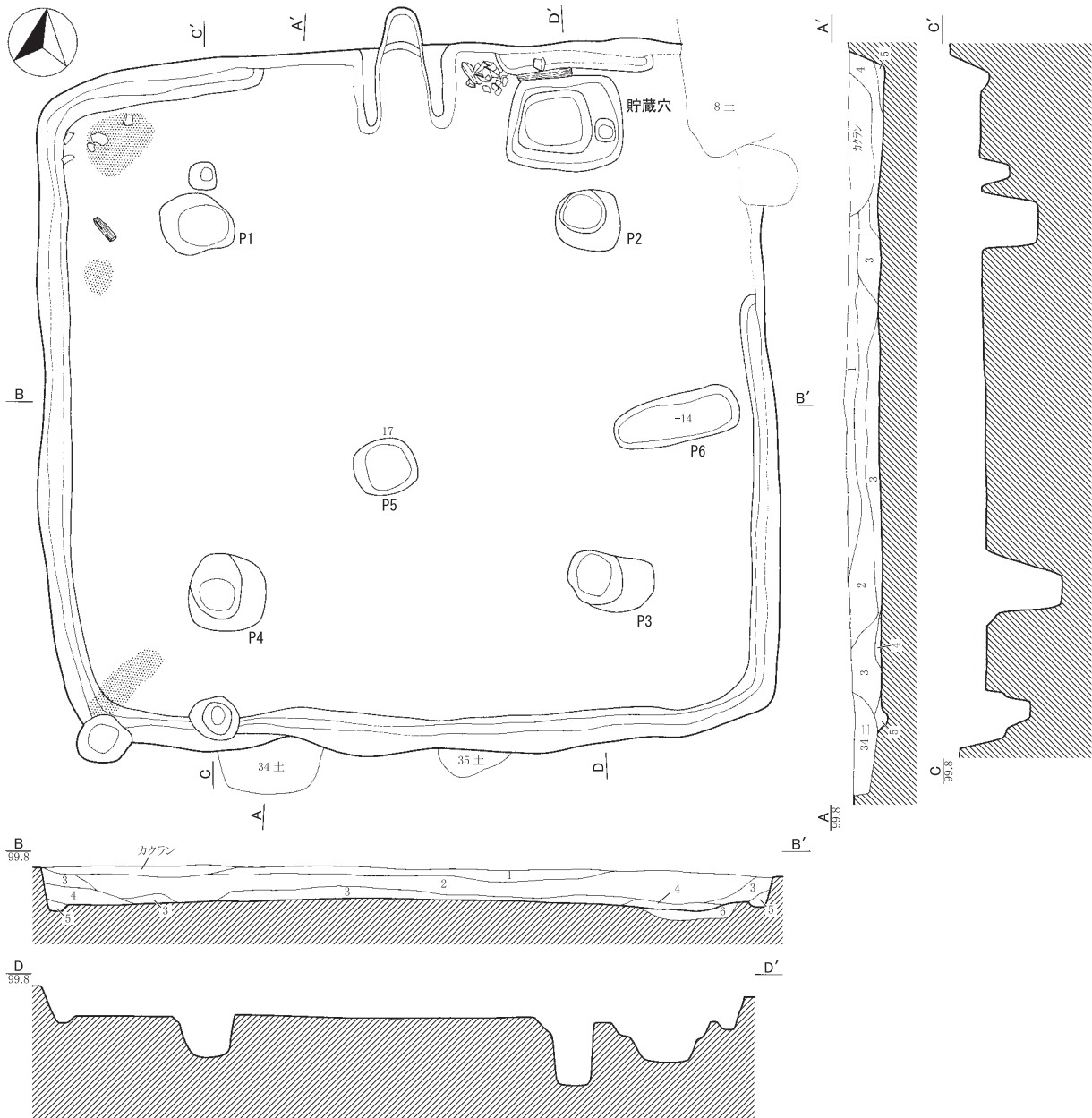
第40図 21号・22号・23号住居跡



第41図 21号・22号住居跡 出土遺物

24号住居跡 (第42・43図、図版7・54)

位置：B地点の北に位置している。26号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-6°-W。規模：長軸6.44m、短軸6.12m。カマド：北壁に付設される。袖は付け袖で、片岩と甕を用いて構築されている。住居外にのびる煙道を確認した。貯蔵穴：カマドに向



24号住居跡

- 1層 暗茶褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりなし。
- 2層 暗茶褐色土層 ロームブロックを少量、炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 4層 黒褐色土層 焼土粒子・白色粘土粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 5層 暗茶褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 6層 暗黄褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性・しまりなし。

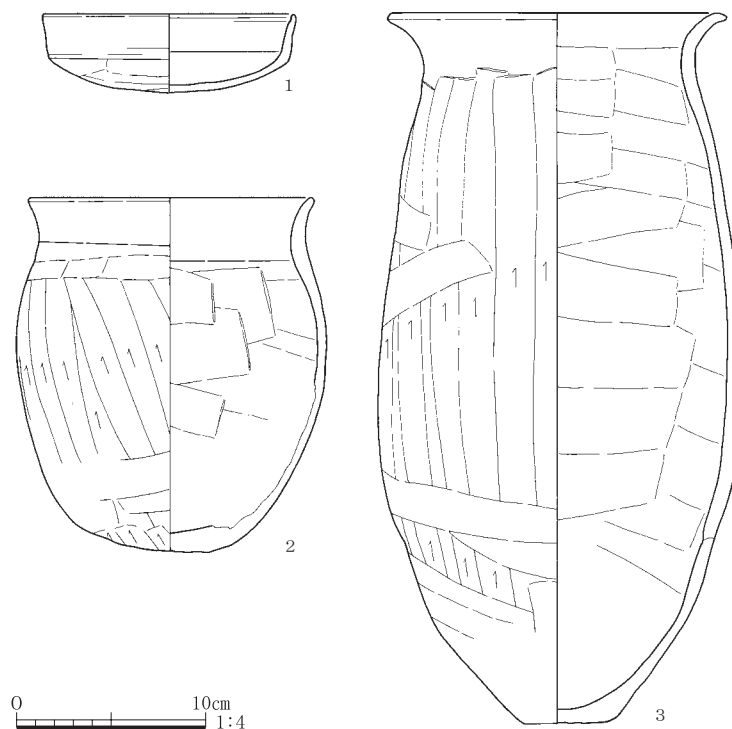
24号住居跡 カマド

- 1層 茶褐色土層 ローム粒子(φ1~2mm)を中量、焼土粒子(φ1mm)を微量含む。粘性なし、しまりやや強。
- 2層 暗茶褐色土層 焼土粒子(φ1~3mm)を中量、ローム粒子(φ1~2mm)・炭化物粒子(φ1~2mm)を少量含む。粘性・しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 焼土粒子(φ1~3mm)を多量、炭化物粒子(φ1mm)を微量含む。粘性あり、しまりややなし。天井崩落土か?
- 4層 赤褐色土層 ローム粒子(φ1~3mm)と炭化物粒子(φ1~3mm)の混合層。粘性あり、しまりややなし。
- 5層 暗茶褐色土層 焼土粒子(φ1~3mm)を少量、ローム粒子(φ1~2mm)・炭化物粒子(φ1~2mm)を微量含む。粘性・しまりあり。
- 6層 灰褐色土層 ローム粒子(φ1mm)を中量、焼土粒子(φ1~2mm)を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 7層 赤褐色土層 焼土粒子(φ1~3mm)を多量、炭化物粒子(φ1mm)を微量、ロームブロック(φ30mm)・粘土ブロック(φ50mm)含む。粘性あり、しまりややなし。



第42図 24号住居跡

かって右側に位置し、長方形を呈する。深さ約5cmのテラスを持ち、そこからさらに20cm下がる。柱穴：8本のピットが確認され、P1～4が支柱穴であろう。周溝：北東コーナー以外は全周する。深さ約10cmを測るしっかりとした掘り込みである。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマド脇からまとまった土器の出土が見られる。時期：古墳時代後期。



第43図 24号住居跡 出土遺物

24号住居跡 出土遺物観察表

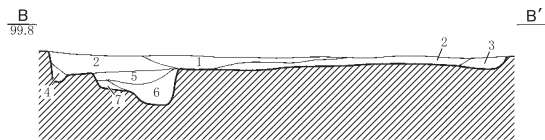
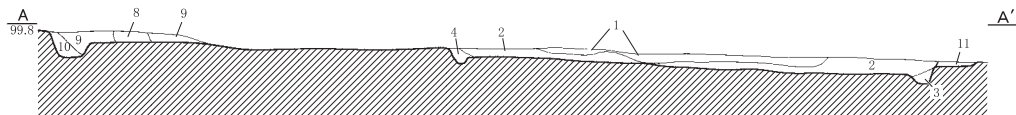
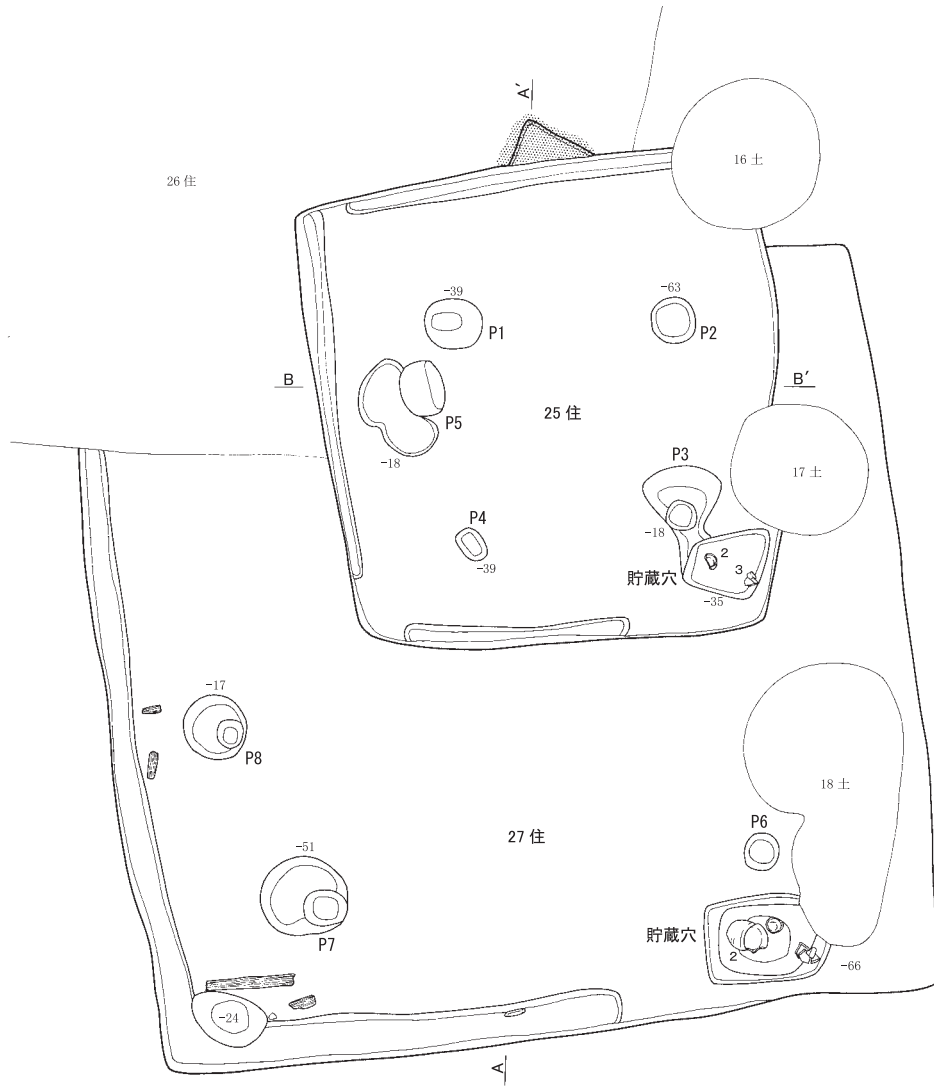
1	坏	A. 口径13.5。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
2	小形甕	A. 口径15.2。器高18.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。胴部下半は器面剥落。D. 角閃石・白色粒子・片岩。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部上位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	甕	A. 口径17.9。底径4.4。器高37.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→一部ヨコナデ。底部ケズリ→ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。片岩は粒子が大きい。E. 内外-橙色。F. 4/5。H. カマド。

25号住居跡（第44・45図、図版7・54）

位置：B地点の北側に位置している。27号・26号住居跡と重複し、前者より新しく、後者との新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-24°-W。規模：長軸3.80m、短軸3.65m。貯蔵穴：南東コーナー付近にある不整形のピット貯蔵穴であろう。柱穴：5本確認され、P5以外が支柱穴である。周溝：東壁・南東コーナー以外の部分で確認された。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：貯蔵穴から出土している。時期：古墳時代後期。

27号住居跡（第44・45図、図版7・8・55）

位置：B地点の北側に位置している。25号住居跡・26号住居跡と重複し、前者より古く、後者との新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-24°-E。規模：長軸6.36m、短軸5.95m。カマド：北壁に付設される。燃烧部・袖等は25号住居跡に破壊され、被熱した煙道が検出された。貯蔵穴：南東コーナー部分にある。テラスを持つ長方形のピットが貯蔵穴だと思われる。柱穴：4本確認された。P6と7は支柱穴であろう。周溝：西壁から南壁中央まで確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：貯蔵穴内より土器が出土している。時期：古墳時代後期。

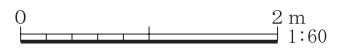


25号住居跡

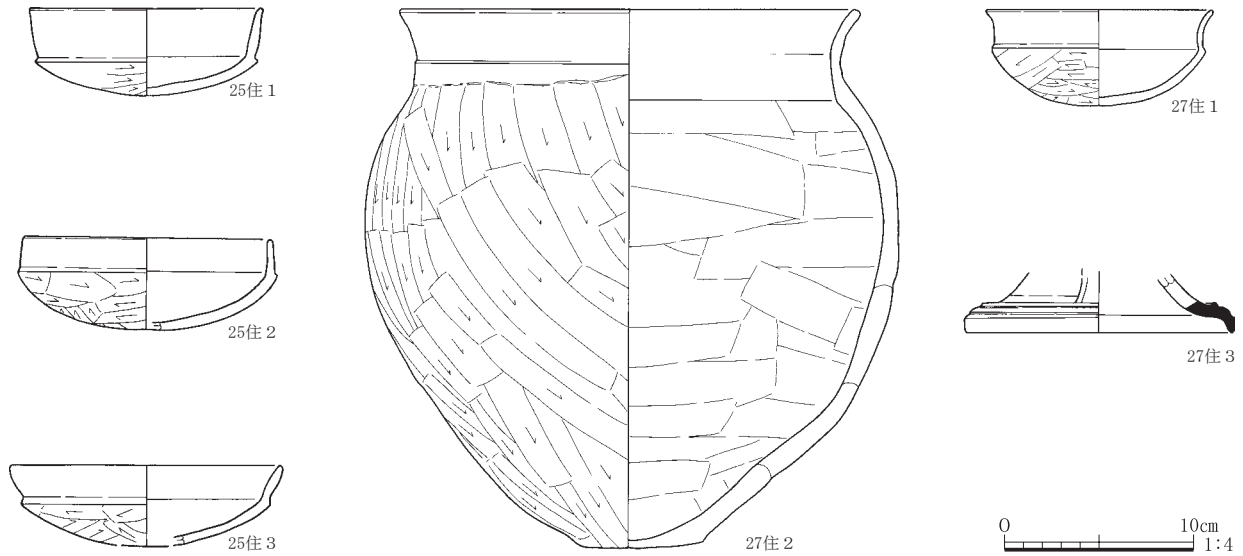
- 1層 黒褐色土層 炭化物粒子を中量含む。粘性・しまりなし。
- 2層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 3層 淡褐色土層 淡褐色粘土ブロック・焼土ブロック・炭化物を中量含む。粘性・しまりなし。
- 4層 暗褐色土層 ローム粒子を中量含む。粘性・しまりなし。
- 5層 暗褐色土層 ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 6層 暗褐色土層 ローム粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 7層 暗褐色土層 淡褐色粘土ブロック・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりなし。

27号住居跡

- 8層 淡灰褐色土層 淡褐色粘土ブロックを中量含む。粘性・しまりなし。
- 9層 暗褐色土層 ローム粒子を中量含む。粘性・しまりなし。
- 10層 暗褐色土層 ローム粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 11層 暗褐色土層 焼土粒子を中量含む。粘性・しまりなし。



第44図 25号・27号住居跡



第45図 25号・27号住居跡 出土遺物

25号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.3)。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(13.2)。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい黄橙色。F. 1/2。G. 外面口縁部、内面に黒色処理。H. 貯蔵穴。
3	坏	A. 口径(14.4)。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内-橙色。外-灰色-にぶい橙色。F. 1/3。G. 外面体部に黒色処理。H. 貯蔵穴。

27号住居跡 出土遺物観察表

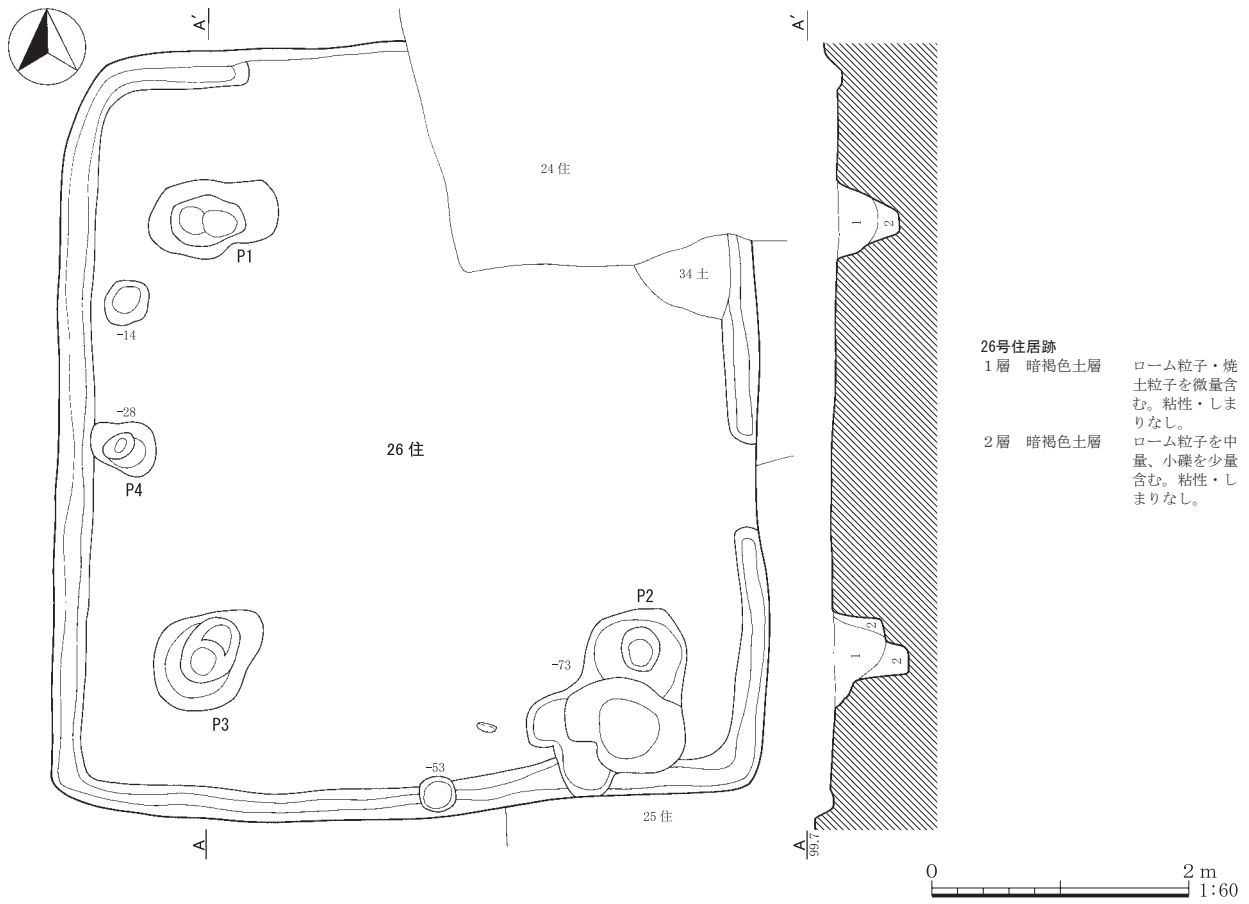
1	坏	A. 口径12.1。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	壺	A. 口径24.5。底径6.5。器高28.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテ~ナナメケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部にスス附着。H. 貯蔵穴。
3	須恵器 高坏	A. 底径(14.1)。残存高3.1。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ。3方向に長方形透。内面、回転ナデ。D. 片岩。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 藤岡産。外面に黒色付着物あり。H. 覆土。

26号住居跡 (第46図、図版7)

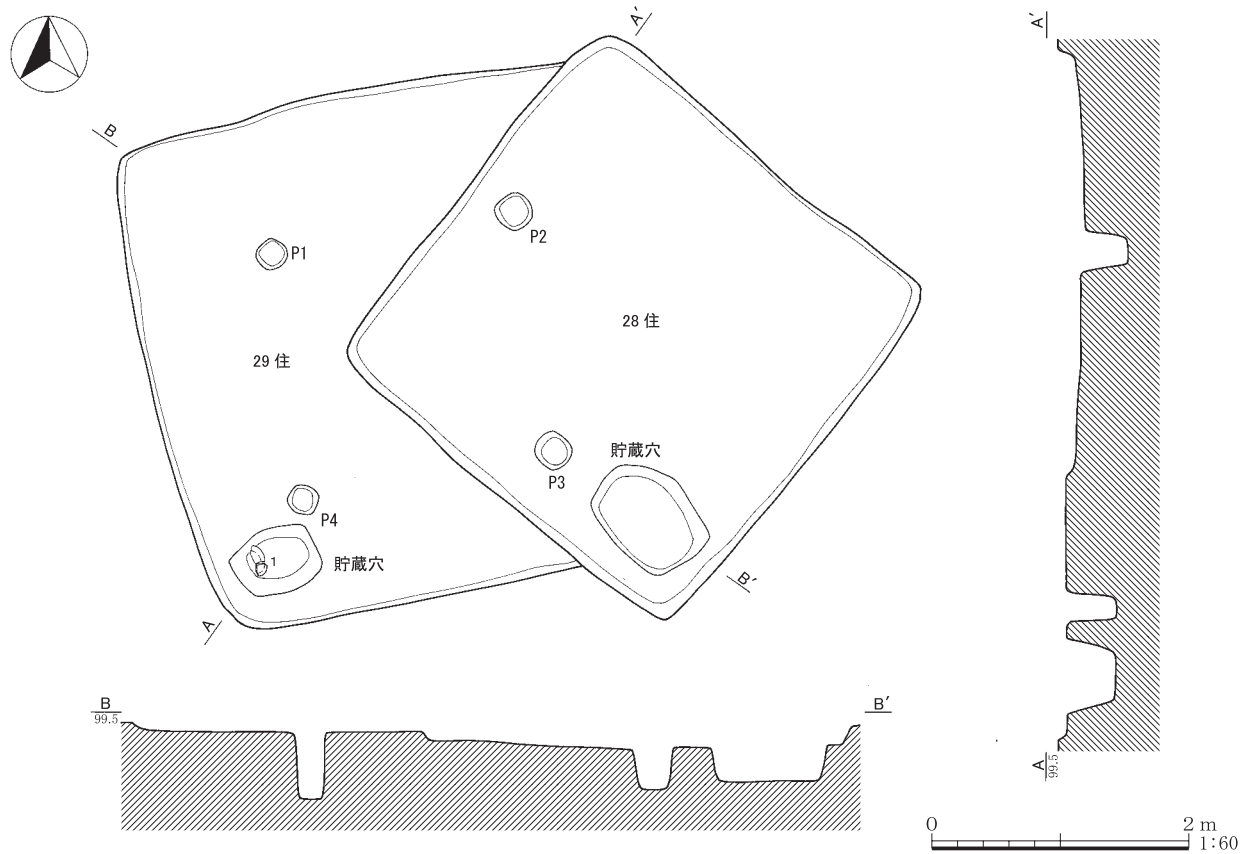
位置：B地点の北側に位置している。24号住居跡より古い。25号住居跡・27号住居跡とも重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-2°-E。規模：長軸6.12m、短軸5.50m。柱穴：6本確認される。周溝：断続的だが全周している。埋没状況：不明。遺物：覆土から土器片が出土している。時期：古墳時代後期。

28号住居跡 (第47・48図、図版8・55)

位置：B地点の北側に位置している。29号住居跡と重複し、新旧関係は不明だが、出土遺物は本遺構の方が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-40°-E。規模：長軸3.43m、短軸3.35m。貯蔵穴：南東隅の楕円形のピットが貯蔵穴である。柱穴：2本確認されるが、本遺構には属さず、重複する29号住居跡のものである。埋没状況：不明。遺物：土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



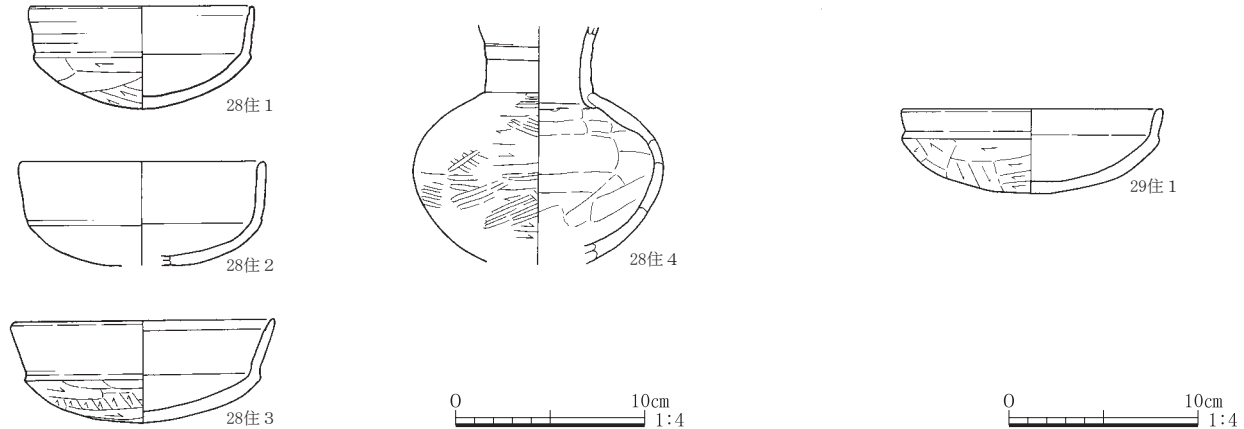
第46図 26号住居跡



第47図 28号・29号住居跡

29号住居跡（第47・49図、図版8・55）

位置：B地点の北側に位置している。28号住居跡と重複し、新旧関係は不明だが、出土遺物は本遺構の方が新しい。形態：平面形は方形呈する。主軸方位：N-12°-W。規模：長軸4.04m。柱穴：2本確認される。28号住居跡内の2本と併せて4本の主柱穴となる。埋没状況：不明。遺物：貯蔵穴内より土師器が出土している。時期：古墳時代後期。



第48図 28号住居跡 出土遺物

第49図 29号住居跡 出土遺物

28号住居跡 出土遺物観察表

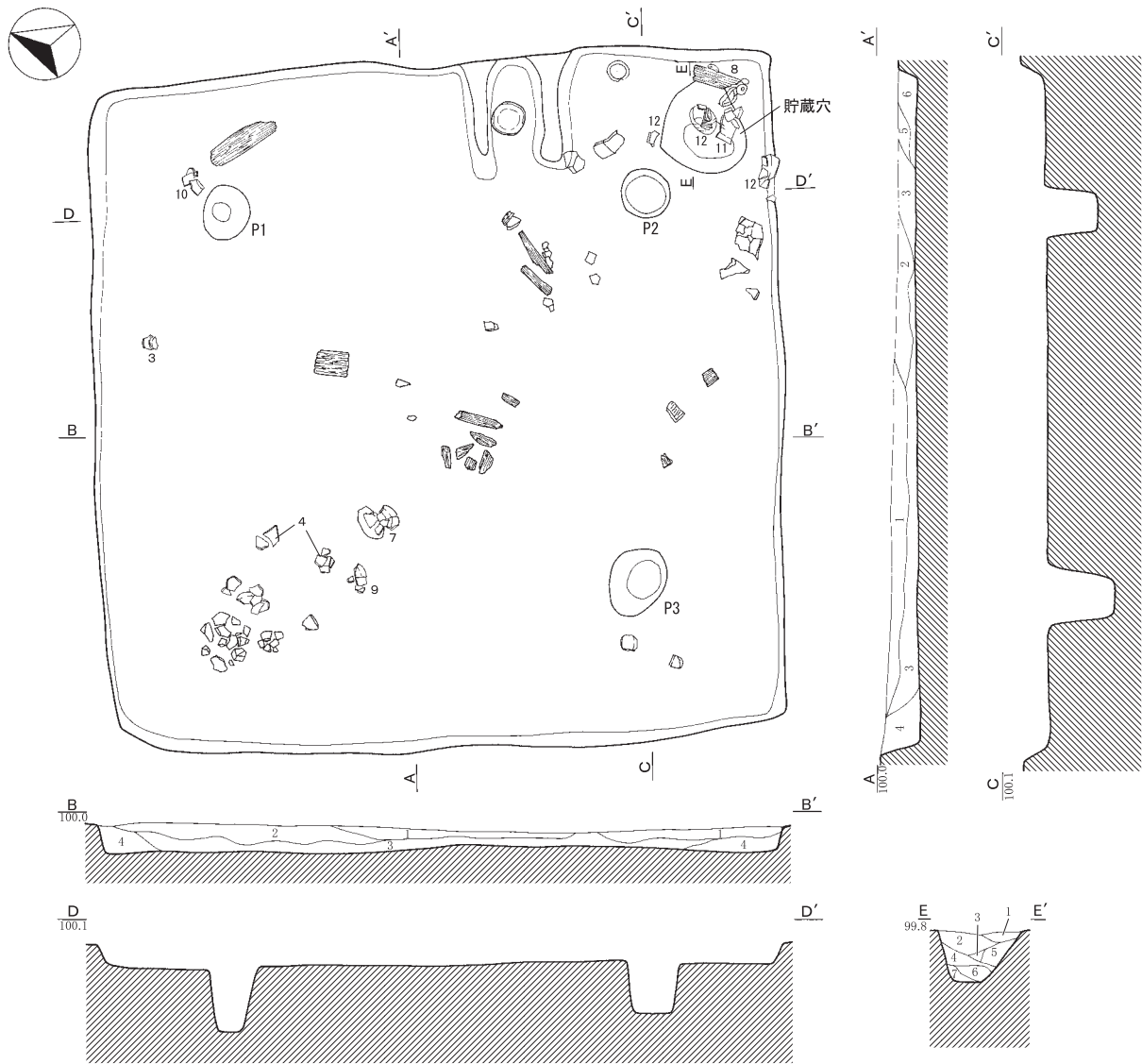
1	坏	A. 口径12.0。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 1/3。H. 覆土。
2	坏	A. 口径13.0。器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、摩滅により調整不明。D. 雲母。E. 内外-橙色。F. 2/3。H. 覆土。
3	坏	A. 口径13.9。残存高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-灰色。F. 1/2。G. 内外面、黒色処理。H. 覆土。
4	罎	A. 残存高12.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、頸部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ→ヨコミガキ。内面、頸部ヨコナデ。胴部ユビオサエ→ヨコナデ。D. 石英。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 1/4。H. 覆土。

29号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径13.8。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・雲母。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 内面体部にタール状の付着物あり。H. 貯蔵穴。
---	---	---

30号住居跡（第50・51図、図版8・55）

位置：B地点北側にて、単独で検出された。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-71.5°-E。規模：長軸5.80m、短軸5.74m。カマド：東壁に付設される。燃烧部は住居内に構築され、中央から正位の甕が出土している。袖は灰白色粘土を用いた付け袖である。貯蔵穴：カマドに向かって右側にある不整形のピットが貯蔵穴だと思われる。上面より、板状の炭化材が出土しており、木製の蓋を想起させる。柱穴：3本確認され、いずれも主柱穴だと思われる。埋没状況：自然埋没であるが、覆土に焼土・炭化物を多く含み、床面直上から炭化材が検出されることから焼失住居跡の可能性が高い。遺物：全体的に散在しているが、貯蔵穴のある南東コーナー部分と、北西コーナー部分に集中する傾向がある。時期：古墳時代後期。



30号住居跡

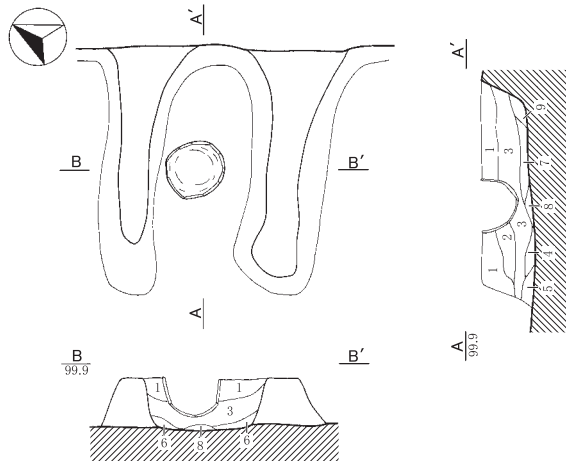
- 1層 灰褐色土層 小礫を多量、白色粒子・白色ブロック(φ~4mm)を少量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまり強。
- 2層 褐色土層 ローム粒子・白色粒子を微量含む。粘性・しまり強。
- 3層 炭化物層 炭化物主体層。ローム粒子・焼土粒子(φ~8mm)、白色粒子を微量含む。粘性・しまり強。
- 4層 明褐色土層 ローム粒子を少量、白色粒子を微量含む。粘性・しまり強。
- 5層 黒褐色土層 焼土粒子・小礫を少量含む。粘性・しまり強。
- 6層 黒褐色土層 ローム粒子・小礫を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまり強。

30号住居跡 貯蔵穴

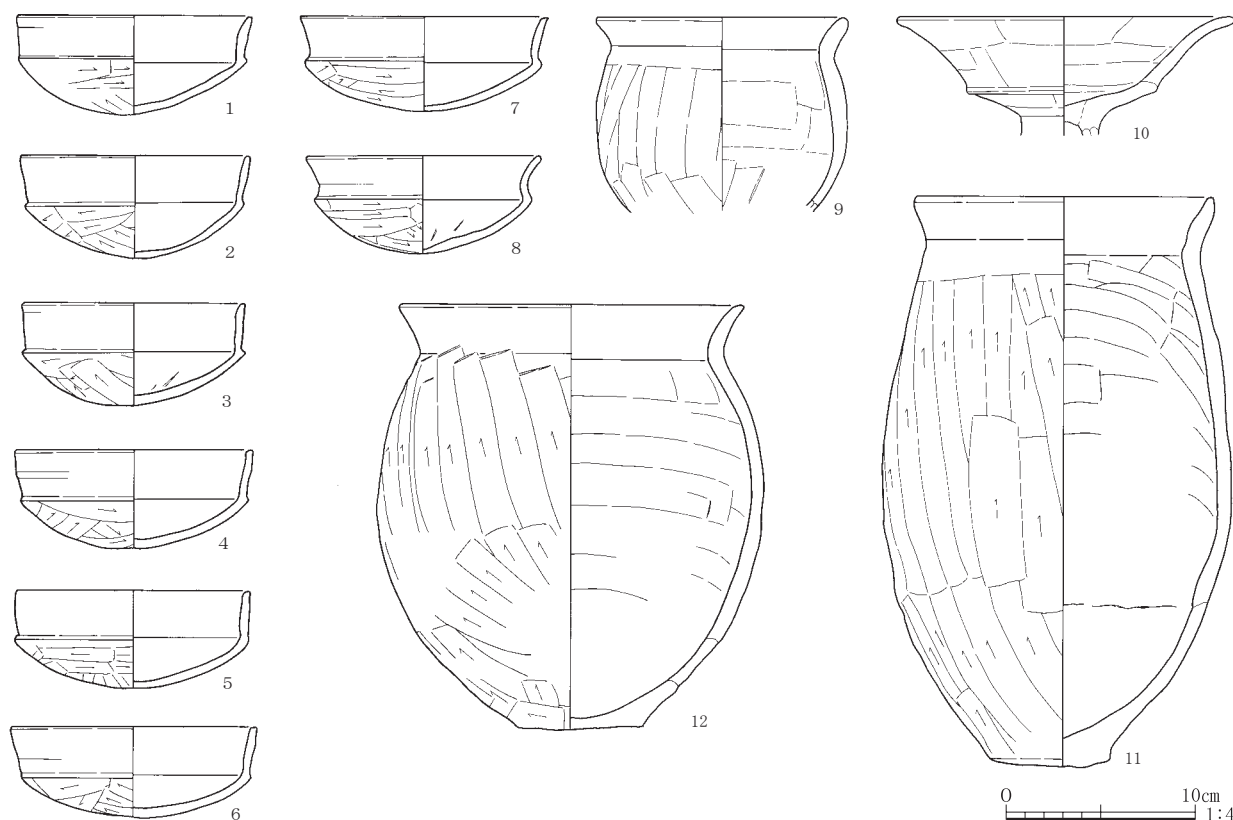
- 1層 明黄茶褐色土層 炭化物(φ8mm)を少量、焼土粒子(φ2~3mm)を微量、ロームブロック(φ12mm)を含む。粘性あり、しまりなし。
- 2層 明黄褐色土層 ローム粒子主体層。焼土粒子(φ1~2mm)を微量含む。粘性あり、しまりなし。
- 3層 明黄褐色土層 ローム粒子主体層。焼土粒子(φ3mm)を微量含む。粘性あり、しまりなし。
- 4層 黒褐色土層 炭化物主体層。ローム粒子(φ3~5mm)を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 5層 黒褐色土層 炭化物主体層。焼土ブロック(φ30~70mm)を中量、ローム粒子(φ3~5mm)・炭化物を微量含む。粘性・しまりなし。
- 6層 明黒褐色土層 炭化物粒子を多量、ローム粒子(φ3~4mm)・焼土粒子(φ1~2mm)を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 7層 明黄茶褐色土層 ローム粒子(φ1~2mm)、炭化物粒子・焼土粒子を多量に含む。粘性・しまり弱。

30号住居跡 カマド

- 1層 黄茶褐色土層 焼土粒子(φ1~15mm)を中量含む。粘性なし、しまり強。
- 2層 赤褐色土層 焼土ブロックを含む。粘性・しまりややなし。
- 3層 暗赤褐色土層 焼土粒子(φ1~10mm)を中量含む。粘性やや強、しまりなし。
- 4層 橙茶褐色土層 焼土ブロックを含む。粘性・しまりなし。
- 5層 暗茶褐色土層 粘性・しまりなし。
- 6層 明黄茶褐色土層 ローム主体層。焼土ブロック(φ10~30mm)を少量含む。粘性なし、しまり強。
- 7層 茶褐色土層 焼土粒子(φ5~40mm)を少量含む。粘性強、しまりややなし。
- 8層 暗茶褐色土層 小礫を少量含む。粘性強、しまりやや弱。
- 9層 明黄褐色土層 ロームブロックを含む。粘性なし、しまりやや強。



第50図 30号住居跡



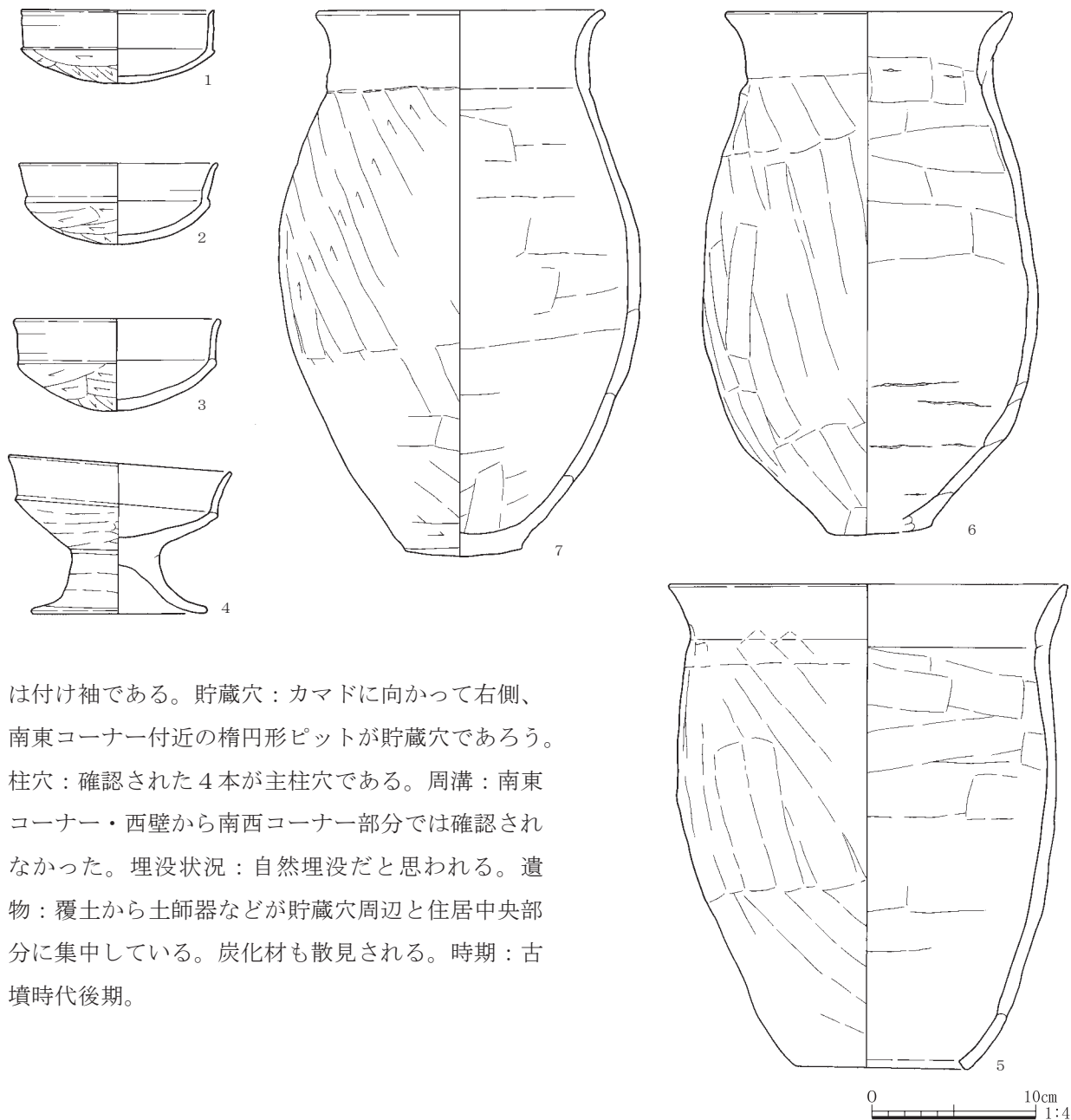
第51図 30号住居跡 出土遺物

30号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 12.9。器高 5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/3。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 12.1。器高 5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内外一にぶい橙色。F. 4/5。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 11.8。器高 5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい橙色・黄灰色。F. 3/4。G. 内外面、焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	坏	A. 口径 12.6。器高 5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土。
5	坏	A. 口径 12.3。器高 5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 外面体部にスス附着。H. 覆土。
6	坏	A. 口径 12.9。器高 4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	坏	A. 口径 (13.0)。器高 5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい橙色・褐灰色。F. 2/3。G. 外面口縁部・内面に黒色処理。H. 覆土。
8	坏	A. 口径 (12.4)。器高 5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・白色粒子。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 2/3。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
9	小形甕	A. 口径 13.4。残存高 10.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部～胴部 1/4。G. 内面に焼成時の黒斑あり。外面二次被熱。H. 覆土。
10	高坏	A. 口径 17.8。残存高 6.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 体部ほぼ完形。G. 外面脚部下半にタール状の附着物あり。H. 覆土。
11	甕	A. 口径 15.8。底径 6.3。器高 30.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ→ナデ。D. 雲母・片岩。E. 内一灰黄褐色。外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
12	甕	A. 口径 18.2。底径 6.6。器高 22.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテケズリ。底部ケズリ→ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面胴部下半にスス附着。H. 覆土・貯蔵穴。

31号住居跡 (第52・53図、図版 8・55・56)

位置：B地点の北側において単独で検出された。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-73°-E。規模：長軸5.02m、短軸4.96m。カマド：東壁に付設される。燃烧部は住居外にやや延び、袖

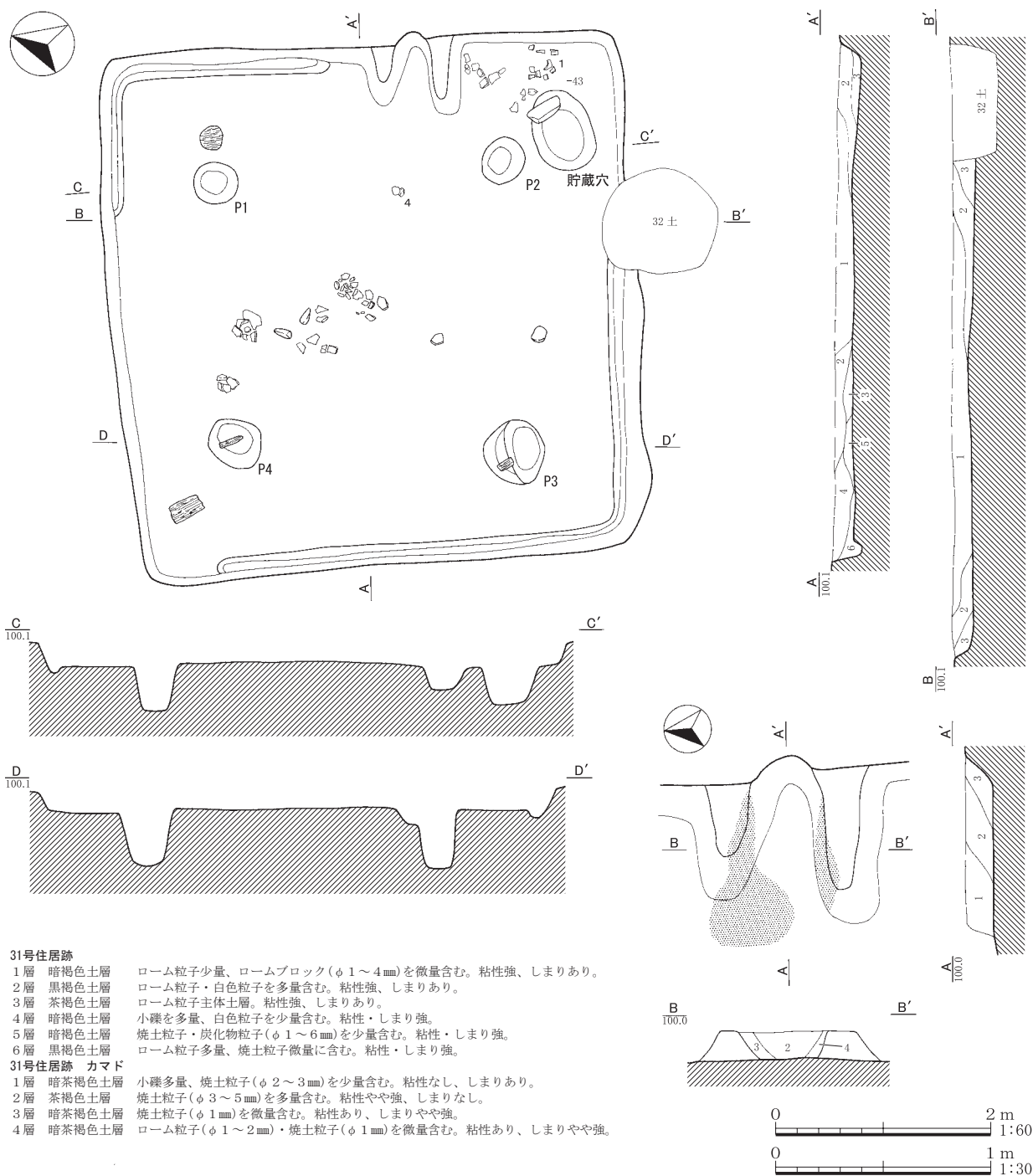


は付け袖である。貯蔵穴：カマドに向かって右側、南東コーナー付近の楕円形ピットが貯蔵穴であろう。柱穴：確認された4本が支柱穴である。周溝：南東コーナー・西壁から南西コーナー部分では確認されなかった。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土から土師器などが貯蔵穴周辺と住居中央部分に集中している。炭化材も散見される。時期：古墳時代後期。

第52図 31号住居跡 出土遺物

31号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(11.8)。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・石英。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。G. 内外面に黒色付着物あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.0。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・石英。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。G. 外面口縁部に黒色付着物あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.6。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 外面底部に焼成時の黒斑あり。H. 柱穴。
4	高坏	A. 口径(13.6)。底径(10.6)。器高(9.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 雲母・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 脚部内面にスス付着。H. 柱穴。
5	大形甔	A. 口径24.2。底径10.3。器高29.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	甔	A. 口径17.5。底径(6.5)。器高31.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/3。H. 覆土。
7	甔	A. 口径17.7。底径7.2。器高33.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデケズリ→下位タテナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 外面二次被熱。H. 覆土。



第53図 31号住居跡

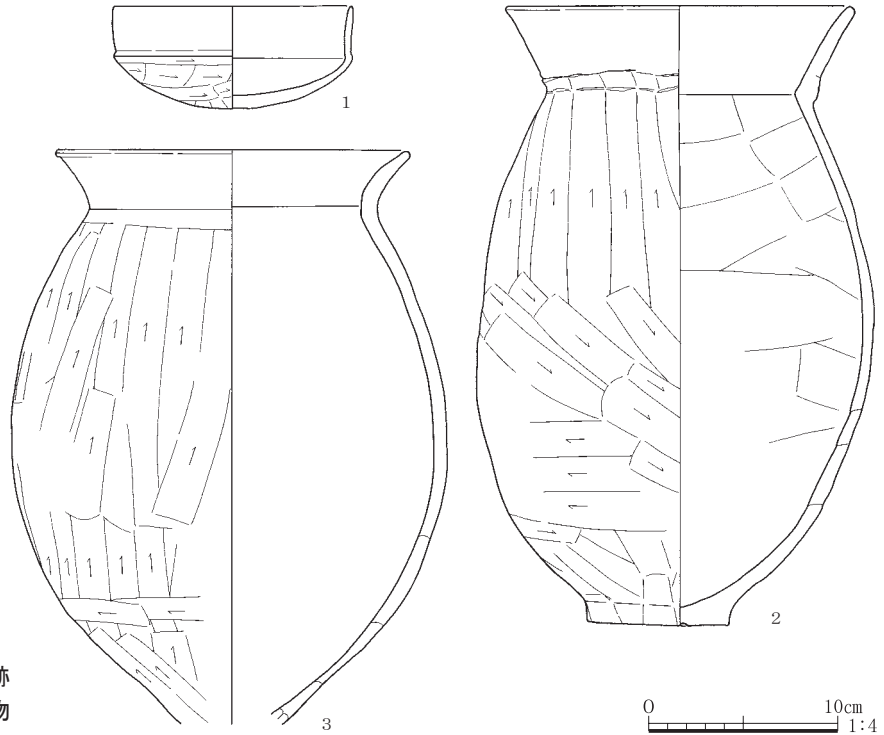
32号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径12.8。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 3/4。H. 貯蔵穴。
2	甕	A. 口径18.4。底径7.5。器高32.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ナナメ~ヨコケズリ。下位ナナメナデ。底部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい黄橙色。F. 4/5。G. 外面胴部中位~底部にスス附着。内面胴部下位~底部にヨゴレ。H. 貯蔵穴。
3	甕	A. 口径18.7。残存高30.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ヨコケズリ。内面、摩滅。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 3/4。G. 外面スス附着。内面胴部にヨゴレ。H. 貯蔵穴。

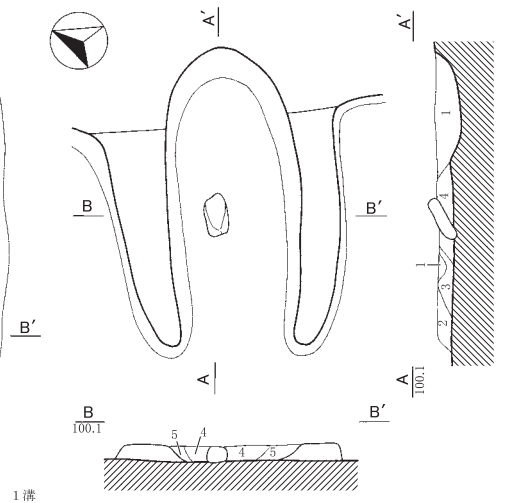
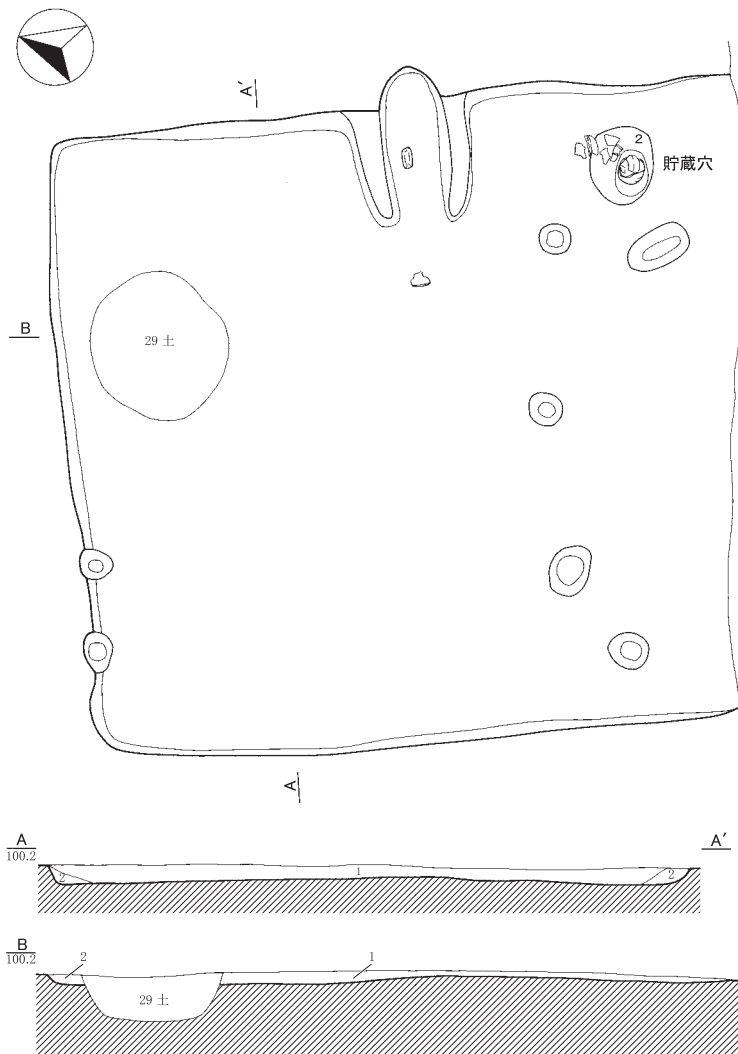
32号住居跡 (第54・55図、図版9・56)

位置：B地点の中央、やや北寄りに位置している。1号溝と重複し、南壁は削平される。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-70° - E。規模：長軸5.08m。カマド：東壁に付設される。燃焼

部中央には、支脚として礫が据えられる。袖は付け袖で、燃烧部は住居外に延びている。貯蔵穴：カマドに向かって右側に円形のピットがある。柱穴：7本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：貯蔵穴内よりほぼ完形の土師器が出土している。時期：古墳時代後期。



第54図 32号住居跡
出土遺物



32号住居跡

1層 黒褐色土層 ロームブロック(φ~6mm)多量、ローム粒子・炭化物粒子(φ~6mm)を少量含む。粘性・しまりあり。小礫を含む。粘性・しまりあり。

32号住居跡 カマド

1層 黒褐色土層 炭化物主体層。焼土粒子を多量含む。粘性なし、しまりあり。

2層 暗褐色土層 粘質土を多量、炭化物・焼土粒子を中量含む。粘性やや強、しまりあり。天井崩落土か。

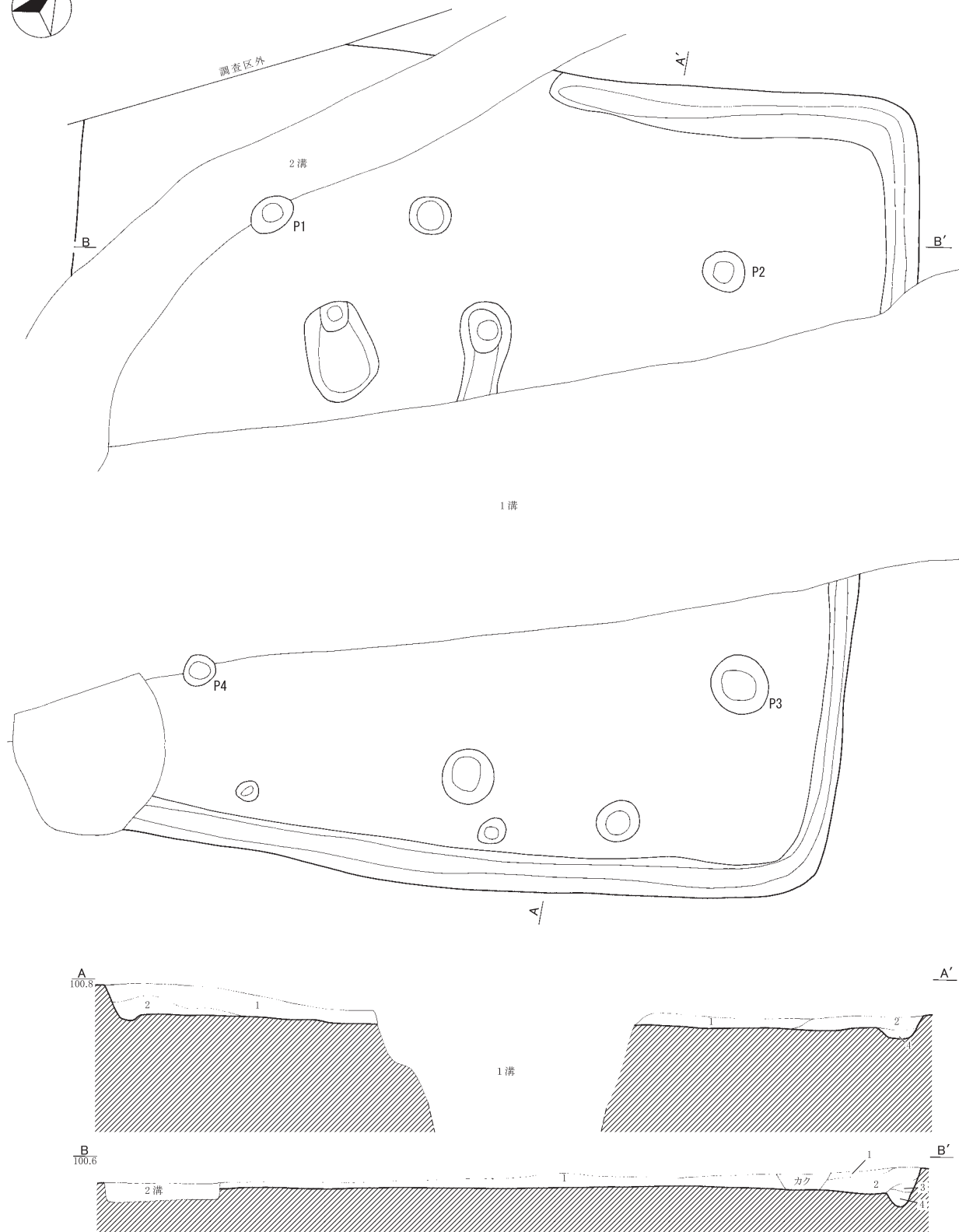
3層 赤褐色土層 焼土主体層。炭化物を少量含む。粘性・しまりなし。

4層 暗褐色土層 粘質土・焼土粒子・炭化物粒子を多量に含む。粘性あり、しまりやや強。

5層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性なし、しまりやや強。



第55図 32号住居跡



35号住居跡

- | | |
|----------|---------------------------------------|
| 1層 黒褐色土層 | ロームブロックを多量、ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりあり。 |
| 2層 黒褐色土層 | 砂礫を含む。粘性・しまりあり。 |
| 3層 灰褐色土層 | ローム粒子を多量、灰ブロックを少量含む。粘性・しまりあり。 |
| 4層 黒褐色土層 | ローム粒子を少量含む。粘性・しまりあり。 |



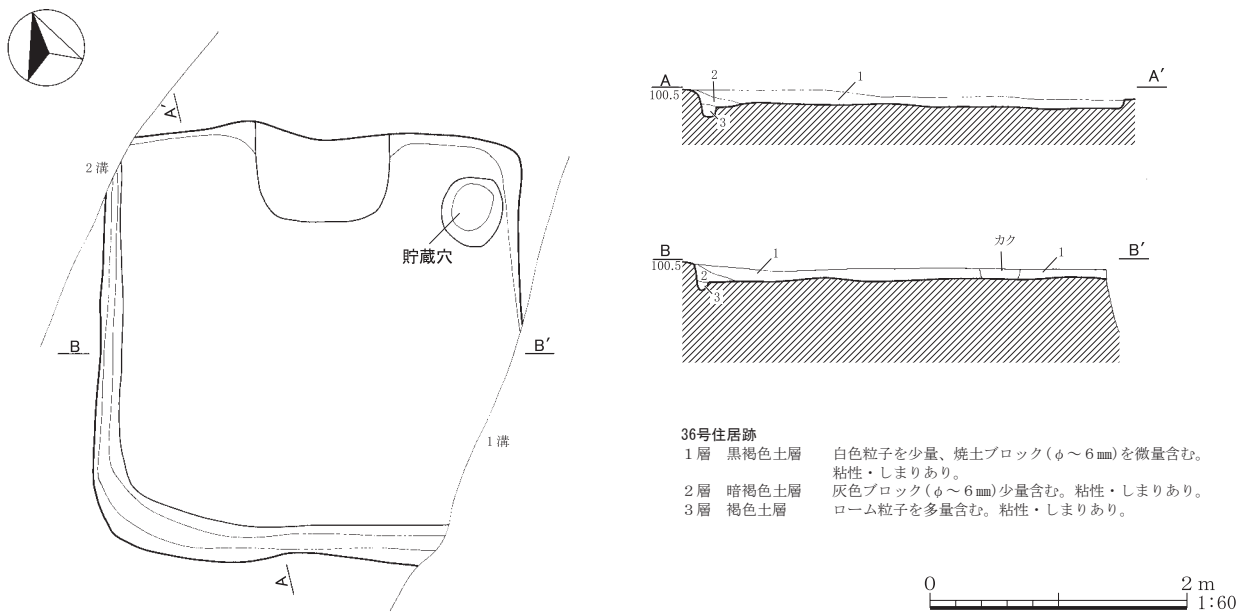
第56図 35号住居跡

35号住居跡（第56・58図、図版9・57）

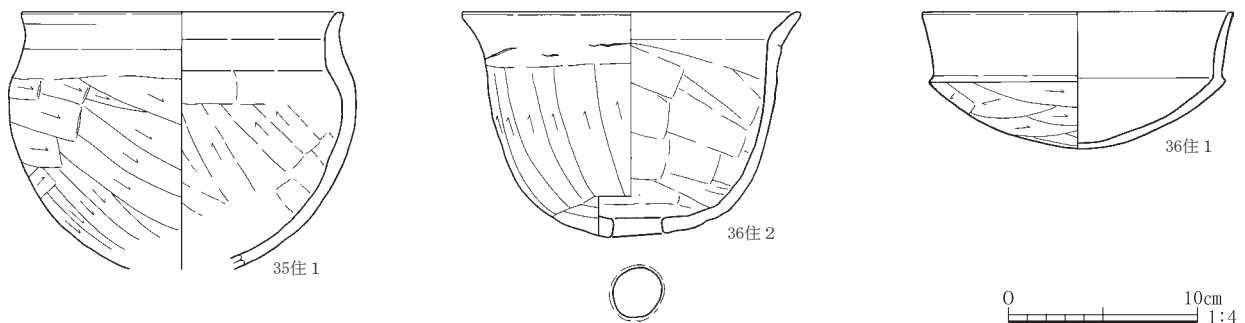
位置：B地点の西に位置している。1号溝・2号溝と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-29°-W。規模：長軸8.27m。柱穴：11本検出され、P1～4が支柱穴であろう。周溝：北壁中央から北西コーナー以外は全周している。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土から土器片等が出土している。時期：古墳時代後期。

36号住居跡（第57・58図、図版9・56）

位置：B地点の西に位置している。1号溝・2号溝と重複し、南東と北西コーナー部分を破壊される。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-23°-E。規模：長軸3.48m、短軸3.29m。カマド：北壁に付設される。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配される円形のピットが貯蔵穴であろう。周溝：西壁から南壁にかけて確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土師器が出土している。時期：古墳時代後期。



第57図 36号住居跡



第58図 35号・36号住居跡 出土遺物

35号住居跡 出土遺物観察表

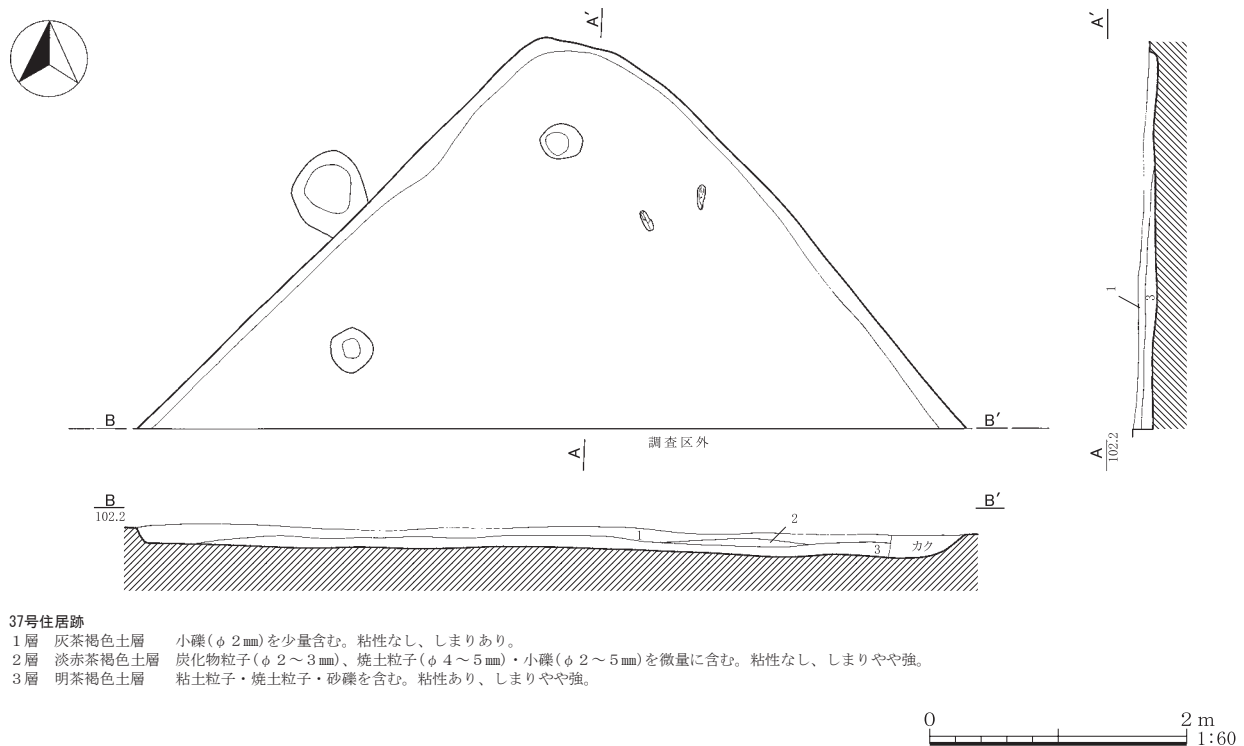
1	鉢	A. 口径(17.0)。残存高13.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメ～ヨコケズリ。内面、口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部中位以下ナナメケズリ・ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
---	---	--

36号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(16.4)。器高8.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 1/3。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	小形甗	A. 口径(17.9)。器高11.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ナナメナデ。底部ナデ。内面、ヨコ～ナナメナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

37号住居跡 (第59図、図版9)

位置：B地点の南西に位置している。北コーナー部分のみの検出で、住居跡の大部分は調査区外となっている。形態：平面形は方形であろう。主軸方位：N-45° - Eか。規模：不明。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土から土器や編み物石が出土している。時期：古墳時代後期か。



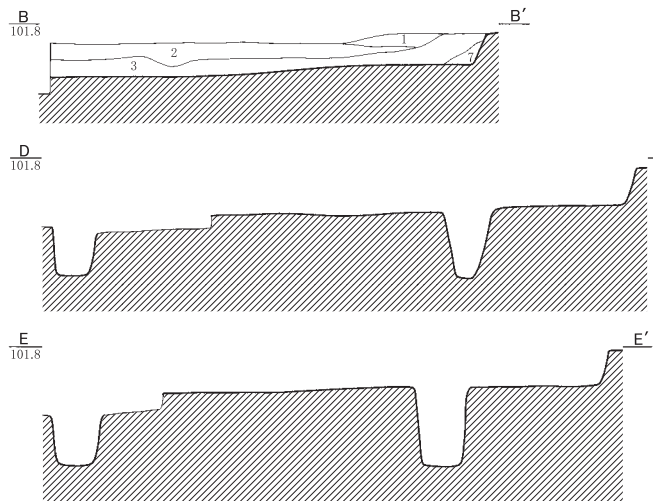
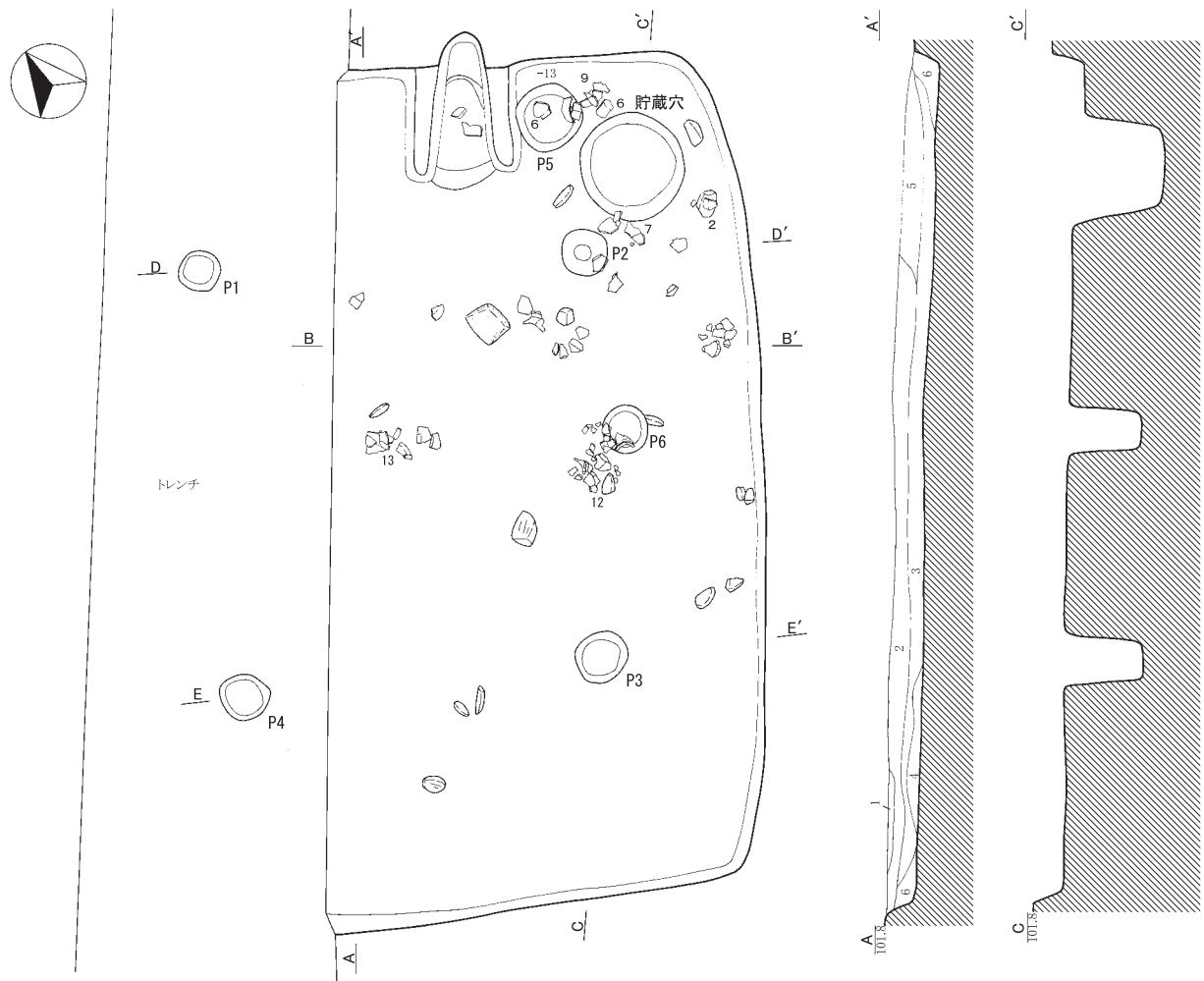
37号住居跡

- 1層 灰茶褐色土層 小礫(φ 2mm)を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 2層 淡赤茶褐色土層 炭化物粒子(φ 2~3mm)、焼土粒子(φ 4~5mm)・小礫(φ 2~5mm)を微量に含む。粘性なし、しまりやや強。
- 3層 明茶褐色土層 粘土粒子・焼土粒子・砂礫を含む。粘性あり、しまりやや強。

第59図 37号住居跡

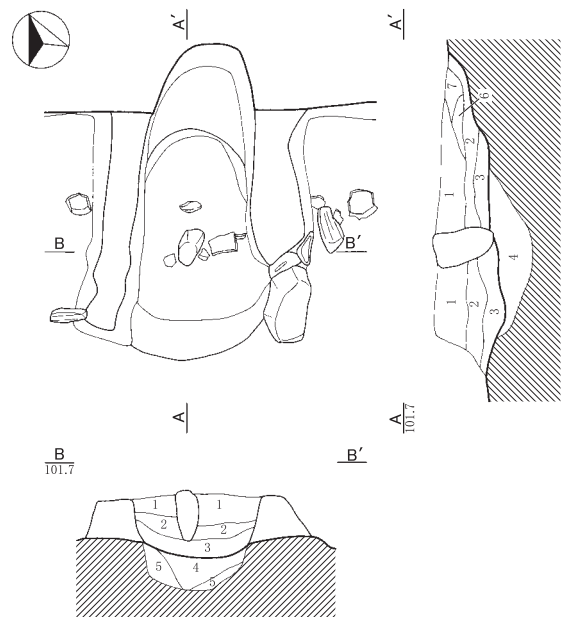
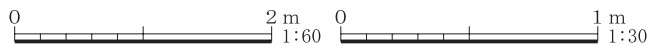
38号住居跡 (第60・61図、図版10・56・57)

位置：B地点の最も西で検出された住居跡である。住居跡の西半分を試掘トレンチによって削平される。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-40.5° - E。規模：長軸6.79m。カマド：北壁に付設される。袖は付け袖である。住居外へと延びる煙道を確認し、燃焼部の中央には支脚となる礫が据えられる。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：住居内より6本確認される。試掘トレンチに削平された箇所でもピットは残存していた。P1~4が支柱穴である。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：住居跡の北半分から土器や礫が多く出土している。時期：古墳時代後期。



38号住居跡

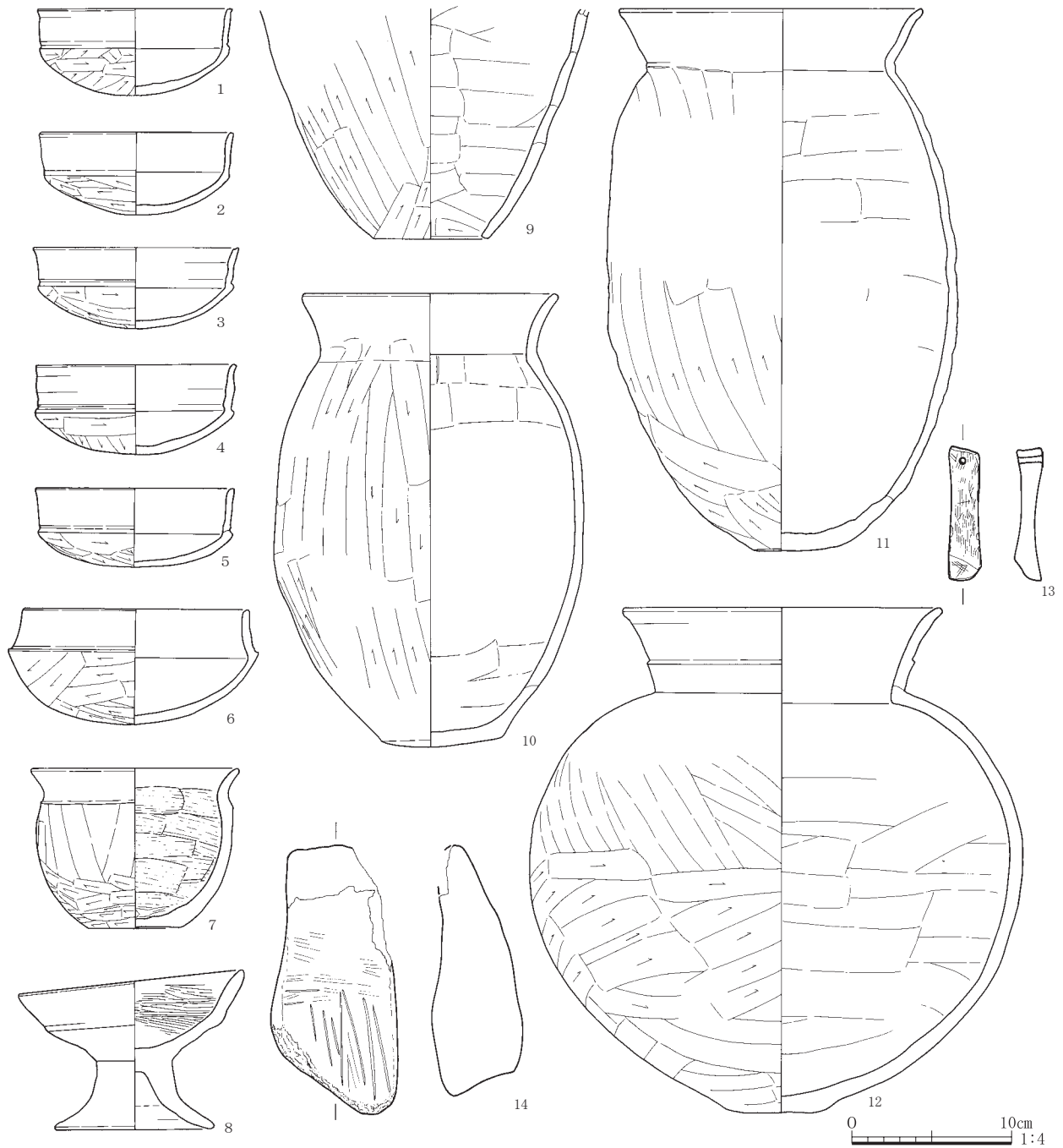
- 1層 暗黒褐色土層 小礫(φ1~2mm)微量に含む。粘性なし、しまりやや強。表土層。
- 2層 明黒褐色土層 焼土粒子(φ1~3mm)・ローム粒子を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 3層 暗黄茶褐色土層 ロームブロック(φ20~30mm)・ローム粒子(φ2~3mm)・焼土粒子(φ1~2mm)を多量、焼土ブロック(φ1~2mm)を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 4層 明黄茶褐色土層 3層に近似するが、ローム粒子をより多く含む。粘性・しまりなし。
- 5層 暗黒褐色土層 小礫(φ40~50mm)を含む。粘性なし、しまりあり。
- 6層 明黒褐色土層 焼土粒子(φ5~6mm)を微量含む。粘性・しまりなし。住居壁に酷似する。
- 7層 暗黒褐色土層 焼土粒子を多量に含む。粘性・しまりなし。



38号住居跡 カマド

- 1層 暗褐色土層 炭化物粒子(φ2~3mm)・焼土ブロックを多量含む。粘性あり、しまり強。
- 2層 暗茶褐色土層 焼土を多量に含む。粘性・しまり強。
- 3層 暗赤褐色土層 焼土を多量に含む。粘性あり、しまりなし。火床面であろう。
- 4層 暗茶褐色土層 小礫混合層。焼土を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 5層 暗灰褐色土層 焼土・炭化物を微量に含む。粘性あり、しまりなし。
- 6層 暗灰褐色土層 キメ細かい。粘性あり、しまりなし。
- 7層 暗灰褐色土層 粘性あり、しまり強。

第60図 38号住居跡



第61図 38号住居跡 出土遺物

38号住居跡 出土遺物観察表(1)

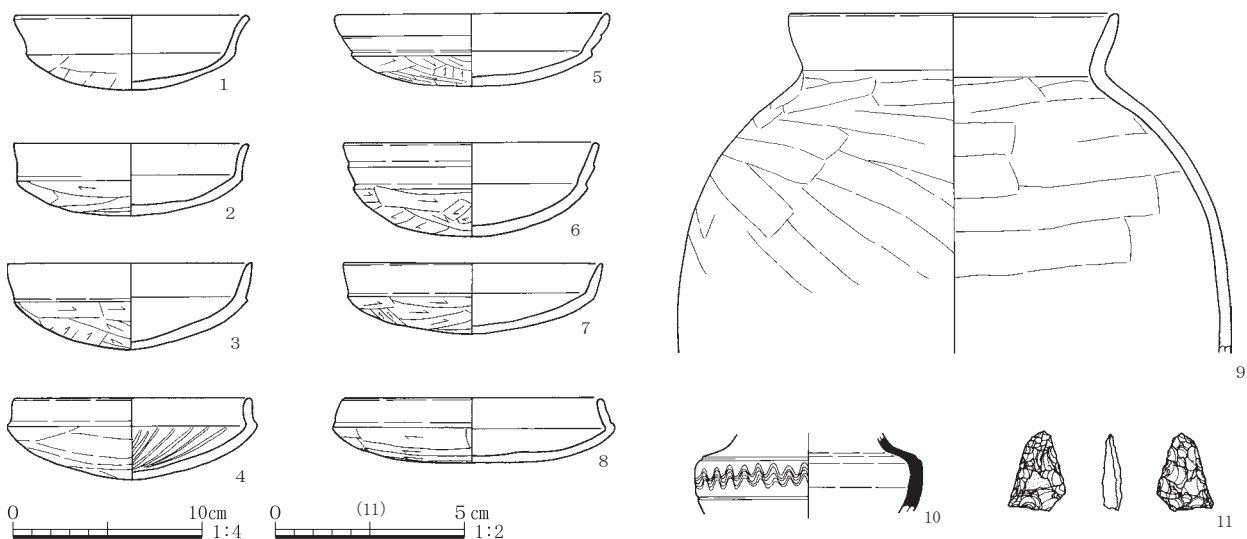
1	坏	A. 口径 12.3。器高 5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。H. 貯蔵穴。
2	坏	A. 口径 12.2。器高 5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 12.9。器高 5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 3/4。H. 貯蔵穴。
4	坏	A. 口径 12.5。器高 5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
5	坏	A. 口径(12.4)。器高 5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

38号住居跡 出土遺物観察表(2)

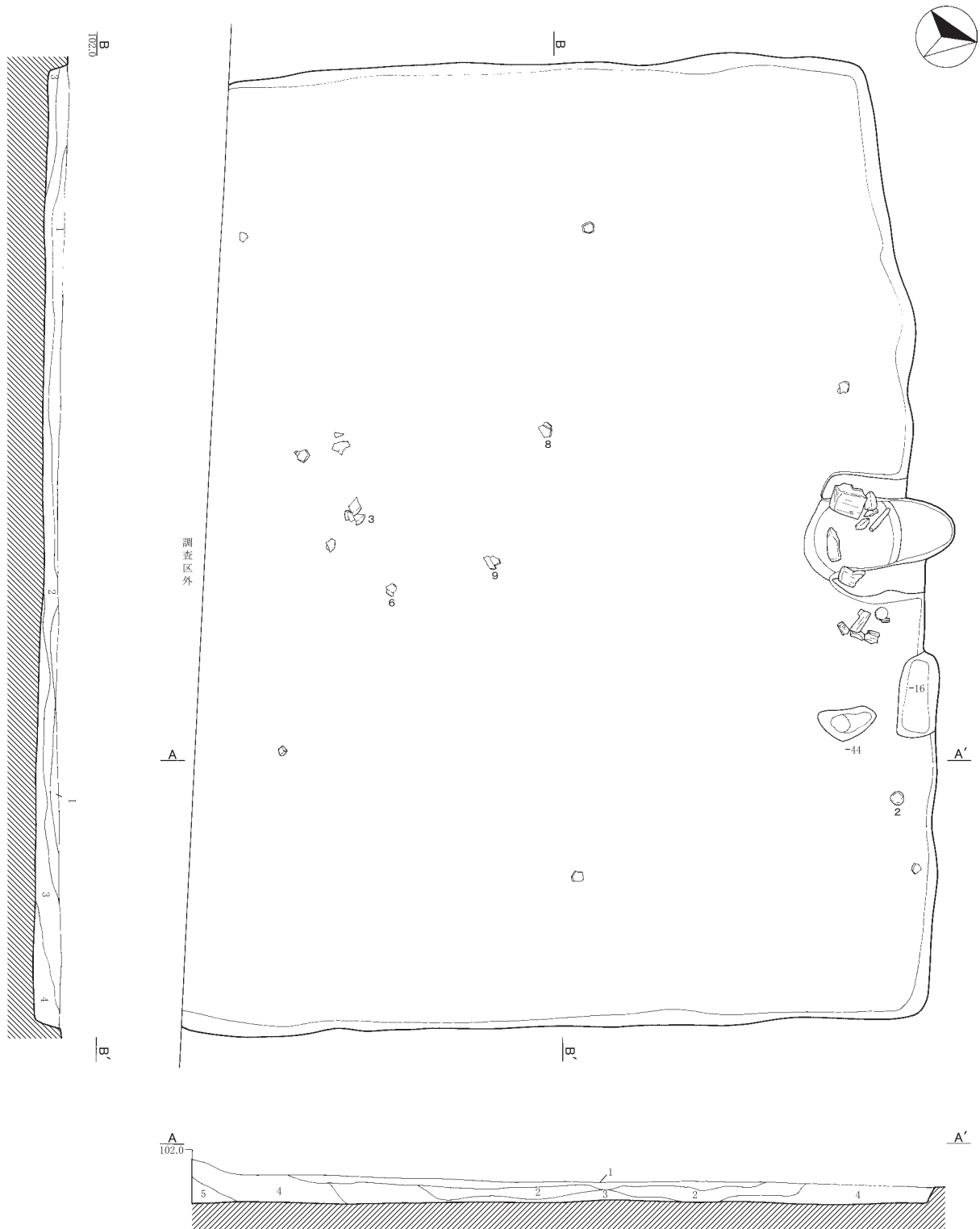
6	坏	A. 口径(14.1)。器高7.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 内外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	小形甕	A. 口径(13.0)。底径5.6。器高10.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下半ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ。D. 石英・角閃石。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. 4/5。G. 外面胴部下～底部にスス附着。H. 覆土。
8	高坏	A. 口径(14.3)。底径(9.9)。器高(9.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、体部ヨコナデ→ヨコミガキ。脚部ヨコナデ。D. 雲母・橙色粒子。E. 内一黄灰色。外一橙色。F. 3/4。G. 体部内面に黒色処理。H. 覆土。
9	大形甕	A. 底径(7.1)。残存高14.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・雲母。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 底部4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
10	甕	A. 口径16.0。底径7.5。器高28.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
11	甕	A. 口径(19.1)。底径5.2。器高34.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ナナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内一褐色。外一にぶい黄橙色。F. 1/3。G. 内外面胴部に焼成時の黒斑あり。外面胴部下位二次被熱。H. 貯蔵穴。
12	壺	A. 口径20.0。底径6.5。器高31.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメ～ヨコナデ→中位ヨコケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 内外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. カマド・貯蔵穴。
13	砥石	A. 長8.3。幅2.1。厚1.8。重39.90。D. 粘版岩。F. ほぼ完形。G. 全体的に良く研磨される。一箇所穿孔あり。H. 覆土。
14	砥石	A. 長16.9。幅8.0。厚5.8。重935.87。D. 結晶片岩。F. ほぼ完形。G. 下端部以外は全面摩耗。刃痕あり。H. 覆土。

39号住居跡(第62・63・64図、図版10・57)

位置：B地点の南に位置している。南壁は調査区外となる。44号住居跡と重複し、本遺構が新しい。
 形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-10°-W。規模：長軸9.42m。カマド：北壁に付設される。袖は付け袖で黄褐色粘質土を用い、焚き口部分は礫で構築している。燃烧部は住居内に収まり、緩やかに煙道へと続く。柱穴：カマドに向かって右側に1本だけ確認された。周溝：全体は確認できなかったが、カマドに向かって右側の北壁にごく一部、周溝らしき溝が存在している。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居内に散在するが、カマド周辺と住居中央部分に集中する。時期：古墳時代後期。



第62図 39号住居跡 出土遺物

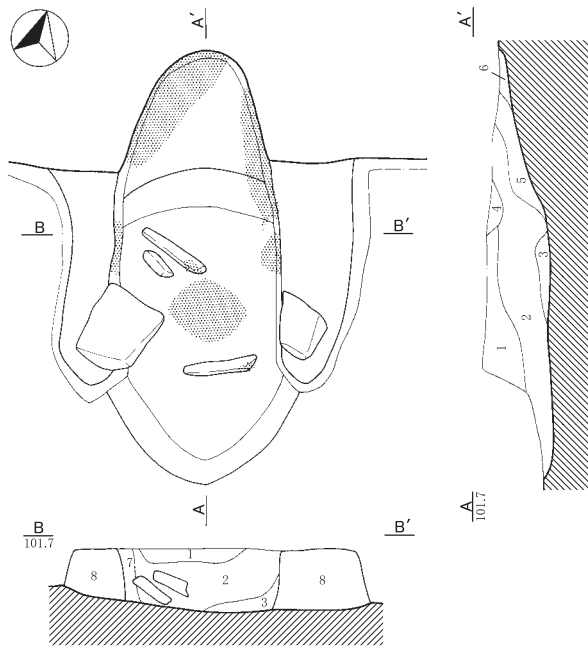


39号住居跡

- 1層 暗褐色土層 小礫を多量、ロームブロック(φ3mm)・ローム粒子・白色粒子を含む。粘性強、しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 炭化物・小礫を多量、焼土ブロック(φ~10mm)・ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性強、しまりあり。
- 3層 暗茶褐色土層 小礫を多量、ローム粒子・焼土ブロック(φ~10mm)・焼土粒子を少量含む。粘性強、しまりあり。
- 4層 茶褐色土層 ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性強、しまりあり。
- 5層 茶褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性強、しまりあり。

0 2 m
1:60

第63図 39号住居跡



39号住居跡 カマド

- 1層 黒褐色土層 小礫(φ50~60mm)を多量に含む。粘性なし、しまり強。
- 2層 黄褐色土層 ローム粒子(φ1~2mm)を多量、焼土ブロック(φ20~30mm)・焼土粒子(φ6~7mm)を少量含む。粘性・しまり強。
- 3層 黄褐色土層 ローム粒子(φ1~2mm)を多量、焼土ブロック(φ20~30mm)・焼土粒子(φ6~7mm)を中量含む。粘性・しまり強。
- 4層 明黄褐色土層 2層に酷似するが、焼土ブロックの量が少ない。
- 5層 暗黄褐色土層 焼土粒子(φ3~6mm)を多量に含む。粘性強、しまりあり。煙道か。
- 6層 暗赤褐色土層 層全体が焼けた粘土で形成される。粘性・しまり強。煙道の末端部。
- 7層 明赤褐色土層 焼土粒子を多量に含む。粘性・しまり強。天井崩落の一部か。
- 8層 黄褐色土層 カマドの袖。

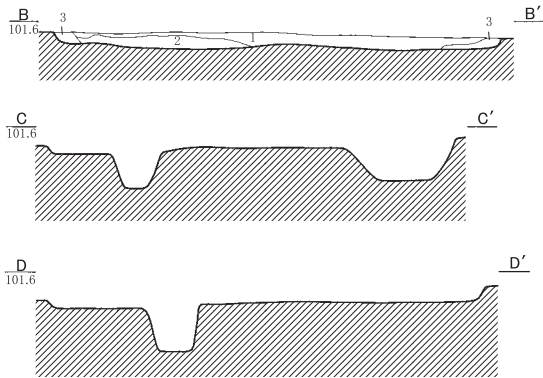
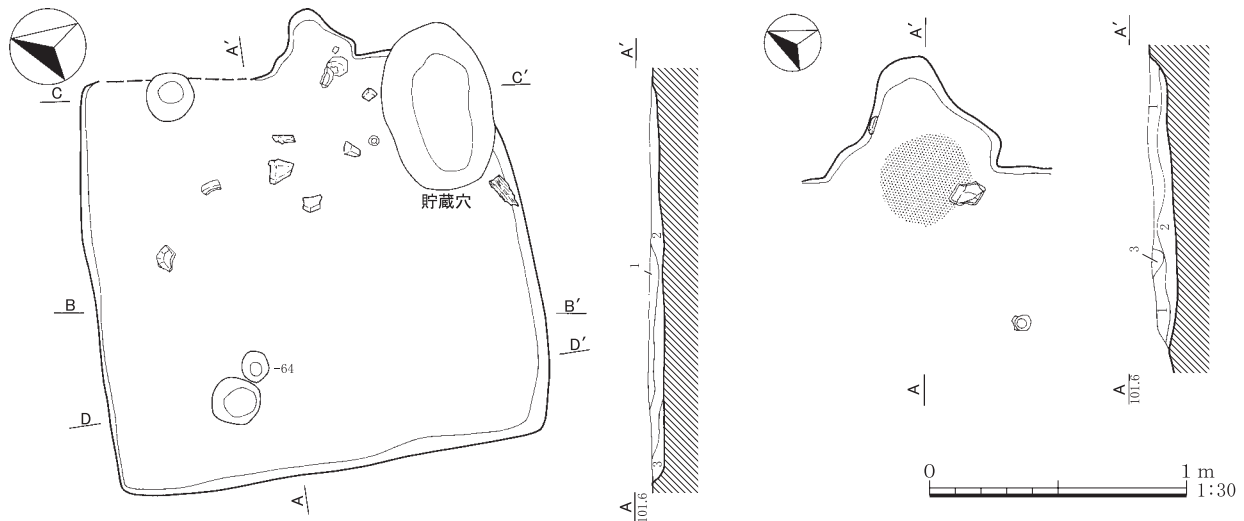
第64図 39号住居跡 カマド

39号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.4)。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・橙色粒子。E. 内一にぶい黄橙色。外一橙色。F. 3/4。G. 内面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.4。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 橙色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.9。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・片岩。E. 内外一にぶい橙色。F. ほぼ完形。G. 外面口縁部・内面にスス附着。H. 覆土。
4	坏	A. 口径12.6。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面、ヨコナデ→体部放射状のミガキ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/3。G. 内外面黒色処理か。H. 覆土。
5	坏	A. 口径(14.6)。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	坏	A. 口径(13.6)。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 内外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	坏	A. 口径13.8。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
8	坏	A. 口径13.8。器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面口縁部に黒斑あり。H. 覆土。
9	壺	A. 口径(17.5)。残存高17.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部~胴部中位1/2。G. 外面二次被熱。内面胴部ヨゴレあり。H. 覆土。
10	須恵器 甕	A. 残存高4.5。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→沈線間に櫛描波状文。内面、回転ナデ。D. 白色粒子・海綿骨針。E. 内外一黄灰色。F. 破片。G. 藤岡産。H. 覆土。
11	石鏃	A. 長2.0。幅1.5。厚0.5。重1.25。D. 黒曜石。F. 基部・片脚欠損。G. 凹基有茎石鏃。H. 覆土。

40号住居跡 (第65・66図、図版10・57)

位置：B地点の南西に位置している。44号住居跡と重複するが、本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-69°-E。規模：長軸3.49m、短軸3.18m。カマド：東壁に付設される。袖は残存していない。焚き口が住居の壁とほぼ並行し、燃烧部は住居外に延びる。貯蔵穴：南東コーナーに楕円形のピットがあり、これが貯蔵穴であろう。柱穴：3本検出されている。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマド寄りに散在する。時期：平安時代。



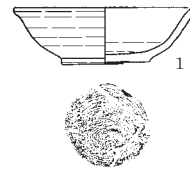
第65図 40号住居跡

40号住居跡 カマド

- 1層 暗灰褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。粘性やや弱、しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子を多量、焼土ブロックを少量含む。粘性弱、しまり弱。
- 3層 黄褐色土層 焼土ブロックを含む。粘性なし、しまりあり。

40号住居跡

- 1層 黒褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を多量、ロームブロック(φ~15mm)を少量含む。粘性・しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 炭化物を微量、ローム粒子を含む。粘性・しまりあり。
- 3層 黒褐色土層 ローム粒子を少量。粘性・しまりあり。



第66図 40号住居跡 出土遺物

40号住居跡 出土遺物観察表

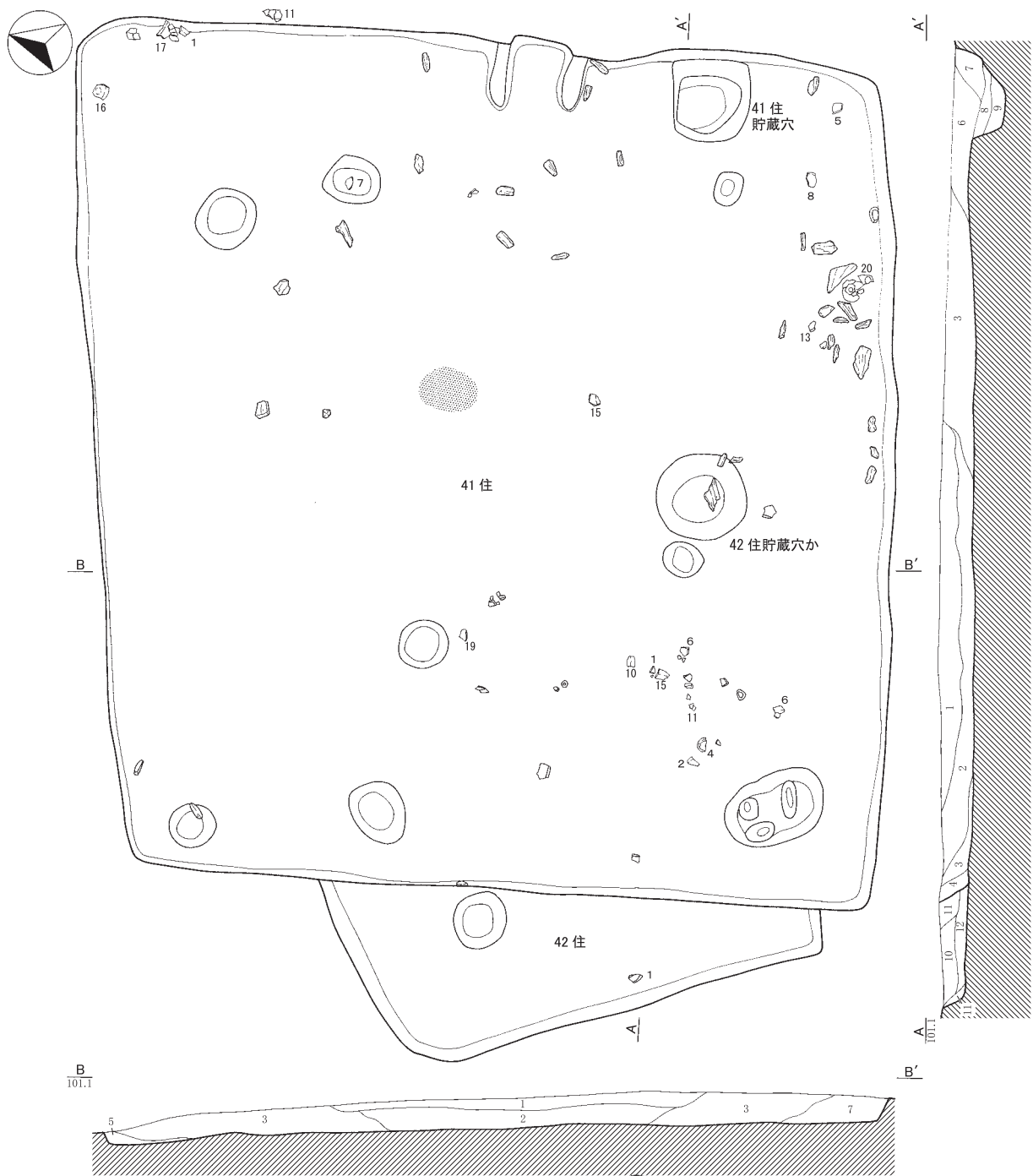
1	須恵器 坏	A. 口径9.7。底径4.6。器高3.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 雲母。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
---	----------	--

41号住居跡 (第67・68図、図版10・57・58)

位置：B地点の南西に位置している。43号住居跡・42号住居跡と重複し、前者との新旧は不明、後者より新しい。形態：平面形は方形を呈するが北壁が西に向かって収縮している。主軸方位：N-79°-E。規模：長軸7.93m、短軸7.31m。カマド：東壁に付設される。袖には暗赤褐色土を用いる。燃焼部は住居外にやや突出する。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：9本確認された。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：全体的に散在するが、南壁沿いにやや多い分布を示す。土師器以外に鎌形の石製模造品が出土している。時期：古墳時代後期。

42号住居跡 (第67・68図、図版11・58)

位置：B地点の南西に位置している。41号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-58°-E。規模：長軸4.16m。カマド：41号住居跡中心で検出された焼土が本遺構のカマドの痕跡だと思われる。貯蔵穴：41号住居跡内の円形ピットが貯蔵穴の可能性はある。柱穴：1本確認された。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土内より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



41号住居跡

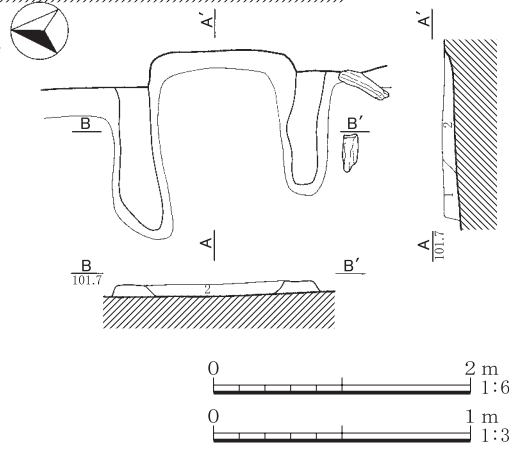
- 1層 暗褐色土層 白色粒子を多量、焼土ブロック(φ~4mm)・焼土粒子・YP・小礫を少量含む。粘性・しまり強。
- 2層 黒褐色土層 白色粒子・焼土粒子・炭化物を多量、ローム粒子・YPを少量含む。粘性・しまり強。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・小礫を少量含む。粘性・しまり強。
- 4層 黒褐色土層 白色粒子・白色土ブロックを多量、小礫を少量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまり強。
- 5層 黒褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまり強。
- 6層 灰褐色土層 焼土ブロック(φ~5mm)、白色粒子(φ~4mm)を多量含む。粘性・しまり強。
- 7層 黒褐色土層 焼土粒子・白色粒子を多量に含む。粘性・しまり強。
- 8層 黒褐色土層 焼土粒子・焼土ブロック(φ~12mm)を多量、炭化物粒子を少量含む。粘性・しまり強。
- 9層 灰褐色土層 白色粒子を多量、焼土粒子・炭化物粒子(φ~8mm)を少量含む。粘性・しまり強。

42号住居跡

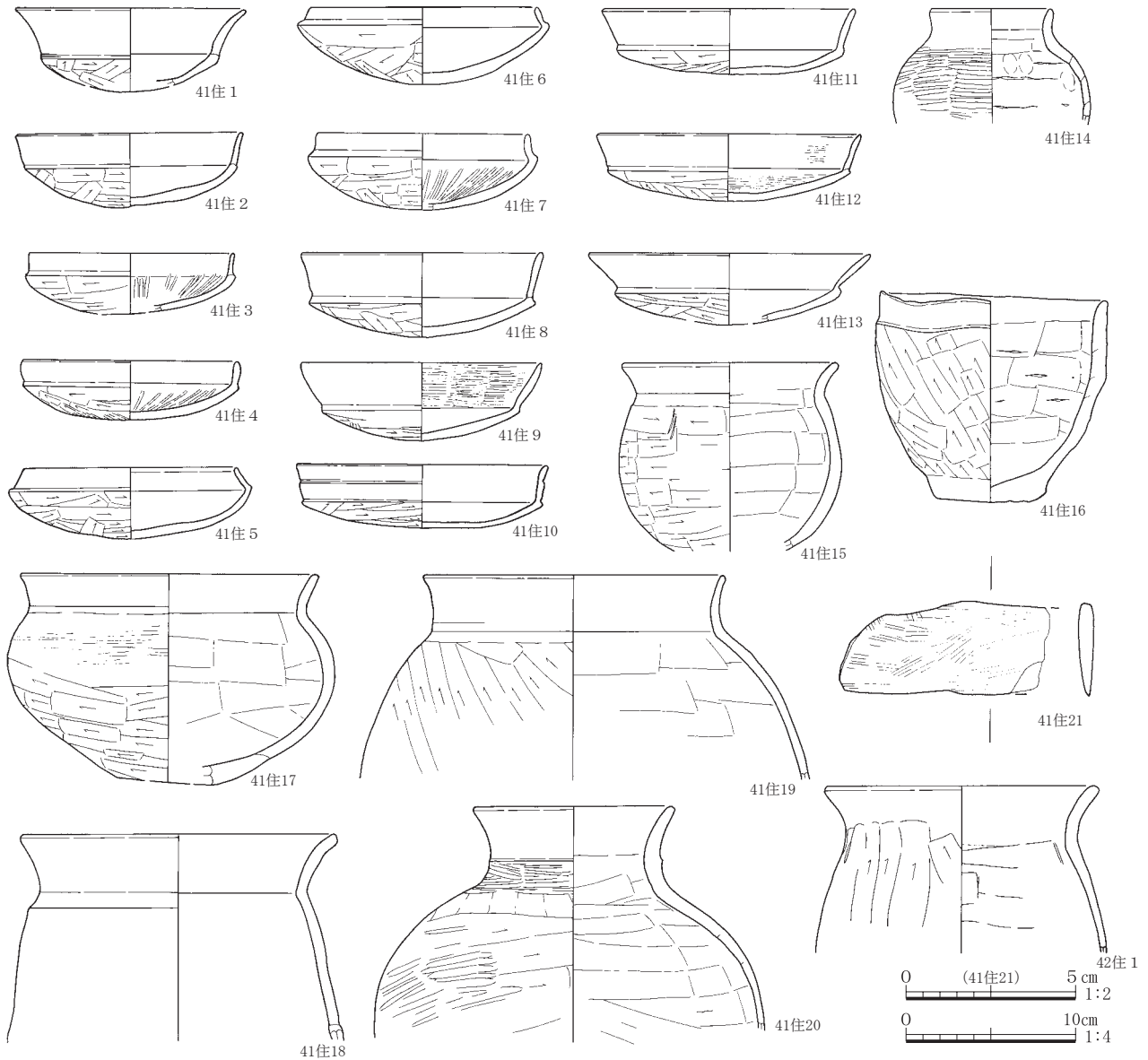
- 10層 茶褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・焼土ブロック(φ~10mm)を少量含む。粘性・しまりあり。
- 11層 明褐色土層 ローム粒子を多量、焼土ブロックを少量含む。粘性・しまり強。
- 12層 暗茶褐色土層 ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物少量含む。粘性・しまりあり。

41号住居跡 カマド

- 1層 明茶褐色土層 焼土粒子(φ1~3mm)を中量、小礫(φ2~3mm)を少量、炭化物粒子を微量含む。粘性なし、しまり強。
- 2層 暗赤褐色土層 焼土ブロック・焼土粒子を多量に含む。粘性なし、しまりやや強。



第67図 41号・42号住居跡



第68図 41号・42号住居跡 出土遺物

41号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	坏	A. 口径13.5。残存高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母。E. 内外-にぶい橙色。F. 3/4。H. 覆土。
2	坏	A. 口径14.3。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 2/3。H. 覆土。
3	坏	A. 口径(12.1)。残存高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ→体部放射状ミガキ。D. 角閃石。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 2/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。内外面黒色処理か。H. 覆土。
4	坏	A. 口径12.7。器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ→体部放射状ミガキ。D. 角閃石・石英。E. 内外-橙色。F. 1/2。G. 内外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	坏	A. 口径12.5。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 2/3。H. 覆土。
6	坏	A. 口径13.4。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい黄橙色。F. 3/4。G. 外面底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	坏	A. 口径12.6。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ→体部放射状ミガキ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内-灰黄褐色。外-淡黄色。F. 1/2。G. 内外面黒色処理か。H. 覆土。
8	坏	A. 口径14.3。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。

41号住居跡 出土遺物観察表(2)

9	坏	A. 口径14.2。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→部分的にミガキ。内面、ヨコナデ→口縁部ヨコミガキ。D. 白色粒子。E. 内外一灰黄褐色。F. 1/2。G. 内外面黒色処理か。H. 覆土。
10	坏	A. 口径14.8。器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内一橙色。外一にぶい橙色。F. 4/5。G. 白色粒子。H. 覆土。
11	坏	A. 口径(14.9)。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 3/4。G. 内外面黒色処理か。H. 覆土。
12	坏	A. 口径(15.5)。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ→ヨコミガキ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
13	坏	A. 口径(16.7)。残存高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土。
14	罎	A. 口径7.4。残存高6.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→ヨコミガキ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ユピオサエ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁部～胴部上半1/2。G. 外面胴部にスス付着。H. 覆土。
15	小形甕	A. 口径(12.9)。残存高11.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・雲母。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
16	小形甕	A. 口径13.3。底径6.4。器高12.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい赤褐色。F. 4/5。G. 内面、黒色付着物あり。H. 覆土。
17	鉢	A. 口径17.5。底径5.1。器高12.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部上半ヨコミガキ。下半ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 3/4。H. 覆土。
18	甕	A. 口径18.7。残存高8.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→摩滅。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内一明褐色。外一橙色。F. 口縁部～胴部上半1/2。H. 覆土。
19	壺	A. 口径17.9。残存高12.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部上半1/2。G. 外面二次被熱。H. 覆土。
20	壺	A. 口径12.0。残存高13.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。頸部ヨコミガキ。胴部ナデ→中位ヨコケズリ→部分的にヨコミガキ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部上半1/3。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
21	石製模造品 鎌形	A. 幅2.3。厚0.5。D. 蛇紋岩。F. 1/2。G. 良く研磨される。H. 覆土。

42号住居跡 出土遺物観察表

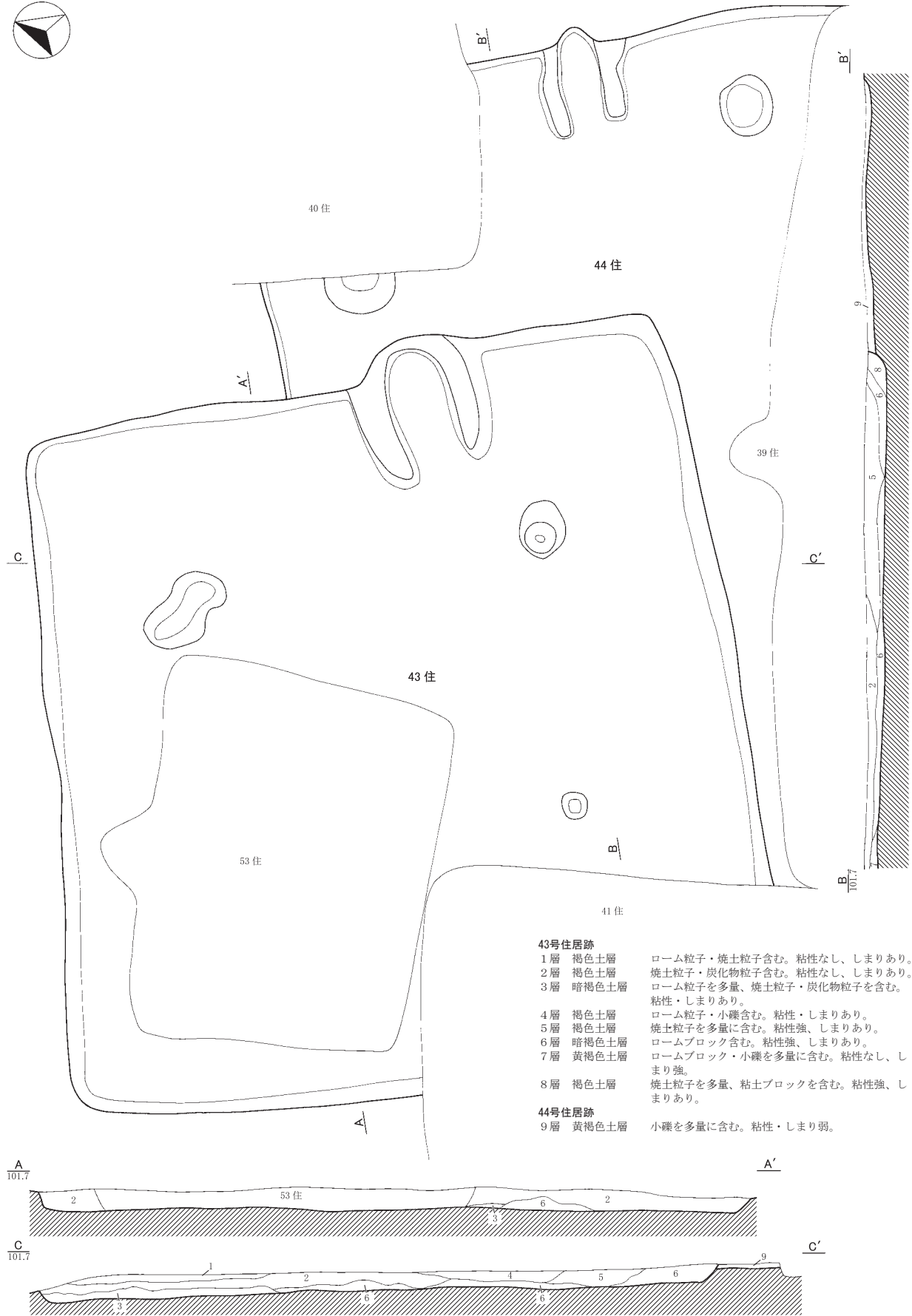
1	甕	A. 口径(15.2)。残存高9.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部～胴部1/3。H. 覆土。
---	---	---

43号住居跡(第69・70・71図、図版11・58)

位置：B地点の南西に位置する。53号住居跡・44号住居跡と重複し、前者より古く、後者より新しい。41号住居跡との新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-71°-E。規模：長軸7.55m、短軸7.31m。カマド：東壁に付設される。袖・奥壁に灰褐色土を貼って構築される。燃焼部は住居内に収まり、奥壁が住居の壁とほぼ一致する。その中心には支脚であろう礫が据えられ、上部から長胴甕が正位で検出されている。柱穴：3本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマド周辺より出土している。時期：古墳時代後期。

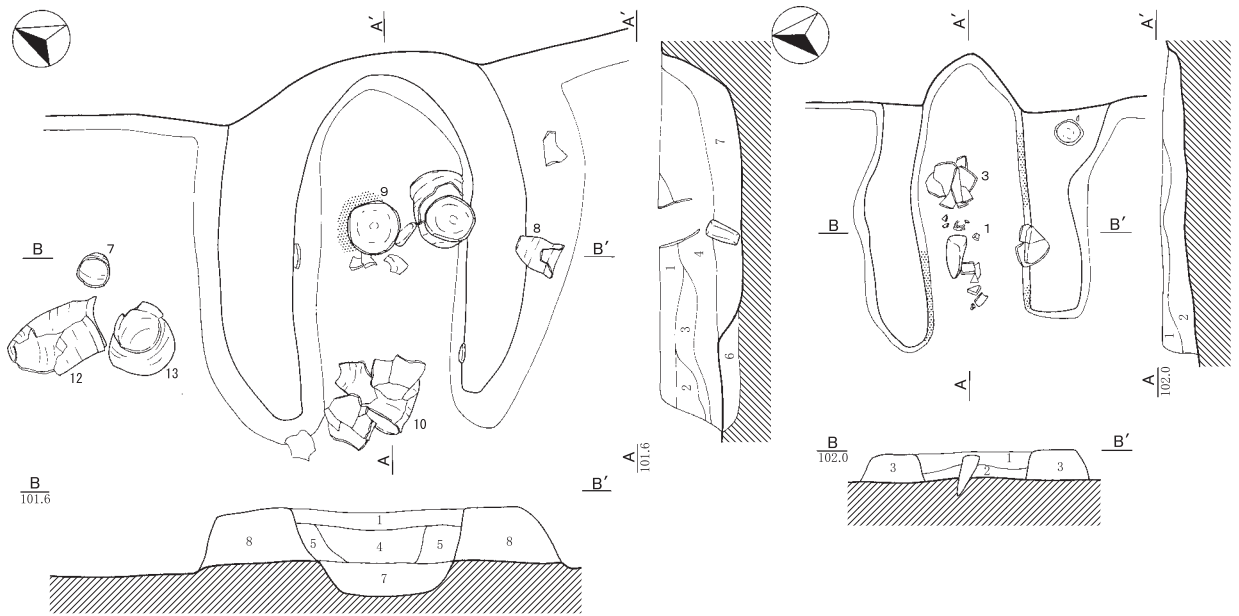
44号住居跡(第69・70・71図、図版11・59)

位置：B地点の南西に位置している。43号住居跡・39号住居跡・40号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-61°-E。規模：不明。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖で黄褐色土を用いる。燃焼部は住居の外へ延び、中央には支脚らしき礫が検出される。柱穴：他の住居跡に切られながらも2本検出された。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土内より土器片とともに碗形埴も出土している。時期：古墳時代後期。



- 43号住居跡**
- 1層 褐色土層 ローム粒子・焼土粒子含む。粘性なし、しまりあり。
 - 2層 褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子含む。粘性なし、しまりあり。
 - 3層 暗褐色土層 ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物粒子を含む。粘性・しまりあり。
 - 4層 褐色土層 ローム粒子・小礫含む。粘性・しまりあり。
 - 5層 褐色土層 焼土粒子を多量に含む。粘性強、しまりあり。
 - 6層 暗褐色土層 ロームブロック含む。粘性強、しまりあり。
 - 7層 黄褐色土層 ロームブロック・小礫を多量に含む。粘性なし、しまり強。
 - 8層 褐色土層 焼土粒子を多量、粘土ブロックを含む。粘性強、しまりあり。
- 44号住居跡**
- 9層 黄褐色土層 小礫を多量に含む。粘性・しまり弱。

第69図 43号・44号住居跡



43号住居跡 カマド

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を多量、ロームブロック(φ8mm)・焼土ブロック(φ8mm)を少量含む。粘性強、しまりあり。天井崩落土層。
- 2層 暗褐色土層 ローム粒子を多量、炭化物ブロック(φ~4mm)を少量含む。粘性強、しまりあり。
- 3層 暗灰色土層 灰主体土層。焼土粒子を少量含む。粘性強、しまりあり。
- 4層 黒褐色土層 ロームブロック・焼土ブロック(φ5mm)を少量含む。粘性強、しまりあり。
- 5層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土ブロック(φ~4mm)を含む。粘性強、しまりあり。
- 6層 灰褐色土層 ローム粒子を多量、焼土・白色粒子を少量含む。粘性強、しまりあり。
- 7層 土層注記なし。掘り方層。
- 8層 淡灰褐色土層 カマド袖。ローム粒子・焼土粒子を多量に含む。粘性強、しまりあり。

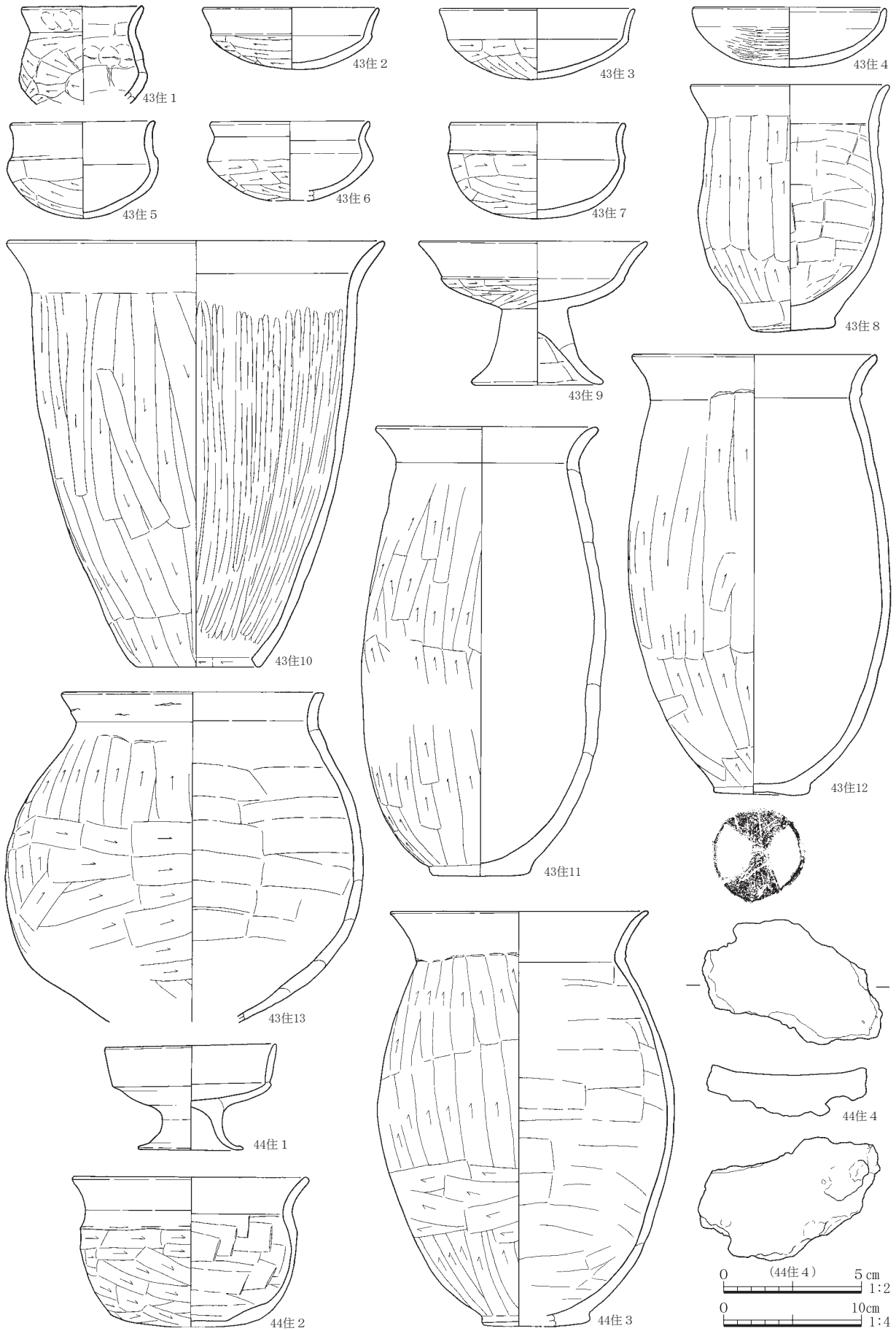
44号住居跡 カマド

- 1層 暗灰褐色土層 焼土粒子を含む。粘性あり、しまりやや強。
- 2層 暗赤褐色土層 焼土・小礫を多量に含む。粘性・しまりなし。
- 3層 暗黄茶褐色土層 カマド袖。粘性・しまり強。

第70図 43号・44号住居跡 カマド

43号住居跡 出土遺物観察表

1	小形壺	A. 口径(8.8)。残存高7.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ユビオサエ。胴部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ・ユビオサエ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/4。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
2	坏	A. 口径12.8。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土。
3	坏	A. 口径14.2。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
4	坏	A. 口径(14.1)。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ→ヨコミガキ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	碗	A. 口径10.5。器高7.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。外面二次被熱。H. 覆土。
6	碗	A. 口径(11.6)。器高5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
7	碗	A. 口径12.8。器高6.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内一黒褐色。外一明赤褐色。F. 4/5。G. 内面黒色処理。H. 覆土。
8	小形甕	A. 口径14.6。底径6.1。器高18.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面二次被熱。内面胴部に带状にヨゴレ。H. カマド。
9	高坏	A. 口径10.5。底径9.6。器高10.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。脚部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一橙色・明赤褐色。F. 2/3。G. 内面体部に赤彩あり。H. カマド。
10	大形甕	A. 口径27.4。底径6.9。器高31.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→タテミガキ。底部ヨコケズリ。D. 石英・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
11	甕	A. 口径(16.2)。底径7.2。器高(32.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 外面胴部二次被熱。内面胴部中位に带状にヨゴレ。H. 覆土。
12	甕	A. 口径17.7。底径6.8。器高31.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。G. 胴部内面にヨゴレ。H. 覆土。
13	壺	A. 口径(19.0)。残存高24.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 3/4。H. 覆土。



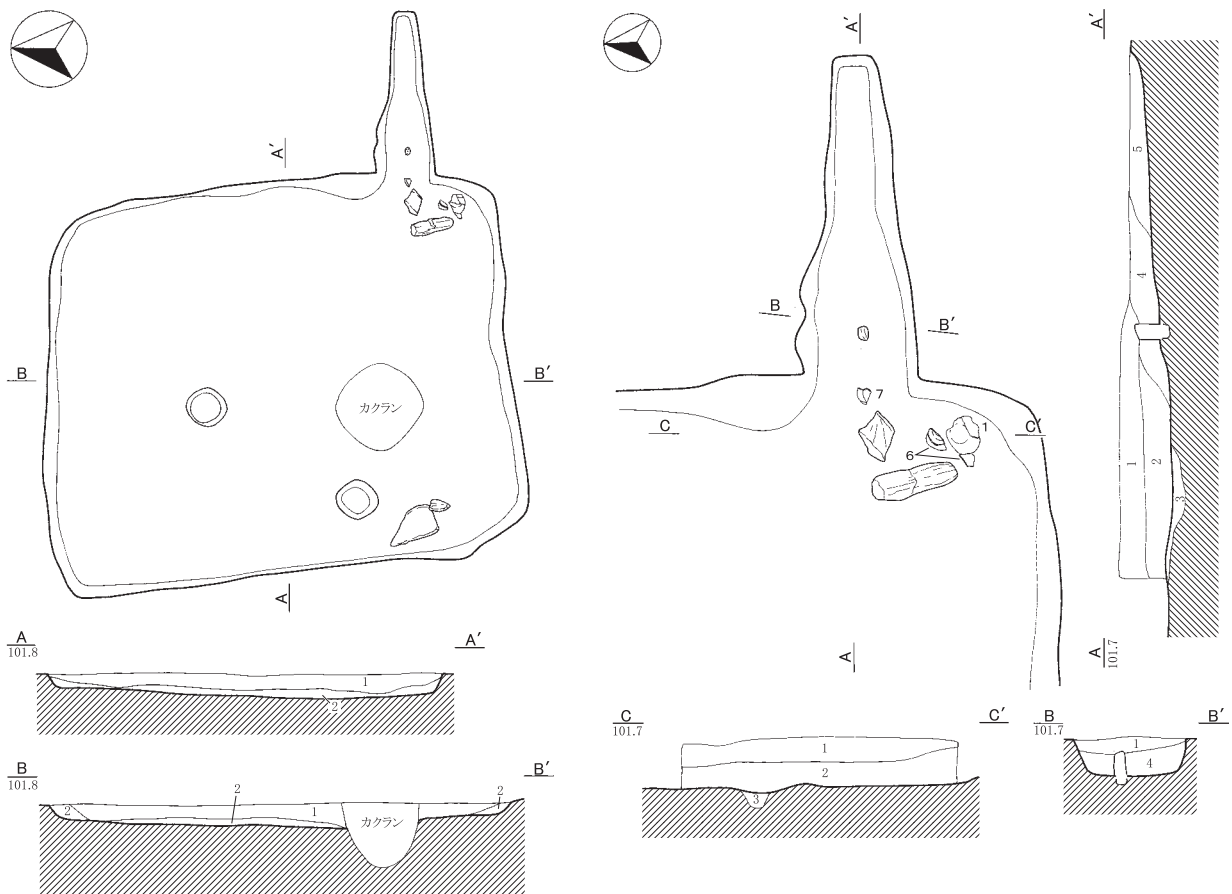
第71图 43号・44号住居跡 出土遺物

44号住居跡 出土遺物観察表

1	高坏	A. 口径12.4。底径7.6。器高7.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. カマド。
2	鉢	A. 口径17.1。底径9.5。器高10.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 完形。G. 外面胴部二次被熱。内面胴部に焼成時の黒斑・ヨゴレあり。H. カマド。
3	甕	A. 口径18.8。底径(7.8)。器高30.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・石英。E. 内一橙色。外一にぶい橙色。F. 1/2。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
4	埴形滓	A. 長4.5。幅6.6。厚1.9。重69.37。G. 炉床付着。H. 覆土。

45号住居跡 (第72・73図、図版11・59)

位置：B地点の南、ほぼ中央に位置し、単独で検出される。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-91°-E。規模：長軸3.57m、短軸3.09m。カマド：東壁の南東コーナー寄りに付設される。煙道は住居外へと130cmも延びる。燃烧部と思しき場所には、支脚の礫が据えられる。柱穴：2本確認された。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドに向かって右側、南東コーナー付近に集中する。時期：平安時代。



45号住居跡

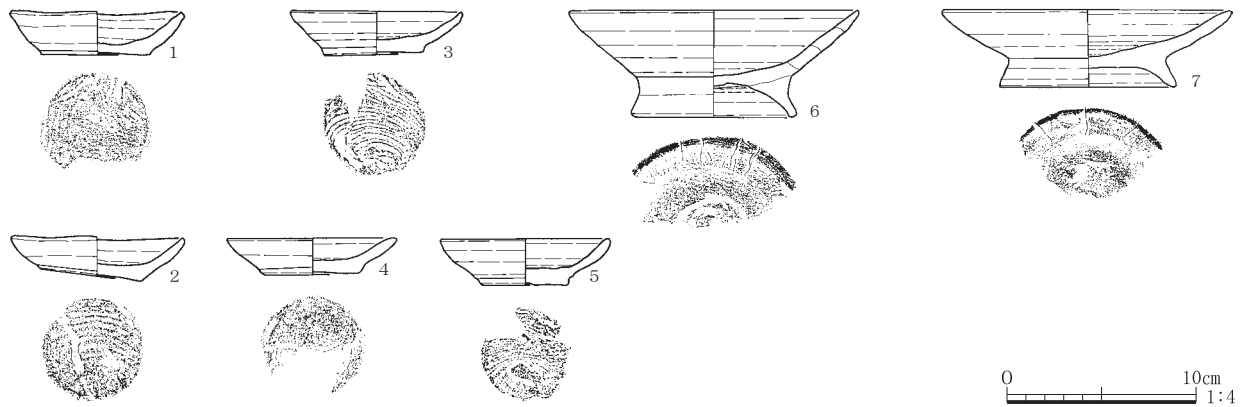
- 1層 黒褐色土層 ロームブロック(φ~8mm)・ローム粒子・白色粒子を多量、小礫を含む。粘性・しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 ロームブロック(φ~8mm)を多量、ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりあり。

45号住居跡 カマド

- 1層 暗茶褐色土層 ローム粒子・白色粒子(φ1mm)を少量、焼土粒子(φ2~3mm)・炭化物粒子を微量に含む。粘性あり、しまり強。
- 2層 暗茶褐色土層 ロームブロック(φ10~30mm)・ローム粒子(φ~1mm)を中量含む。粘性やや強、しまり強。
- 3層 暗黄茶褐色土層 ロームブロック(φ10~30mm)・ローム粒子(φ~1mm)を中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 4層 暗茶褐色土層 ローム粒子(φ1~3mm)・焼土粒子(φ1~3mm)・焼土ブロックを中量含む。粘性・しまりあり。
- 5層 暗黄茶褐色土層 ロームブロック(φ10~20mm)・ローム粒子(φ1~5mm)を多量、焼土粒子(φ1~3mm)を少量含む。粘性なし、しまりやや強。



第72図 45号住居跡



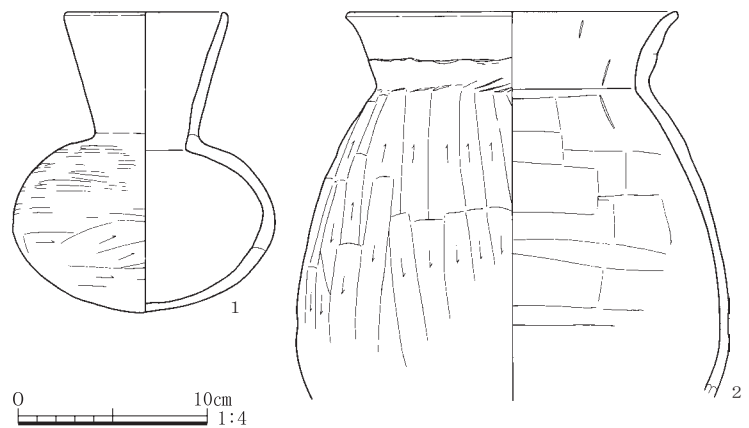
第73図 45号住居跡 出土遺物

45号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径9.2。底径5.7。器高2.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 雲母。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
2	須恵器 坏	A. 口径9.2。底径5.4。器高2.3。B. ロクロ成形。C. 内外面。回転ナデ。底部回転糸切り。D. 雲母。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
3	須恵器 坏	A. 口径9.2。底径5.2。器高3.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石。E. 内外一赤褐色。F. ほぼ完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
4	須恵器 坏	A. 口径9.0。底径5.2。器高1.9。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 雲母。E. 内外一にぶい橙色。F. 3/4。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
5	須恵器 坏	A. 口径9.0。底径4.7。器高2.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石・石英。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/3。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
6	須恵器 高台付皿	A. 口径(15.4)。底径(8.8)。器高5.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/2。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
7	須恵器 高台付皿	A. 口径(15.4)。底径(9.4)。器高4.1。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 雲母。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/3。G. 酸化焰焼成。H. カマド。

46号住居跡 (第74・75図、図版12・59)

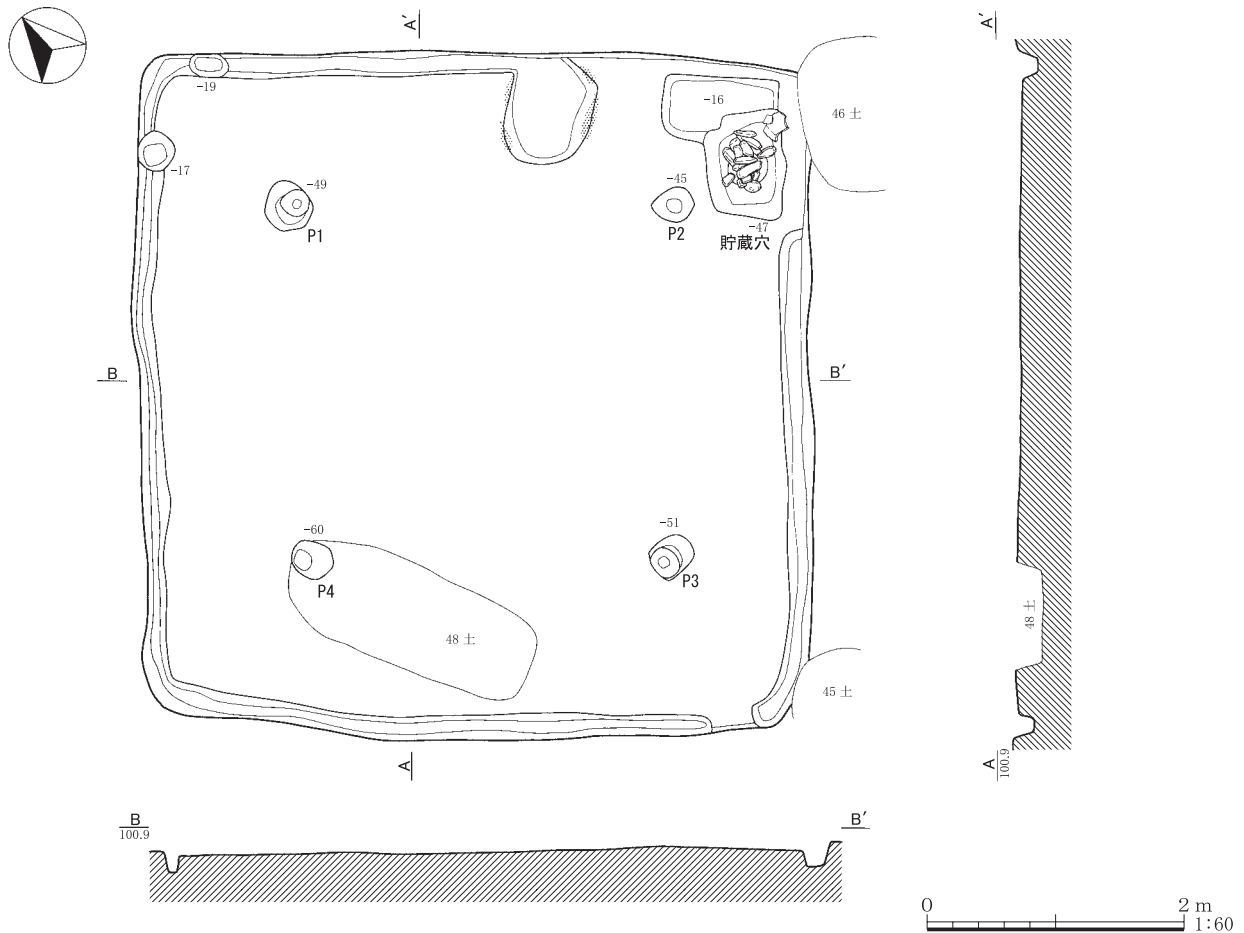
位置：B地点の中央よりやや西に位置している。単独で検出され、重複はない。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-42°-E。規模：長軸5.43m、短軸5.29m。カマド：東壁に付設される。覆土上層は削平されており、カマドも掘り方が残存するのみである。貯蔵穴：カマドに向かって右側、方形のピットが貯蔵穴であろう。約20cmのテラスを有し、中央がさらに40cm下がる。覆土上層に編み物石が集中する。柱穴：4本の支柱穴が検出された。周溝：貯蔵穴周辺以外で確認される。埋没状況：不明。遺物：貯蔵穴より土師器・編み物石が出土している。時期：古墳時代後期。



第74図 46号住居跡 出土遺物

46号住居跡 出土遺物観察表

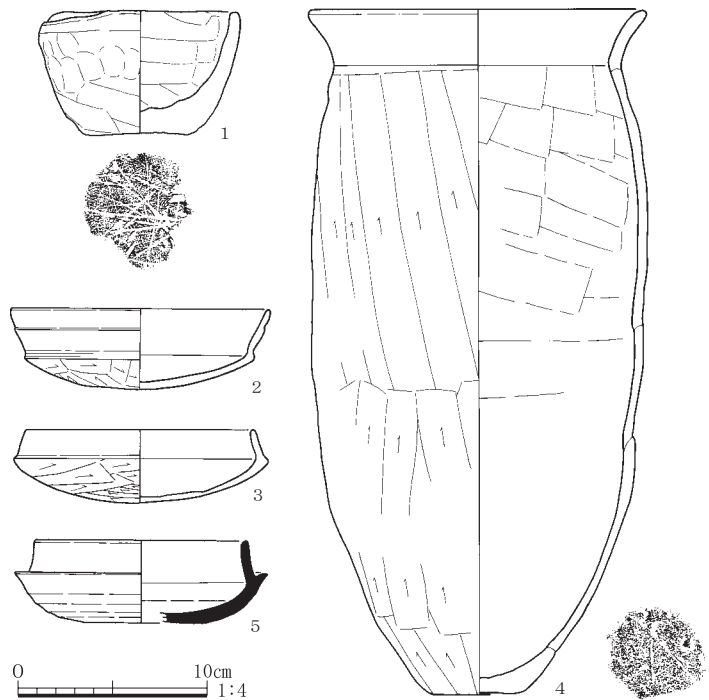
1	罎	A. 口径8.7。器高15.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部上半ヨコミガキ(摩滅)、下半ヨコケズリ→ミガキ(摩滅)。内面、口縁部ヨコナデ。胴部観察不可。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴。
2	甕	A. 口径(17.6)。残存高20.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部～胴部中位 1/5。H. 貯蔵穴。



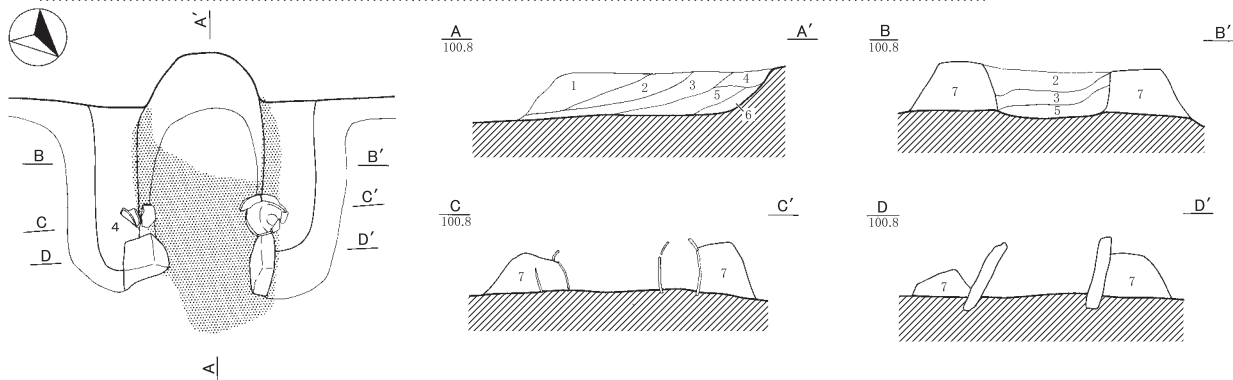
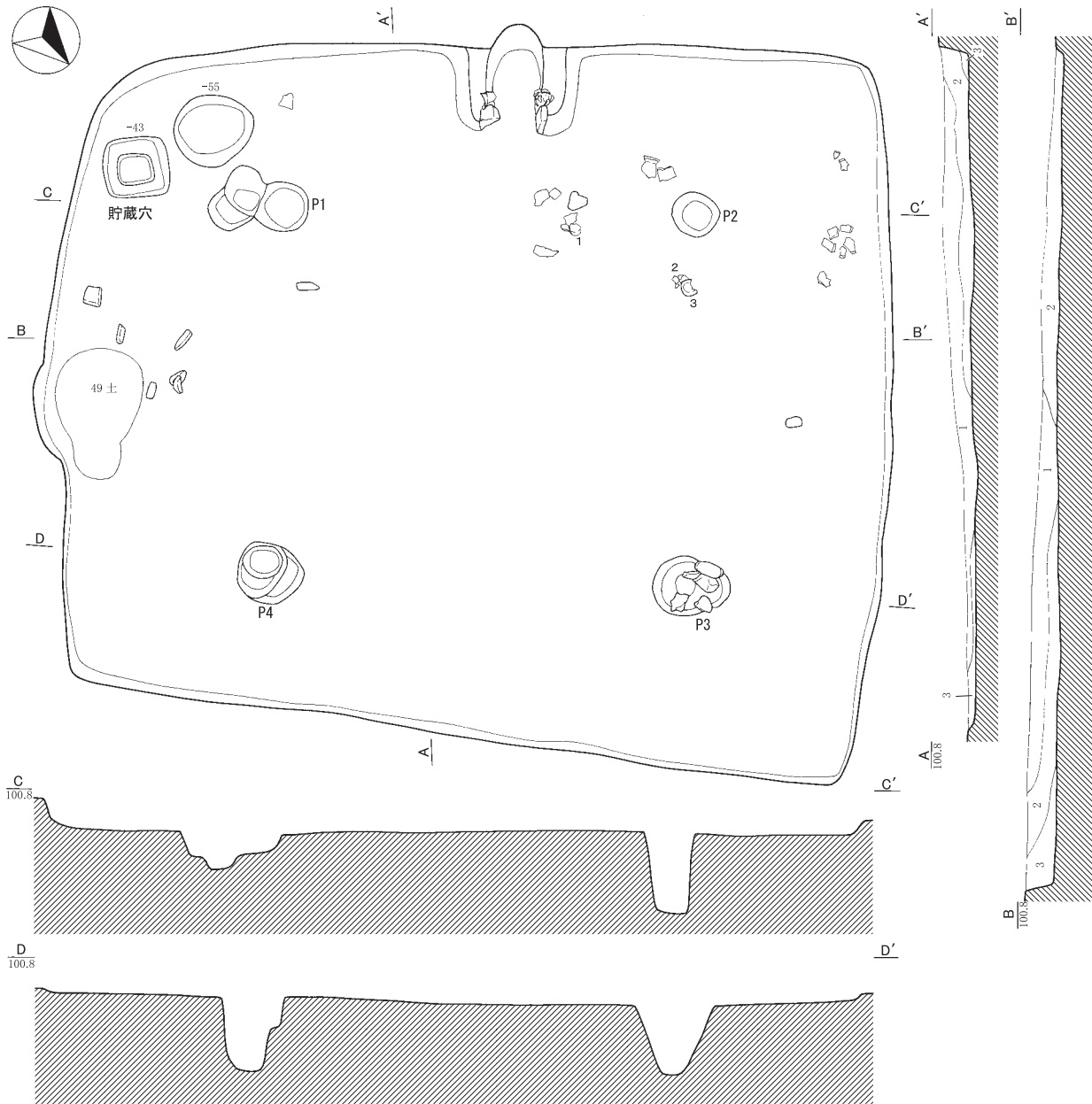
第75図 46号住居跡

47号住居跡 (第76・77図、図版12・59)

位置：B地点中央、やや西に位置している。48号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：S-47°-W。規模：長軸7.53m、短軸6.04m。カマド：南壁に付設される。袖は淡褐色粘土を用いた付け袖で、焚き口に礫と逆位の長胴甕を構築材として利用している。燃烧部は住居の外に延びている。貯蔵穴：カマドに向かって左側に楕円形と長方形のピットがある。これらのどちらかが貯蔵穴であろう。柱穴：4本の主柱穴が検出された。P3上に編み物石が集中する。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドから南西コーナー一帯に散在する。時期：古墳時代後期。



第76図 47号住居跡 出土遺物



47号住居跡

- 1層 暗褐色土層
- 2層 暗褐色土層
- 3層 暗褐色土層

47号住居跡 カマド

- 1層 暗褐色土層
- 2層 淡褐色土層
- 3層 暗赤褐色土層
- 4層 淡褐色土層

- ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性やや強・しまりあり。
- ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性やや強・しまりなし。
- ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性やや強・しまりあり。

- 淡褐色粘土粒子・焼土粒子を中量、ローム粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 淡褐色粘土ブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 焼土ブロックを多量、淡褐色土粘土ブロックを中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 淡褐色粘土ブロック・淡褐色粘土粒子を中量含む。粘性やや強、しまりなし。

- 5層 暗赤褐色土層 焼土粒子を中量、炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 6層 暗赤褐色土層 ローム粒子・焼土ブロック・淡褐色粘土を微量に含む。
- 7層 淡褐色粘土層 カマド袖。粘性・しまり強。



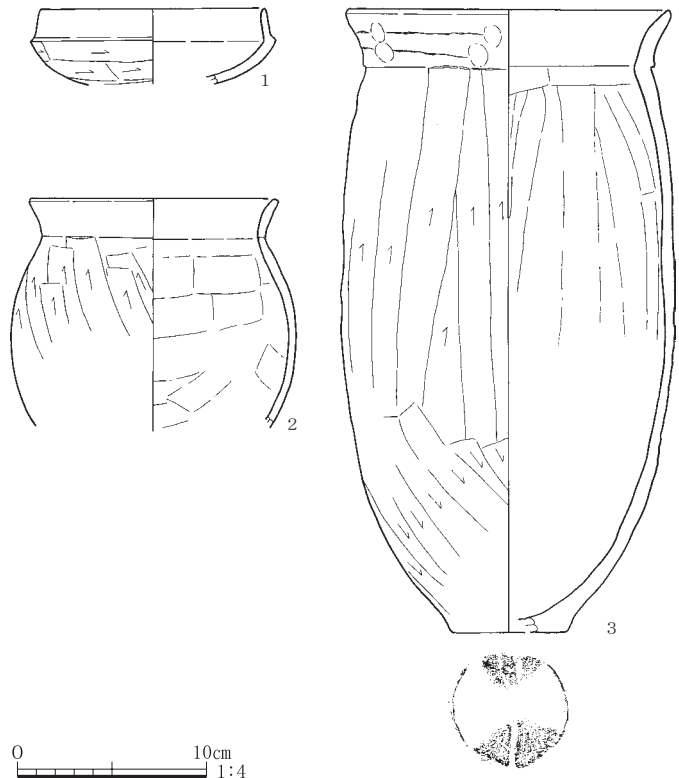
第77図 47号住居跡

47号住居跡 出土遺物観察表

1	ミニチュア	A. 口径(10.5)。底径5.3。器高6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部上半ユビオサエ・下半ヨコナデ。底部木葉痕。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一褐灰色。F. 1/2。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(13.8)。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内一ぶい赤褐色。外一黒褐色。F. 1/2。G. 内外面黒色処理か。内面口縁部直下が痘痕状に剥離する。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.2。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 3/4。H. 覆土。
4	甕	A. 口径(17.9)。底径4.8。器高37.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部木葉痕。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・片岩。E. 内一橙色。外一にぶい橙色。F. 1/2。G. 外面胴部下半二次被熱・粘土附着。H. カマド。
5	須恵器 坏身	A. 口径(11.3)。残存高4.2。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 藤岡産。H. カマド。

48号住居跡(第78・79図、図版12・59)

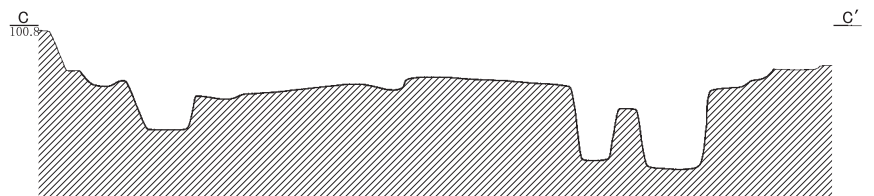
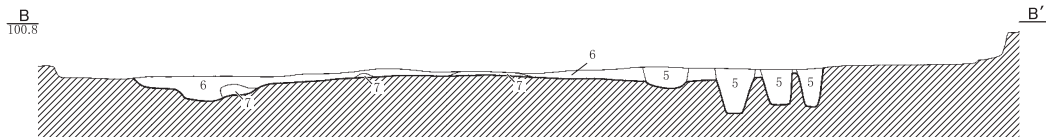
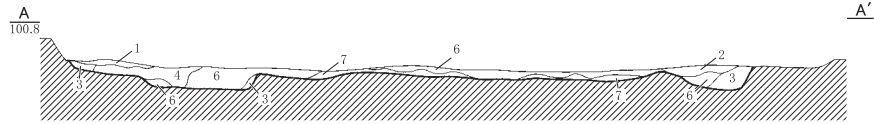
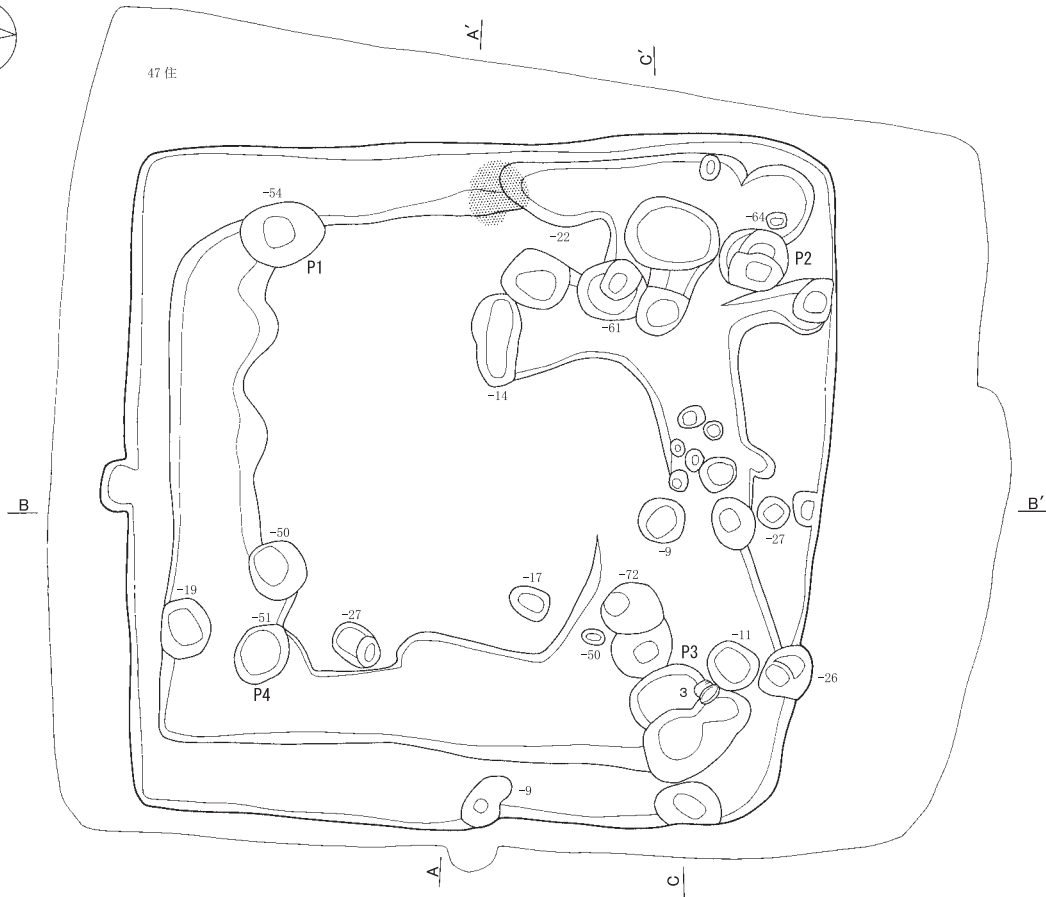
位置：B地点の中央よりやや西に位置している。47号住居跡と重複し、覆土上層を削平されているため、掘り方のみの検出である。形態：平面形は方形を呈する。中央部分が高く、周囲を掘り窪める。主軸方位：N-46° - E。規模：長軸5.56m、短軸5.35m。カマド：焼土が北壁の中央に確認された。カマドの残欠だと思われる。柱穴：多数のピットが配されるが、このうちP1～4が支柱穴であろう。埋没状況：掘り方であるので、人為的な埋没である。遺物：南東コーナー付近のピットより完形遺物が出土した。時期：古墳時代後期。



第78図 48号住居跡 出土遺物

48号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.0)。残存高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一橙色。外一明黄橙色。F. 1/4。H. 覆土。
2	小形甕	A. 口径(13.2)。残存高12.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一赤褐色。F. 口縁部～胴部上半1/2。G. 外面二次被熱。H. 覆土。
3	甕	A. 口径(17.2)。底径(6.0)。器高33.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部タテケズリ。底部木葉痕。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。D. 石英・片岩。E. 内一灰褐色。外一赤褐色。F. 1/2。G. 外面胴部二次被熱。内面胴部にヨゴレ。H. 覆土。



48号住居跡

- 1層 暗赤褐色土層 焼土ブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 暗赤褐色土層 焼土粒子・焼土ブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 4層 暗黄褐色土層 ロームブロックを中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 5層 暗褐色土層 ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 6層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを中量、焼土粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 7層 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりあり。



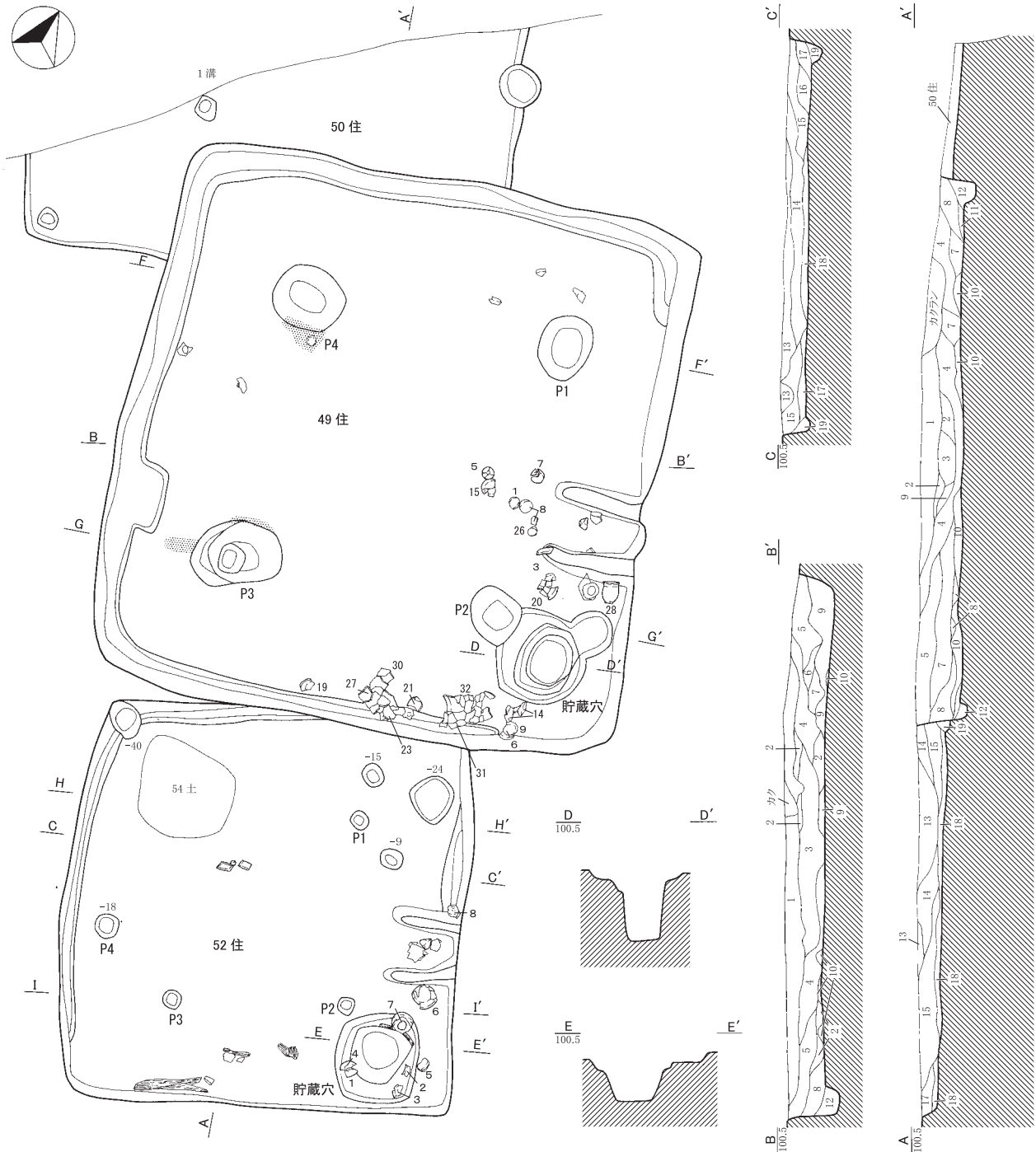
第79図 48号住居跡

49号住居跡（第80・81・82・83図、図版12・59・60）

位置：B地点のほぼ中央に位置している。50号住居跡・52号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-69°-E。規模：長軸5.32m、短軸5.08m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖で、淡褐色粘土と礫を構築材としている。燃烧部は住居内に収まり、その中心には支脚であろう礫が据えられている。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配される円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本確認され、これらが支柱穴だと思われる。周溝：カマド周辺以外からは検出される。埋没状況：自然埋没だが、覆土に焼土を多量に含むため、焼失住居の可能性はある。なお、覆土2層上面において、焼土とともに植物の種子や土器片が出土したとの所見があり、住居の埋没過程において何らかの行為が成されていたと推察される。遺物：カマド前から貯蔵穴に向かって多く出土する。また、南壁沿いに遺物が集中しており、棚状施設からの落下を彷彿とさせる出土状況である。時期：古墳時代後期。

49号住居跡 出土遺物観察表（1）

1	坏	A. 口径 11.4。器高 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・白色粒子。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面、痘痕状に剥離する。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 (11.4)。器高 5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 1/2。G. 内面、痘痕状に剥離する。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 13.1。器高 4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 3/4。H. 覆土。
4	坏	A. 口径 12.0。残存高 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内-橙色。外-にぶい褐色。F. 3/4。G. 外面口縁部と内面が痘痕状に剥離する。H. 覆土。
5	坏	A. 口径 11.8。残存高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 4/5。G. 外面口縁部と内面が痘痕状に剥離する。H. 覆土。
6	坏	A. 口径 12.7。器高 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 内外面の口縁部が痘痕状に剥離する。H. 覆土。
7	坏	A. 口径 12.0。器高 4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 橙色。E. 内外-橙色。F. 完形。G. 内面、口縁部～体部上位に痘痕状の剥離あり。H. 覆土。
8	坏	A. 口径 11.8。器高 4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外-橙色。F. 完形。G. 外面体部にスス付着。H. 覆土。
9	坏	A. 口径 12.2。器高 4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
10	坏	A. 口径 12.1。器高 4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-にぶい褐色。F. 3/4。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。外面口縁部が痘痕状に剥離する。H. 覆土。
11	坏	A. 口径 12.3。器高 4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
12	坏	A. 口径 12.2。器高 4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
13	坏	A. 口径 11.0。器高 4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 4/5。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
14	坏	A. 口径 11.5。器高 4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
15	坏	A. 口径 12.5。器高 5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。内面に黒色付着物あり。H. 覆土。



49号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 2層 暗赤褐色土層 焼土粒子・焼土ブロックを多量に含む。粘性・しまりなし。
- 3層 黒褐色土層 炭化物粒子を多量、焼土粒子を中量含む。粘性・しまりなし。
- 4層 暗褐色土層 焼土粒子を中量、炭化物粒子・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 5層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 6層 暗黄褐色土層 淡褐色粘土ブロックを中量含む。粘性やや強、しまりあり。カマド。
- 7層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロックを微量に含む。粘性・しまりなし。
- 8層 暗褐色土層 ローム粒子を中量含む。粘性・しまりなし。
- 9層 黒褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 10層 黄褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 11層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを中量、炭化物を微量含む。粘性・しまりなし。
- 12層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを中量、炭化物を微量含む。粘性・しまりなし。

52号住居跡

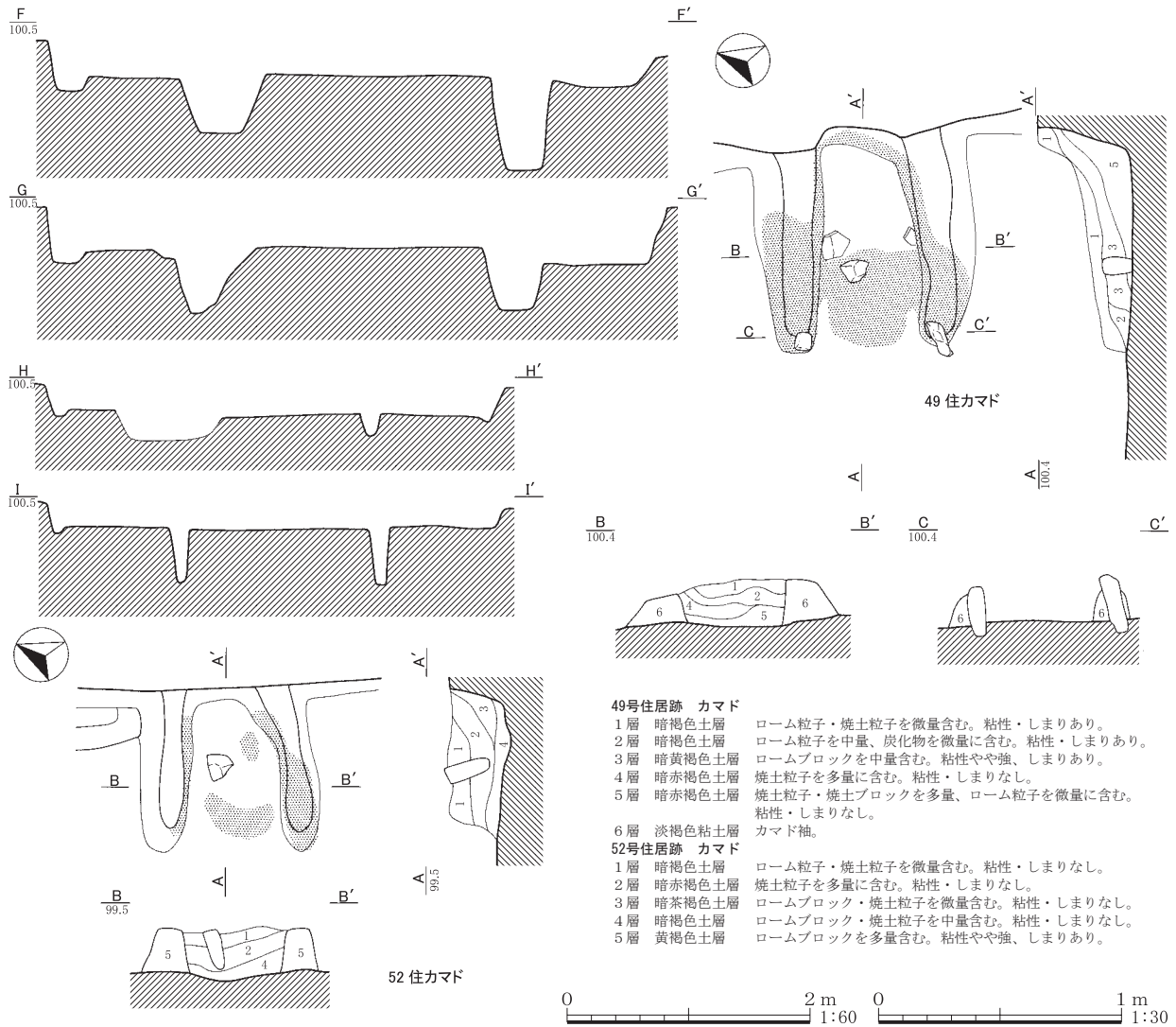
- 13層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 14層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 15層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を中量、ロームブロック・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 16層 黒褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子を中量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 17層 暗黄褐色土層 ロームブロックを中量、炭化物を微量含む。粘性・しまりなし。
- 18層 黒褐色土層 炭化物粒子を中量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 19層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロック・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。

50号住居跡

土層注記なし



第80図 49号・50号・52号住居跡



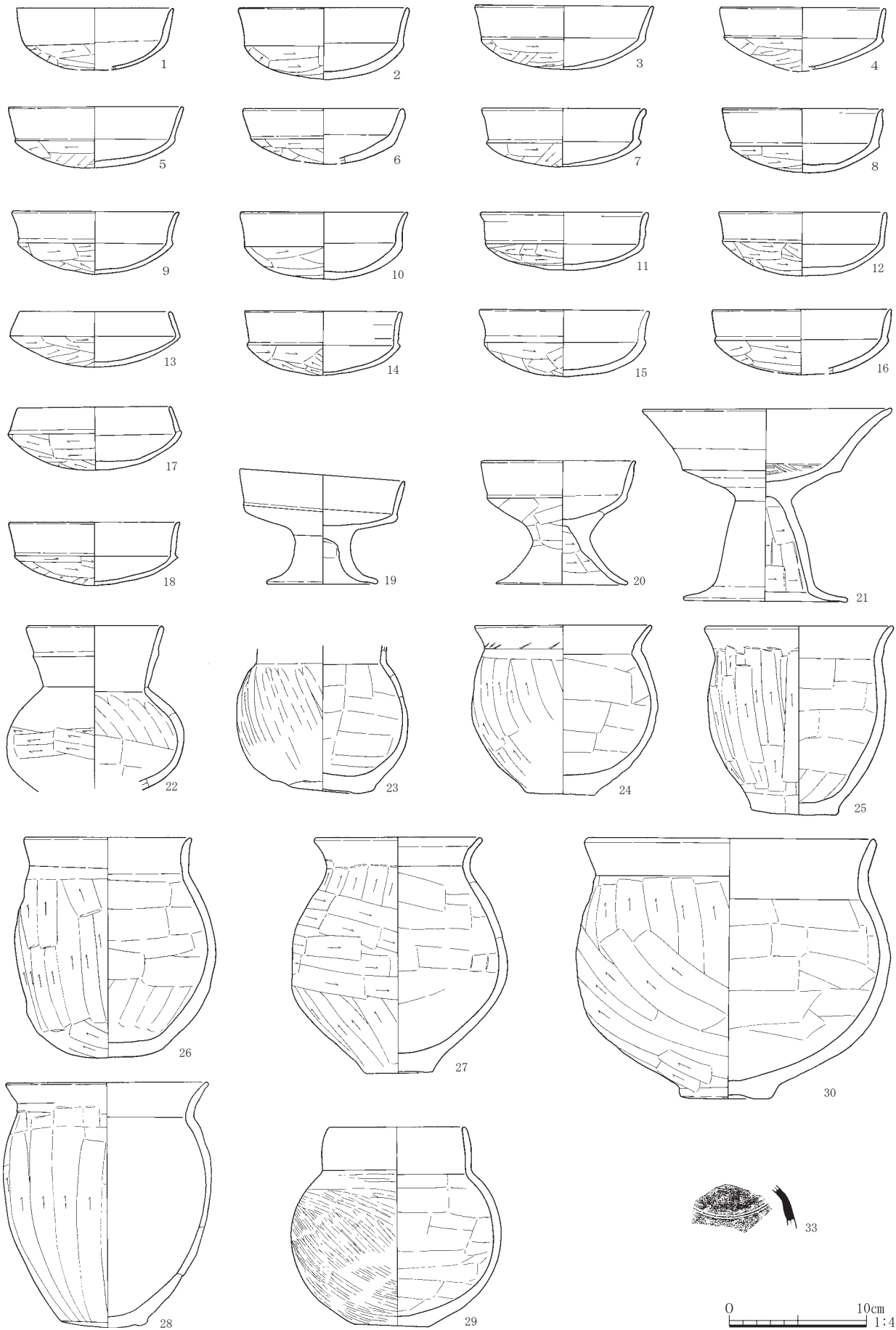
第81図 49号・52号住居跡 カマド

50号住居跡 (第80図、図版12)

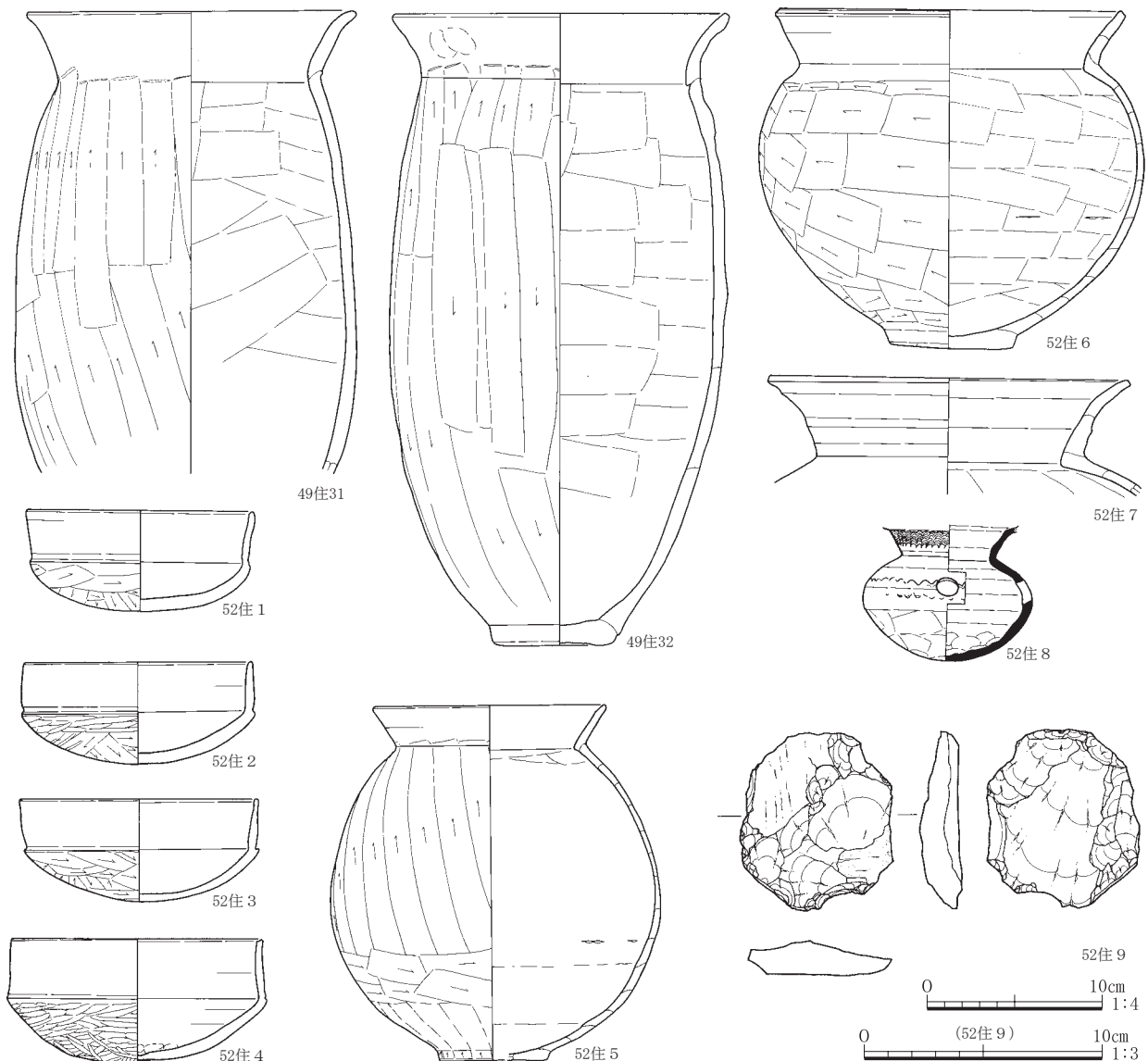
位置：B地点のほぼ中央に位置している。1号溝、49号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。形態：平面形は方形であろう。主軸方位：N-61°-E。規模：長軸4.56m。柱穴：2本確認された。埋没状況：単一土で埋没している。遺物：覆土から土器片が出土している。時期：古墳時代。

52号住居跡 (第80・81・83図、図版13・61)

位置：B地点のほぼ中央に位置している。49号住居跡・51号住居跡と重複し、前者より古く、後者との新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-61.5°-E。規模：長軸3.81m、短軸3.71m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖で、黄褐色土を用いる。燃焼部は住居内に収まり、中央部に支脚であろう礫が据えられる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配される方形のピットが貯蔵穴だと思われる。柱穴：7本確認された。周溝：東壁・西壁の一部で検出される。埋没状況：レンズ状堆積を呈し、自然埋没である。遺物：カマドと貯蔵穴周辺から遺物が出土している。南壁に沿って炭化材が見られる。時期：古墳時代後期。



第82图 49号住居跡 出土遺物 (1)



第83図 49号・52号住居跡 出土遺物(2)

49号住居跡 出土遺物観察表(2)

16	坏	A. 口径 13.0。器高 4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-灰黄褐色。F. 1/2。G. 内外面黒色処理か。H. 覆土。
17	坏	A. 口径 11.1。器高 4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 4/5。H. 覆土。
18	坏	A. 口径 12.4。器高 4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 4/5。H. 覆土。
19	高坏	A. 口径 8.4。底径 8.1。器高 12.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。脚部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英・角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 外面は摩滅する。H. 覆土。
20	高坏	A. 口径 11.3。底径 9.6。器高 9.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、体部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ、下半ヨコナデ。D. 石英・白色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。H. 覆土。
21	高坏	A. 口径 18.2。底径 (12.0)。器高 14.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、口縁部ヨコナデ。体部ハケ・ナデ。脚部上半ヨコケズリ、下半ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 口唇部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
22	埴	A. 口径 10.0。残存高 12.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部上半ヨコナデ、下半ヨコケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメナデ→下位ヨコナデ。D. 石英。E. 内-灰褐色。外-灰褐色。F. 口縁部~胴部中位 1/2。G. 外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
23	小形甕	A. 底径 6.3。残存高 10.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、胴部ケズリ→タテミガキ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁部以外 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
24	小形甕	A. 口径 13.0。底径 5.1。器高 12.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内-灰褐色。外-にぶい橙色。F. 3/4。G. 外面二次被熱。内面胴部上位に带状にヨゴレあり。H. 覆土。

49号住居跡 出土遺物観察表(3)

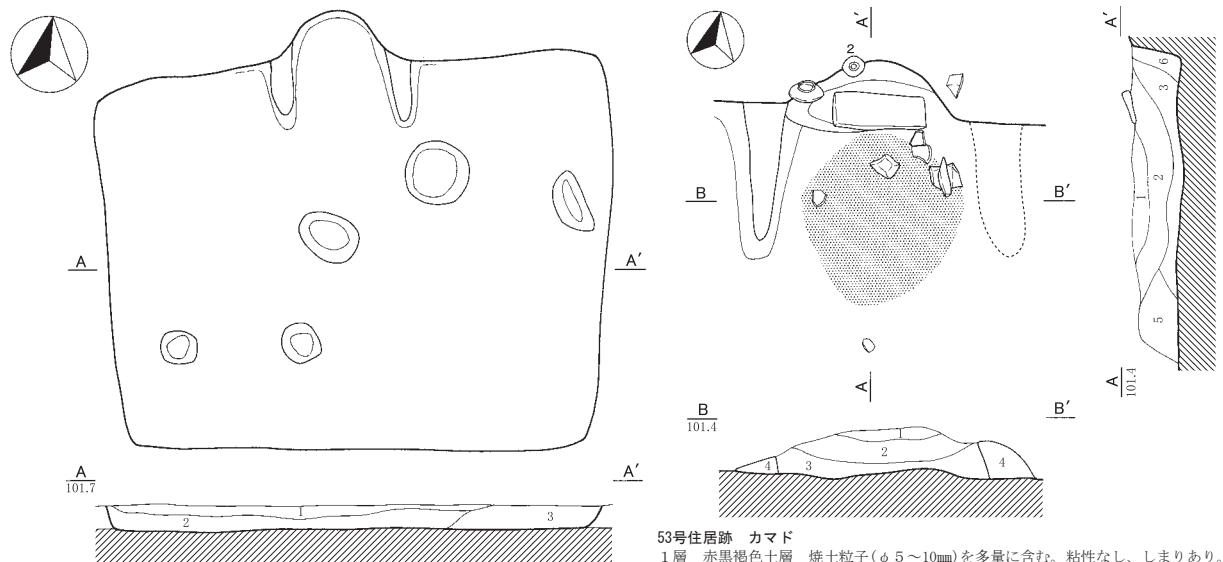
25	小形甕	A. 口径13.7。底径6.4。器高13.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 外面胴部にスス附着。内面胴部上位に帯状にヨゴレあり。H. 覆土。
26	小形甕	A. 口径12.2。器高16.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。下半タテナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 4/5。G. 外面二次被熱。H. 覆土。
27	小形甕	A. 口径12.3。底径5.0。器高17.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・片岩・石英。E. 内外-にぶい橙色。F. 4/5。G. 外面胴部二次被熱・焼成時の黒斑あり。内面胴部ヨゴレあり。H. 覆土。
28	小形甕	A. 口径14.7。底径6.3。器高18.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外-橙色。F. 完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。内面胴部帯状にヨゴレあり。H. 覆土。
29	小形壺	A. 口径(10.0)。底径5.5。器高14.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメミガキ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-にぶい褐色。F. 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
30	鉢	A. 口径21.3。底径6.9。器高19.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英・角閃石・片岩。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部、痘痕状に剥離する。H. 覆土。
31	甕	A. 口径18.8。残存高26.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外-橙色。F. 口縁部～胴部2/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑・スス附着。内面胴部上位に帯状にヨゴレあり。H. 覆土。
32	甕	A. 口径19.3。底径7.1。器高36.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
33	須恵器 甕か	B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→櫛描波状文。内面、回転ナデ。D. 石英。E. 内外-灰色。F. 破片。H. 覆土。

52号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径12.9。器高5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 外面にスス附着。H. 貯蔵穴。
2	坏	A. 口径(13.0)。器高5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→上半ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-にぶい褐色。F. 1/2。G. 内外面に黒色の付着物あり。H. 貯蔵穴。
3	坏	A. 口径13.4。器高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-暗茶褐色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。内面黒色の付着物あり。H. 覆土・貯蔵穴。
4	坏	A. 口径14.2。器高7.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→部分的にミガキ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-暗茶褐色。F. 4/5。G. 外面底部に焼成時の黒斑あり。内外面に黒色の付着物あり(漆か)。H. 貯蔵穴。
5	壺	A. 口径(13.4)。底径6.1。器高20.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。G. 外面二次被熱。H. 貯蔵穴。
6	壺	A. 口径20.0。底径7.1。器高19.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-暗茶褐色。F. 4/5。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	壺	A. 口径20.6。残存高6.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 口縁部のみほぼ完形。H. 貯蔵穴。
8	須恵器 甕	A. 残存高7.9。B. ロクロ成形。C. 外面、頸部回転ナデ→櫛描波状文。胴部上半回転ナデ→櫛描波状文(自然釉で埋没)。胴部下位ケズリ→ナデ。内面、回転ナデ→胴部下位ユビオサエ。D. 白色粒子・黒色粒子。E. 内-黒灰色。外-暗灰色。F. 頸部以下ほぼ完形。G. 内外面自然釉が顕著。H. 覆土。
9	リタッチド フレイク	A. 長7.6。幅6.5。厚1.7。重89.10。D. 黒色安山岩。F. ほぼ完形。H. 覆土。

53号住居跡(第84・85図、図版11・13・61)

位置：B地点の南西に位置している。43号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-4.5°-W。規模：長軸推定3.89m、短軸推定3.06m。カマド：北壁に付設される。袖の残存状況が悪いが、灰黒褐色土を用いる。奥壁部分には、板状の石が据えられている。柱穴：5本確認される。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：カマドから遺物が出土している。時期：平安時代。



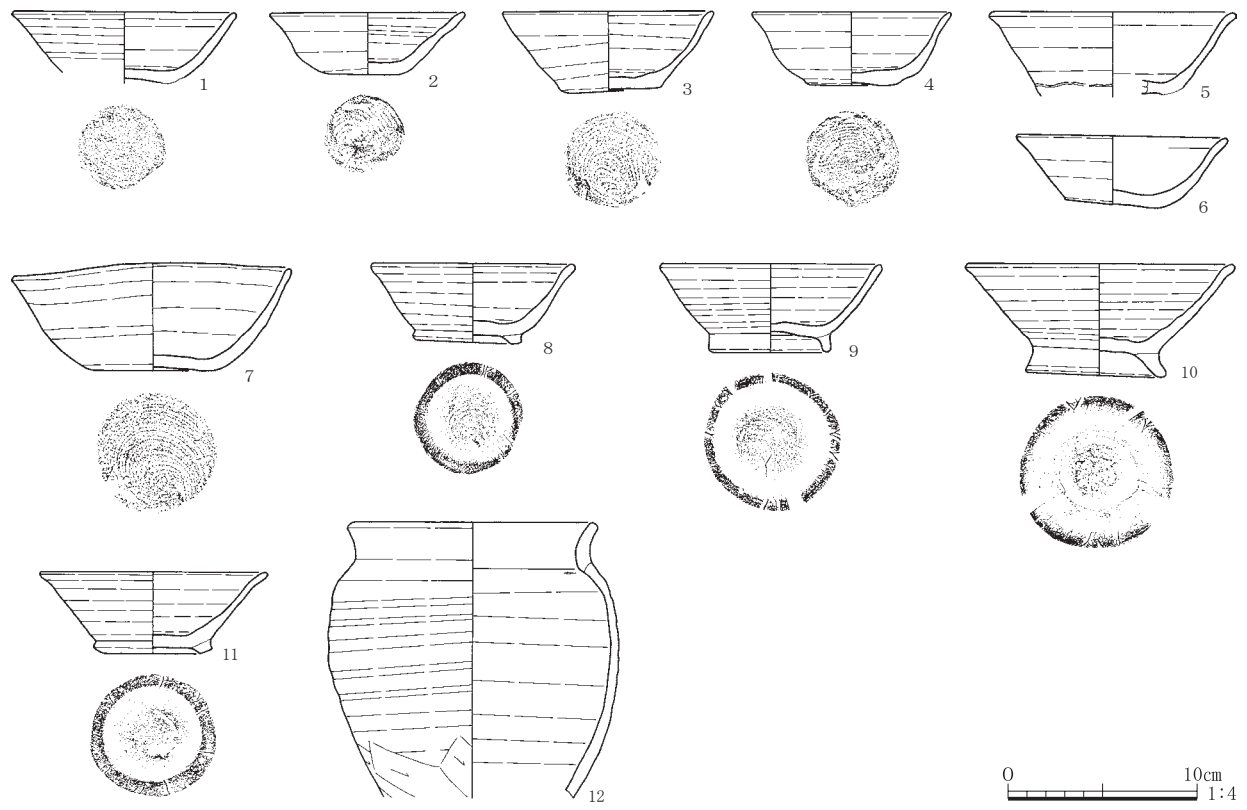
53号住居跡

- 1層 褐色土層 砂礫を中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性やや強、しまりなし。
- 3層 暗褐色土層 灰色粘土を多量に含む。粘性やや強、しまりなし。

53号住居跡 カマド

- 1層 赤黒褐色土層 焼土粒子(φ5~10mm)を多量に含む。粘性なし、しまりあり。
- 2層 灰茶褐色土層 焼土粒子(φ5~7mm)を多量、小礫を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 3層 黒褐色土層 焼土粒子(φ3~5mm)・炭化物粒子(φ5mm)を微量に含む。粘性あり、しまりなし。
- 4層 灰黒褐色土層 カマド袖。
- 5層 黒褐色土層 焼土粒子(φ2~5mm)を多量、小礫を含む。粘性・しまりなし。
- 6層 黒褐色土層 焼土粒子(φ1~2mm)を少量含む。粘性・しまりあり。

第84図 53号住居跡



第85図 53号住居跡 出土遺物

53号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	須恵器 高台付杯	A. 口径 11.8。残存高 3.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付(欠失)。D. 石英・白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 坏部完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
2	須恵器 杯	A. 口径 10.4。底径 4.7。器高 3.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 白色粒子・石英。E. 内外一にぶい黄橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。内面体部に黒色の付着物あり。酸化焰焼成。H. カマド。
3	須恵器 杯	A. 口径 11.2。底径 5.4。器高 4.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・石英。E. 内外一灰黄色。F. 4/5。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。

53号住居跡 出土遺物観察表(2)

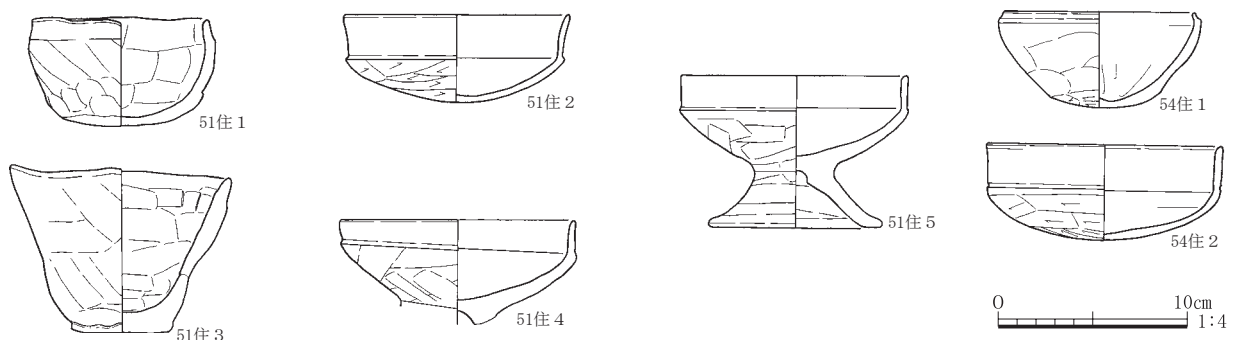
4	須恵器 坏	A. 口径10.6。底径5.0。器高3.9。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英・角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい黄橙色。F. 3/4。G. 内面体部に灰状の付着物あり。酸化焰焼成。H. 覆土。
5	須恵器 高台付坏	A. 口径13.0。残存高4.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付(欠失)。D. 石英・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 坏部1/2。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
6	須恵器 坏	A. 口径(11.0)。底径5.0。器高3.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転ヘラ切り。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰黄褐色。F. 1/2。G. 酸化焰焼成。歪み激しい。H. カマド。
7	須恵器 坏	A. 口径14.8。底径6.6。器高5.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 白色粒子・石英。E. 内外一灰黄色。F. 5/4。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
8	須恵器 高台付坏	A. 口径11.8。底径6.4。器高4.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一明褐色。外一橙色。F. 完形。G. 酸化焰焼成。内面体部下半・口唇部に黒色付着物あり。H. 覆土。
9	須恵器 高台付坏	A. 口径10.8。底径5.8。器高4.2。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰白色。F. ほぼ完形。G. 還元焰焼成。H. 覆土。
10	須恵器 高台付坏	A. 口径14.2。底径7.4。器高6.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 石英・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 3/4。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
11	須恵器 高台付坏	A. 口径(12.0)。底径6.2。器高4.3。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。内面、回転ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/3。G. 内面体部にタール状の付着物あり。酸化焰焼成。H. 覆土。
12	甕	A. 口径13.2。残存高14.6。B. 粘土紐積み上げ→ロクロ成形。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部回転ナデ→下位ナナメケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部回転ナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内一にぶい黄橙色。外一にぶい橙色。F. 口縁部～胴部2/3。H. 覆土。

51号住居跡(第86・87図、図版12・60)

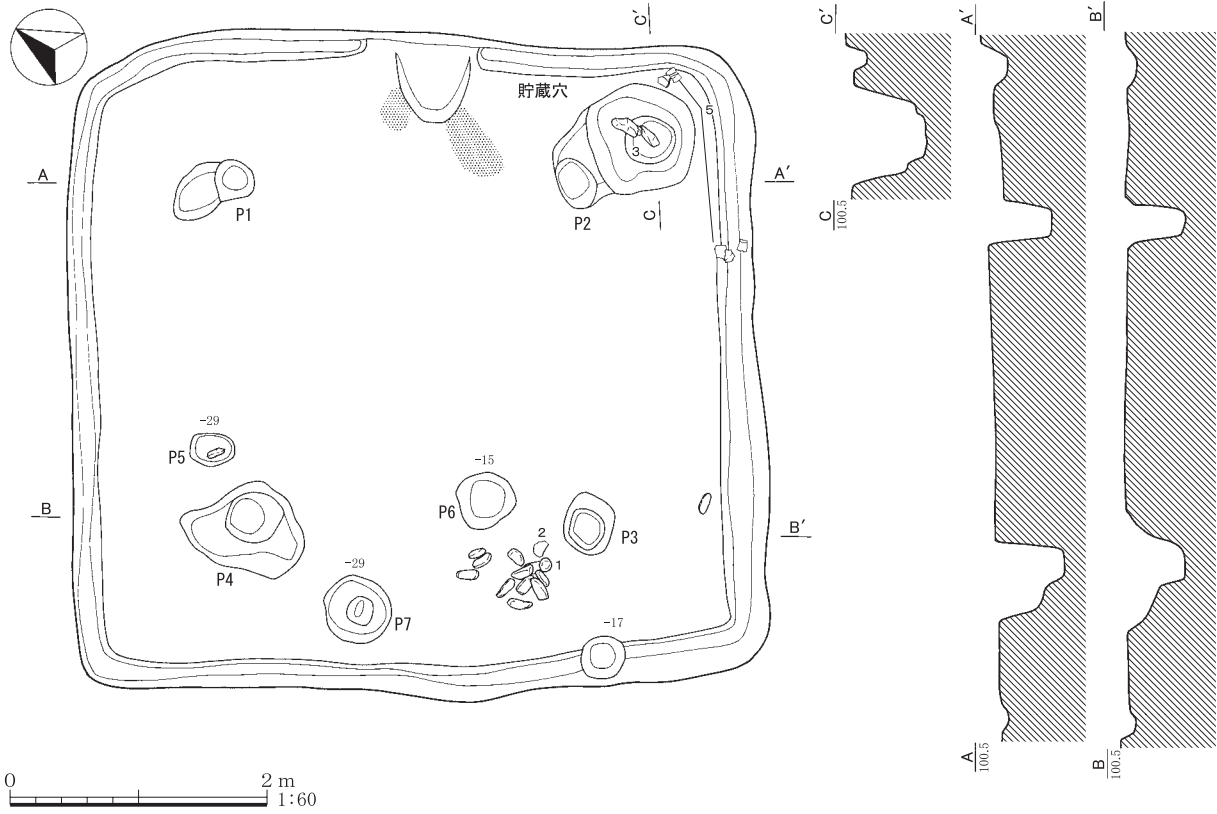
位置：B地点のほぼ中央に位置している。52号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-29°-E。長軸5.51m、短軸5.19m。カマド：北壁に付設される。焼土と掘り方が残存する程度で袖等は不明。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配されるピットが貯蔵穴だと思われる。柱穴：8本確認される。P1~4が支柱穴であろう。周溝：カマド部分以外で検出される。埋没状況：不明。遺物：P3・P6付近で編み物石と遺物が出土している。時期：古墳時代後期。

54号住居跡(第86・88図、図版13・61)

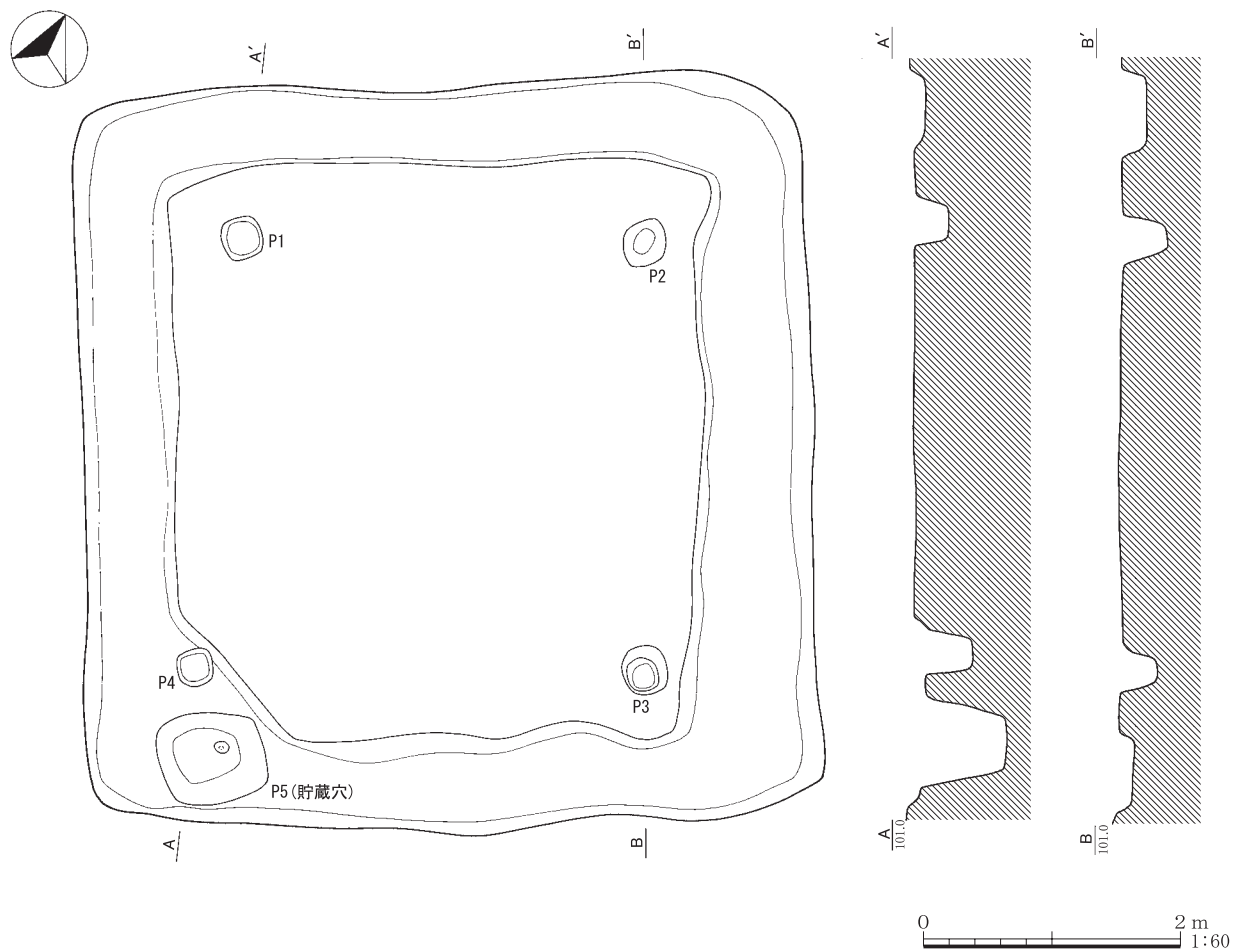
位置：B地点中央よりやや南西寄りですべて単独で検出された。覆土上層は削平され、掘り方のみの検出である。形態：平面形は方形を呈する。中央部分が高く、周囲を掘り窪める構造となる。主軸方位：N-26.5°-W。規模：長軸5.86m、短軸5.77m。柱穴：5本検出された。P1~4が支柱穴で、P5は貯蔵穴であろう。埋没状況：不明。遺物：覆土内より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第86図 51号・54号住居跡 出土遺物



第87图 51号住居跡



第88图 54号住居跡

51号住居跡 出土遺物観察表

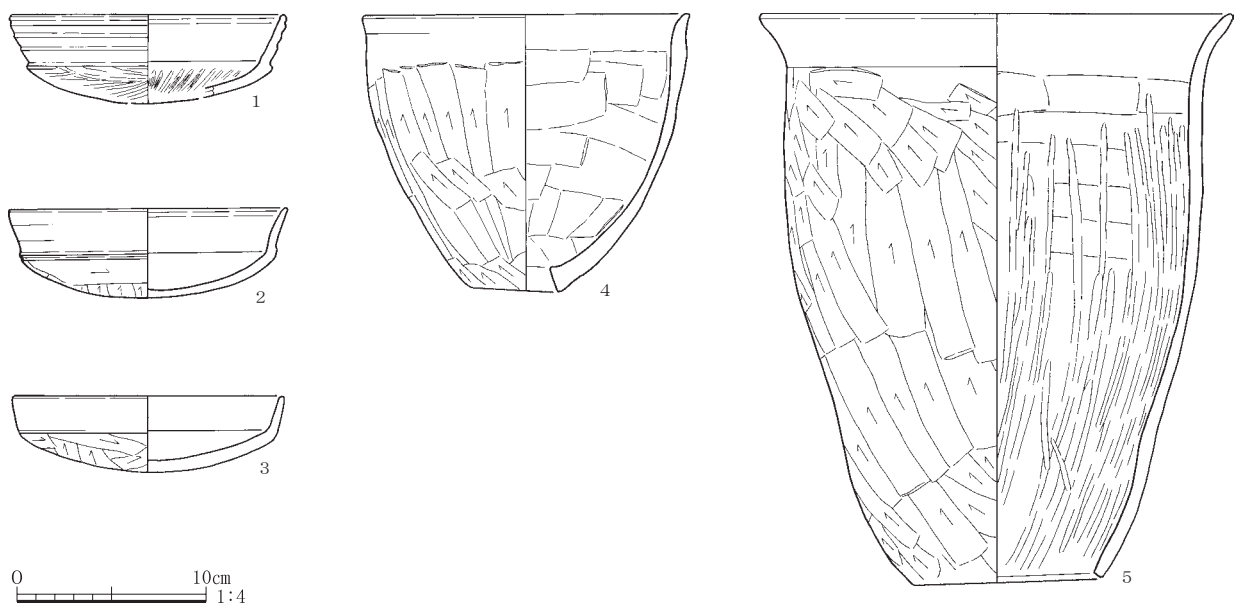
1	小形碗	A. 口径9.4。底径5.7。器高5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナメナデ→下位ユビオサエ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内-褐灰色。外-にぶい赤褐色。F. 4/5。G. 内面胴部にコゲ。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.0。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・雲母・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	鉢	A. 口径11.6。底径5.3。器高10.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ナデ。底部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・雲母。E. 内外-にぶい橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土・貯蔵穴。
4	高坏	A. 口径(12.5)。残存高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 坏部2/3。H. 覆土。
5	高坏	A. 口径12.1。底径9.2。器高10.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 雲母・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 2/3。H. 覆土。

54号住居跡 出土遺物観察表

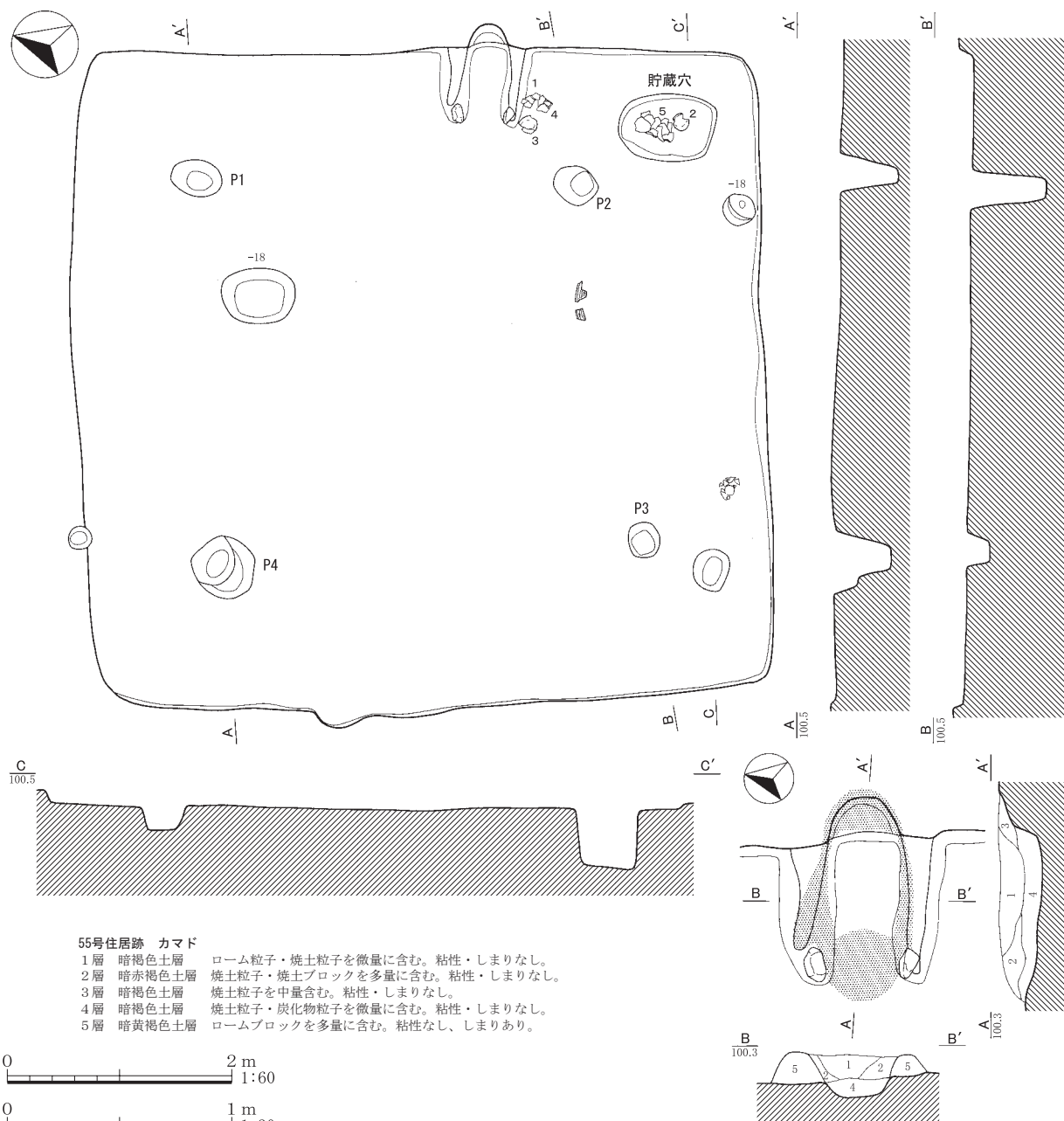
1	坏	A. 口径10.0。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~体部上半ヨコナデ。体部下半~底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 完形。H. 貯蔵穴。
2	坏	A. 口径(12.4)。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/3。H. 覆土。

55号住居跡 (第89・90図、図版13・14・61)

位置：B地点のほぼ中央に位置している。重複もなく単独で検出された。北壁から東壁の一部は削平を受け、消滅している。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-73.5° - E。規模：長軸6.37m、短軸5.95m。カマド：東壁に付設される。燃烧部は住居内に収まり、奥壁は住居壁の立ち上がりと一致する。煙道は住居外へと延びて緩やかな立ち上りを示す。袖は暗黄褐色土を用いた付け袖で、焚き口部分には礫を構築材としている。貯蔵穴：カマドに向かって右側に楕円形のピットがあり、これが貯蔵穴であろう。柱穴：8本確認される。P1~4が支柱穴である。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドや貯蔵穴を中心として南半分に散在して出土する。時期：古墳時代後期。



第89図 55号住居跡 出土遺物



第90図 55号住居跡

55号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 14.6。残存高 4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面、ヨコナデ→体部放射状ミガキ。D. 白色粒子。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 4/5。G. 内外面黒色処理。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 14.8。器高 4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴。
3	坏	A. 口径 14.3。器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外-赤褐色・にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面黒色処理か。H. 覆土。
4	小形甎	A. 口径 17.3。底径 4.5。器高 14.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ユビオサエ→ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。底部ケズリ。D. 石英・角閃石・片岩。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	大形甎	A. 口径 25.0。底径 10.0。器高 30.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテ→ナメケズリ。内面、ヨコナデ→胴部タテミガキ。D. 赤色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。

56号住居跡（第91・92図、図版14・61・62）

位置：B地点のほぼ中央に位置している。57号住居跡・61号住居跡と重複し、前者よりも新しい。61号住居跡はすでに床面まで削平されていたため新旧関係も不明。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-81.5°-W。規模：長軸5.63m、短軸5.48m。カマド：西壁に付設される。袖には淡褐色粘土を用いる。燃焼部は住居外へと延び、内部には支脚であろう礫が2つ並行して据えられている。貯蔵穴：カマドに向かって左側に位置するピットが貯蔵穴だと思われる。柱穴：6本確認される。P1～4が支柱穴であろう。埋没状況：レンズ状堆積の自然埋没を呈する。遺物：カマドと貯蔵穴周辺からまとまって出土している。時期：古墳時代後期。

57号住居跡（第91・92図、図版14・62）

位置：B地点に位置している。56号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-46°-E。規模：長軸5.37m、短軸5.41m。カマド：東壁に付設される。袖は淡黄褐



第91図 56号・57号住居跡 出土遺物



56号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・白色粒子・焼土粒子・小礫を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 ローム粒子・白色粒子を中量含む。粘性・しまりなし。
- 3層 暗茶褐色土層 ローム粒子を中量含む。粘性なし、しまりあり。
- 4層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロック・焼土粒子・小礫を微量に含む。粘性なし、しまりあり。
- 5層 暗茶褐色土層 ロームブロック・小礫を中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 6層 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量、炭化物・小礫を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。

57号住居跡

- 7層 暗茶褐色土層 ロームブロックを中量、焼土粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 8層 暗褐色土層 焼土粒子を中量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 9層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 10層 黒褐色土層 ローム粒子を中量、炭化物を微量含む。粘性・しまりなし。



第92図 56号・57号・61号住居跡

色粘土を用いる。焼部は住居内で収まり、奥壁は住居の壁と一致する。貯蔵穴：カマドに向かって右側に不整形のピットがあり、これが貯蔵穴である。柱穴：4本確認される。56号住居跡内のP6も本遺構の支柱穴だと思われる。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：貯蔵穴と東壁の間に遺物が集中する以外は全体に散在している。時期：古墳時代後期。

61号住居跡（第92図）

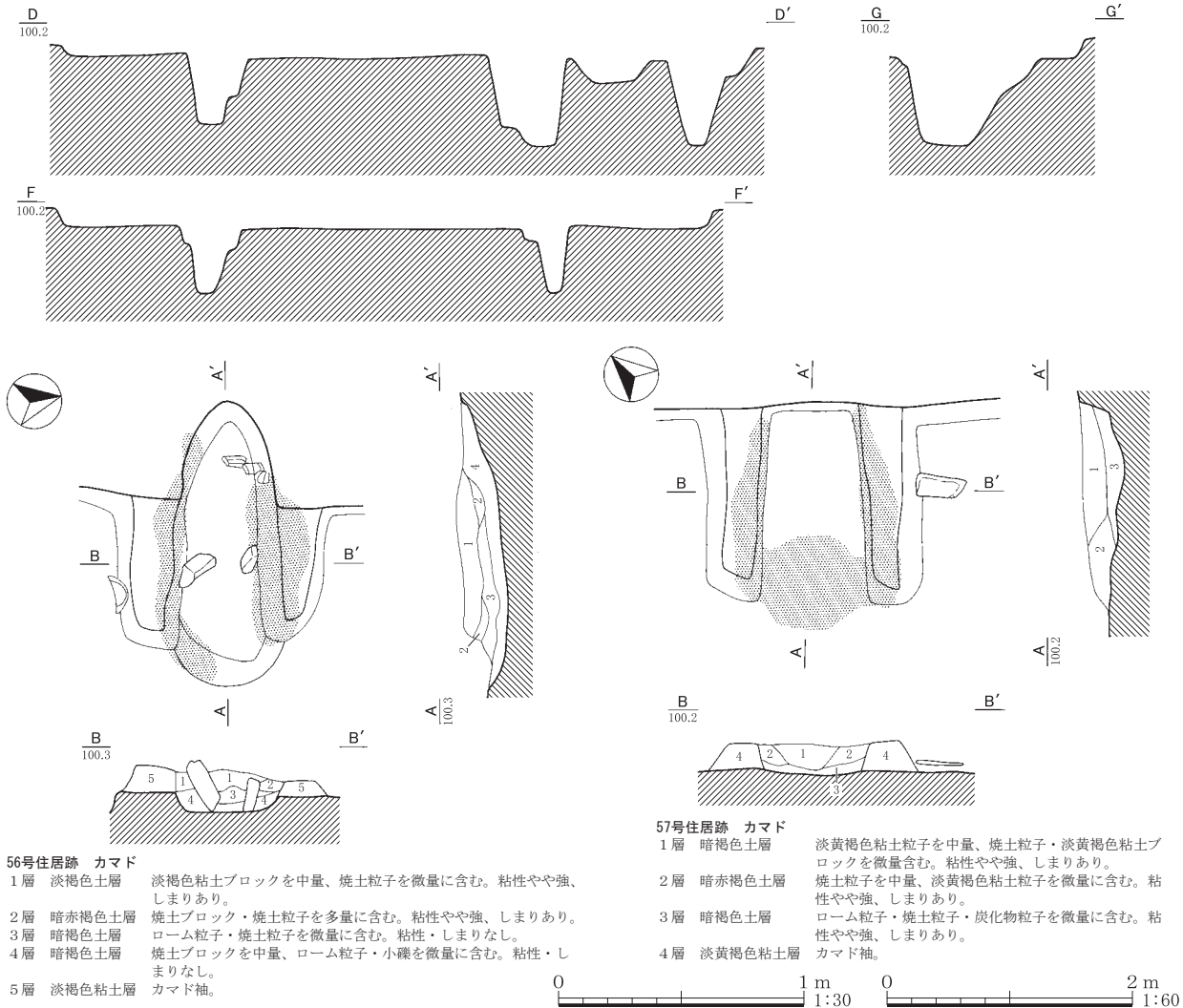
位置：B地点のほぼ中央に位置している。すでに床面下まで削平されているため、詳細は不明。形態：平面プランは確認されており、方形である。主軸方位N-23.5°-W。長軸3.22m。時期：古墳時代か。

56号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.0)。器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内外-橙色。F. 4/5。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(12.9)。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・橙色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.2。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内-褐色。外-灰褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面黒色処理。H. 覆土。
4	坏	A. 口径13.2。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部調整摩滅。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 完形。H. 覆土。
5	小形壺	A. 口径(11.9)。底径(6.2)。器高16.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメケズリ→下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外-橙色。F. 1/2。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	鉢	A. 口径(20.1)。残存高12.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい赤褐色。F. 1/4。G. 外面二次被熱。内面胴部中に帯状にヨゴレ。H. 覆土。
7	甕	A. 口径(19.1)。底径4.2。器高36.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部二次被熱・焼成時の黒斑あり。内面胴部下半にヨゴレ。H. 貯蔵穴。
8	甕	A. 口径17.4。底径4.6。器高32.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 4/5。G. 外面胴部二次被熱・粘土付着。内面、胴部下位ヨゴレ。H. 貯蔵穴。

57号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径13.2。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部摩滅。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 内外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(12.3)。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部摩滅。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 内外面、摩滅。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.6。器高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・赤色粒子。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	小形壺	A. 口径(13.5)。底径8.4。器高15.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメナデ→上位・下位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内-褐灰色。外-にぶい橙色。F. 3/4。G. 外面二次被熱。内面胴部にヨゴレ。H. 覆土。
5	碗	A. 口径15.4。器高9.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部上半ヨコナデ。下半ケズリ。内面、ヨコナデ→体部上半ヨコミガキ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面焼成時の黒斑あり。H. 覆土。



56号住居跡 カマド

- 1層 淡褐色土層 淡褐色粘土ブロックを中量、焼土粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 暗赤褐色土層 焼土ブロック・焼土粒子を多量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 4層 暗褐色土層 焼土ブロックを中量、ローム粒子・小礫を微量に含む。粘性・しまりなし。
- 5層 淡褐色粘土層 カマド袖。

57号住居跡 カマド

- 1層 暗褐色土層 淡黄褐色粘土粒子を中量、焼土粒子・淡黄褐色粘土ブロックを微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 暗赤褐色土層 焼土粒子を中量、淡黄褐色粘土粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 4層 淡黄褐色粘土層 カマド袖。

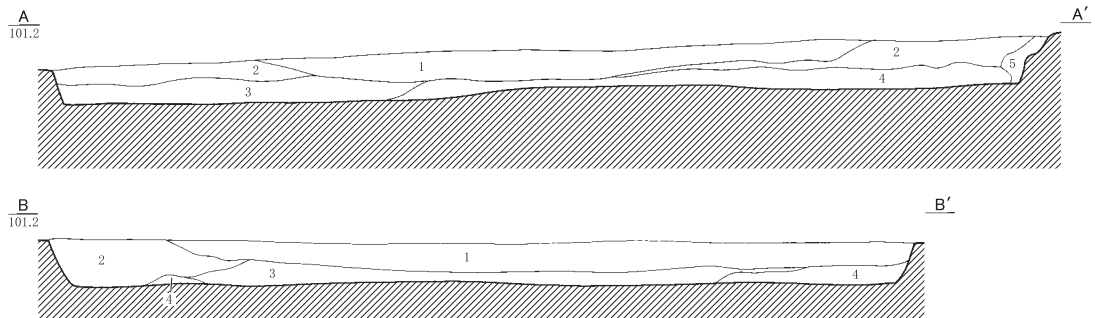
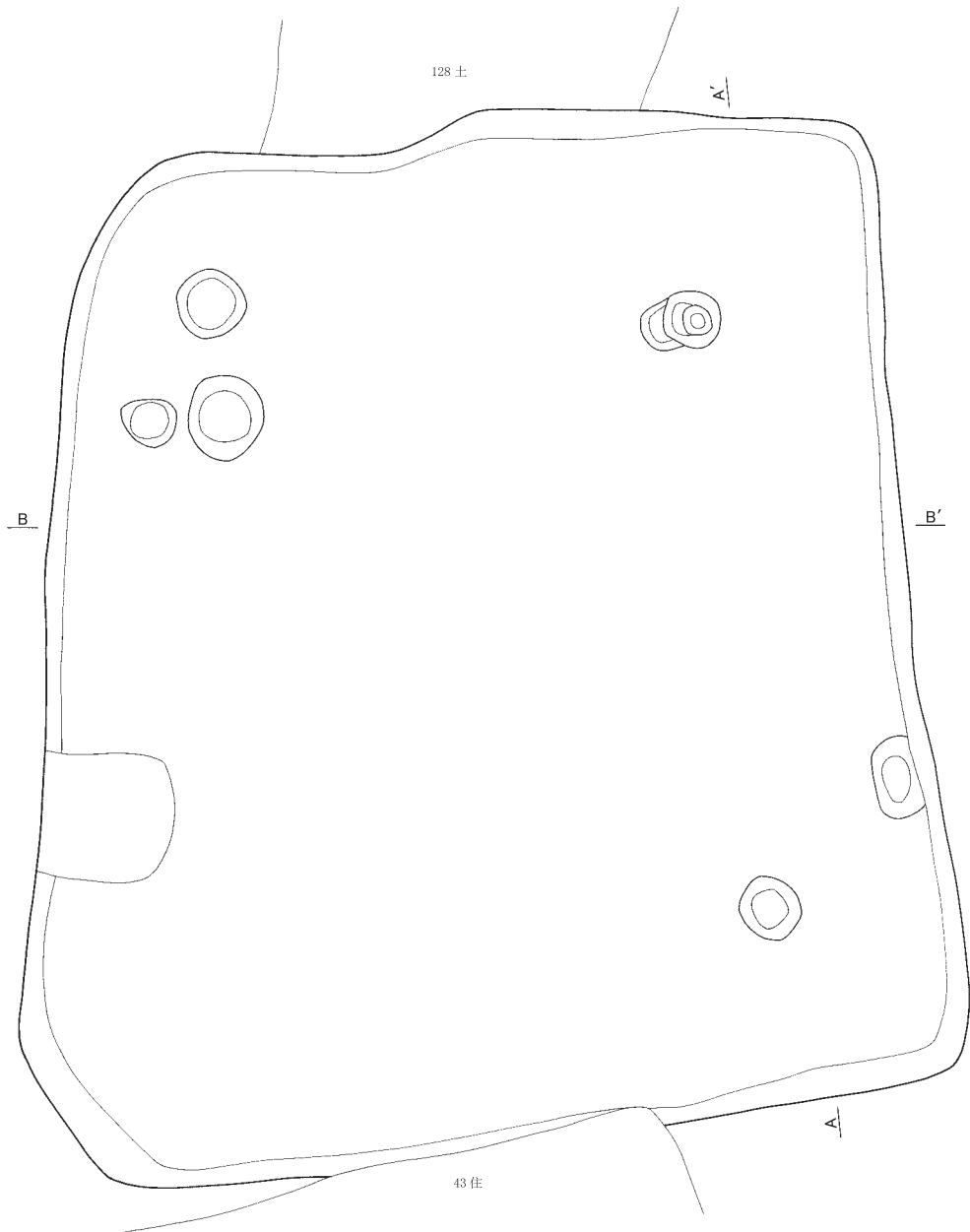
第93図 56号・57号住居跡 カマド

58号住居跡 (第94・95図、図版14・15・62)

位置：B地点の南西に位置している。43号住居跡と重複するが新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-82°-W。長軸8.01m、短軸6.75m。カマド：西壁に付設される。柱穴：6本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土から土師器・須恵器が出土している。石器は流れ込みだろう。時期：古墳時代後期。

58号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	坏	A. 口径 12.3。残存高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-にぶい褐色。外-明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 (11.8)。器高 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 (14.3)。残存高 4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・赤色粒子。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 4/5。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	坏	A. 口径 13.6。器高 5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
5	坏	A. 口径 (14.3)。残存高 4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内-灰黄褐色。外-褐灰色。F. 1/2。G. 内外面黒色処理か。口唇部が摩耗する。H. 覆土。
6	坏	A. 口径 (14.3)。器高 4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。

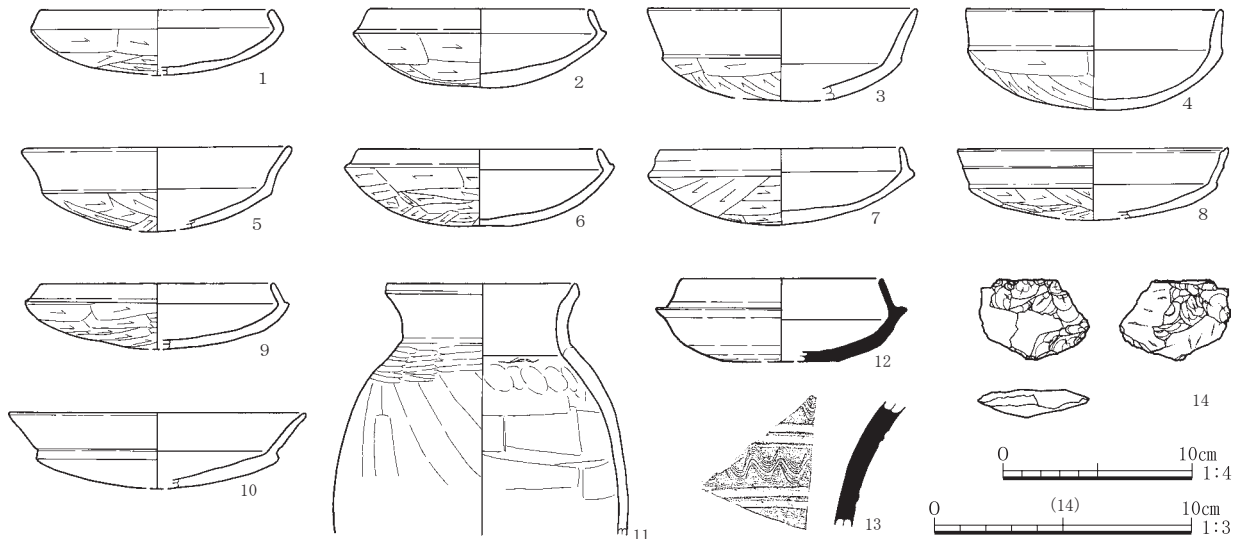


58号住居跡

- | | | |
|----|--------|---|
| 1層 | 黒褐色土層 | ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。 |
| 2層 | 暗褐色土層 | ローム粒子・ロームブロック(φ~10mm)・白色粒子(φ~4mm)を多量、焼土ブロック(φ~4mm)を少量含む。粘性・しまりあり。 |
| 3層 | 褐灰色土層 | ローム粒子・白色粒子・炭化物ブロック(φ~4mm)を多量に含む。粘性・しまりあり。 |
| 4層 | 黄灰褐色土層 | ローム粒子・焼土粒子・褐鉄を多量に含む。粘性・しまりなし。 |
| 5層 | 灰褐色土層 | ローム粒子と焼土粒子が主体。粘性・しまりあり。 |



第94図 58号住居跡



第95図 58号住居跡 出土遺物

58号住居跡 出土遺物観察表(2)

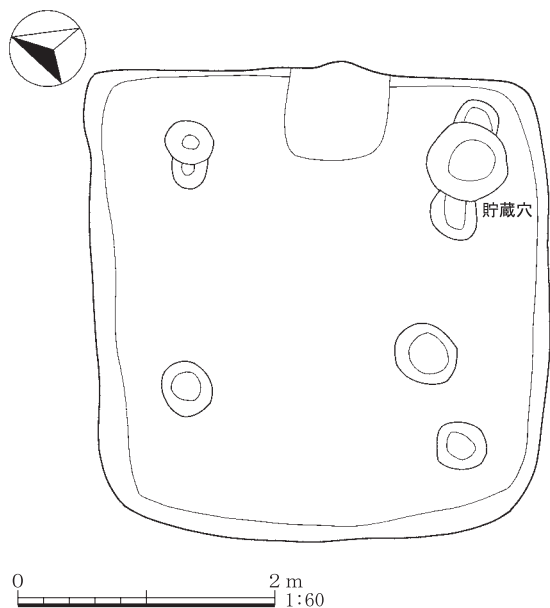
7	坏	A. 口径(12.9)。器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. 2/3。H. 覆土。
8	坏	A. 口径(14.3)。残存高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
9	坏	A. 口径(12.4)。残存高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい黄褐色。F. 4/5。H. 覆土。
10	坏	A. 口径(15.7)。残存高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→摩滅。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 内外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
11	壺	A. 口径10.0。残存高13.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→上位ヨコミガキ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ユビオサエ、中位ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内一暗灰黄色。外一橙色。F. 口縁部～胴部上半3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑と二次被熱あり。H. 覆土。
12	須恵器 坏身	A. 口径(10.8)。残存高4.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい黄色。F. 1/5。G. 藤岡産か。H. 覆土。
13	須恵器 甕	B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→沈線・櫛描波状文。内面、回転ナデ。D. 白色粒子。E. 内一黄褐色。外一灰色。F. 破片。G. 内面に自然釉。H. 覆土。
14	リタッチド フレイク	A. 長3.2。幅4.4。厚1.1。重15.77。D. 石英。F. 完形。G. 礫皮あり。H. 覆土。

59号住居跡(第96・97図、図版15・62)

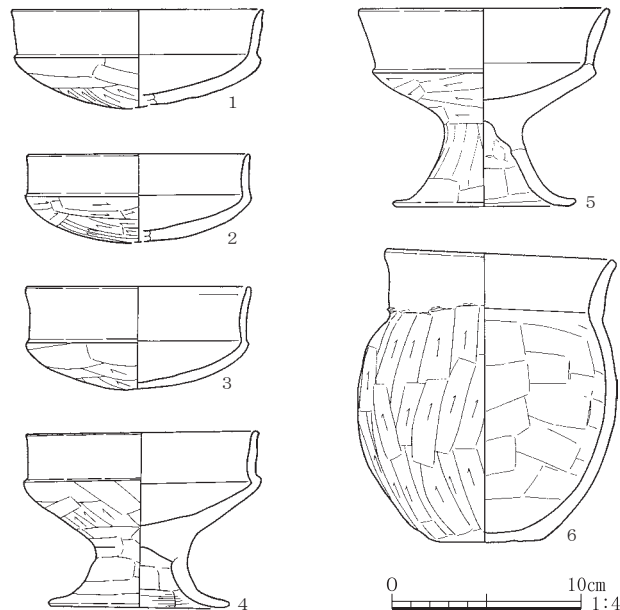
位置：B地点のほぼ中央に位置し、単独で検出された。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-74°-E。規模：長軸3.72m、短軸3.59m。カマド：東壁に付設される。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：住居の四隅を中心に7本確認された。埋没状況：不明。遺物：貯蔵穴内から土師器が出土している。時期：古墳時代後期。

59号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	坏	A. 口径(13.4)。残存高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・白色粒子。E. 内一にぶい赤褐色。外一にぶい橙色。F. 3/4。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(11.9)。残存高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/2。H. 覆土。
3	坏	A. 口径(12.0)。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・白色粒子。E. 内一橙色。外一にぶい橙色。F. 4/5。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。内面体部に黒色の付着物あり。H. 覆土。
4	高坏	A. 口径12.3。底径9.6。器高9.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ナデ。脚部ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・雲母。E. 内一赤褐色。外一にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面にタール状の付着物あり。H. 覆土。



第96図 59号住居跡



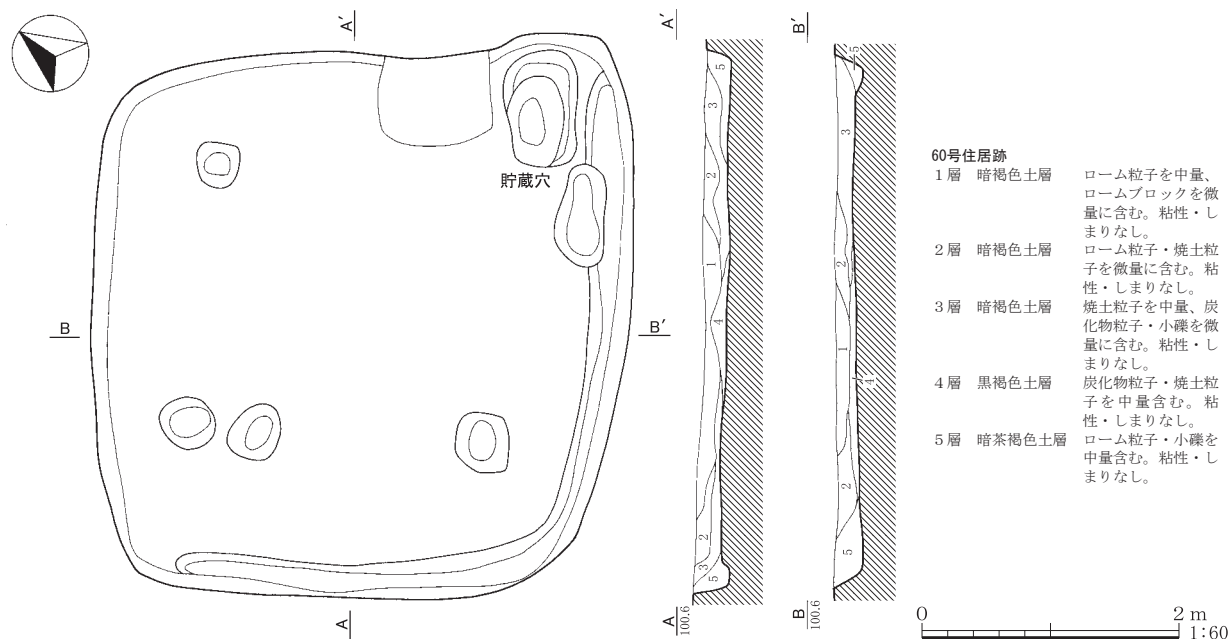
第97図 59号住居跡 出土遺物

59号住居跡 出土遺物観察表 (2)

5	高坏	A. 口径(13.2)。底径(9.8)。器高10.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。脚部タテナデ→下半ヨコナデ。内面、ヨコナデ。脚部上半ユビオサエ。D. 片岩。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/2。G. 外面口縁部に焼成時の黒斑あり。内面体部が痘痕状に剥離する。H. 覆土。
6	小形甕	A. 口径12.3。底径6.0。器高15.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ→ナデ。D. 片岩・石英・赤色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. 4/5。G. 内面胴部に焼成時の黒斑あり。外面二次被熱。H. 覆土。

60号住居跡 (第98・99図、図版15・63)

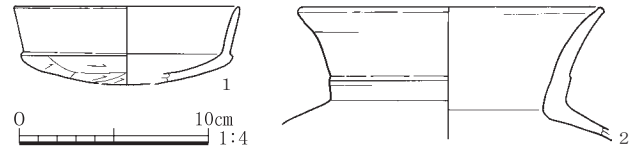
位置：B地点のほぼ中央に位置している。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-55°-E。規模：長軸4.31m、短軸4.19m。カマド：東壁に付設される。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配されるピットが貯蔵穴であろう。柱穴：5本確認される。周溝：西～南壁にかけて検出される。埋没状況：レンズ状



第98図 60号住居跡

- 60号住居跡
- 1層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロックを微量に含む。粘性・しまりなし。
 - 2層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
 - 3層 暗褐色土層 焼土粒子を中量、炭化物粒子・小礫を微量に含む。粘性・しまりなし。
 - 4層 黒褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子を中量含む。粘性・しまりなし。
 - 5層 暗茶褐色土層 ローム粒子・小礫を中量含む。粘性・しまりなし。

堆積の自然埋没を呈する。遺物：覆土から土器が出土している。時期：古墳時代後期。



第99図 60号住居跡 出土遺物

60号住居跡 出土遺物観察表

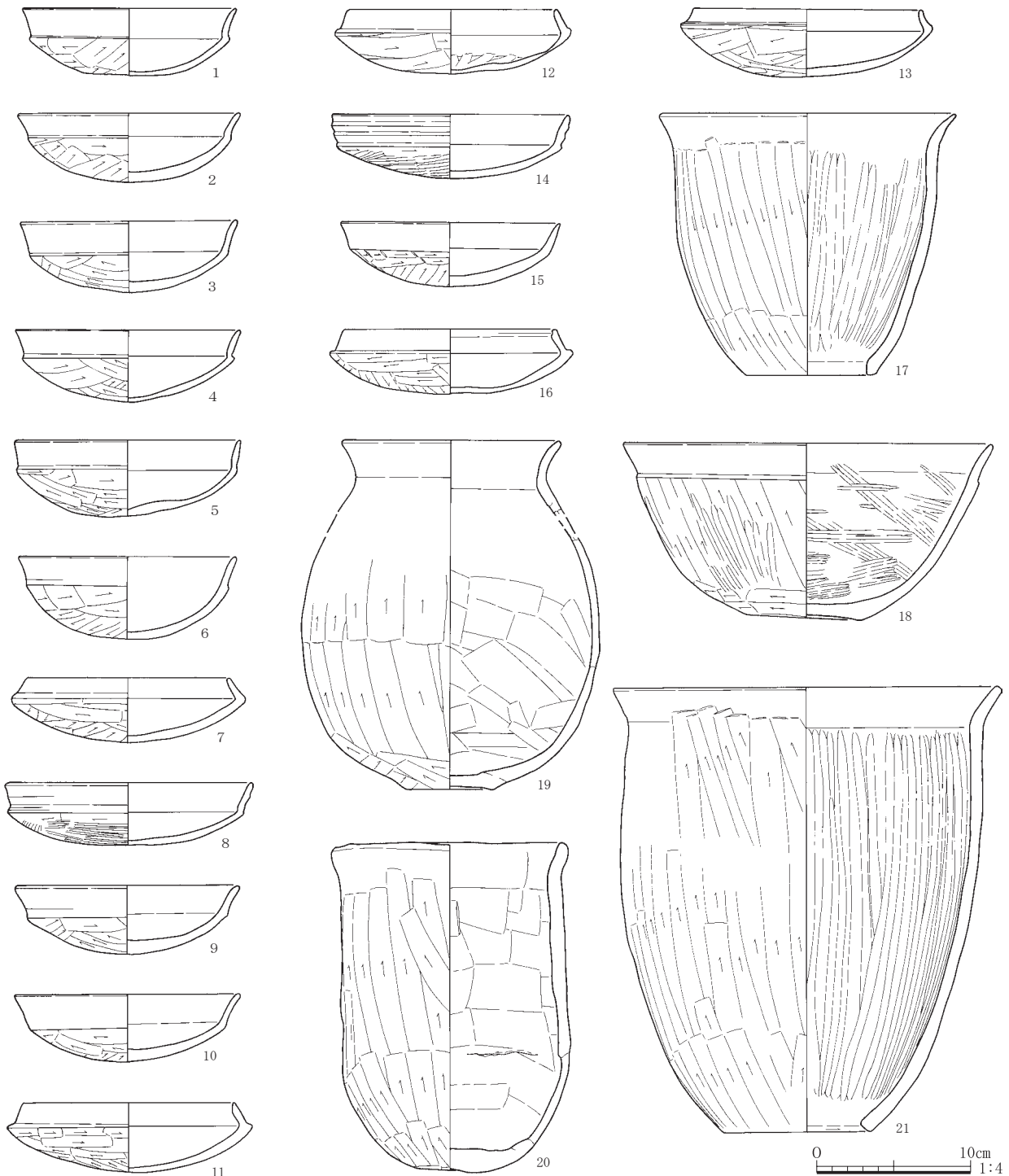
1	坏	A. 口径(12.0)。残存高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・石英。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 内面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	壺	A. 口径16.2。残存高7.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 口縁部4/5。H. 覆土。

62号住居跡 (第100・101図、図版16・63)

位置：B地点のほぼ中央に位置している。7号掘立柱建物跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-90° - E。規模：長軸5.82m、短軸5.70m。カマド：東壁に付設される。袖には淡褐色土を用いる。煙道は住居外に延び、燃焼部には支脚と思われる礫が据えられる。貯蔵穴：カマドに向かって右側で検出される。北側にテラスを持つ方形のピットである。柱穴：7本確認される。このうちP1~4は主柱穴であろう。埋没状況：不明。遺物：カマドの右脇から貯蔵穴周辺に完形遺物が集中する。時期：古墳時代後期。

62号住居跡 出土遺物観察表 (1)

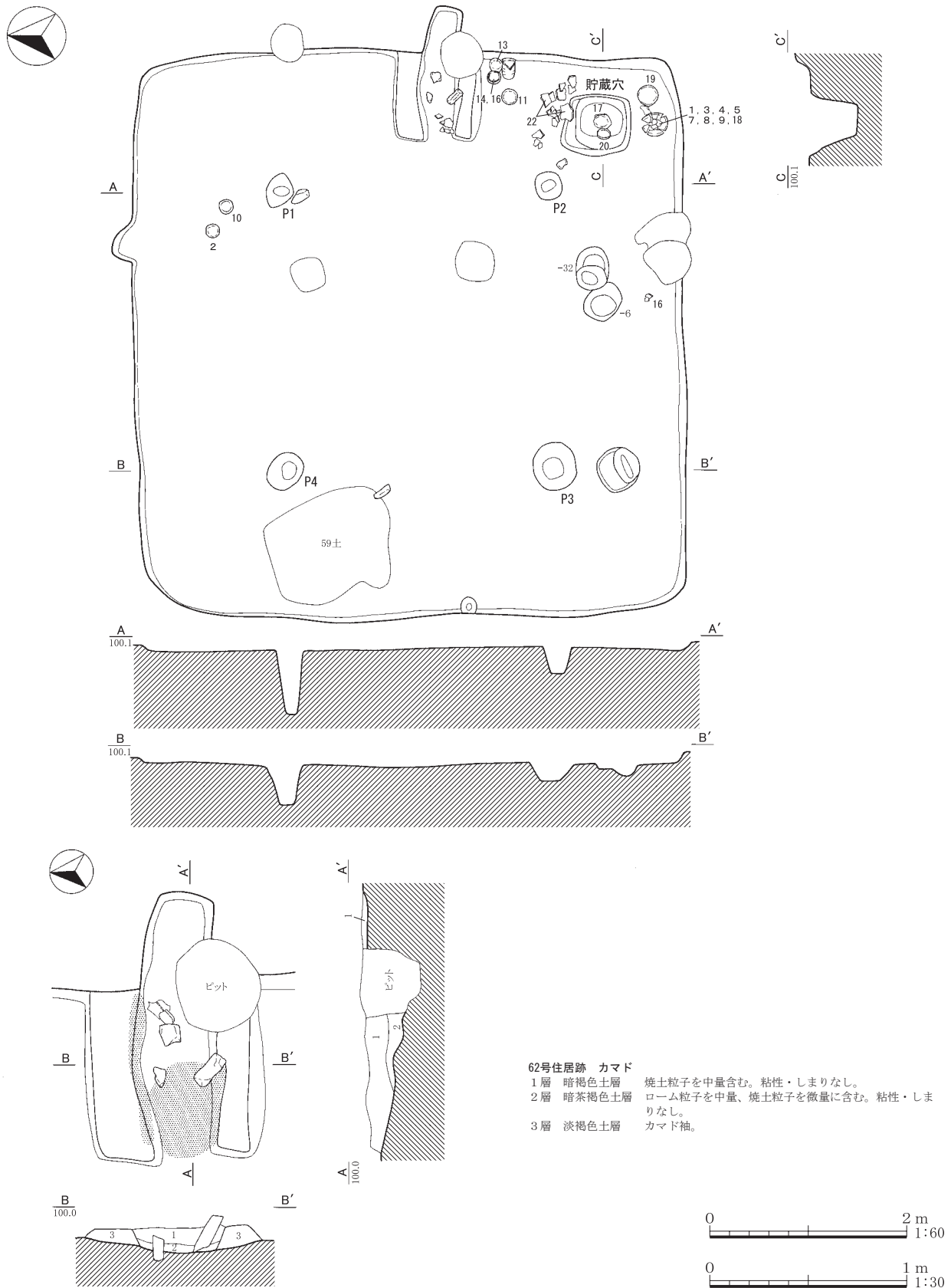
1	坏	A. 口径13.9。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・片岩。E. 内一にぶい褐色。外一明赤褐色。F. 完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径14.5。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・片岩。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径14.1。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土。
4	坏	A. 口径14.6。器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. 完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	坏	A. 口径14.7。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	坏	A. 口径14.2。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	坏	A. 口径13.2。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。黒色処理か。H. 覆土。
8	坏	A. 口径16.1。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→部分的にミガキ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. 4/5。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
9	坏	A. 口径14.6。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
10	坏	A. 口径14.6。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一褐色。F. 完形。H. 覆土。
11	坏	A. 口径13.8。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 内外面黒色処理。H. 覆土。
12	坏	A. 口径13.7。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面黒色処理。H. 覆土。
13	坏	A. 口径15.0。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内一明赤褐色。外一にぶい褐色。F. 完形。G. 内外面焼成時の黒斑あり。外面口縁部に黒色処理か。H. 覆土。
14	坏	A. 口径15.6。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→部分的にミガキ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内一黒褐色。外一にぶい黄褐色。F. 完形。G. 内外面黒色処理。H. 覆土。
15	坏	A. 口径14.3。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
16	坏	A. 口径13.9。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 内外面黒色処理か。H. 覆土。



第100図 62号住居跡 出土遺物

62号住居跡 出土遺物観察表 (2)

17	中形甌	A. 口径 19.3。底径 (8.4)。器高 16.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ→胴部タテミガキ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
18	鉢	A. 口径 24.0。底径 7.2。器高 11.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→部分的にタテミガキ。底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ→ヨコミガキ。D. 石英。白色粒子。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 内面黒色処理。外面焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
19	甕	A. 口径 (4.3)。底径 5.9。器高 (22.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 口縁部破片・胴部下ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
20	甕	A. 口径 15.3。器高 21.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内-にぶい褐色。外-橙色。F. 4/5。G. 内外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。



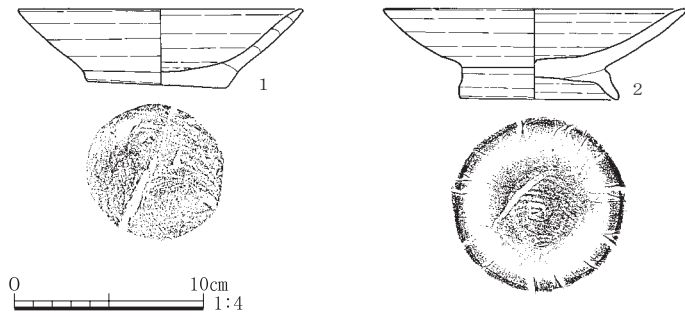
第101図 62号住居跡

62号住居跡 出土遺物観察表 (3)

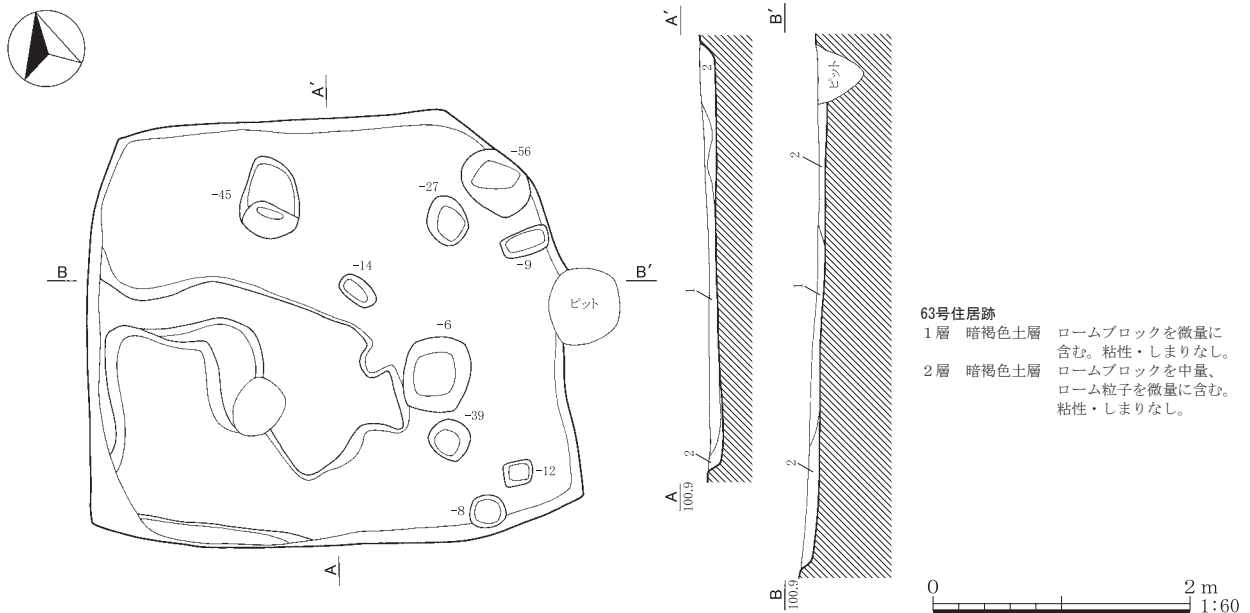
21	大形甑	A. 口径 25.2。底径 9.5。器高 28.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ→胴部タテミガキ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
----	-----	--

63号住居跡（第102・103図、図版16・63）

位置：B地点の中央より西に位置している。7号掘立柱建物跡と重複し、本遺構が古い。掘り方のみの検出である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-74°-E。規模：長軸3.78m、短軸3.37m。柱穴：9本確認された。埋没状況：ロームブロックを含む土で、埋没している。遺物：覆土より須恵器が出土している。時期：平安時代。



第102図 63号住居跡 出土遺物



第103図 63号住居跡

63号住居跡

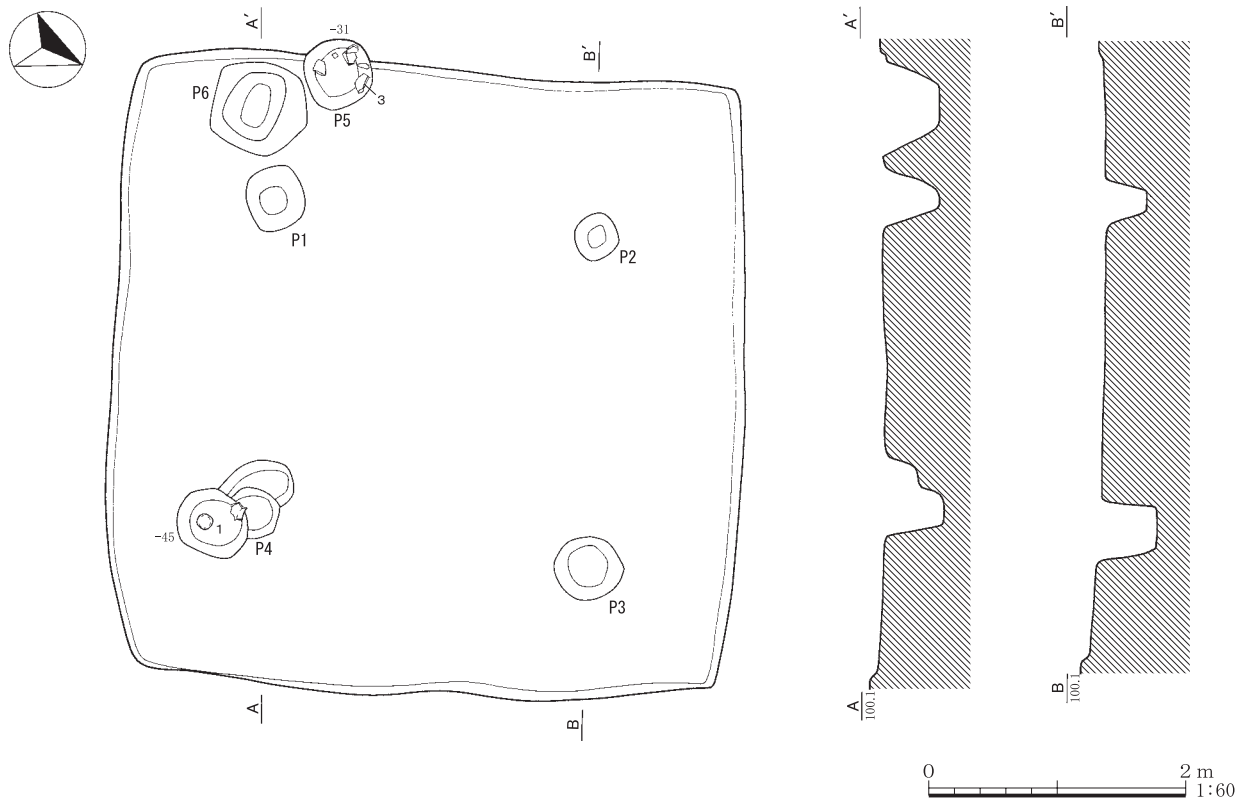
- 1層 暗褐色土層 ロームブロックを微量に含む。粘性・しまりなし。
- 2層 暗褐色土層 ロームブロックを中量、ローム粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。

63号住居跡 出土遺物観察表

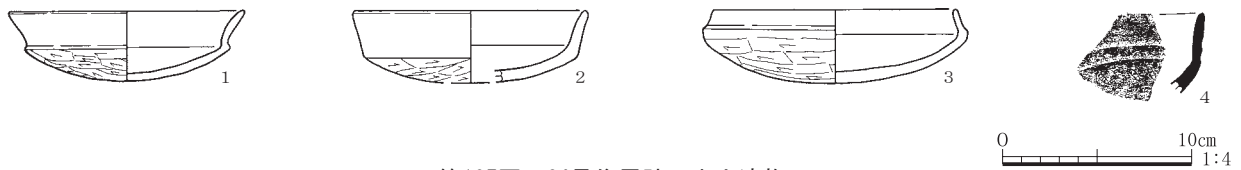
1	須恵器皿	A. 口径15.0。底径7.5。器高4.2。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転系切り→ナデ。D. 雲母。E. 内外-にぶい褐色。F. 4/5。G. 酸化焰焼成。内面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	須恵器高台付皿	A. 口径15.9。底径8.4。器高4.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転系切り→高台貼付。D. 雲母。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。

64号住居跡（第104・105図、図版16・63）

位置：B地点の中央よりやや南西寄りにおいて、単独で検出された。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-18°-W。規模：長軸5.00m、短軸4.97m。柱穴：6本検出される。P1～4が主柱穴である。貯蔵穴：P6が貯蔵穴だろう。埋没状況：覆土の残存状況が不良であったため、不明である。遺物：P5内から土器が出土している。時期：古墳時代後期。



第104図 64号住居跡



第105図 64号住居跡 出土遺物

64号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.4)。器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい褐色。F. 1/4。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. P4。
2	坏	A. 口径(12.5)。残存高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.8。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 内外面焼成時の黒斑あり。H. P5。
4	須恵器 無蓋高坏	A. 残存高4.1。B. ロクロ成形。C. 外面、口縁部回転ナデ。体部上位に櫛歯状工具により刺突文・中位回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 白色粒子・片岩・石英。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 藤岡産。H. 覆土。

65号住居跡 (第106・107図、図版16・63)

位置：B地点の中央よりやや南寄りに位置している。67号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-33°-E。規模：長軸3.43m、短軸3.24m。カマド：東壁に付設される。67号住居跡に破壊され、覆土に粘土が観察される程度の残存状況である。貯蔵穴：カマド痕に向かって右側の円形ピットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居の東半分に近い傾向にある。その中でも貯蔵穴周辺に集中している。時期：古墳時代後期。

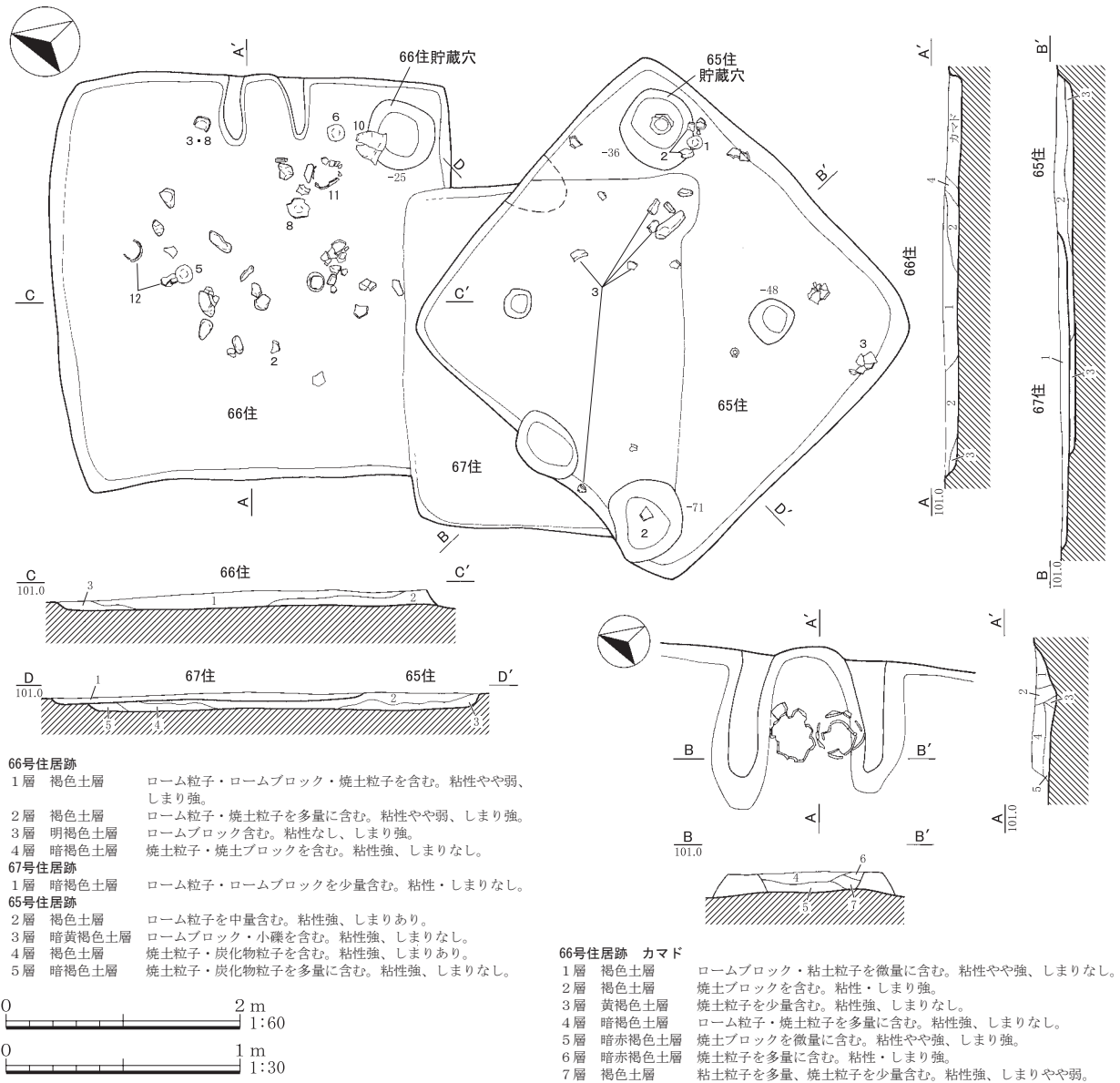
66号住居跡 (第106・107図、図版17・64)

位置：B地点の中央よりやや南寄りに位置している。67号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平

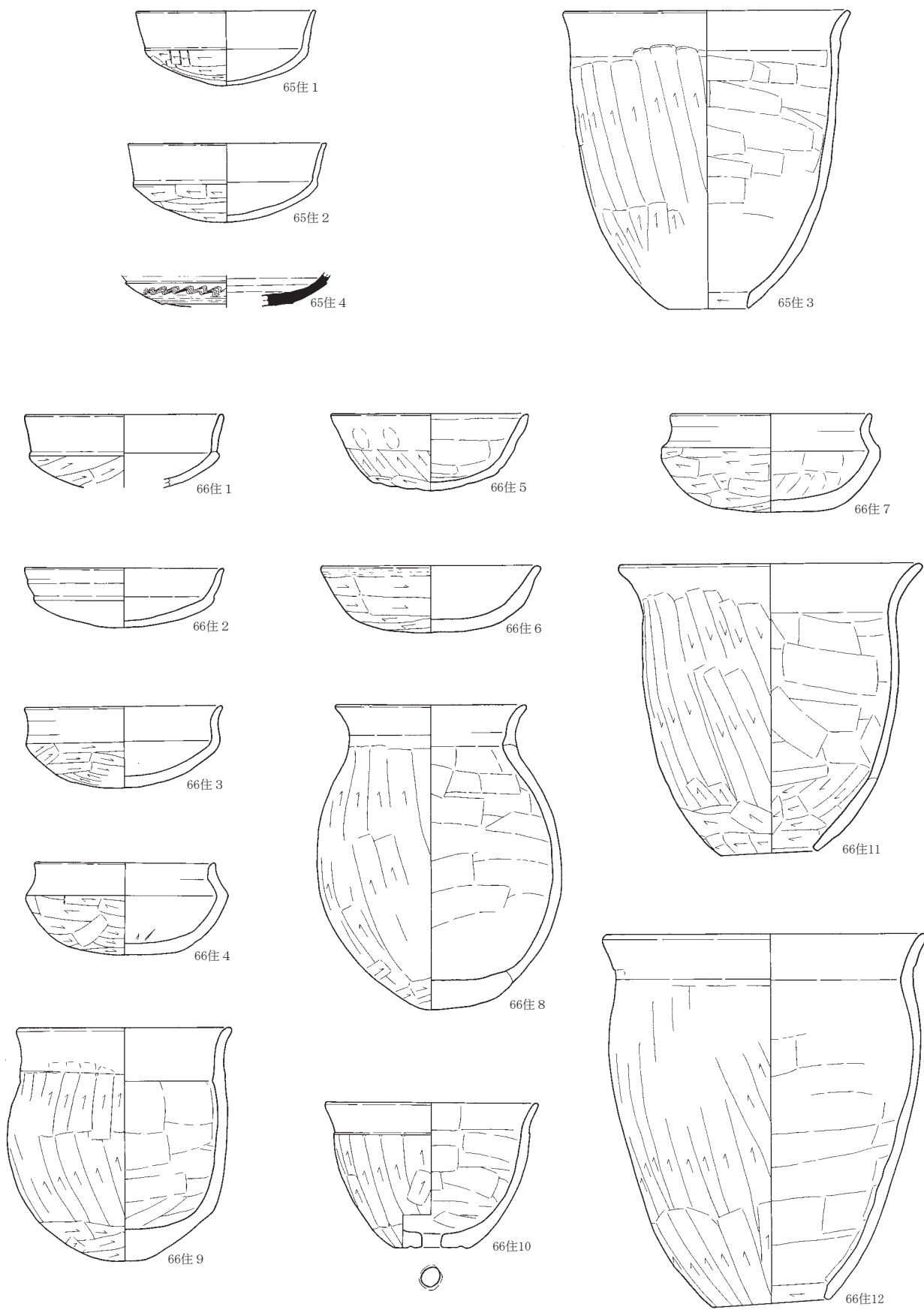
面形は方形を呈する。主軸方位：N-76°-E。規模：長軸3.52m、短軸3.43m。カマド：東壁に付設される。袖には褐色粘土を用いる。燃烧部は住居内に収まり、中央には甕が2个体並んで出土した。貯蔵穴：カマドに向かって右側にある円形のピットが貯蔵穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居の中央部分に礫と土器が集中して出土している。時期：古墳時代後期。

67号住居跡（第106・108図、図版17・65）

位置：B地点の中央よりやや南寄りに位置している。65号住居跡・66号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：S-18°-E。規模：長軸3.02m、短軸2.42m。カマド：南東コーナーに東壁の延長するように付設される。掘り込みが不明瞭だが、袖は無く、煙道は住居外に延びる。燃烧部より礫が検出される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマド周辺より土器が出土している。時期：平安時代。



第106図 65号・66号・67号住居跡



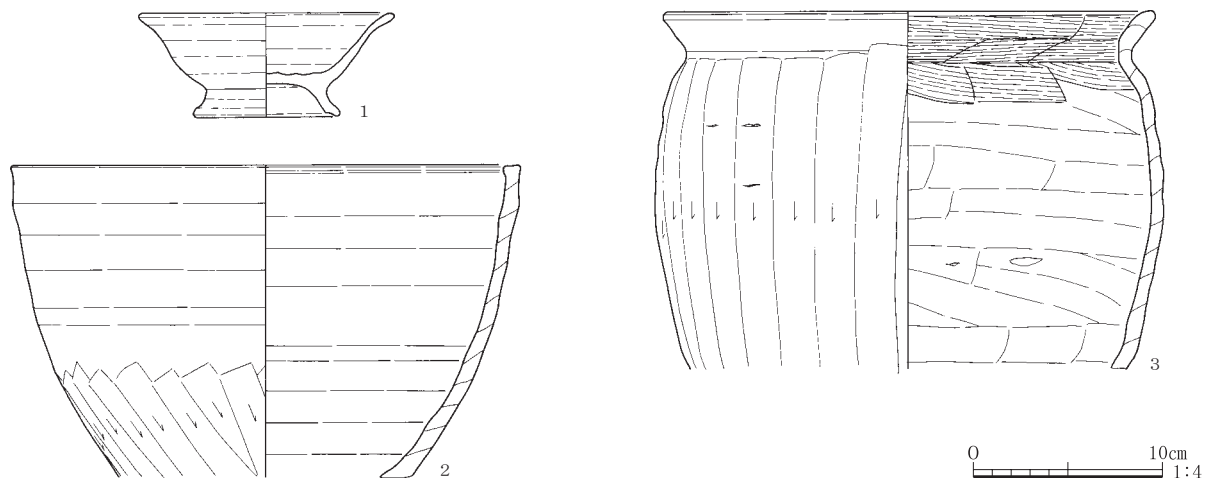
第107图 65号・66号住居跡 出土遺物

65号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 12.7。器高 5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴。
2	坏	A. 口径 14.0。器高 5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴。
3	中形甔	A. 口径 20.2。底径 (5.8)。器高 21.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。底部ヨコケズリ。D. 片岩・石英。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/2。G. 外面胴部上位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	須恵器 高坏	A. 残存高 2.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。外面、櫛描波状文・カキ目あり。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 藤岡産。H. 覆土。

66号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 (14.0)。残存高 5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/5。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 (14.0)。器高 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部調整摩滅。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・橙色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/4。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 13.9。器高 5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	坏	A. 口径 12.7。器高 6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	坏	A. 口径 14.0。器高 5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。体部タテケズリ→下位ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内一明赤褐色・黒褐色。外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	坏	A. 口径 15.5。器高 4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 内外面口唇部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	坏	A. 口径 (14.1)。器高 6.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。体部タテナデ→上半ヨコナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内一黒色。外一にぶい橙色。F. 3/4。G. 内面黒色処理か。H. 覆土。
8	小形甔	A. 口径 (13.5)。器高 21.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・石英。E. 内一黒色。外一橙色。F. 2/3。G. 内面胴部にコグレ。H. 覆土。
9	小形甔	A. 口径 (15.1)。器高 16.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・石英。E. 内一暗赤褐色。外一明赤褐色。F. 4/5。G. 内面胴部にヨゴレ。H. 覆土。
10	小形甔	A. 口径 (15.0)。底径 5.4。器高 10.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内一褐灰色。外一にぶい赤褐色。F. 1/2。G. 内外面体部に焼成時の黒斑あり。底部焼成前穿孔。H. 覆土。
11	中形甔	A. 口径 21.4。底径 6.9。器高 20.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。内面、下位ケズリ→ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一にぶい黄橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
12	大形甔	A. 口径 (22.7)。底径 8.1。器高 26.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内一にぶい赤褐色。外一にぶい橙色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。



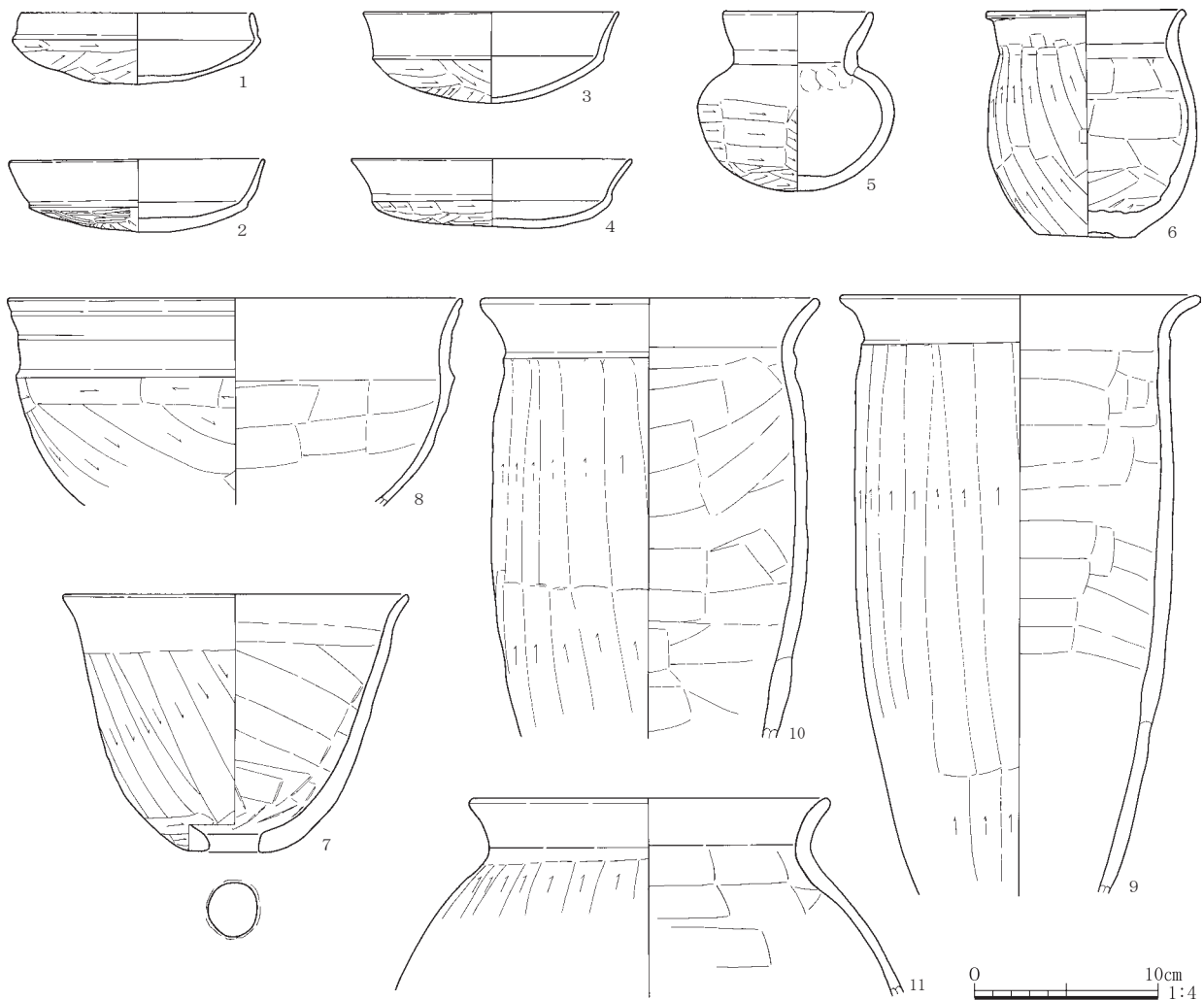
第108図 67号住居跡 出土遺物

67号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 高台付碗	口径(13.6)。底径7.8。器高5.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。高台貼付。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 3/4。G. 酸化焰焼成。内面体部にスス附着。H. 覆土。
2	須恵器 鉢	A. 口径(27.0)。残存高16.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、回転ナデ→胴部下位ナナメケズリ。内面、回転ナデ。D. 片岩。E. 内外一明褐色。F. 破片。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
3	土釜か	A. 口径(26.0)。残存高18.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部～胴部1/5。G. 外面胴部中位二次被熱。H. カマド。

68号住居跡 (第109・110図、図版17・64)

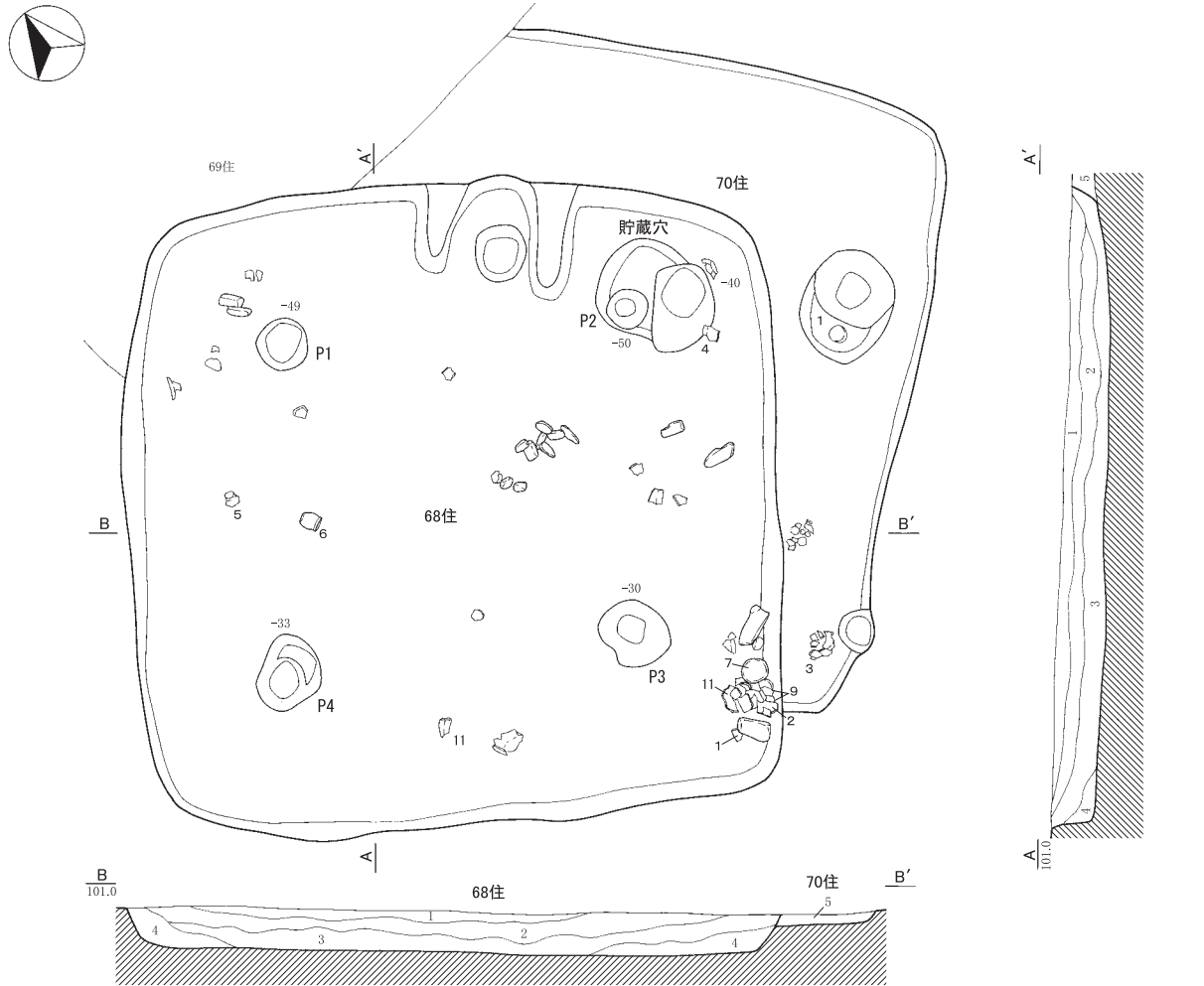
位置：B地点の中央よりやや南寄りに位置している。69号住居跡・70号住居跡と重複し、前者との新旧関係は不明だが、後者より新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-39°-E。規模：長軸5.18m、短軸5.02m。カマド：北壁に付設される。燃烧部は一段、緩やかに落ち込む。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する不整形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本の支柱穴が確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：全体的に見られるが、中央に編み物石が集中し、南東コーナー部分にも土器の纏まりが見られる。時期：古墳時代後期。



第109図 68号住居跡 出土遺物

70号住居跡（第110・111図、図版17・65）

位置：B地点の中央よりやや南寄りに位置している。68号住居跡・69号住居跡と重複する。前者より古く、後者との切り合いは不明である。形態：平面形は方形であろう。主軸方位：N-57°-E。長軸4.86m。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土師器が出土している。時期：古墳時代後期。



68号住居跡

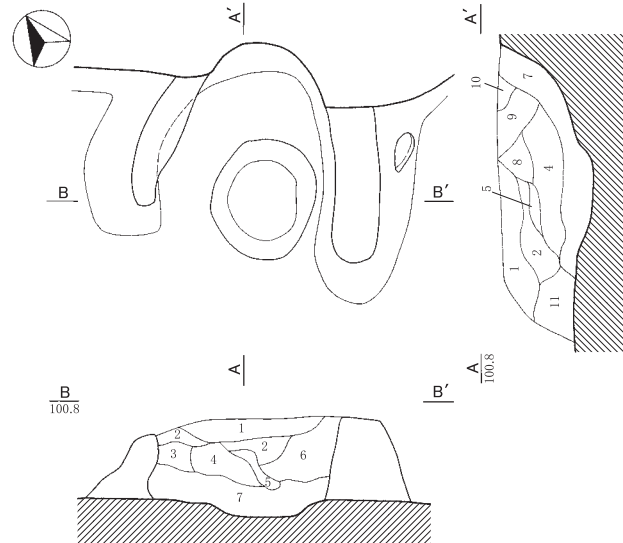
- 1層 褐色土層 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性やや弱、しまり強。
- 2層 褐色土層 ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子を均一に含む。粘性やや弱、しまり強。
- 3層 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量、炭化物粒子を中量含む。粘性やや弱、しまりあり。
- 4層 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性強、しまり弱。

70号住居跡

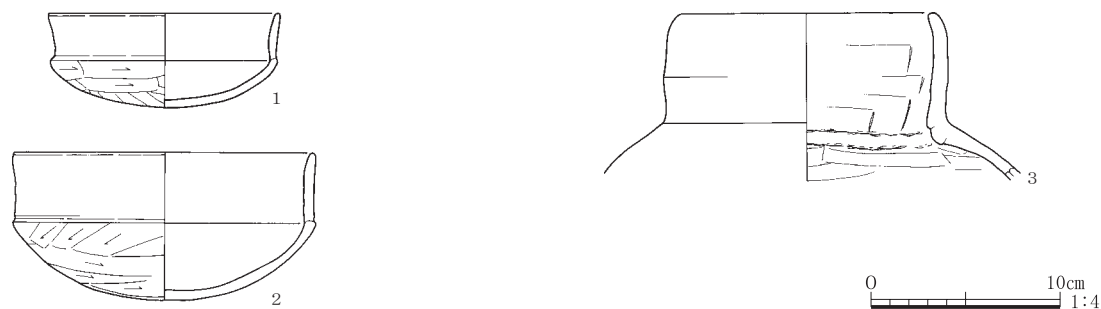
- 5層 黒色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性・しまり弱。

68号住居跡 カマド

- 1層 明褐色土層 粘土を多量、焼土粒子を少量含む。粘性・しまり強。
- 2層 黄褐色土層 粘土を多量、焼土粒子を少量含む。粘性強、しまりやや強。
- 3層 白色粘質土層 粘土を多量に含む。粘性・しまり強。
- 4層 褐色土層 焼土ブロックを多量に含む。粘性・しまりなし。
- 5層 白色粘土ブロック層 焼土ブロック多量、粘土ブロックを少量含む。粘性強、しまりなし。
- 6層 褐色土層 焼土粒子・粘土粒子を多量に含む。粘性やや弱、しまりなし。
- 7層 暗褐色土層 焼土と粘土の混合層。粘性・しまり強。
- 8層 褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性強、しまりなし。
- 9層 白色粘質土層 粘土を少量含む。粘性強、しまりなし。
- 10層 暗褐色土層 粘土を少量含む。粘性強、しまりなし。
- 11層 褐色土層 粘土粒子・焼土粒子を少量含む。粘性弱、しまりやや強。



第110図 68号・70号住居跡



第111図 70号住居跡 出土遺物

68号住居跡 出土遺物観察表

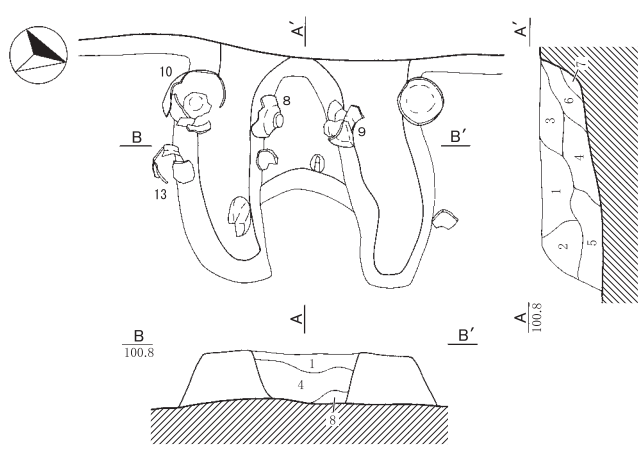
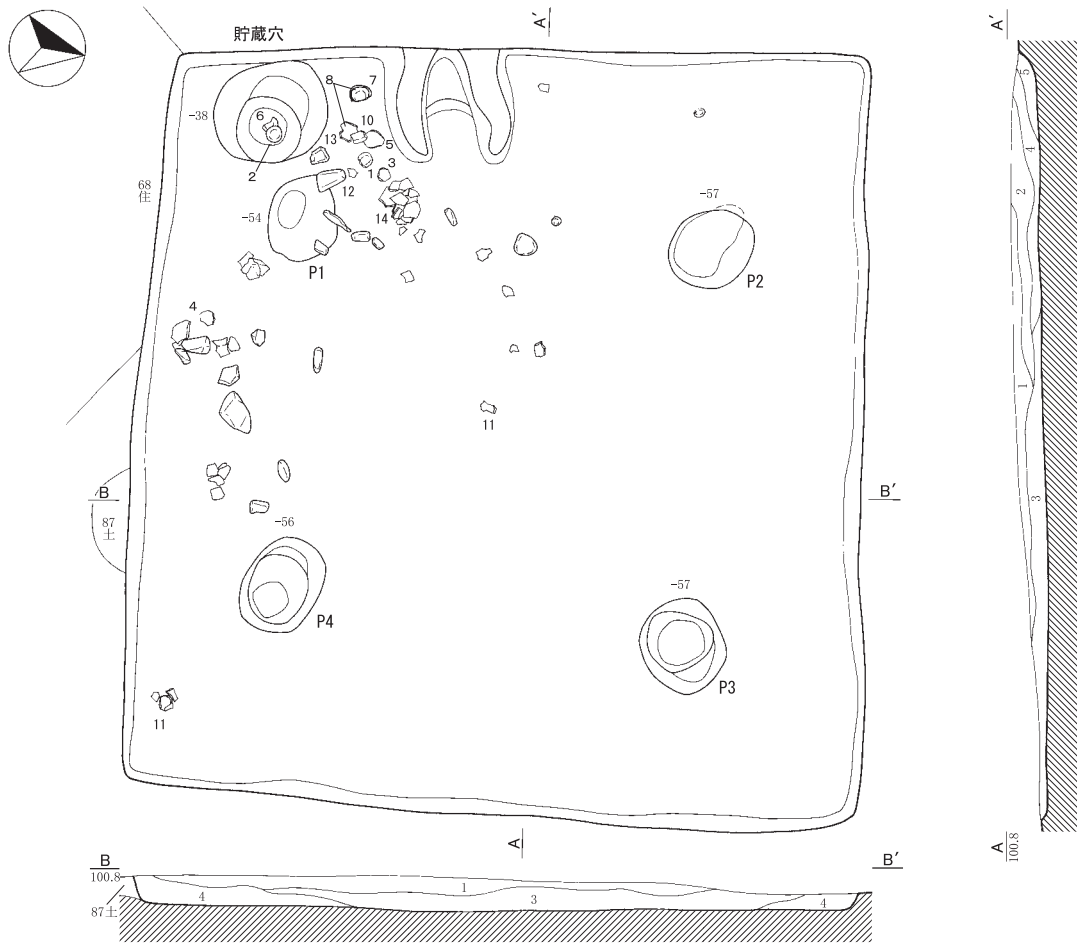
1	坏	A. 口径(12.6)。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内-にぶい赤褐色。外-にぶい褐色。F. 3/4。H. 覆土。
2	坏	A. 口径13.9。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-灰褐色。F. 完形。G. 内外面黒色処理。H. 覆土。
3	坏	A. 口径(13.9)。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外-橙色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	坏	A. 口径(15.4)。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/2。G. 内面体部にスス附着。H. 覆土。
5	埴	A. 口径8.2。器高9.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部上半ナデ・下半ヨコケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ユビオサエ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 完形。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	小形甕	A. 口径12.3。底径5.3。器高12.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外-にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	小形甕	A. 口径18.9。底径4.4。器高15.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外-橙色。F. 完形。G. 外面二次被熱。内外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
8	鉢	A. 口径(24.7)。残存高11.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・片岩。E. 内外-橙色。F. 1/3。G. 外面胴部二次被熱。H. 覆土。
9	甕	A. 口径19.6。残存高32.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・雲母。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 口縁部～胴部2/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。二次被熱。H. 覆土。
10	甕	A. 口径18.5。残存高22.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁部～胴部上半1/3。G. 外面胴部二次被熱。H. カマド。
11	壺	A. 口径19.8。残存高10.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ、内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内-灰黄褐色。外-橙色。F. 口縁部～胴部上位3/4。G. 外面口縁部にスス附着。内面頸部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

70号住居跡 出土遺物観察表

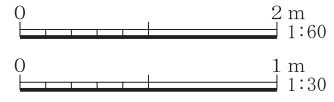
1	坏	A. 口径12.3。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 完形。G. 外面口縁部に焼成時の黒斑あり。二次被熱か。H. 覆土。
2	坏	A. 口径16.0。器高7.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面ヨコナデ。D. 雲母。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
3	壺	A. 口径13.6。残存高8.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 石英・石英。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部4/5。H. 覆土。

69号住居跡 (第112・113・114図、図版17・65)

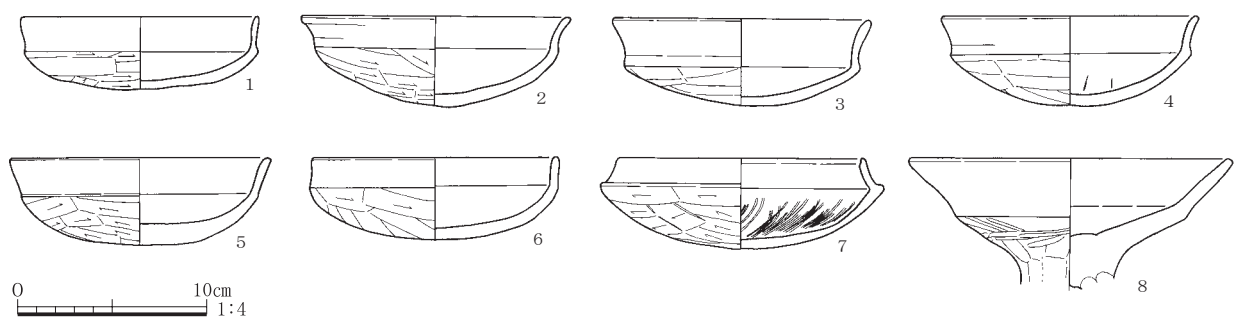
位置：B地点の中央よりやや南寄りに位置している。68号住居跡・70号住居跡と重複し、本遺構との重複関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-79°-W。長軸6.18m、短軸5.78m。カマド：西壁に付設される。袖は付け袖で、両袖の脇には土器が据えられている。この土器は、構築材だろう。燃焼部は住居内に収まり、奥壁が住居の壁と一致する。貯蔵穴：カマドに向かって左側で検出された円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本の主柱穴が確認される。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：カマドと貯蔵穴との間から南壁にかけて遺物が集中している。時期：古墳時代後期。



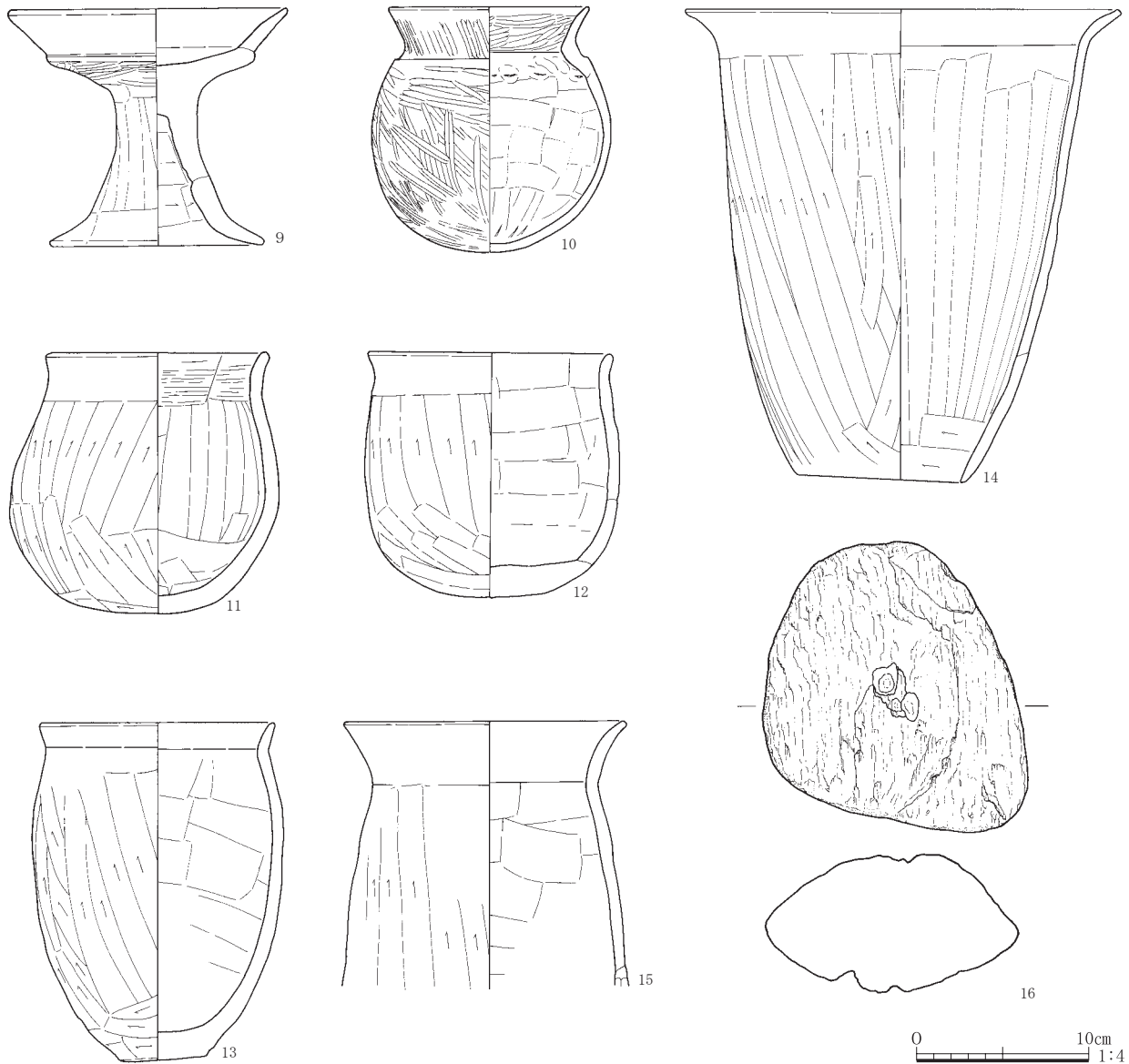
- 69号住居跡**
- 1層 明褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性・しまり強。
 - 2層 明褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを多量に含む。粘性・しまり強。
 - 3層 褐色土層 ローム粒子多量・炭化物粒子少量含む。粘性強、しまりやや弱。
 - 4層 黒色土層 ロームブロックを微量に含む。粘性強、しまりやや弱。
 - 5層 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 69号住居跡 カマド**
- 1層 暗黄褐色土層 焼土を多量に含む。粘性強、しまりやや強。
 - 2層 黄褐色土層 粘土主体土層。粘性・しまり強。
 - 3層 褐色土層 砂礫を多量、ローム粒子を少量含む。粘性弱、しまりやや弱。
 - 4層 褐色土層 粘土との混合層。焼土粒子を中量含む。粘性強、しまりやや弱。
 - 5層 暗黄褐色土層 焼土粒子・片岩礫を多量に含む。粘性弱、しまりやや弱。
 - 6層 褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。
 - 7層 褐色土層 焼土粒子を多量に含む。粘性・しまり強。
 - 8層 赤褐色土層 焼土ブロック主体層。粘性なし、しまり強。



第112図 69号住居跡



第113図 69号住居跡 出土遺物(1)



第114図 69号住居跡 出土遺物（2）

69号住居跡 出土遺物観察表（1）

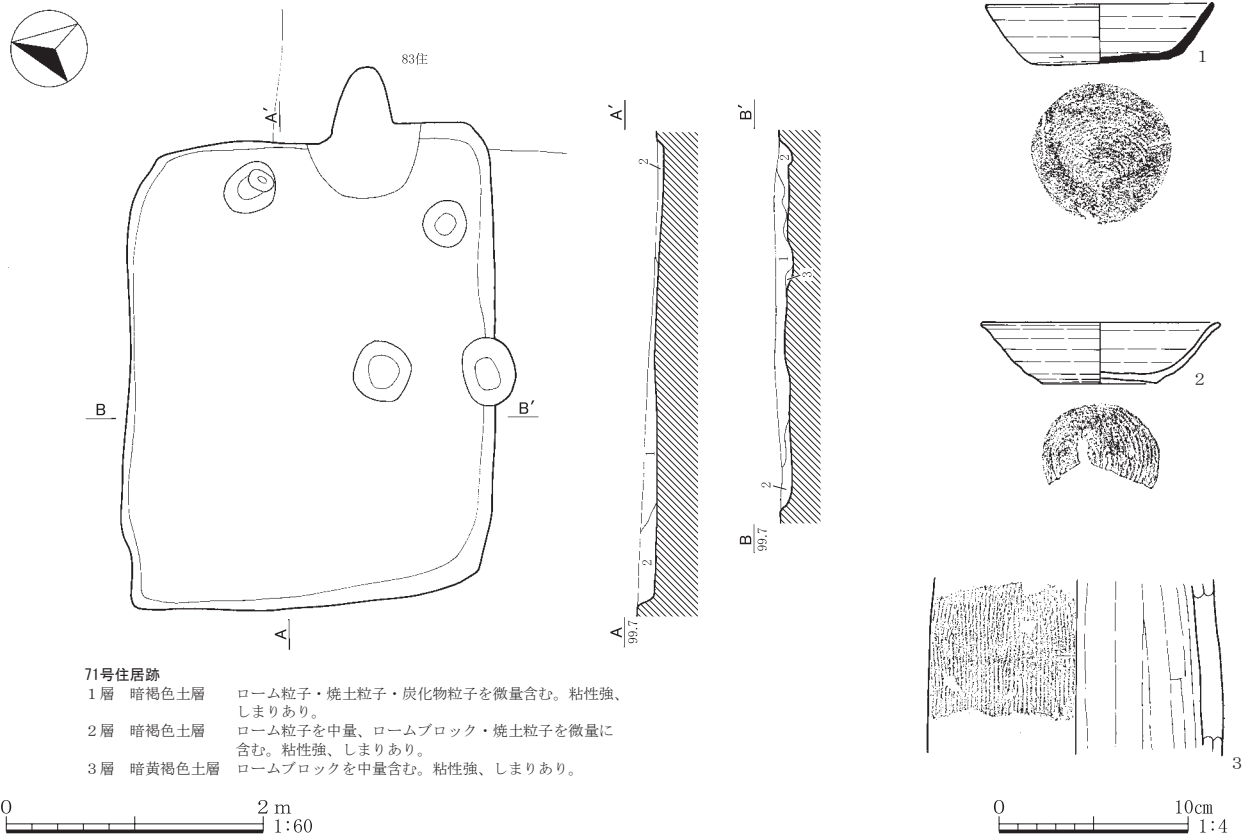
1	坏	A. 口径12.6。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリーナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・橙色粒子。E. 内-にぶい褐色。外-明褐色。F. ほぼ完形。G. 内面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径14.3。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・片岩。E. 内外-明赤褐色。F. 完形。G. 内外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
3	坏	A. 口径(13.8)。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外-灰黄褐色。F. 1/4。H. 覆土。
4	坏	A. 口径(13.6)。器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外-灰黄褐色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	坏	A. 口径13.8。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内-にぶい褐色。外-褐灰色。F. 完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	坏	A. 口径13.2。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内-にぶい赤褐色。外-明赤褐色。F. 完形。G. 内外面焼成時の黒斑あり。内面痘痕状に剥離する。H. 貯蔵穴。
7	坏	A. 口径12.9。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ→体部放射状のミガキ。D. 白色粒子。E. 内外-暗赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面黒色処理。外面体部二次被熱。H. 貯蔵穴。
8	高坏	A. 口径17.1。残存高6.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテナデ→ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 坏部ほぼ完形。G. 内外面二次被熱。H. カマド。

69号住居跡 出土遺物観察表(2)

9	高坏	A. 口径(16.2)。底径(12.4)。器高13.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ→ヨコミガキ。脚部上半タテナデ。下半ヨコナデ。内面、ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ。下半ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 内外面二次被熱。H. カマド。
10	小形壺	A. 口径(11.7)。器高14.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ→タテミガキ。胴部ヨコケズリ→ミガキ。内面、口縁部ヨコナデ→ヨコミガキ。胴部上位ユビオサエ・以下ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内一黒褐色。外一にぶい黄橙色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
11	小形甕	A. 口径(13.2)。器高15.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい橙色。F. 2/3。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
12	小形甕	A. 口径14.3。器高14.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ナナメナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面二次被熱。内面胴部にヨゴレ。H. カマド。
13	小形甕	A. 口径13.6。底径5.0。器高19.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内一にぶい赤褐色。外一にぶい橙色。F. 2/3。G. 外面胴部二次被熱・焼成時の黒新あり。内面ヨゴレ。H. カマド。
14	大形甕	A. 口径25.2。底径9.6。器高27.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ヨコケズリ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
15	甕	A. 口径(16.5)。残存高15.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部1/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
16	多孔石	A. 長16.8。幅15.3。厚8.0。重2450。D. 結晶片岩。H. 覆土。

71号住居跡(第115・116図、図版18・65)

位置：B地点の東寄りに位置する。83号住居跡・120号住居跡と重複するものの、新旧関係は不明である。しかし、出土遺物は本遺構が最も新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-85°-E。規模：長軸3.74m、短軸2.93m。カマド：東壁に付設される。柱穴：4本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より須恵器と円筒埴輪が出土している。時期：平安時代。



第115図 71号住居跡

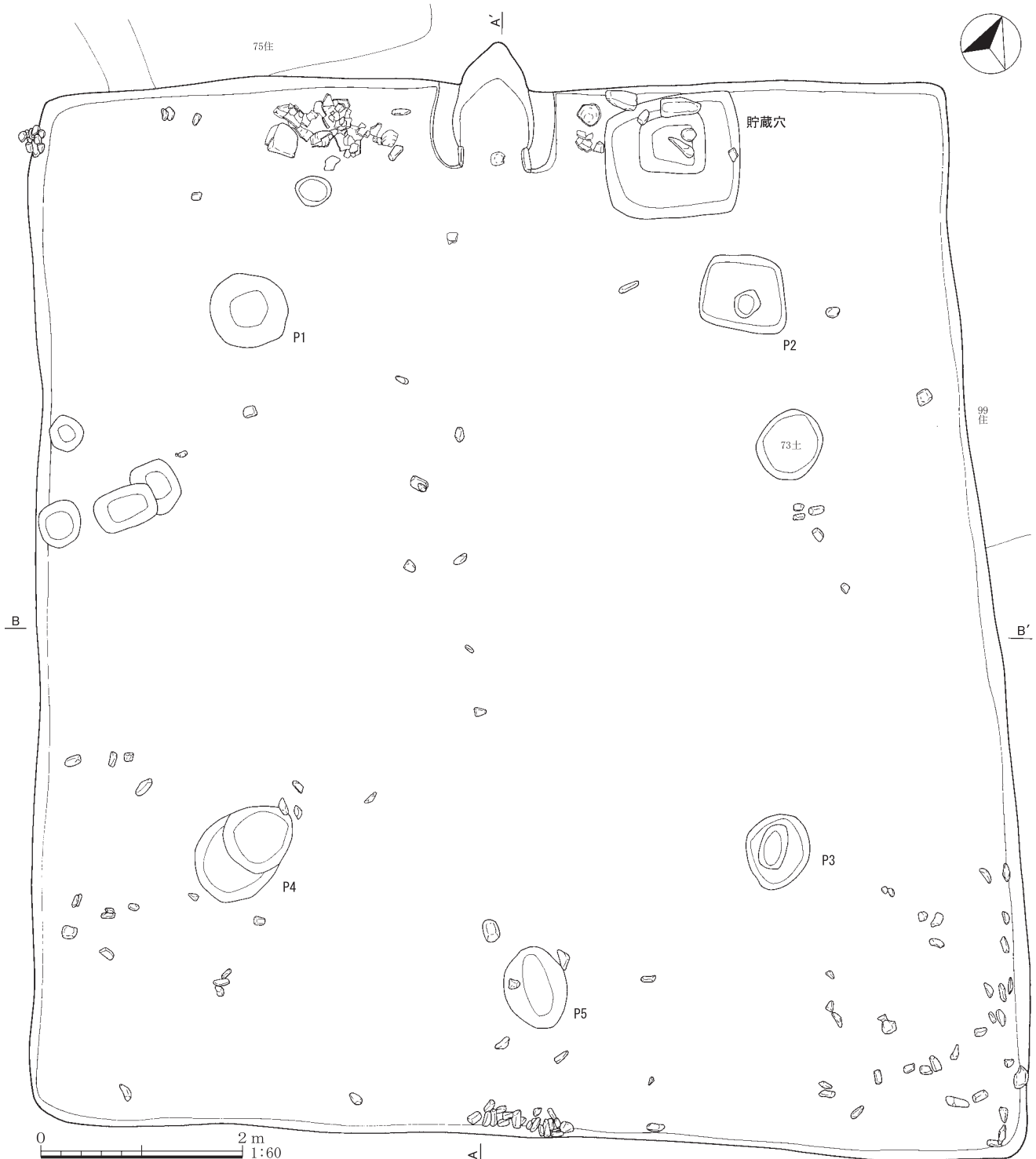
第116図 71号住居跡 出土遺物

71号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径 12.0。底径 7.4。器高 3.2。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→体部下位ケズリ。底部回転糸切り。内面、回転ナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-淡灰褐色。F. 完形。G. 還元焰焼成。H. 覆土。
2	須恵器 坏	A. 口径 (12.6)。底径 6.1。器高 3.2。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 白色粒子・石英。E. 内外-暗茶褐色。F. 2/3。H. 覆土。
3	埴輪	A. 残存高 9.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、タテハケ。D. 石英・角閃石。E. 内外-橙色。F. 破片。H. 覆土。

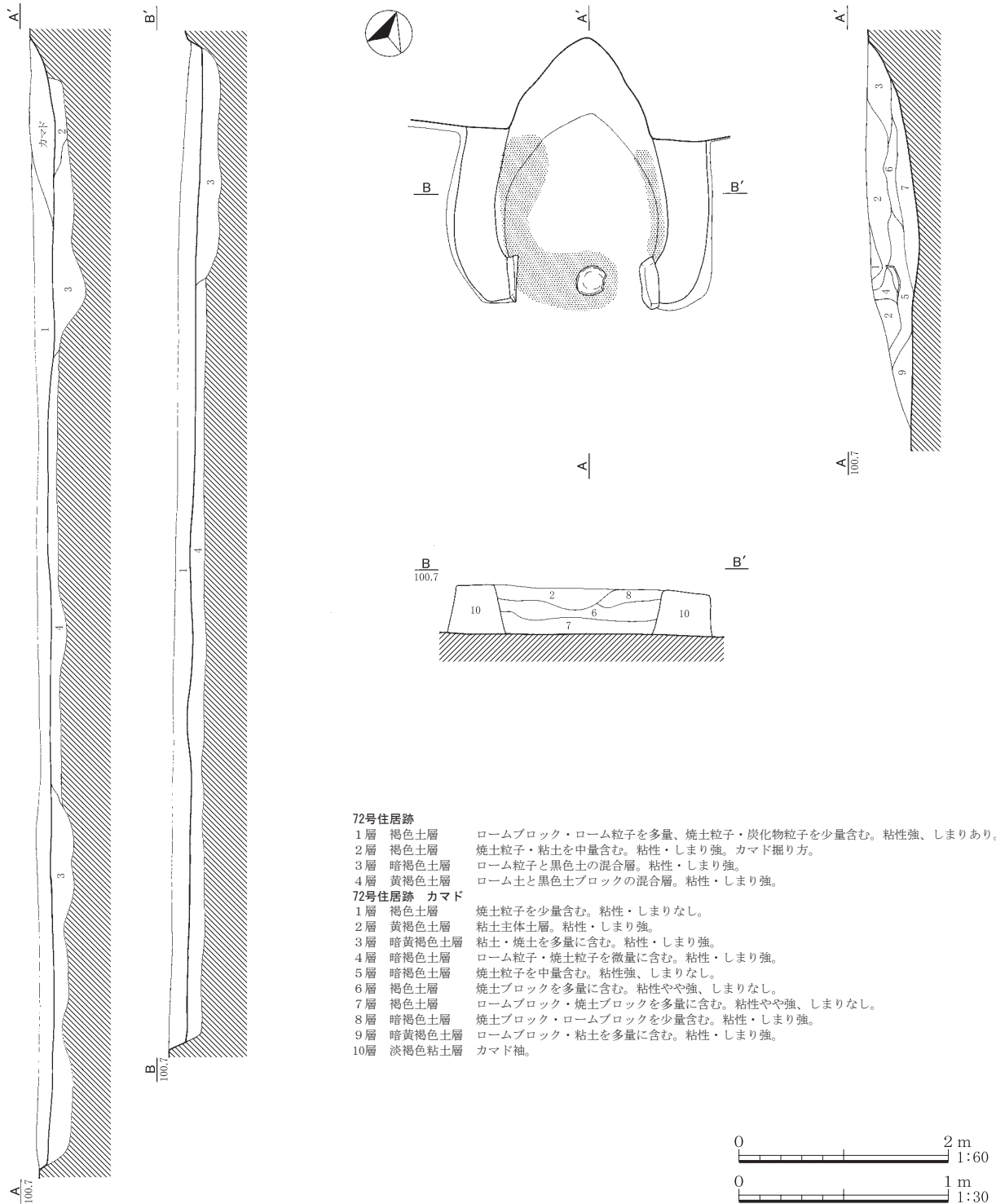
72号住居跡 (第117・118・119・120図、図版18・65・66・67)

位置：B地点の中央より南寄りに位置している。73号住居跡・74号住居跡・75号住居跡・99号住居



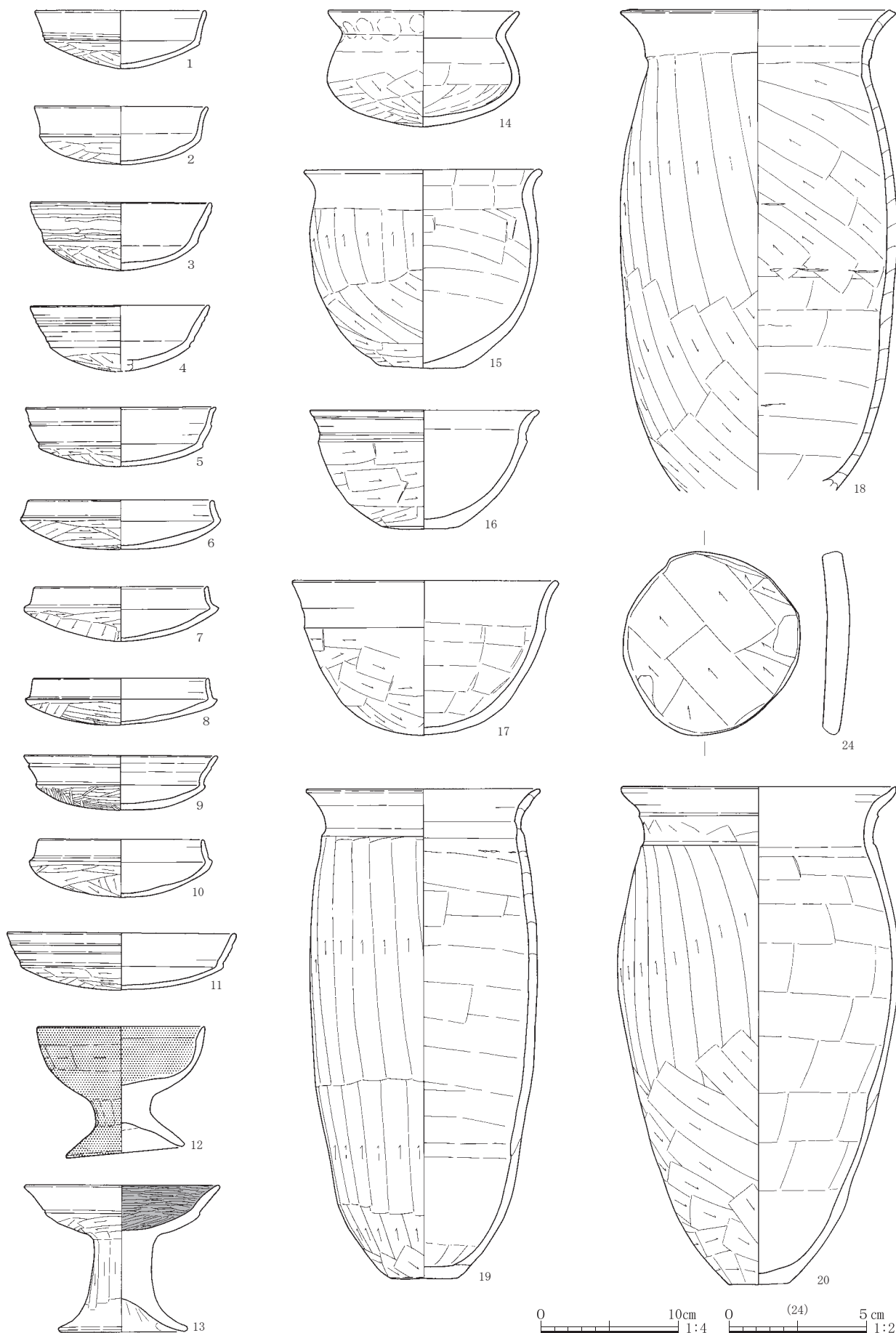
第117図 72号住居跡

跡・117号住居跡と住居跡重複し、新旧関係は不明な部分が多い。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-20°-W。規模：長軸10.80m、短軸9.82m。カマド：北壁に付設される。袖は淡褐色粘土を用い、先端の焚き口に接する箇所には礫を構築材とする。煙道は住居外へと延びる。貯蔵穴：カマドに向かって右側の方形ピットが貯蔵穴であろう。柱穴：10本確認される。このうち、P1～4が支柱穴で、P5は出入りロピットに想定される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドに向かって左側から遺物が纏まって出土する。また、南壁沿いに編み物石が集中している。時期：古墳時代後期。

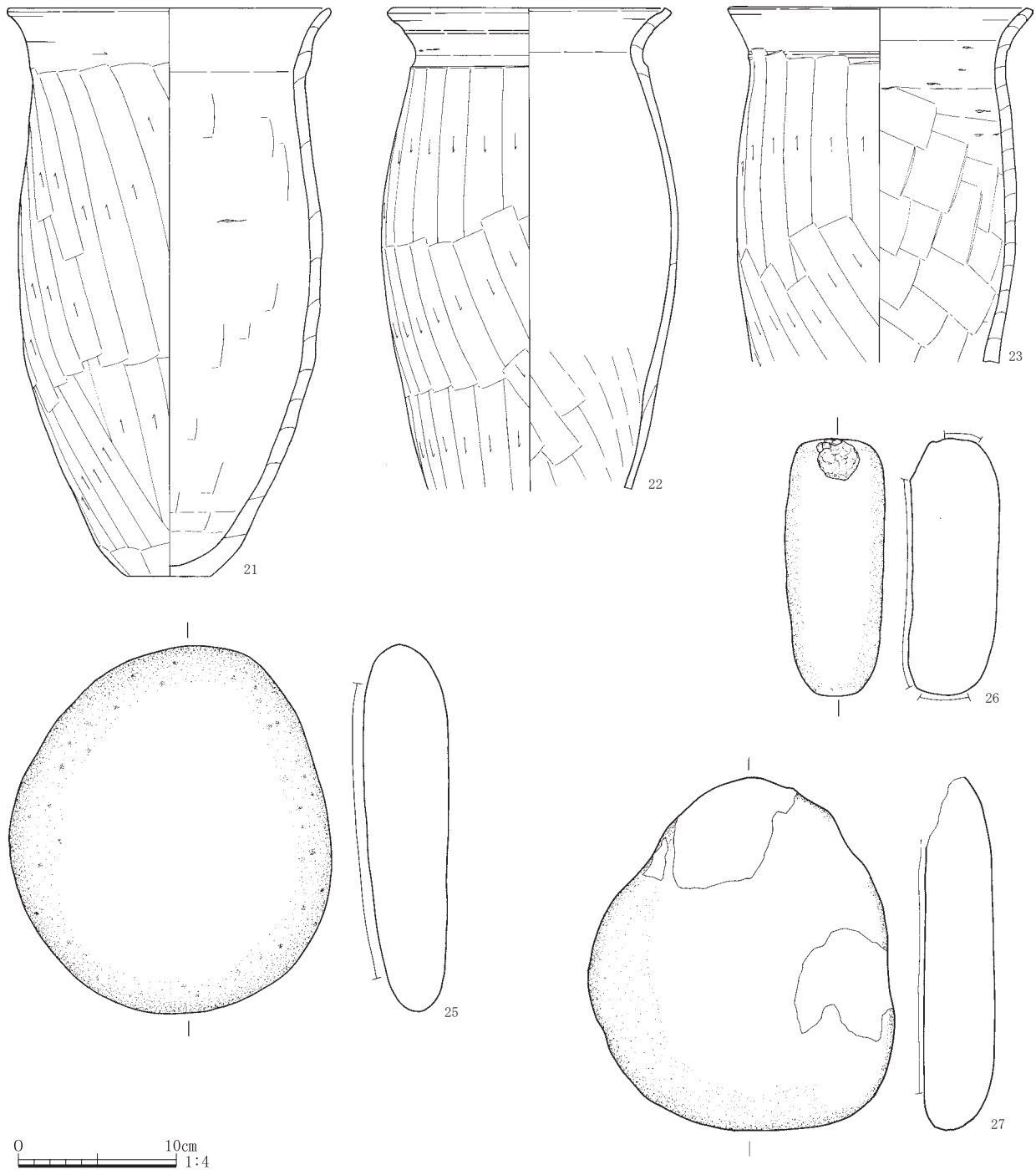


- 72号住居跡**
- 1層 褐色土層
 - 2層 褐色土層
 - 3層 暗褐色土層
 - 4層 黄褐色土層
- 72号住居跡 カマド**
- 1層 褐色土層
 - 2層 黄褐色土層
 - 3層 暗黄褐色土層
 - 4層 暗褐色土層
 - 5層 暗褐色土層
 - 6層 褐色土層
 - 7層 褐色土層
 - 8層 暗褐色土層
 - 9層 暗黄褐色土層
 - 10層 淡褐色粘土層
- ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性強、しまりあり。
 焼土粒子・粘土を中量含む。粘性・しまり強。カマド掘り方。
 ローム粒子と黒色土の混合層。粘性・しまり強。
 ローム土と黒色土ブロックの混合層。粘性・しまり強。
 焼土粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
 粘土主体土層。粘性・しまり強。
 粘土・焼土を多量に含む。粘性・しまり強。
 ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
 焼土粒子を中量含む。粘性強、しまりなし。
 焼土ブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりなし。
 ロームブロック・焼土ブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりなし。
 焼土ブロック・ロームブロックを少量含む。粘性・しまり強。
 ロームブロック・粘土を多量に含む。粘性・しまり強。
 カマド袖。

第118図 72号住居跡 カマド



第119图 72号住居跡 出土遺物(1)



第120図 72号住居跡 出土遺物（2）

72号住居跡 出土遺物観察表（1）

1	坏	A. 口径 12.4。器高 4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・橙色粒子。E. 内外-橙色。F. 2/3。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 12.6。器高 4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・橙色粒子。E. 内-橙色。外-褐灰色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 (13.2)。器高 5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/3。H. 覆土。
4	坏	A. 口径 (13.0)。器高 4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 1/3。H. 覆土。
5	坏	A. 口径 (13.8)。器高 4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内-明赤褐色。外-灰黄褐色。F. 2/3。G. 外面黒色処理か。H. 覆土。
6	坏	A. 口径 (13.4)。器高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/2。H. 覆土。

72号住居跡 出土遺物観察表(2)

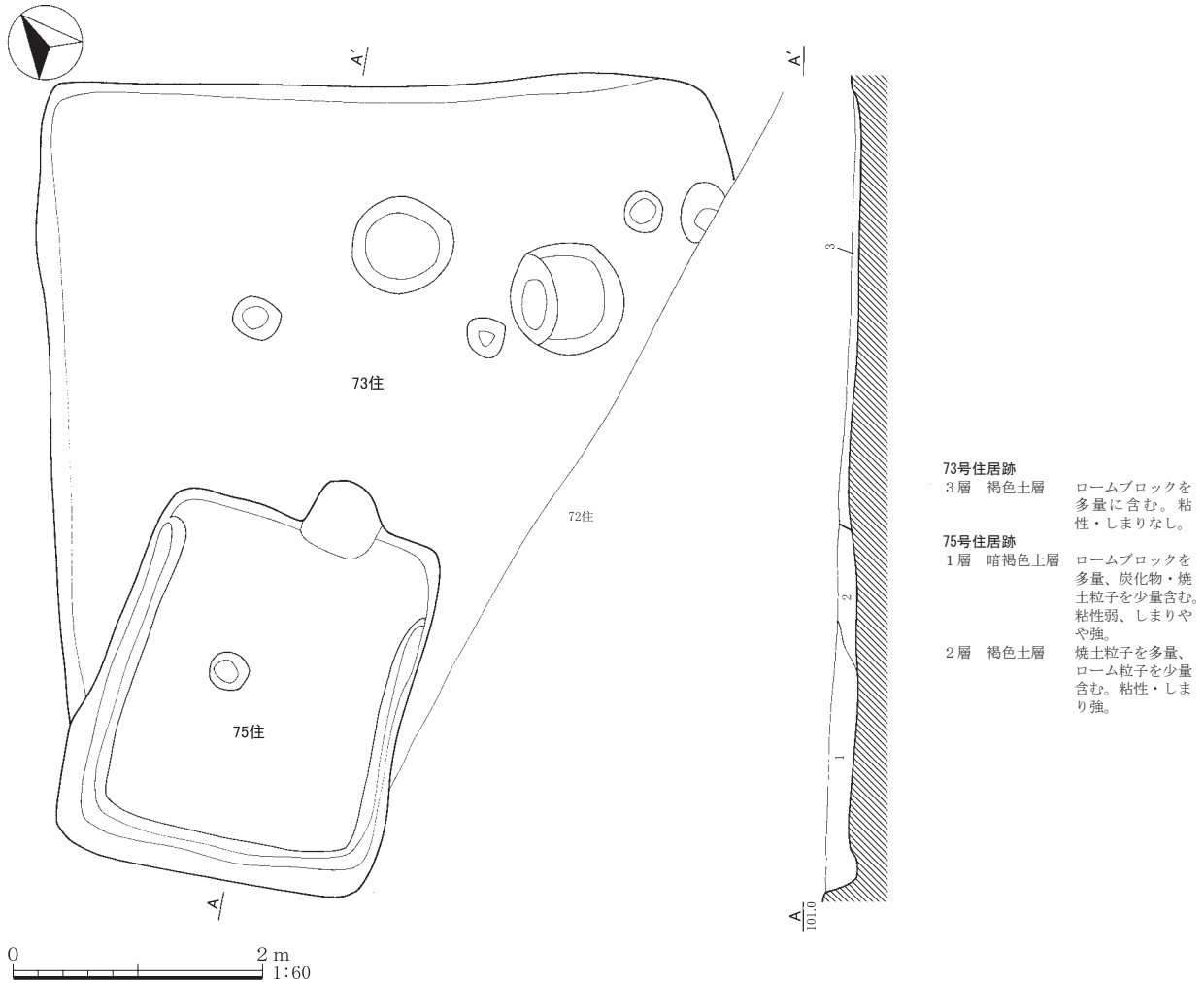
7	坏	A. 口径12.6。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色・黒褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
8	坏	A. 口径(12.8)。器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内一明赤褐色。外一にぶい黄橙色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
9	坏	A. 口径14.0。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑または黒色処理か。H. カマド。
10	坏	A. 口径(11.8)。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
11	坏	A. 口径(16.6)。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内一にぶい橙色。外一淡橙色。F. 1/3。H. 覆土。
12	高坏	A. 口径12.2。底径8.6。器高12.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。脚部上半タテナデ・下半ヨコナデ。内面、ナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。G. 外面・内面体部に赤彩あり。H. 覆土。
13	高坏	A. 口径14.2。底径9.4。器高10.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。脚部上半タテケズリ・下半ヨコナデ。内面、口縁部～体部ヨコミガキ。脚部ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・石英。E. 内一黒褐色。外一橙色。F. ほぼ完形。G. 坏部内面に黒色処理。H. 覆土。
14	鉢	A. 口径(14.0)。器高8.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ・ユビオサエ。胴部上半ヨコナデ・下半ヨコケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上半ヨコナデ・下半タテナデ。D. 片岩・白色粒子・角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
15	小形甕	A. 口径17.5。底径6.1。器高14.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石・白色粒子。E. 内一赤褐色。外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部～底部・内面底部に焼成時の黒斑あり。外面体部二次被熱。H. 覆土。
16	鉢	A. 口径(16.7)。器高8.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面底部に焼成時の黒斑あり。内面底部痘痕状に剥離する。H. 覆土。
17	鉢	A. 口径(19.5)。器高11.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子・石英。E. 内一にぶい褐色。外一明赤褐色。F. 1/2。G. 外面胴部二次被熱。内外面底部に焼成時の黒斑あり。H. カマド・貯蔵穴。
18	甕	A. 口径20.0。残存高35.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。胴部上半ナメケズリ・下半ヨコナデ。D. 石英・片岩・雲母。E. 内一橙色。外一明褐色。F. 1/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. カマド・貯蔵穴。
19	甕	A. 口径17.0。底径4.8。器高35.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。外面胴部下半二次被熱。内面胴部中位帯状にヨゴレ。H. カマド。
20	甕	A. 口径(20.0)。底径4.4。器高36.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内一にぶい褐色。外一明赤褐色。F. 1/3。G. 外面胴部二次被熱・スス附着。H. カマド。
21	甕	A. 口径(20.4)。底径(5.2)。器高(36.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一明赤褐色・橙色。F. 1/3。G. 外面胴部二次被熱。H. カマド。
22	甕	A. 口径(18.0)。残存高30.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上半ナデ・下半ナメナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい黄橙色。F. 口縁部～胴部1/3。G. 外面胴部二次被熱。H. カマド・貯蔵穴。
23	甕	A. 口径19.2。残存高22.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部～胴部上半3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑及び二次被熱あり。H. カマド・貯蔵穴。
24	土製品	A. 長6.7。幅6.4。厚0.9。C. 外面、ケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・石英。F. 完形。G. 内面黒色処理か。H. 覆土。
25	磨石	A. 長23.1。幅20.3。厚5.4。重3950。D. 閃緑岩。F. 完形。G. 一面摩耗する。H. 覆土。
26	磨石	A. 長16.2。幅6.4。厚5.9。重970.70。D. 閃緑岩。F. 完形。G. 一面摩耗。上端部には敲打痕あり。H. 覆土。
27	磨石	A. 長22.3。幅19.4。厚4.5。重2983.71。D. 砂岩。F. ほぼ完形。G. 二面摩耗する。敲打痕ありか。H. 覆土。

73号住居跡(第121図、図版18)

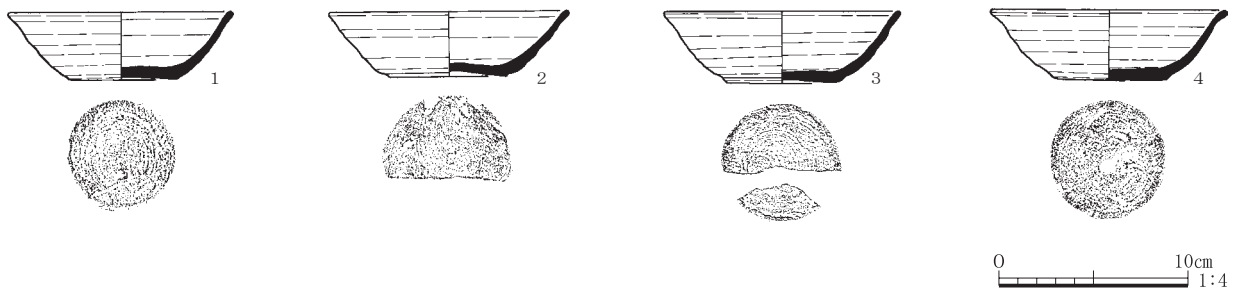
位置：B地点の中央よりやや南寄りに位置している。72号住居跡・75号住居跡と重複し、前者との新旧関係は不明、後者より古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-51°-E。規模：長軸5.61m。柱穴：6本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土中より土器が出土している。時期：古墳時代か。

75号住居跡（第121・122図、図版18・19・67）

位置：B地点の中央よりやや南寄りに位置している。72号住居跡・73号住居跡と重複し、出土遺物から本遺構が最も新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-56°-E。規模：長軸3.06m、短軸2.68m。カマド：東壁に付設される。柱穴：1本確認される。周溝：東壁以外で検出される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より須恵器・土師器が出土している。時期：平安時代。



第121図 73号・75号住居跡



第122図 75号住居跡 出土遺物

75号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径 11.8。底径 5.8。器高 3.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英・白色粒子。E. 内外-褐灰色。F. 3/4。G. 還元焰焼成。H. 覆土。
2	須恵器 坏	A. 口径 (12.7)。底径 6.2。器高 3.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-灰黄褐色。F. 1/3。G. 還元焰焼成。H. 覆土。
3	須恵器 坏	A. 口径 12.4。底径 6.0。器高 3.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-褐灰色。F. 3/4。G. 還元焰焼成。H. 覆土。
4	須恵器 坏	A. 口径 12.4。底径 6.1。器高 3.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外-灰白色。F. 3/4。G. 還元焰焼成。H. 覆土。

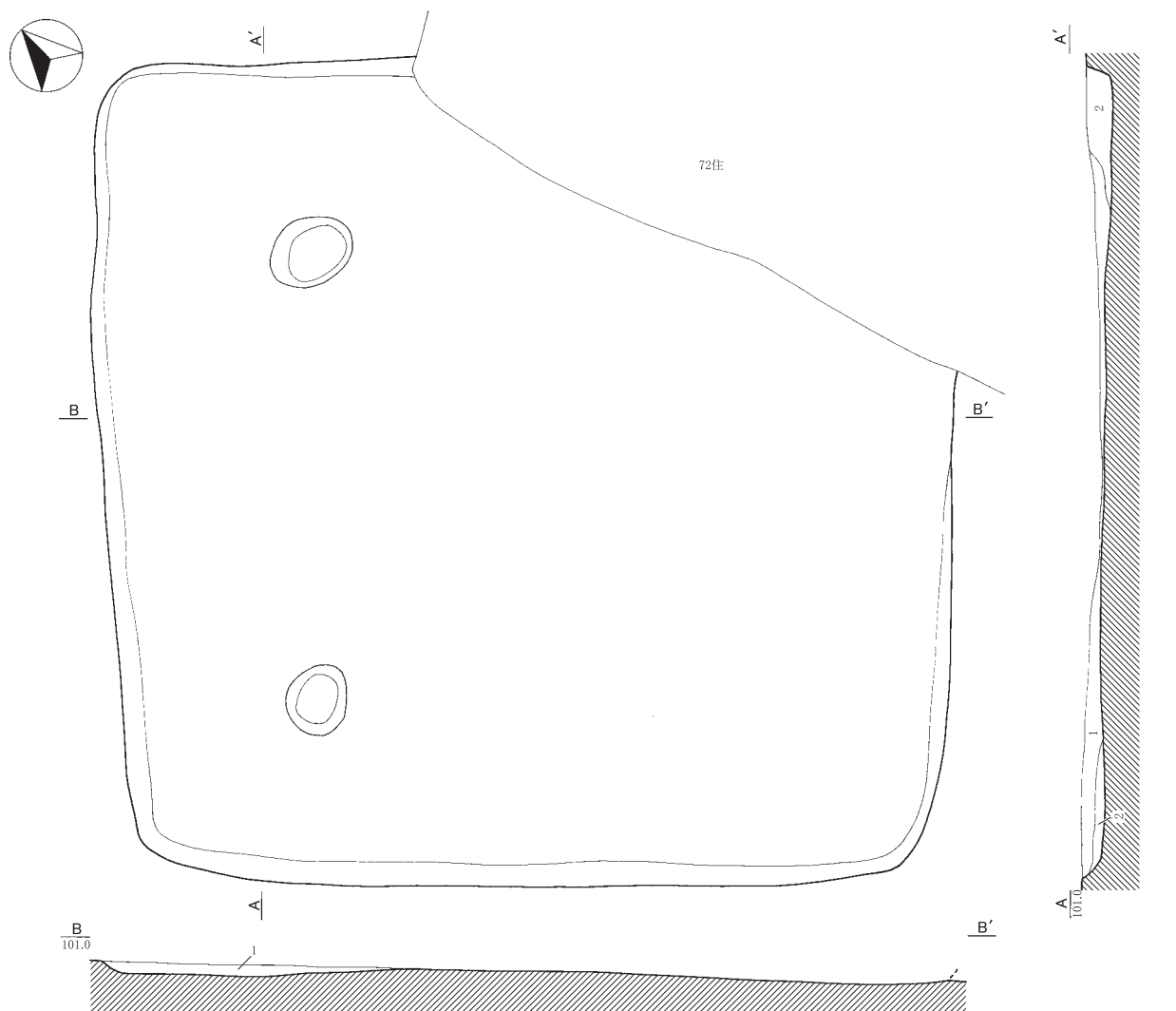
74号住居跡 (第123・124図、図版19・68)

位置：B地点の中央よりやや南寄りに位置している。72号住居跡と重複するが新旧関係は不明である。

形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-40° - E。規模：長軸7.07m、短軸6.89m。柱穴：2

本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器とともに土製勾玉や石器が出土し

ている。石器は流れ込みの遺物であろう。時期：古墳時代。

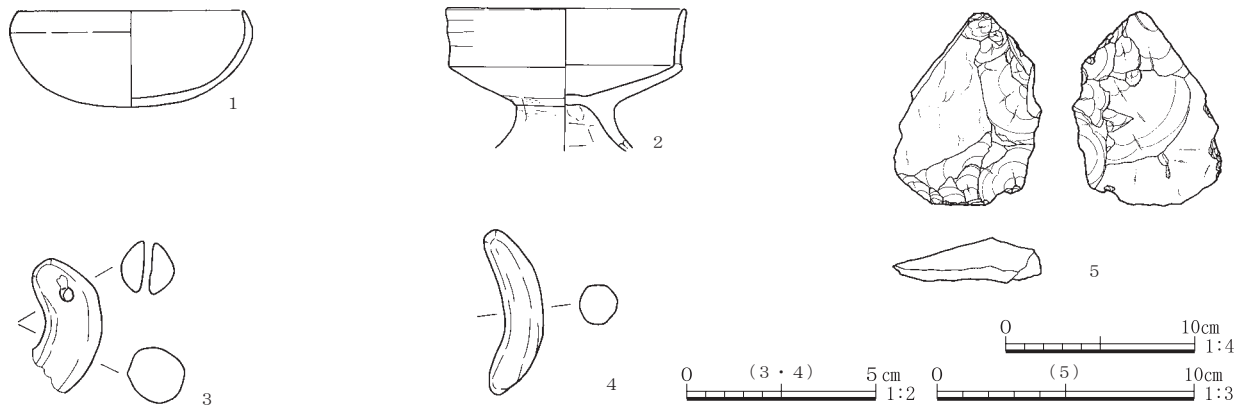


74号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子を少量、ロームブロックを微量に含む。粘性・しまりなし。
- 2層 褐色土層 ローム粒子を多量に含む。粘性やや強、しまりなし。

0 2 m
1:60

第123図 74号住居跡



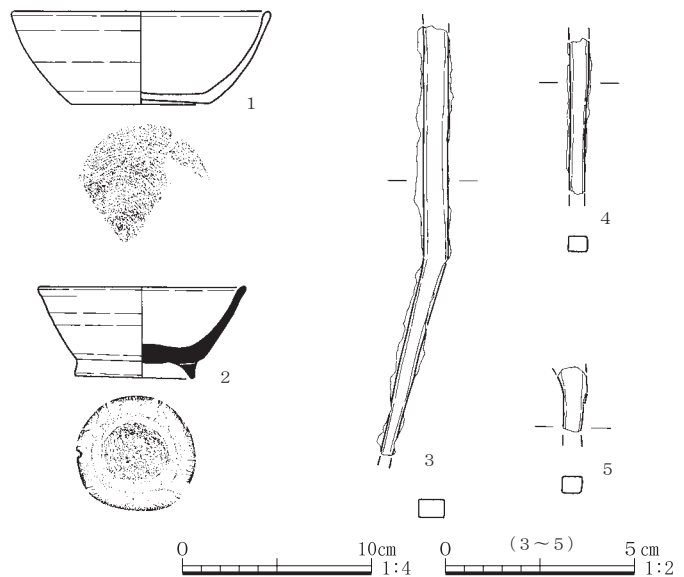
第124図 74号住居跡 出土遺物

74号住居跡 出土遺物観察表

1	埴	A. 口径 12.0。器高 5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、調整摩滅。D. 雲母・赤色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
2	高杯	A. 口径 12.7。残存高 7.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 雲母。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 1/3。H. 覆土。
3	土製品	A. 残長 3.5。幅 1.5。残重 8.24。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 雲母。E. 明褐色。F. 1/2。H. 覆土。
4	土製品	A. 長 4.4。幅 1.1。残重 5.33。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 明褐色。F. 完形。H. 覆土。
5	リタッチ ドブレイク	A. 長 7.6。幅 5.9。厚 1.8。重 73.79。D. 黒色安山岩。F. ほぼ完形。H. 床下。

76号住居跡 (第125・126図、図版19・67)

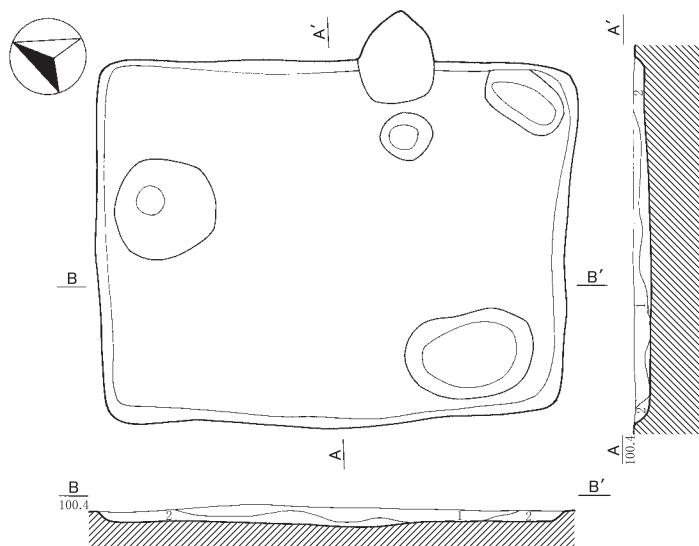
位置：B地点のほぼ中央に位置している。
79号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-67.5°-E。規模：長軸3.71m、短軸2.75m。カマド：東壁に付設される。柱穴：4本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土から土器とともに鉄製品が出土している。時期：平安時代。



第125図 76号住居跡 出土遺物

76号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径 (13.6)。底径 (7.4)。器高 4.9。B. ロクロ成形。C. 内外面、ナデ。底部回転糸切り。D. 赤色粒子・白色粒子。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/4。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
2	須恵器 高台付碗	A. 口径 (11.0)。底径 6.3。器高 4.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 白色粒子。E. 内外-暗灰褐色。F. 2/3。G. 還元焰焼成。H. 覆土。
3	棒状鉄製品	A. 長 11.4。幅・厚 0.5。重 10.15。G. 断面四角。釘か。H. 覆土。
4	棒状鉄製品	A. 長 4.0。幅・厚 0.4。重 2.00。G. 断面四角。釘か。H. 覆土。
5	釘	A. 長 1.6。幅・厚 0.4。重 0.85。H. 覆土。



76号住居跡

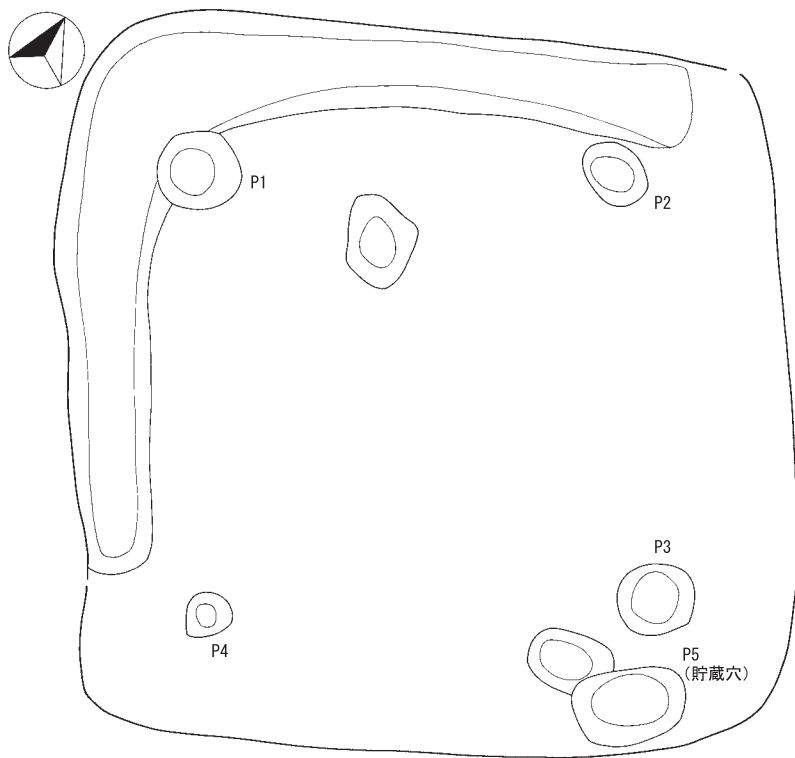
1層 暗褐色土層	ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性やや強、しまりあり。
2層 黒褐色土層	ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。

第126図 76号住居跡

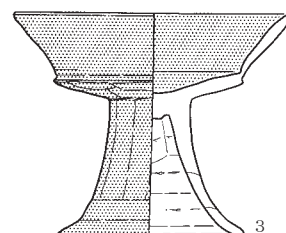
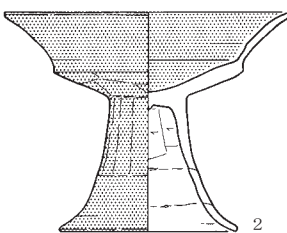
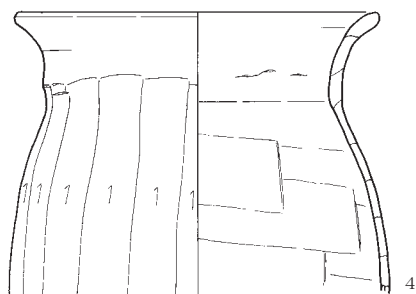
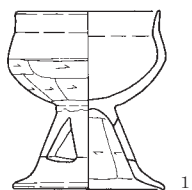


77号住居跡（第127・128図、図版19・67）

位置：B地点の南で単独検出された。上層は削平され、掘り方の一部が残るのみである。形態：平面形は方形であろう。北西コーナー部分に溝状の掘り込みが検出される。主軸方位：N-23°-W。柱穴：7本確認される。P1～4が支柱穴、P5は貯蔵穴である。埋没状況：不明。遺物：貯蔵穴から土器が出土している。時期：古墳時代後期。



第127図 77号住居跡



第128図 77号住居跡 出土遺物

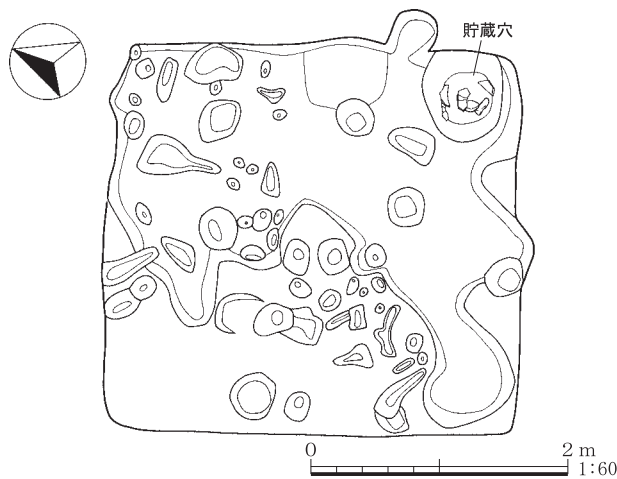


77号住居跡 出土遺物観察表

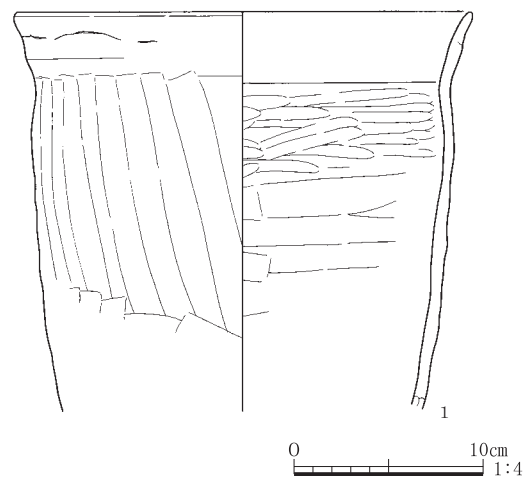
1	高坏	A. 口径(7.6)。底径9.0。器高9.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部上半ヨコナデ。胴部下半ヨコケズリ。脚部ヨコナデ。内面、口縁部～体部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ、下半ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 脚部3方向に三角形の透孔。H. 貯蔵穴。
2	高坏	A. 口径(15.2)。底径(9.4)。器高11.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ→ヨコナデ。脚部ケズリ→ナデ。内面、ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ、下半ナデ。D. 雲母。E. 内外-橙色・明赤褐色。F. 1/3。G. 外面・内面体部に赤彩。H. 貯蔵穴。
3	高坏	A. 口径14.8。底径(10.0)。器高11.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。脚部ケズリ→ナデ。内面、ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ、下半ヨコナデ。D. 石英。E. 内外-橙色・赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面・内面体部に赤彩。外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
4	甕	A. 口径(19.2)。残存高14.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁部～胴部上半1/2。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。

78号住居跡 (第129・130図、図版19)

位置：B地点のほぼ中心に位置する。重複する遺構はないが、上層は削平を受けて掘り方のみ検出した。形態：平面形は方形を呈すると思われる。主軸方位：N-73.5°-E。規模：長軸3.20m、短軸3.05m。カマド：東壁に痕跡あり。貯蔵穴：カマド跡に向かって右側のピットが貯蔵穴だと考えられる。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：貯蔵穴から土器が出土している。時期：古墳時代か。



第129図 78号住居跡



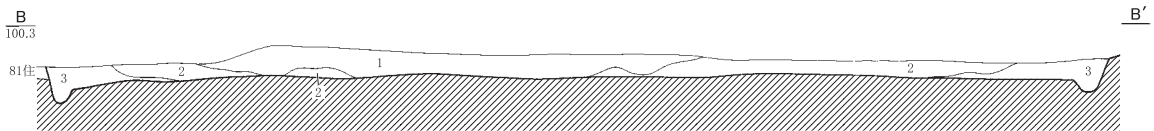
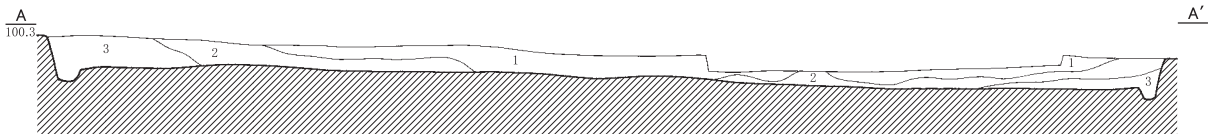
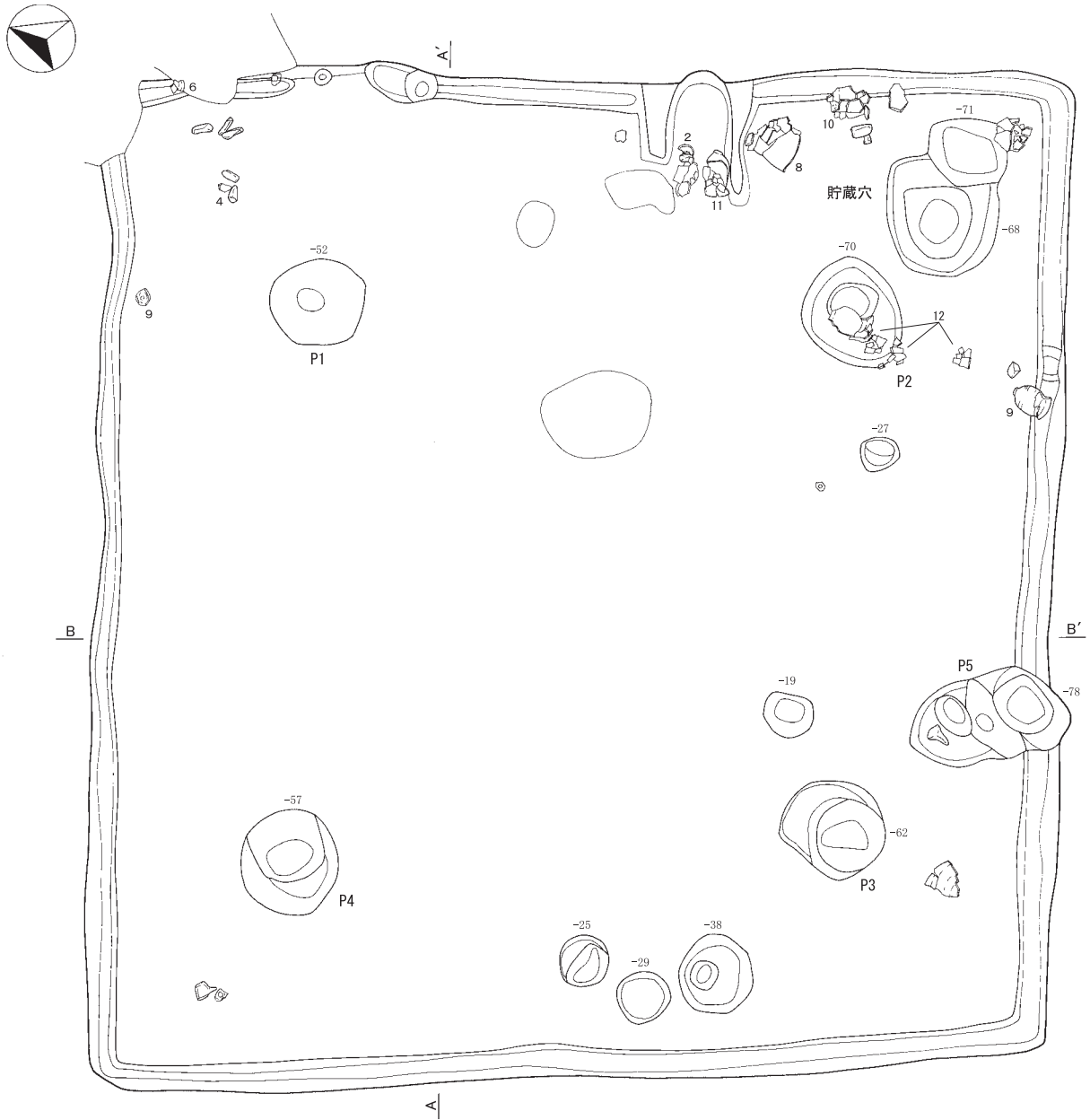
第130図 78号住居跡 出土遺物

78号住居跡 出土遺物観察表

1	甕	A. 口径(24.2)。残存高21.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ→上位ヨコミガキ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部～胴部中位1/2。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
---	---	--

79号住居跡 (第131・132・133図、図版20・67・68)

位置：B地点のほぼ中央に位置している。76号住居跡・80号住居跡・81号住居跡と重複し、76号住居跡に切られる以外は、本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-71°-E。規模：長軸8.78m、短軸8.39m。カマド：東壁に付設される。向かって左の袖先端は76号住居跡のピットに破壊される。燃焼部からは、長胴甕が2個体並んで出土している。貯蔵穴：カマドに向かって右側南東コーナー部分に位置するピットが貯蔵穴だと思われる。柱穴：10本確認され、P1～4が主柱穴であろう。周溝：カマド部分を除いてほぼ全周する。埋没状況：レンズ状堆積を呈し自然に埋没している。遺物：カマドを中心に住居跡の東半から遺物が出土する。時期：古墳時代後期。

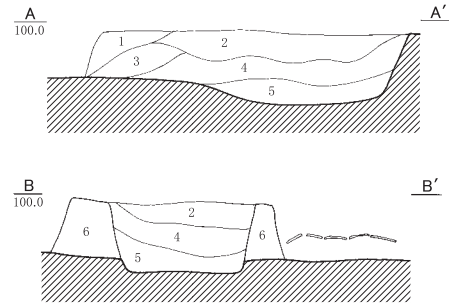
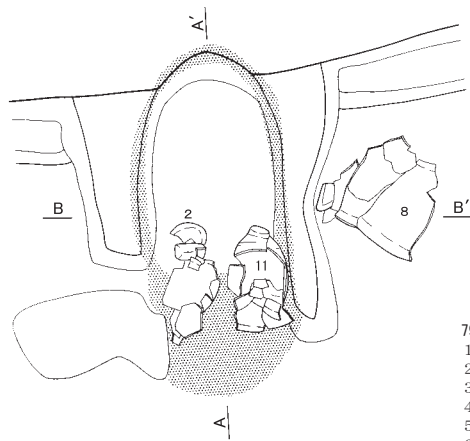


79号住居跡

- | | |
|----------|--|
| 1層 暗褐色土層 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性強、しまりあり。 |
| 2層 暗褐色土層 | ローム粒子・ロームブロックを中量、焼土粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。 |
| 3層 暗褐色土層 | ローム粒子を中量、焼土粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。 |

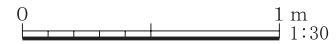
0 2 m
1:60

第131図 79号住居跡



79号住居跡 カマド

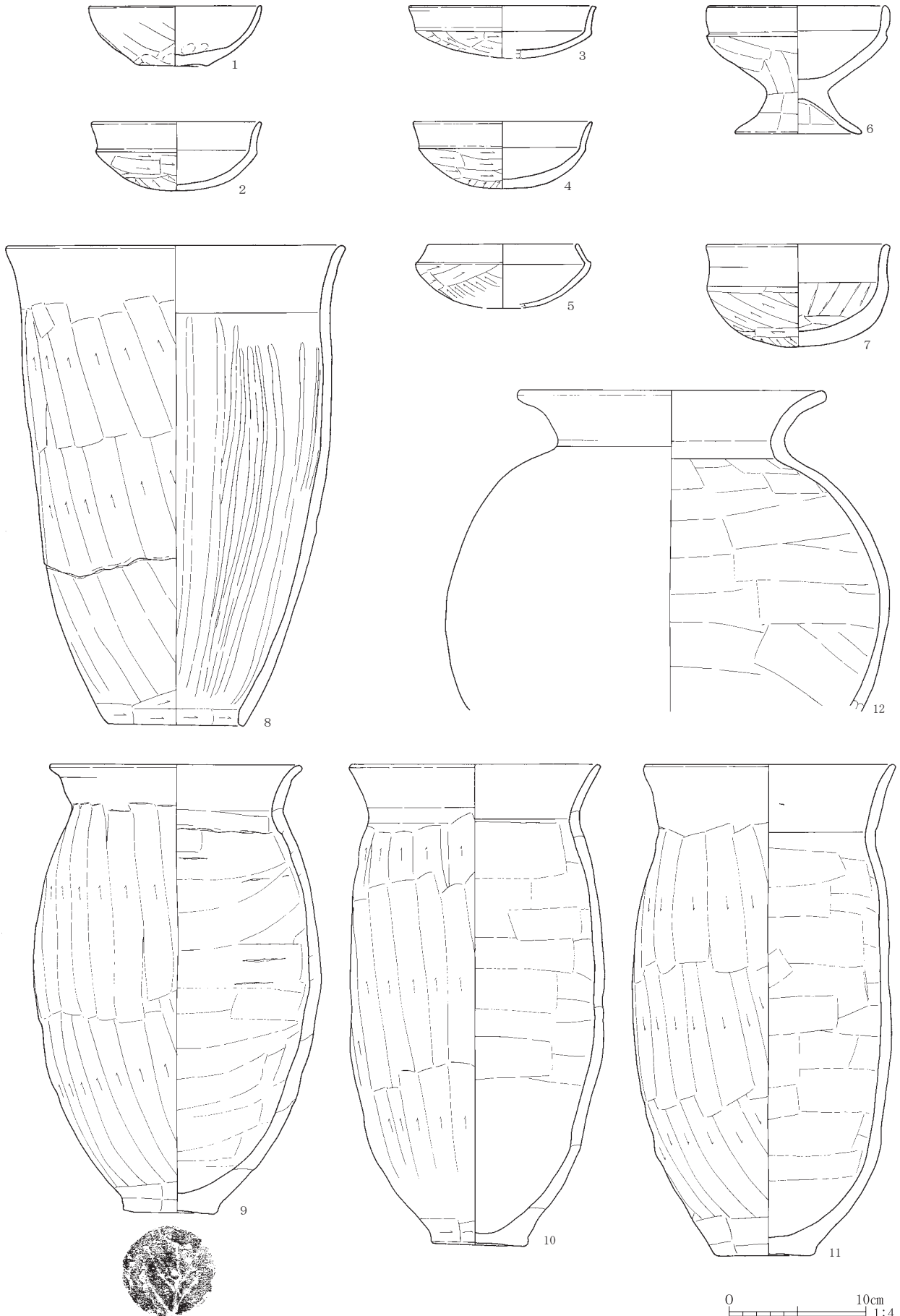
- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・白色粘土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 白色粘土ブロックを中量、焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 3層 暗黄褐色土層 ロームブロックを中量含む。粘性・しまりあり。
- 4層 黒褐色土層 ローム粒子・白色粘土粒子を中量、焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 5層 黒褐色土層 ロームブロック・白色粘土ブロックを微量に含む。粘性・しまりあり。
- 6層 白色粘質土層 白色粘土主体層。粘性・しまりあり。



第132図 79号住居跡 カマド

79号住居跡 出土遺物観察表

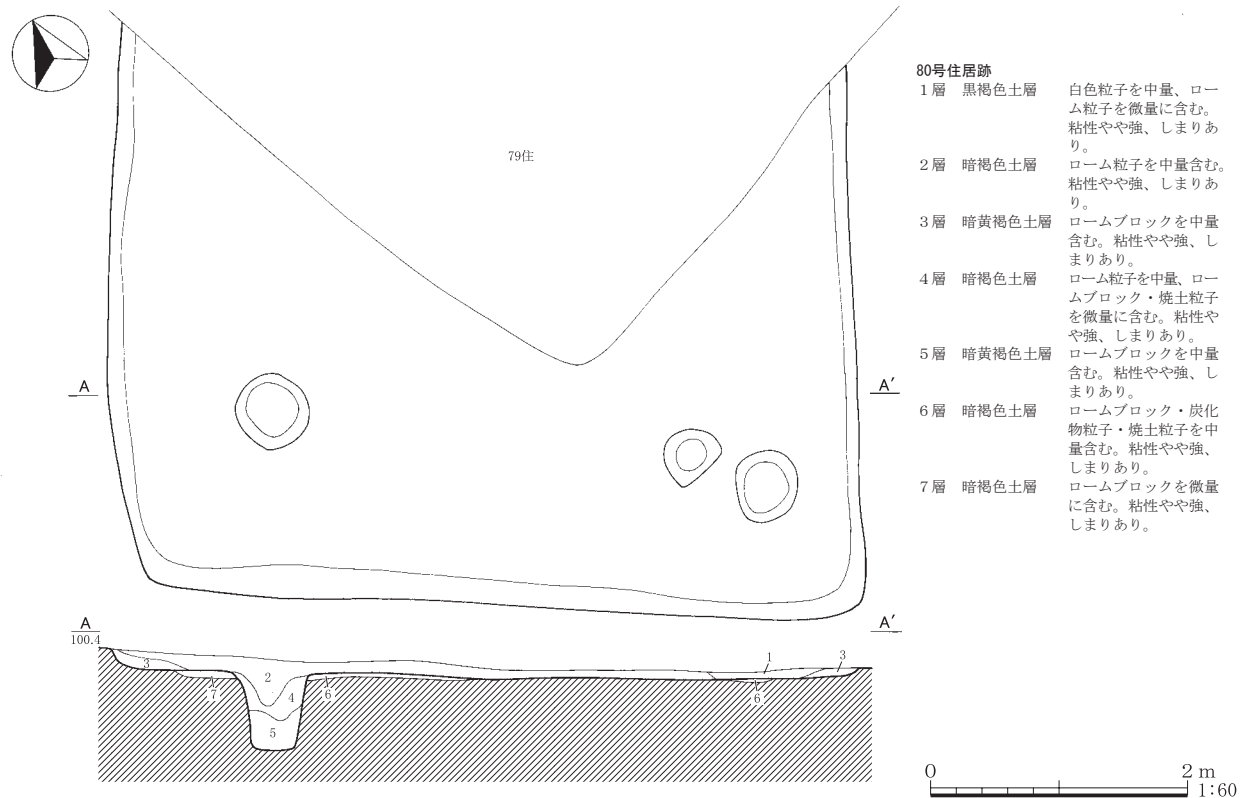
1	坏	A. 口径(12.6)。底径。5.0。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナナメナデ・下位ユビオサエ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。体部下半ユビオサエ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.3。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内一橙色。外一にぶい黄橙色。F. 2/3。G. 内面体部に黒色付着物あり。H. カマド。
3	坏	A. 口径13.8。残存高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	坏	A. 口径(13.2)。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
5	坏	A. 口径(11.0)。器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一灰褐色。外一灰黄褐色。F. 1/3。G. 口唇部摩滅。H. 覆土。
6	高坏	A. 口径13.4。底径(9.0)。器高9.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテケズリ→下位ヨコナデ。脚部ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。G. 内外面二次被熱。坏部内面剥落する。H. 覆土。
7	鉢	A. 口径13.5。器高7.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 4/5。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
8	大形甗	A. 口径24.8。底径9.7。器高35.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。内面、ヨコナデ→タテミガキ。D. 白色粒子・石英。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部焼成時の黒斑・二次被熱あり。H. 覆土。
9	甗	A. 口径18.4。底径6.8。器高33.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。底部木葉痕。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。胴部下半二次被熱。内面胴部ヨゴレ。H. 覆土。
10	甗	A. 口径18.4。底径6.9。器高35.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面胴部焼成時の黒斑あり。外面胴部下半二次被熱。内面胴部下半帯状にヨゴレ・底部にコゲ。H. 覆土。
11	甗	A. 口径36.3。底径7.1。器高36.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内一にぶい黄橙色。外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
12	壺	A. 口径(22.6)。残存高23.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部摩滅。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内一黒褐色。外一明赤褐色。F. 口縁部～胴部上半3/4。G. 内面胴部に焼成時の黒斑あり。外面胴部は摩滅。H. 覆土。



第133图 79号住居跡 出土遺物

80号住居跡（第134図、図版20）

位置：B地点のほぼ中央に位置している。79号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-30.5°-E。規模：長軸5.92m。柱穴：3本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。ただし、6層・7層は古い住居の掘り込みであり、1～5層が建て替え後の住居の埋没との所見がある。遺物：覆土より出土している。時期：古墳時代。



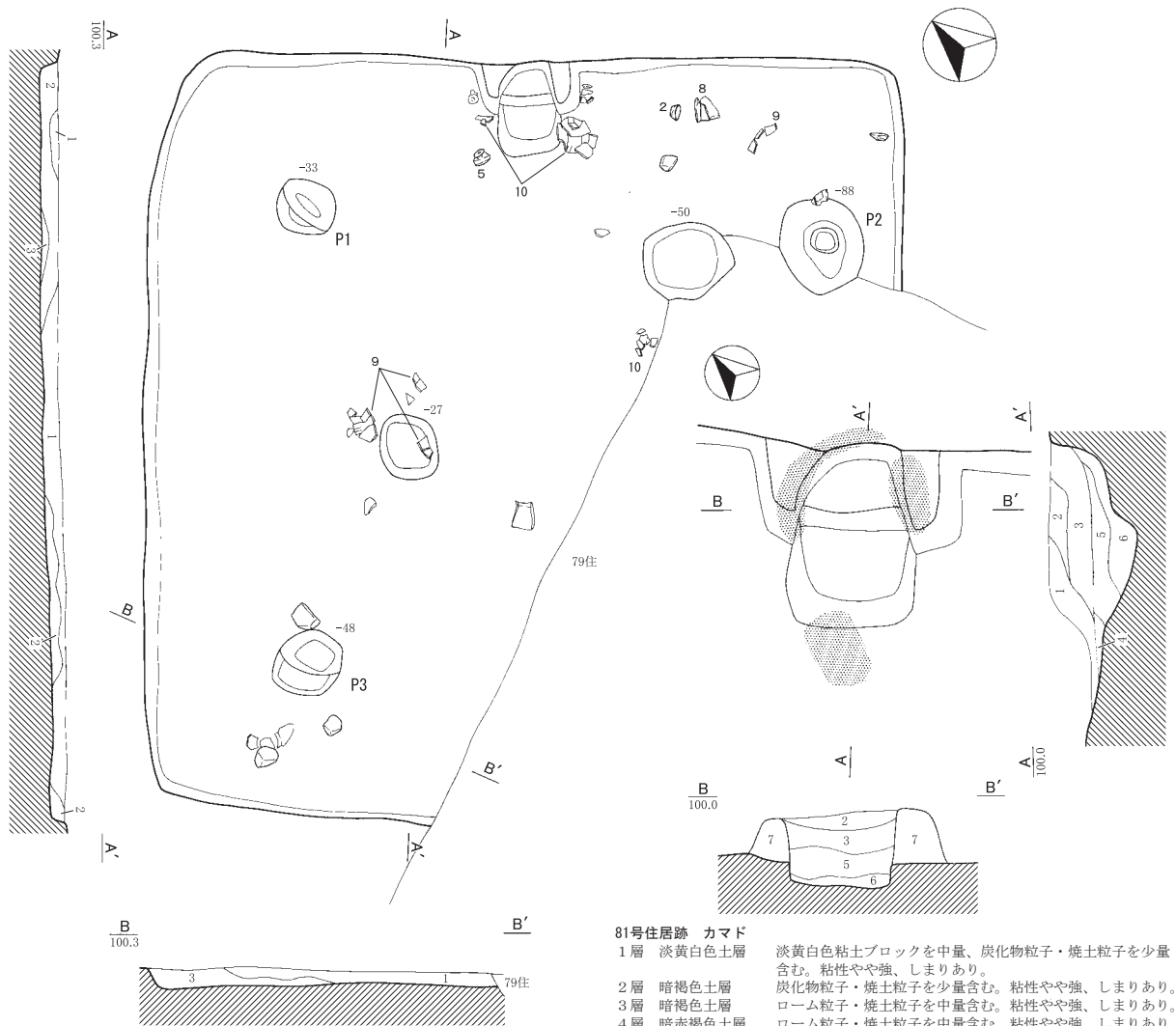
第134図 80号住居跡

81号住居跡（第135・136図、図版20・68）

位置：B地点のほぼ中央に位置している。79号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-51°-E。規模：長軸6.21m、短軸6.15m。カマド：東壁付設され、袖には淡黄白色粘土を用いる。燃烧部は住居内に収まり、一段下がる構造である。柱穴：5本確認される。このうちP1・3が主柱穴であろう。P2は貯蔵穴の可能性もある。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居内に散在している。時期：古墳時代後期。

81号住居跡 出土遺物観察表（1）

1	坏	A. 口径 13.6。器高 4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/3。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 12.6。器高 5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. 3/4。H. 床下。
3	坏	A. 口径 13.3。器高 5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
4	高坏	A. 口径 (12.5)。底径 8.8。器高 9.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。脚部ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-橙色。F. 2/3。H. 覆土。
5	高坏	A. 口径 12.4。底径 9.5。器高 9.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、調整摩滅。内面、口縁部～体部調整摩滅。脚部ヨコナデ。D. 白色粒子・雲母。E. 内外-橙色。F. 4/5。H. 覆土。



81号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、焼土粒子を微量に含む。粘性やや強。しまりなし。
- 2層 暗茶褐色土層 ロームブロックを中量、焼土粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりなし。
- 3層 黒褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を中量含む。粘性やや強、しまりなし。

81号住居跡 カマド

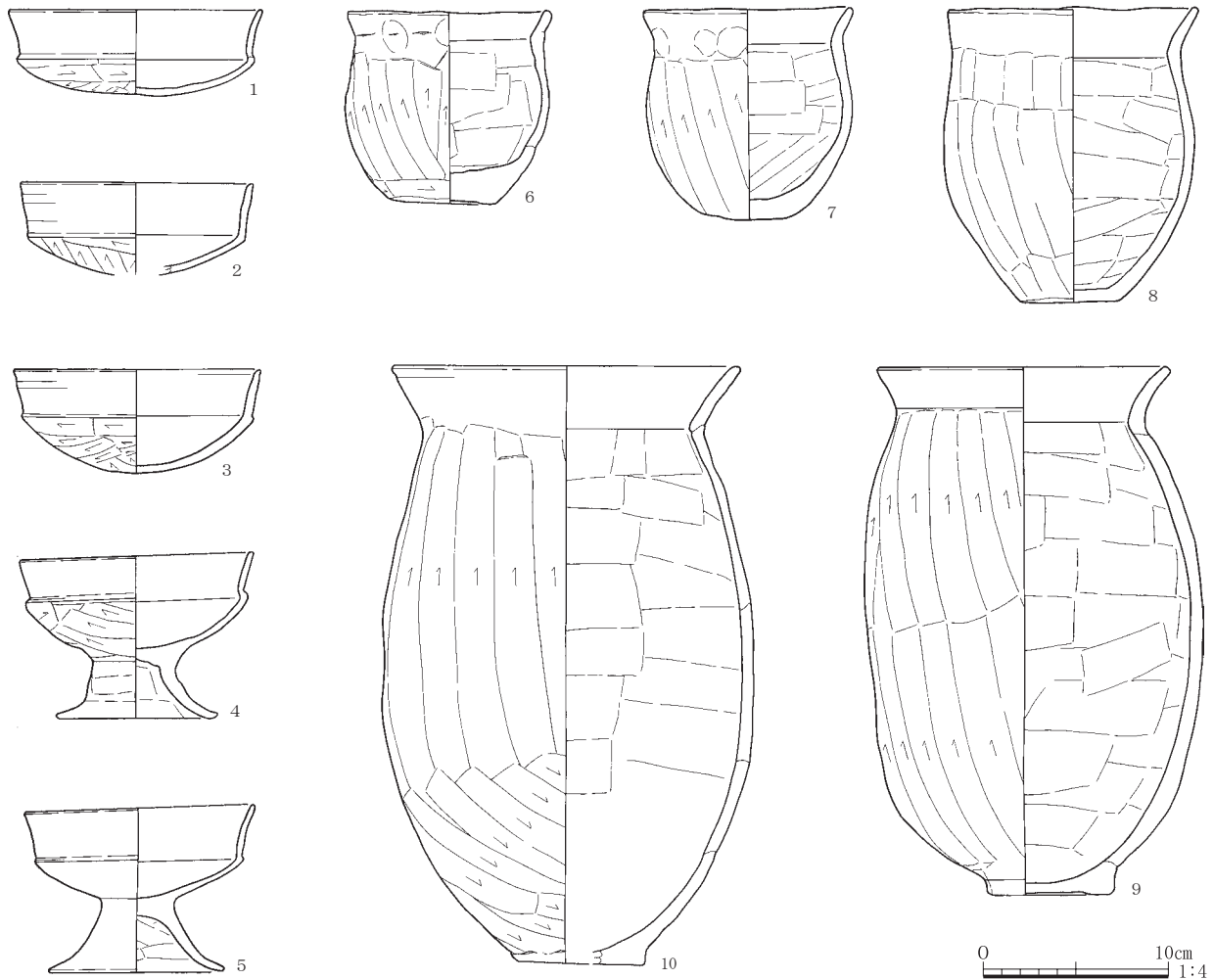
- 1層 淡黄白色粘土層 淡黄白色粘土ブロックを中量、炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 4層 暗赤褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 5層 暗褐色土層 ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 6層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 7層 淡黄白色粘土層 カマド袖。



第135図 81号住居跡

81号住居跡 出土遺物観察表 (2)

6	小形甕	A. 口径 11.0。底径 5.7。器高 10.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ・ユビオサエ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 外面胴部二次被熱。内面口縁部にスス附着。H. 覆土。
7	小形甕	A. 口径 11.4。底径 4.9。器高 11.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ・ユビオサエ。胴部タテケズリ。底部ケズリ→ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 1/2。G. 外面二次被熱。H. 覆土。
8	小形甕	A. 口径 13.5。底径 5.4。器高 16.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面二次被熱。H. 覆土。
9	甕	A. 口径 28.6。底径 6.8。器高 28.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。底部木葉痕。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 外面胴部二次被熱。H. 覆土。
10	甕	A. 口径 32.4。底径 7.0。器高 32.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面胴部中位にスス附着・下半二次被熱・粘土附着。H. 覆土。



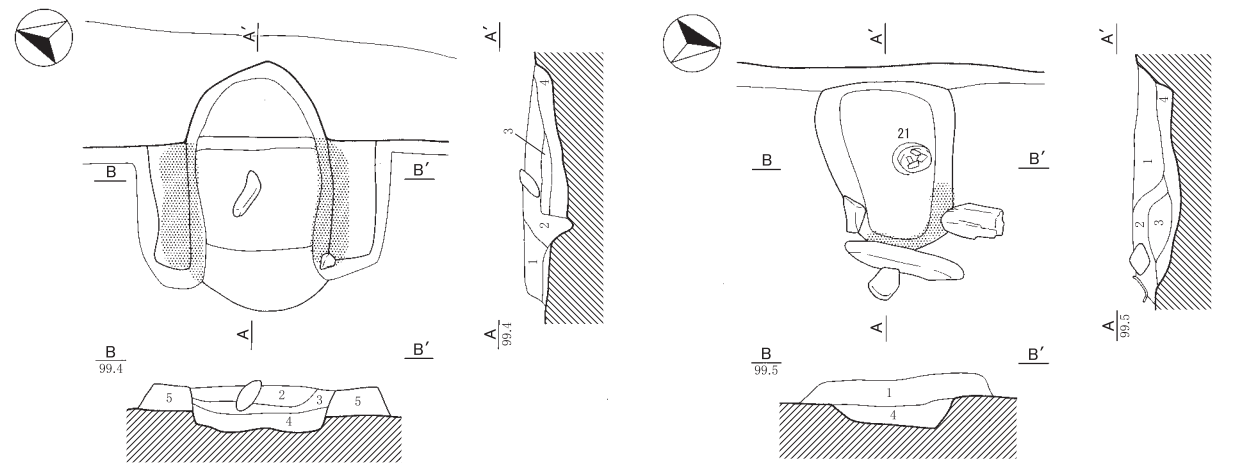
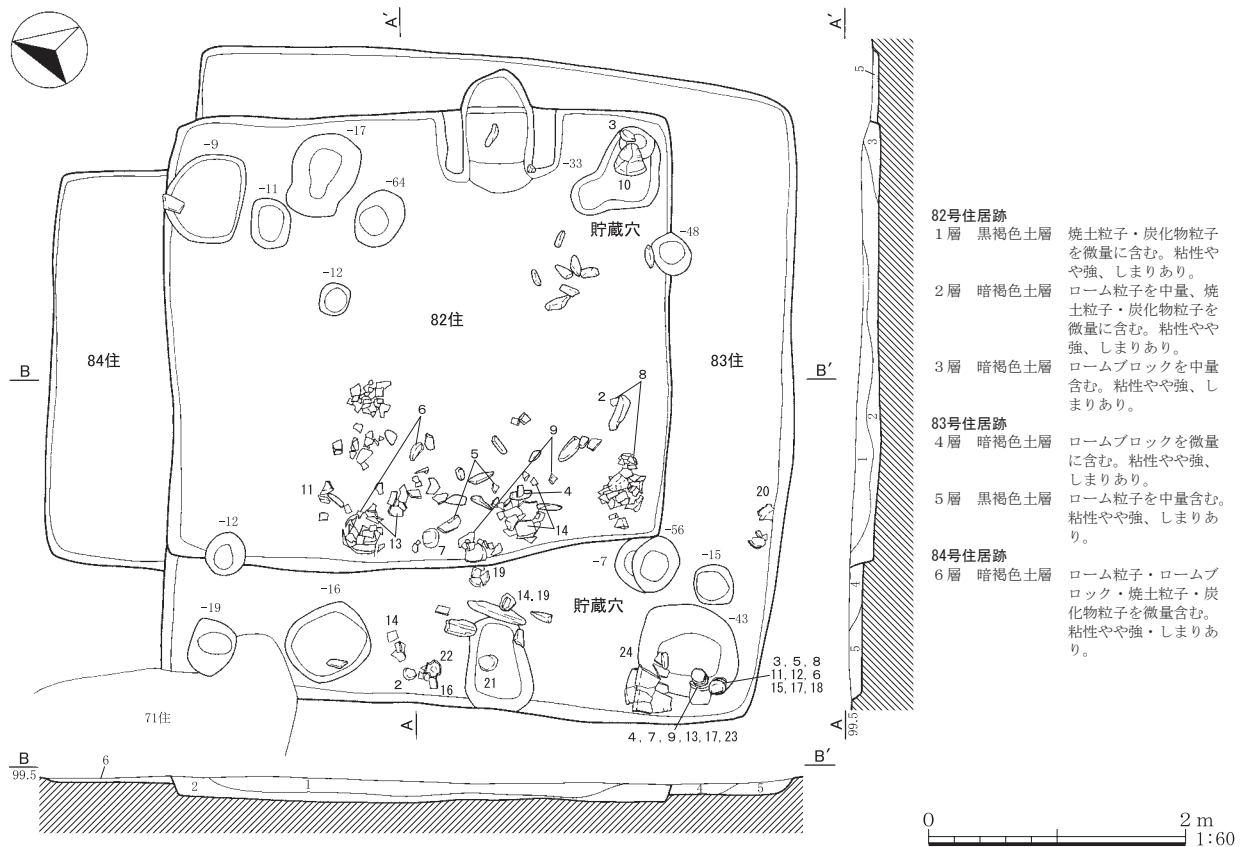
第136図 81号住居跡 出土遺物

82号住居跡（第137・138図、図版20・21・69）

位置：B地点の東に位置している。83号住居跡・84号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-76°-E。規模：長軸4.01m、短軸3.65m。カマド：東壁に付設される。袖は黄褐色土を用いた付け袖である。燃烧部は住居内に収まり、煙道は住居外に延びる。燃烧部の中央部分には支脚と思しき礫が据えられていた。貯蔵穴：カマドに向かって右に配される不整形なピットが貯蔵穴であろう。柱穴：7本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居の西壁周辺に遺物が集中する。時期：古墳時代後期。

83号住居跡（第137・139図、図版20・21・70）

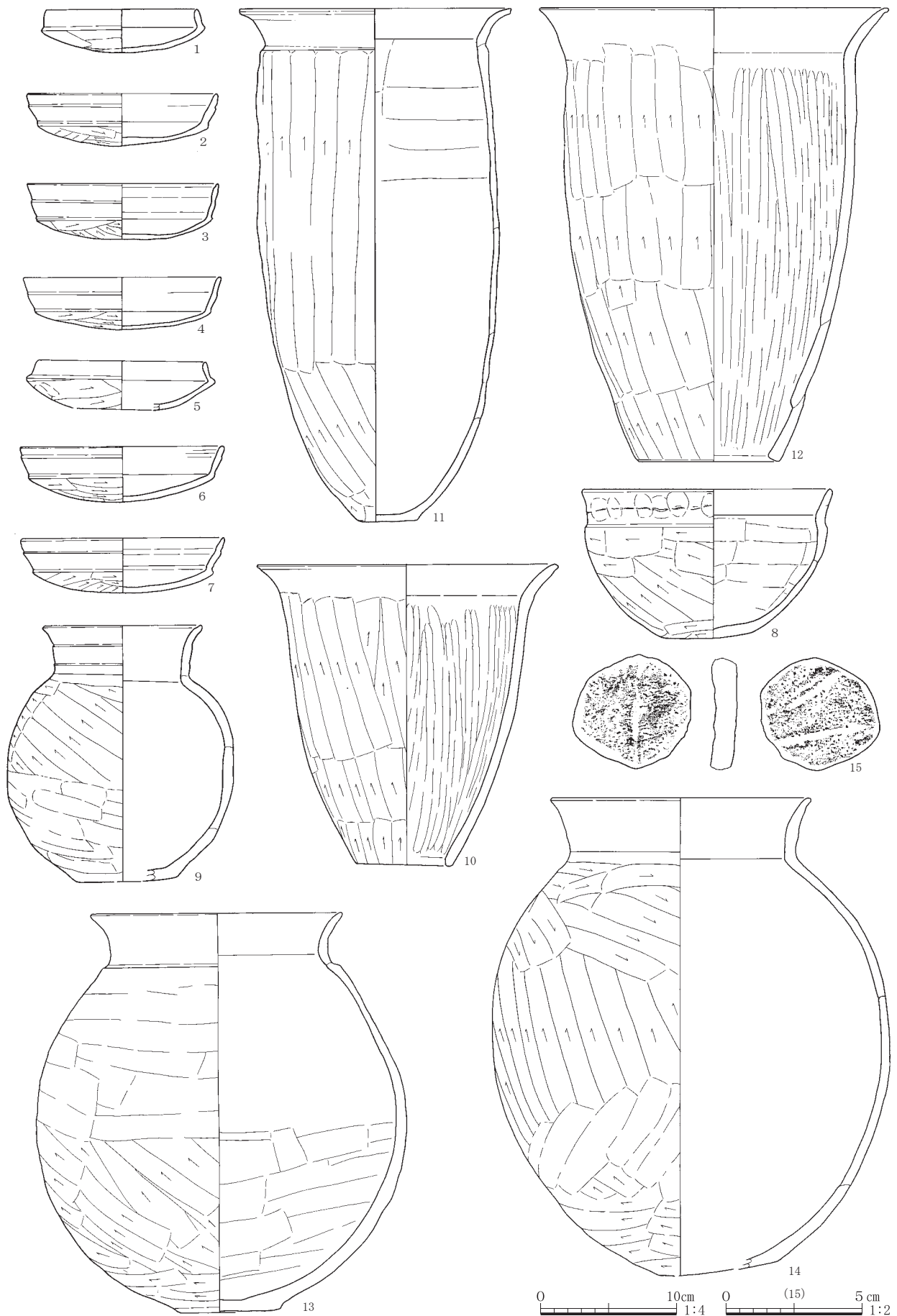
位置：B地点の東に位置している。71号住居跡・82号住居跡・84号住居跡と重複する。82号住居跡より古く、84号住居跡より新しい。71号住居跡との新旧関係は不明である。形態：平面形方形を呈する。主軸方位：S-77.5°-W。規模：長軸5.75m、短軸5.15m。カマド：西壁に付設される。袖は残存せず、燃烧部が残る。カマド前の礫は構築材の可能性が高いだろう。貯蔵穴：カマドに向かって左側にある楕円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：5本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド周辺と貯蔵穴に集中する。貯蔵穴より土師器の坏が5枚以上重なって出土している。時期：古墳時代後期。



第137図 82号・83号・84号住居跡

84号住居跡 (第137図、図版20)

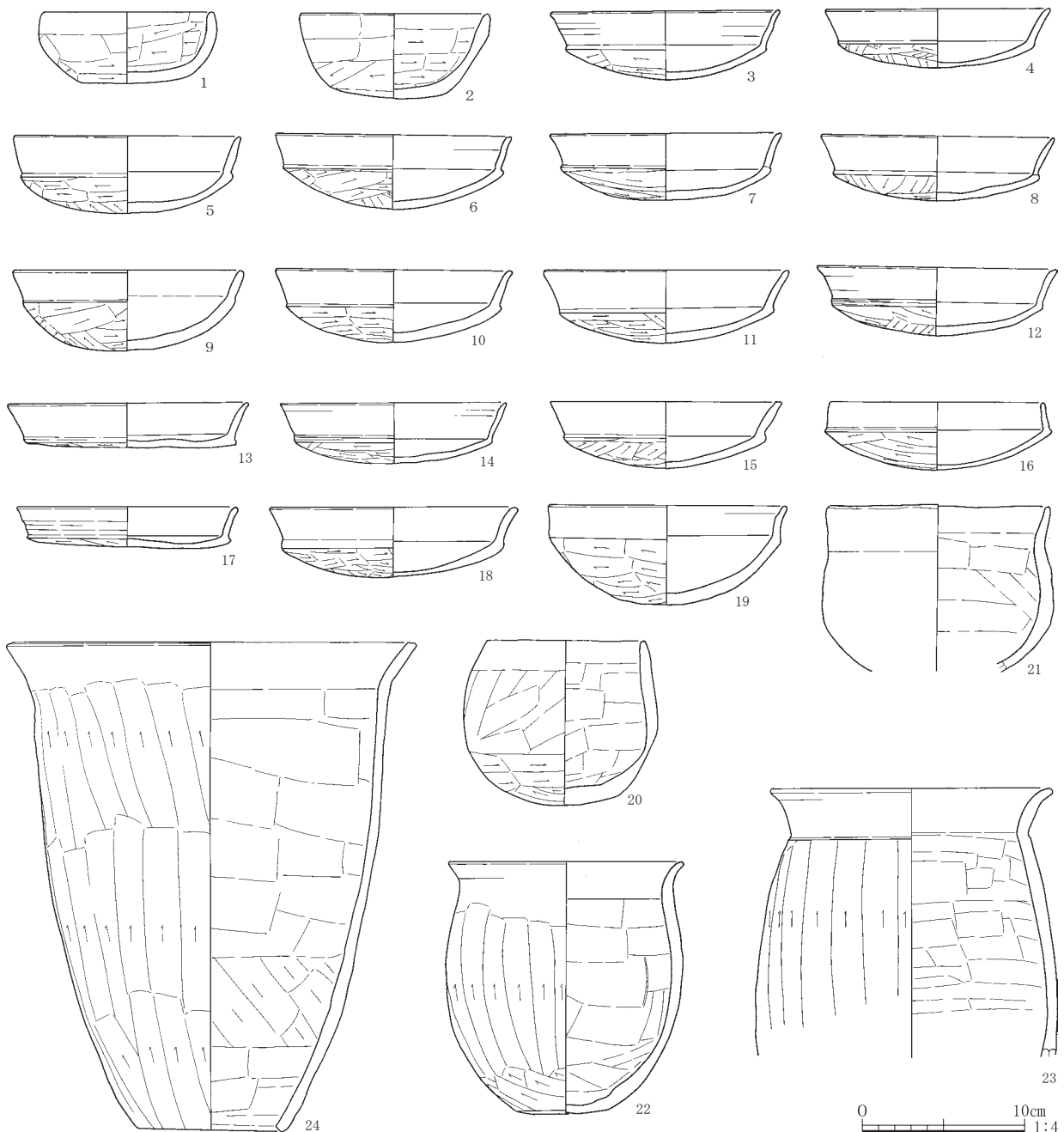
位置：B地点の東に位置している。82号住居跡・83号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。形態：平面形は方形であろう。主軸方位：N-76°-E。規模：長軸3.15m。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土から土器等が出土している。時期：古墳時代。



第138图 82号住居跡 出土遺物

82号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	坏	A. 口径 11.2。器高 3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 橙色粒子。E. 内にぶい黄橙色。外-にぶい橙色。F. 1/3。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 14.0。器高 3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 外面体部焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 14.0。器高 4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内-明赤褐色。外-にぶい橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面黒色処理か。H. 覆土。
4	坏	A. 口径 14.5。器高 3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 4/5。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	坏	A. 口径 (12.5)。残存高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ユビオサエ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内にぶい褐色。外-にぶい黄橙色。F. 3/4。G. 内面体部に焼成時の黒斑あり。口唇部から内面体部痘痕状に剥離する。H. 覆土。
6	坏	A. 口径 14.9。器高 4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内-明赤褐色。外-にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面黒色処理。H. 覆土。



第139図 83号住居跡 出土遺物

82号住居跡 出土遺物観察表(2)

7	坏	A. 口径 15.0。器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内一明赤褐色。外一にぶい黄橙色。F. 完形。H. 覆土。
8	鉢	A. 口径 (18.4)。底径 6.5。器高 11.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユピオサエ。胴部ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 外面二次被熱。内面胴部に帯状にヨゴレ。H. 覆土。
9	小形壺	A. 口径 11.8。底径 (7.4)。器高 (18.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメケズリ→下半ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
10	中形甌	A. 口径 22.1。底径 7.1。器高 22.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ→胴部タテミガキ。D. 石英・片岩・橙色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
11	甕	A. 口径 20.2。底径 4.2。器高 37.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子・角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい黄橙色。F. 4/5。G. 外面胴部下半二次被熱。外面底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
12	大形甌	A. 口径 25.5。底径 10.2。器高 33.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ→胴部タテミガキ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
13	壺	A. 口径 18.5。底径 7.6。器高 29.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部下半ナナメ→ヨコケズリ→上半ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・片岩。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
14	壺	A. 口径 19.1。底径 8.5。器高 35.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメ→タテケズリ→下位ナナメナデ。底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一浅黄橙色。F. 3/4。G. 外面胴部下半スス附着。H. 覆土。
15	土製品	A. 長 4.3。幅 4.1。厚 0.9。C. 内外面、ケズリ。D. 石英・片岩。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい黄橙色。F. 完形。H. 覆土。

83号住居跡 出土遺物観察表(1)

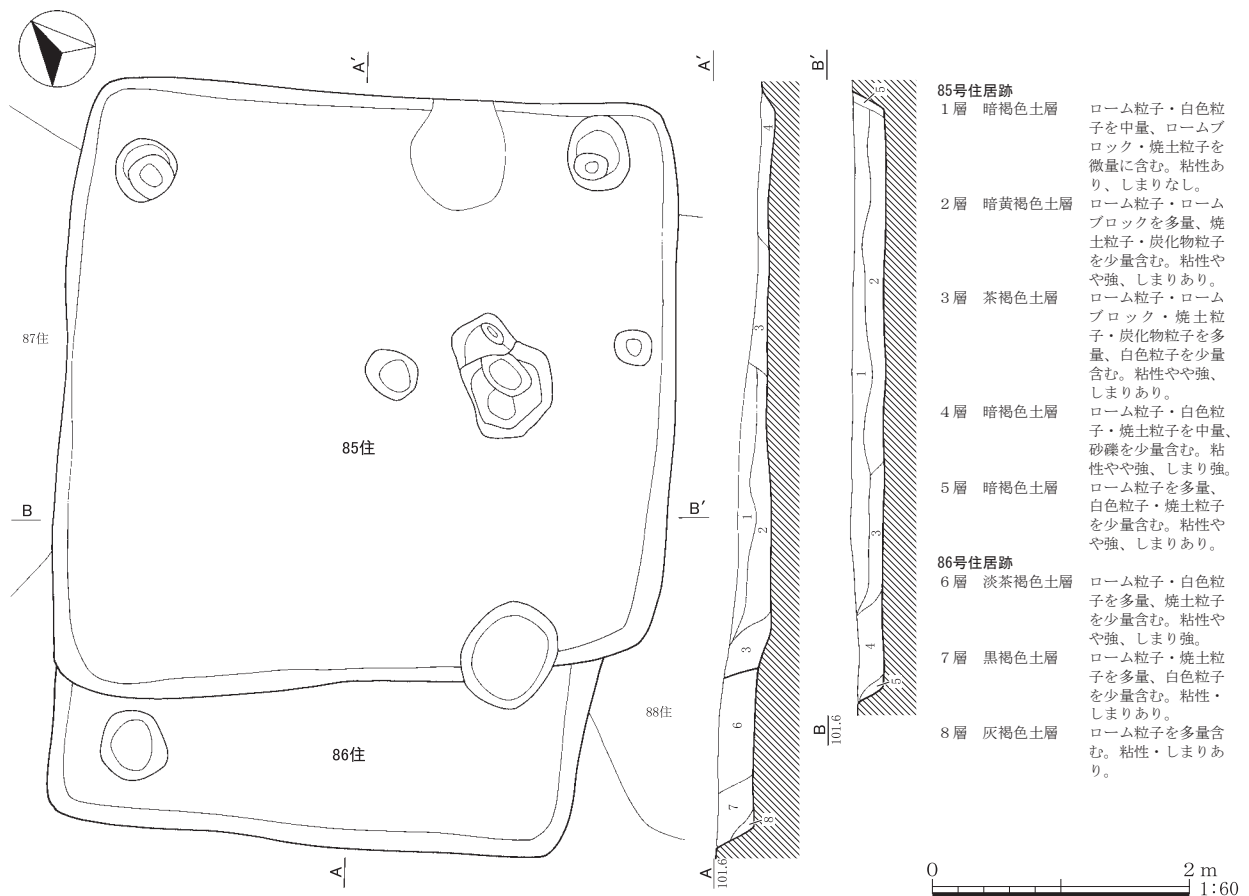
1	坏	A. 口径 (10.2)。器高 4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部上位ヨコナデ。体部ヨコケズリ。底部ナデ。内面、ヨコケズリ→口縁部ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/3。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 11.6。器高 5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコケズリ→口縁部ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/2。G. 片岩・角閃石・石英。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 14.1。器高 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
4	坏	A. 口径 13.8。器高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
5	坏	A. 口径 13.9。器高 4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面にスス附着。H. 覆土。
6	坏	A. 口径 14.5。器高 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
7	坏	A. 口径 14.3。器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
8	坏	A. 口径 14.3。器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に黒色の付着物あり。H. 覆土。
9	坏	A. 口径 14.2。器高 4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。外面体部に黒色の付着物あり。H. 覆土。
10	坏	A. 口径 14.6。器高 4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 外面黒色処理か。H. 覆土。
11	坏	A. 口径 15.1。器高 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土。
12	坏	A. 口径 14.8。器高 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に黒色付着物あり。H. 覆土。
13	坏	A. 口径 14.9。底径 (13.0)。器高 2.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。H. 覆土。
14	坏	A. 口径 14.0。器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。H. 覆土。
15	坏	A. 口径 14.3。器高 4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
16	坏	A. 口径 13.1。器高 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色・褐灰色。F. 3/4。H. 覆土。

83号住居跡 出土遺物観察表(2)

17	坏	A. 口径13.5。器高2.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
18	坏	A. 口径15.3。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 内外外面体部に黒色の付着物あり。H. 覆土。
19	坏	A. 口径14.7。器高6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
20	鉢	A. 口径(9.2)。器高10.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下半ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/2。G. 内面底部、痘痕状に剥離する。H. 覆土。
21	鉢	A. 口径(13.4)。残存高10.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部調整摩滅。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部～胴部4/5。G. 外面二次被熱。H. 覆土。
22	小形甕	A. 口径(7.6)。底径6.1。器高15.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ナナメケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/3。H. 覆土。
23	甕	A. 口径17.4。残存高16.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部上半ほぼ完形。G. 外面胴部二次被熱。H. 覆土。
24	大形甕	A. 口径25.3。底径8.7。器高30.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメケズリ→上位・下位ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. ほぼ完形。G. 内外外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

85号住居跡(第140・141図、図版21・70)

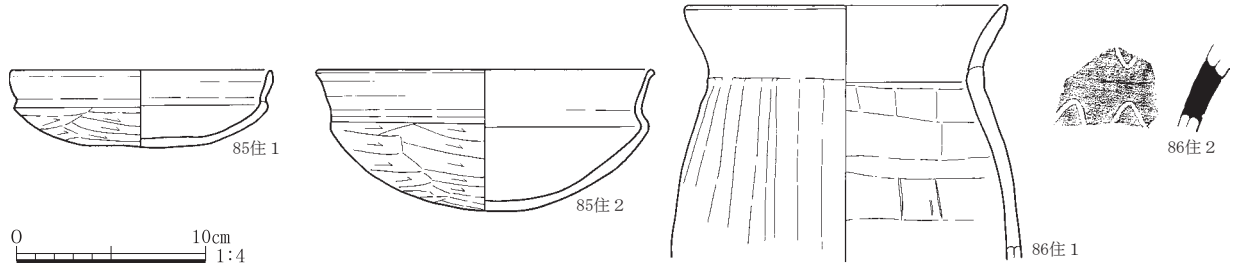
位置：B地点の南に位置している。86号住居跡・87号住居跡・88号住居跡と重複し、前者1軒より新しく、後者2軒との新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-44.5° - E。長軸4.84m、短軸4.59m。カマド：北壁に付設される。柱穴：6本確認される。埋没状況：自然埋没である。遺物：覆土から土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第140図 85号・86号住居跡

86号住居跡（第140・141図、図版21・70）

位置：B地点の南に位置している。85号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈するであろう。主軸方位：N-44.5°-Eか。規模：長軸4.18m。柱穴：1本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より遺物が出土している。時期：古墳時代後期。



第141図 85号・86号住居跡 出土遺物

85号住居跡 出土遺物観察表

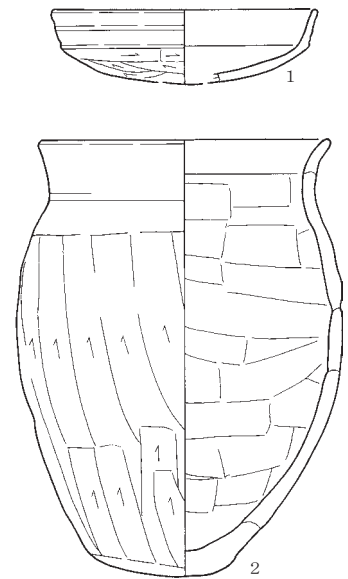
1	坏	A. 口径13.7。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・雲母。E. 内外-橙色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径17.9。器高7.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・橙色粒子。E. 内外-橙色。F. 2/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

86号住居跡 出土遺物観察表

1	甕	A. 口径(17.1)。残存高13.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・雲母・石英。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部~胴部中位1/4。G. 内外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	須恵器甕	B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→波状文。内面、剥落。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内-にぶい赤褐色。外-にぶい黄橙色。F. 破片。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。

87号住居跡（第142・143図、図版21・70）

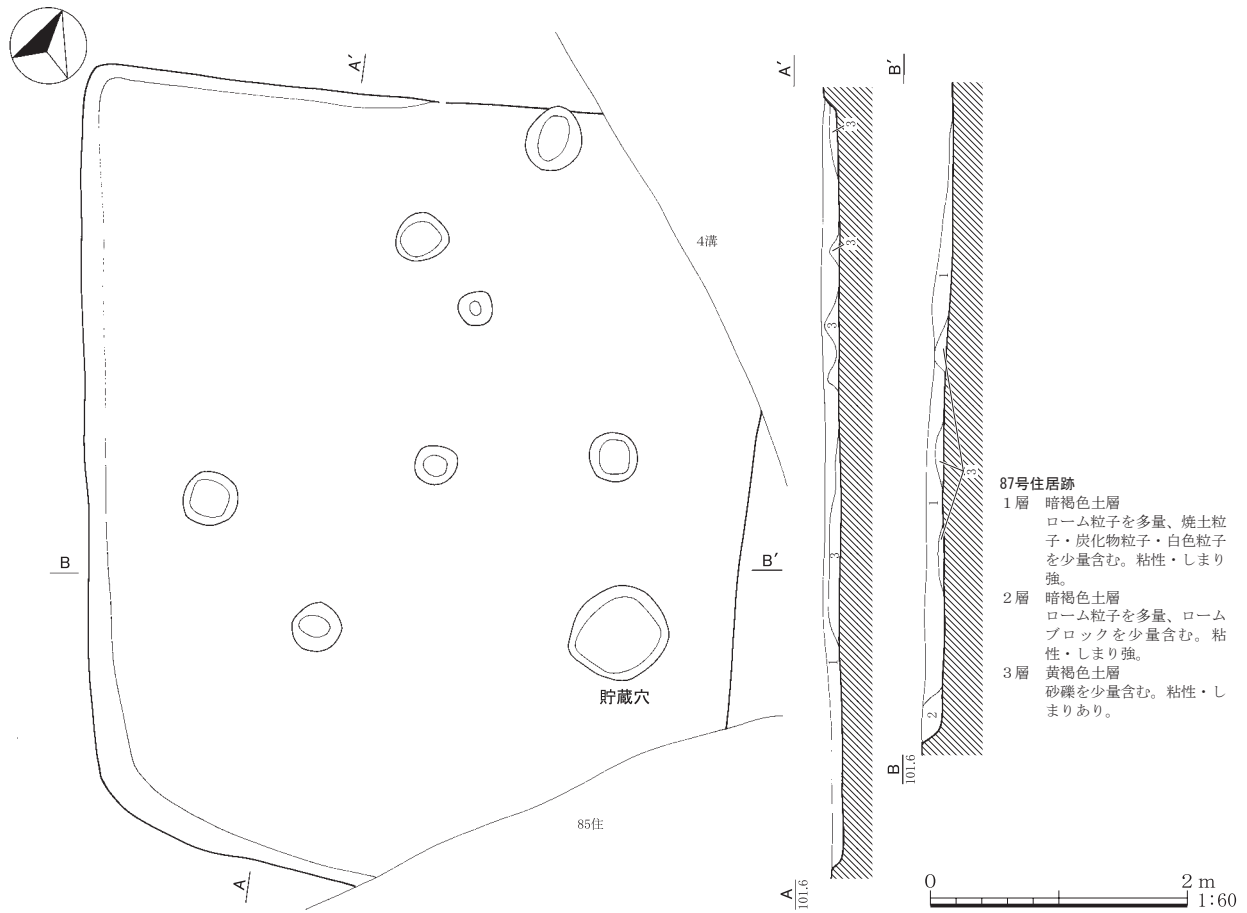
位置：B地点の東に位置している。85号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。4号溝とも切り合い、本遺構が古い。北東コーナーから東壁は削平され、消滅している。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-13°-Wか。規模：長軸6.10m、短軸推定5.19m。貯蔵穴：住居の南東にあるピットが貯蔵穴だと考えられる。柱穴：7本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土師器が出土している。時期：古墳時代後期。



第142図 87号住居跡 出土遺物

87号住居跡 出土遺物観察表

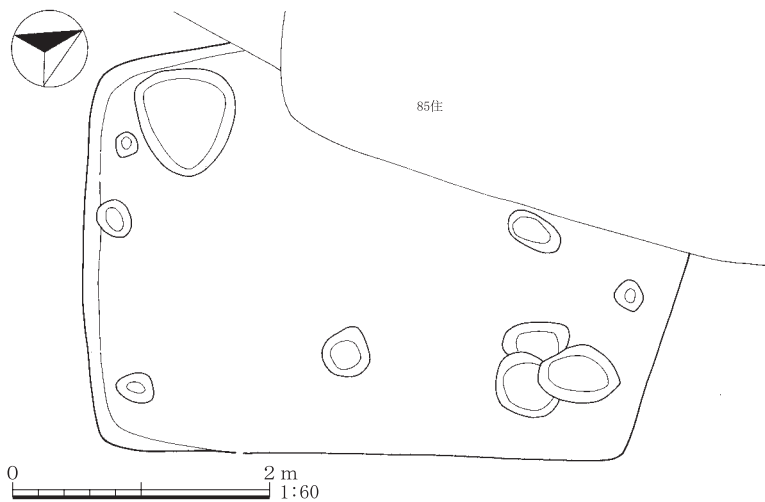
1	坏	A. 口径(14.0)。残存高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
2	甕	A. 口径15.3。底径7.0。器高23.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 外面二次被熱。H. 貯蔵穴。



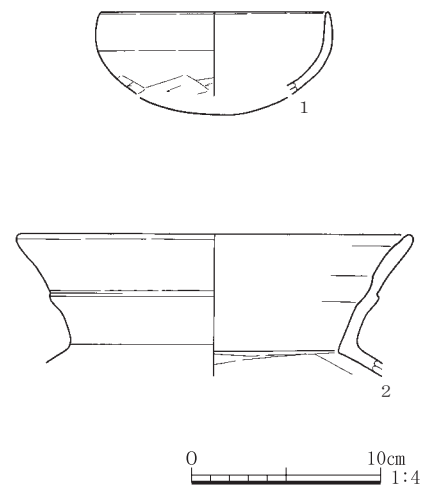
第143図 87号住居跡

88号住居跡 (第144・145図、図版21)

位置：B地点の東に位置している。85号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。北壁～東壁の一部は削平されている。形態：平面形は方形であろう。規模：短軸3.13m。柱穴：10本確認される。埋没状況：不明。遺物：覆土から出土している。時期：古墳時代後期。



第144図 88号住居跡



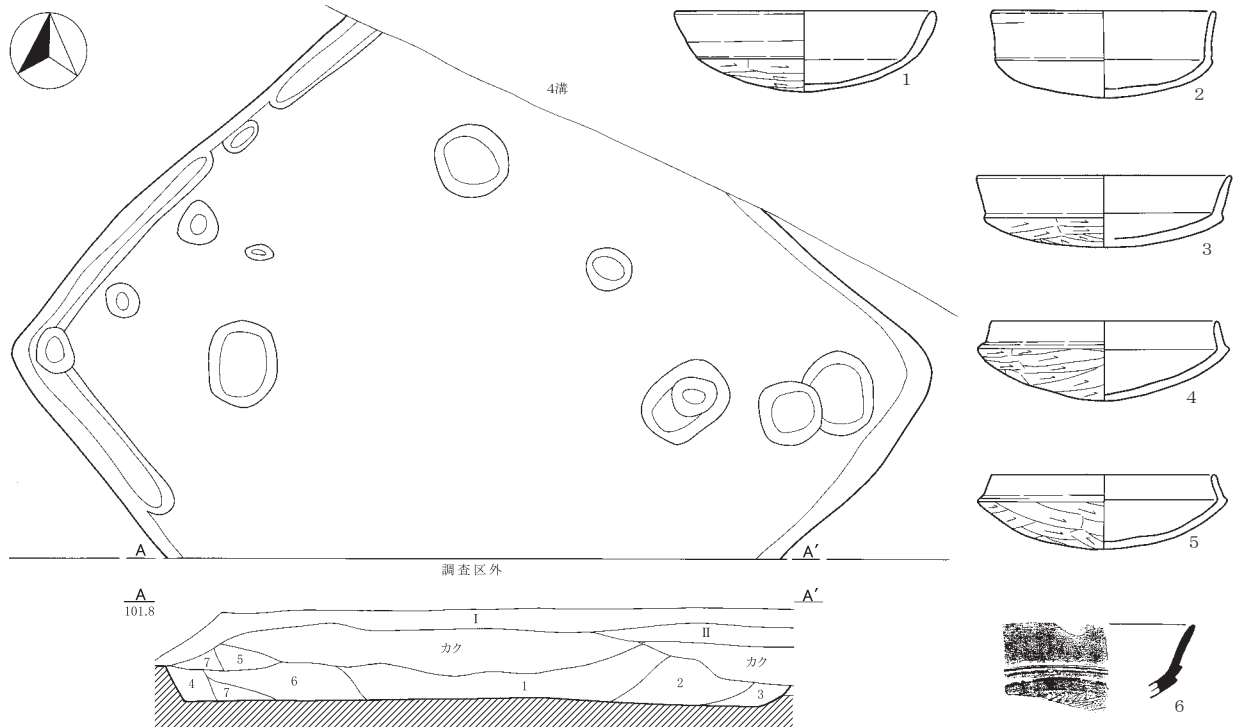
第145図 88号住居跡 出土遺物

88号住居跡 出土遺物観察表

1	碗	A. 口径(12.2)。残存高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-淡褐色。F. 1/4。H. 覆土。
2	壺	A. 口径(21.0)。残存高7.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 片岩・赤色粒子。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土。

89号住居跡（第146図、図版21・70）

位置：B地点の南に位置している。4号溝と重複し北側の一部を破壊される。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-50°-Wか。規模：長軸5.52m、短軸推定5.15m。柱穴：9本確認される。周溝：北壁～西壁の一部で確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土師器・須恵器が出土している。時期：古墳時代後期。



89号住居跡

- 1層 暗黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを多量、白色粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりなし。
- 2層 黒褐色土層 ローム粒子を少量に含む。粘性やや強、しまりなし。
- 3層 黒褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりなし。
- 4層 淡灰褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりなし。
- 5層 灰褐色粘土層 粘土ブロック主体層。ロームブロック・焼土ブロック・白色粒子を多量に含む。カマド崩壊土。
- 6層 黄褐色粘土層 粘土ブロック主体層。焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりあり。カマド袖。
- 7層 黄褐色粘土層 焼土ブロック主体層。粘性・しまりなし。カマド燃焼面。

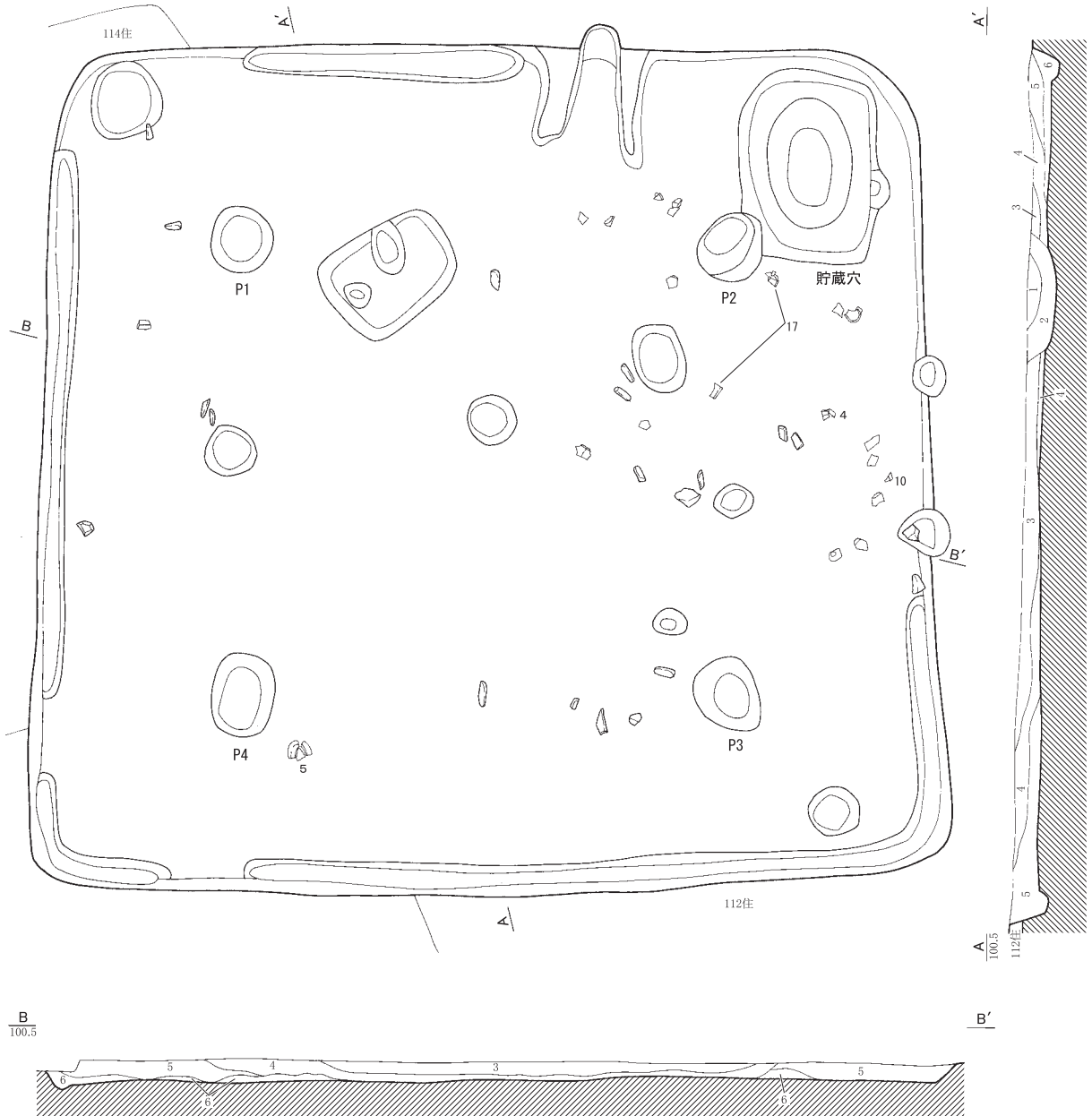
第146図 89号住居跡・出土遺物

89号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 13.9。器高 4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 (12.0)。器高 4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部調整摩滅。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 (13.4)。器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内-にぶい赤褐色。外-にぶい橙色。F. 1/2。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	坏	A. 口径 12.0。器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	坏	A. 口径 11.9。器高 3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内-にぶい赤褐色。外-橙色。F. 完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	須恵器 無蓋高坏	A. 残存高 4.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。外面体部に楡描波状文。D. 白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 藤岡産。H. 覆土。

90号住居跡（第147・148・149図、図版22・71）

位置：B地点の南東に位置している。112号住居跡・114号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-58°-E。規模：長軸7.82m、短軸7.53m。カマド：東壁に付設される。袖には黄褐色土を用い、燃焼部は住居内に収まる。煙道が住居外へと延びる構造となっている。貯蔵穴：カマドに向かって右側の長方形ピットが貯蔵穴であろう。住居の床面レベルで、



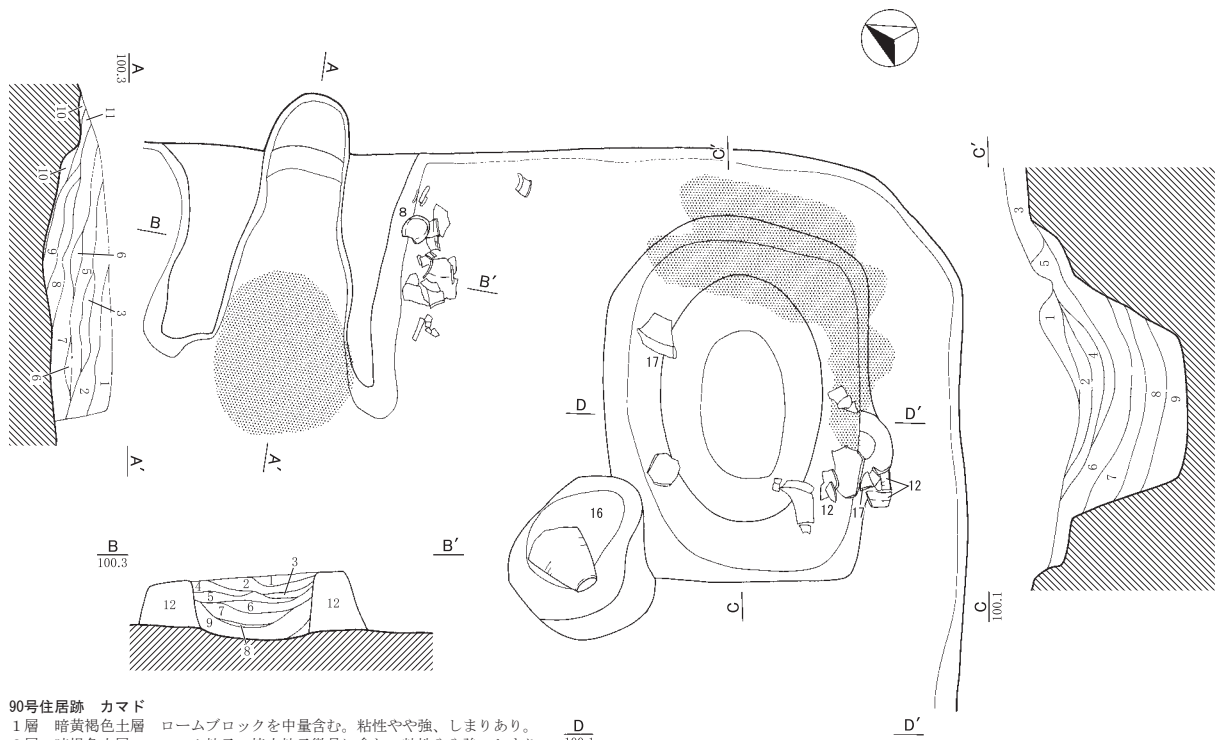
90号住居跡

- | | |
|-----------|--|
| 1層 暗褐色土層 | ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。 |
| 2層 暗褐色土層 | ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性やや強、しまりあり。 |
| 3層 暗褐色土層 | ローム粒子を中量、焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。 |
| 4層 黒褐色土層 | ローム粒子・ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。 |
| 5層 黒褐色土層 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を中量含む。粘性やや強、しまりあり。 |
| 6層 暗黄褐色土層 | ロームブロックを中量、焼土粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。 |

0 2 m
1:60

第147図 90号住居跡

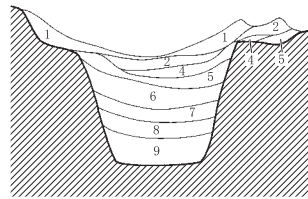
覆土上に炭化物と焼土の分布が確認され、覆土にも焼土ブロックを多量に含んでいる。柱穴：13本確認される。P1～4が主柱穴である。周溝：東コーナー部分以外で断続的に検出される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：住居内に散在している。時期：古墳時代後期。



90号住居跡 カマド

- 1層 暗黄褐色土層 ロームブロックを中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子微量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 3層 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 4層 黒褐色土層 焼土粒子を中量、ローム粒子を微量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 5層 黒褐色土層 焼土粒子を中量、ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子を微量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 6層 暗赤褐色土層 焼土粒子を多量含む。粘性やや強、しまりなし。
- 7層 黒褐色土層 焼土粒子を中量、ローム粒子・炭化物粒子を微量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 8層 暗赤褐色土層 炭化物粒子・焼土ブロックを多量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 9層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 10層 暗褐色土層 焼土粒子・ロームブロックを微量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 11層 暗褐色土層 ローム粒子微量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 12層 黄褐色土層 ロームブロックを多量を含む。粘性やや強、しまりあり。

D
100.1



90号住居跡 貯蔵穴

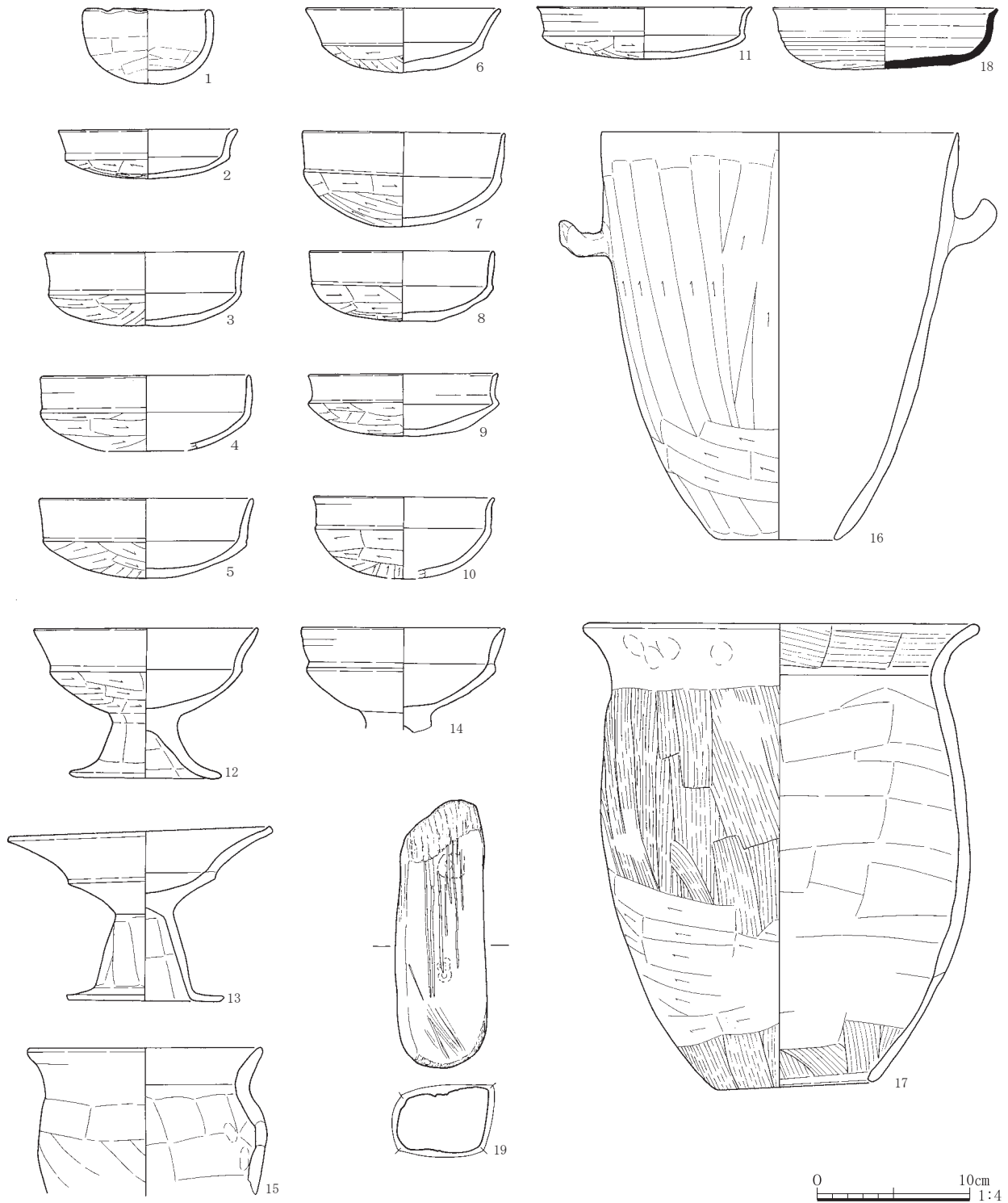
- 1層 暗褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子を微量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 焼土粒子を中量、ローム粒子・炭化物粒子を微量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 3層 暗赤褐色土層 焼土ブロック多量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 4層 暗褐色土層 ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子を微量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 5層 暗赤褐色土層 焼土ブロック・焼土粒子を中量、ローム粒子・炭化物粒子を微量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 6層 暗褐色土層 ロームブロックを中量、焼土ブロックを中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 7層 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 8層 暗褐色土層 ロームブロックを微量を含む。粘性やや強、しまりあり。
- 9層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを微量を含む。粘性やや強、しまりあり。

0 1 m
1:30

第148図 90号住居跡 カマド・貯蔵穴

90号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	埴	A. 口径(8.2)。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内一橙色。外一明黄褐色。F. 1/2。H. カマド。
2	坏	A. 口径11.8。器高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 4/5。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
3	坏	A. 口径13.0。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 内面痘痕状に剥離する。H. 覆土。
4	坏	A. 口径(13.7)。残存高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 内外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	坏	A. 口径14.0。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 内外面二次被熱。H. 覆土。
6	坏	A. 口径12.8。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
7	坏	A. 口径13.3。器高6.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。



第149図 90号住居跡 出土遺物

90号住居跡 出土遺物観察表 (2)

8	坏	A. 口径 12.2。器高 4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・橙色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 2/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
9	坏	A. 口径 (12.5)。器高 4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 2/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
10	坏	A. 口径 (11.9)。器高 (5.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

90号住居跡 出土遺物観察表 (3)

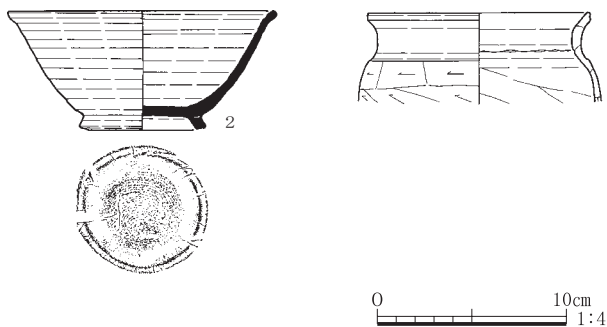
11	坏	A. 口径 14.1。器高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい褐色。F. 1/4。G. 内外面黒色処理か。H. 覆土。
12	高坏	A. 口径 14.7。底径 9.9。器高 9.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。脚部ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 3/4。G. 脚部内面に焼成時の黒斑あり。脚部内面以外に赤彩。H. 貯蔵穴。
13	高坏	A. 口径 17.1。底径 10.3。器高 11.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~体部ヨコナデ。脚部上半タテナデ・下半ヨコナデ。内面、口縁部~体部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ・下半ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 内外面二次被熱。粘土付着あり。H. カマド。
14	高坏	A. 口径 (13.4)。残存高 6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、調整摩滅。D. 角閃石。E. 内外-褐色。F. 坏部 2/3。H. 覆土。
15	小形甕	A. 口径 15.4。残存高 9.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメナデ→上位ヨコナデ。内面、ヨコナデ→胴部ユビオサエ。D. 片岩・角閃石。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい橙色。F. 胴部上半 3/4。G. 内外面二次被熱。H. 覆土。
16	大形甕	A. 口径 23.3。底径 7.5。器高 26.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。取手貼付→ナデ。内面、摩滅。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内-橙色。外-明赤褐色。F. 完形。G. 内外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
17	大形甕	A. 口径 25.9。底径 10.1。器高 30.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ→中位ヨコケズリ。内面、口縁部ヨコハケ。胴部ヨコナデ・下位タテハケ→ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子・石英。E. 内外-褐色。F. 3/4。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
18	須恵器 高坏	A. 口径 14.7。器高 4.0。B. ロクロ成形。C. 外面回転ナデ・体部回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 白色粒子・海綿骨針。E. 内-灰色。外-暗灰色。F. 完形。G. 内面に自然釉。藤岡産。H. 貯蔵穴。
19	磨石	A. 長 17.7。幅 6.0。厚 4.4。重 864.80。D. 片岩。F. 完形。G. 4面摩耗する。刃痕あり。H. 覆土。

91号住居跡 (第150・152図、図版22・71)

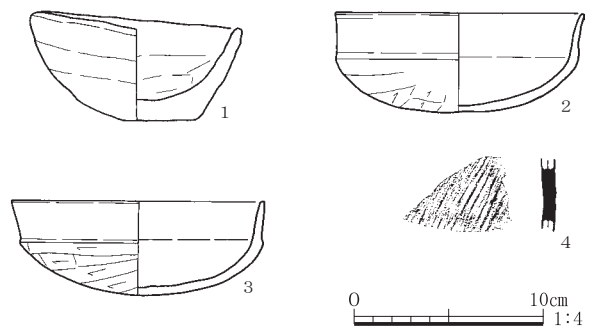
位置：B地点の南東に位置している。92号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-58° - E。規模：長軸3.99m、短軸3.09m。カマド：東壁に付設される。袖は残存しておらず、燃焼部は住居外に構築される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマド前から土器が出土している。時期：平安時代。

92号住居跡 (第151・152図、図版22・71)

位置：B地点の南東に位置している。91号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-47° - E。規模：長軸4.48m、短軸4.25m。柱穴：南住隅に1本確認される。貯蔵穴の可能性もある。埋没状況：覆土中に焼土・炭化物を多量に含み、住居中央部分に炭化材の分布も見られることから、焼失住居跡の可能性はある。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



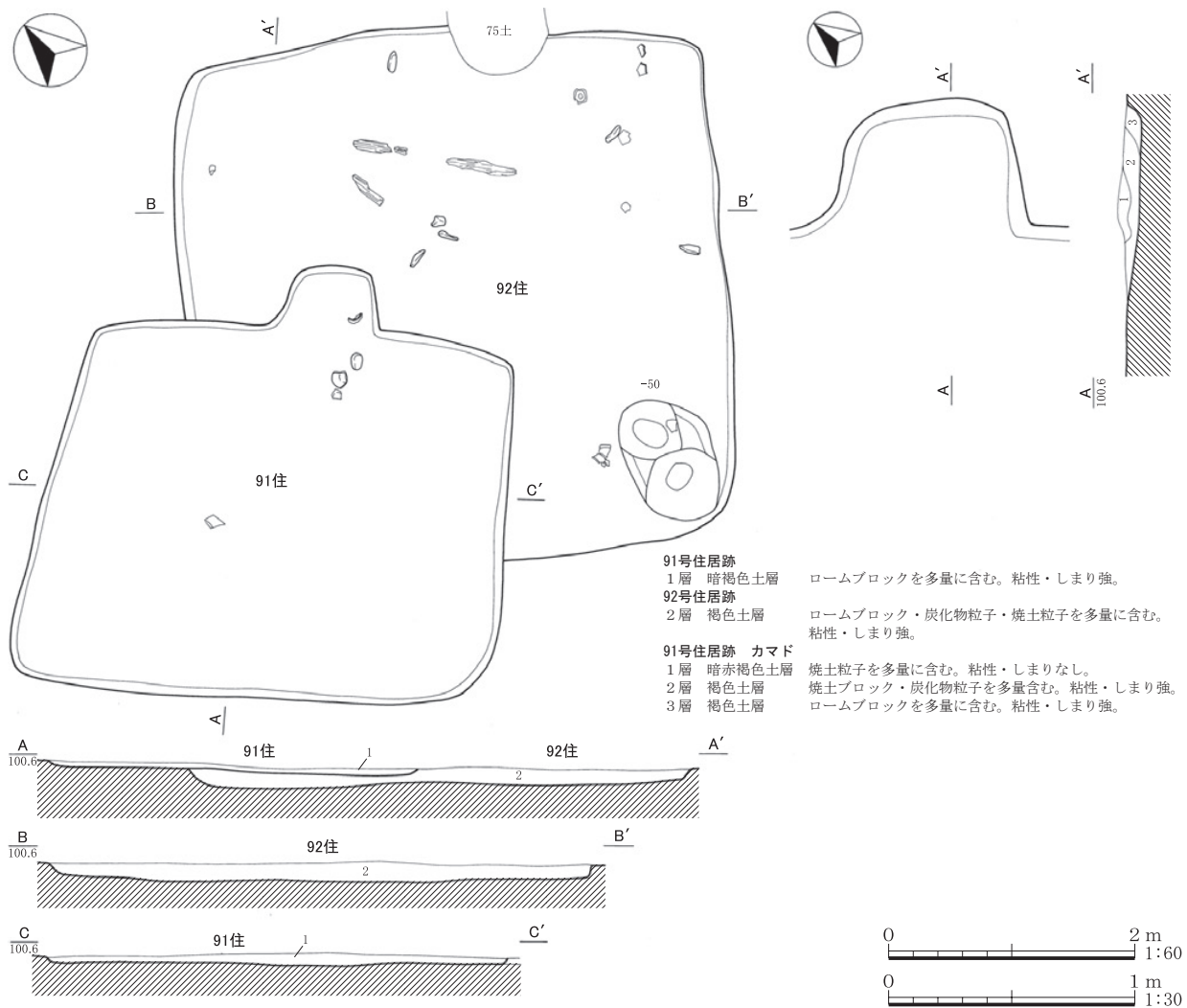
第150図 91号住居跡 出土遺物



第151図 92号住居跡 出土遺物

91号住居跡 出土遺物観察表

1	小形甕	A. 口径 11.8。残存高 4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土。
2	須恵器 高台付碗	A. 口径 (14.2)。底径 6.6。器高 6.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-褐灰色。F. 1/2。G. 還元焰焼成。H. 覆土。



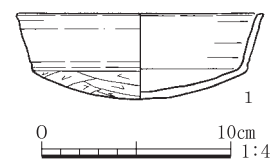
第152図 91号・92号住居跡

92号住居跡 出土遺物観察表

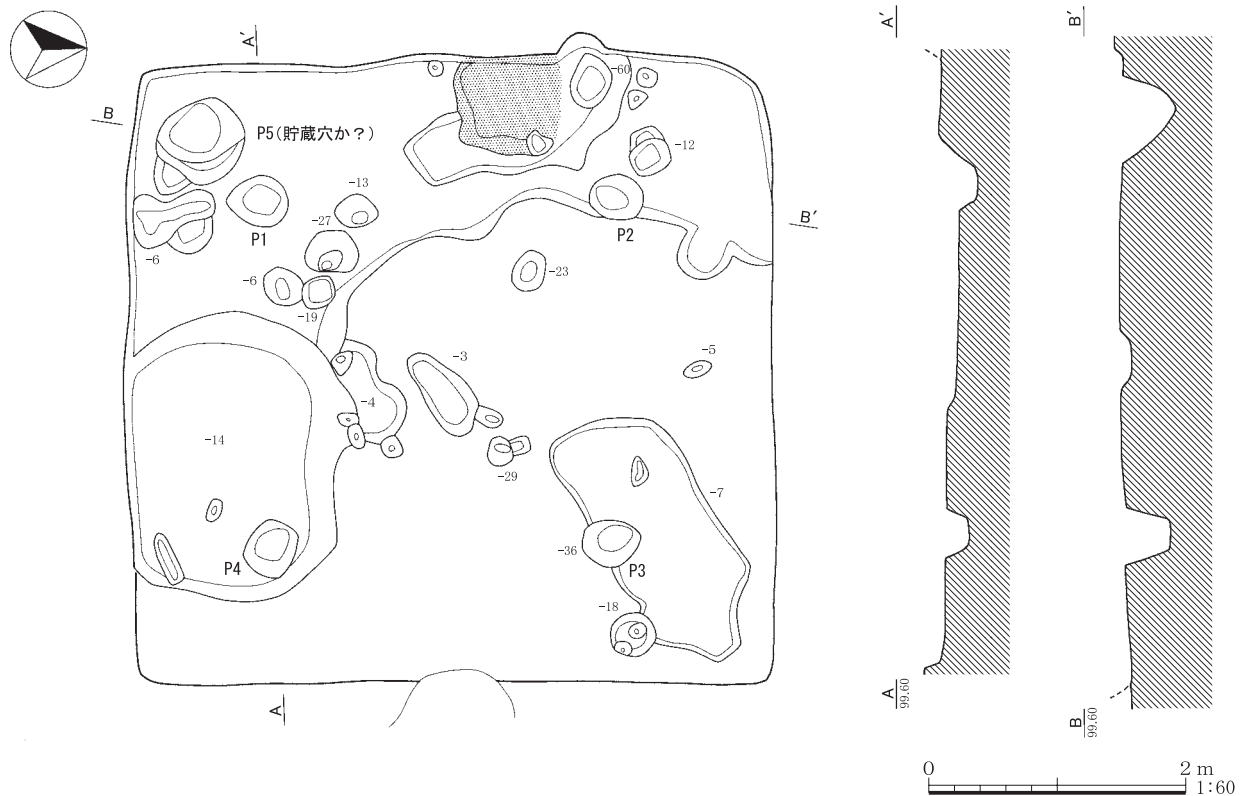
1	ミニチュア	A. 口径(11.2)。底径5.8。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面ヨコナデ。底部ナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 外面二次被熱・焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径13.1。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→上位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・橙色粒子。E. 内一にぶい赤褐色。外一橙色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
3	坏	A. 口径13.4。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 床面。
4	須恵器甕	B. タタキ成形。C. 外面、タタキ目。内面、ナデ。D. 白色粒子。E. 内一灰色。外一暗灰黄色。F. 破片。G. 外面自然釉。H. 覆土。

93号住居跡 (第153・154図、図版22)

位置：B地点の東に位置している。掘り方のみの検出であるが、西半分は削平されている。形態：平面形は方形を呈するであろう。主軸方位：N-88°-W。規模：長軸5.11mを測る。カマド：西壁に焼土が検出されカマドの痕跡だと思われる。柱穴：P1~4が主柱穴、P5は貯蔵穴の可能性ある。埋没状況：不明。遺物：覆土から土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第153図 93号住居跡出土遺物



第154図 93号住居跡

93号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(13.0)。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。H. 覆土。
---	---	---

94号住居跡 (第155・157図、図版22・71)

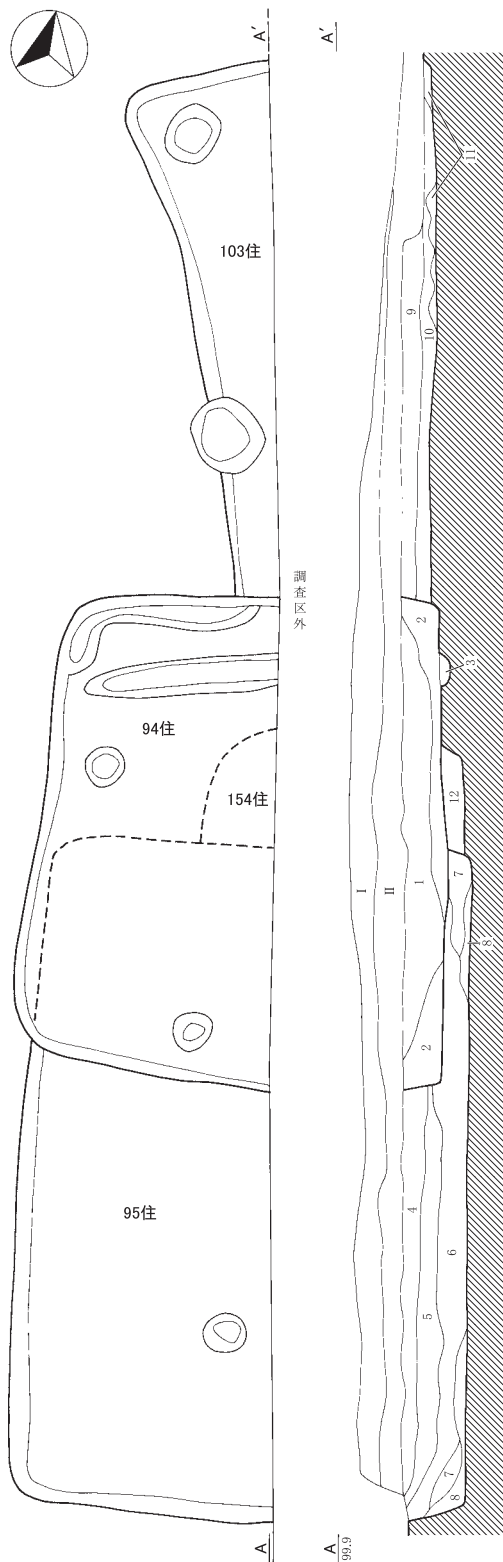
位置：B地点の東壁に位置し、東半は調査区外へと延びる。95号住居跡・103号住居跡・154号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：不明。長軸3.81mを測る。柱穴：1本確認される。周溝：北壁沿いで検出される。埋没状況：自然埋没である。遺物：覆土より土器が出土している。時期：平安時代。

95号住居跡 (第156・157図、図版23・71)

位置：B地点の東壁に位置し、東半は調査区外へと延びる。94号住居跡・154号住居跡と重複し、前者より古く後者より新しい。。形態：平面形は方形を呈するであろう。主軸方位：不明。長軸推定5.34m。柱穴：2本確認される。主柱穴の可能性もある。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土から出土している。時期：古墳時代後期。

103号住居跡 (第157図、図版24)

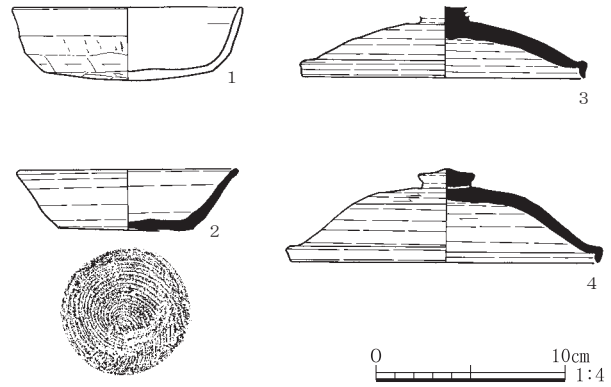
位置：B地点の東壁に位置し、西壁の一部と北西コーナーを検出した。94号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：不明。規模：不明。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没である。遺物：覆土より出土している。時期：古墳時代。



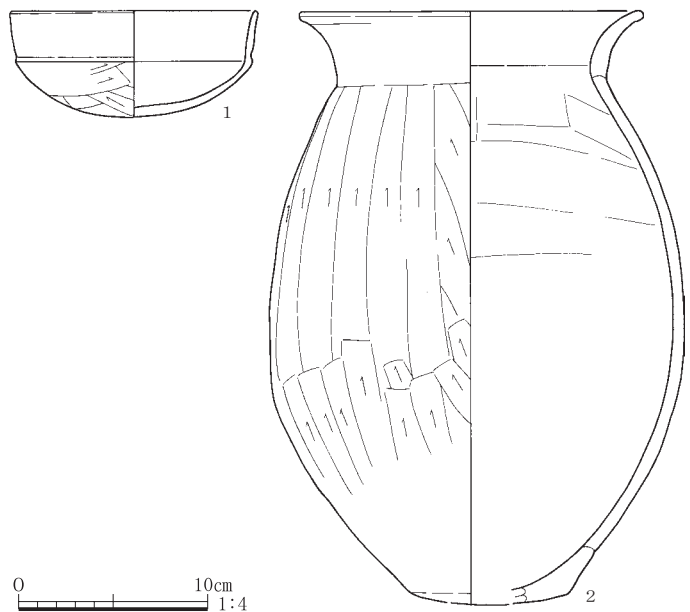
第157図 94号・95号・103号・154号住居跡

154号住居跡（第157図）

位置：B地点の東壁沿いに位置し、壁の土層断面にて遺構を確認した。しかし、平面では検出していない。94号住居跡・95号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態・主軸方位・規模：不明。埋没状況：単層で埋没している。詳細は不明。遺物：出土していない。時期：古墳時代後期以前。



第155図 94号住居跡 出土遺物



第156図 95号住居跡 出土遺物

94号住居跡

- 1層 暗褐色土層 白色粒子を中量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 ロームブロックを中量含む。粘性やや強、しまりあり。

95号住居跡

- 4層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 5層 暗茶褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 6層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを中量、焼土粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 7層 暗黄褐色土層 ロームブロックを中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 8層 暗褐色土層 ローム粒子・砂礫を中量、焼土粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。

103号住居跡

- 9層 土層注記なし
- 10層 黒褐色土層 ローム粒子を中量、炭化物粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 11層 暗黄褐色土層 ロームブロックを中量含む。粘性やや強、しまりあり。

154号住居跡

- 12層 土層注記なし



94号住居跡 出土遺物観察表

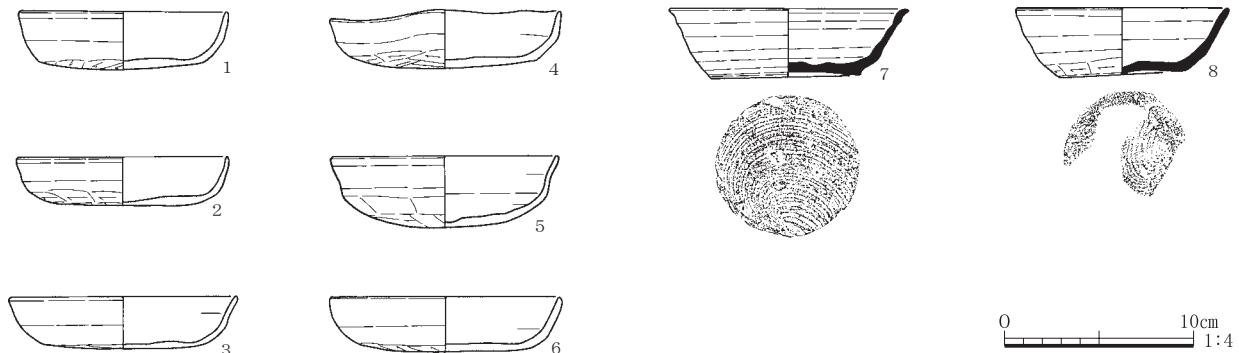
1	坏	A. 口径12.2。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
2	須恵器 坏	A. 口径11.8。底径7.1。器高3.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 完形。G. 還元焰焼成。H. 覆土。
3	須恵器 坏蓋	A. 口径(15.2)。器高3.8。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→天井部ヨコナデ。内面、回転ナデ。D. 黒色粒子・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 1/4。G. 還元焰焼成。H. 覆土。
4	須恵器 坏蓋	A. 口径(16.4)。器高5.0。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→天井部ヨコナデ。内面、回転ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一暗灰色。F. 1/4。G. 還元焰焼成。H. 覆土。

95号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(13.2)。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。G. 外表面体部にスス附着。H. 覆土。
2	甕	A. 口径18.1。底径8.3。器高31.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・石英。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面二次被熱。H. 覆土。

96号住居跡 (第158・160図、図版23・71)

位置：B地点の東に位置している。98号住居跡・105号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-65°-E。規模：長軸4.29m、短軸3.37m。カマド：東壁に付設される。燃焼部と煙道は住居外に構築される。柱穴：9本確認されている。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より遺物が出土している。時期：平安時代。



第158図 96号住居跡 出土遺物

96号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径11.0。器高3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一橙色。外一にぶい黄橙色。F. 1/2。H. 覆土。
2	坏	A. 口径11.2。器高2.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.0。器高8.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 2/3。H. 覆土。
4	坏	A. 口径12.2。器高3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 2/3。H. 覆土。
5	坏	A. 口径(12.0)。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 覆土。
6	坏	A. 口径12.0。器高2.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土。
7	須恵器 坏	A. 口径12.6。底径7.9。器高3.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一黄灰色。F. ほぼ完形。G. 還元焰焼成。H. 覆土。
8	須恵器 坏	A. 口径11.2。底径6.8。器高3.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英・片岩。E. 内一灰色。外一灰白色。F. 1/3。G. 還元焰焼成。H. 覆土。

98号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径(12.4)。底径6.7。器高3.9。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩。E. 内外一灰白色。F. 1/2。G. 還元焰焼成。H. 覆土。
---	----------	---

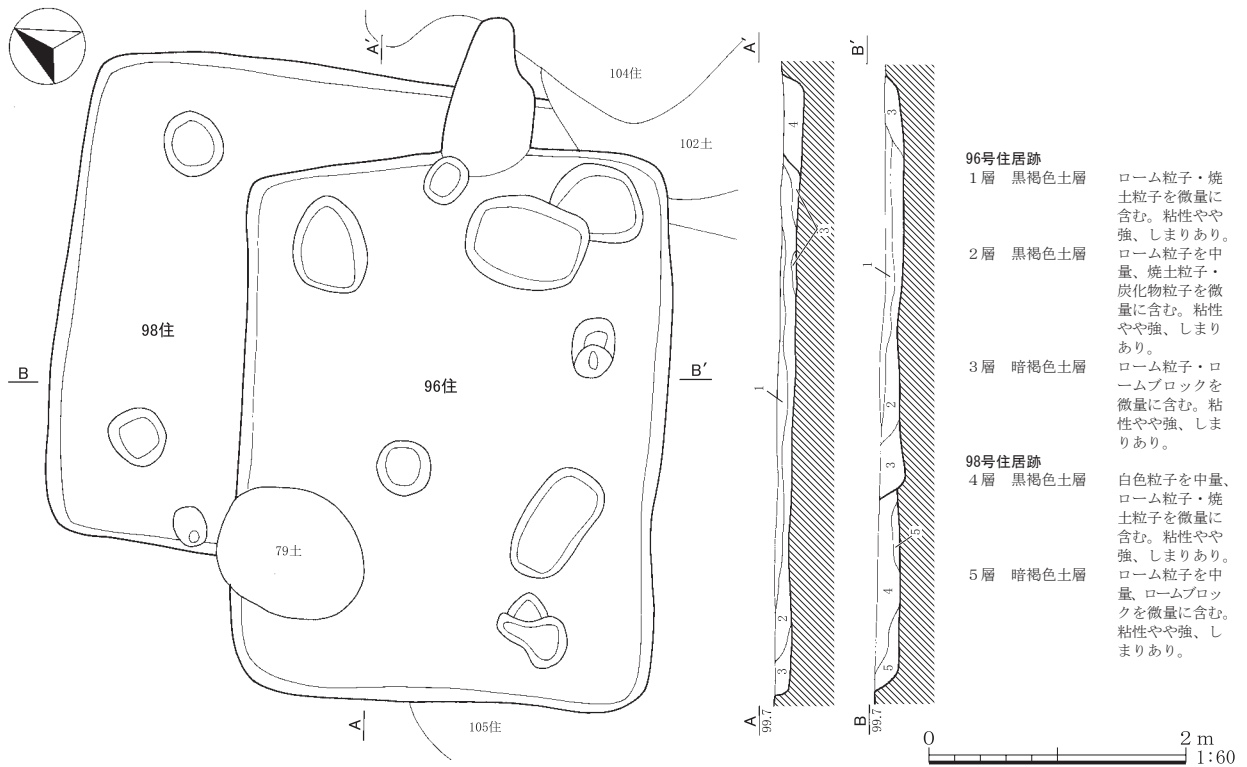
98号住居跡（第159・160図、図版23・71）

位置：B地点の東に位置している。96号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-60°-W。規模：長軸3.92m。柱穴：3本確認され、いずれも支柱穴と思われる。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より遺物が出土している。時期：平安時代。



0 10cm 1:4

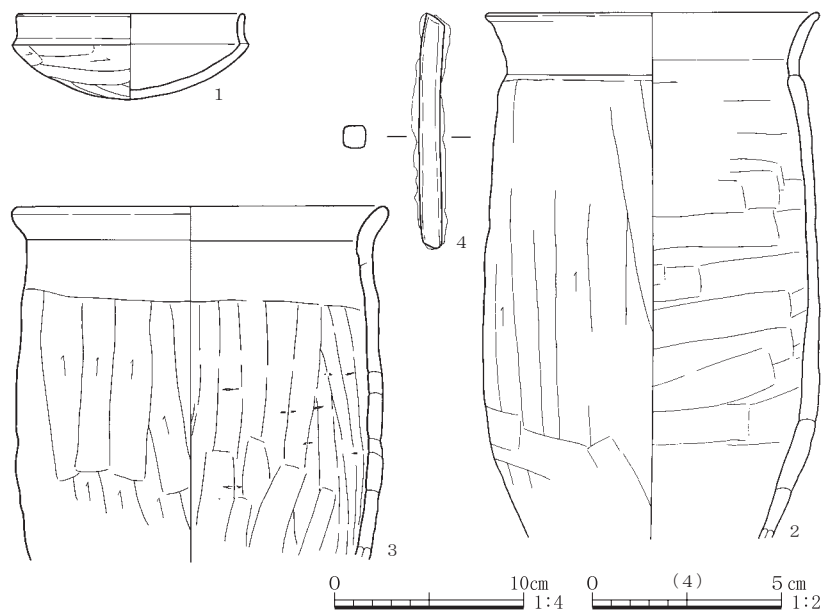
第159図 98号住居跡 出土遺物



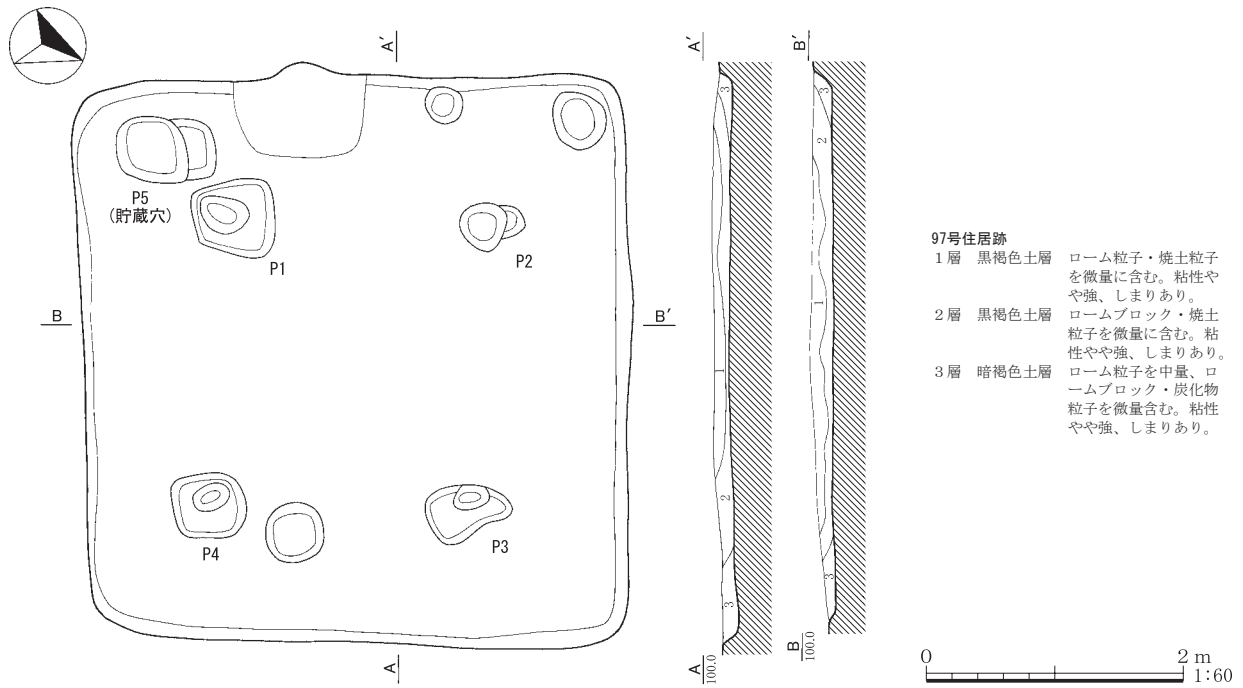
第160図 96号・98号住居跡

97号住居跡（第161・162図、図版23・72）

位置：B地点中央よりやや東で単独で検出された。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-61°-W。規模：長軸4.50m、短軸4.28m。カマド：西壁に付設される。柱穴：8本確認される。P1~4が支柱穴で、P5が貯蔵穴の可能性ある。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器とともに鉄製品が出土している。時期：古墳時代後期。



第161図 97号住居跡 出土遺物



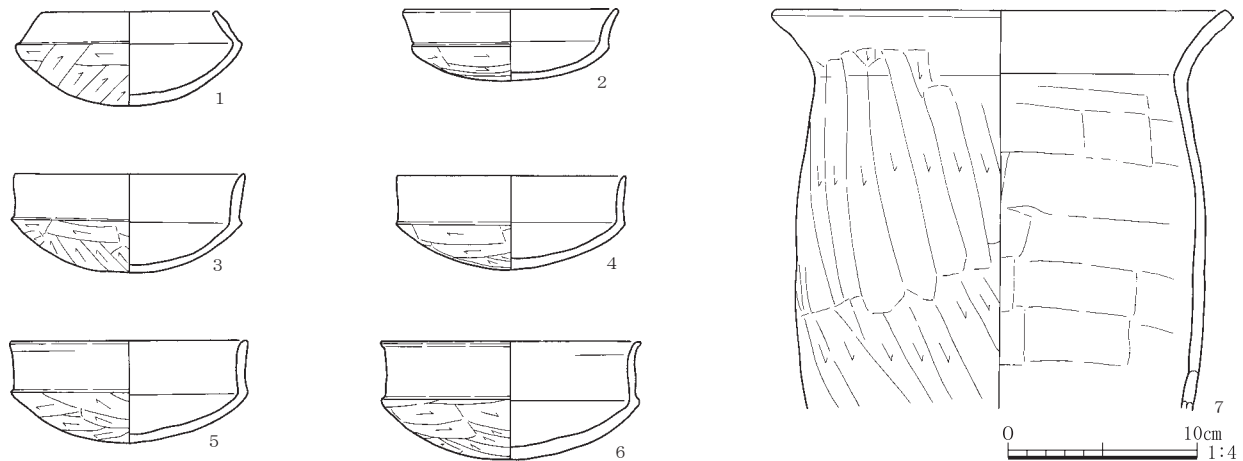
第162図 97号住居跡

97号住居跡 出土遺物観察表

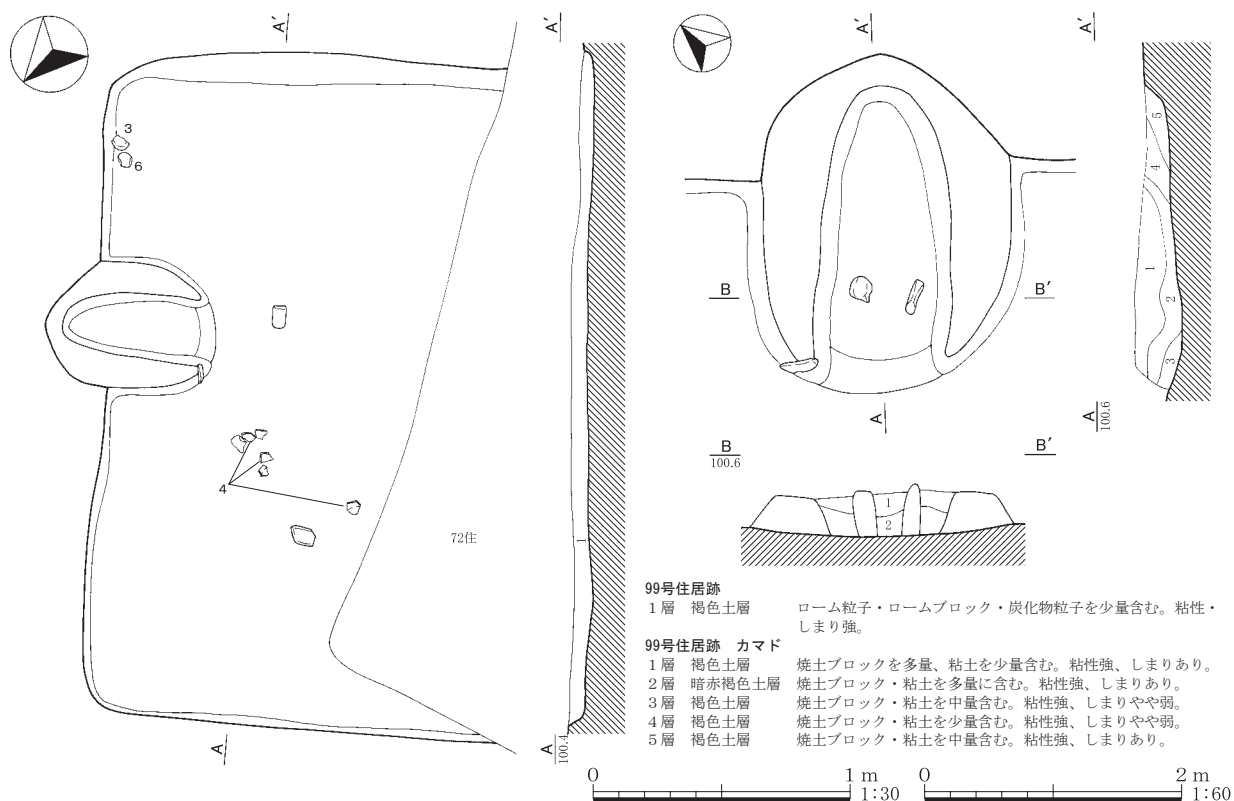
1	坏	A. 口径 12.2。器高 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。一部ユビオサエ。D. 白色粒子。E. 内外-にぶい橙色。F. 4/5。H. 覆土。
2	甕	A. 口径 17.6。残存高 28.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外-橙色。F. 1/3。G. 外面胴部スス附着。H. 覆土。
3	甕	A. 口径 19.9。残存高 18.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部から胴部上位ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部タテナデ。D. 片岩・石英。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁部～胴部中位 1/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	棒状鉄製品	A. 長 6.2。幅 0.6。厚 0.6。重 6.95。G. 断面四角。釘か。H. 覆土。

99号住居跡（第163・164図、図版23・24・72）

位置：B地点の中央、やや南に位置している。72号住居跡・101号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。重複により住居跡の半分が消滅する。形態：平面形は方形を呈するであろう。主軸方位：N-48° - E。規模：長軸5.35m。カマド：東壁に付設される。袖から煙道にかけて粘土を貼り、燃焼部には支脚であろう礫が2本並行して据えられている。埋没状況：単一土で埋没している。遺物：住居の中央部分に遺物が散在する。時期：古墳時代後期。



第163図 99号住居跡 出土遺物



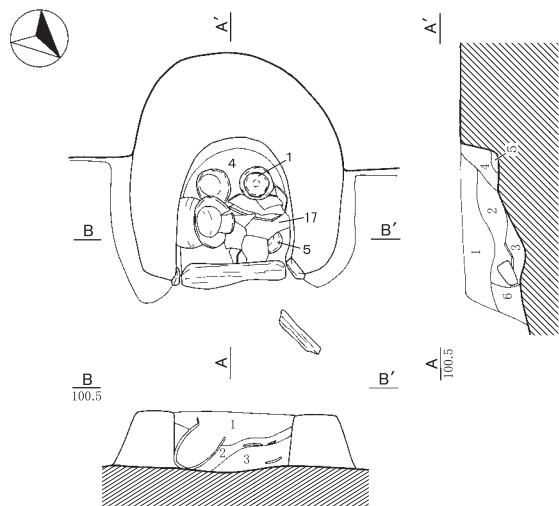
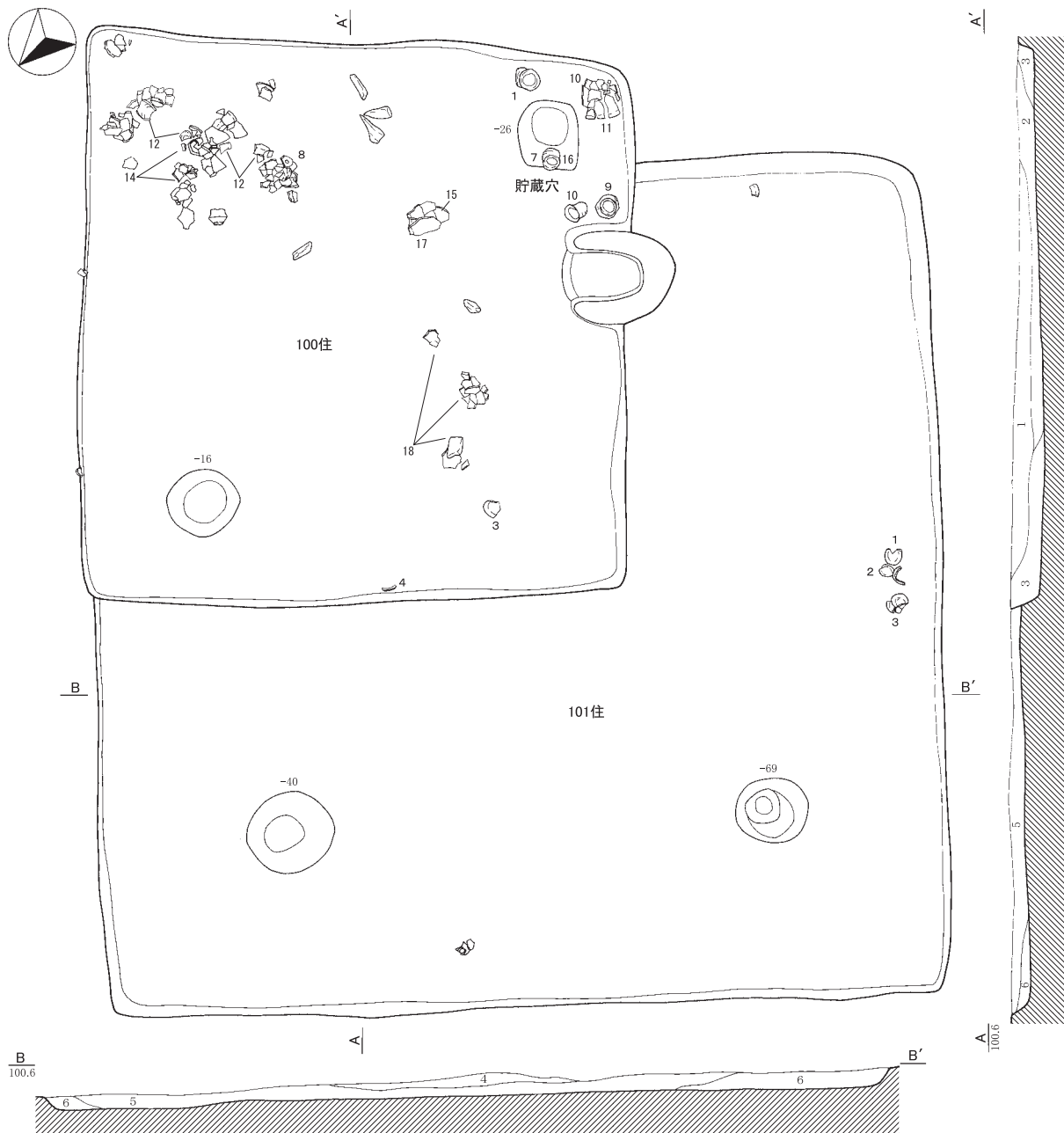
第164図 99号住居跡

99号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径9.3。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。G. 内外面痘痕状の剥離あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(11.6)。器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 内面口縁部に痘痕状の剥離あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径(12.2)。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土。
4	坏	A. 口径(12.2)。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
5	坏	A. 口径(12.6)。器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	坏	A. 口径(13.8)。器高6.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	甕	A. 口径(24.4)。残存高21.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 口縁部～胴部1/5。G. 内外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。

100号住居跡 (第165・166・167図、図版24・72・73)

位置：B地点の中央よりやや南に位置する。101号住居跡・102号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-44°-W。規模：長軸5.03m、短軸4.95m。カマド：南壁に付設される。袖と煙道には粘土を貼り、袖の構築材として礫を用いている。焚き口部分から袖に掛けられていたであろう礫が崩落状態で検出されるほか、燃烧部内からは多量の土器が出土している。貯蔵穴：カマドに向かって左に配される隅丸長方形のピットが貯蔵穴である。柱穴：1本検出された。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド・貯蔵穴周辺以外に南東コーナー部分にも遺物が集中する。時期：古墳時代後期。



100号住居跡

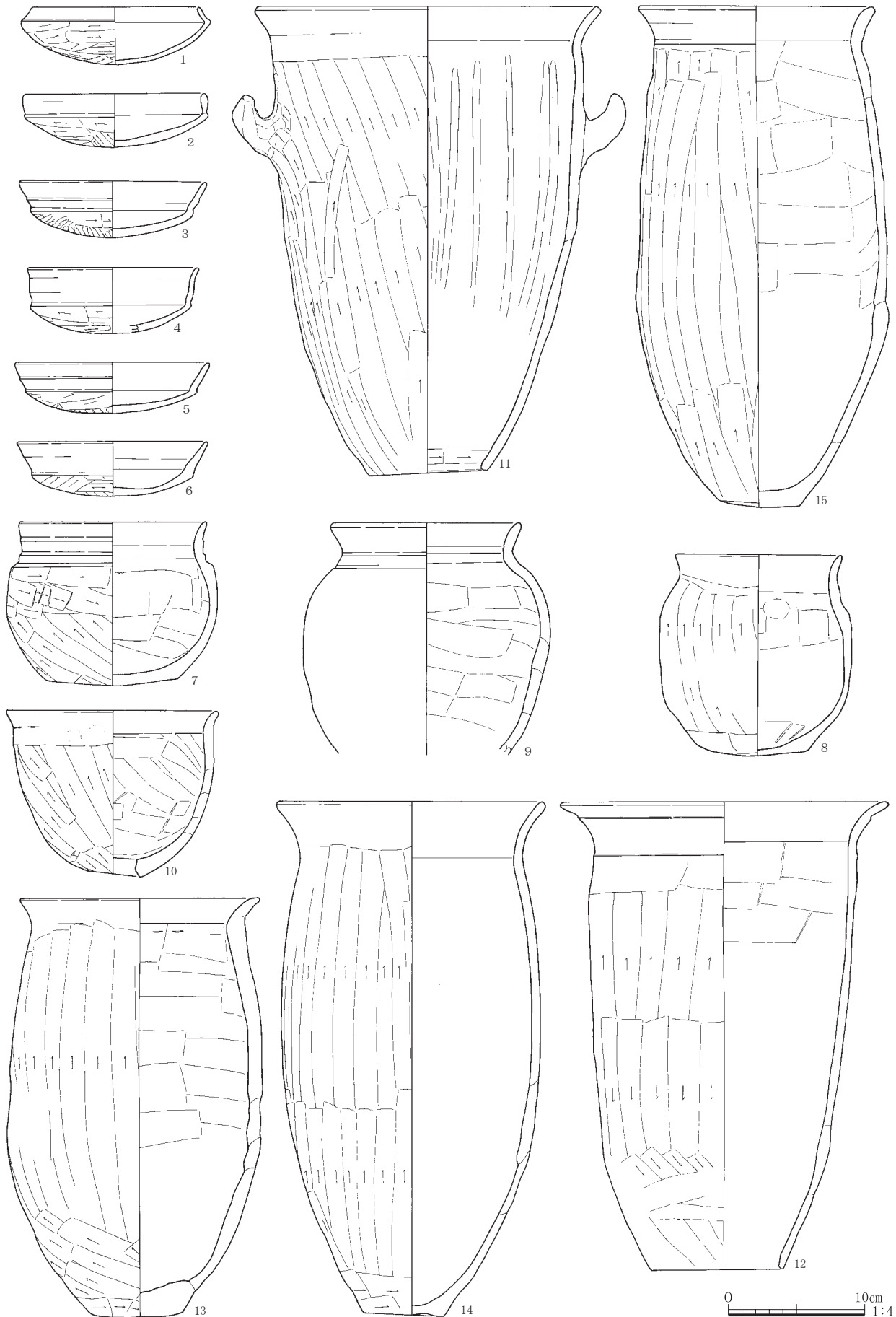
- 1層 褐色土層
ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性・しまり強。
 - 2層 褐色土層
ロームブロックを多量、炭化物・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
 - 3層 褐色土層
ロームブロックを多量含む。粘性・しまり強。
- 101号住居跡**
- 4層 暗褐色土層
焼土粒子・炭化物粒子を多量、ローム粒子を少量含む。粘性強、しまりあり。
 - 5層 褐色土層
ロームブロックを少量、粘性強、しまりやや強。
 - 6層 褐色土層
ロームブロックを少量含む。粘性・しまり強。

100号住居跡 カマド

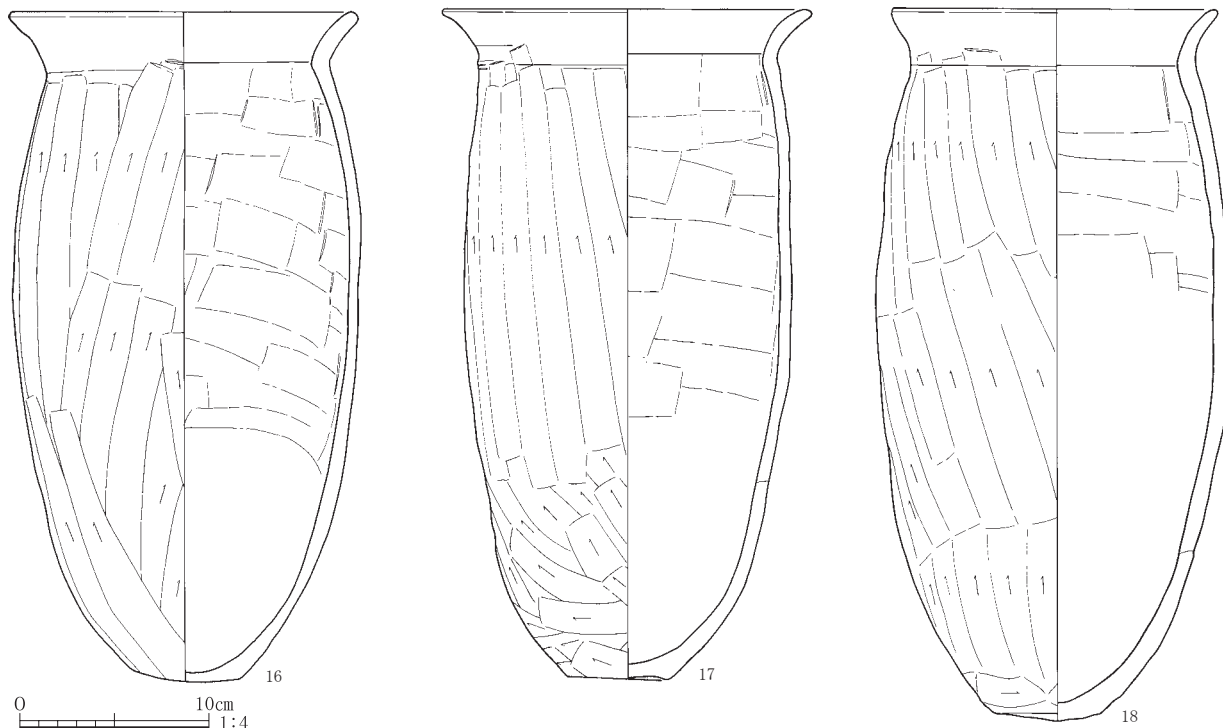
- 1層 明褐色土層
粘土・砂礫を多量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 褐色土層
粘土を大量に、砂礫を多量含む。粘性・しまり強。
- 3層 暗褐色土層
焼土粒子・粘土を多量に含む。粘性強、しまりなし。
- 4層 黄褐色土層
粘土主体土層。粘性強、しまりやや強。
- 5層 褐色土層
焼土粒子を少量含む。粘性やや強、しまりなし。
- 6層 褐色土層
炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりなし。



第165図 100号・101号住居跡



第166図 100号住居跡 出土遺物（1）



第167図 100号住居跡 出土遺物（2）

100号住居跡 出土遺物観察表（1）

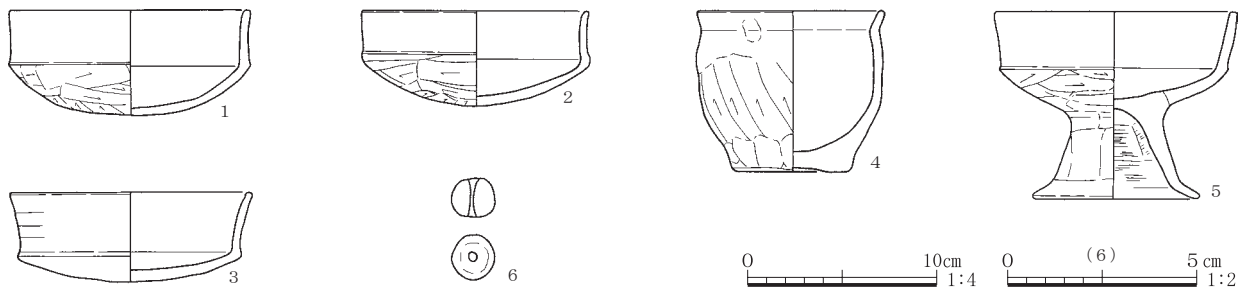
1	坏	A. 口径 12.2。器高 4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
2	坏	A. 口径 13.3。器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 3/4。G. 内面黒色処理。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 13.8。器高 4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. 3/4。G. 内面黒色処理。H. 覆土。
4	坏	A. 口径 12.4。残存高 4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/3。G. 内面スス付着。H. 覆土。
5	坏	A. 口径 14.2。器高 3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 内外面口縁部にスス付着。内面痘痕状の剥離あり。H. カマド。
6	坏	A. 口径 14.0。器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 完形。G. 内外面黒色処理か。内面に痘痕状剥離あり。H. カマド。
7	小形壺	A. 口径 13.7。底径 9.5。器高 12.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部下半ナナメケズリ→上半ヨコ～ナナメケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内一黒褐色。外一明赤褐色。F. 完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。内面は黒色処理か。H. 覆土。
8	小形甕	A. 口径 12.2。底径 8.1。器高 (14.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部～胴部上位 4/5、胴部下位～底部 2/3。図上復元。G. 内外面二次被熱か。H. 覆土。
9	小形甕	A. 口径 14.0。残存高 17.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ調整が摩滅。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内一にぶい赤褐色。外一明赤褐色。F. 口縁部～胴部ほぼ完形。G. 外面胴部二次被熱。内面に黒斑または黒色処理。H. 覆土。
10	小形甕	A. 口径 15.4。底径 3.7。器高 12.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコ～ナナメナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一にぶい褐色。F. 完形。H. 覆土。
11	大形甕	A. 口径 24.0。底径 9.0。器高 34.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ナナメケズリ→ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一淡黄色。F. 4/5。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
12	大形甕	A. 口径 25.6。底径 8.5。器高 34.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→取手貼付。内面、ヨコナデ→胴部タテミガキ・下位ヨコケズリ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
13	甕	A. 口径 (17.6)。底径 6.7。器高 30.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ナナメ～ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英・白色粒子。E. 内一にぶい褐色。外一明赤褐色。F. 3/4。G. 外面胴部下半二次被熱。H. 覆土。
14	甕	A. 口径 (19.7)。底径 5.8。器高 37.8。B. 粘土紐も積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 外面胴部二次被熱・底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

100号住居跡 出土遺物観察表（2）

15	甕	A. 口径17.3。底径5.9。器高36.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下半二次被熱・粘土付着。H. 覆土。
16	甕	A. 口径18.4。底径5.5。器高35.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面焼成時の黒斑あり・二次被熱。内面胴部下位ヨゴレ。H. 覆土・貯蔵穴。
17	甕	A. 口径19.6。底径5.2。器高35.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部下位ナナメケズリ→上半タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。外面胴部下半二次被熱・粘土付着。H. カマド。
18	甕	A. 口径17.3。底径5.4。器高37.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内一灰白色。外一にぶい黄橙色。F. 3/4。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

101号住居跡（第165・168図、図版24・73）

位置：B地点の中央よりやや南に位置する。99号住居跡・100号住居跡と重複し、前者より新しく、後者より古い。主軸：N-42°-E。形態：平面形は方形を呈する。規模：長軸7.61m、短軸7.51m。柱穴：2本検出され、いずれも主柱穴だろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：南壁沿い、ほぼ中央より完形の坏が出土する。時期：古墳時代後期。



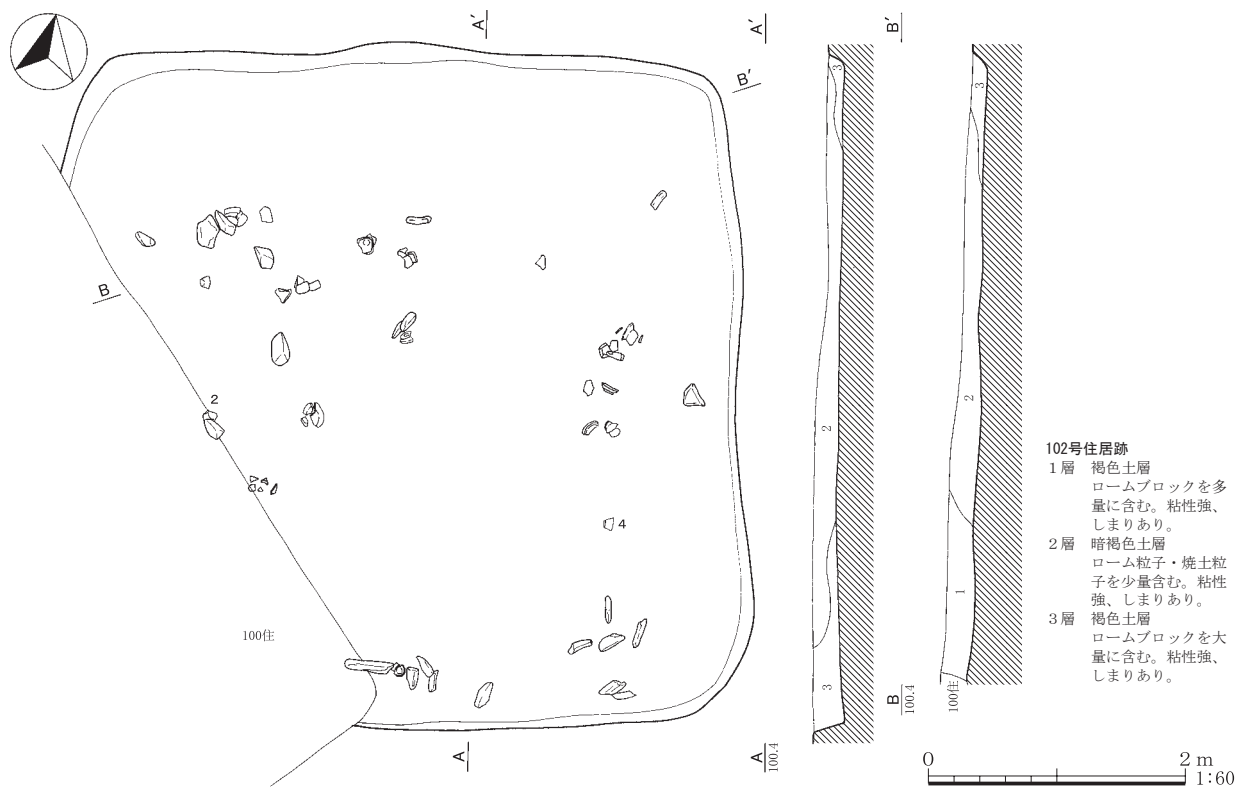
第168図 101号住居跡 出土遺物

101号住居跡 出土遺物観察表

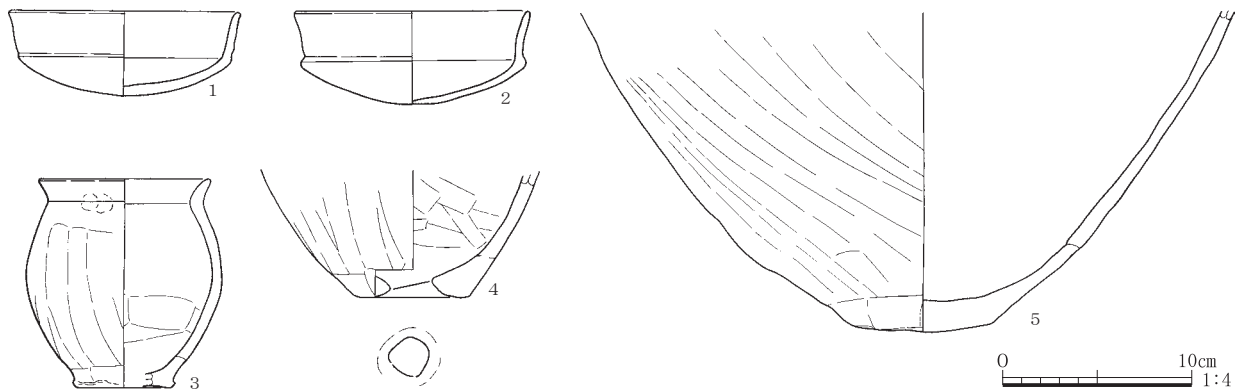
1	坏	A. 口径12.5。器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.1。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
3	坏	A. 口径(12.8)。器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ調整摩滅。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. 1/2。G. 内外面、痘痕状の剥離が顕著。H. 覆土。
4	小形甕	A. 口径(10.5)。器高6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。底部ケズリ→ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 外面胴部下位～底部・内面底部に黒色の付着物あり。H. 掘り方。
5	高坏	A. 口径12.8。底径(8.8)。器高9.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。脚部ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・橙色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。G. 脚部内面に黒色の付着物あり。H. 床下。
6	土製品 土玉	A. 径1.2。幅1.1。B. 手捏ね。D. 角閃石。E. 内外一暗赤褐色。F. 4/5。H. 掘り方。

102号住居跡（第169・170図、図版24・74）

位置：B地点の中央よりやや南に位置する。100号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は正方形を呈する。主軸：N-6°-W。規模：長軸5.34m、短軸5.30m。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：住居内に散在するが、北壁沿いには分布しない。時期：古墳時代後期。



第169図 102号住居跡



第170図 102号住居跡 出土遺物

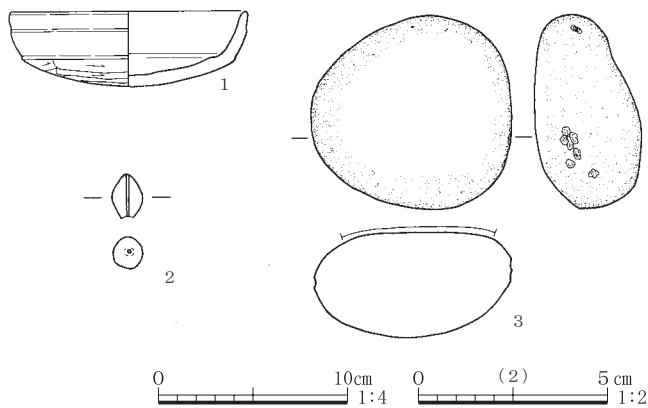
102号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 12.2。器高 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 内面、口縁部ヨコナデ。体部摩滅。内面、ヨコナデ。D. 雲母・橙色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 12.4。器高 4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面摩滅。D. 雲母。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土。
3	小形甕	A. 口径 (9.1)。底径 (5.4)。器高 11.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部タテナデ→下位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい黄橙色。F. 1/4。G. 胴部外面スス附着。H. 覆土。
4	甕	A. 底径 5.7。残存高 6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテナデ→下位ヨコナデ。底部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 底部 4/5。G. 内外面二次被熱か。外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	壺	A. 底径 7.4。残存高 18.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテナデ→下位ヨコナデ。底部ナデ。内面、調整摩滅。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一暗灰黄色。外一橙色。F. 胴部下位～底部 1/3。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。

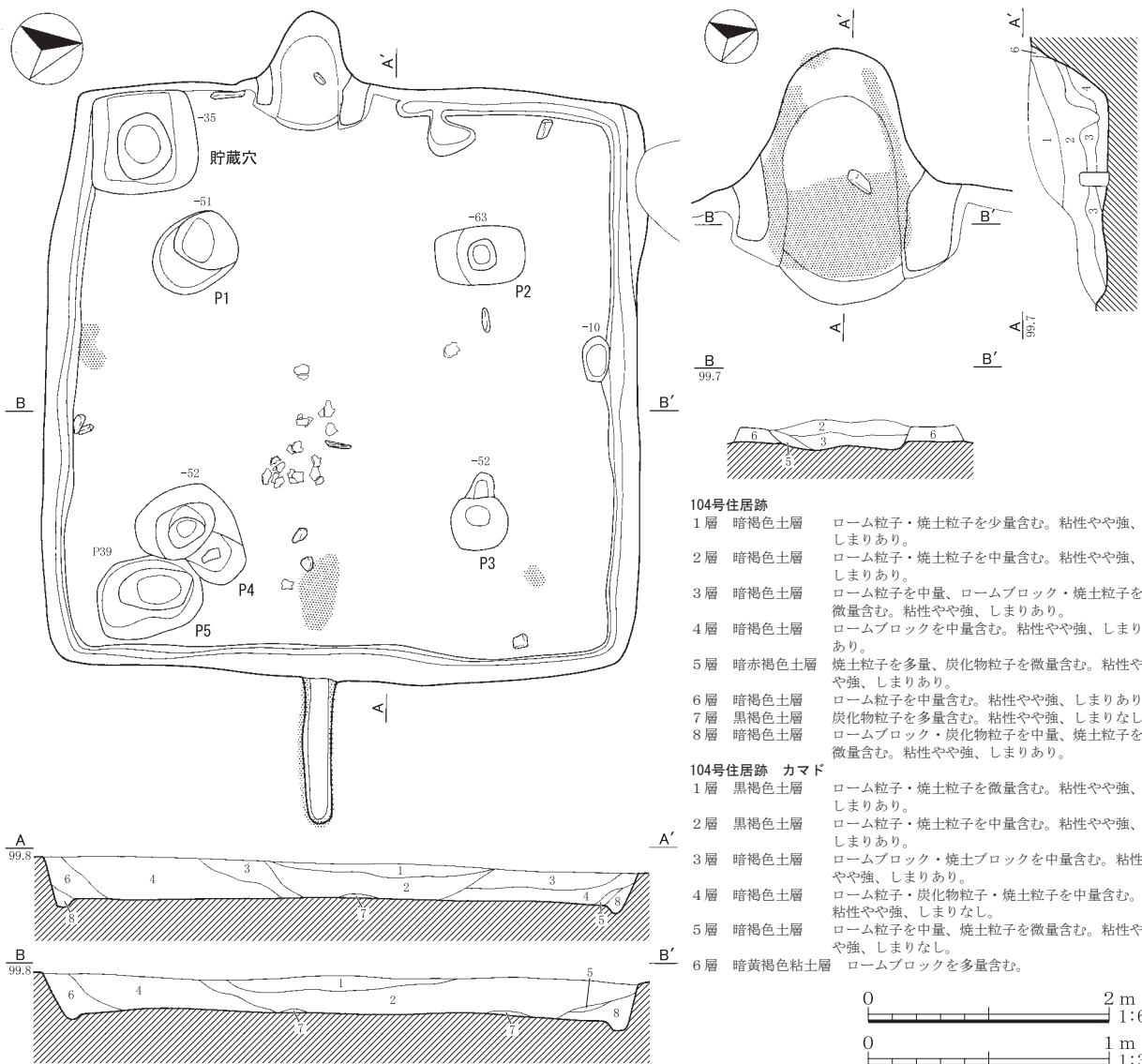
104号住居跡 (第171・172図、図版24・25・73)

位置：B地点の東において単独で検出された。形態：平面形は正方形を呈する。主軸方位：S-76°-W。規模：長軸5.03m、短軸5.00m。カマド：西壁に付設される。袖には暗褐色粘質土を用いる。

燃焼部は住居外へと延び、その中心付近には支脚と思しき礫が据えられる。なお、東壁中央部分床に焼土が分布している。壁には住居外に延びる溝があり、その壁面は被熱する。これは西壁のカマド以前の旧カマドだと思われる。貯蔵穴：西壁のカマドに向かって左、南西コーナー部分に配される方形のピットが貯蔵穴であろう。深さ15cmほどのテラスを呈し、中心部はピット状に掘り込まれる。P 5は旧カマドに付随する貯蔵穴だろう。柱穴：6本確認される。P 1～4が主柱穴であろう。周溝：カマドと貯蔵穴部分以外で検出される。埋没状況：自然埋没であるが、5層に多量に焼土が含まれているので焼失住居の可能性はある。遺物：住居中央に遺物がままとまっている。時期：古墳時代後期。



第171図 104号住居跡 出土遺物



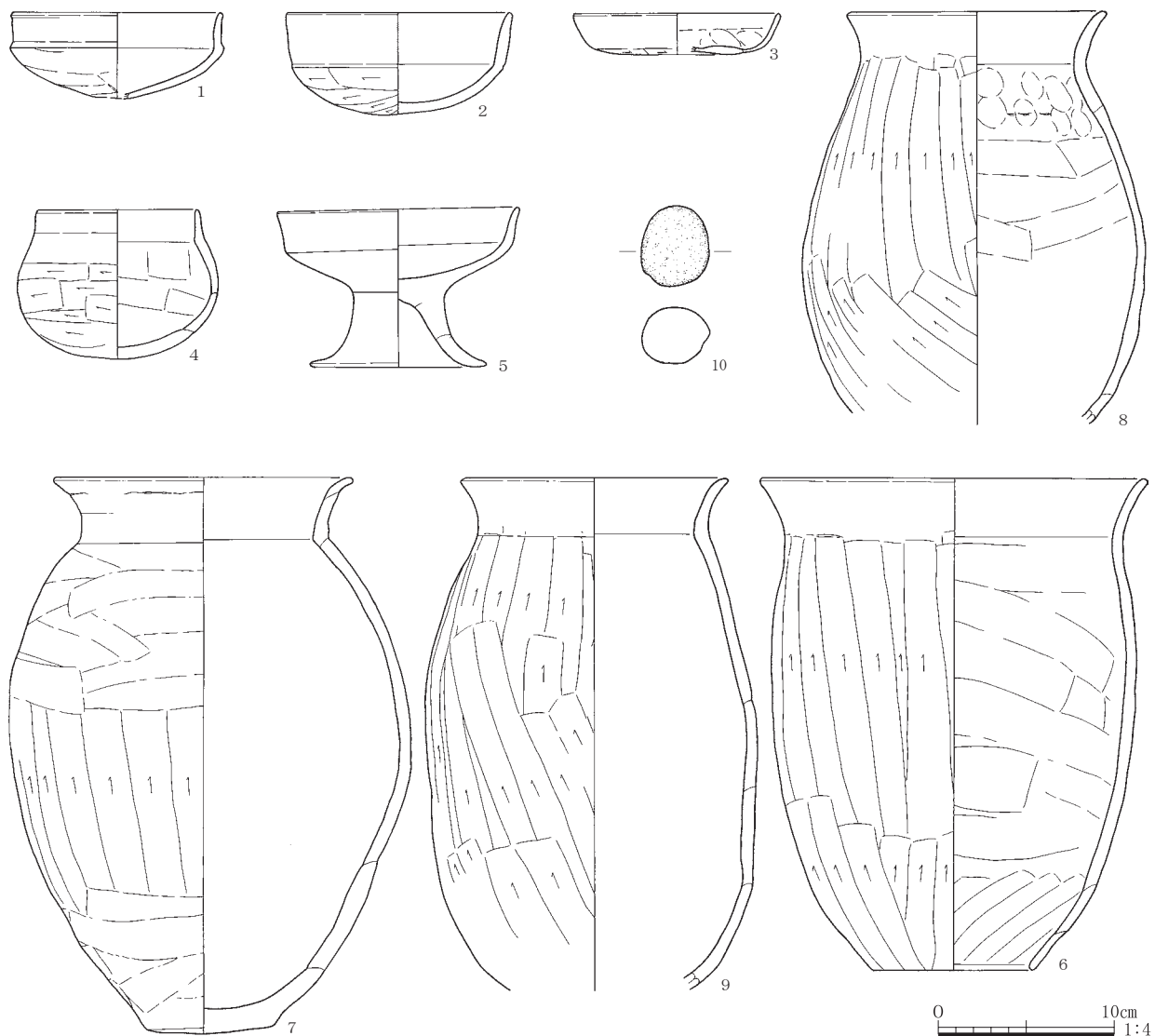
第172図 104号住居跡

104号住居跡 出土遺物観察表

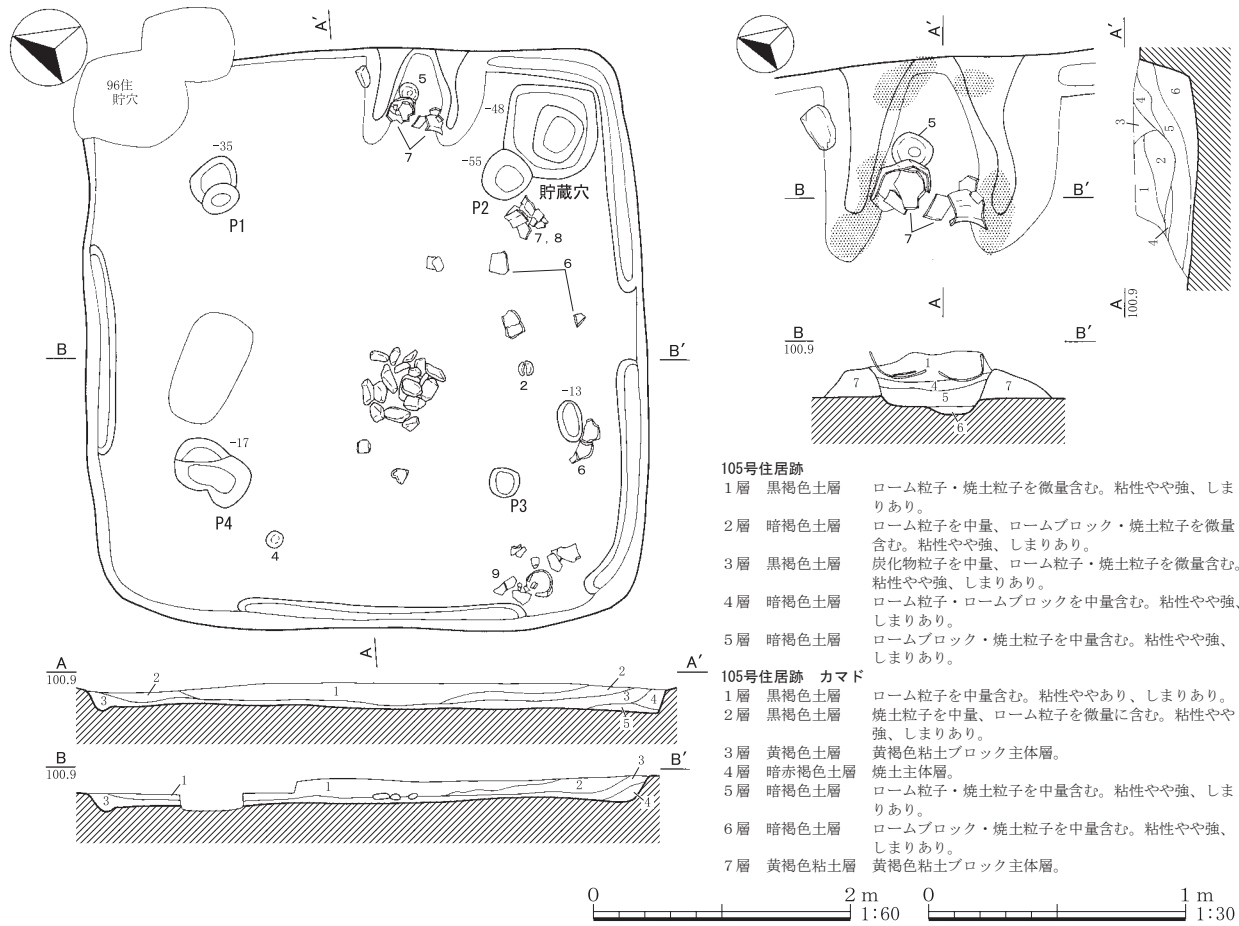
1	坏	A. 口径(12.6)。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 内外面体部に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
2	土製品 土玉	A. 残長1.2。幅0.9。重0.71。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 角閃石。E. 黄橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
3	磨石	A. 長10.7。幅10.3。厚5.7。重866.5。D. 安山岩。F. 完形。G. 一面摩耗する。端部には所々敲打あり。H. 覆土。

105号住居跡 (第173・174図、図版25・74)

位置：B地点の中央よりやや東に位置している。96号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-71°-E。規模：長軸4.54m、短軸4.44m。カマド：東壁に付設される。袖は黄褐色粘質土を用いた付け袖である。燃焼部は住居内で収まり、長胴甕が2個体並んで出土する。奥壁は住居の壁と一致する。貯蔵穴：カマドに向かって右、住居の南東コーナー部分の方形ピットが貯蔵穴であろう。深さ20cmほどのテラスを持ち、その中心はピット状に深くなっている。柱穴：P1~4が支柱穴であろう。周溝：カマドに向かって左の東壁以外のところからは断続的に周溝が検出される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：住居の中央付近に礫が集中している。時期：古墳時代後期。



第173図 105号住居跡 出土遺物



第174図 105号住居跡

105号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 12.0。器高 4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 12.9。器高 5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑・痘痕状の剥離あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 11.8。器高 2.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ・ユビオサエ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 覆土。
4	小形壺	A. 口径 9.2。器高 9.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部上半ヨコナデ・下半ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 内外外面底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	高坏	A. 口径 13.8。底径 10.1。器高 9.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面調整摩滅。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面二次被熱。H. カマド。
6	大形甎	A. 口径 (22.0)。底径 (9.1)。器高 28.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテケズリ。内面、ヨコナデ→胴部下位ナメナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 覆土。
7	甕	A. 口径 17.0。底径 7.4。器高 31.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテケズリ→上位・下位ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 外面胴部二次被熱、内面胴部下位にヨゴレ。H. カマド。
8	甕	A. 口径 14.7。残存高 23.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテ～ナメケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ユビオサエ、以下ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部中位ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり・二次被熱。H. 覆土。
9	甕	A. 口径 15.3。残存高 29.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一にぶい赤褐色・灰黄褐色。外一橙色。F. 口縁部～胴部 1/4。G. 外面胴部二次被熱。H. 覆土。
10	丸石	A. 長 4.6。幅 3.9。厚 3.2。重 73.0。D. 安山岩。F. 完形。G. 自然風化か。H. 覆土。

106号住居跡 (第175・176図、図版25)

位置：B地点の中央より南寄りに位置している。107号住居跡・108号住居跡・117号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-88°-E。長軸3.21m、短軸2.85m。カマド：東壁に付設される。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置するピットが貯蔵穴である。柱穴：8本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時

期：平安時代。

107号住居跡（第175・176図、図版25・26・73）

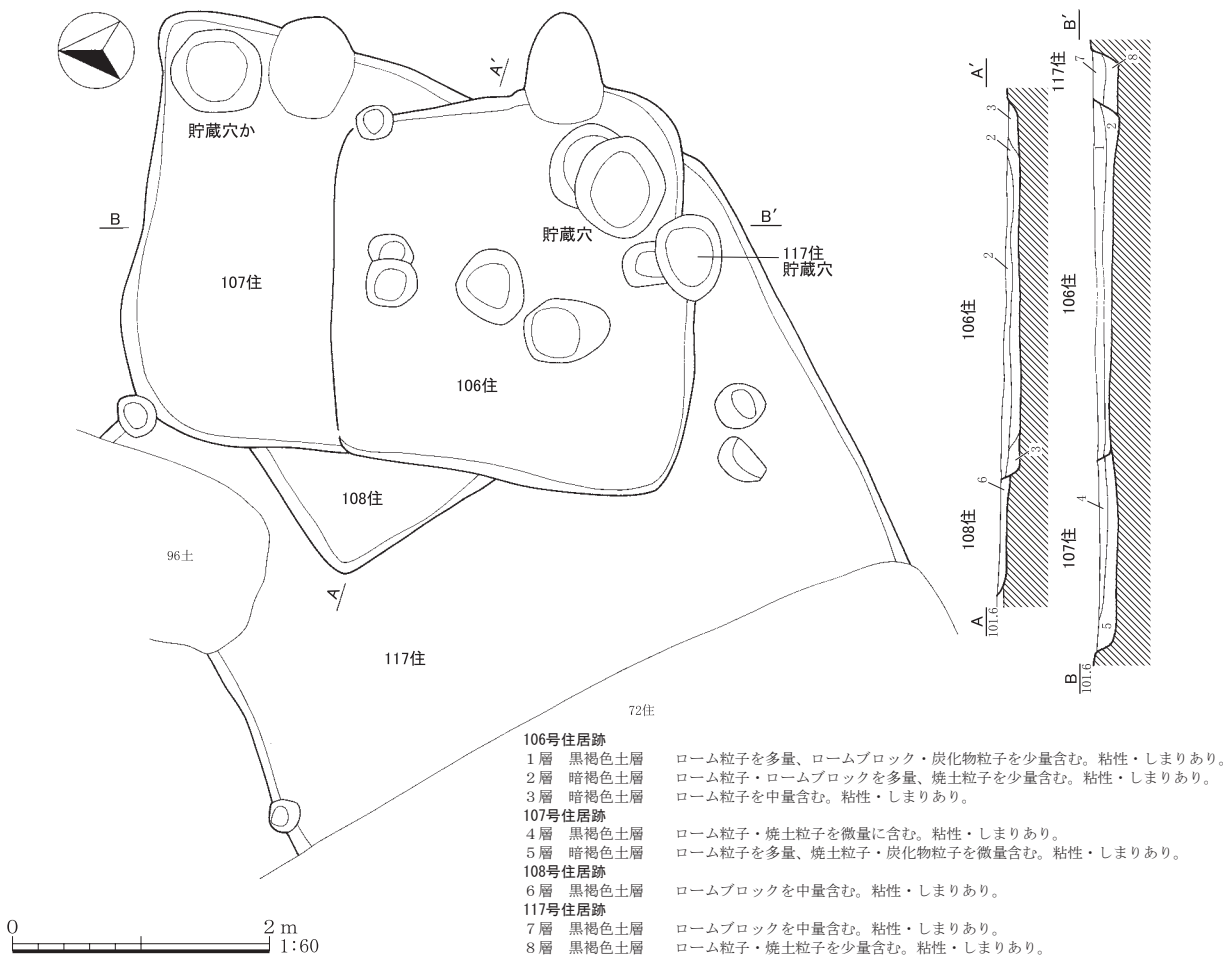
位置：B地点の中央より南に位置している。106号住居跡・108号住居跡・117号住居跡と重複し、前者より古く、後者との新旧関係は不明であるが出土遺物からみると本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-80°-E。規模：長軸3.19m。カマド：東壁に付設される。柱穴：1本確認される。カマド脇に位置しており、貯蔵穴の可能性もある。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：平安時代。

108号住居跡（第175図、図版25）

位置：B地点の中央よりやや南に位置する。106号住居跡・107号住居跡に削平され、西コーナー部分のみ検出された。117号住居跡とも重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は不明だが、方形を呈するだろう。主軸方位・規模：不明。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より遺物が出土している。時期：古墳時代後期。

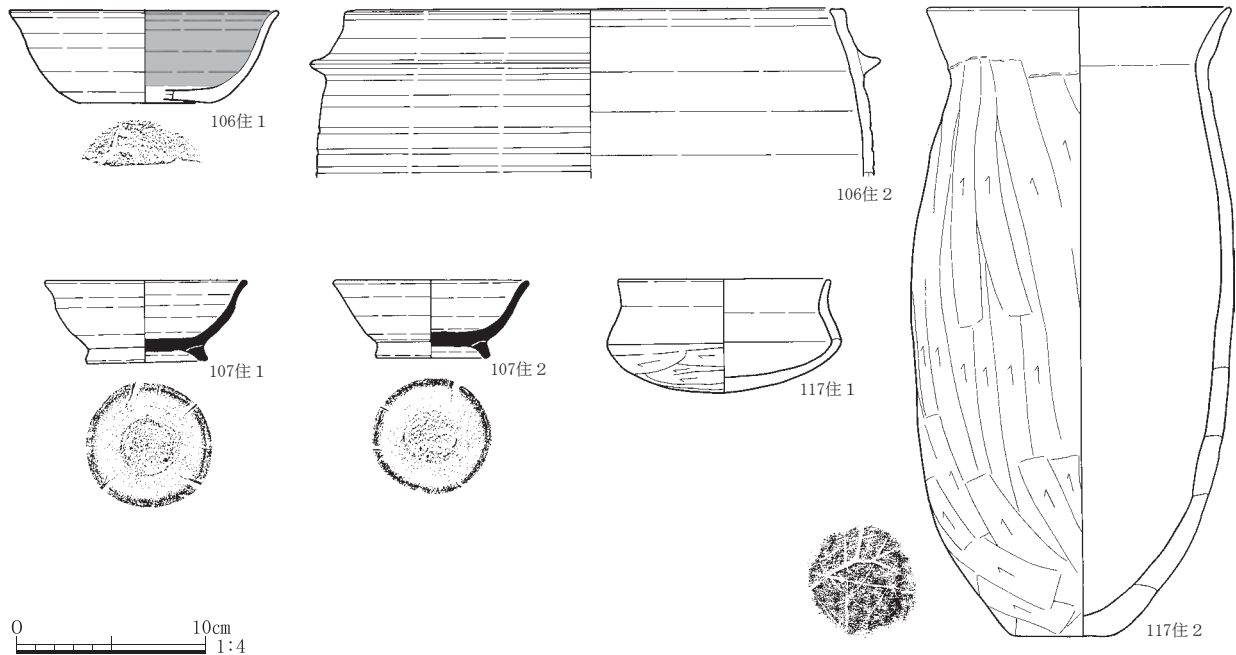
117号住居跡（第175図、図版28・79）

位置：調査区の中央よりやや南に位置している。72号住居跡・106～108号住居跡と重複し、本遺構が



第175図 106号・107号・108号・117号住居跡

最も古い。形態：平面形は方形を呈するだろう。規模：長軸5.28m。柱穴：3本確認された。うち1本は貯蔵穴だろう。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より出土している。時期：古墳時代。



第176図 106号・107号・117号住居跡 出土遺物

106号住居跡 出土遺物観察表

1	碗	A. 口径(14.2)。底径(7.0)。器高4.9。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・白色粒子・赤色粒子。E. 内-黒色。外-暗灰褐色。F. 1/4。G. 内面黒色処理。H. 覆土。
2	羽釜	A. 口径(26.6)。残存高8.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-暗橙灰色。F. 破片。H. 覆土。

107号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器高台付碗	A. 口径10.7。底径6.4。器高4.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 白色粒子・片岩・角閃石。E. 内-褐灰色。外-黒色。F. ほぼ完形。G. 還元焰焼成だが、還元不良。H. 覆土。
2	須恵器高台付碗	A. 口径10.4。底径6.0。器高4.1。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内外-黒色。F. 完形。G. 還元焰焼成だが、還元不良。H. 覆土。

117号住居跡 出土遺物観察表

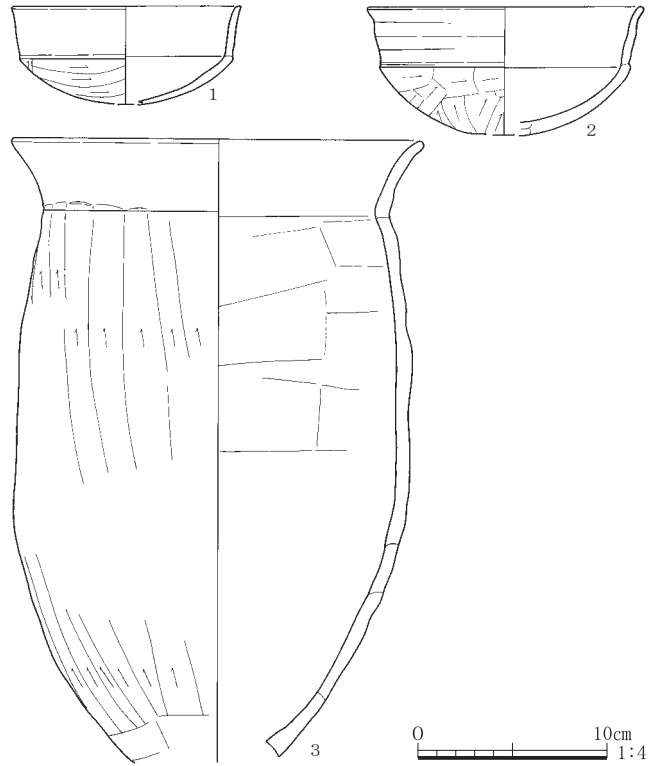
1	坏	A. 口径(11.3)。器高6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
2	甕	A. 口径16.1。底径5.5。器高33.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部木葉痕。内面、ナデ。D. 片岩・白色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. 2/3。G. 外面胴部上位に黒斑・下半二次被熱。H. 覆土。

109号住居跡 (第178・179図、図版26・74)

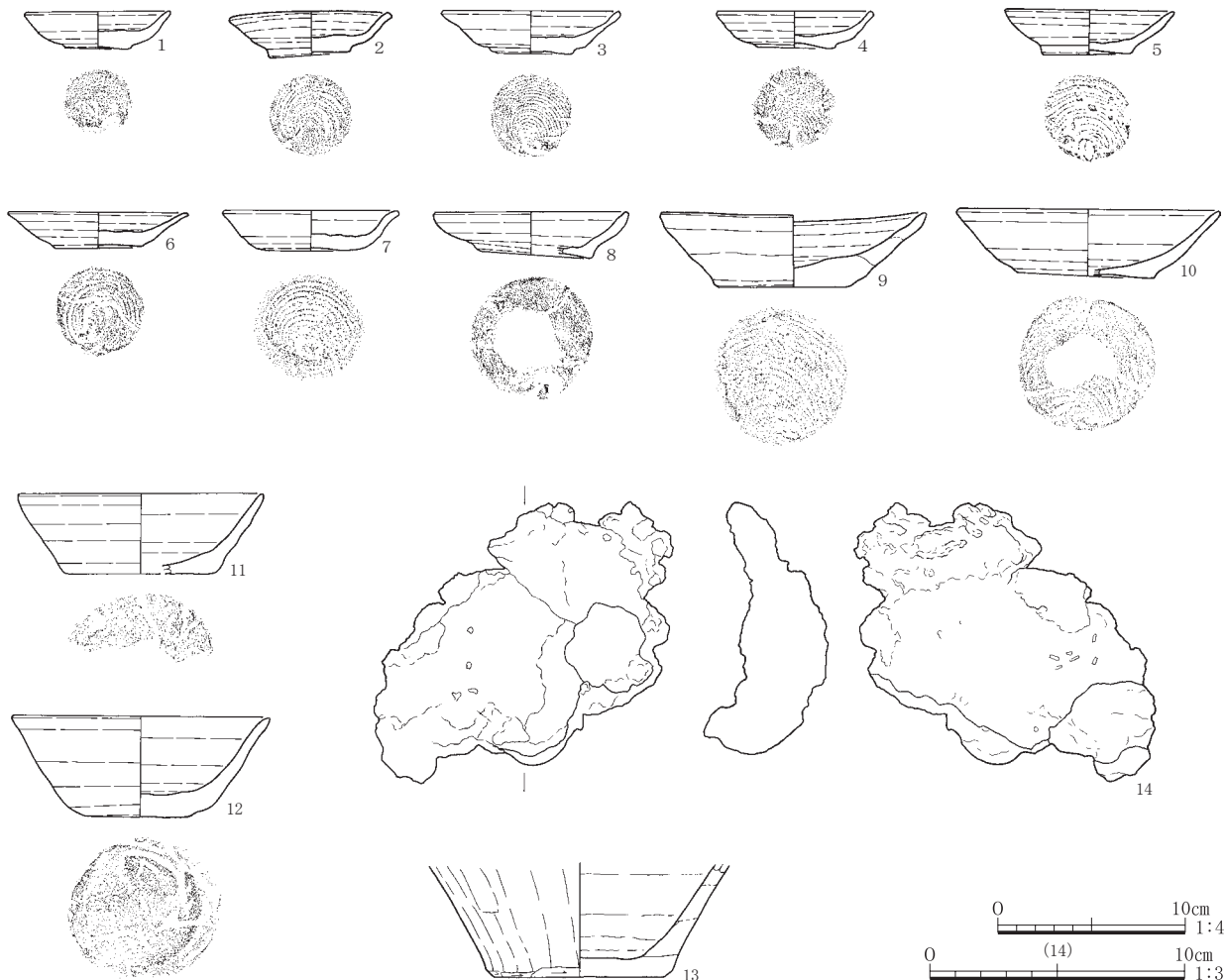
位置：B地点の中央よりやや南に位置する。114号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-81°-E。規模：長軸4.31m、短軸3.63m。カマド：東壁から2基検出された。中央に付設されるものが旧カマド、南東隅に近いものが新カマドであろう。どちらのカマドも袖が残存しておらず、燃焼部・煙道が住居外に構築される。新カマドの煙道が長い点が特徴的である。柱穴：4本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：全体に散在している。土器等とともに碗形滓が出土している。時期：平安時代。

114号住居跡（第177・179図、図版28・79）

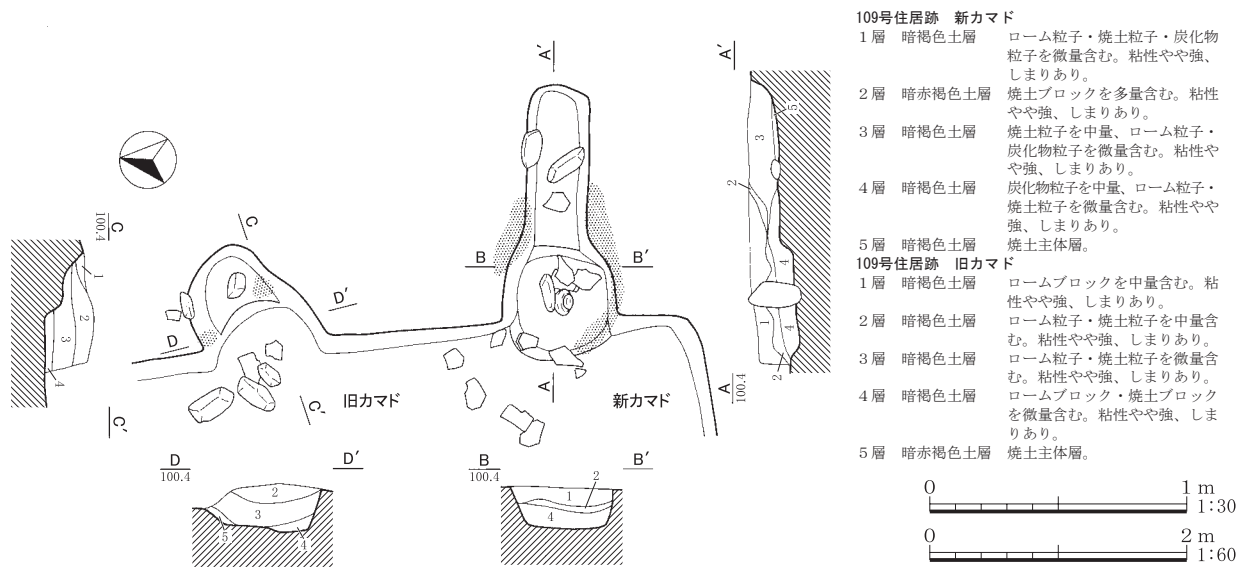
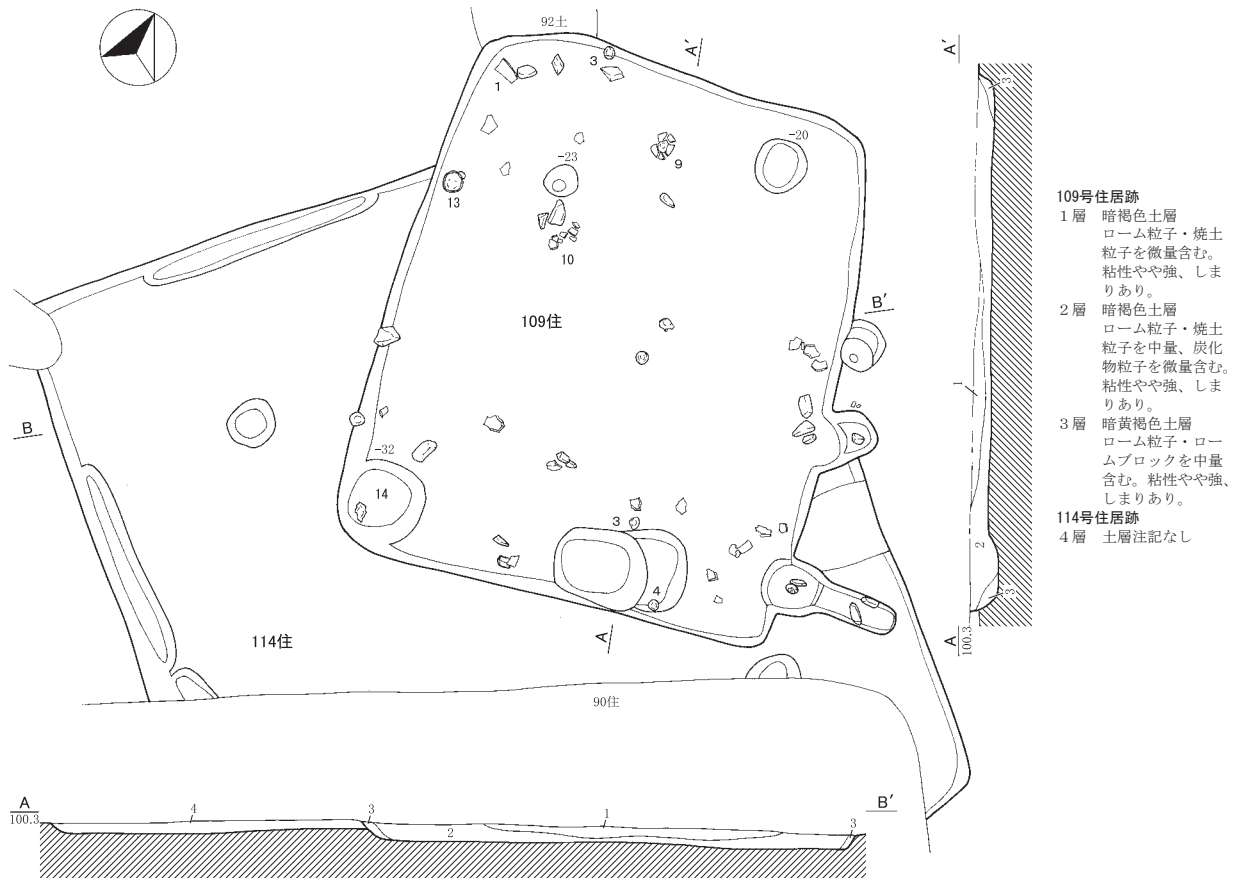
位置：B地点の中央よりやや南に位置している。90号住居跡・109号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-49° - E。規模：長軸5.90m。カマド：東壁に付設される。柱穴：2本確認される。周溝：北壁と西壁の一部で検出した。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土中より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第177図
114号住居跡
出土遺物



第178図 109号住居跡 出土遺物



第179図 109号・114号住居跡

114号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.2)。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(14.6)。器高6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/3。H. 覆土。
3	甕	A. 口径21.8。残存高32.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-浅黄橙色。F. 1/2。G. 外面胴部下半二次被熱・スス附着。H. 覆土。

109号住居跡 出土遺物観察表

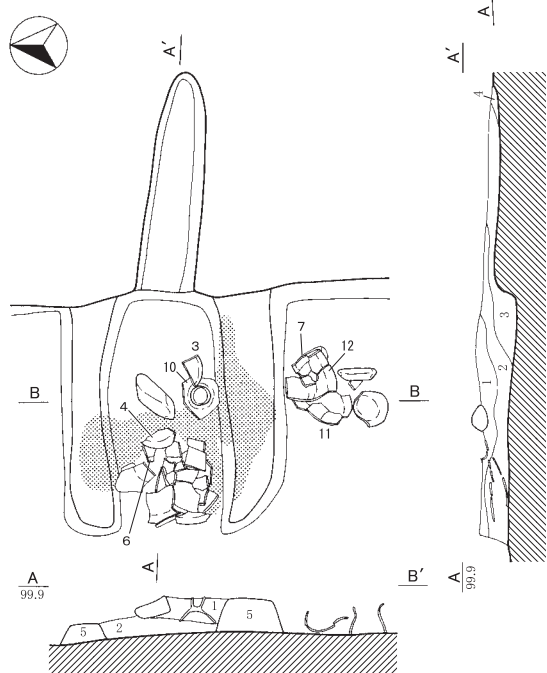
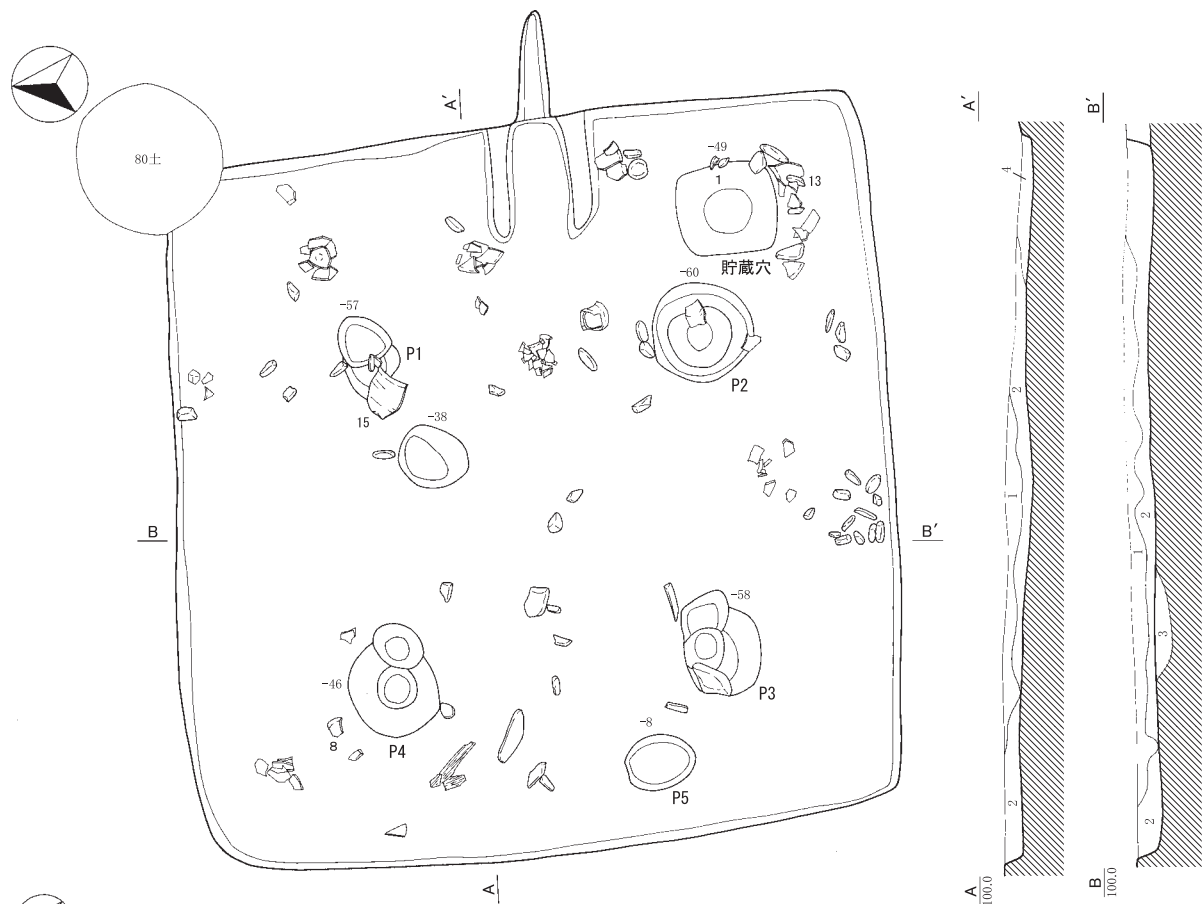
1	須恵器皿	A. 口径7.8。底径3.4。器高2.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石・石英。E. 内外一にぶい橙色。F. 完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
2	須恵器皿	A. 口径8.3。底径4.4。器高2.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
3	須恵器皿	A. 口径9.6。底径4.3。器高2.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。G. 酸化焰焼成。外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	須恵器皿	A. 口径8.4。底径4.2。器高2.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. ほぼ完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
5	須恵器皿	A. 口径9.0。底径4.8。器高2.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一赤褐色。F. ほぼ完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
6	須恵器皿	A. 口径9.6。底径4.6。器高1.9。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 雲母・片岩。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/2。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
7	須恵器皿	A. 口径9.4。底径4.7。器高2.2。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
8	須恵器皿	A. 口径10.4。底径6.3。器高2.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 雲母。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 酸化焰焼成。二次被熱。H. 覆土。
9	須恵器皿	A. 口径14.0。底径7.2。器高4.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・石英・雲母。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 酸化焰焼成。内面体部に黒色付着物あり。H. 覆土。
10	須恵器皿	A. 口径14.0。底径7.3。器高3.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 雲母。E. 内外一にぶい黄橙色。F. ほぼ完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
11	須恵器碗	A. 口径(13.0)。底径4.3。器高(8.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→ナデ。D. 石英。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
12	須恵器碗	A. 口径(13.8)。底径5.3。器高5.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→ナデ。D. 雲母。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/2。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
13	甕	A. 底径10.0。残存高6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテナデ→下位ヨコケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 破片。G. 二次被熱。H. 覆土。
14	埴形滓	A. 長12.0。幅11.2。厚5.0。重492.89。G. 炉壁粘土が付着する。2～3体溶着している。H. 覆土。

110号住居跡 (第180・181・182図、図版26・75・76)

位置：B地点の中央より南東に位置している。111号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は正方形を呈する。主軸方位：N-90°-E。規模：一辺5.70m。カマド：東壁に付設される。暗黄褐色土を用いた付け袖である。燃烧部は住居内に収まり、中央部からは支脚と思しき礫が据えられている。浅く長い煙道が住居外へと延びる。貯蔵穴：カマドに向かって右の長方形ピットが貯蔵穴であろう。柱穴：6本確認される。P1～4が支柱穴である。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：遺物とともに多量の礫が住居内に散在する。時期：古墳時代後期。

110号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	坏	A. 口径11.6。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面二次被熱。H. 覆土・貯蔵穴。
2	坏	A. 口径12.6。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
3	坏	A. 口径13.3。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. 4/5。G. 内外面黒色処理か。H. カマド。
4	坏	A. 口径13.8。器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. カマド。
5	坏	A. 口径13.8。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	坏	A. 口径13.0。器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一明赤褐色。外一にぶい褐色。F. 2/3。G. 内外面二次被熱か。H. カマド。
7	坏	A. 口径12.6。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 2/3。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
8	坏	A. 口径14.3。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内一明赤褐色。外一灰褐色。F. 3/4。G. 内外面二次被熱か。H. 覆土。



110号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 3層 黒褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 4層 暗褐色土層 ロームブロック・焼土ブロックを中量含む。粘性やや強、しまりあり。

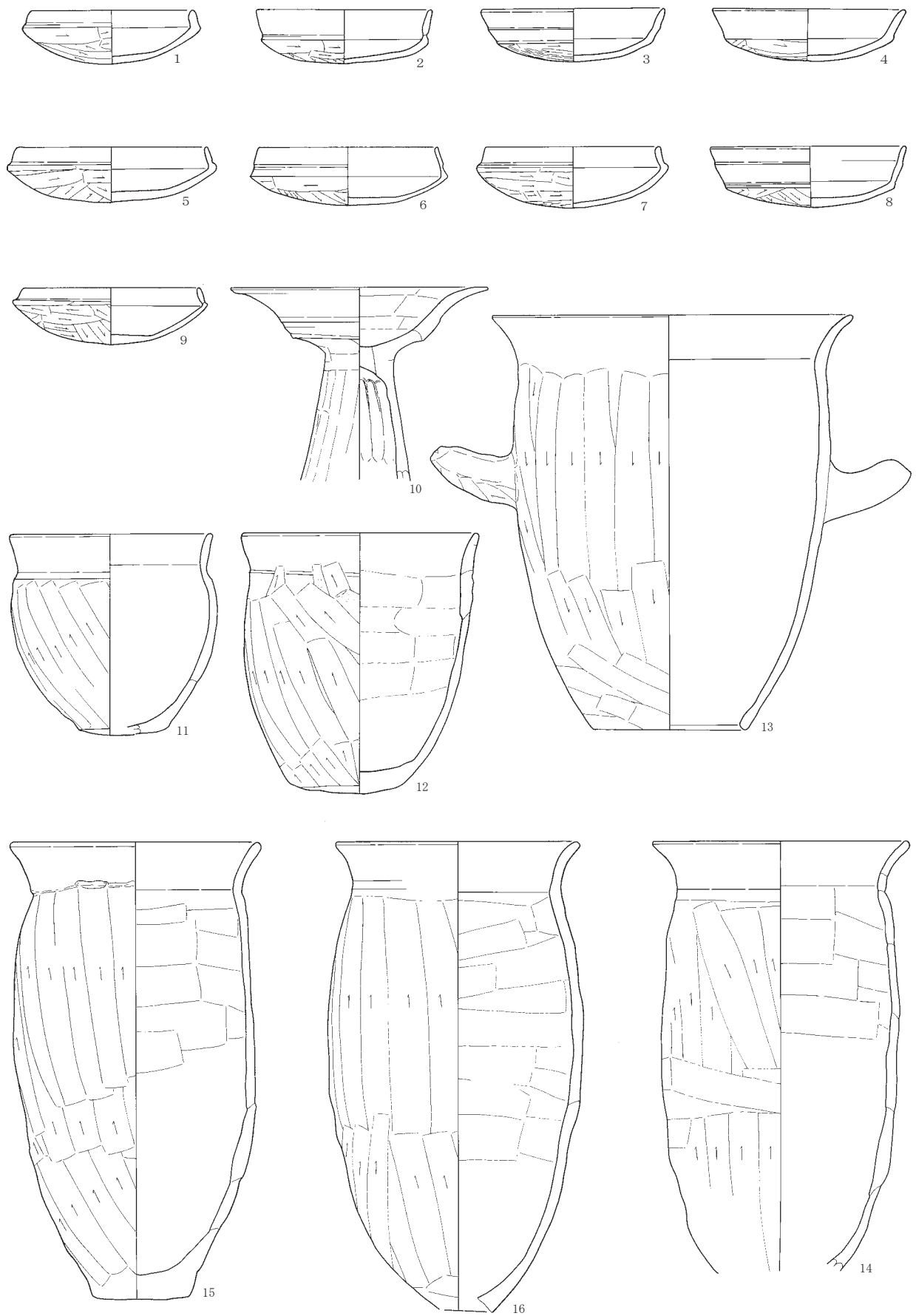
110号住居跡 カマド

- 1層 黒褐色土層 ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子を中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 焼土粒子を中量、ローム粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 3層 黒褐色土層 焼土粒子を中量、炭化物粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 4層 暗赤褐色土層 焼土粒子を多量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 5層 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量含む。

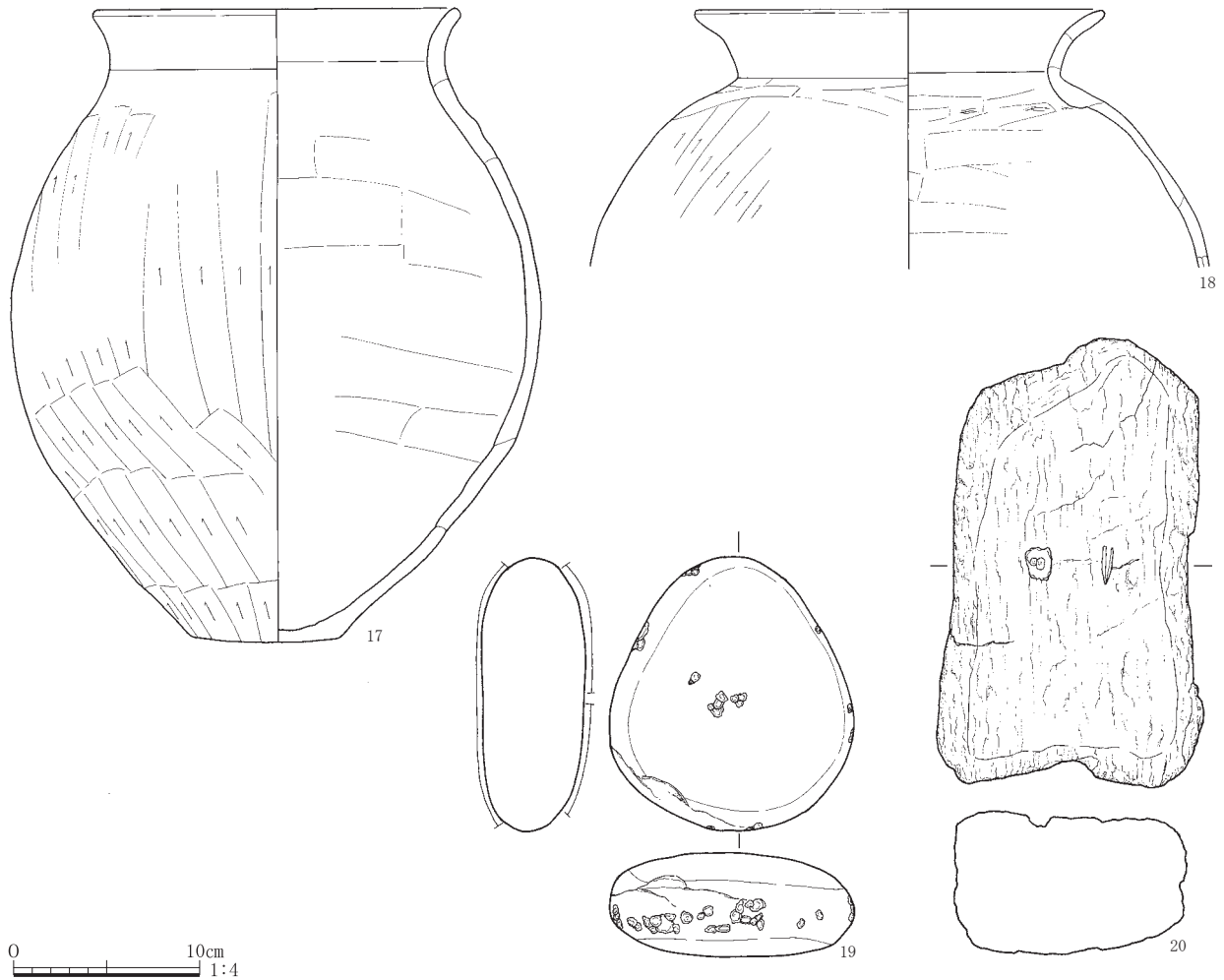
第180図 110号住居跡

110号住居跡 出土遺物観察表 (2)

9	坏	A. 口径12.6。器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内-橙色。外-明赤褐色。F. 4/5。G. 外面体部にスス付着。H. カマド。
10	高坏	A. 口径18.5。残存高14.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~体部ヨコナデ。脚部タテナデ。内面、口縁部~体部ヨコナデ。脚部タテナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-橙色。外-明赤褐色。F. 坏部4/5、脚部1/4。H. カマド。



第181图 110号住居跡 出土遺物（1）



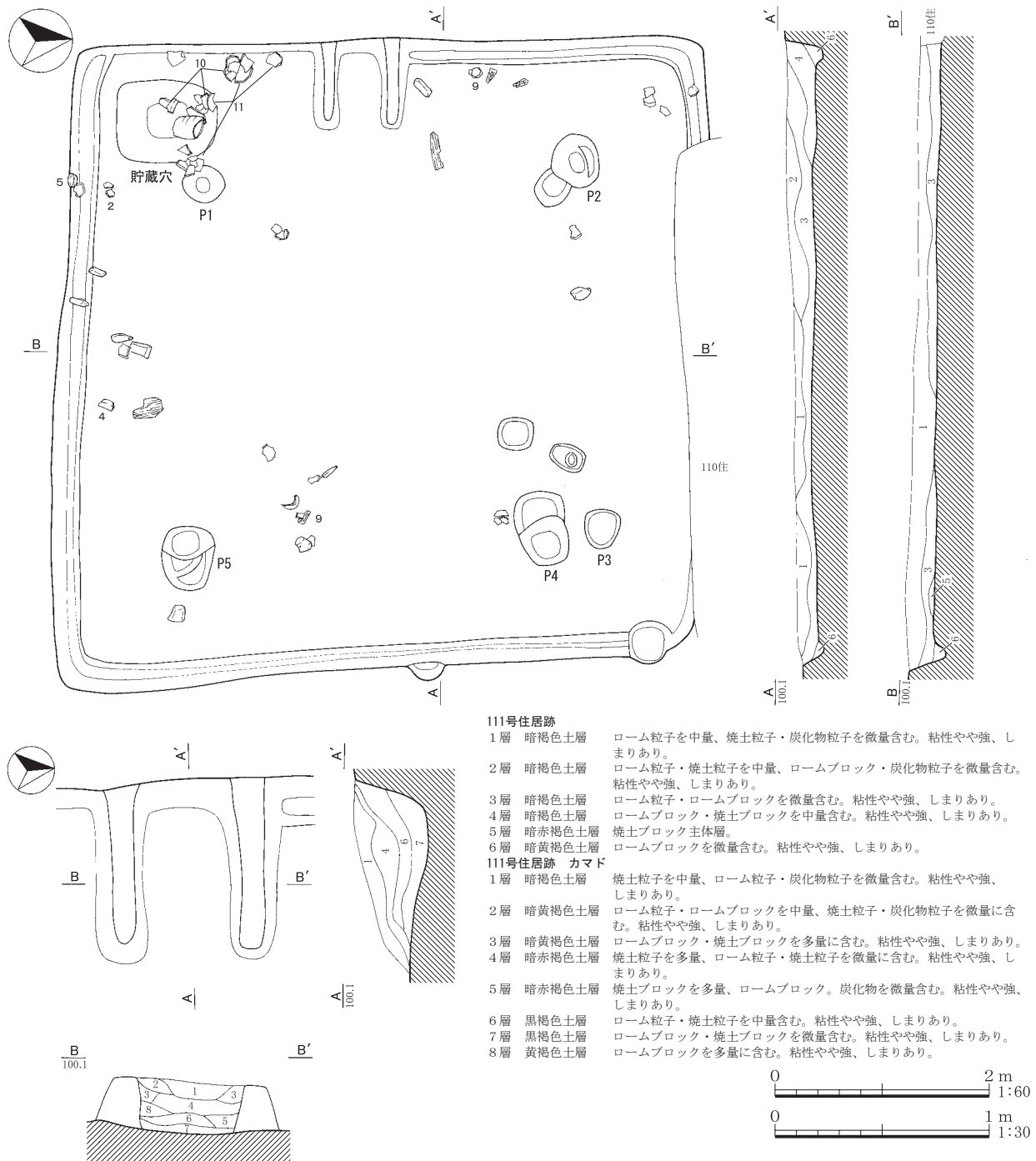
第182図 110号住居跡 出土遺物(2)

110号住居跡 出土遺物観察表(2)

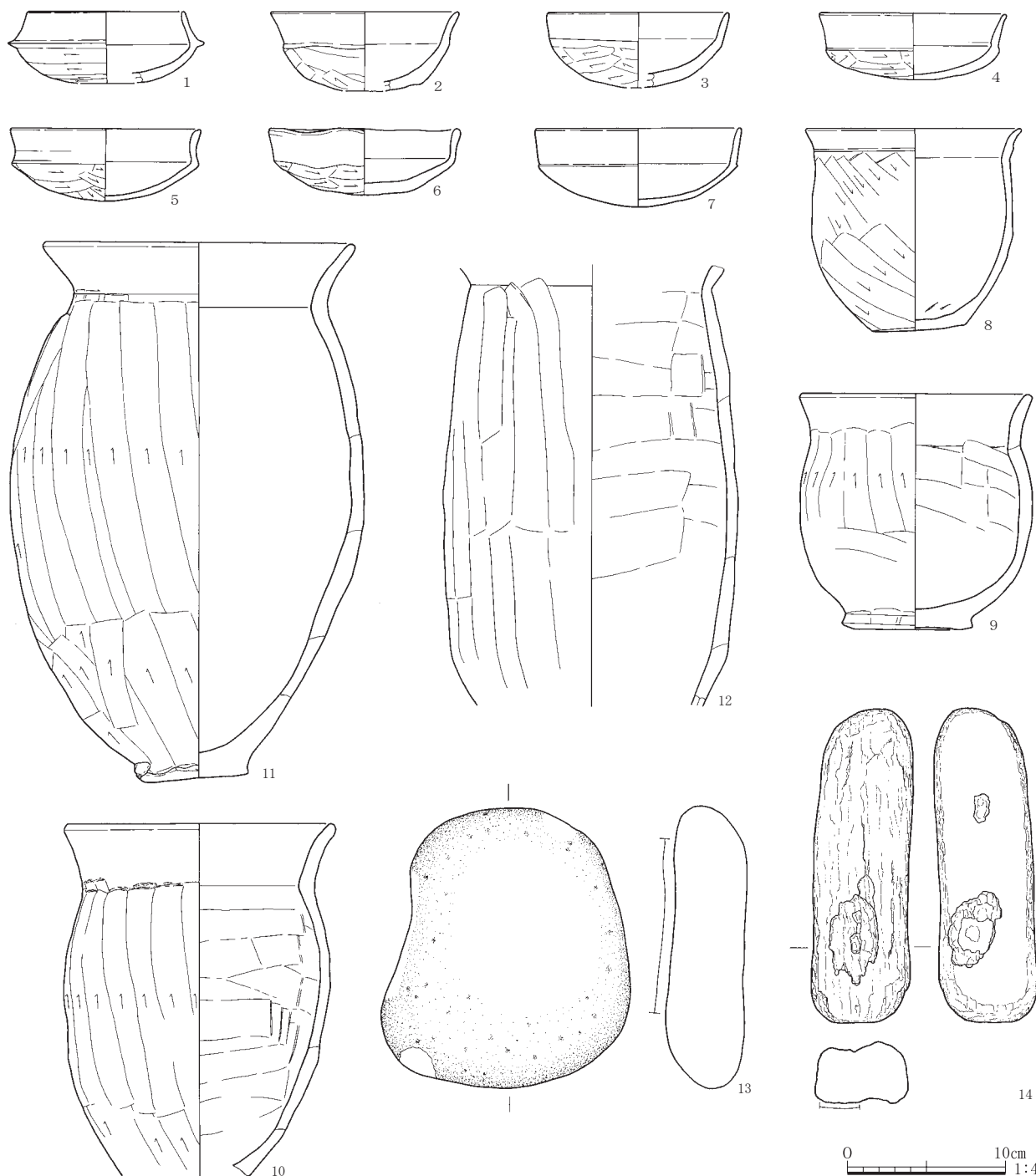
11	小形甕	A. 口径(14.4)。底径6.3。器高14.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. 2/3。G. 外面胴部二次被熱。内面胴部下半にヨゴレ。H. 覆土。
12	小形甕	A. 口径17.1。底径7.6。器高18.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
13	大形甕	A. 口径(25.8)。底径(11.0)。器高29.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。取手貼付。D. 石英・角閃石・片岩。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
14	甕	A. 口径18.4。残存高31.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ→中位ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部～胴部4/5。G. 外面胴部下半二次被熱・粘土附着、内面胴部上位スス附着。H. 覆土。
15	甕	A. 口径17.8。底径6.8。器高32.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ。底部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一にぶい黄橙色。外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下半二次被熱、内面指導部下半ヨゴレ・底部コゲ。内外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
16	甕	A. 口径17.5。残存高33.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 底部以外4/5。G. 外面胴部下半二次被熱。H. 覆土。
17	壺	A. 口径(19.8)。底径8.0。器高34.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部、ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 外面胴部中位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
18	壺	A. 口径22.0。残存高14.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメケズリ→上位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部1/5。G. 外面胴部中位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
19	磨・敲石	A. 長14.7。幅13.2。厚5.6。重1556.50。D. 閃緑岩。F. 完形。G. 全面摩耗。表面縁辺に敲打あり。H. 覆土。
20	台石	A. 長24.25。幅14.2。厚7.7。重4260。D. 結晶片岩。H. 覆土。

111号住居跡（第183・184図、図版27・76）

位置：B地点の中央より南東に位置している。110号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-85°-W。規模：長軸6.10m、短軸5.86m。カマド：西壁に付設される。黄褐色土を用いた付け袖。燃烧部は住居内で収まり、奥壁は住居の壁と一致する。貯蔵穴：カマドに向かって左側にある長方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：7本確認される。P1～5が主柱穴である。周溝：カマド脇の西壁部分以外で全周している。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：貯蔵穴部分の他に住居の西半分に遺物が多い傾向にある。時期：古墳時代後期。



第183図 111号住居跡



第184図 111号住居跡 出土遺物

111号住居跡 出土遺物観察表(1)

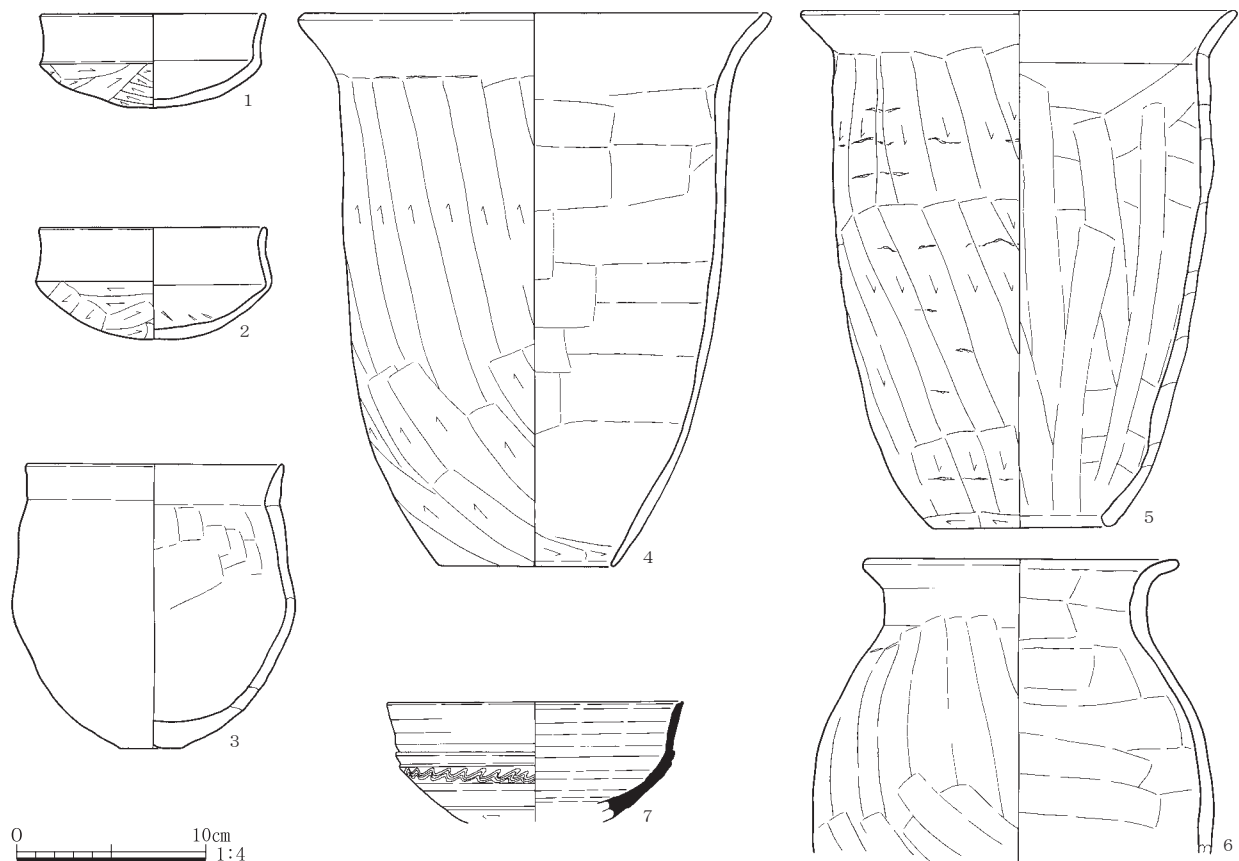
1	坏	A. 口径(10.0)。残存高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 1/3。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(12.0)。残存高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内-暗灰色。外-暗灰色。F. 1/2。G. 角閃石。H. 覆土。
3	坏	A. 口径(11.6)。残存高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外-黄灰色。F. 1/2。G. 内外面黒色処理か。H. 覆土。
4	坏	A. 口径(12.1)。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 2/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	坏	A. 口径(12.0)。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
6	坏	A. 口径(12.2)。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内-灰黄褐色。外-にぶい黄橙色。F. 1/2。G. 内面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

111号住居跡 出土遺物観察表（2）

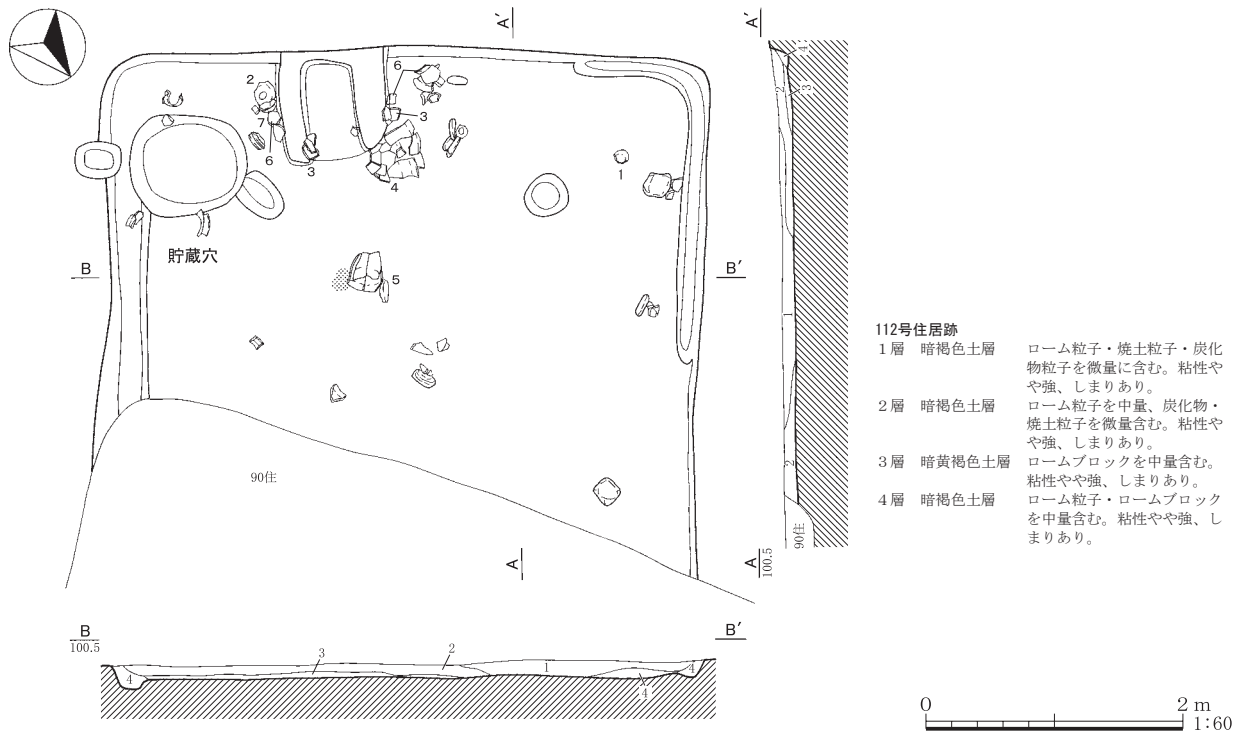
7	坏	A. 口径(13.1)。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 外面痘痕状の剥離が顕著で調整単位が不明。H. 覆土。
8	小形甕	A. 口径(14.0)。底径5.9。器高12.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ。底部ケズリ。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。外面胴部下半二次被熱。H. 覆土。
9	小形甕	A. 口径14.7。底径8.1。器高15.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテケズリ→中位以下ヨコナデ。底部木葉痕。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内一褐灰色。外一橙色。F. 1/3。G. 外面胴部二次被熱。内面胴部にヨゴレ。H. 覆土。
10	甕	A. 口径17.2。残存高22.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・片岩。E. 内外一にぶい橙色。F. 底部以外4/5。G. 外面胴部二次被熱。H. 貯蔵穴・覆土。
11	甕	A. 口径19.7。底径6.6。器高34.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 4/5。G. 外面胴部二次被熱。器面の荒れ激しい。H. 貯蔵穴・覆土。
12	甕	A. 残存高28.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 胴部ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑・二次被熱。H. 覆土。
13	磨石	A. 長17.8。幅15.7。厚5.3。重2295.36。D. 閃緑岩。F. 完形。G. 二面摩耗する。H. 覆土。
14	凹石	A. 長19.9。幅6.5。厚3.9。重849.09。D. 結晶片岩。F. 完形。G. 裏面の平坦面は顕著に摩耗する。凹穴は両面。H. 覆土。

112号住居跡（第185・186図、図版27・76・77）

位置：B地点の南東に位置している。90号住居跡と重複し、北半分は削平される。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：S-37°-W。規模：長軸4.68m。カマド：南壁に付設される。貯蔵穴：カマドに向かって左に検出されたピットが貯蔵穴だと思われる。柱穴：3本確認される。周溝：南西コーナー部分と東壁に検出される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマドを中心に遺物が出土している。時期：古墳時代後期。



第185図 112号住居跡 出土遺物



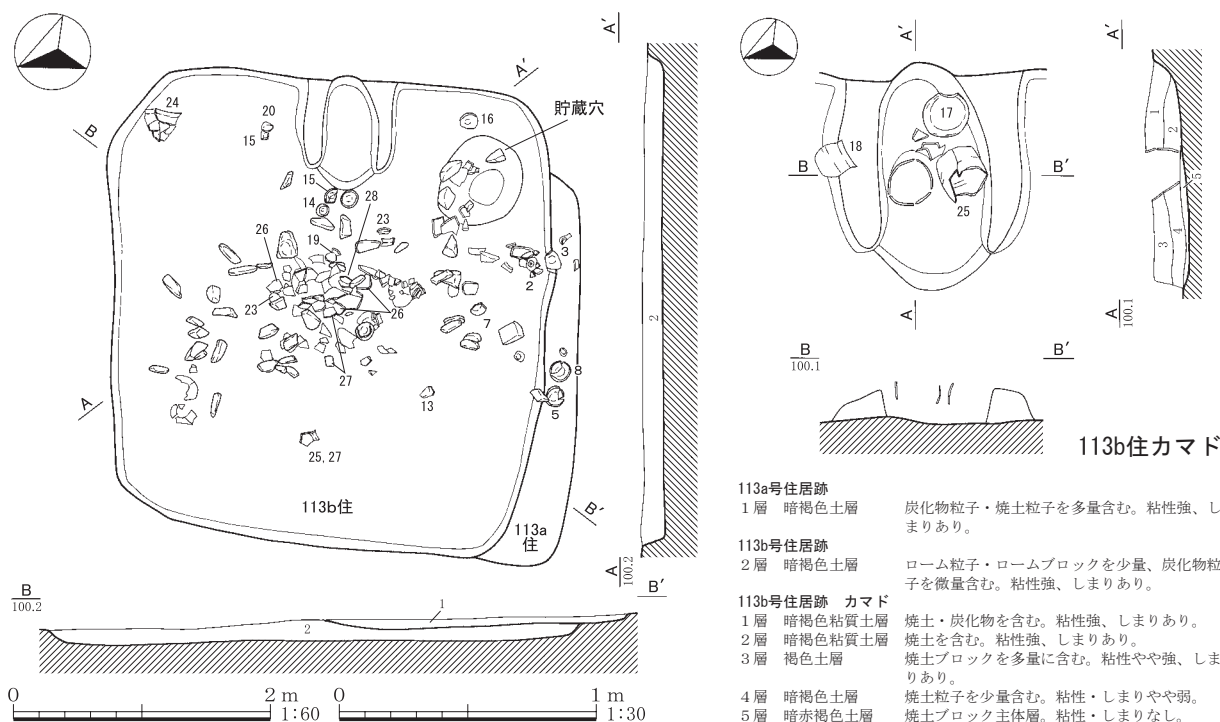
第186図 112号住居跡

112号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 12.0。器高 5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 12.0。器高 5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	小形甕	A. 口径 (13.6)。底径 3.3。推定高 15.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部摩滅のため調整不明。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内一灰褐色。外一橙色。F. 1/4。図上復元。G. 外面胴部二次被熱。内面胴部にヨゴレ。H. カマド・覆土。
4	大形甕	A. 口径 25.0。底径 9.2。器高 29.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下半ナナメケズリ。内面、ヨコナデ。胴部下位ヨコケズリ。D. 4/5。E. 内一浅黄色。外一にぶい黄橙色。F. 4/5。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。外面胴部にスス附着。H. 覆土。
5	大形甕	A. 口径 (23.0)。底径 9.2。器高 27.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ→胴部タテナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 内外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	甕	A. 口径 16.7。残存高 15.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位以下ナナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一浅黄色。F. 口縁部～胴部上半 3/4。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	須恵器 無蓋高坏	A. 口径 (15.8)。残存高 6.3。B. ロクロ成形。C. 外面、口縁部回転ナデ。体部上位回転ナデ→櫛描波状文・下位回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰。F. 1/5。G. 藤岡産。H. 覆土。

113 a 号・113 b 号住居跡 (第187・188・189図、図版27・77・78)

位置：B地点の南東に位置している。古代の住居跡(113 a 号住居跡)と古墳時代の住居跡(113 b 号住居跡)の重複である。113 a 号住居跡は残存状況が不良であり、詳細は不明である。以下は113 b 号住居跡の記述となる。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-67°-E。規模：長軸3.71m、短軸3.42m。カマド：東壁に付設される。燃焼部はやや掘り窪められ、内部には長胴甕が2個体並んで出土している。貯蔵穴：カマドに向かって右側に円形のピットが確認される。これが貯蔵穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：上層からは113a号住居跡の遺物が多量の礫とともに出土した。時期：113 a 号住居跡は平安時代、113 b 号住居跡は古墳時代後期に比定される。

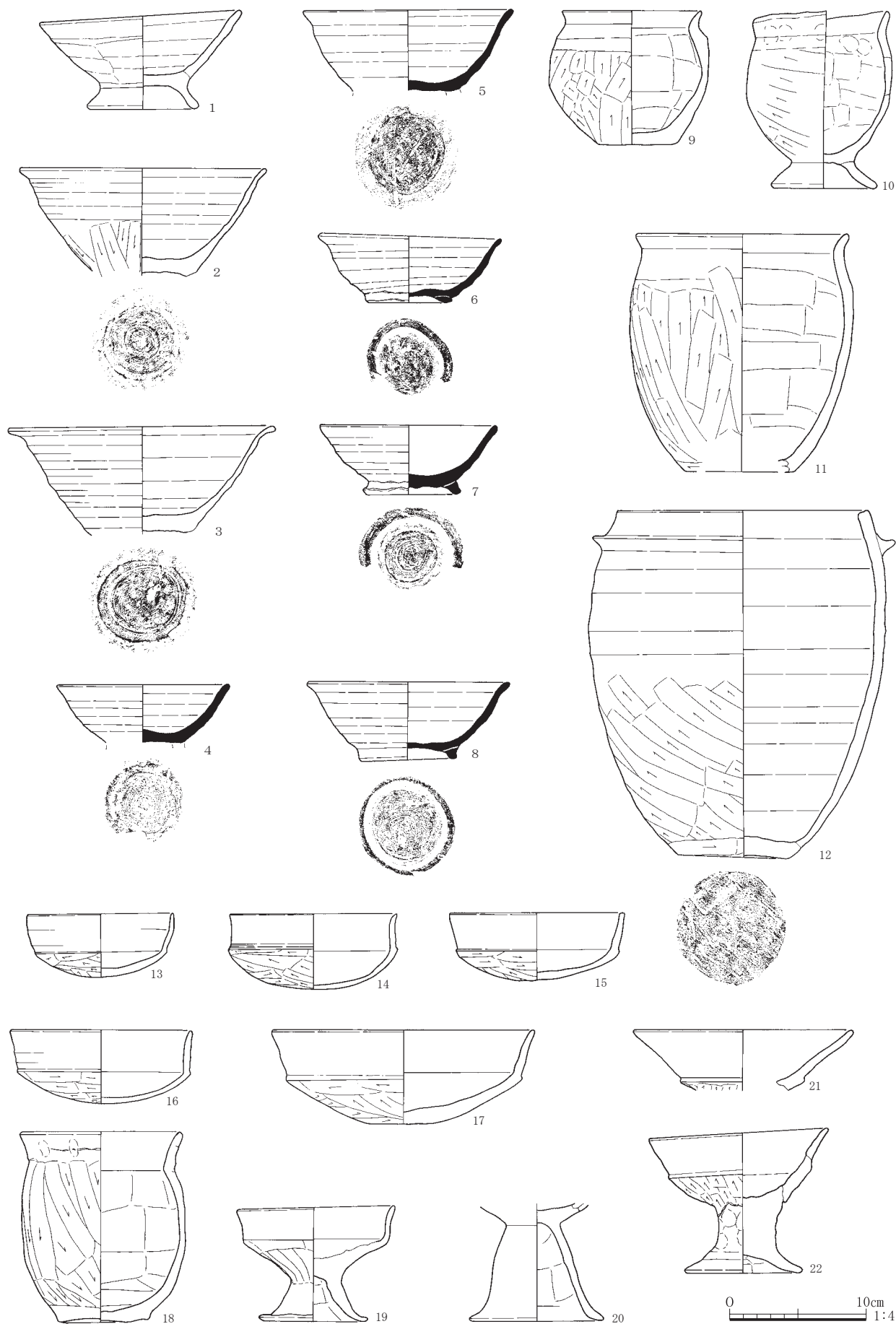


- 113a号住居跡**
 1層 暗褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子を多量含む。粘性強、し
 まりあり。
- 113b号住居跡**
 2層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを少量、炭化物粒
 子を微量含む。粘性強、しまりあり。
- 113b号住居跡 カマド**
 1層 暗褐色粘質土層 焼土・炭化物を含む。粘性強、しまりあり。
 2層 暗褐色粘質土層 焼土を含む。粘性強、しまりあり。
 3層 褐色土層 焼土ブロックを多量に含む。粘性やや強、しま
 りあり。
 4層 暗褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性・しまりやや弱。
 5層 暗赤褐色土層 焼土ブロック主体層。粘性・しまりなし。

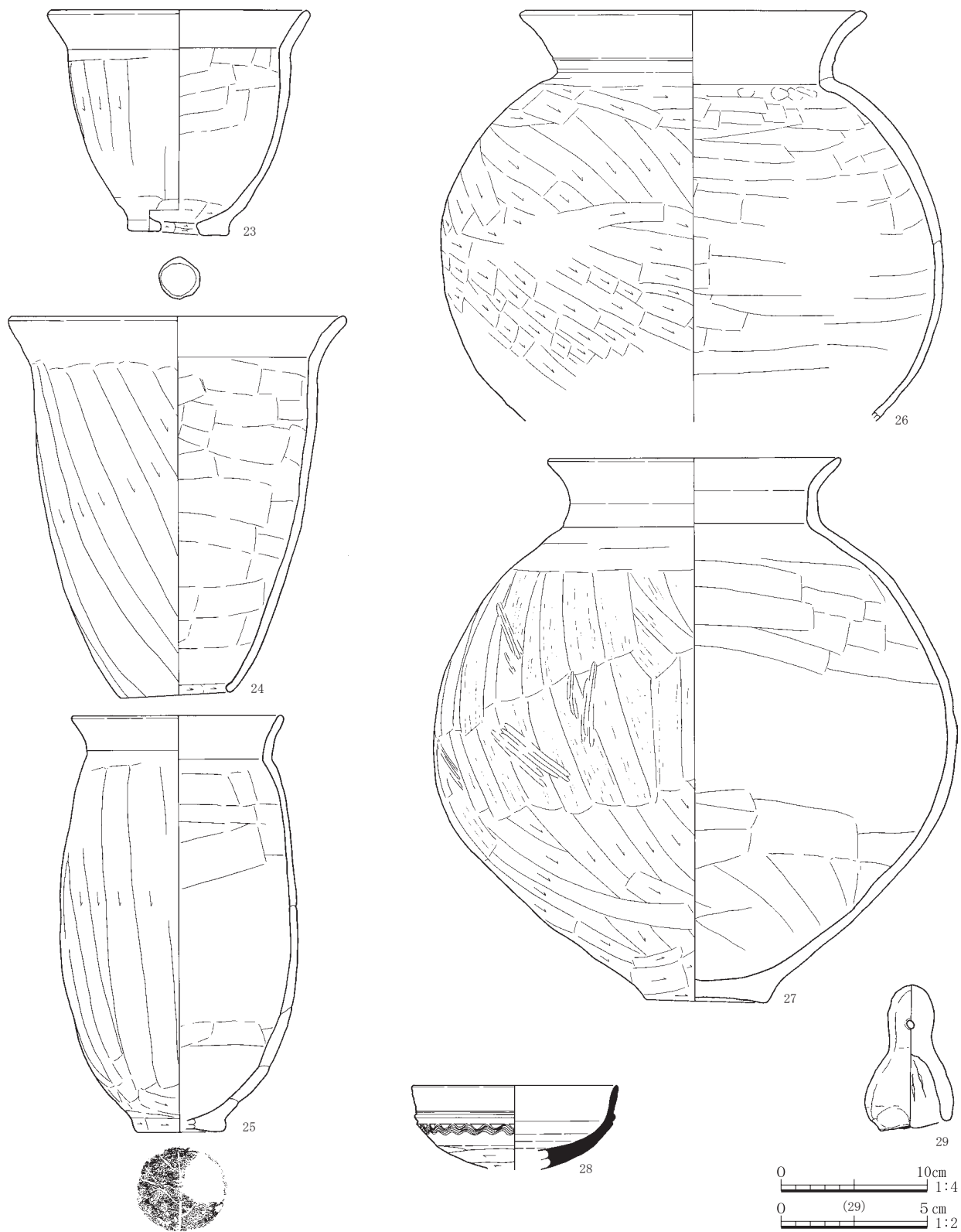
第187図 113号住居跡

113号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	須恵器 高台付碗	A. 口径14.2。底径8.2。器高7.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部回転ナデ→ヨコナデ。高台貼付→回転ナデ。底部回転ナデ。内面、回転ナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
2	須恵器 高台付碗	A. 口径18.1。残存高7.8。B. ロクロ成形。C. 外面、口縁部～体部回転ナデ→体部下半タテケズリ。高台貼付→欠損。底部・内面、回転ナデ。D. 角閃石・石英・橙色粒子。E. 内外一橙色。F. 高台部以外ほぼ完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
3	須恵器 高台付碗	A. 口径19.6。残存高7.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→回転ナデ。高台貼付→欠損。D. 角閃石・石英。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 高台部以外ほぼ完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
4	須恵器 高台付碗	A. 口径12.6。残存高4.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。高台貼付→欠損。底部回転ナデ。D. 角閃石・石英。E. 内一灰色。外一灰白色。F. 高台部以外2/3。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
5	須恵器 高台付碗	A. 口径15.5。残存高6.0。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転ナデ。高台貼付→欠損。D. 石英・片岩。E. 内外一灰色・オリーブ黒色。F. 高台部以外完形。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
6	須恵器 高台付碗	A. 口径14.0。底径6.3。器高5.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→回転ナデ。高台貼付。D. 角閃石・石英。E. 内外一明赤褐色・灰黄色。F. 3/4。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
7	須恵器 高台付碗	A. 口径13.0。底径7.1。器高5.2。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。高台貼付。D. 白色粒子。E. 内外一灰白色。F. ほぼ完形。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
8	須恵器 高台付碗	A. 口径14.8。底径7.1。器高5.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。高台貼付。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一灰黄色。F. 完形。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
9	小形甕	A. 口径10.2。底径5.3。器高9.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部ナメナメナデ。底部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい赤褐色。F. 4/5。G. 外面二次被熱。内面胴部にヨゴレ。H. 覆土上層。
10	台付甕	A. 口径9.9。底径7.8。器高13.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部ヨコケズリ。脚部ヨコナデ。内面ヨコナデ→胴部上位ユビオサエ。D. 角閃石・片岩。E. 内一褐灰色。外一にぶい橙色。F. 4/5。G. 外面二次被熱。内面胴部にヨゴレ。H. 覆土上層。
11	甕	A. 口径15.7。底径(7.8)。残存高17.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 4/5。H. 覆土上層。
12	羽釜	A. 口径18.4。底径7.9。器高25.5。B. 粘土紐積み上げ→ロクロ成形。C. 外面、口縁部～胴部中位回転ナデ→下半ナメ～ヨコナデ。D. 角閃石。片岩。白色粒子。E. 内一にぶい赤褐色。外一橙色。F. 4/5。G. 外面二次被熱。H. 覆土上層。
13	坏	A. 口径10.8。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
14	坏	A. 口径12.2。器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。



第188图 113号住居跡 出土遺物(1)



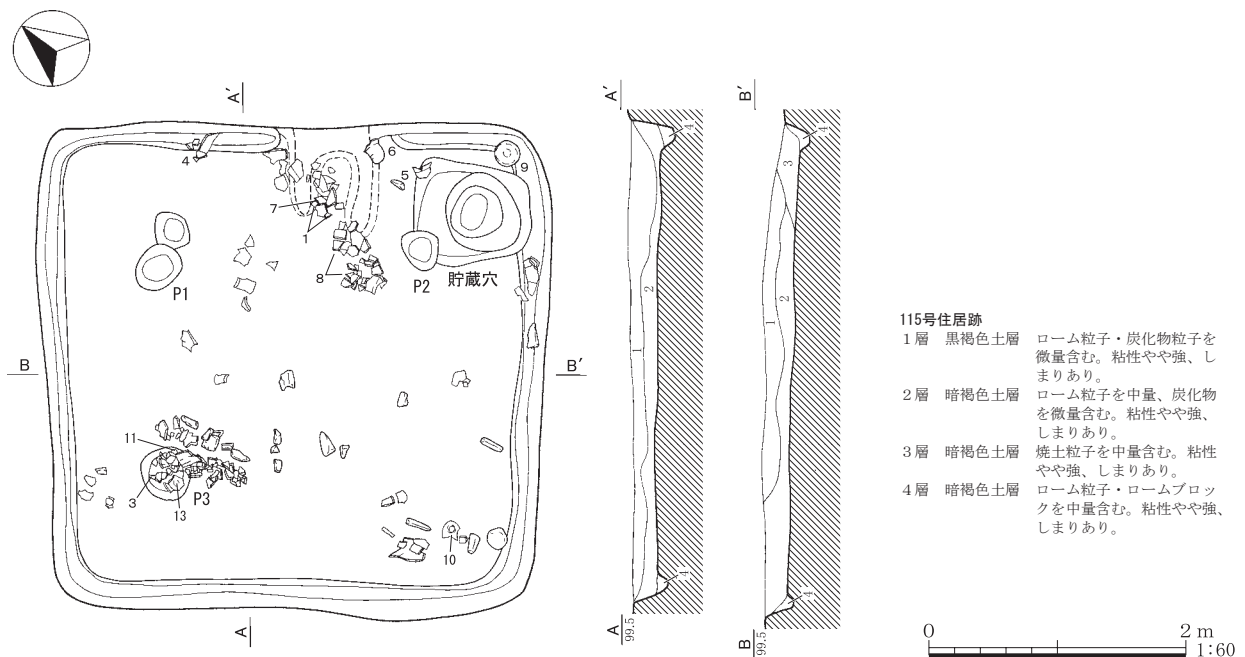
第189図 113号住居跡 出土遺物(2)

113号住居跡 出土遺物観察表(2)

15	坏	A. 口径 10.8。器高 4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
16	坏	A. 口径 13.2。器高 5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。

113号住居跡 出土遺物観察表 (3)

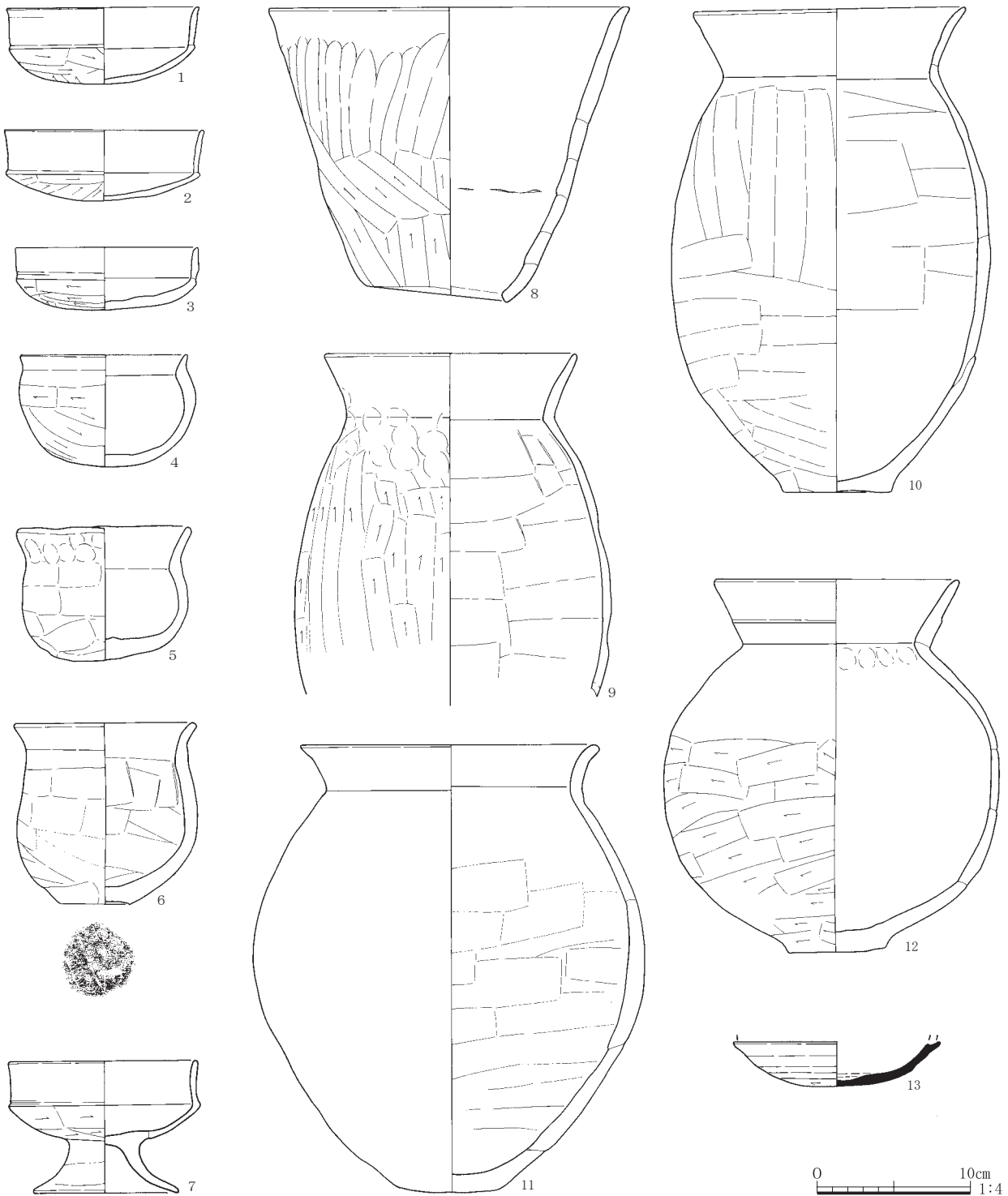
17	坏	A. 口径 19.3。底径 4.4。器高 6.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 内外面体部痘痕状に剥離する。H. カマド。
18	小形甕	A. 口径 12.0。底径 6.7。器高 14.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 内外面底部に焼成時の黒斑あり。外面二次小熱か。H. カマド。
19	高坏	A. 口径 (11.7)。底径 8.0。器高 113.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテナデ。脚部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 内面体部の器面は剥落する。H. 覆土。
20	高坏	A. 底径 9.9。残存高 8.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、調整摩滅。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 脚部ほぼ完形。G. 器面の荒れ激しい。H. 覆土。
21	高坏	A. 口径 16.0。残存高 4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・片岩。E. 内外一橙色。F. 坏部 1/2。G. 内面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
22	高坏	A. 口径 (13.1)。底径 (8.6)。器高 10.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。脚部上半ユビオサエ。下半ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 内面体部は器面剥落する。H. 覆土。
23	小形甕	A. 口径 18.0。底径 6.9。器高 15.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。底部焼成前穿孔→ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 覆土。
24	大形甕	A. 口径 23.0。底径 7.5。器高 26.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。底部ケズリ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
25	甕	A. 口径 (14.4)。底径 6.0。器高 28.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部木葉痕。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。外面二次被熱。H. カマド。
26	壺	A. 口径 23.8。残存高 28.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメ～ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内一にぶい黄橙色。外一橙色。F. 口縁部～胴部中位 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
27	壺	A. 口径 20.0。底径 8.3。器高 37.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部ナナメケズリ→中位タテ～ナナメナデ・部分的にミガキ、下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部上位二次被熱か。H. 覆土。
28	須恵器 無蓋高坏	A. 口径 (14.1)。残存高 5.7。B. ロクロ成形。C. 外面、口縁部回転ナデ。体部上位に櫛描波状文。下位回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 片岩。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 藤岡産。H. 覆土。
29	土製品	A. 口径 2.5。器高 4.9。B. 手捏ね。C. 外面、ユビオサエ・ナデ。内面、絞り痕。焼成前穿孔。D. 角閃石・橙色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土。



第190図 115号住居跡

115号住居跡（第190・191図、図版28・78・79）

位置：B地点の東で単独検出された住居跡である。形態：平面形は概ね正方形を呈する。主軸方位：N-59°-E。規模：長軸4.05m、短軸3.85m。カマド：東壁に付設される。黄褐色土を用いた付け袖である。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する長方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本確認される。全て主柱穴の可能性ある。周溝：カマド部分以外で全周する。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：カマド周辺とP3周辺に遺物が集中する。時期：古墳時代後期。



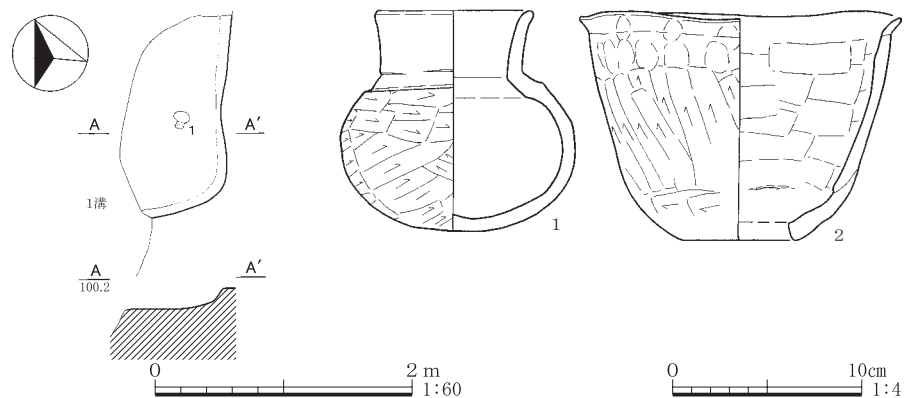
第191図 115号住居跡 出土遺物

115号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径12.6。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
2	坏	A. 口径(13.0)。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土。
3	坏	A. 口径(11.9)。器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内一浅黄色。外一黄灰色。F. 2/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	鉢	A. 口径(10.9)。器高7.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメケズリ→上位ヨコナデ。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内一明褐色。外一明赤褐色。F. 4/5。G. 外面二次被熱。内面底部以外にヨゴレ。H. 覆土。
5	小形甕	A. 口径11.4。器高8.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ユビオサエ。胴部ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑・二次被熱。H. 覆土。
6	小形甕	A. 口径11.9。底径4.4。器高11.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。底部木葉痕か。D. 片岩・白色粒子・角閃石。E. 内一にぶい赤褐色。外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部にスス附着。H. 覆土。
7	高坏	A. 口径12.3。底径9.4。器高8.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。脚部ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. カマド。
8	甑	A. 口径23.5。底径9.2。器高19.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部上半タテナデ→下半ナナメ～タテケズリ。内面、ナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
9	甕	A. 口径16.5。残存高22.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→上位ユビオサエ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部上半ほぼ完形。G. 外面胴部中位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
10	甕	A. 口径17.7。底径7.0。器高31.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 外面胴部にスス附着。H. 覆土。
11	甕	A. 口径19.5。底径7.1。器高(29.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部摩滅。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一にぶい褐色。外一橙色。F. 2/3。G. 外面胴部二次被熱。H. 覆土。
12	壺	A. 口径15.9。底径(6.5)。器高24.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部上半ナデ→下半ヨコケズリ。底部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ユビオサエ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
13	須恵器 坏身	A. 口径13.5。残存高2.9。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→天井部回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一灰オリブ。F. 4/5。H. 覆土。

116号住居跡 (第192図、図版28・76)

位置：B地点のほぼ中央に位置している。1号溝と重複し、南東コーナー以外は破壊される。よって、主軸方位・規模等は不明である。遺物：完形の甕が出土する。時期：古墳時代後期。



第192図 116号住居跡・出土遺物

116号住居跡 出土遺物観察表

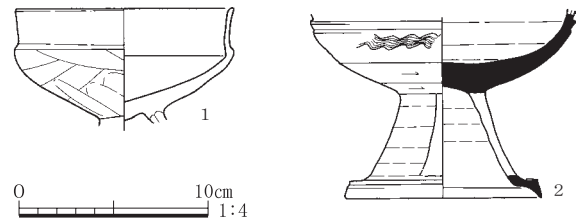
1	甕	A. 口径8.5。器高11.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコ～ナナメケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部の調整は観察出来なかった。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	小形甑	A. 口径(17.0)。底径6.0。器高12.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ユビオサエ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。D. 角閃石・石英。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/4。H. 覆土。

118号住居跡（第194・195図、図版29・79・80）

位置：B地点の南に位置している。119号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：S-41°-W。規模：長軸7.65m、短軸6.63m。カマド：南壁に付設される。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する長方形のピットが貯蔵穴だと思われる。柱穴：15本確認された。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：貯蔵穴周辺に集中して出土する。時期：古墳時代後期。

119号住居跡（第193・194図、図版29・79）

位置：B地点の南に位置している。118号住居跡と重複し、本遺構が古い。南壁は削平を受けて残存していない。主軸方位：S-14°-E。形態：平面形は方形を呈する。規模：長軸6.78m、短軸6.65m。柱穴：4本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土から土師器・須恵器が出土している。時期：古墳時代後期。



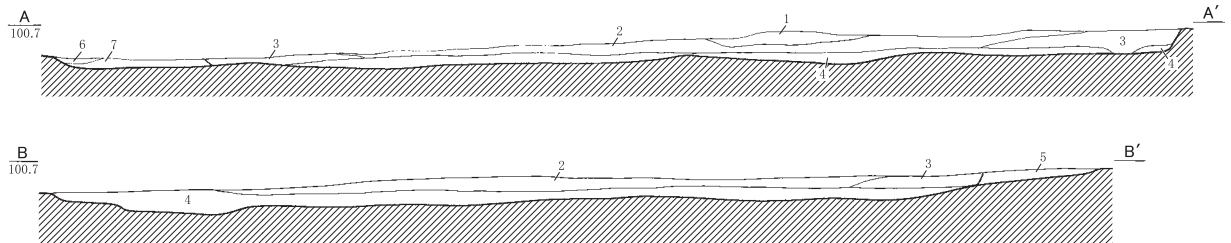
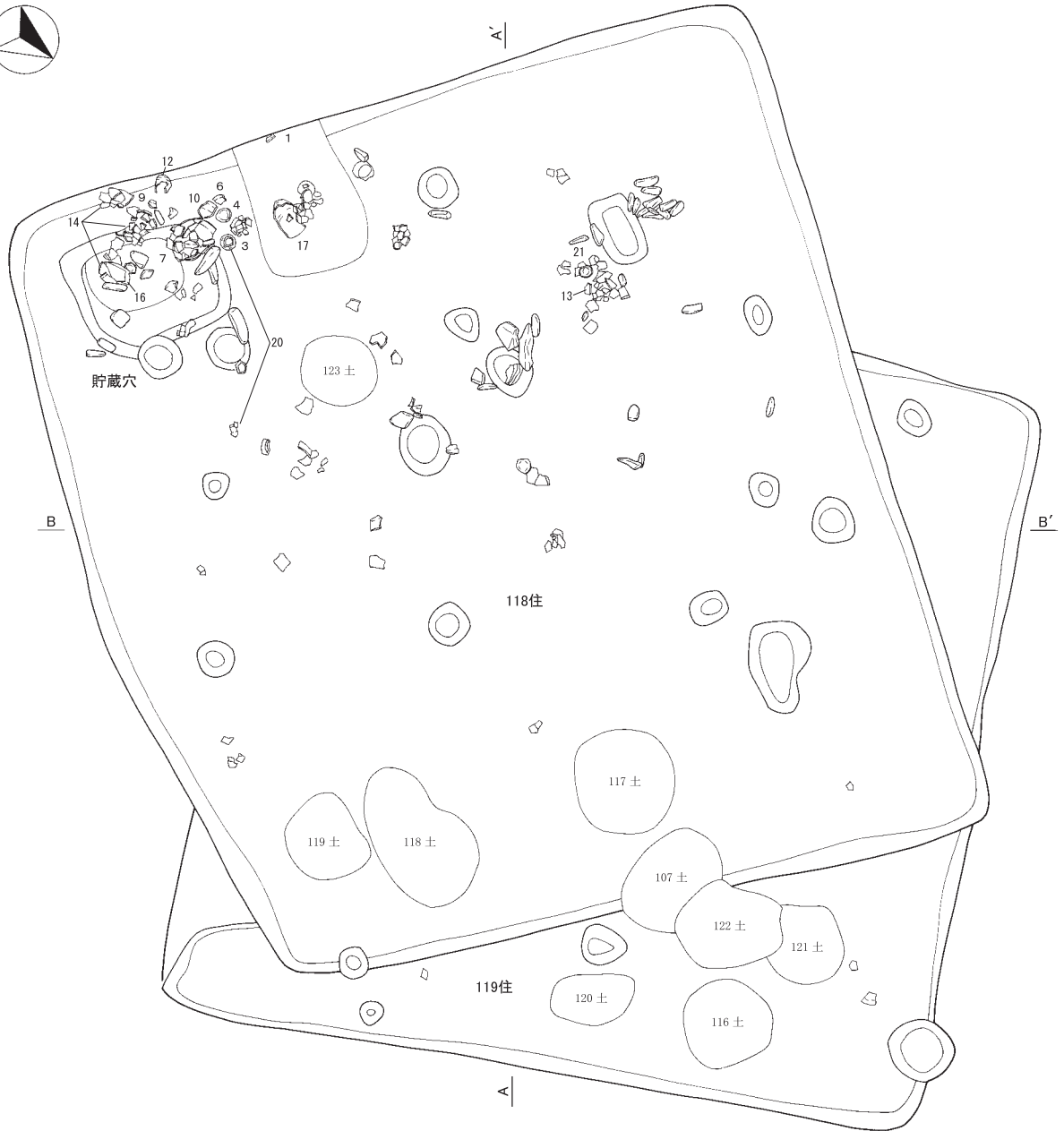
第193図 119号住居跡 出土遺物

119号住居跡 出土遺物観察表

1	高坏	A. 口径11.6。残存高6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコ〜ナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・雲母。E. 内外一明赤褐色。F. 坏部ほぼ完形。H. カマド・覆土。
2	須恵器高坏	A. 底径(10.4)。残存高9.6。B. ロクロ成形。C. 外面、体部上位二条突帯以下櫛描波状文。下位回転ケズリ。脚部回転ナデ。長方形透かし、3単位。内面、回転ナデ。D. 白色粒子・片岩。E. 内外一灰色。F. 1/3。H. 覆土。

118号住居跡 出土遺物観察表（1）

1	坏	A. 口径(11.8)。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・橙色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土・カマド。
2	坏	A. 口径12.2。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 内外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径(12.7)。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	坏	A. 口径12.0。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・橙色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	坏	A. 口径(12.2)。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内一にぶい黄橙色。外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
6	坏	A. 口径(13.5)。残存高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 画面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	坏	A. 口径13.1。器高5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・橙色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴・覆土。
8	坏	A. 口径12.4。器高5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ→下位ユビオサエ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
9	小形壺	A. 口径(8.5)。器高9.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
10	小形甕	A. 口径(13.3)。底径5.0。器高12.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメナデ。底部ナデ。内面、ナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 外面胴部二次被熱。H. 覆土。
11	小形甕	A. 口径13.0。底径7.5。器高13.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一にぶい赤褐色。外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部二次被熱。H. 覆土。
12	小形甕	A. 口径13.1。底径6.4。器高13.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。底部ケズリ。D. 片岩・白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。G. 外面胴部二次被熱。H. 覆土。
13	小形甕	A. 口径11.1。器高13.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ユビオサエ。胴部タテケズリ。内面、口縁部ユビオサエ。胴部ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 4/5。G. 外面底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。



118号住居跡

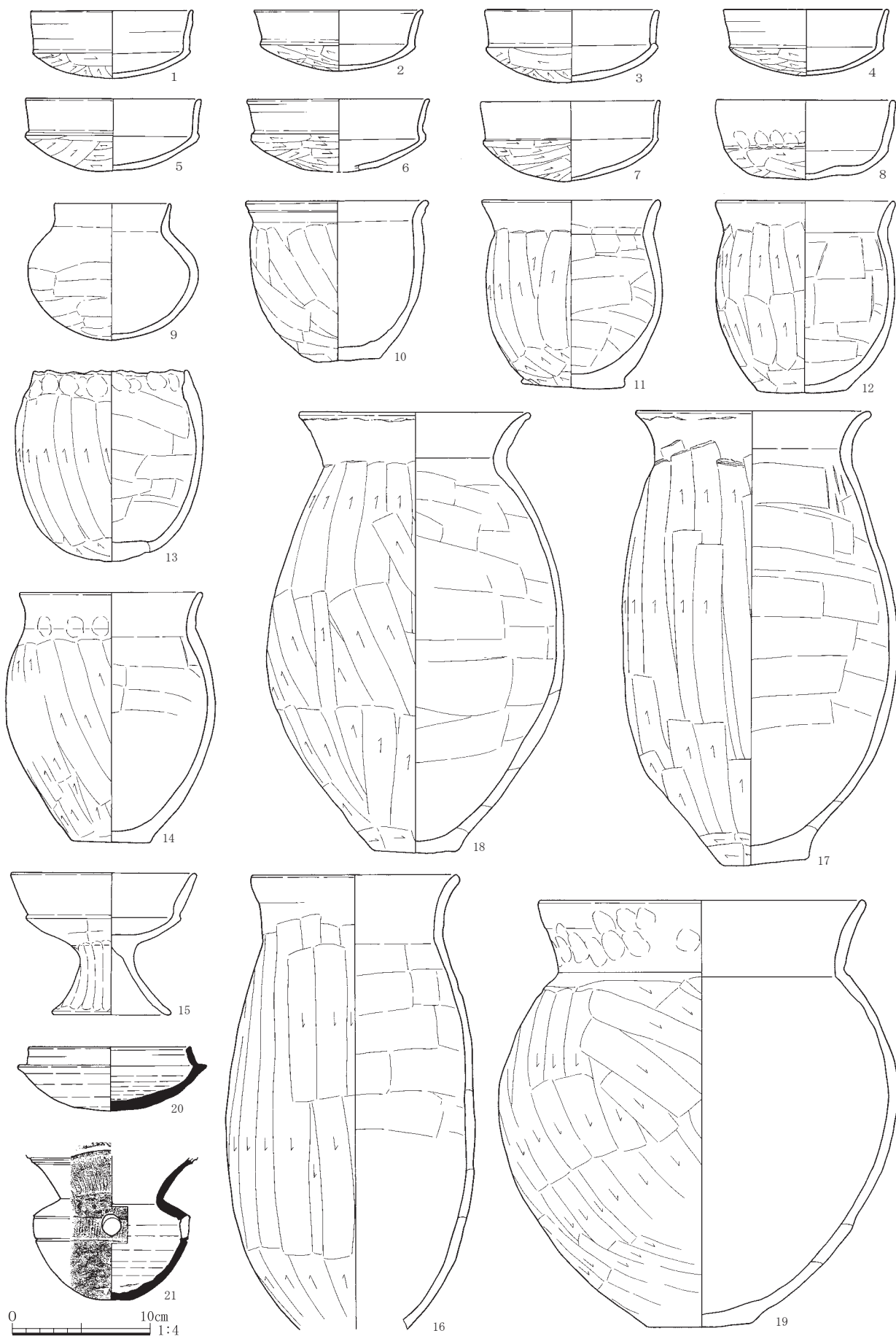
- 1層 黒褐色土層 焼土粒子を中量、炭化物粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 黒褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 4層 暗黄褐色土層 掘り方。

119号住居跡

- 5層 暗褐色土層 ロームブロックを中量、炭化物粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 6層 暗褐色土層 焼土粒子を多量、炭化物粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 7層 黒褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。



第194図 118号・119号住居跡



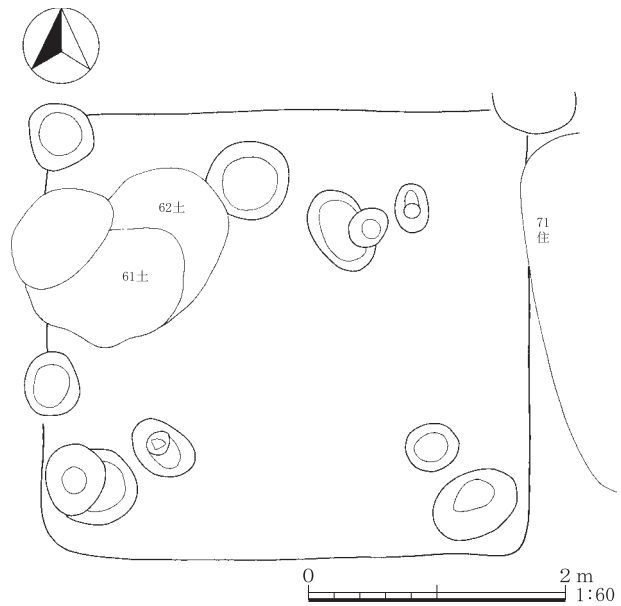
第195图 118号住居跡 出土遺物

118号住居跡 出土遺物観察表(2)

14	小形甕	A. 口径18.1。底径5.6。器高18.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ→頸部ユビオサエ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内-にぶい褐色。外-橙色。F. 3/4。G. 外面胴部下半二次被熱。内面口縁部～胴部上位にヨゴレ。H. 覆土。
15	高坏	A. 口径(13.4)。底径10.2。器高8.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ヨコナデ。脚部タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい橙色。F. 2/3。G. 坏部内外面に赤彩の痕跡。H. 覆土。
16	甕	A. 口径15.1。残存高33.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子・角閃石。E. 内-灰色。外-にぶい黄橙色。F. 底部以外ほぼ完形。G. 外面胴部下半二次被熱。内面に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴・覆土。
17	甕	A. 口径(17.0)。底径6.1。器高33.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 2/3。G. 外面胴部下半二次被熱。H. カマド・覆土。
18	甕	A. 口径31.9。底径6.0。器高31.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 外面胴部二次被熱・焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
19	壺	A. 口径23.6。底径7.8。器高30.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部タテ～ナナメケズリ。底部ケズリ。内面、ナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内-黒褐色。外-橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑・二次被熱。内面胴部コゲ・ハジケ。H. 覆土。
20	須恵器坏	A. 口径11.7。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、回転ナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外-白灰色。F. 完形。G. 藤岡産。H. 覆土。
21	須恵器甕	A. 残存高10.4。B. ロクロ成形。C. 外面、頸部櫛描波状文。胴部上位、横位沈線間に櫛歯状工具による刺突文。内面、回転ナデ。D. 白色粒子。E. 内外-灰色。G. 外面肩部・内面底部に自然釉。F. 1/3。G. 搬入か。H. 覆土。

120号住居跡(第196図)

位置：B地点の東寄りに位置し、遺構の掘り込みは確認されず、ピットの集中から住居として扱う。71号住居跡・76号住居跡と重複するが新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-1°-W。規模：不明。柱穴：9本確認される。埋没状況：不明。遺物：ピット内より土器片が出土する。時期：古墳時代。



第196図 120号住居跡

121号住居跡(第197・198図、図版29・81)

位置：D地点の南に位置する。カマドのみ検出され、覆土は調査区南壁の断面で確認された。

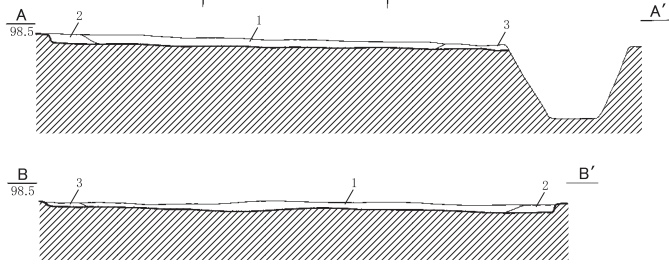
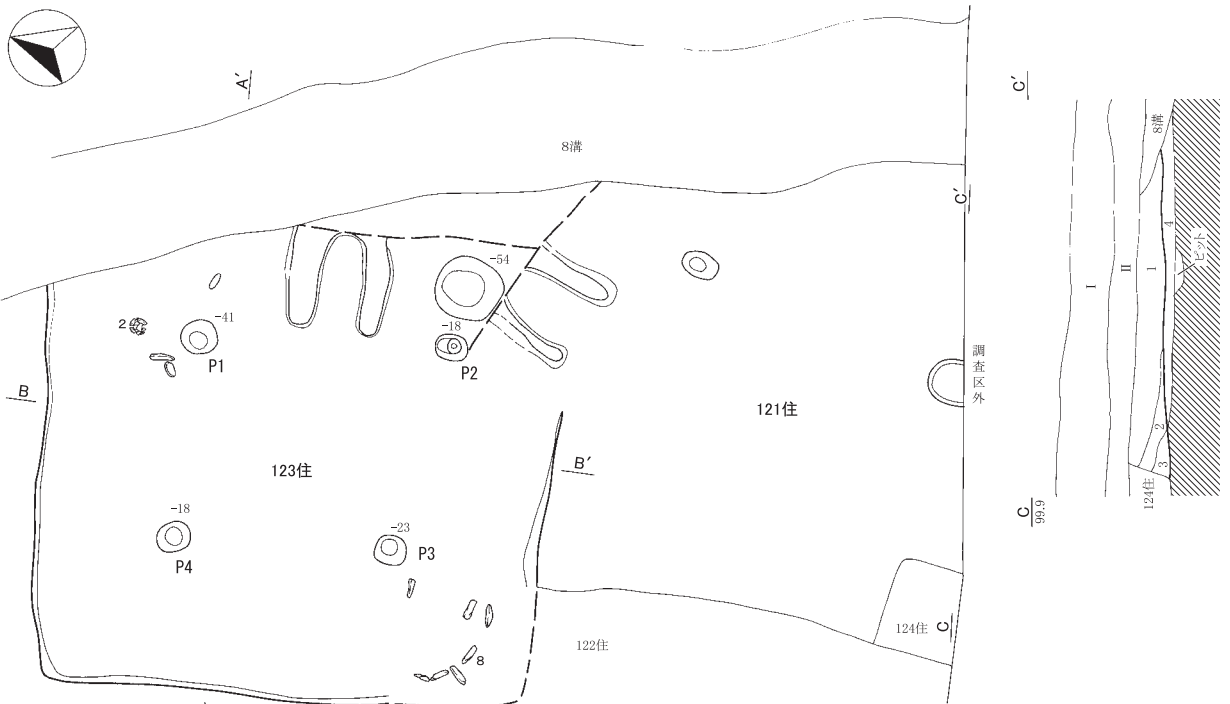
124号住居跡・122号住居跡・8号溝と重複し、

本遺構が古い。123号住居跡とも重複するが、新旧関係は不明である。主軸方位：N-12°-E。カマド：北壁に付設される。袖には明灰色粘土を用いている。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドから遺物が出土した。時期：古墳時代後期。

123号住居跡(第197・198図、図版29・81)

位置：D地点の南西隅に位置している。8号溝、121号住居跡と重複し、前者より古く、後者との新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-80°-E。規模：長軸3.76m、短軸4.00m。カマド：東壁に付設される。袖等残存状況は不良である。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置し、楕円形を呈するピットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本確認され、これらが主柱穴である。

埋没状況：開墾・耕作等の影響により、覆土の大半は失われているが、焼土・炭化物を多く含むことから焼失住居だと思われる。遺物：ほぼ完形の坏が2点、覆土中層から出土している。時期：古墳時代後期。

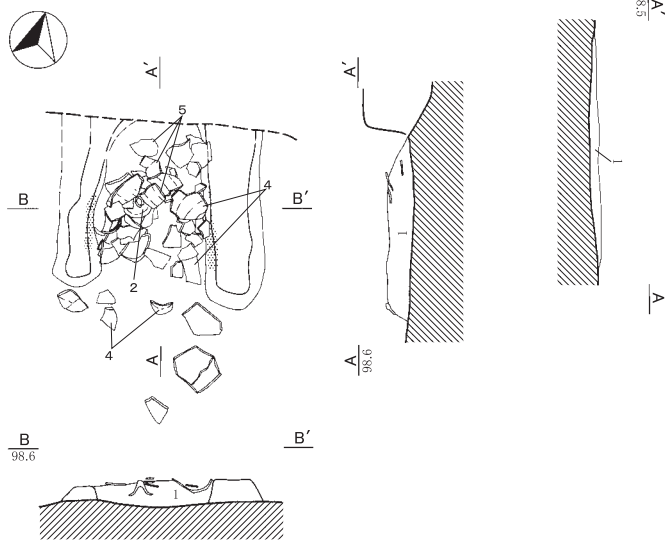


121号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子(φ1~3mm)を多量含む。粘性・しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 ロームブロック(φ10~30mm)を少量含む。粘性・しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子(φ1mm)を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 4層 暗褐色土層 ロームブロック(φ10~30mm)を多量含む。粘性・しまりあり。

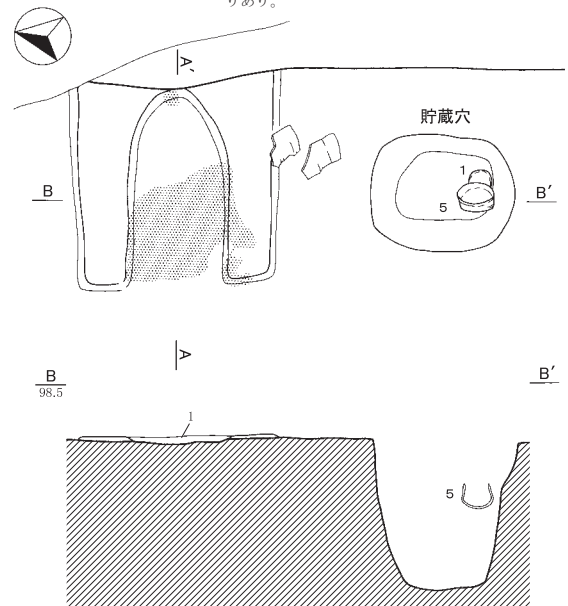
123号住居跡

- 1層 暗褐色土層 炭化物・焼土を含む。粘性・しまりあり。
- 2層 茶褐色土層 ローム粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 焼土粒子・灰色粘土粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。



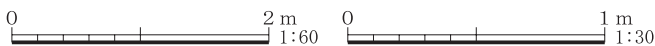
121号住居跡 カマド

- 1層 黒褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。

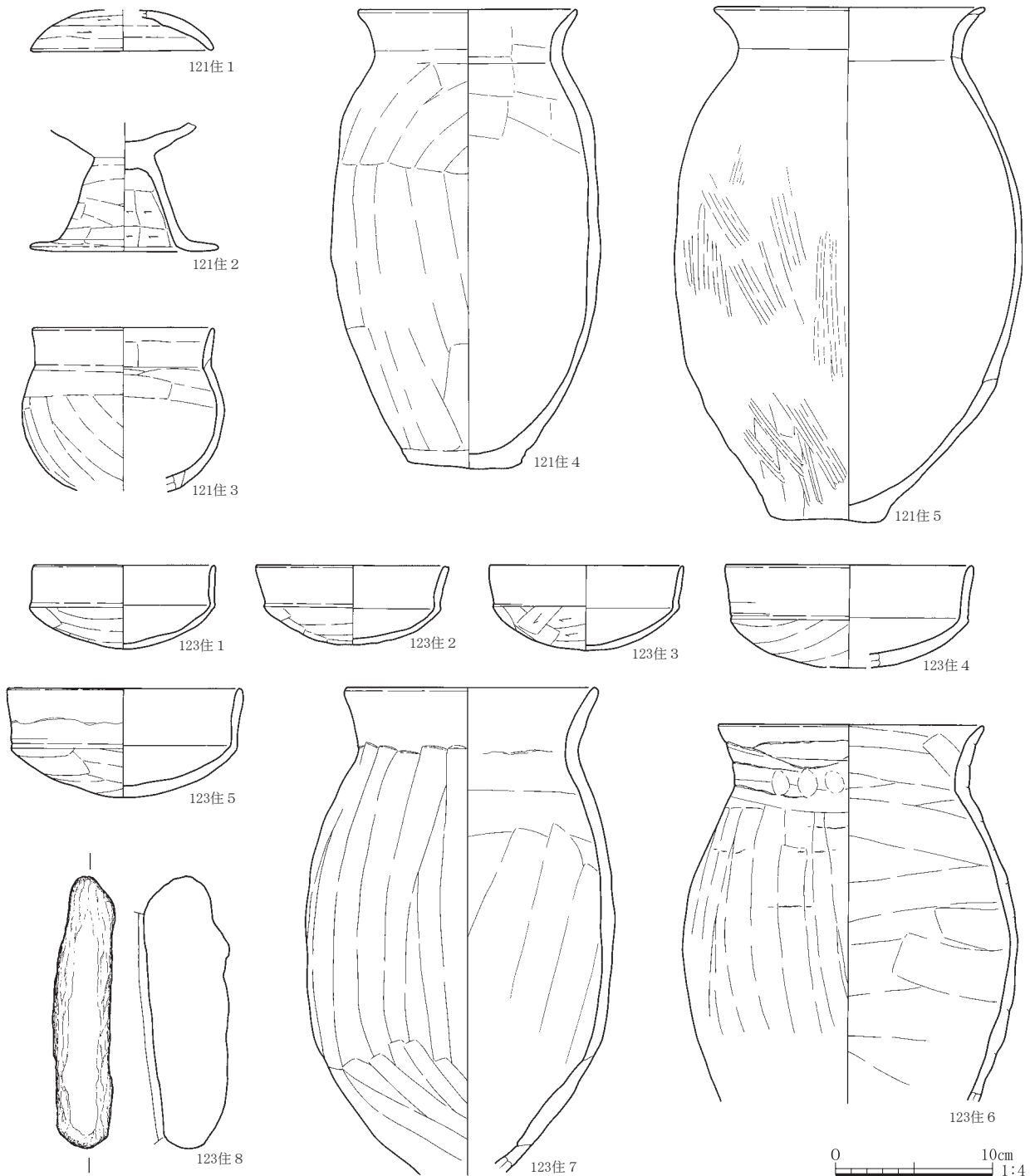


123号住居跡 カマド

- 1層 暗褐色土層 焼土粒子(φ1~3mm)を多量に含む。粘性・しまりあり。



第197図 121号・123号住居跡



第198図 121号・123号住居跡 出土遺物

121号住居跡 出土遺物観察表

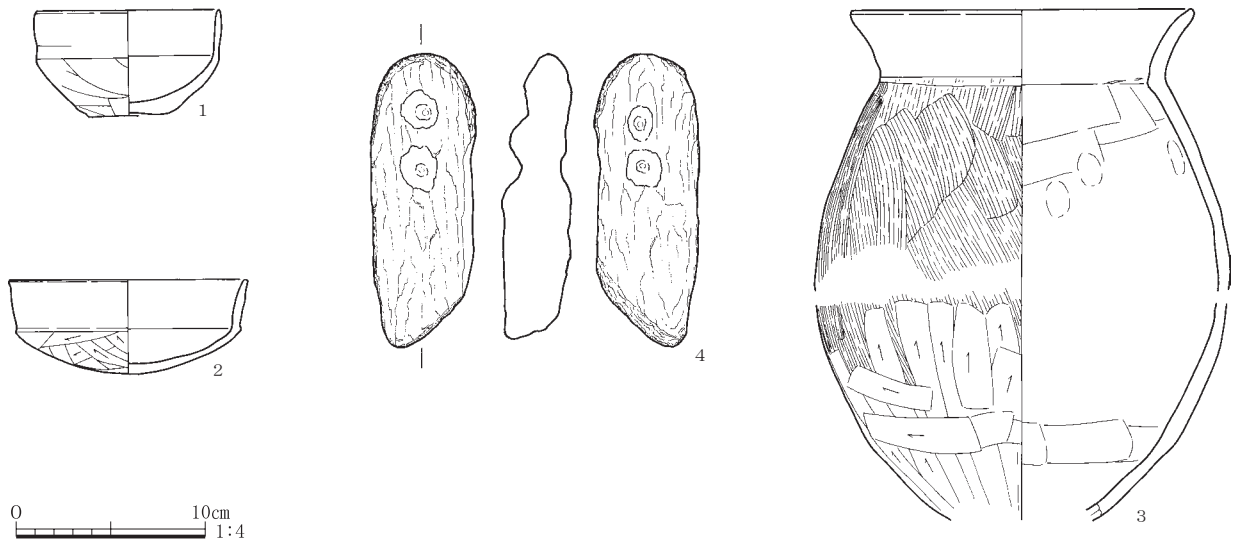
1	蓋	A. 底径 11.6。残存高 2.6。B. 粘土紐積み上げ後回転台にて成形。C. 外面、体部回転ケズリ→口縁部ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-にぶい褐色。F. 2/3。H. 覆土。
2	高坏	A. 底径 12.0。残存高 8.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部下半ヨコナデ。脚部ヨコナデ。内面、体部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ、下半ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 脚部完形。G. 内外二次被熱及び粘土附着。H. カマド支脚。
3	小形甕	A. 口径 (11.6)。残存高 10.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~胴部上半ヨコナデ。胴部ナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内外-にぶい褐色。F. 1/4。H. カマド。
4	甕	A. 口径 (14.0)。底径 7.3。器高 29.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→上位ナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外-橙色。F. 1/2。G. 外面胴部下半二次被熱及びビスス附着。H. カマド。
5	甕	A. 口径 17.1。底径 7.3。器高 32.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部上位摩滅。中位以下タテナデ→タテミガキ。内面、摩滅。D. 角閃石・石英・片岩。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 胴部下半に粘土附着。H. カマド。

123号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径11.4。器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 貯蔵穴。
2	坏	A. 口径12.3。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 白色粒子・雲母。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.4。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 覆土。
4	坏	A. 口径(15.7)。残存高6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・雲母・石英。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 貯蔵穴。
5	坏	A. 口径14.8。器高6.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子・片岩。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. 完形。H. 貯蔵穴。
6	甕	A. 口径16.9。残存高23.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ→ユビオサエ。胴部タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・雲母。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁→胴部1/2。H. カマド。
7	甕	A. 口径16.1。残存高25.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部上半→下半タテナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/2。G. 外面にスス附着。H. カマド。
8	凹石	A. 長17.3。幅4.0。厚5.5。重510.71。C. 一面のみ研磨される。D. 結晶片岩。F. 完形。H. 覆土。

122号住居跡（第199・201図、図版29・81）

位置：D地点の南西隅で検出された住居跡である。121号住居跡・124号住居跡・123号住居跡と重複する。前者2軒より古く、後者1軒との新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-91°-W。規模：長軸4.70m、短軸4.18m。カマド：西壁に付設される。袖には明灰色粘質土を用い、燃烧部は住居内に収まる。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する隅丸長方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：5本確認され、P1～4が支柱穴だと思われる。P5は出入り口ピットの可能性が高い。埋没状況：単一土で埋没している。遺物：カマドに向かって右側に編み物石が集中する箇所がある。時期：古墳時代後期。



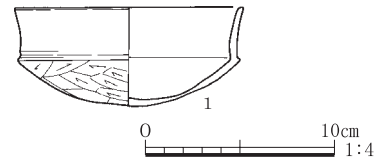
第199図 122号住居跡 出土遺物

122号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(9.8)。底径4.5。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナナメナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。剥離部分あり。D. 雲母。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.6。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
3	甕	A. 口径(18.0)。残存高26.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ→下半タテケズリ→ヨコケズリ。内面、口縁部ヨコハケ→ヨコナデ。胴部ヨコナデ・部分的にユビオサエ。D. 石英・片岩。E. 内外一灰黄褐色。F. 1/4。G. 内面胴部中位にスス附着。H. 貯蔵穴。
4	磨石	A. 長15.5。幅5.5。厚3.8。重466.85。C. 表裏ともに2孔。D. 結晶片岩。F. 完形。H. 覆土。

124号住居跡（第200・201図、図版29・81）

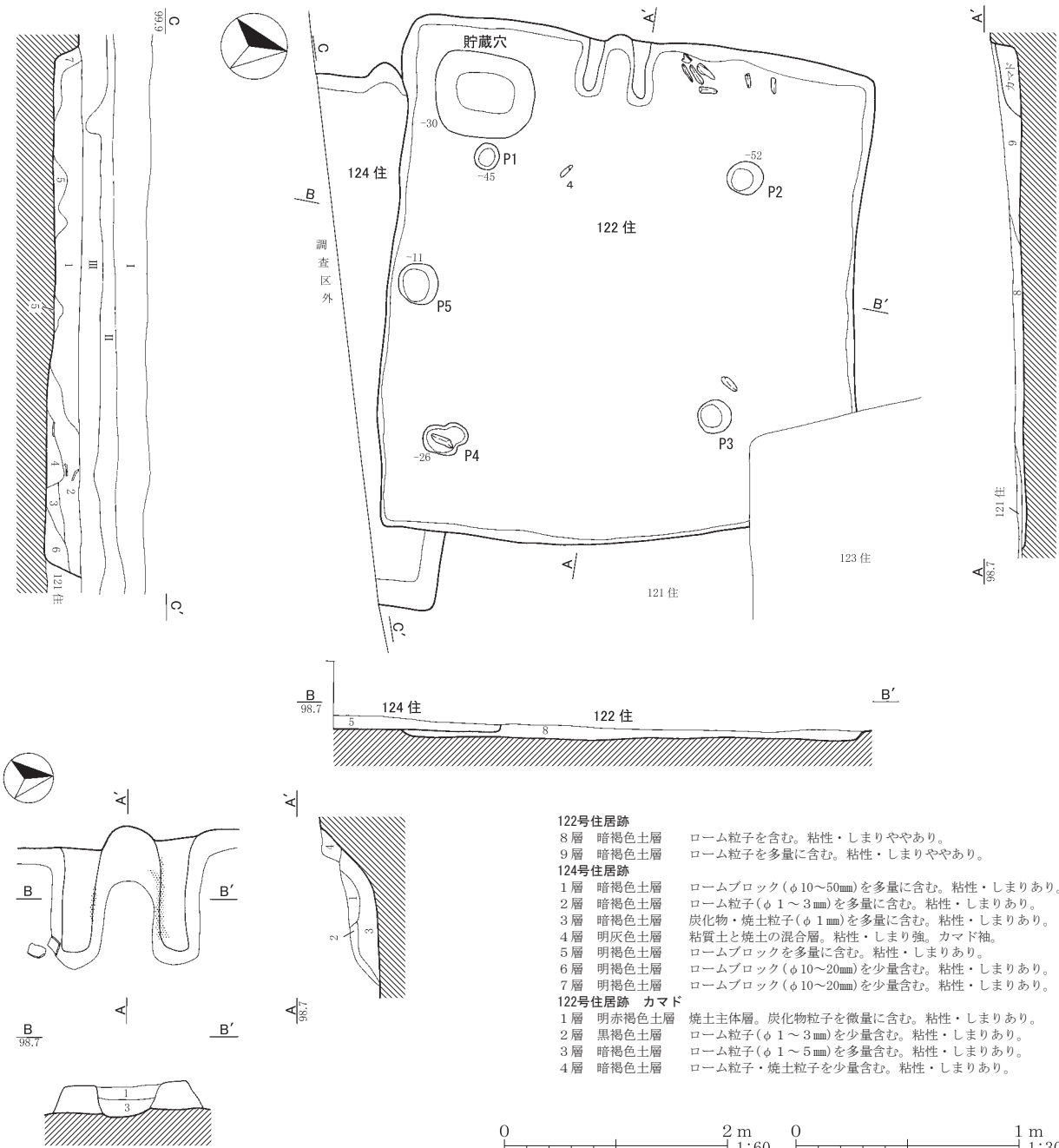
位置：D地点の南西隅に検出され、南半分は調査区外に延びる。122号住居跡・121号住居跡と重複し、本遺構が新しい。
 形態：平面形は不明だが、方形を呈するであろう。主軸方位：N-91°-E。規模：長軸4.69mを測る。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器等が出土している。
 時期：古墳時代後期。



第200図 124号住居跡 出土遺物

124号住居跡 出土遺物観察表

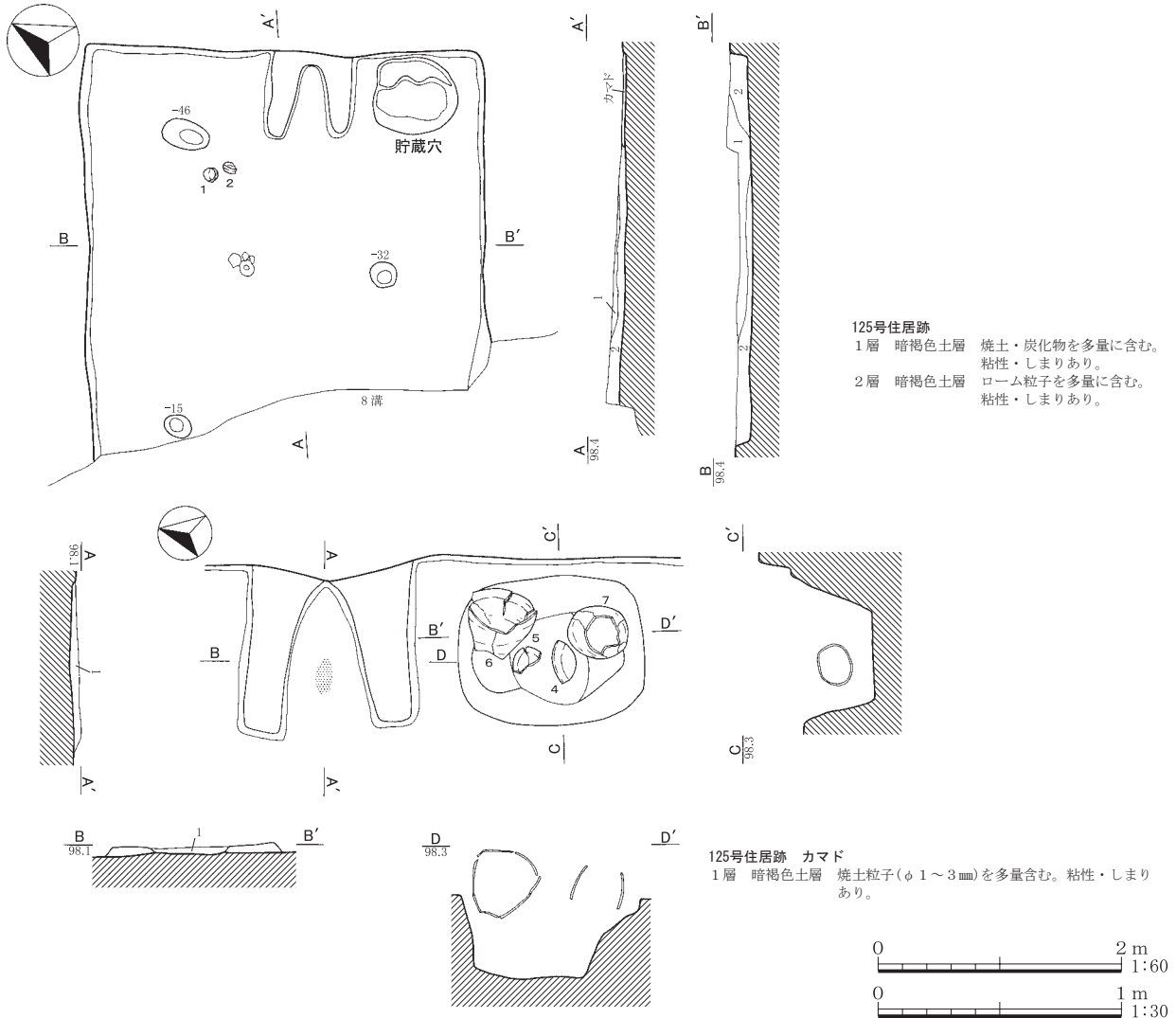
1	坏	A. 口径(12.0)。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土。
---	---	--



第201図 122号・124号住居跡

125号住居跡（第202・203図、図版30・81・82）

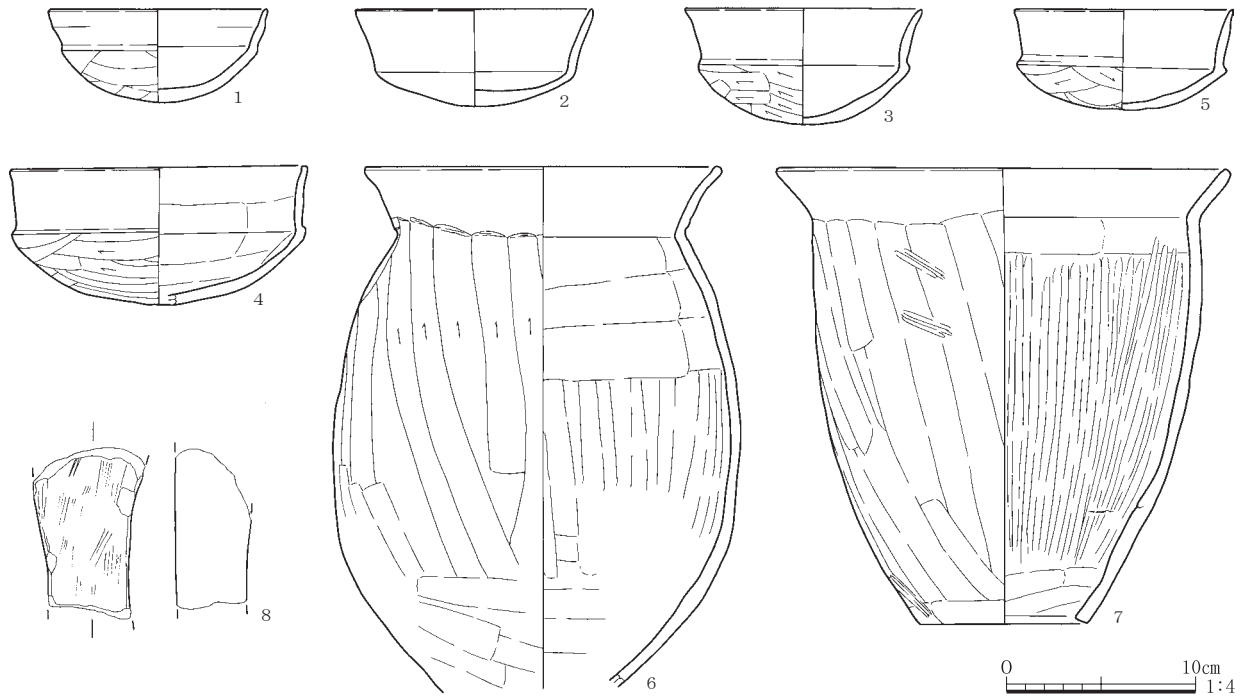
位置：D地点に位置する。8号溝と重複し、西壁を破壊される。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-78°-E。規模：長軸3.28mを測る。カマド：東壁に付設される。残存状況は不良であった。柱穴：3本確認された。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置し、隅丸方形を呈する。覆土上層より遺物が出土している。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居の中央より、坏がまとまって出土する。時期：古墳時代後期。



第202図 125号住居跡

125号住居跡 出土遺物観察表（1）

1	坏	A. 口径11.6。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子・石英。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.6。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、摩滅。内面、ヨコナデ。D. 雲母・白色粒子。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. 2/3。H. 貯蔵穴。
3	坏	A. 口径12.6。器高6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・雲母・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
4	坏	A. 口径15.7。器高7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
5	坏	A. 口径11.5。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴。
6	甕	A. 口径(18.9)。残存高27.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部下位ヨコナデ→中位タテナデ→上位ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 胴部内面にヨゴレ。H. 貯蔵穴。



第203図 125号住居跡 出土遺物

125号住居跡 出土遺物観察表（2）

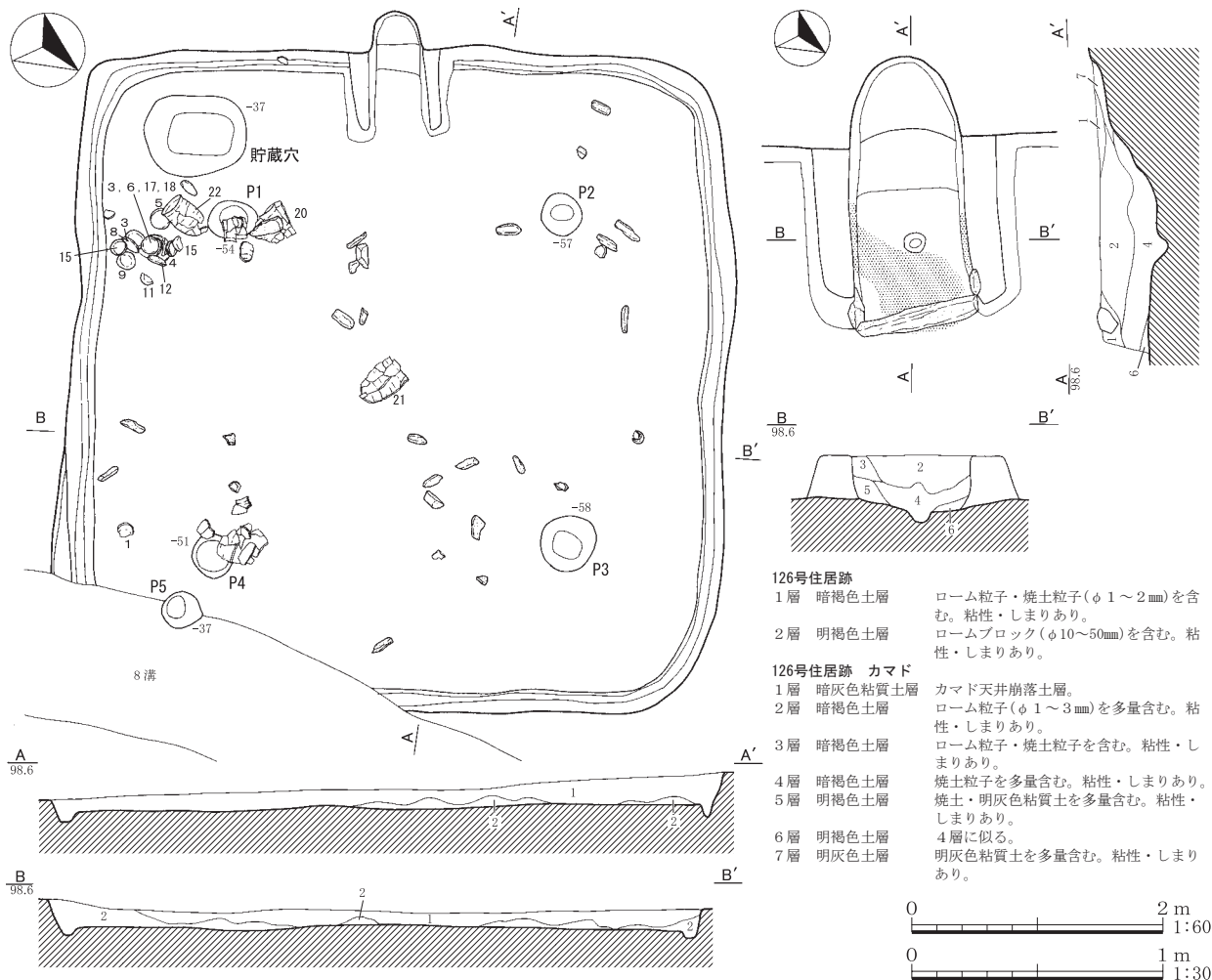
7	中形甌	A. 口径24.2。底径8.8。器高24.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→一部ヨコミガキ・下位ヨコナデ。内面、ヨコナデ→胴部タテミガキ。下位ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・片岩。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
8	砥石	A. 長(9.0)。幅5.8。厚4.0。重292.57。C. 全面が良く研磨される。一面のみ刃痕顕著。D. 流紋岩。F. 1/2。H. 貯蔵穴。

126号住居跡（第204・205図、図版30・82）

位置：D地点に位置する。8号溝と重複し、南東隅が破壊される。形態：平面形は方形を呈し、主軸方位はS-57.5°-W。規模：長軸5.33m、短軸5.30m。カマド：西壁に付設される。袖には明灰褐色粘土を用い、焚き口部分は礫で構築される。燃烧部に支脚の据えられたピットが検出されている。煙道部が残存しており、住居外へと延びる。柱穴：5本確認され、P5以外が主柱穴であろう。貯蔵穴：カマドに向かって左側に位置し、隅丸長方形を呈するピットが貯蔵穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居内より多数出土している。特に貯蔵穴とP1、P4周辺に集中する。土器の他にも編み物石が散在している。時期：古墳時代後期。

126号住居跡 出土遺物観察表（1）

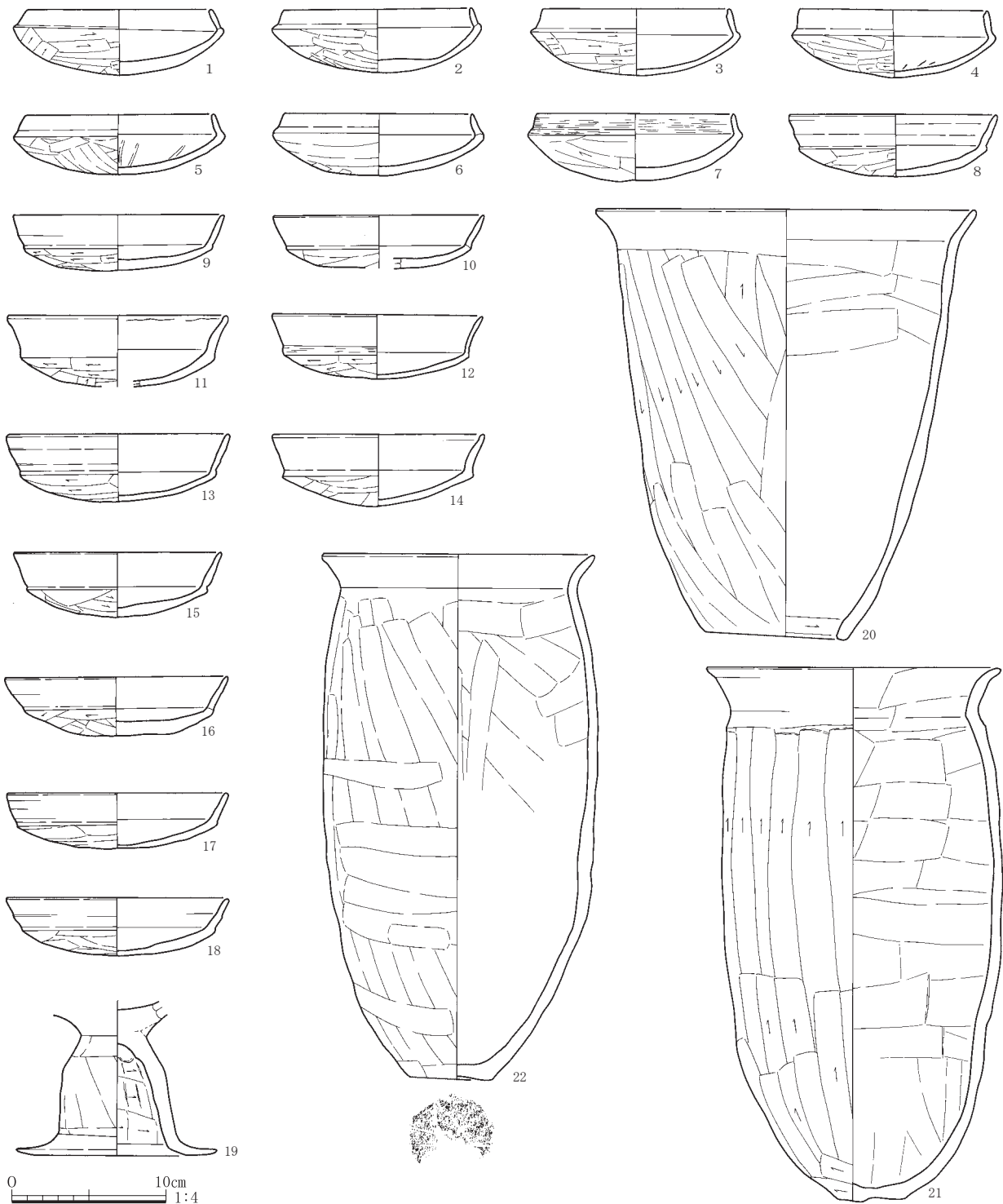
1	坏	A. 口径11.9。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。石英。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.3。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.2。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
4	坏	A. 口径12.5。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に黒色処理があるが摩滅。H. 覆土。
5	坏	A. 口径12.4。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコヘナメナデ。内面、ヨコナデ→体部放射状ミガキ。D. 雲母・片岩。E. 内外一にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。G. 外面口縁部・内面に黒色処理があるが摩滅。H. 覆土。
6	坏	A. 口径12.3。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 雲母。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 4/5。G. 内外面にスス附着。H. 覆土。



第204図 126号住居跡

126号住居跡 出土遺物観察表(2)

7	坏	A. 口径12.9。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一灰褐色。F. 1/2。G. 外面スス附着。含有物の粒子が粗い。H. 床面直下。
8	坏	A. 口径13.9。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・片岩。E. 内外一にぶい橙色。F. 完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
9	坏	A. 口径13.7。器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・雲母。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい赤褐色。F. 完形。G. 外面に焼成時の黒斑あり。含有物の粒子粗い。H. 覆土。
10	坏	A. 口径(13.6)。器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一褐色。F. 1/3。H. 覆土。
11	坏	A. 口径(14.3)。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。H. 覆土。
12	坏	A. 口径13.7。器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。H. 覆土。
13	坏	A. 口径14.5。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 完形。H. 覆土。
14	坏	A. 口径13.8。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土。
15	坏	A. 口径13.5。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内一明褐色。外一明赤褐色。F. 3/4。G. 器面の荒れ激しい。H. 覆土。
16	坏	A. 口径14.4。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。粒子粗い。E. 内外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面口縁部・内面に黒色処理あるが、剥落。H. 覆土。
17	坏	A. 口径14.3。器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
18	坏	A. 口径14.4。器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 雲母。胎土のキメが細かい。E. 内外一褐灰色。F. 4/5。G. 外面に黒色処理の痕跡かけあるが、剥落が激しい。H. 覆土。



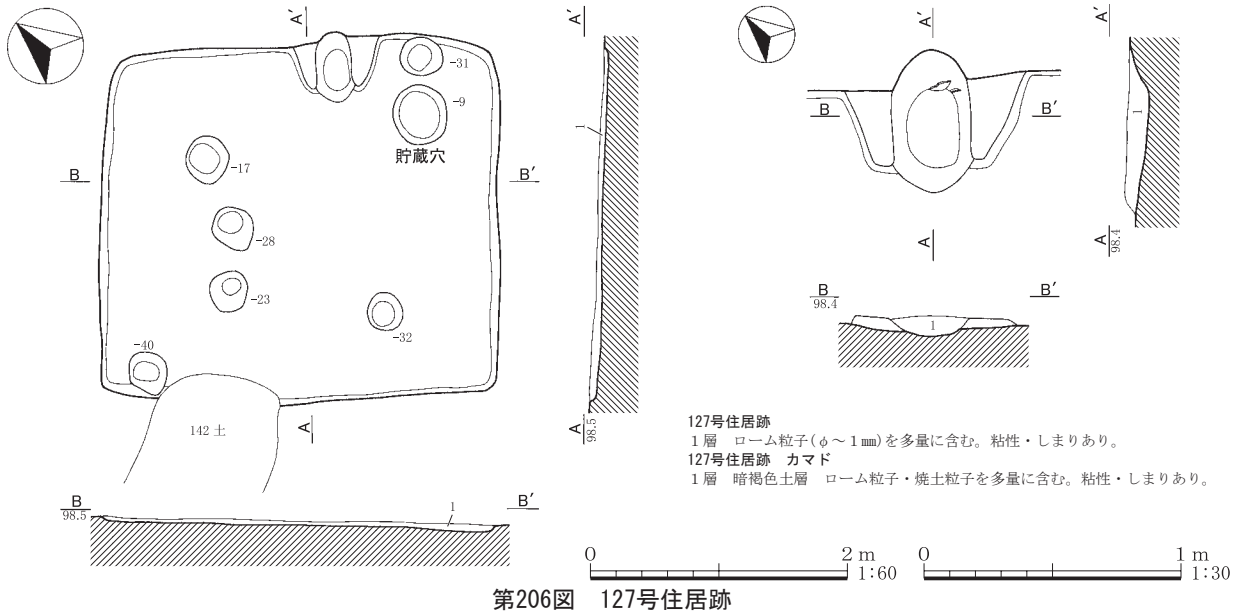
第205図 126号住居跡 出土遺物

126号住居跡 出土遺物観察表 (3)

19	高坏	A. 底径 13.0。残存高 9.9。B. 粘土紐積み上げ。脚部は絞り成形。C. 外面、脚部上半ナメハケ→タテナデ→ヨコナデ。下半ヨコナデ。内面、脚部上半絞り成形→ユビナデ→ヨコケズリ。下半ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。H. 覆土。
20	大形甔	A. 口径 24.5。底径 9.1。器高 28.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナメケズリ→下位タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・雲母。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
21	甔	A. 口径 18.9。底径 4.2。器高 34.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。胴部下位タテナデ→ヨコナデ。D. 角閃石・石英・片岩。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面、胴部下位にスス附着。H. 覆土。
22	甔	A. 口径 17.6。底径 (5.5)。器高 34.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→中位以下ヨコナデ。底部木葉痕。内面、ヨコナデ→胴部タテナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下位～底部にススと粘土附着。H. 覆土。

127号住居跡（第206図、図版30）

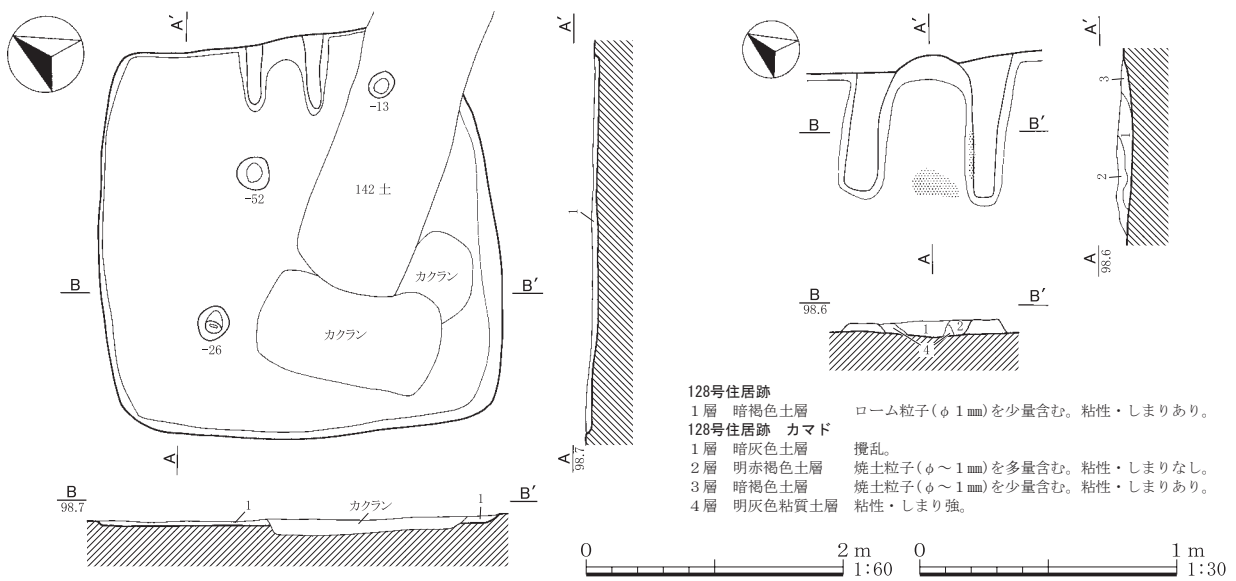
位置：D地点に位置する。142号土坑と重複し、新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-50°-E。規模：長軸3.15m、短軸2.87m。カマド：東壁に付設される。燃烧部は一段下がり、住居外で緩やかに立ち上がる。貯蔵穴：カマドに向かって右側の円形ピットが貯蔵穴だと思われる。柱穴：6本確認された。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器等が出土している。時期：古墳時代。



第206図 127号住居跡

128号住居跡（第207図、図版30）

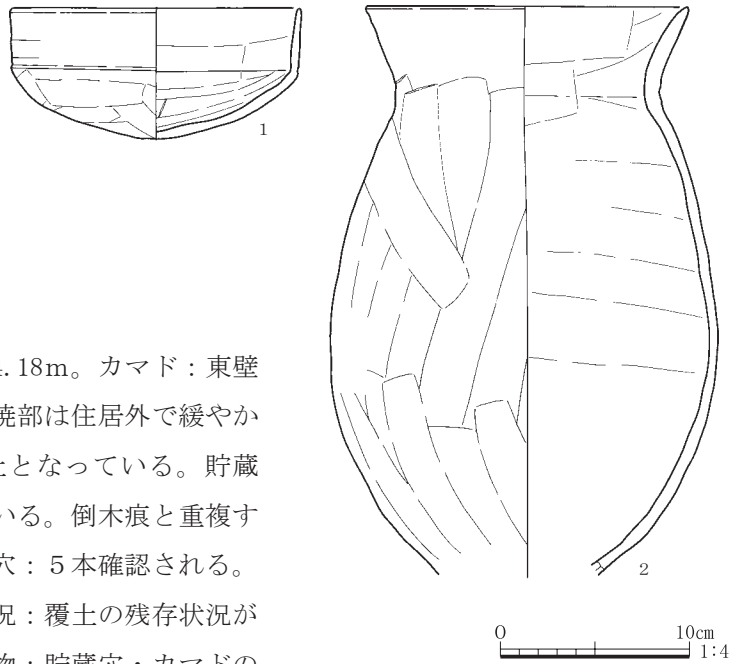
位置：D地点に位置する。142号土坑と重複し、本遺構が古い。土坑・攪乱に南東隅と床面を破壊される。形態：平面形は方形をする。主軸方位：N-56.5°-E。規模：長軸3.16m、短軸3.05m。カマド：東壁に付設される。袖に暗灰色粘質土を用い、燃烧部は住居内に収まる。柱穴：3本確認された。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。



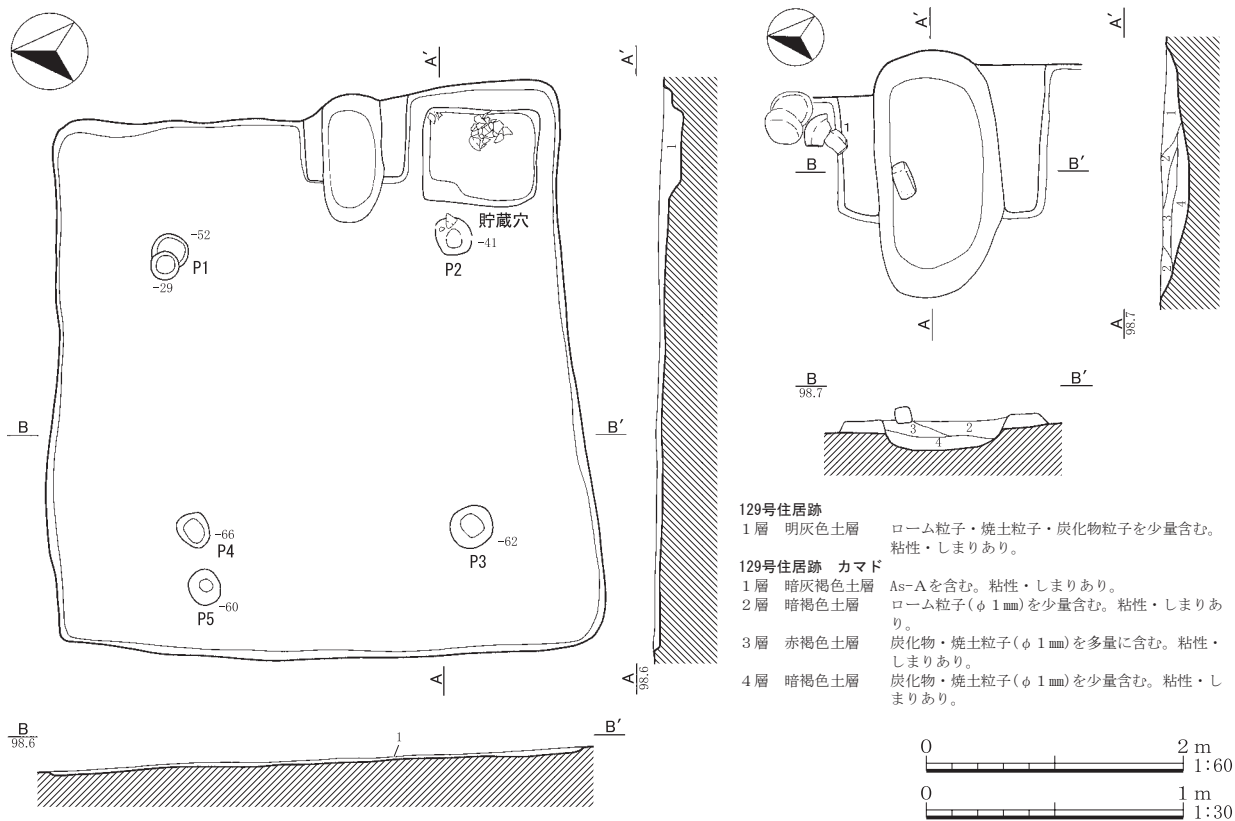
第207図 128号住居跡

129号住居跡（第208・209図、
図版31・82）

位置：D地点に位置する。重複する遺構はないが、北東・南東コーナーは倒木痕と切り合っている。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-87°-E。規模：長軸4.52m、短軸4.18m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖である。燃焼部は住居外で緩やかに立ち上がる。カマドの1層は攪乱土となっている。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置している。倒木痕と重複する影響でプランが不明瞭であった。柱穴：5本確認される。P1～4が主柱穴と見られる。埋没状況：覆土の残存状況が不良だか、自然埋没だと思われる。遺物：貯蔵穴・カマドの左袖部分から遺物が出土する。時期：古墳時代後期。



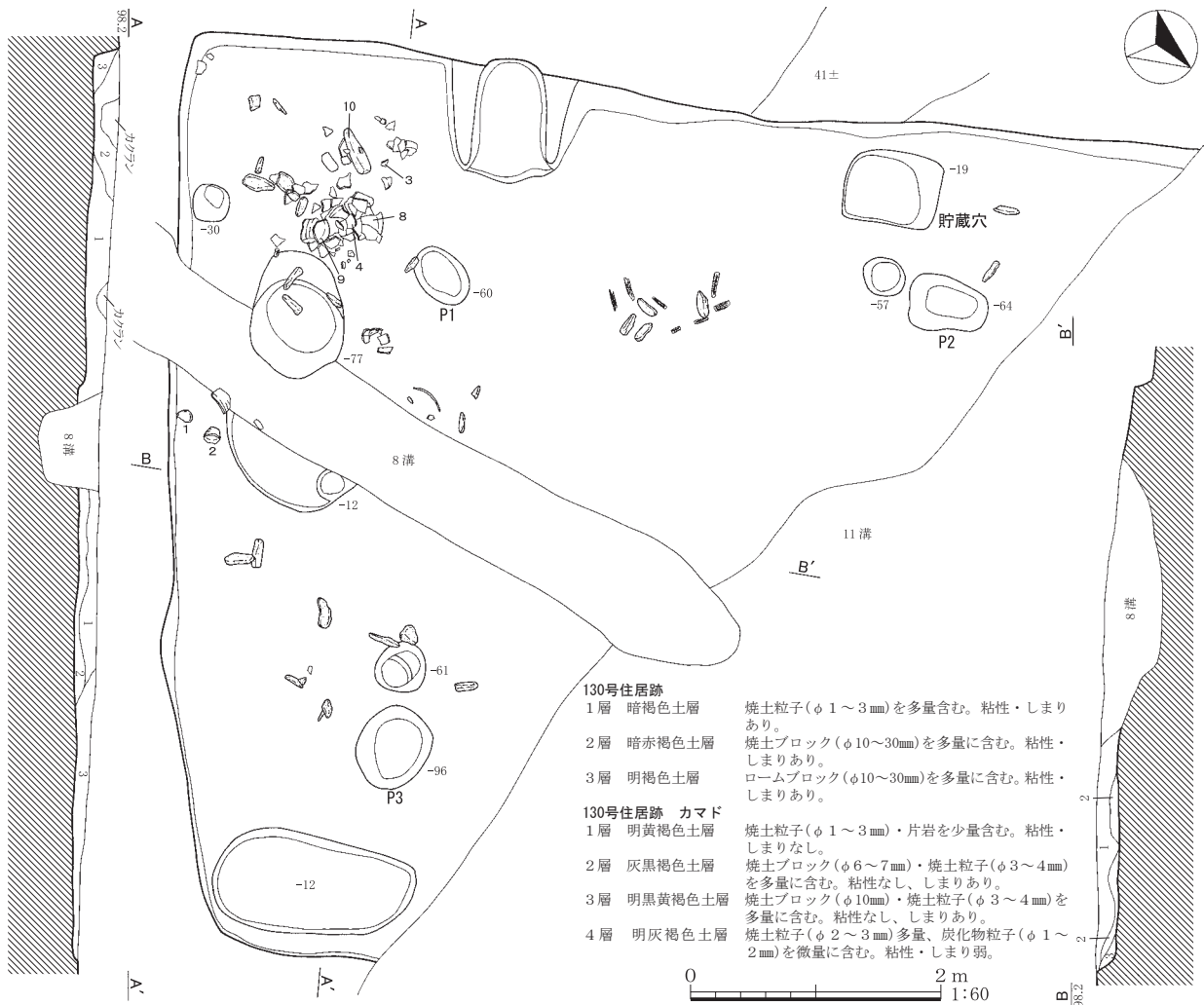
第208図 129号住居跡 出土遺物



第209図 129号住居跡

129号住居跡 出土遺物観察表

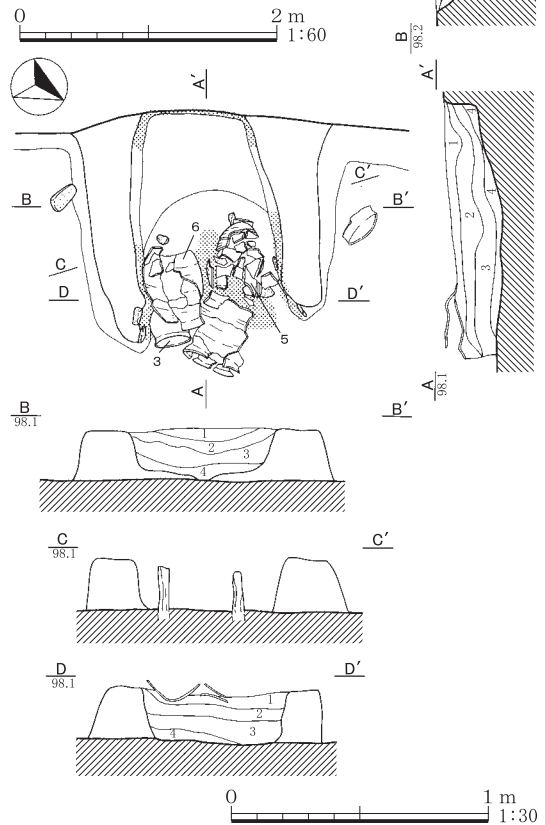
1	坏	A. 口径15.5。器高6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・雲母・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外、器面の荒れ激しい。H. 貯蔵穴・カマド。
2	甕	A. 口径16.9。残存高30.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ。胴部タテ～ナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一橙色。F. 底部以外ほぼ完形。G. 外面、二次被熱による摩滅。H. 貯蔵穴。



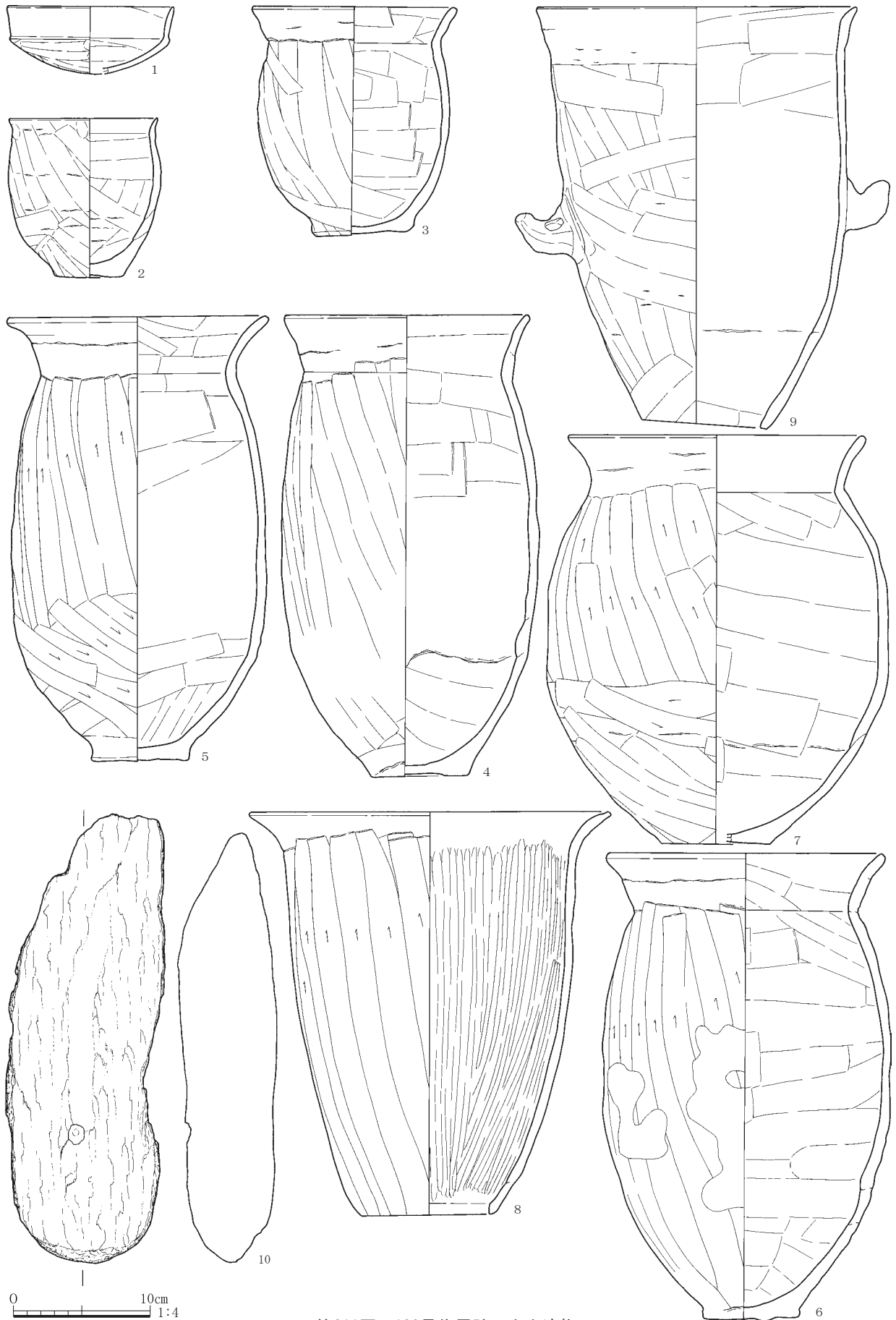
- 130号住居跡**
- 1層 暗褐色土層 焼土粒子(φ1~3mm)を多量含む。粘性・しまりあり。
 - 2層 暗赤褐色土層 焼土ブロック(φ10~30mm)を多量に含む。粘性・しまりあり。
 - 3層 明褐色土層 ロームブロック(φ10~30mm)を多量に含む。粘性・しまりあり。
- 130号住居跡 カマド**
- 1層 明黄褐色土層 焼土粒子(φ1~3mm)・片岩を少量含む。粘性・しまりなし。
 - 2層 灰黒褐色土層 焼土ブロック(φ6~7mm)・焼土粒子(φ3~4mm)を多量に含む。粘性なし、しまりあり。
 - 3層 明黒黄褐色土層 焼土ブロック(φ10mm)・焼土粒子(φ3~4mm)を多量に含む。粘性なし、しまりあり。
 - 4層 明灰褐色土層 焼土粒子(φ2~3mm)多量、炭化物粒子(φ1~2mm)を微量に含む。粘性・しまり弱。

130号住居跡 (第210・211図、図版31・83)

位置：D地点のほぼ中央に位置している。11号溝・8号溝と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈すると思われる。主軸方位：S -65.5° -W。規模：長軸7.41m。カマド：西壁に付設される。燃焼部には、支脚と思しき礫が2本並んで検出される。出土した長胴甕は、支脚に掛けられていたものだろう。袖には黄色粘土を用い、焚き口部分は礫で構築されている。貯蔵穴：カマドに向かって右側、2.2mほど離れたところに隅丸方形のピットあり、貯蔵穴であろう。柱穴：8本検出される。P1~3は主柱穴だと思われる。埋没状況：覆土は自然埋没であるが、床面に炭化物が多く散っており、焼失住居の可能性がある。遺物：南西隅に集中して出土している。東側には、編み物石が散在する。時期：古墳時代後期。



第210図 130号住居跡



第211图 130号住居跡 出土遺物

130号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径12.1。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部強いヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. 3/4。H. 覆土。
2	小形甕	A. 口径10.9。底径4.9。器高11.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテ～ナナメナデ→口縁部ユビオサエ。内面、ヨコナデ。D. 片岩(φ10mm)・石英。E. 内一にぶい褐色。外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
3	小形甕	A. 口径15.0。底径7.5。器高16.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩など小礫を多量。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 外面の摩滅が著しい。H. カマド・覆土。
4	甕	A. 口径17.9。底径7.3。器高33.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・赤色粒子・石英。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外とも摩滅が激しい。H. 覆土。
5	甕	A. 口径19.1。底径7.1。器高32.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ナナメケズリ→底部付近ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。下位タテナデ→ヨコナデ。D. 片岩・石英・石英。E. 内外一にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴中位二次被熱。H. カマド。
6	甕	A. 口径22.0。底径7.0。器高34.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコ～ナナメナデ。D. 片岩・石英。E. 内一橙色。外一にぶい褐色。F. 3/4。G. 外面胴部中位に粘土の付着あり。H. カマド。
7	甕	A. 口径21.7。底径(8.0)。器高29.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ヨコケズリ→下位ナナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・雲母。E. 内外一浅黄褐色。F. 1/2。H. 覆土。
8	大形甕	A. 口径26.5。底径9.7。器高29.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、胴部タテケズリ→口縁部～胴部上位ヨコナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテミガキ。D. 片岩・石英・雲母。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
9	大形甕	A. 口径23.4。底径9.3。器高30.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテナデ→ヨコナデ。内面ヨコナデ。取手貼付→ナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内面、口縁部・胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
10	凹石(磨石)	A. 長32.9。幅11.2。厚7.3。重3250。C. 一面のみ研磨される。D. 結晶片岩。F. ほぼ完形。H. 覆土。

131 a 号住居跡 (第212・213図、図版31・83・84)

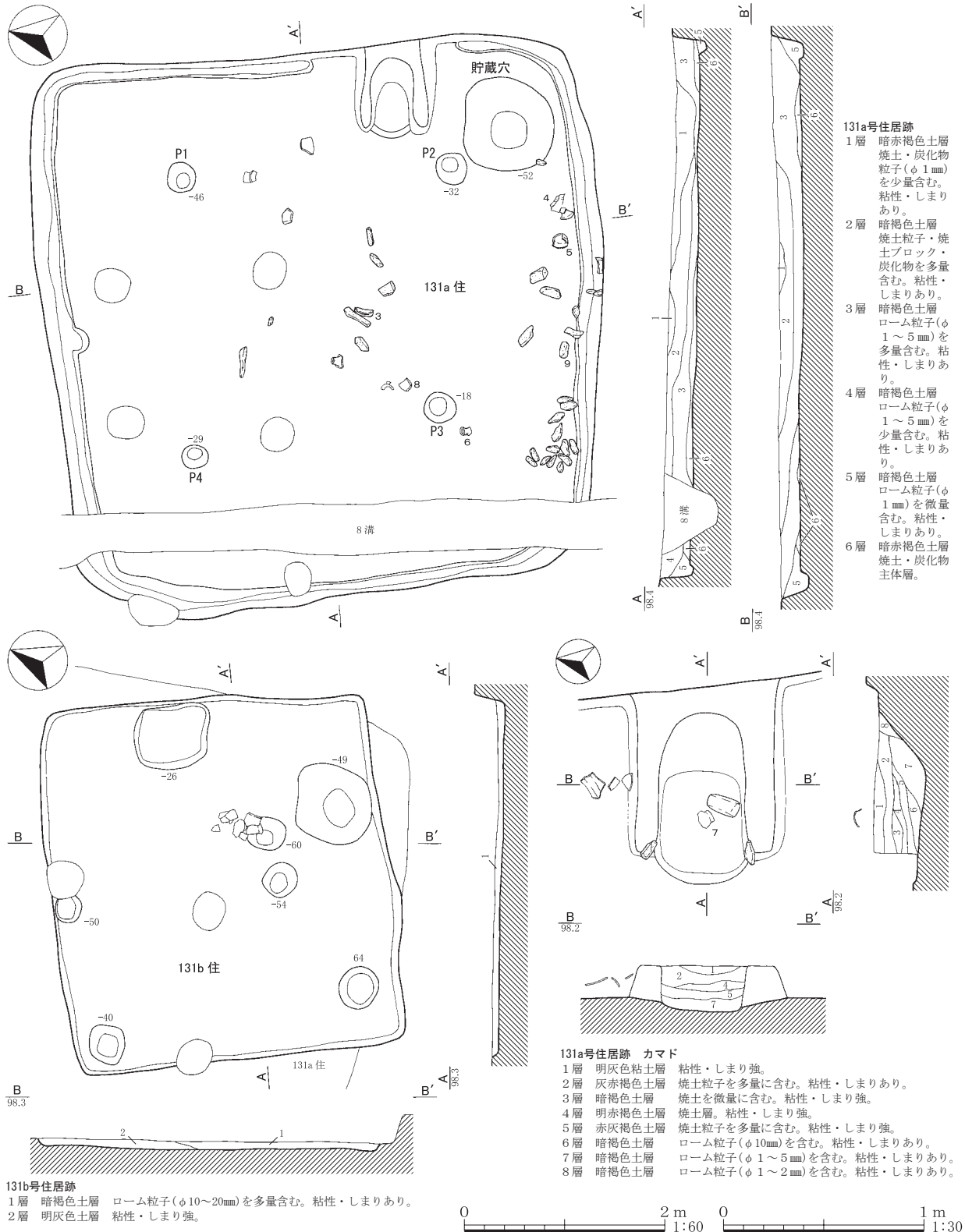
位置：D地点に位置する。8号溝、131b号住居跡と重複し、前者より古く、後者より新しい。9号掘立柱建物跡とも重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-77°-E。規模：長軸5.64m、短軸5.51m。カマド：東壁に付設される。袖から奥壁まで明灰色粘土を貼り、袖には構築材として礫を用いる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配される円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本確認され、いずれも支柱穴だと思われる。周溝：カマド周辺以外は全周する。埋没状況：覆土上層及び床面上に焼土・炭化物が含まれる。また、床面が被熱していることから焼失住居の可能性が高い。遺物：南壁沿いに編み物石が散在する。時期：古墳時代後期。

131号住居跡 出土遺物観察表

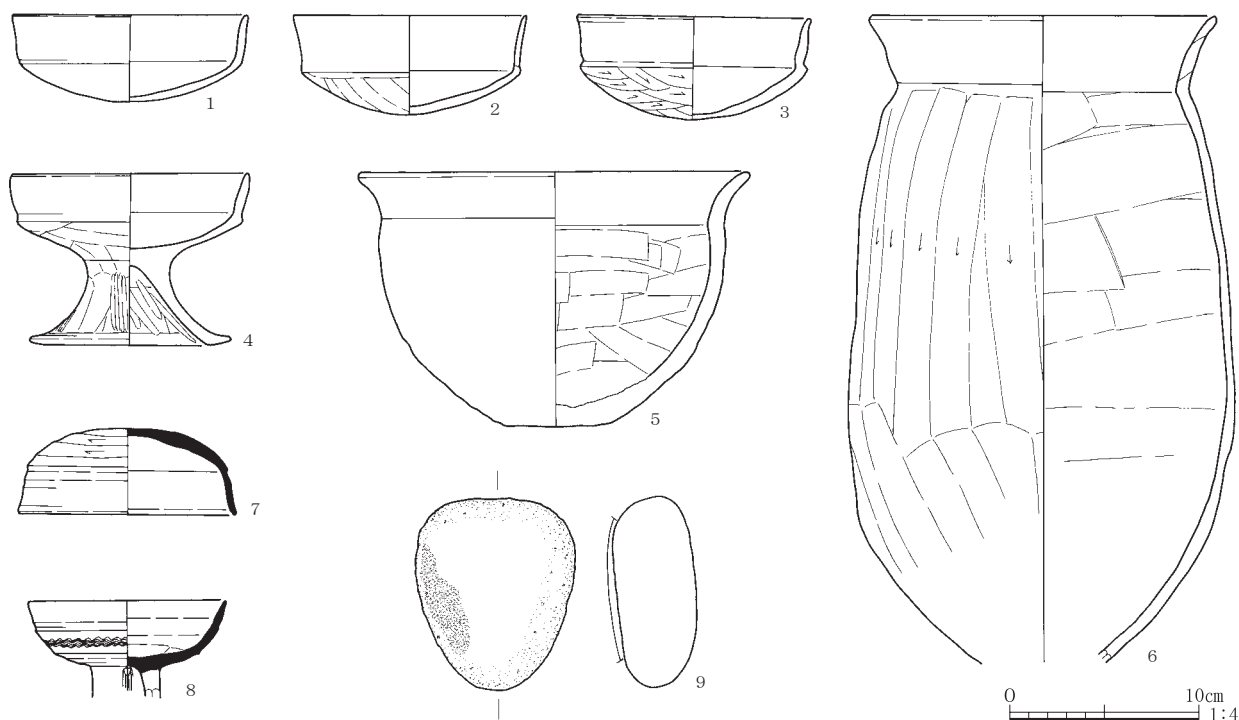
1	坏	A. 口径12.4。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、摩滅。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
2	坏	A. 口径5.4。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.5。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土。
4	高坏	A. 口径12.6。底径10.6。器高9.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ→ヨコミガキが剥落。脚部上位タテナデ→タテミガキ。下位ヨコナデ。内面、体部ヨコナデ。脚部上位ヨコナデ→タテナデ。下位ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内一明赤褐色。外一赤色。F. 1/2。G. 外面赤彩が剥落か？脚部内面に黒色付着物あり。。H. 覆土。
5	鉢	A. 口径20.7。底径5.0。器高13.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、摩滅。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 内面口縁部・底部は剥落部分あり。H. 覆土。
6	甕	A. 口径18.4。残存高34.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 4/5。底部を欠く。G. 外面胴部下半二次被熱。H. 覆土。
7	須恵器 坏蓋	A. 底径11.5。器高4.5。B. ロクロ成形。C. 外面、天井部回転ヘラケズリ。内面ロクロ成形→ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 1/2。G. 在地産。H. カマド。
8	須恵器 無蓋高坏	A. 口径(10.4)。残存高5.0。B. ロクロ成形。C. 外面、体部中位に波状文。内面、回転ナデ→ナデ。脚部焼成前穿孔の透孔4単位あり。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 坏部1/4。G. 藤岡産。H. 覆土。
9	石	A. 長10.1。幅8.1。厚4.2。重536.35。C. 一面が摩耗している。D. 閃緑岩。F. 完形。G. スス付着。H. 覆土。

131b号住居跡 (第212・213図、図版31・32・83・84)

位置：D地点に位置する。8号溝、131a号住居跡、9号掘立柱建物跡と重複し、本遺構が最も古い。
 形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-60°-E。規模：長軸3.53m、短軸3.52m。柱穴：5本確認された。埋没状況：上層を131a号住居跡に削平されているため不明だが、自然埋没であろう。
 遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第212図 131号住居跡



第213図 131号住居跡 出土遺物

132号住居跡 (第215図、図版32・84)

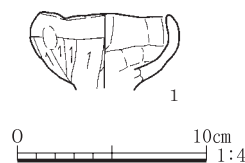
位置：D地点にて検出された住居跡である。攪乱によって、北東隅は破壊される。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-67°-E。規模：長軸5.60m、短軸5.28m。カマド：東壁に付設される。カマドに向かって左側の袖は、攪乱によって消滅している。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配される。柱穴：4本の主柱穴が確認された。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：貯蔵穴と東壁の間からは土器が、P4周辺には編み物石がまとまって出土している。時期：古墳時代後期。

132号住居跡 出土遺物観察表

1	小形甕	A. 口径(11.8)。残存高9.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ→ナナメナデ。胴部タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・雲母。E. 内外-橙色。F. 破片。H. カマド。
---	-----	---

133号住居跡 (第214・216図、図版32・84)

位置：D地点に位置し、134号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：重複により全容は不明だが、方形を呈すると思われる。規模：長軸3.75m。柱穴：P4~6が主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より出土している。時期：古墳時代後期。



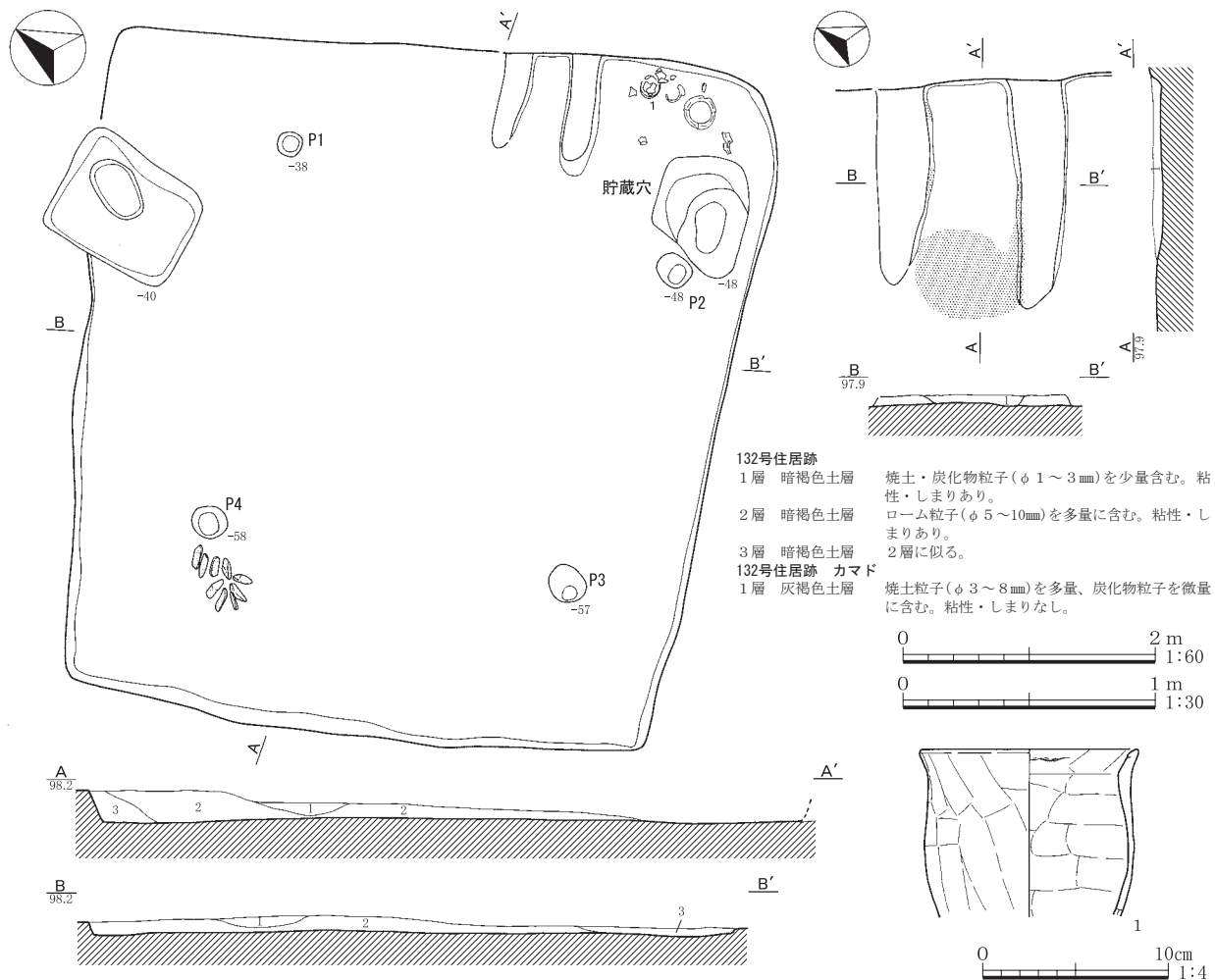
第214図 133号住居跡
出土遺物

133号住居跡 出土遺物観察表

1	ミニチュア	A. 口径(6.8)。残存高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部タテケズリ→口縁部ヨコナデ。一部ユビオサエ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内-橙色。外-黒褐色。F. 1/2。底部を欠く。H. 覆土。
---	-------	--

134号住居跡 (第216・217図、図版32・84)

位置：D地点に位置する。133号住居跡と重複し、本遺構が新しい。南東コーナー及び、カマドの南半分は調査区外となる。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-60°-E。規模：長軸4.64m、短軸4.79m。カマド：東壁に付設され、半分は調査区外へと延びている。燃焼部からは、逆位の高坏が検出される。支脚の上位より長胴甕が出土しており、カマドに掛けられていたものであろう。柱

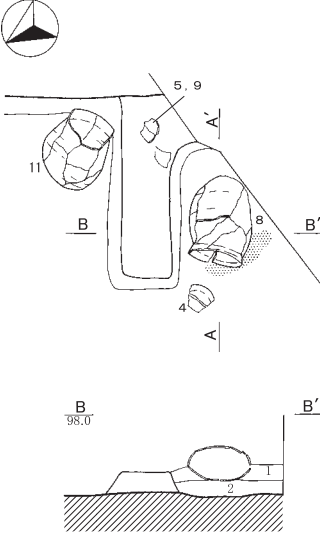
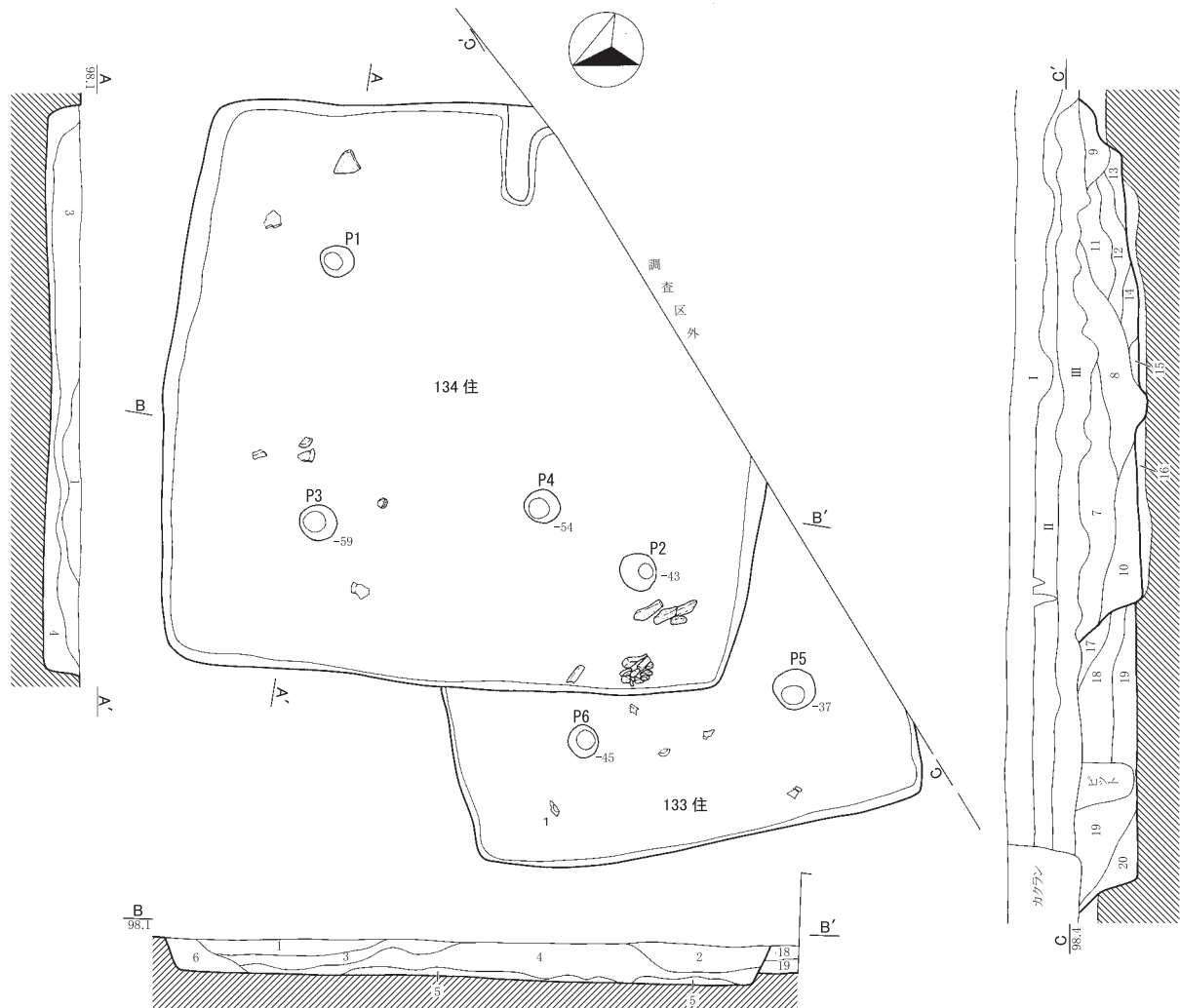


第215図 132号住居跡・出土遺物

134号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	ミニチュア	A. 口径5.0。底径4.5。器高3.3。B. 手捏ね。C. 外面、口縁部ヨコナデ→体部ユビオサエ。底部、ナデ。棒状工具による刺突状の痕跡あり。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(12.0)。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面ヨコナデ。D. 白色粒子・片岩。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 内面剥落部あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径(12.6)。器高5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
4	坏	A. 口径(12.3)。器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. カマド。
5	坏	A. 口径12.3。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 白色粒子・赤色粒子・片岩。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. カマド。
6	高坏	A. 口径17.4。残存高14.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、坏部ヨコナデ。脚部ヨコケズリ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. 2/3。脚部下半以外は完存。G. 坏部内面に黒色の付着物あり。脚端部は打ち欠きか。H. カマド。
7	小形甕	A. 口径14.7。底径3.2。器高10.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ユビオサエ。胴部タテナデ→下半ヨコナデ。内面、口縁部ユビオサエ。胴部ヨコ～ナナメナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 2/3。G. 外面胴部下半に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
8	甕	A. 口径17.1。底径8.5。器高32.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。内面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコ～ナナメナデ。D. 片岩・石英・白色粒子・雲母。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 外面二次被熱。H. カマド。
9	甕	A. 口径(15.5)。底径6.8。器高31.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。内面、ヨコナデ→摩滅。D. 石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 内面胴部下半にハジケ・ヨゴレ。H. カマド。
10	甕	A. 口径18.4。底径(6.4)。残存高31.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ(方向不明)。内面、摩滅。D. 片岩・石英・雲母。E. 内外一橙色。F. 底部以外ほぼ完形。G. 胴部外面二次被熱。H. カマド。

穴：4本確認されている。P1～3は支柱穴である。埋没状況：自然埋没だと思われる。3層・4層間には焼土・炭化物が見られ、住居の埋没過程で火が焚かれていたと考えられる。この層と同一レベルでミニチュア土器が出土している。遺物：カマド周辺以外に、南西コーナー付近に編み物石が集中している。時期：古墳時代後期。



134号住居跡

- 1層 明褐色土層
- 2層 暗褐色土層
- 3層 暗褐色土層
- 4層 暗褐色土層
- 5層 明褐色土層
- 6層 明褐色土層
- 7層 暗褐色土層
- 8層 暗褐色土層
- 9層 暗褐色土層
- 10層 暗褐色土層
- 11層 明褐色土層
- 12層 明褐色土層
- 13層 明赤褐色土層
- 14層 暗褐色土層
- 15層 暗褐色土層
- 16層 暗褐色土層

133号住居跡

- 17層 明褐色土層
- 18層 明褐色土層
- 19層 明褐色土層
- 20層 明褐色土層

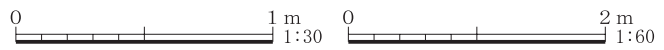
134号住居跡 カマド

- 1層 明褐色土層
- 2層 暗褐色土層

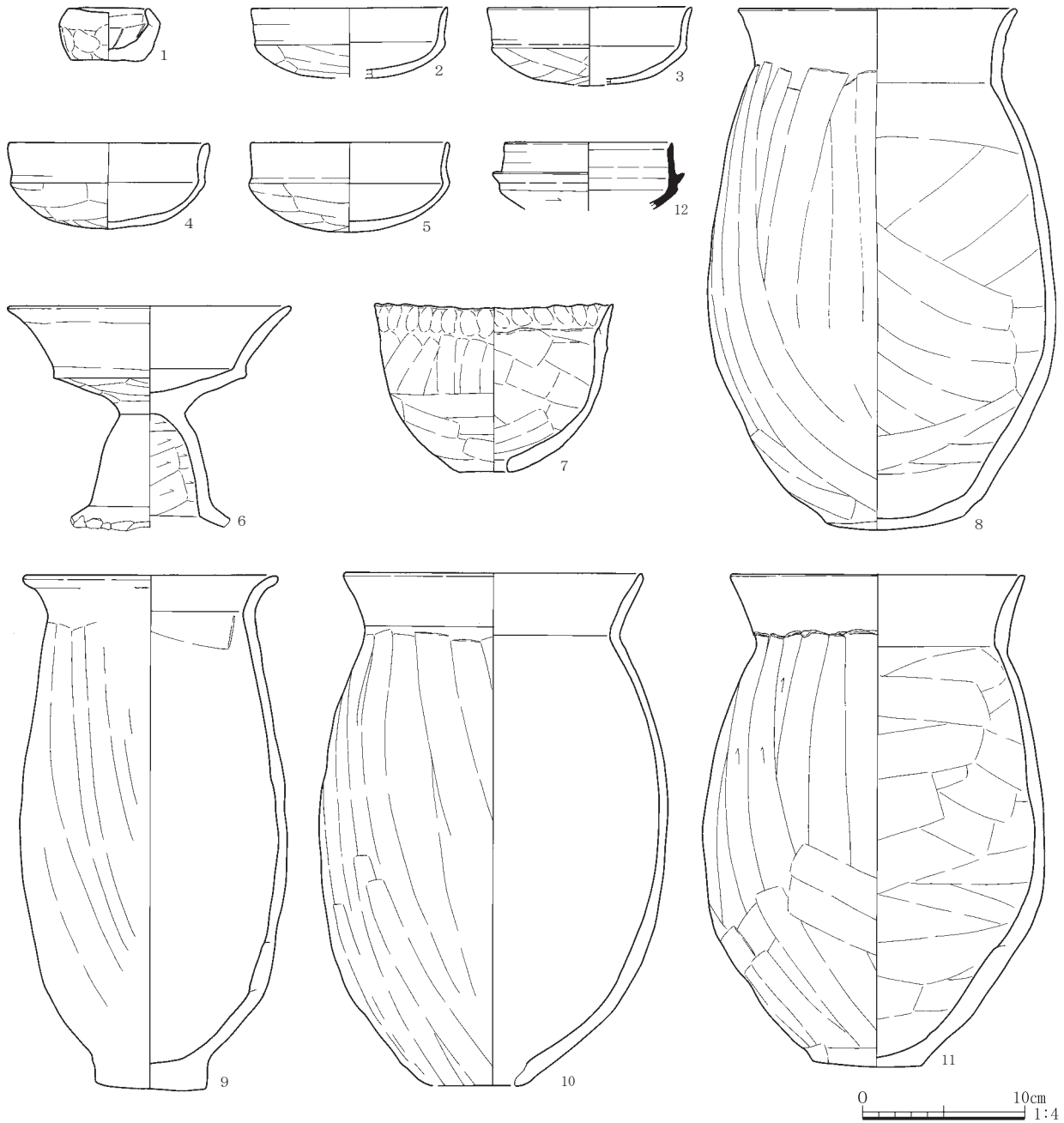
ローム粒子(φ1~5mm)を多量に含む。粘性・しまりあり。
 1層に似る。
 ローム粒子・焼土粒子(φ1~3mm)を多量含む。粘性・しまりあり。
 ローム粒子(φ1~10mm)・ロームブロック(φ11~30mm)を含む。粘性・しまりあり。
 ローム粒子(φ1~5mm)を多量含む。粘性・しまりあり。
 ローム粒子(1~10mm)を多量含む。粘性・しまりあり。
 ローム粒子・焼土粒子(φ1~3mm)を含む。粘性・しまりあり。
 ローム粒子(φ5~10mm)を多量含む。粘性・しまりあり。
 2層に似る。
 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子(φ1~3mm)を含む。粘性・しまりあり。
 ローム粒子(φ10~30mm)を多量含む。粘性・しまり強。
 ローム粒子(φ1~2mm)・灰色粘土粒子(φ~1mm)を多量に含む。粘性・しまり強。
 焼土粒子を多量含む。粘性・しまり強。
 ローム粒子・焼土粒子(φ1~2mm)を多量含む。粘性・しまり強。
 ローム粒子(φ1~2mm)を多量含む。粘性・しまり強。
 ローム粒子・ロームブロックを多量に含む。粘性・しまり強。掘り方。

ロームブロック(φ10~30mm)を少量含む。粘性・しまりあり。
 ロームブロック(φ10~30mm)を多量含む。粘性・しまりあり。
 ローム粒子(φ5~10mm)を多量含む。粘性・しまりあり。
 ローム粒子(φ1~5mm)を多量に含む。粘性・しまりあり。

焼土粒子(φ1~3mm)を少量含む。粘性・しまりあり。
 焼土粒子(φ1~3mm)を多量含む。粘性・しまりあり。



第216図 133号・134号住居跡



第217図 134号住居跡 出土遺物

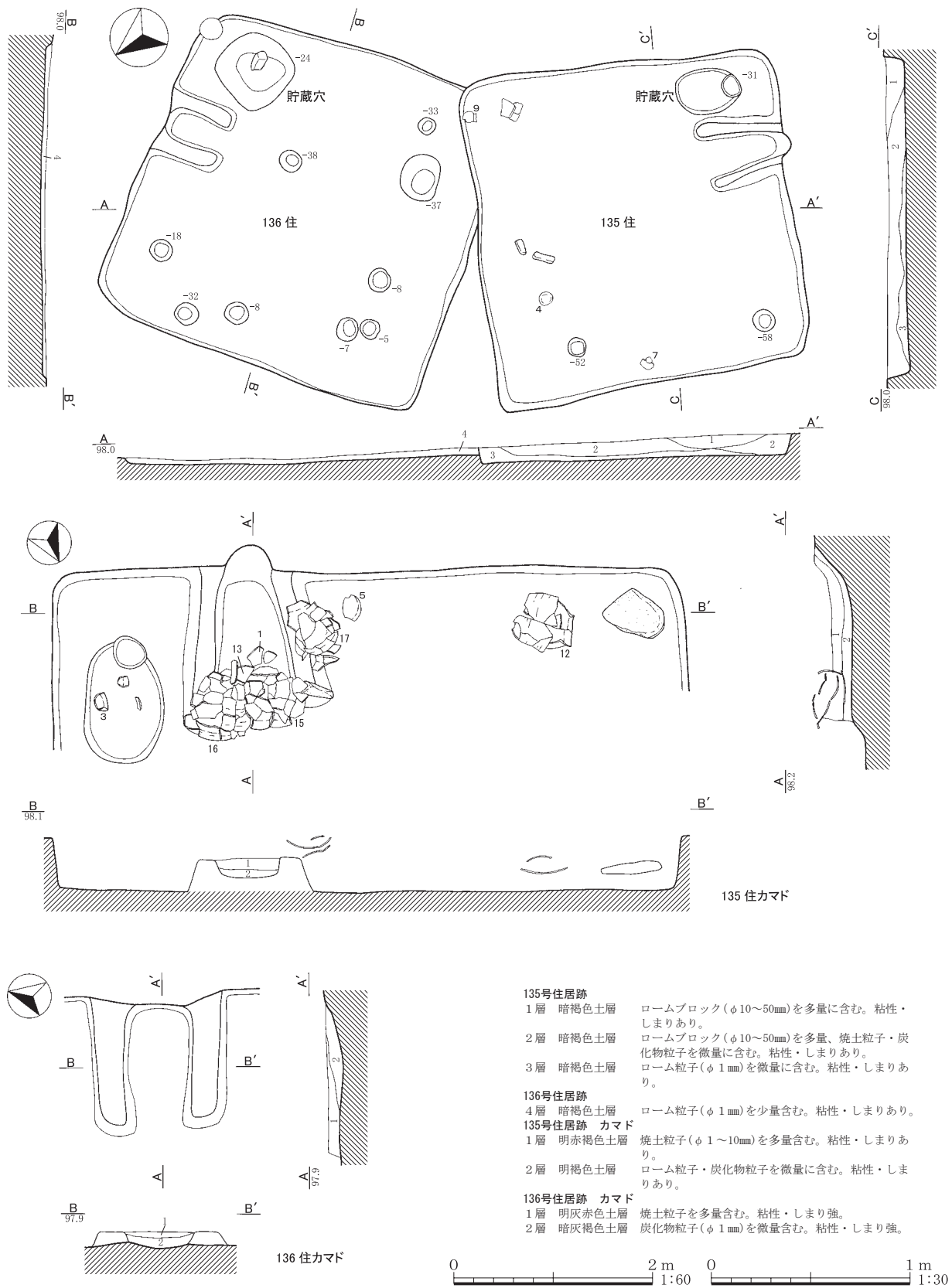
134号住居跡 出土遺物観察表（2）

11	甕	A. 口径 18.0。底径 6.8。器高 30.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下半タテ～ナナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外—橙色。F. ほぼ完形。G. 胴部下半外面にスス附着。H. カマド。
12	須恵器 坏身	A. 口径 (10.4)。残存高 4.1。B. ロクロ成形。C. 外面、体部下半回転ケズリ。D. 白色粒子・片岩。E. 内外—灰色。F. 1/5。G. 藤岡産。H. 覆土。

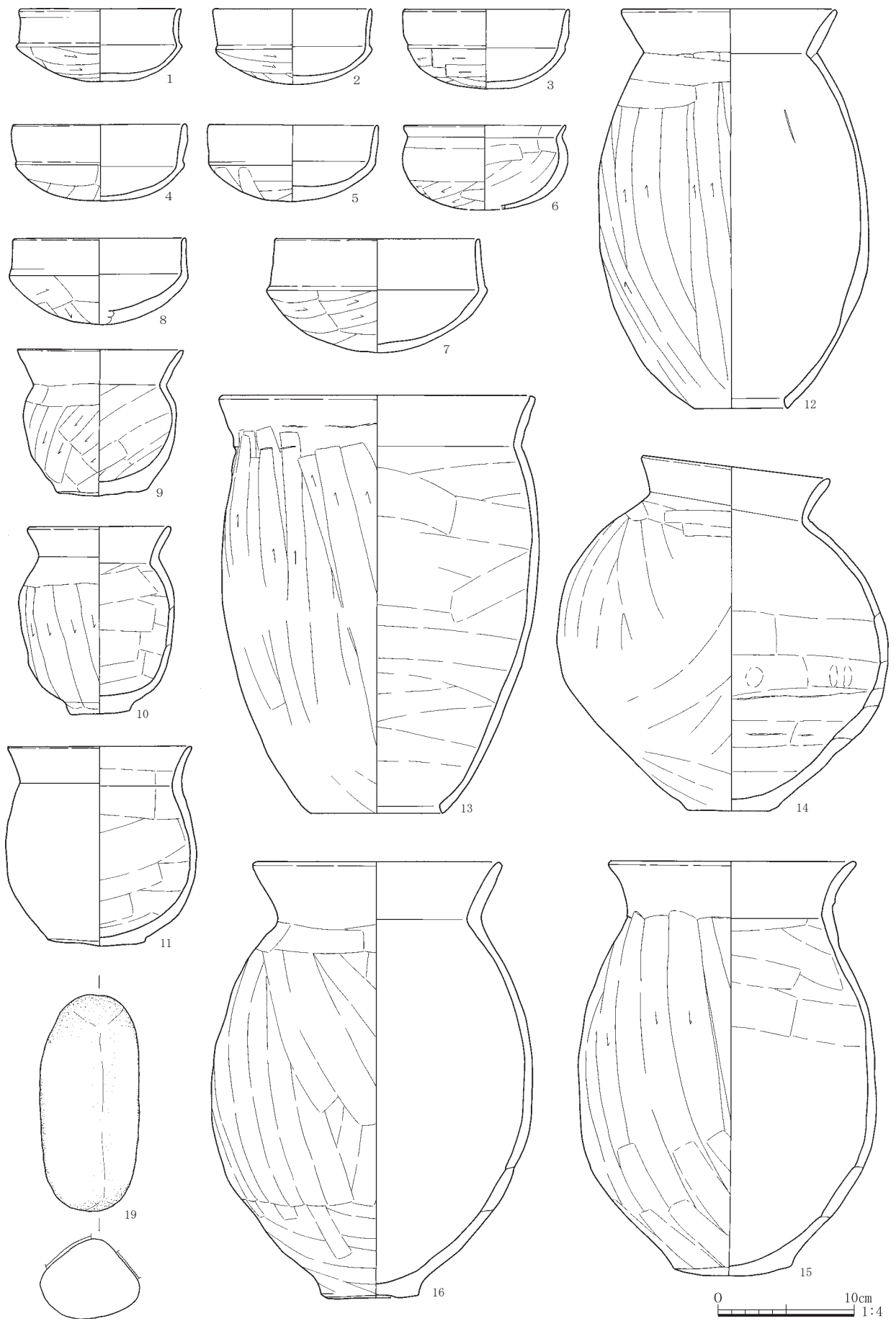
135号住居跡（第218・219・220図、図版32・33・84・85）

位置：D地点に位置する。136号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-27°-W。規模：長軸3.41m、短軸3.25m。カマド：南壁に付設される。2個体分の甕がカマド前より出土し、カマドに掛けられていたものと思われる。袖は付け袖で礫を構築材に用いる。貯蔵穴：カマドに向かって左側に配される。柱穴：西壁沿いに2本検出された。埋没状況：

2層～3層にかけて、焼土・炭化物の混入が顕著であるが、焼失住居ではないと思われる。遺物：カマドに向かって右側から甕1個体分とともに、約30cmの扁平な石が出土している。時期：古墳時代後期。



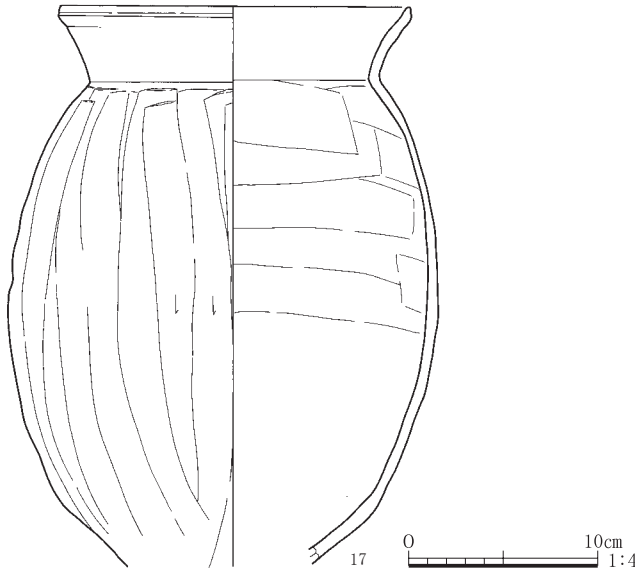
第218図 135号・136号住居跡



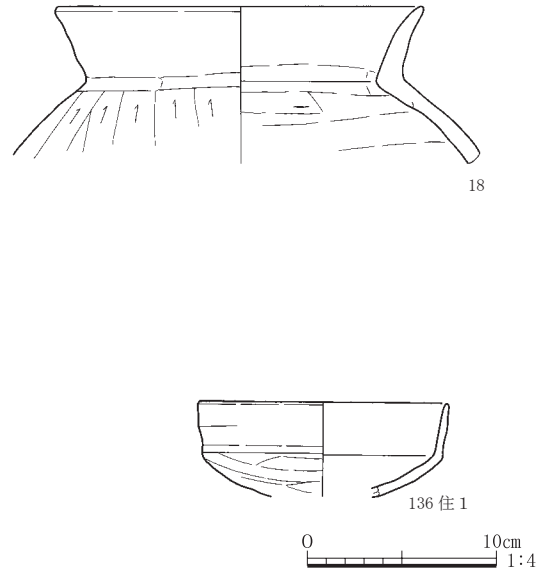
第219図 135号住居跡 出土遺物（1）

136号住居跡（第218・221図、図版32・33・84）

位置：D地点に位置する。135号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は正方形を呈する。主軸方位：N-48°-E。規模：一辺約3.50m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖で、燃烧部は住居内で収まる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配される。柱穴：9本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：貯蔵穴内より、石が出土している。時期：古墳時代後期。



第220図 135号住居跡 出土遺物（2）



第221図 136号住居跡 出土遺物

135号住居跡 出土遺物観察表（1）

1	坏	A. 口径12.0。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・片岩。E. 内-橙色。外-明赤褐色。F. 1/2。H. カマド。
2	坏	A. 口径11.7。器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 2/3。H. 貯蔵穴。
3	坏	A. 口径12.2。器高5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・赤色粒子。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴。
4	坏	A. 口径12.7。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
5	坏	A. 口径12.6。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・雲母。E. 内外-橙色。F. 2/3。H. 覆土。
6	坏	A. 口径(11.9)。残存高6.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~体部中位ヨコナデ。以下はナナメケズリ。内面口縁部~体部上位ヨコナデ。以下ナナメナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外-明赤褐色。F. 1/5。G. 内面にスス附着。H. 覆土。
7	坏	A. 口径15.2。器高8.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. 1/3。H. 覆土。
8	坏	A. 口径12.7。器高6.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
9	小形甕	A. 口径(12.1)。底径6.6。器高10.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~胴部上位ヨコナデ。胴部ナナメケズリ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。G. 口縁部内面にスス附着。H. カマド。
10	小形甕	A. 口径(10.5)。底径4.6。器高13.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~胴部上位ヨコナデ。胴部中位以下タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 4/5。H. 覆土。
11	小形甕	A. 口径13.5。底径7.1。器高14.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、摩滅が著しい。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子・石英。E. 内外-にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 外面二次被熱か？。H. カマド。
12	大形甕	A. 口径16.1。底径7.0。器高29.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~胴部上位ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデか？D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 外面胴部上位・下位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
13	大形甕	A. 口径23.2。底径9.7。器高30.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。口縁部~胴部タテケズリ。胴部下位はナナメナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 2/3。G. 内面、一部スス附着。H. カマド。
14	壺	A. 口径13.9。底径7.0。器高25.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~胴部上位ヨコナデ。胴部中位以下ナナメナデ。内面、ヨコナデ。胴部中位ユビオサエ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 2/3。H. 覆土。

135号住居跡 出土遺物観察表（2）

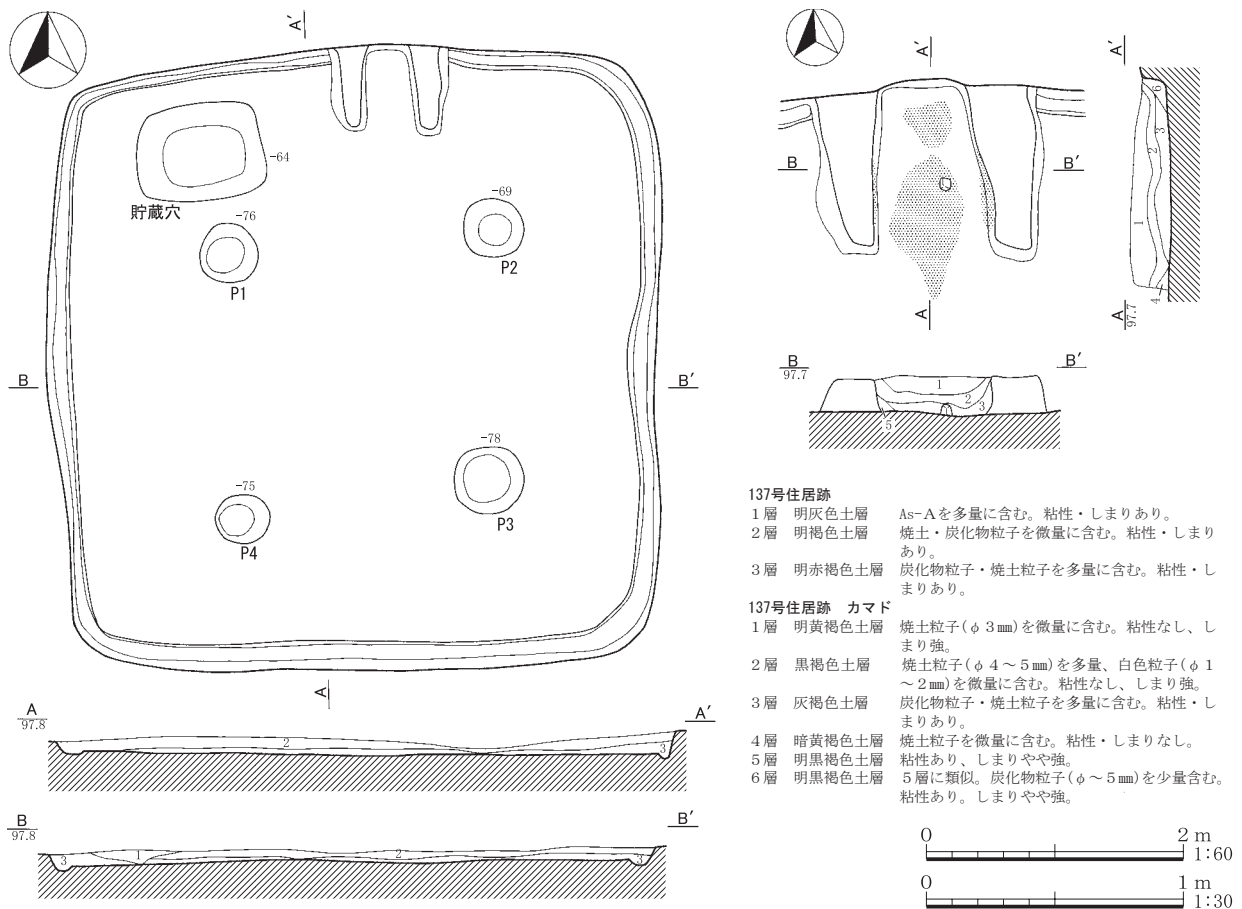
15	甕	A. 口径 18.1。底径 8.8。器高 30.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位タテナデ。D. 石英・片岩・雲母。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 4/5。G. 外面胴部スス付着。H. カマド。
16	甕	A. 口径 18.2。底径 7.2。器高 32.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部中位以下ナメナデ・ケズリ。内面、ナデ摩滅。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. カマド。
17	甕	A. 口径 18.6。残存高 29.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。下位は調整不明瞭。D. 片岩・石英・雲母。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 外面、焼成時の黒斑あり。内面スス付着。H. カマド。
18	甕	A. 口径 19.6。残存高 8.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面ヨコナデ。D. 石英・片岩・雲母。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部上位 1/2。H. 覆土。
19	石	A. 長 15.9。幅 7.2。厚 5.8。重 989.31。C. 二面摩耗する。一部に敲打痕あり。D. 砂岩。F. 完形。H. 覆土。

136号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 (13.3)。残存高 4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 雲母・石英。E. 内外一橙色。F. 1/4。H. 覆土。
---	---	---

137号住居跡（第222図、図版33）

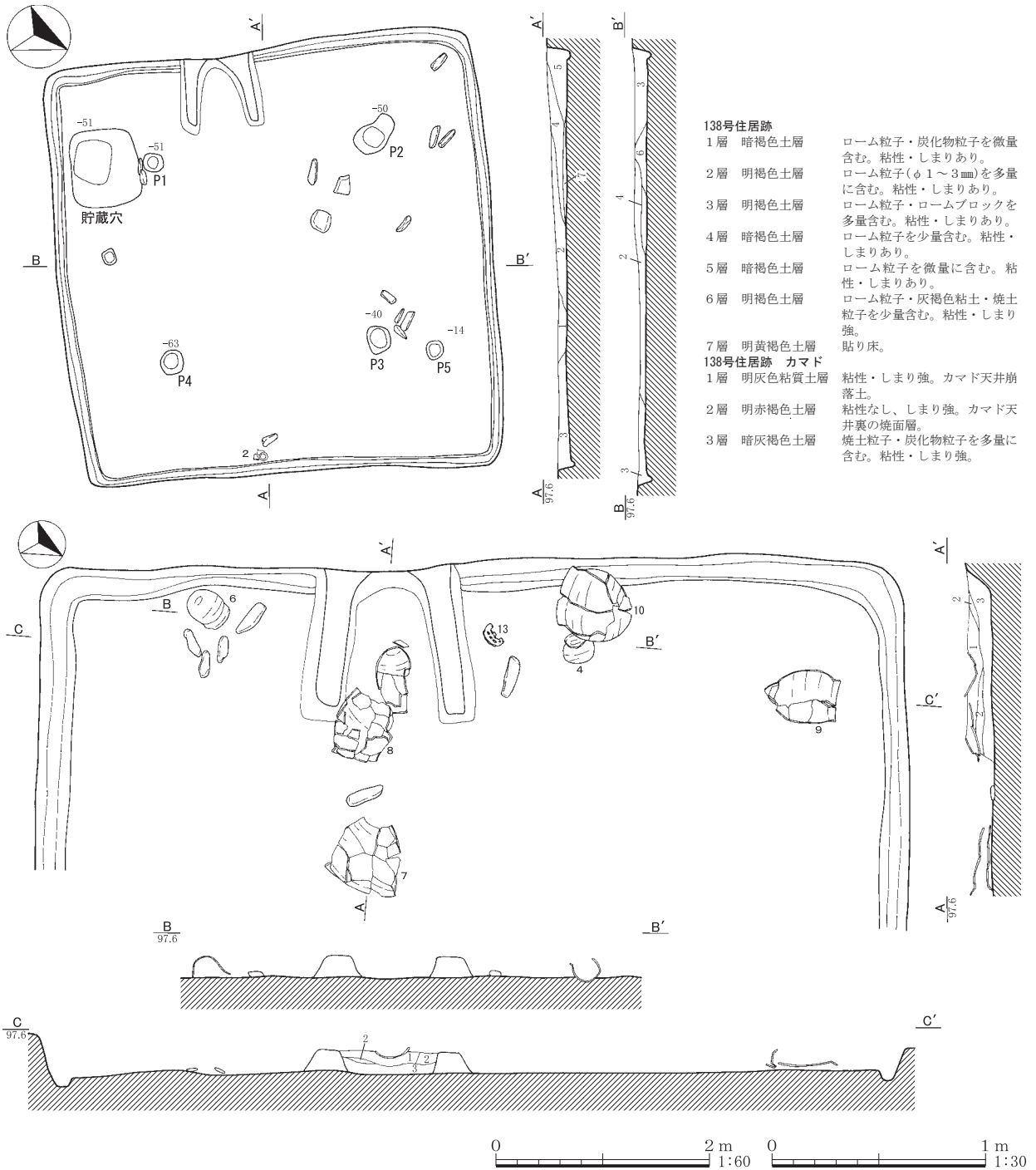
位置：D地点に位置する。145b号土坑と重複し、新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-0°-W。規模：長軸4.84m、短軸4.80m。カマド：北壁に付設される。燃烧部内には、支脚の礫が据えられていた。貯蔵穴：カマドに向かって左側にある長方形のピットが貯蔵穴である。柱穴：4本確認され、いずれも支柱穴であろう。周溝：カマド部分を除いて全周している。埋没状況：床面上の覆土より、焼土・炭化物が多量に確認されている。焼失住居だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。



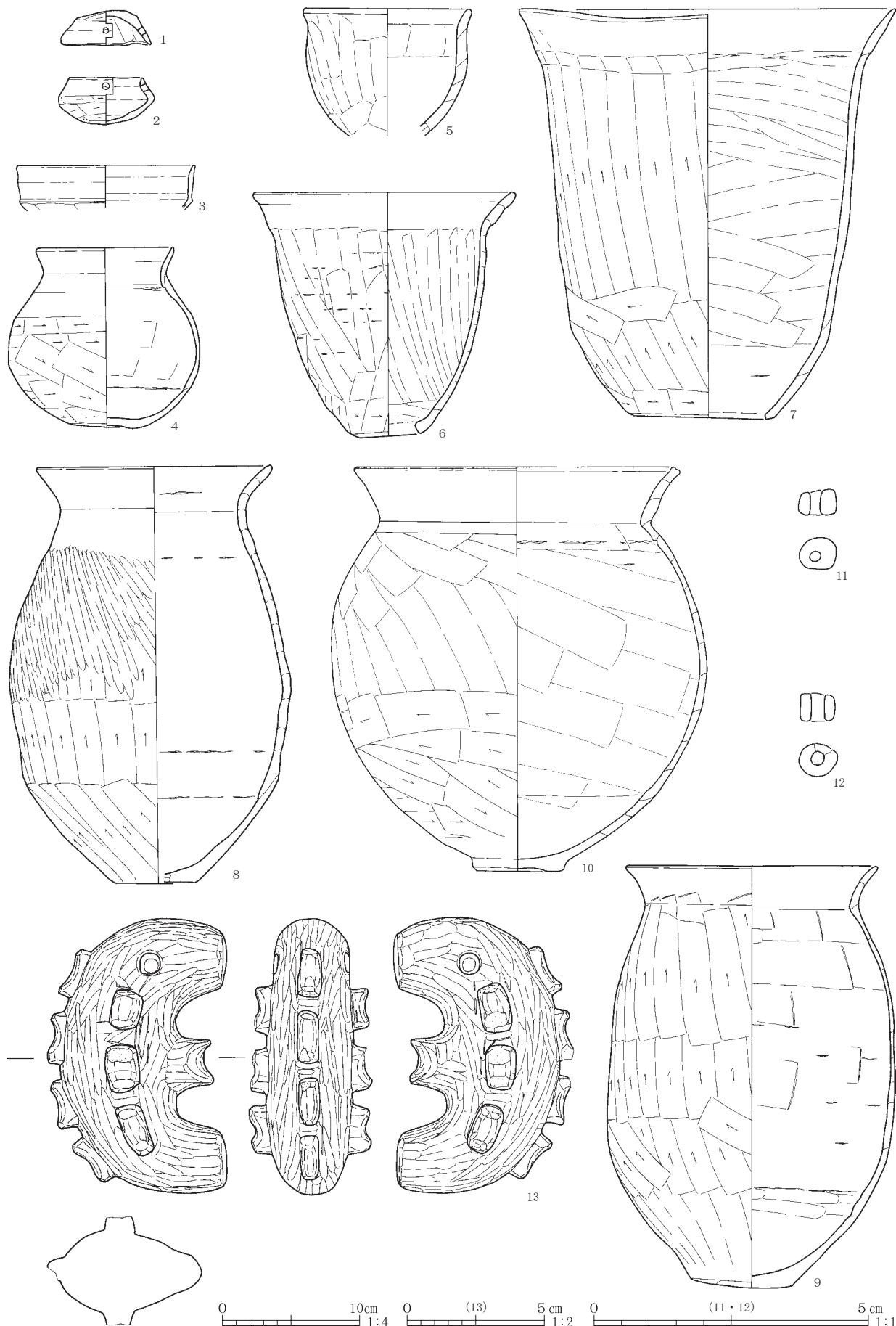
第222図 137号住居跡

138号住居跡（第223・224図、図版33・34・86）

位置：D地点に位置する。140号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は一辺4.10mの正方形を呈する。主軸方位：S-62°-W。カマド：西壁に付設される。袖は付け袖で、燃燒部は住居内に収まる。貯蔵穴：カマドに向かって左側に配される方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：6本確認され、P1～4が主柱穴である。周溝：カマド部分以外全周する。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド周辺より遺物が集中して出土している。カマドに向かって右側の袖脇、床面直上より子持勾玉が出土した。住居内には礫が散在していた。時期：古墳時代後期。



第223図 138号住居跡



第224图 138号住居跡 出土遺物

138号住居跡 出土遺物観察表

1	合子蓋	A. 口径6.6。器高2.5。B. 手捏ね。C. 外面、上位ケズリ。下位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。口縁部に一對の焼成前穿孔あり。D. 赤色粒子・白色粒子。E. 内外一明茶褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
2	合子身	A. 口径5.3。器高3.4。B. 手捏ね。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。口縁部に一對の焼成前穿孔あり。D. 赤色粒子・白色粒子。E. 内外一明橙褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
3	坏	A. 口径(13.0)。残存高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外一橙色。F. 破片。H. 覆土。
4	小形壺	A. 口径(10.0)。底径5.6。器高10.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部上半ヨコナデ。胴部下半ヨコケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・赤色粒子・白色粒子。E. 内外一淡橙褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下半に焼成時の黒斑あり。器面の荒れ激しい。H. 覆土。
5	鉢	A. 口径12.2。残存高9.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテナデ→胴部下位ナナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・白色粒子。E. 内一黒褐色。外一暗茶褐色。F. 1/2。H. 覆土。
6	小形甌	A. 口径(19.6)。底径5.5。器高17.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ→タテナデ。内面、ヨコナデ→胴部タテナデ。D. 片岩・赤色粒子・白色粒子。E. 内外一暗茶褐色。F. 4/5。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	大形甌	A. 口径24.7。底径10.5。器高30.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下半部分的にヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子・赤色粒子。E. 内外一暗茶褐色。F. ほぼ完形。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
8	甕	A. 口径17.0。底径(6.0)。器高30.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部タテナデ→中位ナナメナデ。底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。D. 片岩・白色粒子・赤色粒子。E. 内外一暗褐色。F. 3/4。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
9	甕	A. 口径18.2。底径7.3。器高30.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位タテナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・白色粒子。E. 内一暗橙褐色。外一暗褐色。F. 4/3。G. 外面胴部下半二次被熱。H. 覆土。
10	壺	A. 口径23.8。底径6.7。器高29.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部上半ナナメナデ、下半ヨコ～ナナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子・赤色粒子。E. 内一淡褐色。外一橙褐色。F. 3/4。G. 外面に焼成時の黒斑あり。外面胴部下半にスス附着。H. 覆土。
11	土製白玉	A. 長0.45。幅0.7。厚0.6。重0.23。C. 手捏ね。焼成前穿孔。D. 石英・白色粒子。F. 完形。H. カマド付近。
12	石製白玉	A. 長0.5。幅0.6。厚0.6。重0.35。C. 研磨される。D. 滑石。F. 一部欠損。H. カマド付近。
13	子持勾玉	A. 全長10.1。身幅4.1。身厚3.1。重287。最大幅4.1。最大厚3.3。C. 良く研磨される。D. 滑石。F. 一部欠損。H. カマド付近。

139号住居跡 (第225・226図、図版34・86)

位置：D地点に位置する。10号・11号溝と重複し、北壁を破壊されている。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-76°-E。規模：長軸4.13m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖で、向かって右側の袖上には甕

が1個体出土している。

燃焼部は住居内に収まり、

中央部分には支脚であろ

う礫が据えられる。貯蔵

穴：カマドに向かって右

側に検出された長方形の

ピットが貯蔵穴であろう。

柱穴：4本確認された。

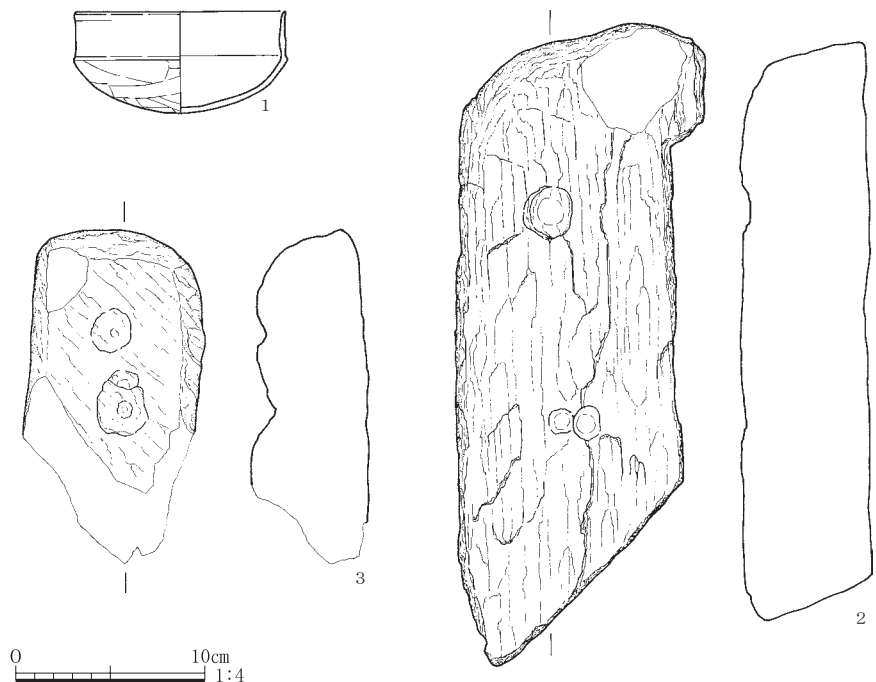
いずれも支柱穴であろう。

埋没状況：自然埋没だと

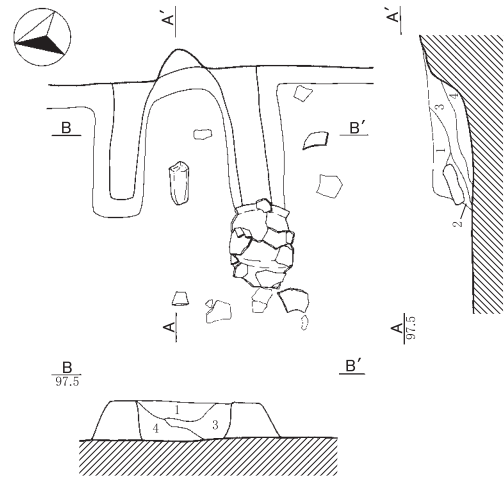
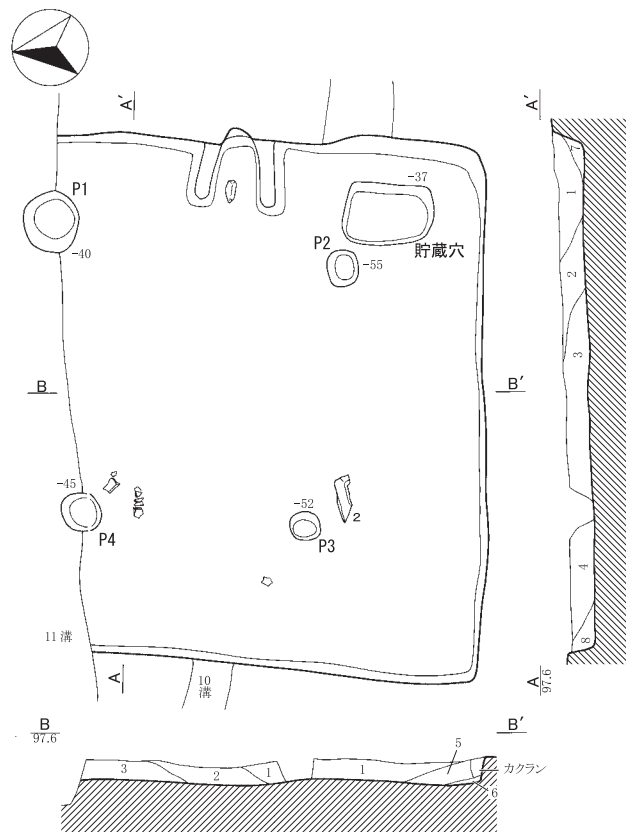
思われる。遺物：カマド

周辺に集中して出土する。

時期：古墳時代後期。



第225図 139号住居跡 出土遺物

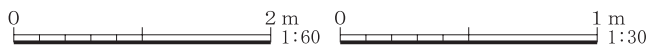


139号住居跡

- 1層 黒褐色土層 炭化物粒子(φ 1mm)を少量、焼土粒子(φ 2mm)・砂礫を微量に含む。粘性あり、しまり強。
- 2層 暗褐色土層 焼土ブロック(φ 20mm)を少量、焼土粒子・片岩を微量に含む。粘性あり、しまり強。
- 3層 明黄褐色土層 ローム土混合層。焼土粒子(φ 3~4mm)・片岩を微量に含む。粘性強、しまりあり。
- 4層 明黄褐色土層 ローム土主体層。焼土粒子(φ 1mm)・炭化物粒子(φ 1~2mm)・片岩を少量含む。粘性あり、しまり強。
- 5層 黒黄褐色土層 ローム粒子(φ 1~2mm)を多量、炭化物粒子(φ 2~3mm)・片岩を少量、焼土粒子(φ 3mm)を微量に含む。粘性強、しまりあり。
- 6層 暗黄褐色土層 ローム粒子(φ 1mm)・砂礫を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 7層 黒褐色土層 ローム粒子(φ 1mm)・焼土粒子を微量に含む。粘性強、しまりあり。
- 8層 黒褐色土層 ローム粒子(φ 1~2mm)を少量含む。粘性強、しまりあり。

139号住居跡 カマド

- 1層 明灰色土層 灰色粘土・焼土粒子を多量に含む。粘性・しまり強。
- 2層 明赤灰色土層 1層に似るが、焼土多い。粘性・しまり強。
- 3層 明灰色土層 灰色粘土を多量含む。粘性・しまり強。
- 4層 暗灰色土層 暗灰色粘土を多量に含む。粘性・しまり強。



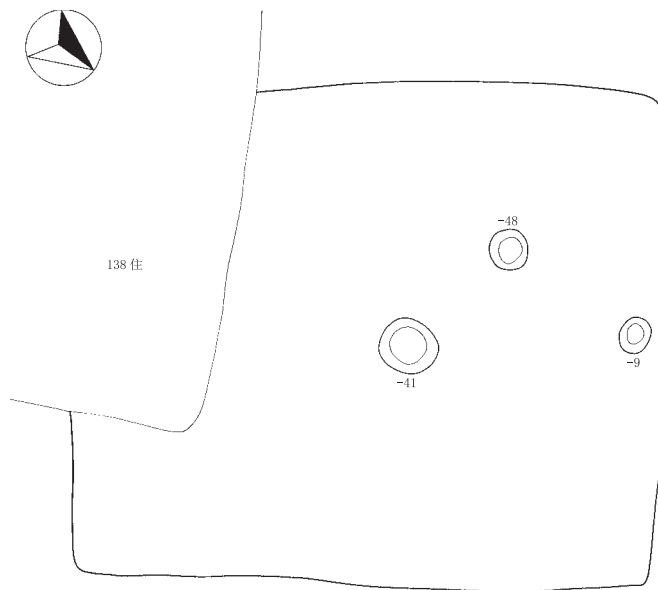
第226図 139号住居跡

139号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(11.2)。器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
2	凹石	A. 長31.2。幅12.8。厚6.6。重460。C. 一面に3孔。D. 結晶片岩。F. ほぼ完形。H. 覆土。
3	凹石	A. 長(17.7)。幅9.7。厚6.3。重1515.96。C. 一面に2孔。D. 結晶片岩。F. 1/2。H. 覆土。

140号住居跡 (第227図、図版34)

位置：D地点に位置する。
 138号住居跡と重複し、新旧関係は不明。覆土は削平され、一切残っていない。形態：平面形は不明である。柱穴：3本確認される。時期：不明。



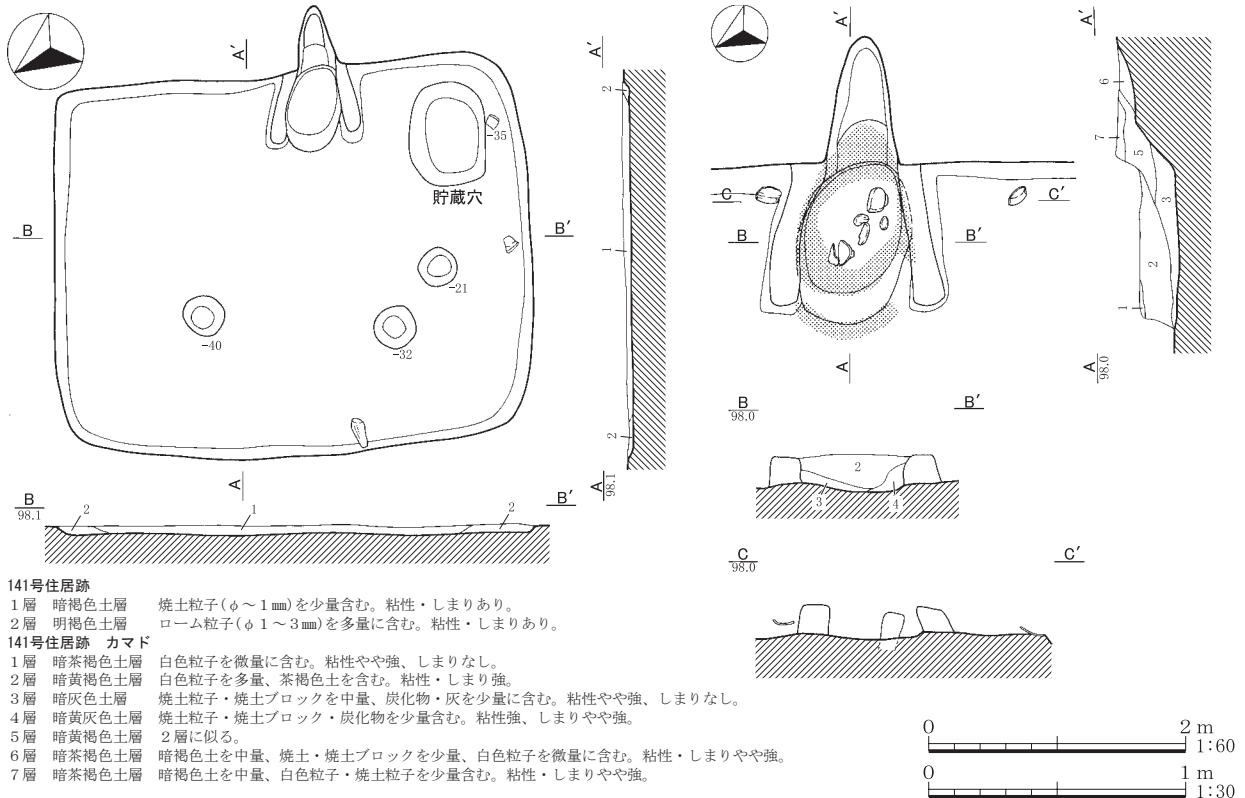
第227図

140号住居跡

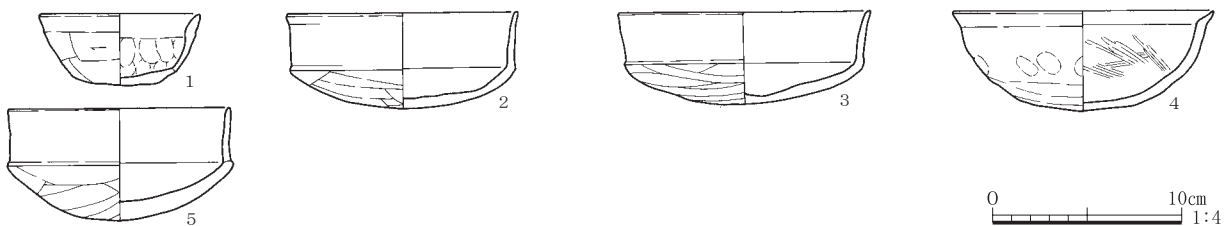


141号住居跡（第228・229図、図版34・87）

位置：D地点に位置する。単独で検出された。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：S-56°-E。規模：長軸3.77m、短軸2.98m。カマド：東壁に付設される。燃焼部には、支脚と思しき礫が据えられていた。燃焼部から煙道はゆるやかに立ち上がる。貯蔵穴：カマドに向かって右側で検出された長方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：3本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド周辺に集中して出土している。時期：古墳時代後期。



第228図 141号住居跡



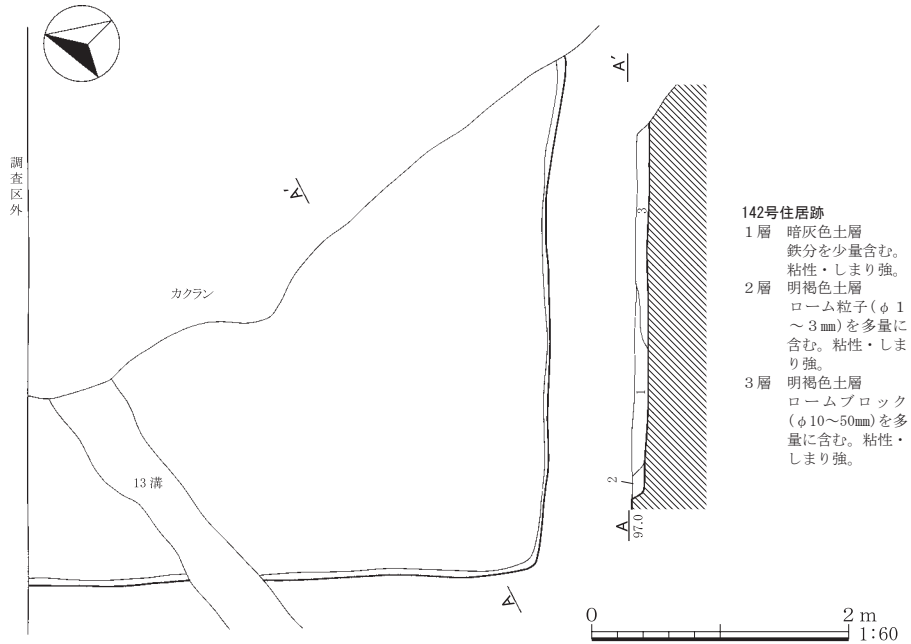
第229図 141号住居跡 出土遺物

141号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径8.5。底径4.3。器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ・ヨコケズリ。内面、体部ユビオサエ→口縁部ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/2。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.3。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. カマドピット。
3	坏	A. 口径(13.4)。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一橙色。外一にぶい赤褐色。F. 1/3。G. 外面口縁部に赤彩あり。H. カマドピット。
4	坏	A. 口径13.7。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ナデ。内面、ヨコナデ→ミガキ。D. 角閃石・石英・赤色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。G. 内外面、黒色処理。剥落激しい。H. カマド。
5	坏	A. 口径(11.8)。器高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。

142号住居跡（第230図、
図版34）

位置：D地点に位置する。近現代の溝と重複し、西壁と南壁以外は削平される。形態：平面形は方形を呈すると思われる。主軸方位：N-18°-W。埋没状況：自然埋没だろう。遺物：覆土中より土器片が出土している。時期：古墳時代。



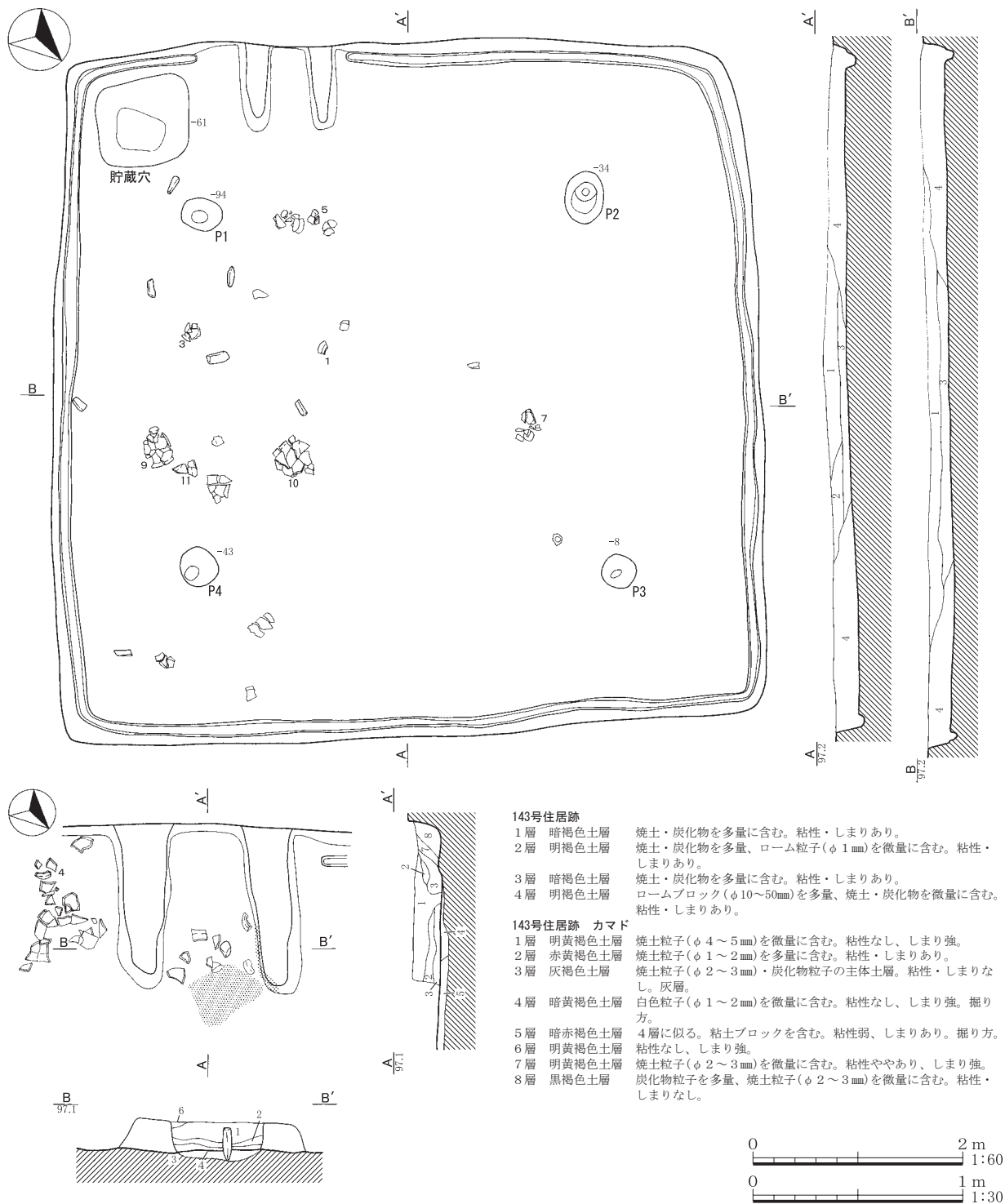
第230図 142号住居跡

143号住居跡（第231・232図、図版34・35・87）

位置：D地点に位置する。単独で検出された住居跡である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-48°-W。規模：長軸6.84m、短軸6.72m。カマド：西壁に付設される。燃烧部は住居内に収まり、中央には支脚と考えられる石が据えられていた。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する方形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：4本の主柱穴が確認された。周溝：カマド部分を除いてほぼ全周している。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドから南壁にかけて遺物が散在している。時期：古墳時代後期。

143号住居跡 出土遺物観察表（1）

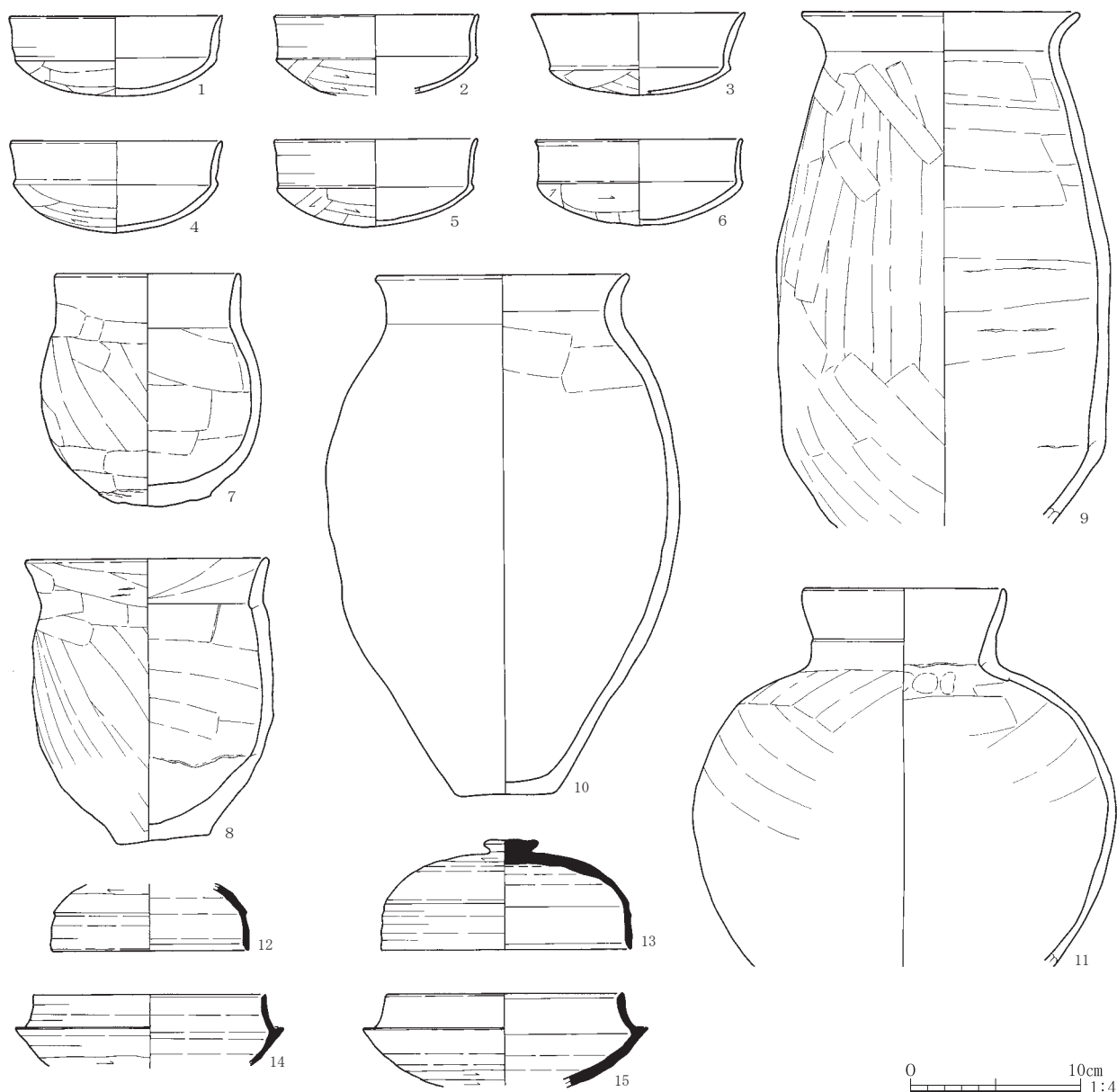
1	坏	A. 口径(12.5)。器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 白色粒子・雲母。E. 内外-橙色。F. 2/3。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.1。残存高6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ→上位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外-橙色。F. 3/4。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.6。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 白色粒子・雲母。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
4	坏	A. 口径(12.4)。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ→上位ヨコナデ。D. 白色粒子・片岩。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/3。H. カマド。
5	坏	A. 口径(12.0)。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
6	坏	A. 口径(12.2)。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。H. 覆土。
7	小形甕	A. 口径(11.0)。底径5.9。器高13.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメナデ→下位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・雲母。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/2。H. 覆土。
8	小形甕	A. 口径14.2。底径5.5。器高16.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~胴部上位ヨコナデ。体部タテナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外-明赤褐色。F. 4/5。G. 内面胴部スス附着。H. 覆土。
9	甕	A. 口径16.7。残存高30.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ナナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外-橙色。F. 1/2。G. 外面胴部下位にスス附着。H. 覆土。
10	甕	A. 口径15.0。底径6.1。器高30.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部タテナデ→摩滅。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 二次被熱あり。H. 覆土。
11	壺	A. 口径12.0。残存高22.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/3。G. 器面の荒れ激しい。H. 覆土。
12	須恵器蓋	A. 底径(11.7)。残存高3.9。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ。天井部回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。H. 覆土。



第231図 143号住居跡

143号住居跡 出土遺物観察表(2)

13	須恵器 坏蓋	A. 摘径3.2。底径14.8。器高6.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。外面天井部回転ヘラケズリ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
14	須恵器 坏身	A. 口径(13.6)。残存高6.2。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ。体部下位回転ケズリ。内面、ロクロ成形。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 藤岡産。H. 覆土。
15	須恵器 坏身	A. 口径(14.4)。残存高5.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。外面体部下半回転ヘラケズリ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰白色。F. 1/4。G. 在地産か。H. 覆土。



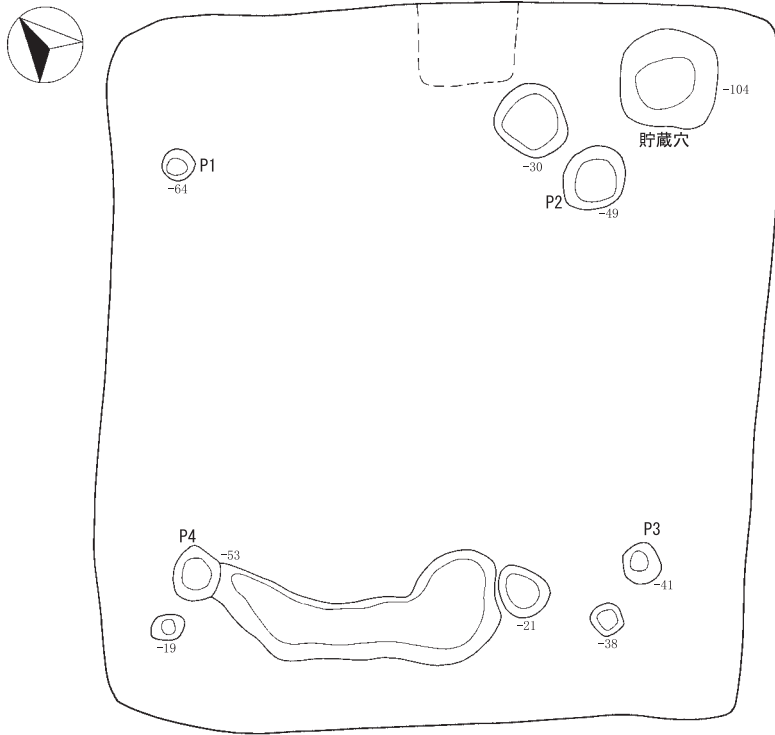
第232図 143号住居跡 出土遺物

144号住居跡（第233図、図版35）

位置：D地点の北に位置している。覆土上層は削平を受け、掘り方の一部とピットが残存するのみである。形態：平面形は不明。主軸方位：推定N-42°-E。カマド：東壁付近に焼土が検出された。カマドの痕跡であろう。貯蔵穴：カマド痕に向かって右に位置する隅丸方形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：8本検出された。P1～4が主柱穴である。遺物：覆土より少量の土器片が出土した。時期：古墳時代後期。

147号住居跡（第234・235図、図版35・87）

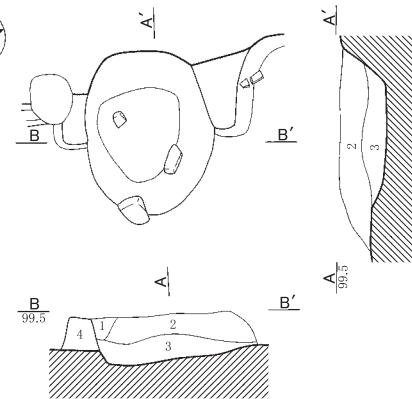
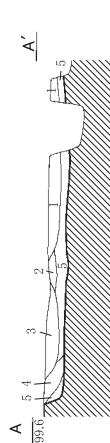
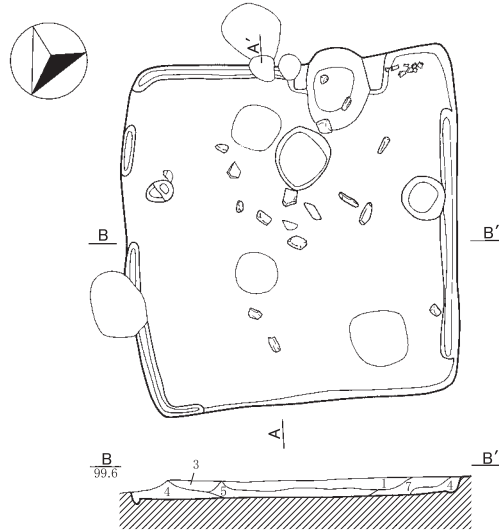
位置：E地点南西寄りに位置している。36号・37号掘立柱建物跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-34°-E。規模：長軸2.72m、短軸2.6mを測る。カマド：南壁に付設される。燃烧部は一段掘り込まれ、住居外でなだらかに立ち上がる。袖はローム主体土で構



築される。柱穴：3本確認される。周溝：北壁及び南西コーナー以外で断続的に検出される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：住居跡の中央部分に編み物石が集中して出土している。時期：奈良時代。



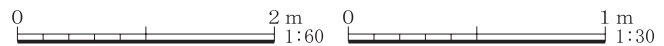
第233図 144号住居跡



- 5層 暗褐色土層 小礫を多量、ロームブロック・ローム粒子(φ~10mm)・焼土粒子(φ5mm)・炭化物粒子(φ5mm)・白色粒子(φ~1mm)を微量含む。粘性強、しまりあり。
- 6層 黄茶褐色土層 ローム粒子(φ~5mm)・焼土粒子(φ5mm)・炭化物粒子(φ5mm)・白色粒子(φ~1mm)・小礫を微量に含む。粘性強、しまりあり。
- 7層 明茶褐色土層 ローム粒子・砂礫を多量、白色粒子を少量、焼土粒子・炭化物粒子・ロームブロックを微量に含む。粘性あり、しまり強。

147号住居跡 カマド

- 1層 暗黄褐色土層 ロームブロックを中量、焼土粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 3層 暗灰色土層 焼土粒子・炭化物粒子を中量、ローム粒子を微量含む。粘性やや強、しまりなし。
- 4層 黄褐色土層 ローム主体土層。粘性やや強、しまりあり。



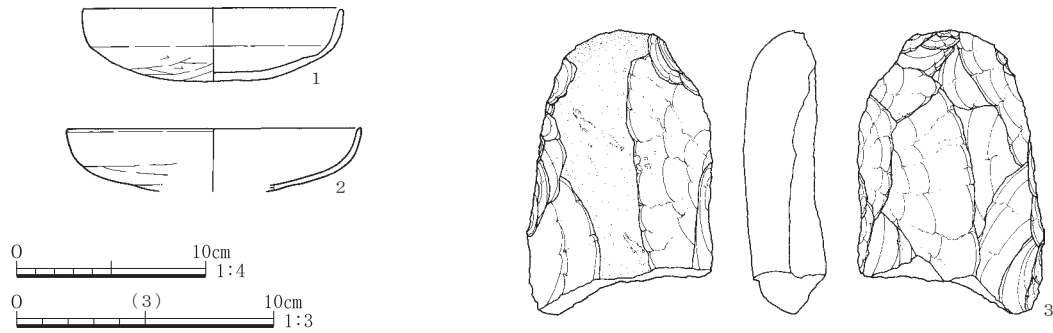
第234図 147号住居跡

147号住居跡

- 1層 暗茶褐色土層 ローム粒子(φ~5mm)を多量、焼土粒子(φ~10mm)・炭化物粒子(φ5~10mm)・白色粒子(φ~1mm)・小礫を微量に含む。粘性あり、しまり強。
- 2層 暗茶褐色土層 ローム粒子(φ~5mm)を多量、焼土粒子(φ5mm)・炭化物粒子(φ1~5mm)・白色粒子(φ~1mm)・小礫を微量に含む。粘性・しまり強。
- 3層 暗茶褐色土層 ローム粒子(φ~5mm)を多量、ロームブロック・焼土粒子(φ5mm)・炭化物粒子(φ1~5mm)・白色粒子(φ~1mm)・小礫を微量に含む。粘性やや強、しまり強。
- 4層 暗茶褐色土層 ローム粒子(φ~5mm)を多量、ロームブロック・焼土粒子(φ5mm)・炭化物粒子(φ5mm)・白色粒子(φ~1mm)・小礫を微量に含む。粘性やや強、しまり強。

147号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径13.8。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ケズリ・ナデ。内面、ナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 2/3。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(15.7)。残存高3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/3。H. カマド。
3	打製石斧	A. 長11.2。幅7.4。厚3.3。重312.76。D. 砂岩。F. 2/3。G. 刃部欠損。両面調整。表面中央部に自然面が残る。H. 覆土。



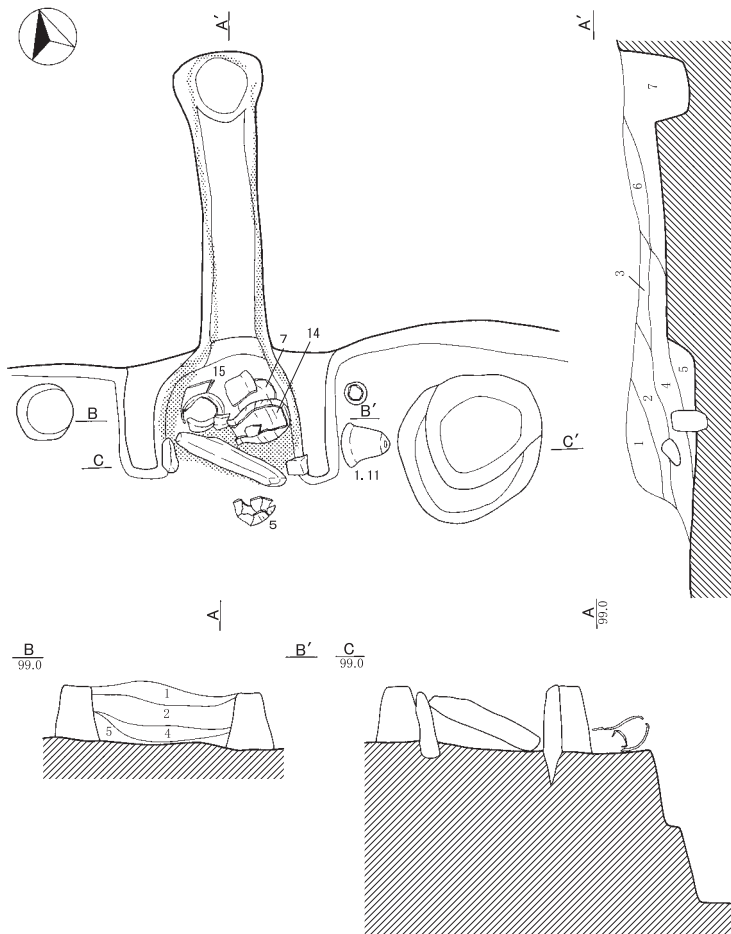
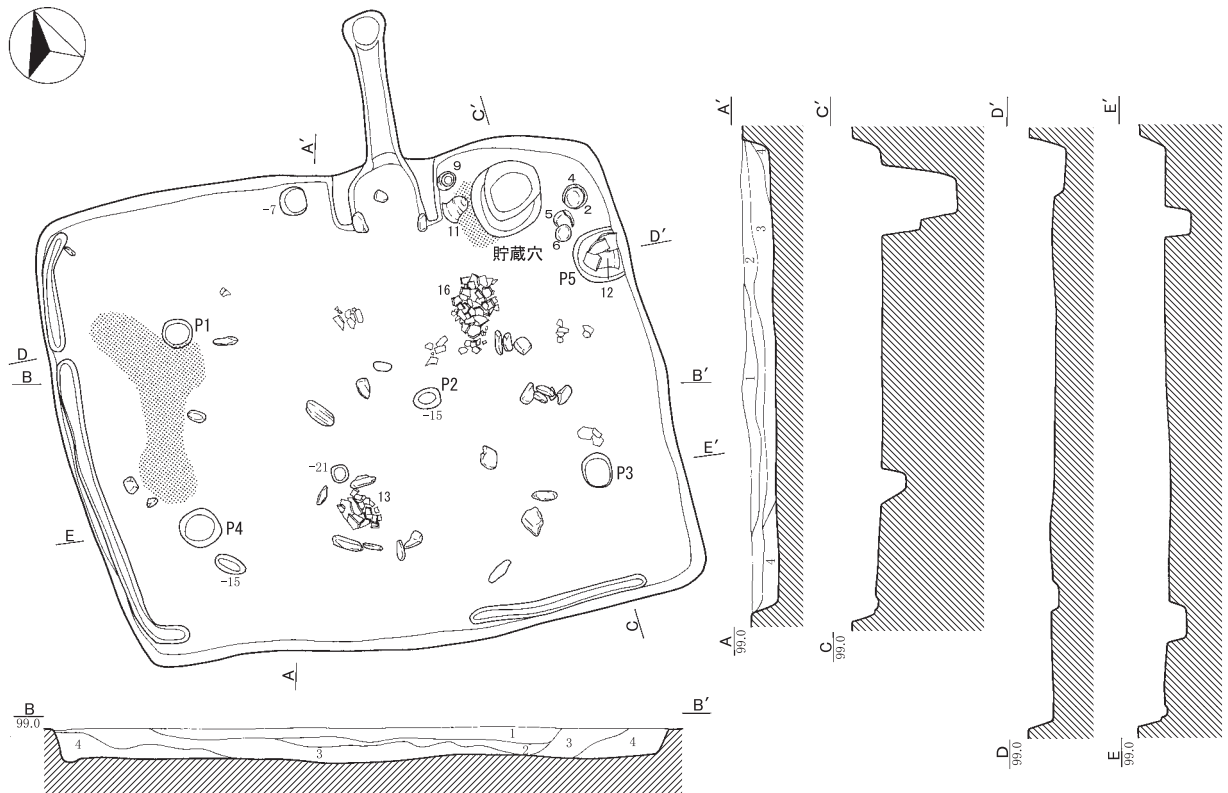
第235図 147号住居跡 出土遺物

148号住居跡 (第236・237図、図版35・87・88)

位置：E地点南東隅に位置している。26号溝と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-17°-E。規模：長軸4.62m、短軸3.71m。カマド：北壁に付設される。袖は付け袖で、焚き口部分に礫を用いている。燃烧部は住居内となり、中央には支脚と思われる礫が据えられている。土器とともに焚き口に掛けられた礫も出土している。煙道は長く住居外へと延び、先端部分はピット状に深くなる構造を呈する。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配置される楕円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：5本確認される。東壁に接するP5内から遺物が出土している。周溝：西壁と南壁の一部で検出される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居跡の中央から東にかけて遺物が散在している。西壁沿いでは焼土が検出されている。時期：古墳時代後期。

148号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	坏	A. 口径10.9。器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 完形。G. 内面にスス附着。H. カマド。
2	坏	A. 口径14.4。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・石英・雲母。E. 内外-橙色。F. 完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径14.6。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子・赤色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
4	坏	A. 口径14.9。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。D. 赤色粒子・雲母。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
5	坏	A. 口径15.0。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・白色粒子。E. 内外-にぶい橙色。F. 2/3。H. カマド。
6	坏	A. 口径13.8。器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 完形。G. 内外面にスス附着。H. 覆土。
7	坏	A. 口径15.4。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ→部分的にヨコミガキ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内-橙色。外-明赤褐色。F. 完形。H. 覆土。
8	小形甕	A. 口径9.2。底径6.3。器高10.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、摩滅。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上半ユビオサエ。下半ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面、二次被熱。H. 覆土。
9	鉢	A. 口径14.2。底径4.9。器高13.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ→上半ヨコナデ、下半ナナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内-にぶい褐色。外-橙色。F. 外面胴部下半・内面胴部上半スス附着。G. 完形。H. カマド。
10	高坏	A. 残存高12.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、調整摩滅。D. 石英。E. 内外-橙色。F. 1/3。H. 覆土。
11	中形甕	A. 口径18.4。底径6.3。器高16.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテ～ナナメナデ。D. 石英・片岩。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. カマド。
12	大形甕	A. 口径21.6。底径8.0。器高29.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメ～タテナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテ～ナナメナデ。D. 石英・片岩・雲母。粒子粗い。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
13	甕	A. 口径19.2。残存高26.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、摩滅。D. 石英・角閃石。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 器面の荒れ激しい。H. 覆土。
14	甕	A. 口径13.0。底径7.5。器高28.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁～胴部上位ヨコナデ。胴部ナナメナデ→ヨコナデ。D. 石英。E. 内外-浅黄褐色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。器面の荒れ激しい。内外面、胴部にスス附着。H. 覆土。



148号住居跡

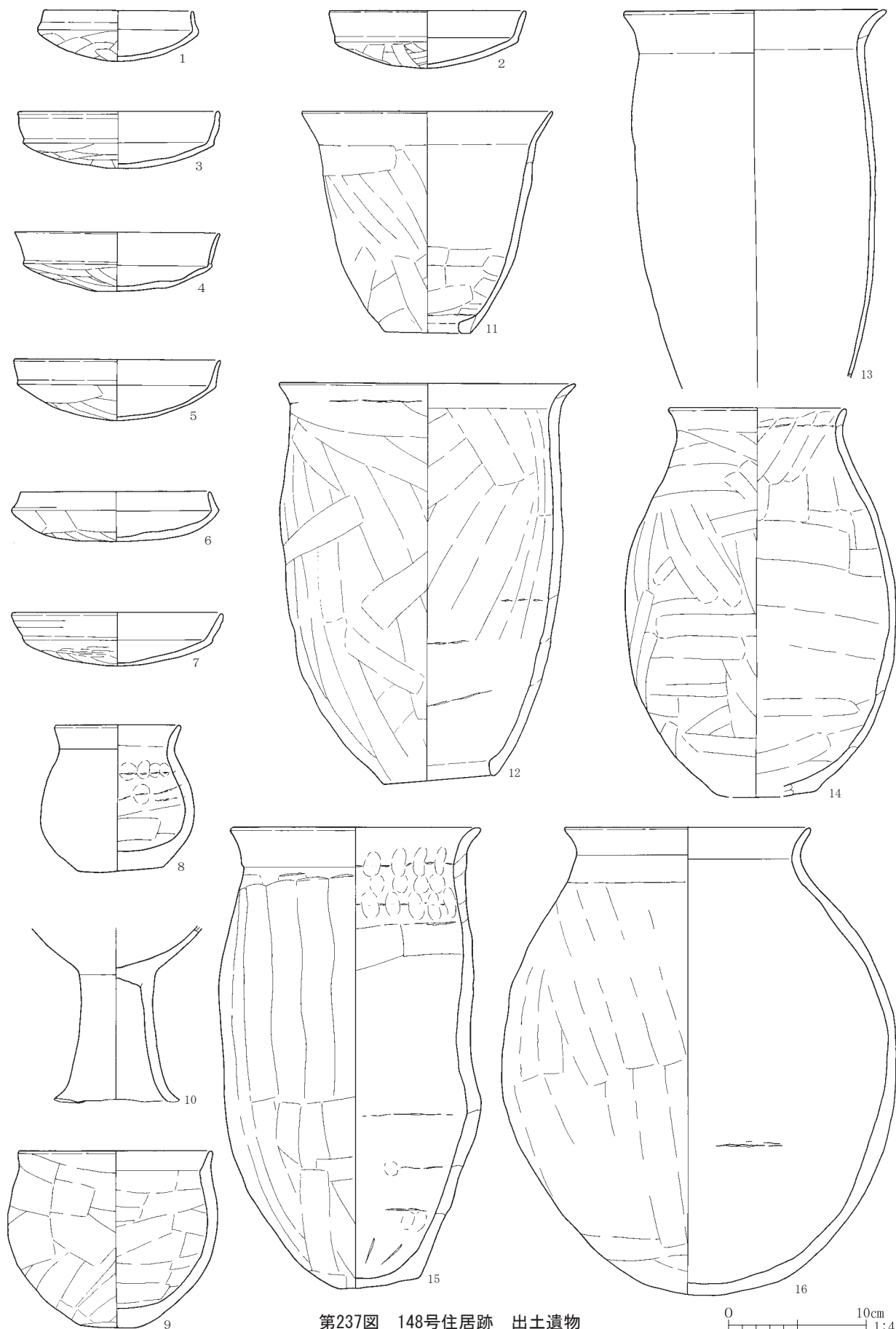
- 1層 暗褐色土層 白色粒子を中量、炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりやや強。
- 2層 暗褐色土層 白色粒子・黄斑・黒斑を少量含む。粘性・しまりやや強。
- 3層 暗褐色土層 白色粒子・黄斑・黒斑を多量に含む。粘性・しまりやや強。
- 4層 灰褐色土層 黄斑を多量、白色粒子・黒斑を微量に含む。粘性・しまりやや強。

148号住居跡 カマド

- 1層 灰褐色土層 白色粒子を少量含む。粘性・しまりとも非常に強い。
- 2層 灰白色土層 白色粒子を中量、黄白色粒子を微量含む。粘性・しまりとも非常に強い。
- 3層 灰褐色土層 焼土ブロック・黒斑を多量、黄白色粒子を中量含む。粘性・しまり強。
- 4層 灰褐色土層 黒斑・灰色粘土を多量、焼土ブロックを中量含む。粘性・しまり強。
- 5層 灰色土層 灰層。
- 6層 灰色土層 黄白色粒子・黒斑を中量含む。粘性・しまり強。
- 7層 灰色土層 黒斑を多量、黄白色粒子を中量含む。粘性・しまり強。



第236図 148号住居跡



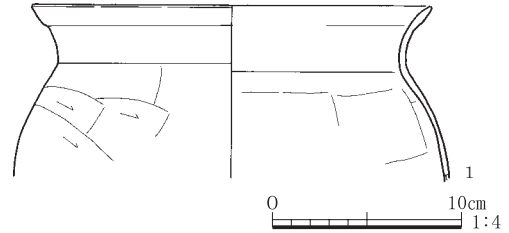
第237图 148号住居跡 出土遺物

148号住居跡 出土遺物観察表

15	甕	A. 口径 17.3。底径 5.9。器高 33.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。内面口縁部～胴部上位ヨコナデ・ユビオサエ。下位ユビオサエ。D. 片岩・石英・赤色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。外面胴部下位～底部に粘土附着あり。H. カマド。
16	甕	A. 口径 18.0。器高 34.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部摩滅。D. 石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面胴部下位スス付着。H. 覆土。

149号住居跡 (第238・240図、図版35・88)

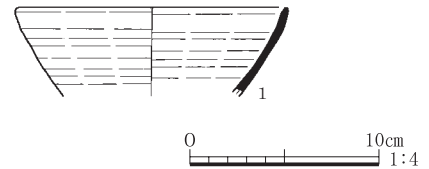
位置：E地点北壁に南西コーナーのみ検出され、大部分が調査区外へと延びる。150号住居跡と重複し、本遺構が新しい。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：平安時代。



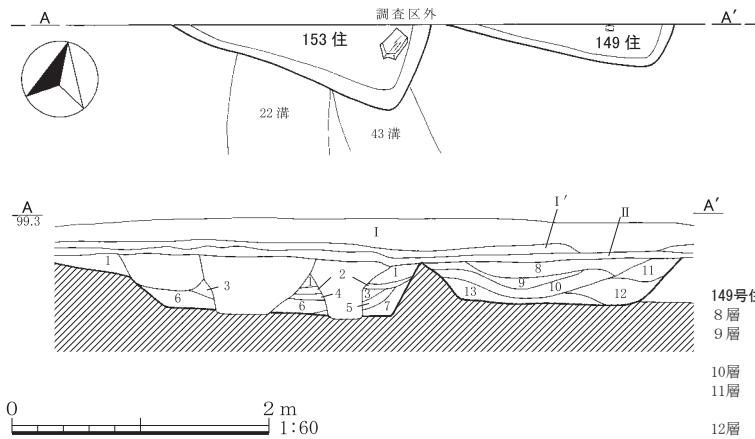
第238図 149号住居跡 出土遺物

153号住居跡 (第239・240図、図版36・88)

位置：E地点北壁に南西コーナーのみ検出され、大部分が調査区外へと延びる。22号溝・43号溝と重複し、本遺構が古い。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器などが出土している。時期：平安時代。



第239図 153号住居跡 出土遺物



153号住居跡

- 1層 黒褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 2層 黒色土層 炭化物粒子を多量、ローム粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、焼土粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 4層 暗褐色土層 焼土粒子を多量、炭化物粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 5層 黒褐色土層 炭化物粒子を中量、ロームブロック・焼土粒子を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 6層 暗褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子・小礫・鉄斑を微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 7層 暗褐色土層 ロームブロックを中量、焼土粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。

149号住居跡

- 8層 暗褐色土層 焼土粒子・小礫を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 9層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 10層 黒褐色土層 焼土粒子を中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 11層 黒褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 12層 淡褐色土層 ロームブロックを微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 13層 暗褐色土層 焼土粒子を微量含む。粘性やや強、しまりあり。

第240図 149号・153号住居跡

149号住居跡 出土遺物観察表

1	甕	A. 口径 (21.2)。残存高 (9.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 口縁部 1/4。H. 覆土。
---	---	--

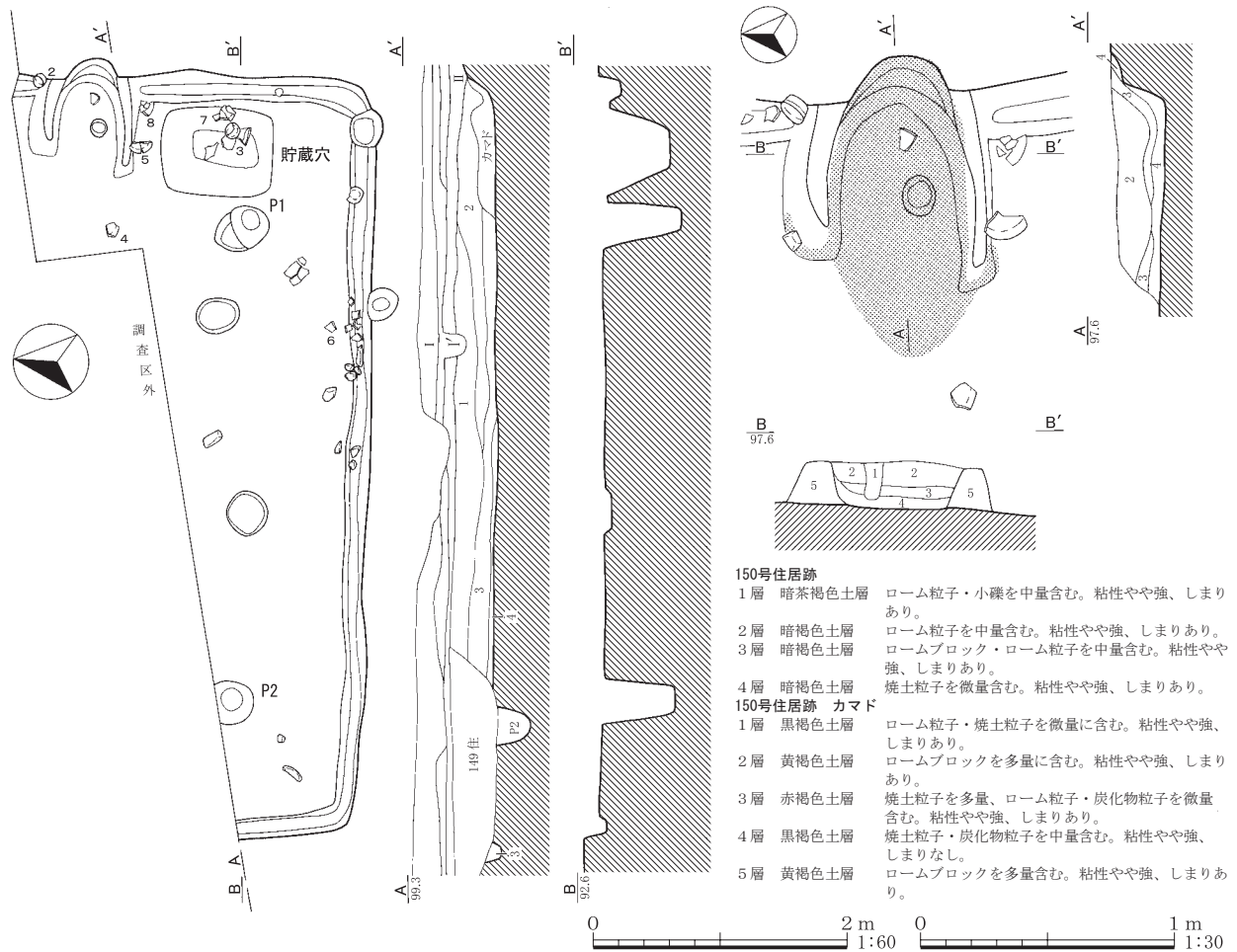
153号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径 (14.4)。残存高 4.7。B. ロクロ成形。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 口縁部破片。H. 覆土。
---	----------	--

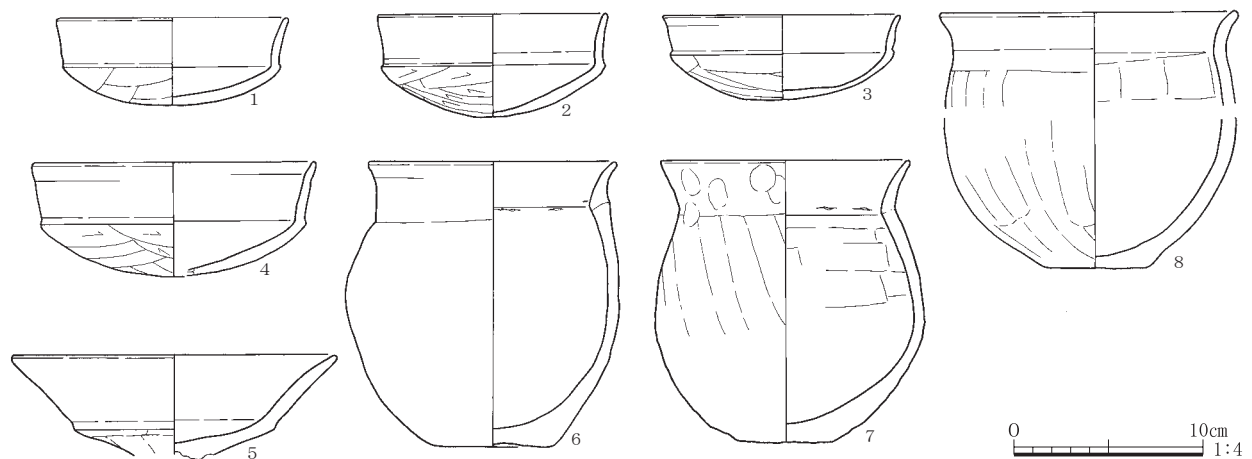
150号住居跡 (第241・242図、図版36・88)

位置：E地点北壁に検出され、北側2/3が調査区外となっている。149号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈すると思われる。主軸方位：N-76°-E。規模：長軸6.11mを測る。

カマド：東壁に付設される。燃焼部は住居内に収まり、住居外へと延びる煙道がわずかながら残存している。燃焼部のピットは、支脚の抜き取り痕の可能性ある。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配置される、長方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本確認される。このうちP1とP2が主柱穴のと思われる。周溝：全面で確認される。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：カマド周辺及び、南壁中央部分に集中して出土している。時期：古墳時代後期。



第241図 150号住居跡



第242図 150号住居跡 出土遺物

150号住居跡 出土遺物観察表

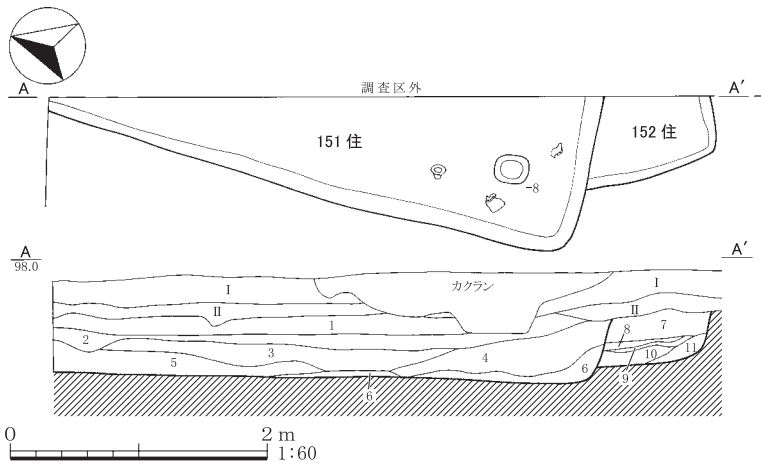
1	坏	A. 口径12.3。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.2。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.7。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土・貯蔵穴。
4	坏	A. 口径15.1。器高6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 内外面、二次被熱。H. 覆土。
5	高坏	A. 口径17.1。残存高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部下半タテナデ→ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 体部1/2。H. 覆土。
6	小形甕	A. 口径13.2。底径6.5。器高15.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、調整摩滅。D. 角閃石・石英。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 2/3。G. 内外面、二次被熱。H. 覆土。
7	小形甕	A. 口径7.3。底径5.1。器高15.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下半、二次被熱。内面胴部下半ヨゴレ。H. 覆土・貯蔵穴。
8	鉢	A. 口径(15.8)。底径5.7。器高(13.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 図上復元。H. 覆土。

151号住居跡 (第243・244図、図版36・88)

位置：E地点東壁沿いに西壁と南壁の一部が検出された。152号住居跡と重複し、本遺構が新しい。
埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より遺物が出土している。時期：平安時代。

152号住居跡 (第243図、図版36)

位置：E地点東壁沿いに南西コーナーが検出された。151号住居跡と重複し、本遺構が古い。
埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土から土器片が出土する。時期：平安時代以前。



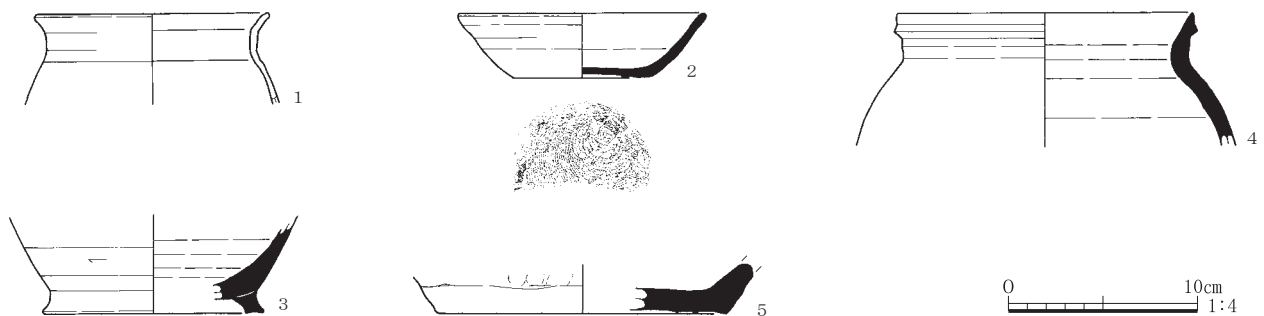
151号住居跡

- 1層 黒褐色土層 ローム粒子を少量、砂礫を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを中量、焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 4層 暗黄褐色土層 ロームブロック・砂礫を中量、焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 5層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 6層 暗褐色土層 焼土粒子を中量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。

152号住居跡

- 7層 暗褐色土層 ローム粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 8層 暗黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性・しまりあり。
- 9層 暗茶褐色土層 ローム粒子を中量含む。粘性やや強、しまりあり。
- 10層 暗褐色土層 ローム粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 11層 黒褐色土層 ロームブロックを微量に含む。粘性やや強、しまりあり。

第243図 151号・152号住居跡



第244図 151号住居跡 出土遺物

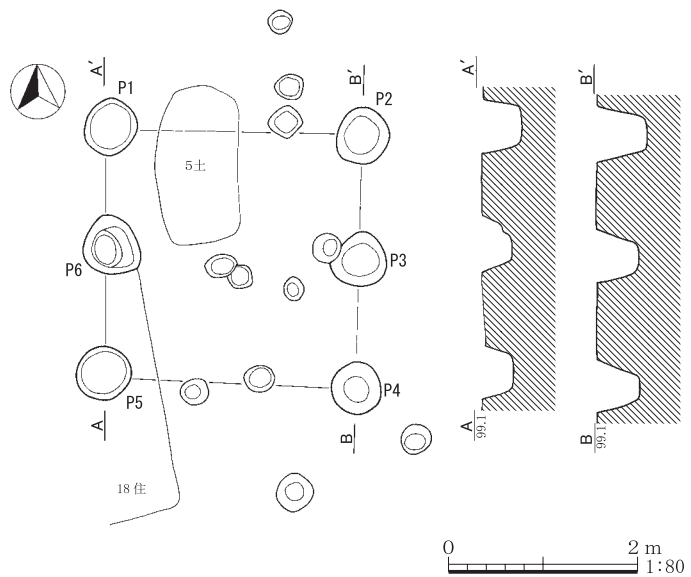
151号住居跡 出土遺物観察表

1	甕	A. 口径(12.4)。残存高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 器面の荒れ激しく、調整不明瞭。D. 石英・片岩。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土。
2	須恵器 坏	A. 口径13.2。底径7.4。器高3.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内一灰色。外一灰白色。F. 2/3。H. 覆土。
3	須恵器 高台付壺	A. 底径(11.6)。残存高5.2。B. ロクロ成形。C. 外面、体部下位回転ヘラケズリ。貼付高台。D. 石英・片岩。E. 内外一灰色。F. 底部破片。H. 覆土。
4	須恵器 甕	A. 口径(15.6)。残存高7.2。B. ロクロ成形。D. 白色粒子・石英。E. 内外一灰色。F. 口縁部破片。H. 覆土。
5	須恵器 甕	A. 底径15.4。残存高2.6。B. ロクロ成形。C. 外面、ヨコナデ・ユビオサエ。底部ナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一灰色。F. 底部1/3。H. 覆土。

2. 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡(第245図、図版36)

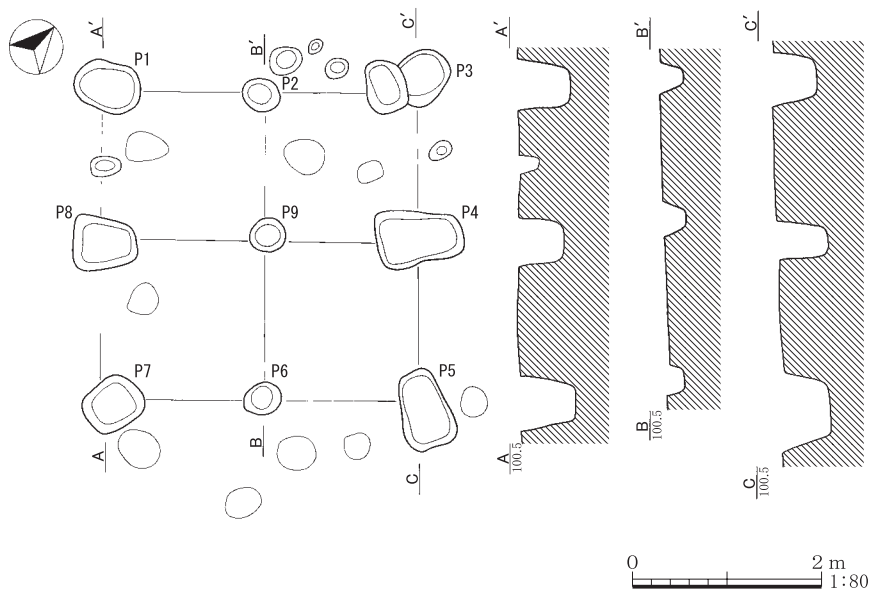
位置：B地点の北に位置している。
18号住居跡と重複し、本遺構が新しい。
形態：南北方向2間、東西方向1間の方形を呈する側柱式である。
長軸方位：N-3°-E。規模：一辺3.26m。柱心間は東西一間2.65m、南北一間1.30mを測る。柱穴：直径50cm程度の円形を呈し、深さは平均40cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：不明。



第245図 1号掘立柱建物跡

2号掘立柱建物跡(第246図、図版36)

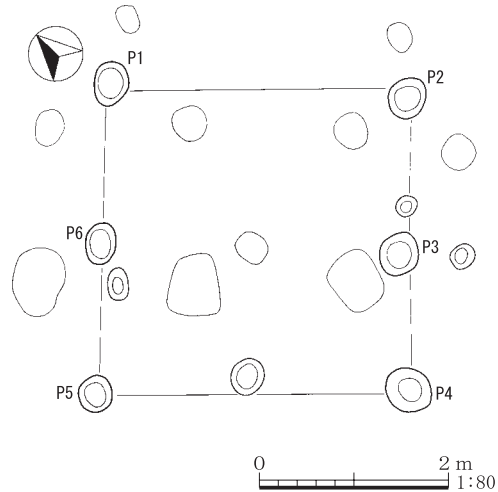
位置：B地点の南に位置している。3号掘立柱建物跡・4号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北・東西方向2間の方形を呈する総柱式である。長軸方位：N-42°-W。規模：長軸4.24m、短軸3.96m。柱心間は東西・南北一間1.60mを測る。柱穴：方形を呈し、深さは25~50cm。P2・9・6の3本は円形を呈し、深さは約25cmと浅く、他の柱穴と異なる。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：古代。



第246図 2号掘立柱建物跡

3号掘立柱建物跡(第247図、図版36)

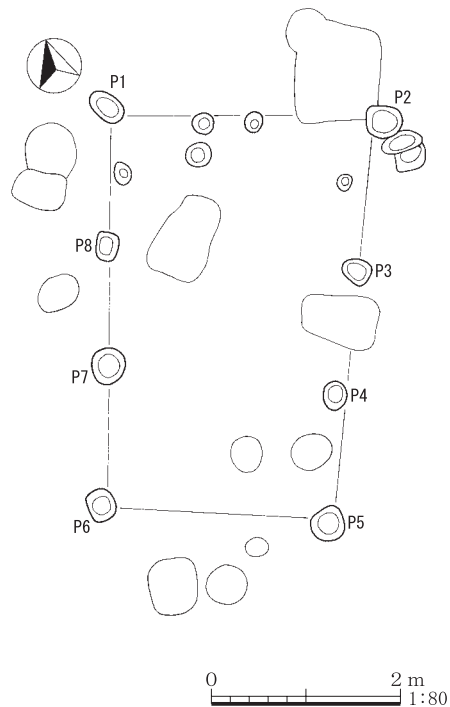
位置：B地点の南に位置している。2号掘立柱建物跡・4号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向2間、東西方向1間の方形を呈する側柱式である。長軸方位：N-50°-E。規模：長軸3.72m、短軸3.54m。柱心間は東西一間3.30m、南北一間1.40mを測る。柱穴：直径50cm程度の円形を呈し、深さは不明である。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：不明。



第247図 3号掘立柱建物跡

4号掘立柱建物跡(第248図、図版36・37)

位置：B地点の南に位置している。2号掘立柱建物跡・3号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向3間、東西方向1間の長方形を呈する側柱式である。長軸方位：N-16°-E。規模：長軸4.50m、短軸2.75m。柱心間は東西一間2.40m、南北一間1.45mないしは1.30mを測る。柱穴：直径30cm程度の円形を呈し、深さは不明。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：不明。

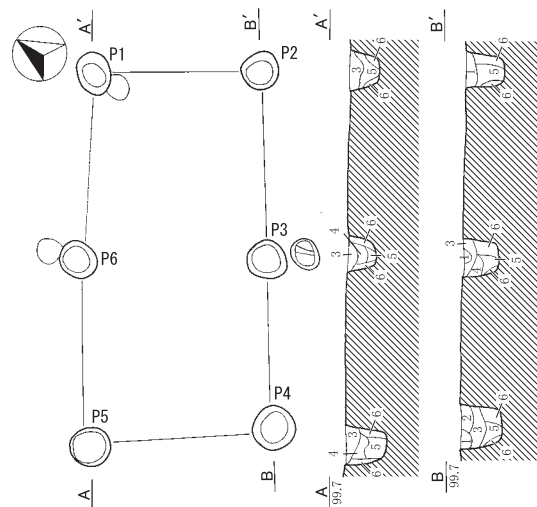


第248図 4号掘立柱建物跡

6号掘立柱建物跡(第249図、図版37)

位置：B地点の東に位置している。5号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向1間、東西方向2間の長方形を呈する側柱式である。長軸方位：N-58°-E。規模：長軸4.54m、短軸2.58m。柱心間は東西・南北一間2.10mを測る。柱穴：直径50cm程度の円形を呈し、

深さは約40cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：不明。



- 6号掘立柱建物跡**
- 1層 暗茶褐色土層 ローム粒子を微量含む。粘性・しまりあり。
 - 2層 暗黄褐色土層 ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子を中量含む。粘性・しまりあり。
 - 3層 暗茶褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を中量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 - 4層 暗黄褐色土層 ロームブロックを中量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 - 5層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 - 6層 暗茶褐色土層 ロームブロックを中量含む。粘性・しまりあり。

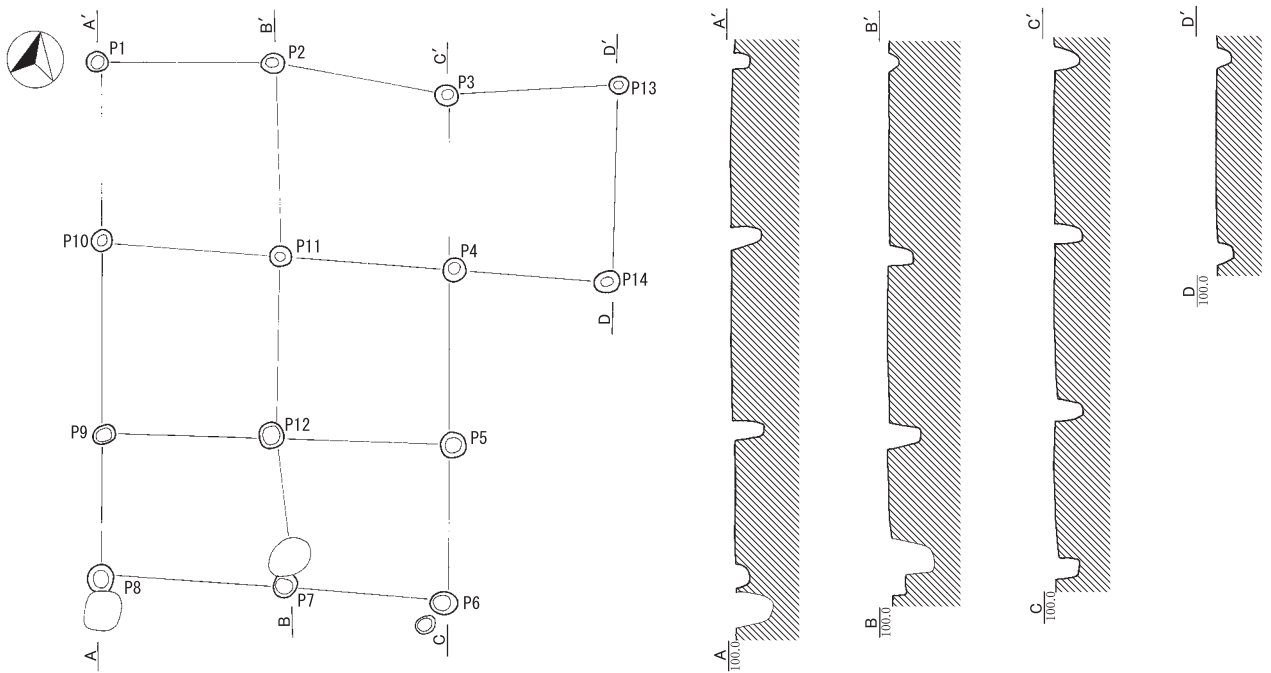
第249図

6号掘立柱建物跡



5号掘立柱建物跡(第250図、図版37)

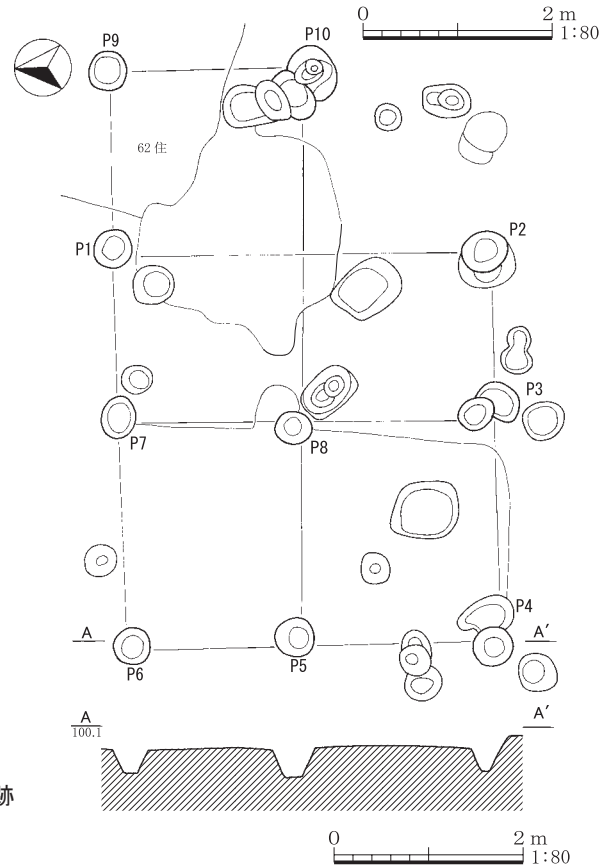
位置：B地点の東に位置している。6号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明。形態：南北方向3間、東西方向2間の長方形を呈する総柱式で、張り出しを伴う。長軸方位：N-17°-W。規模：身舎部分は長軸5.79m、短軸4.04m。柱心間は東西・南北一間1.70~2.00mを測り、柱通りは悪く柱心距離は一定ではない。張り出し部の幅は1.70mである。柱穴：直径30cm程度の円形を呈し、深さは約30cm。張り出し部分の柱穴も平面は同規模であるが、深さは20cmとやや浅い。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。



第250図 5号掘立柱建物跡

7号掘立柱建物跡(第251図、図版37)

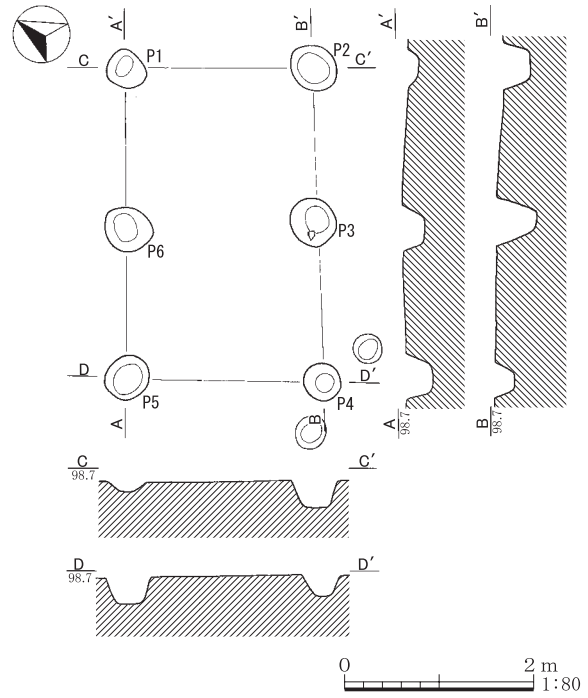
位置：B地点の中央に位置している。62号・63号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：南北方向2間、東西方向2間の長方形を呈する側柱式で、北東に張り出しを伴う。長軸方位：N-87°-E。規模：長軸4.62m、短軸4.18m。柱心間は東西一間1.70~2.50m、南北一間1.80~2.00mと柱通りは良いが柱心距離は一定ではない。張り出しの幅は1.80mである。柱穴：直径40cm程度の円形を呈し、深さは約30cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：古墳時代以降。



第251図 7号掘立柱建物跡

8号掘立柱建物跡(第252図、図版37)

位置：D地点の南に位置している。形態：南北方向1間、東西方向2間の長方形を呈する側柱式。長軸方位：N-63°-E。規模：長軸3.75m、短軸2.50m。柱心間は東西一間1.70m、南北一間2.50mを測る。柱穴：直径50cm程度の円形を呈し、深さは20cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：不明。

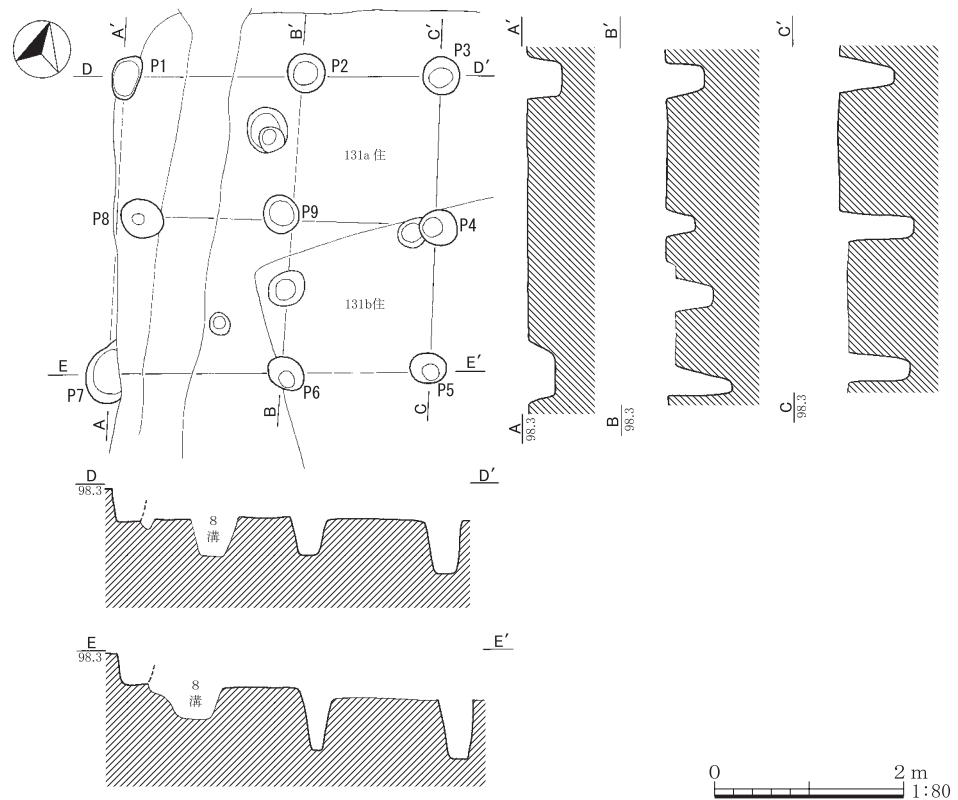


第252図 8号掘立柱建物跡

9号掘立柱建物跡(第253図、図版37)

位置：D地点のほぼ中央に位置している。131号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：南北方向2間、東西方向2間の方角を呈する総柱式。長軸方位：N-18°-W。規模：一辺3.70m。柱心間は東西・南北一間約1.60mを測る。柱穴：直径

40cm程度の円形を呈し、深さは30cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：古墳時代以降。



第253図 9号掘立柱建物跡

10号掘立柱建物跡(第255図)

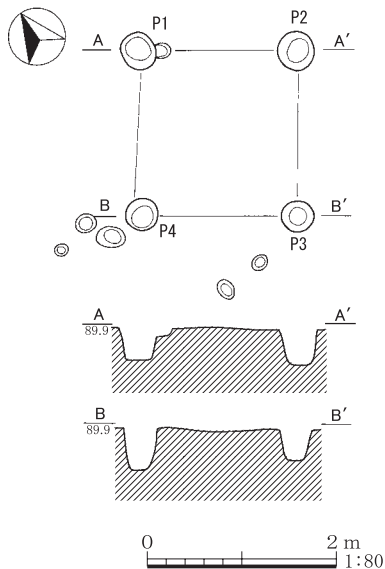
位置：D地点のほぼ中央に位置している。形態：南北方向3間、東西方向3間の長方形を呈する側柱式。長軸方位：N-53°-W。規模：長軸

6.22m、短軸4.53m。柱心間は東西一間1.90~2.00m、南北一間1.30~1.50mを測る。柱穴：直径30cm程度の円形呈し、深さは平均30cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：不明。

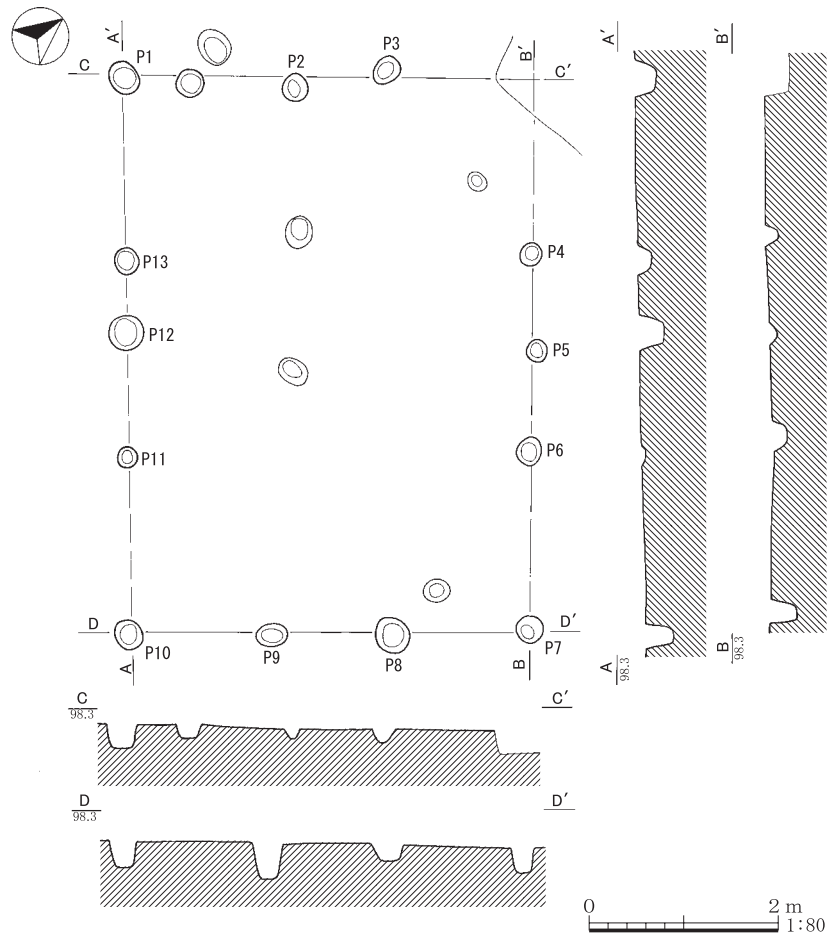
11号掘立柱建物跡(第254図、図版37)

位置：D地点に位置している。形態：南北方向1間、東西方向1間の方角を呈する側柱式である。長

軸方位：N-35°-E。規模：長軸2.12m、短軸2.05m。柱心間は一間1.60~1.80mを測る。柱穴：直径40cm程度の円形を呈し、深さは40cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：不明。



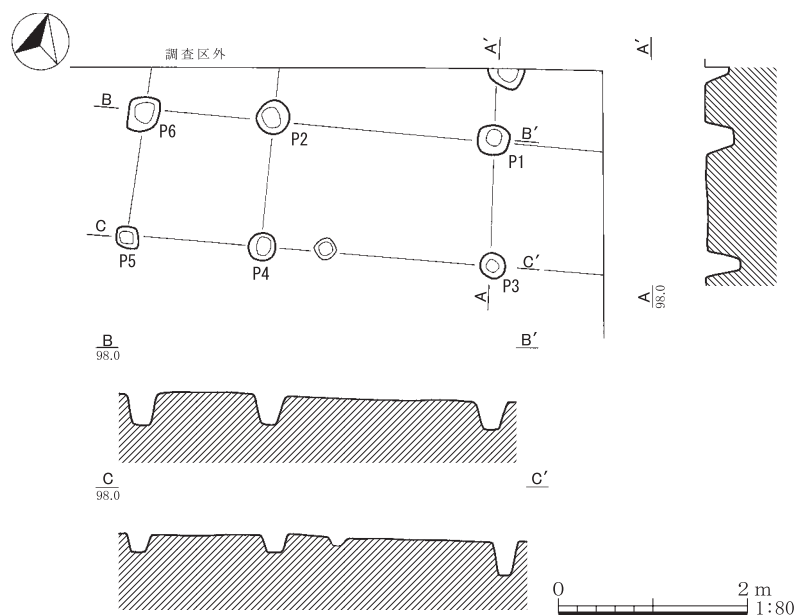
第254図 11号掘立柱建物跡



第255図 10号掘立柱建物跡

12号掘立柱建物跡(第256図、図版37)

位置：E地点の北東に位置している。150号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：南西隅のみの検出のため、全容は不明である。ただし、西と南の2面に庇を伴う。長軸方位：N-7°-W。柱心間は東西一間2.40mを測る。庇の幅は1.30mである。柱穴：直径30cm程度の円形を呈し、深さは30cm。庇部分の柱穴も同規模である。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

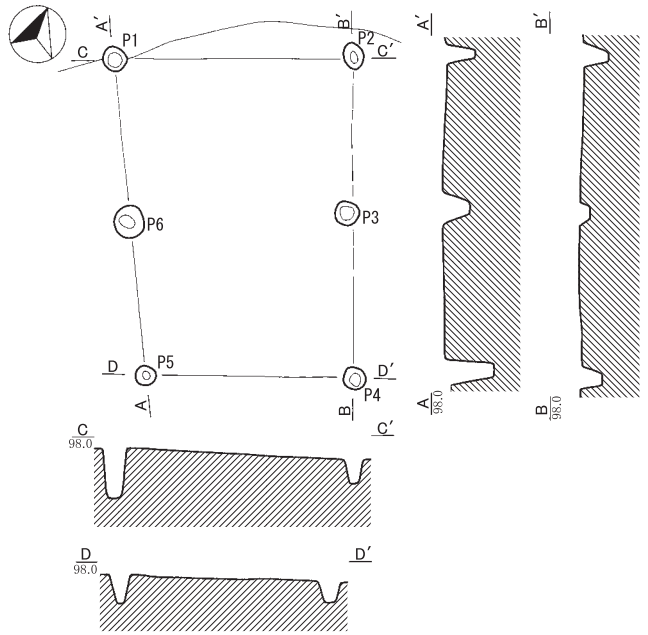


第256図 12号掘立柱建物跡

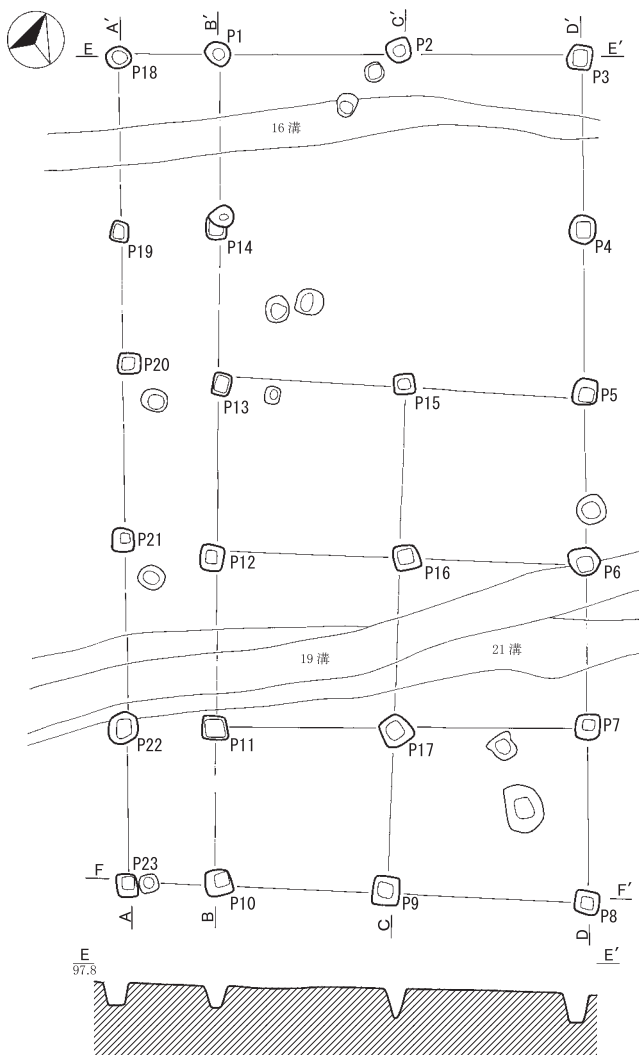
13号掘立柱建物跡(第258図、図版38)

位置：E地点の北東に位置している。形態：南北方向5間、東西方向2間の長方形を呈する総柱式で、西面に庇を伴う。身舎の北側の2間×2間は土間だと

思われる。長軸方位：N-13°-W。規模：長軸9.00m、短軸5.10m。身舎部分は短軸4.16m。柱心間は東西一間1.80~2.10m、南北一間1.60~1.80mを測る。底の幅は1.00mである。柱穴：直径40cm程度の方角を呈し、深さは10~60cmとばらつきがある。底部分の柱穴もほぼ同規模である。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。



第257図 14号掘立柱建物跡



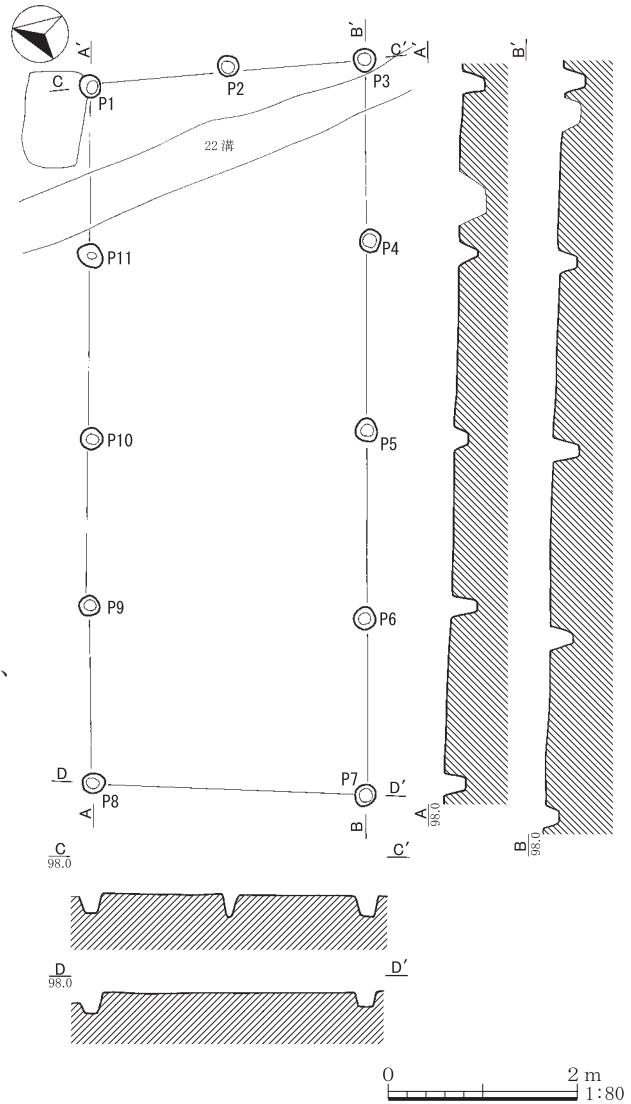
第258図 13号掘立柱建物跡

14号掘立柱建物跡(第257図、図版38)

位置：E地点の東に位置している。形態：南北方向2間、東西方向1間の長方形を呈する側柱式。長軸方位：N-19°-W。規模：長軸3.65m、短軸2.62m。柱心間は東西一間2.50mないしは2.30m、南北一間1.60mないしは1.70mを測る。柱穴：直径20~30cm程度の円形を呈し、深さは10~55cmとばらつきがある。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

15号掘立柱建物跡(第259図、図版38)

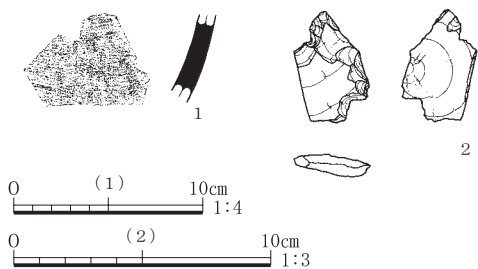
位置：E地点の東に位置している。形態：南北方向2間、東西方向4間の長方形を呈する側柱式。長軸方位：N-84°-E。規模：長軸8.00m、短軸3.10m。柱心間は東西一間1.90m、南北一間1.40mを測る。柱穴：直径20~30cm程度の円形を呈し、深さは約20cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。



第259図 15号掘立柱建物跡

17号掘立柱建物跡(第260・261図、図版38・88)

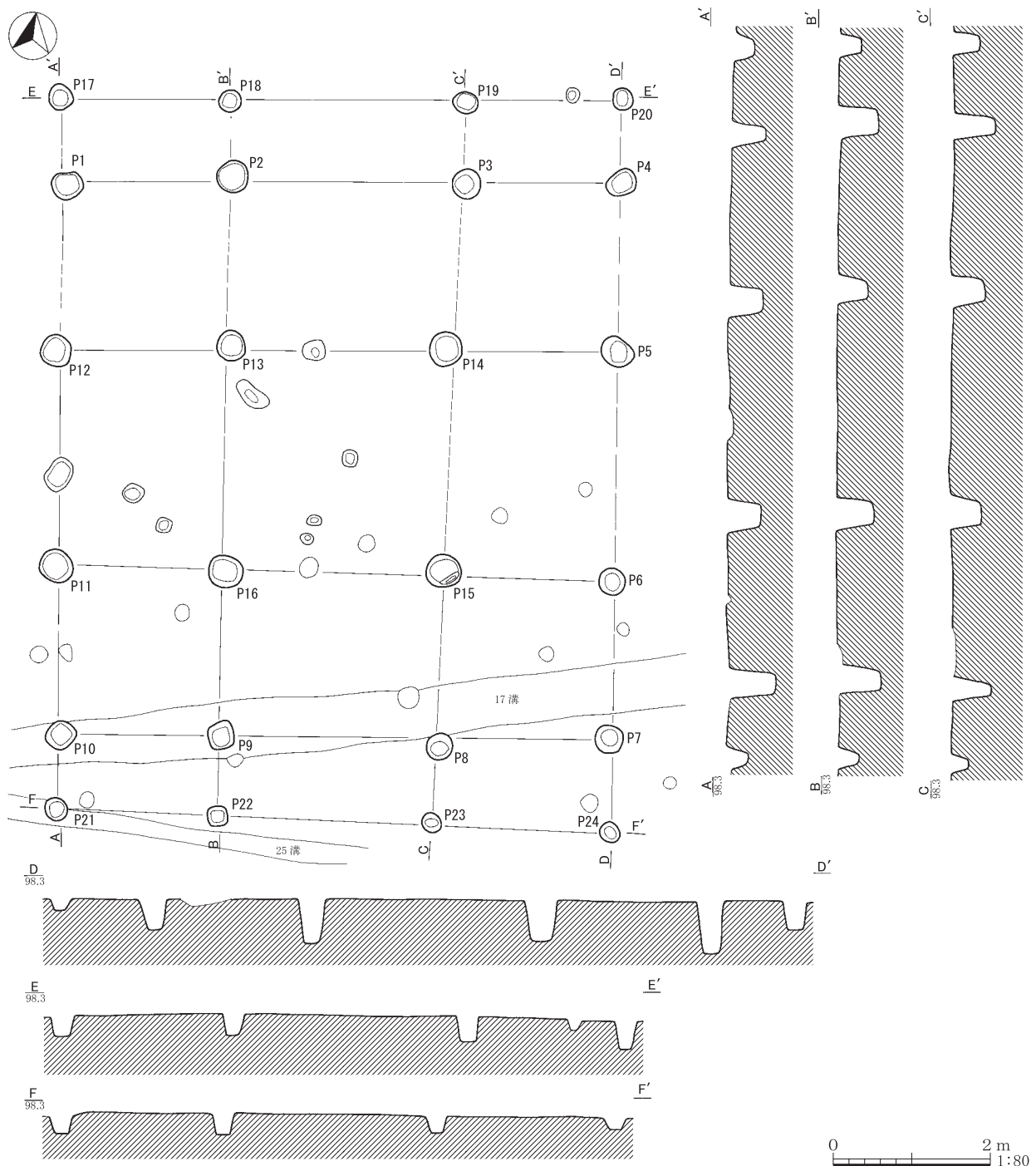
位置：E地点の東に位置している。18号掘立柱建物跡・17号溝・25号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向3間、東西方向3間の長方形を呈する総柱式で、北と南の2面に庇を伴う。長軸方位：N-8°-W。規模：長軸9.35m、短軸7.30m。身舎部分は長軸8.43m。柱心間は東西・南北一間2.10m又は2.70mを測る。庇の幅は0.90~1.10mである。柱穴：直径40cm程度の円形を呈し、深さは30~50cm。庇部分の柱穴は直径20~30cm程度の円形を呈し、深さは20cmと身舎よりも小規模な柱穴となる。覆土：不明。遺物：須恵器片がピット覆土より出土した。時期：中世。



第260図 17号掘立柱建物跡 出土遺物

17号掘立柱建物跡 出土遺物観察表

1	須恵器 甕	A. 残存高4.7。B. タタキ成形。C. 外面、平行タタキ目→ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外-灰色。F. 破片。H. P 18。
2	スクレイパー	A. 長4.4。幅3.0。厚0.8。重8.32。D. 頁岩。F. 2/3。H. P 6覆土。



第261図 17号掘立柱建物跡

16号掘立柱建物跡(第262図、図版38)

位置：E地点の東に位置している。17号溝・24号溝・26号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向3間、東西方向1間の長方形を呈する側柱式。長軸方位：N-7°-W。規模：長軸9.82m、短軸3.44m。柱心間は東西一間3.20m、南北一間2.90~3.30mを測る。柱穴：直径20~30cm程度の円形を呈し、深さは20~40cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

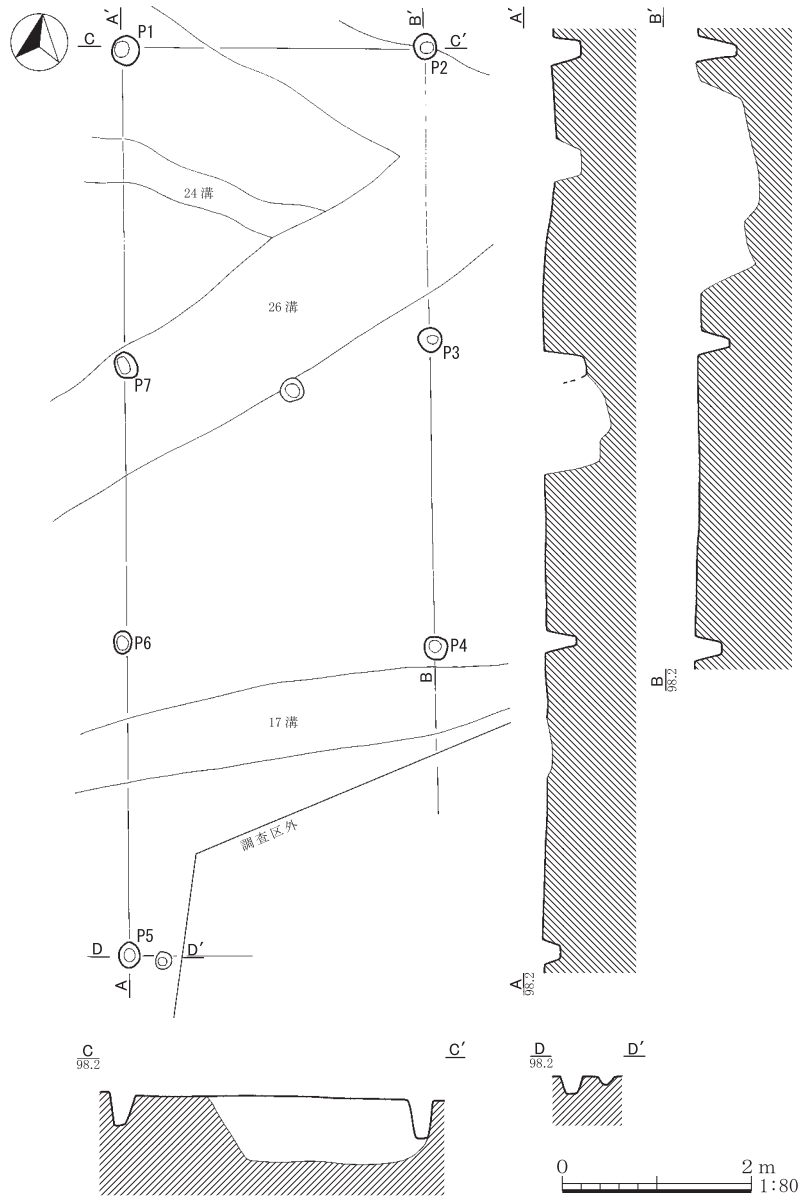
19号掘立柱建物跡(第263図、図版38)

位置：E地点のほぼ中央に位置している。30号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向

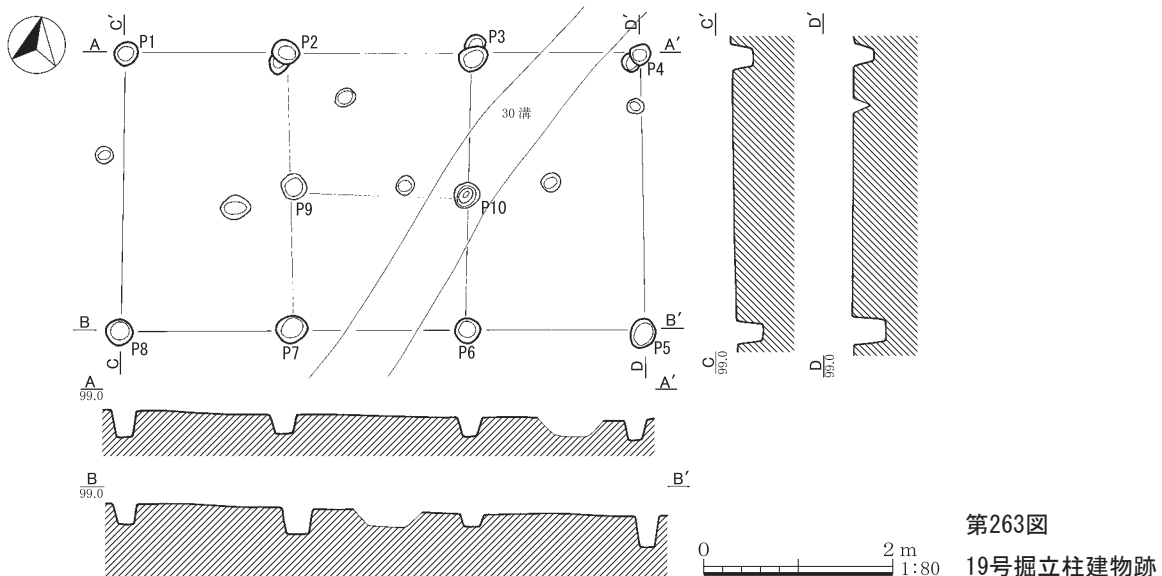
2間、東西方向3間の長方形を呈する総柱式で、側柱が2本欠落している。長軸方位：N-10°-W。規模：長軸5.68m、短軸3.22m。柱心間は東西一間1.80m、南北一間1.45mを測る。柱穴：直径30cm程度の円形を呈し、深さは平均30cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

18号掘立柱建物跡(第264図、図版38)

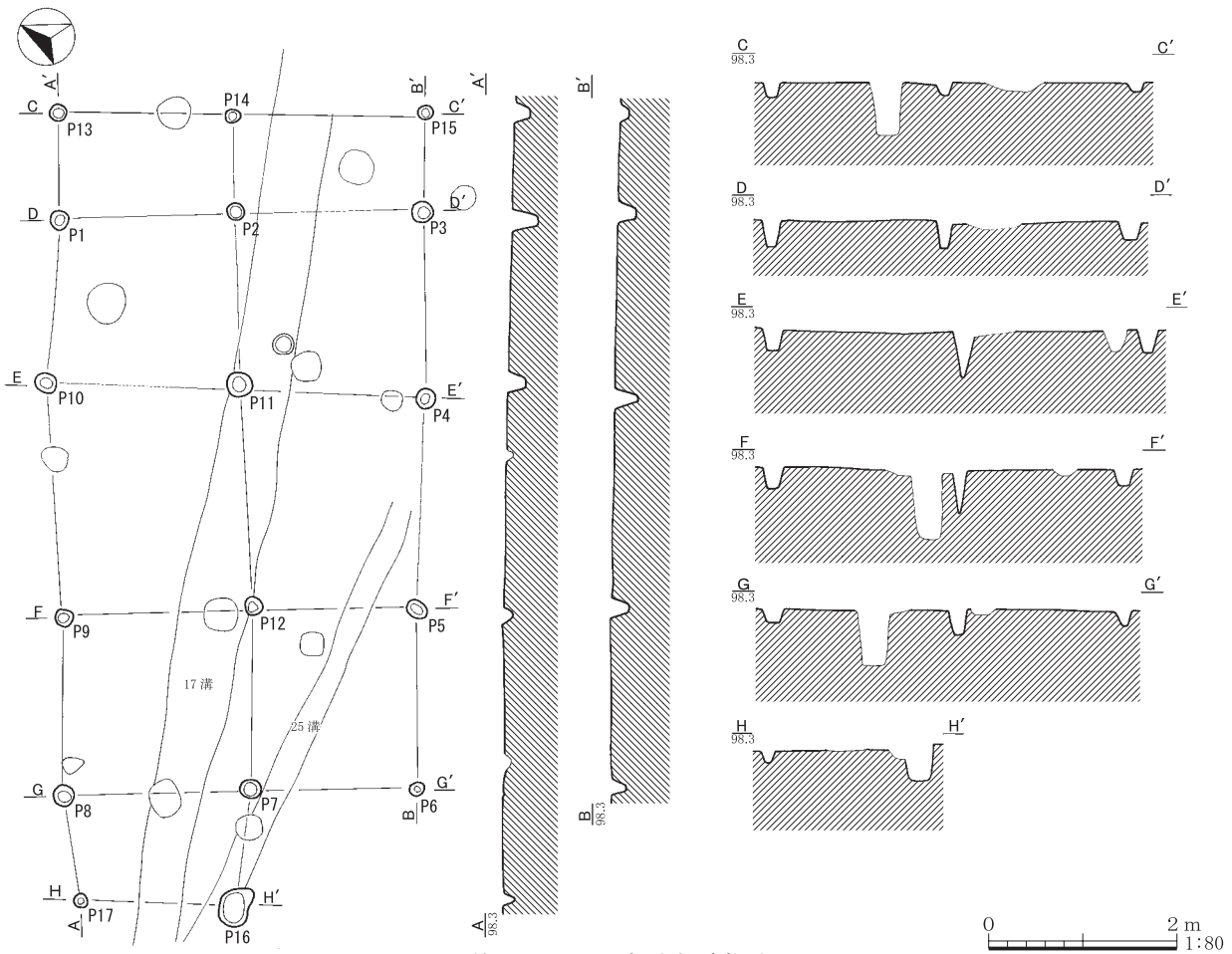
位置：E地点の東に位置している。17号溝・25号溝・17号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明。形態：南北方向2間、東西方向3間の長方形を呈する総柱式で、東面に庇を、北西に張り出しを伴う。長軸方位：N-69°-E。規模：長軸8.50m、短軸3.92m。身舎部分は長軸6.31m。柱心間は東西一間1.70~2.50m、南北一間1.70~2.00mとなり、柱通りは不良である。



第262図 16号掘立柱建物跡



第263図 19号掘立柱建物跡

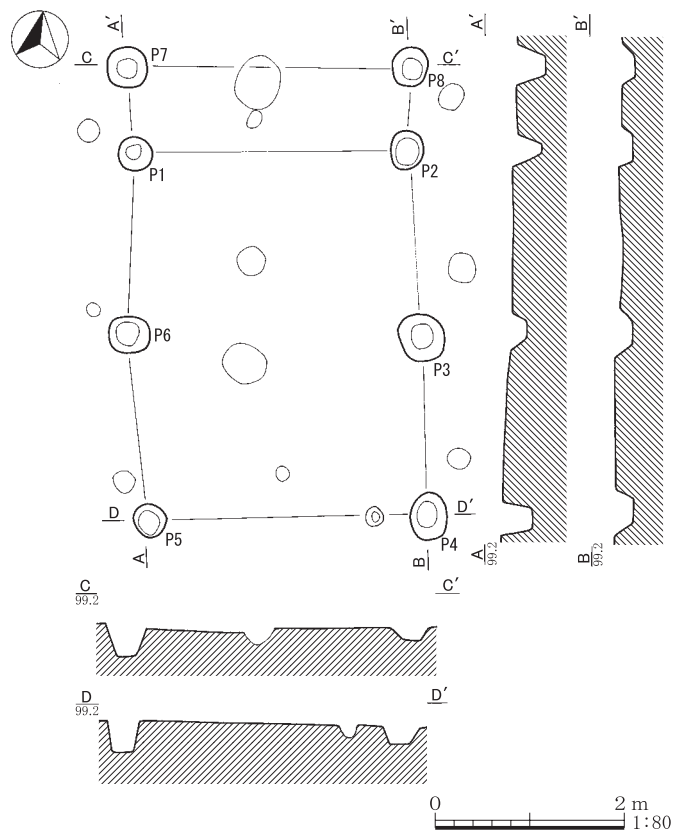


第264図 18号掘立柱建物跡

底の幅は1.00～1.10mを測る。張り出しの幅は1.10～1.20mとなる。柱穴：直径20～30cm程度の円形・を呈し、深さは10～30cm。底部分・張り出し部分の柱穴もほぼ同規模である。遺物：出土していない。時期：中世。

21号掘立柱建物跡(第265図、図版39)

位置：E地点の中央よりやや南に位置している。20号掘立柱建物跡・22号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向2間、東西方向1間の長方形を呈する側柱式で、北面に底を伴う。長軸方位：N-10°-W。規模：長軸5.20m、短軸3.32m。身舎部分は長軸4.32m。柱心間は東西一間2.90～3.10m、南北一間1.90mを測る。底の幅は0.90mである。柱穴：直径40～50cm程度の円形を呈し、深さは10

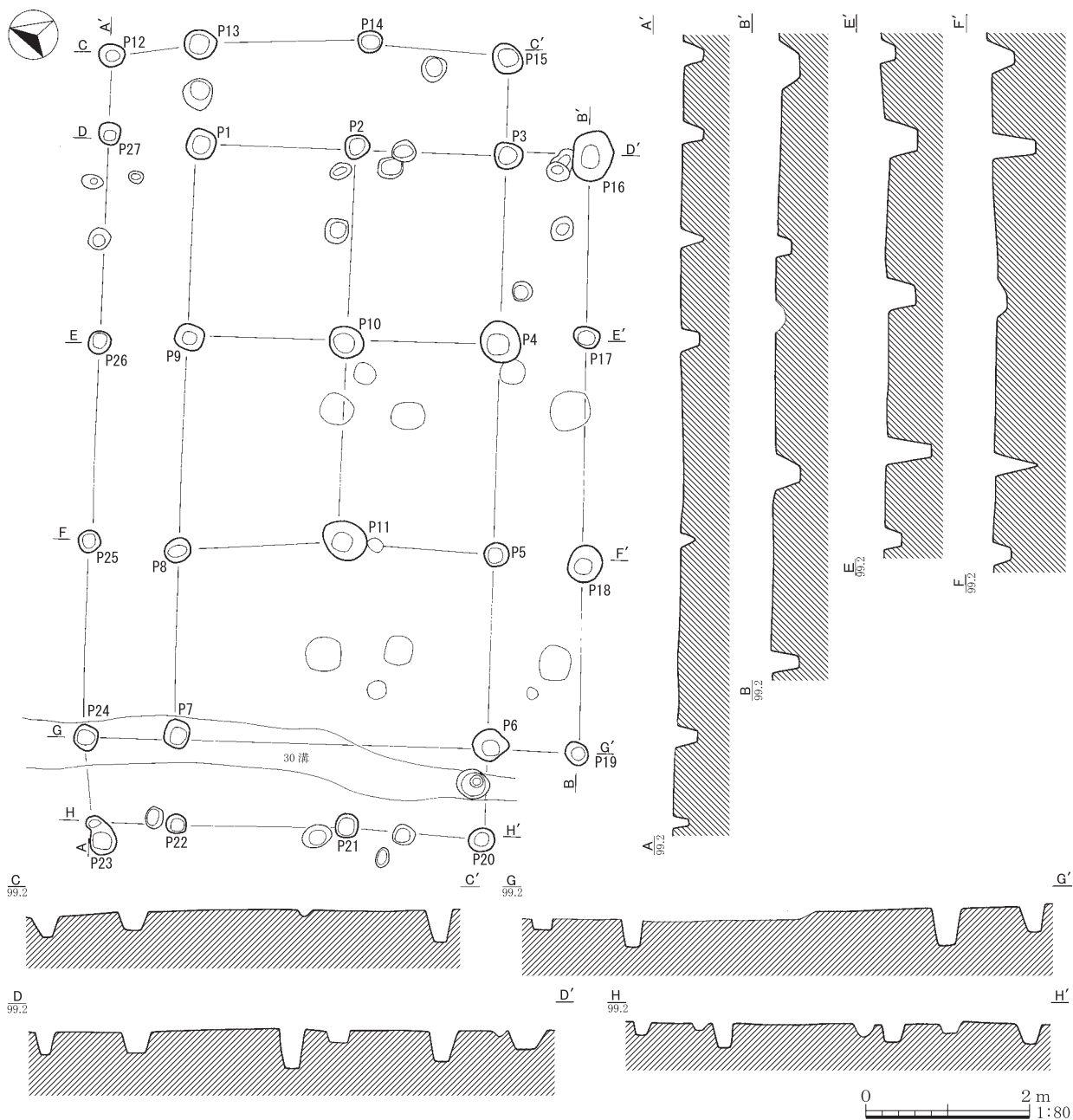


第265図 21号掘立柱建物跡

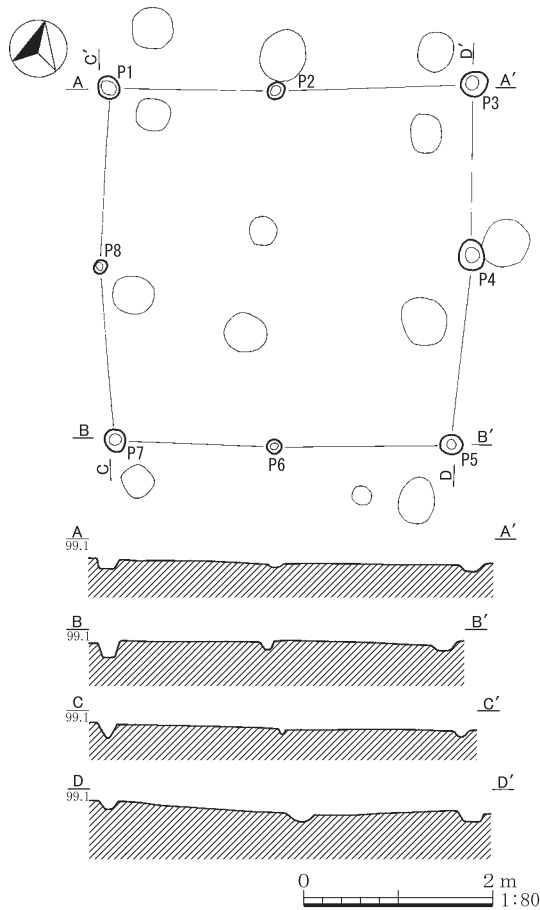
～30cm。底部分の柱穴もほぼ同規模である。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

20号掘立柱建物跡(第266図、図版39)

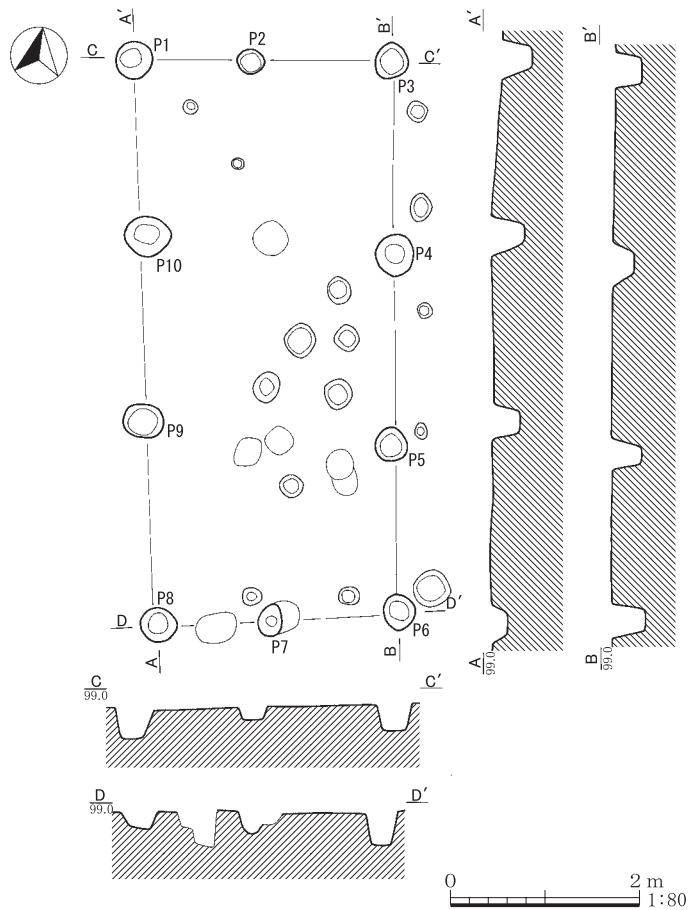
位置：E区の中央よりやや南に位置している。21号掘立柱建物跡・23号掘立柱建物跡・30号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向2間、東西方向3間の長方形を呈する総柱式で、東西南北4面に底を伴う。長軸方位：N-82°-E。規模：長軸9.80m、短軸6.42m。身舎部分は長軸7.54m、短軸4.15m。柱心間は東西一間2.20～2.50m、南北一間1.90mを測る。底の幅は東1.20m、西・北1.10m、南1.00～1.10mである。全体的に柱通りは部分的に不良である。柱穴：直径40～50cm程度の円形を呈し、深さは20～50cm。底部分の柱穴は直径30～40cm程度の円形を呈し、深さは20cmで身舎の柱穴よりも規模は小さい。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。



第266図 20号掘立柱建物跡



第267図 22号掘立柱建物跡



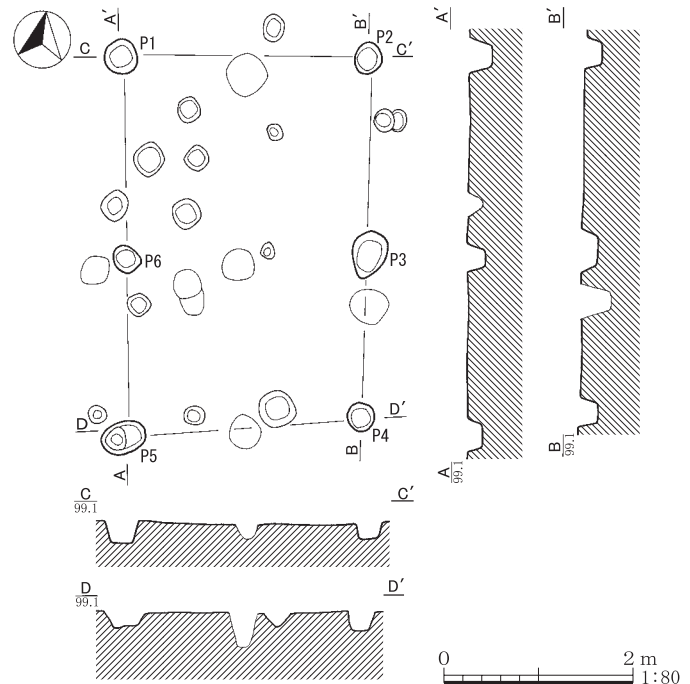
第268図 23号掘立柱建物跡

22号掘立柱建物跡(第267図)

位置：E地点に位置している。20号掘立柱建物跡・21号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：南北方向2間、東西方向2間の方形を呈する側柱式。長軸方位：N-10°-W。規模：長軸4.05m、短軸3.80m。柱心間は東西一間1.70~2.30m、南北一間1.80~2.00mを測り、柱通りは不良である。柱穴：直径15~30cm程度の円形を呈し、深さは10cm。覆土：不明。遺物：遺物は出土していない。時期：中世。

23号掘立柱建物跡(第268図、図版39)

位置：E区の南に位置している。24号掘立柱建物跡・25号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向3間、東西方向2間の長方形を呈する側柱式。長軸方位：N-9°-W。規模：長軸6.35m、短軸3.10m。柱心間は東西

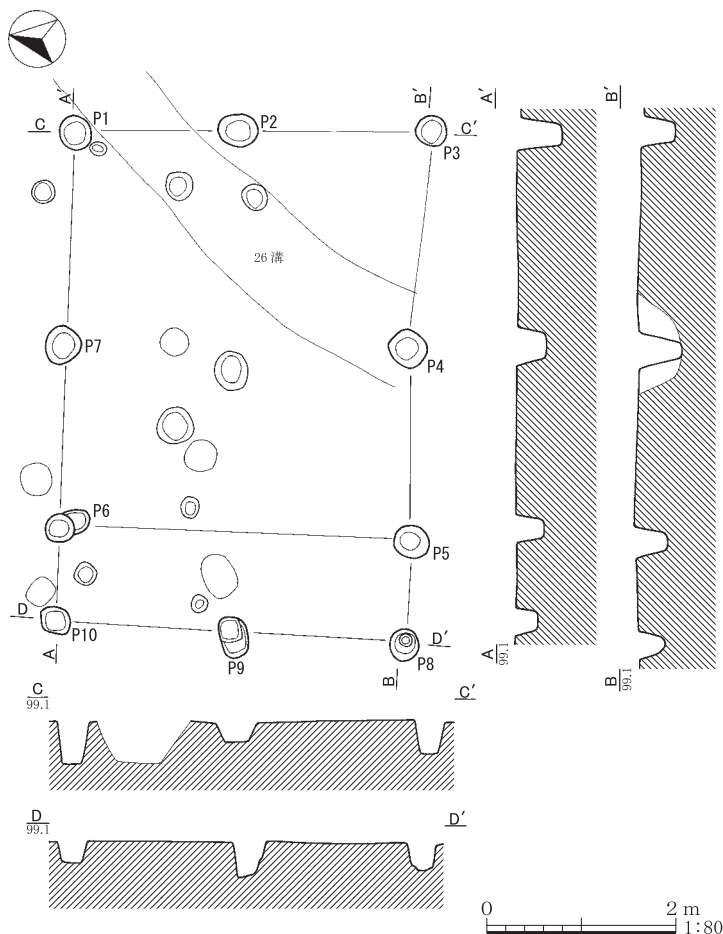


第269図 24号掘立柱建物跡

一間1.20～1.50m、南北一間1.80～2.10mを測る。柱通りは良いが、柱心距離は一定ではない。柱穴：直径40～50cm程度の円形を呈し、深さは10～30cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

24号掘立柱建物跡(第269図、図版39)

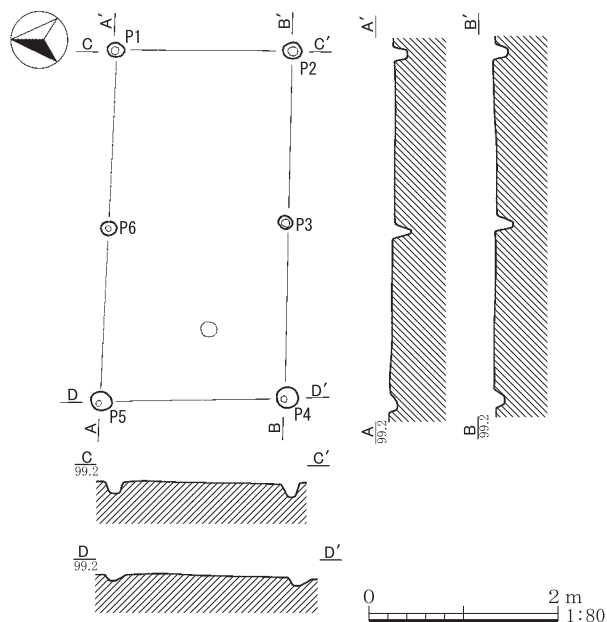
位置：E地点の南に位置している。23号掘立柱建物跡・25号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向2間、東西方向1間の長方形を呈する側柱式。長軸方位：N-8°-W。規模：長軸4.36m、短軸2.96m。柱心間は東西一間2.50～2.60m、南北一間1.70～2.10mを測る。柱穴：直径30～40cm程度の円形を呈し、深さは10～30cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。



第270図 25号掘立柱建物跡

25号掘立柱建物跡(第270図、図版39)

位置：E地点の南に位置している。23号掘立柱建物跡・24号掘立柱建物跡・26号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向2間、東西方向2間の長方形を呈する側柱式で、西面に庇を伴う。長軸方位：N-89°-W。規模：長軸5.49m、短軸4.10m。身舎部分は長軸4.70m。柱心間は東西一間1.90～2.30m、南北一間1.70～2.00mを測る。庇の幅は1.00mである。柱穴：直径30～40cm程度の円形を呈し、深さは20～30cm。庇部分の柱穴も規模は変わらない。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。



第271図 28号掘立柱建物跡

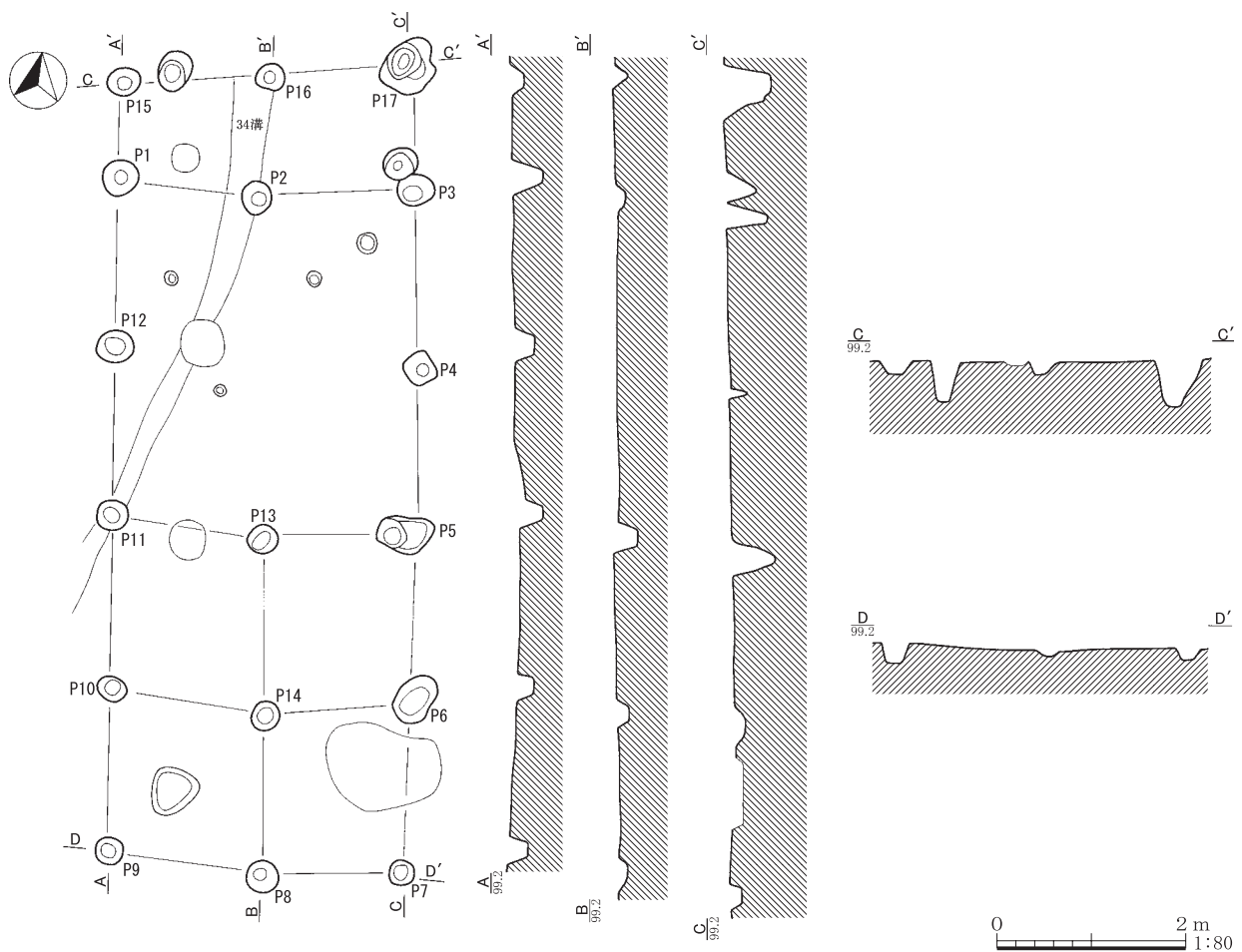
28号掘立柱建物跡(第271図、図版39)

位置：E地点の南に位置している。29号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北

方向1間、東西方向2間の長方形を呈する側柱式。長軸方位：S-88°-E。規模：長軸4.90m、短軸2.18m。柱心間は東西一間1.90m、南北一間1.90mを測る。柱穴：直径20cm以下の円形を呈し、深さは約15cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

26号掘立柱建物跡(第272図、図版39)

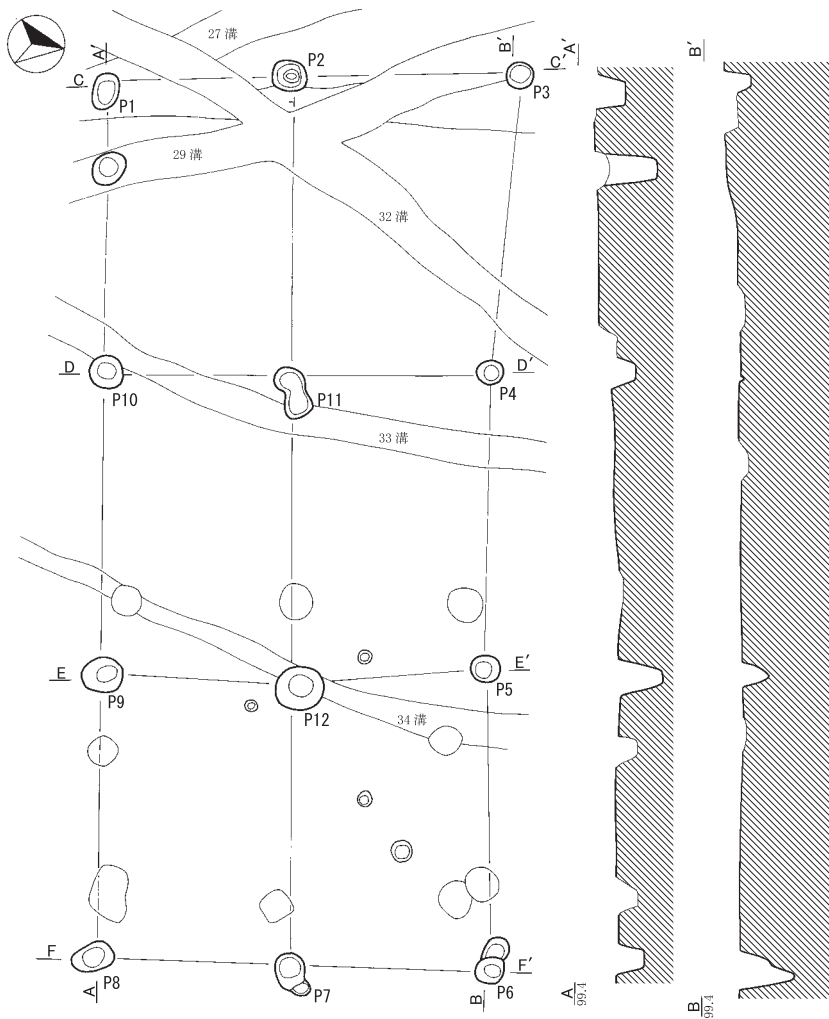
位置：E地点の南に位置している。27号掘立柱建物跡・34号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向4間、東西方向2間の長方形を呈する総柱式で、北面に庇を伴う。北の2間×2間は床柱がなく、土間の可能性もある。長軸方位：N-7°-W。規模：長軸8.40m、短軸3.10m。身舎部分は長軸7.45m。柱心間は東西一間1.80m、南北一間1.40~1.60mを測る。庇の幅は1.00mである。柱穴：直径30~40cm程度の円形を呈し、深さは10~30cm。庇部分の柱穴もほぼ同規模である。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。



第272図 26号掘立柱建物跡

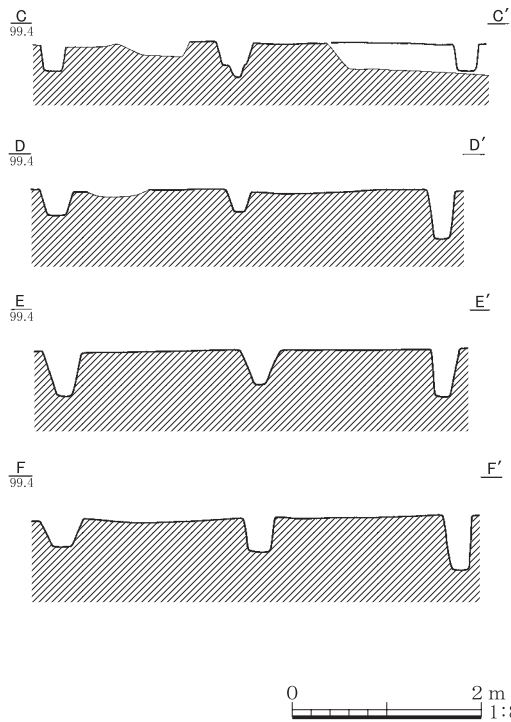
27号掘立柱建物跡(第273図、図版39)

位置：E地点の南に位置している。26号掘立柱建物跡・29号溝・32号溝・33号溝・34号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向2間、東西方向3間の長方形を呈する側柱式。長軸方位：N-82°-E。規模：長軸9.48m、短軸4.54m。柱心間は東西一間3.00~3.20m、南北一間1.90~2.10mを測る。柱穴：直径30~50cm程度の円形を呈し、深さは30~50cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

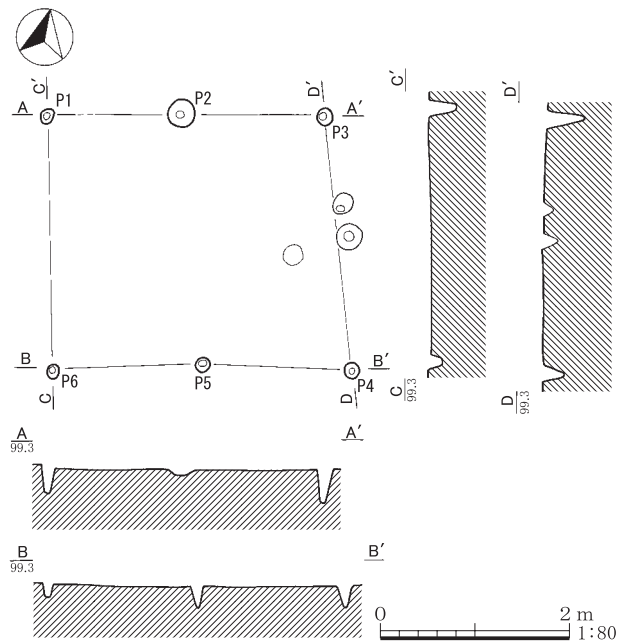


29号掘立柱建物跡(第274図、
図版39・40)

位置：E地点の南に位置している。28号掘立柱建物跡や複数の溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：南北方向1間、東西方向2間の方形を呈する側柱式。長軸方位：N-8°-W。規模：長軸3.08m、短軸2.82m。柱心間は東西一間1.4~1.6m、南北一間2.7mを測る。柱穴：直径20~30cm程度の円形を呈し、深さは20~40cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。



第273図 27号掘立柱建物跡



第274図 29号掘立柱建物跡

30号掘立柱建物跡(第275

図、図版40)

位置：E地点の西に位置

している。北西隅は調査

区外となる。31号溝・32

号溝と重複し、新旧関係

は不明。形態：南北方向

2間、東西方向3間の長

方形を呈する総柱式。長

軸方位：N-84°-E。

規模：長軸6.40m、短軸

4.70m。柱心間は東西

一間1.90~2.10m、南北

一間2.00~2.30mを測る。

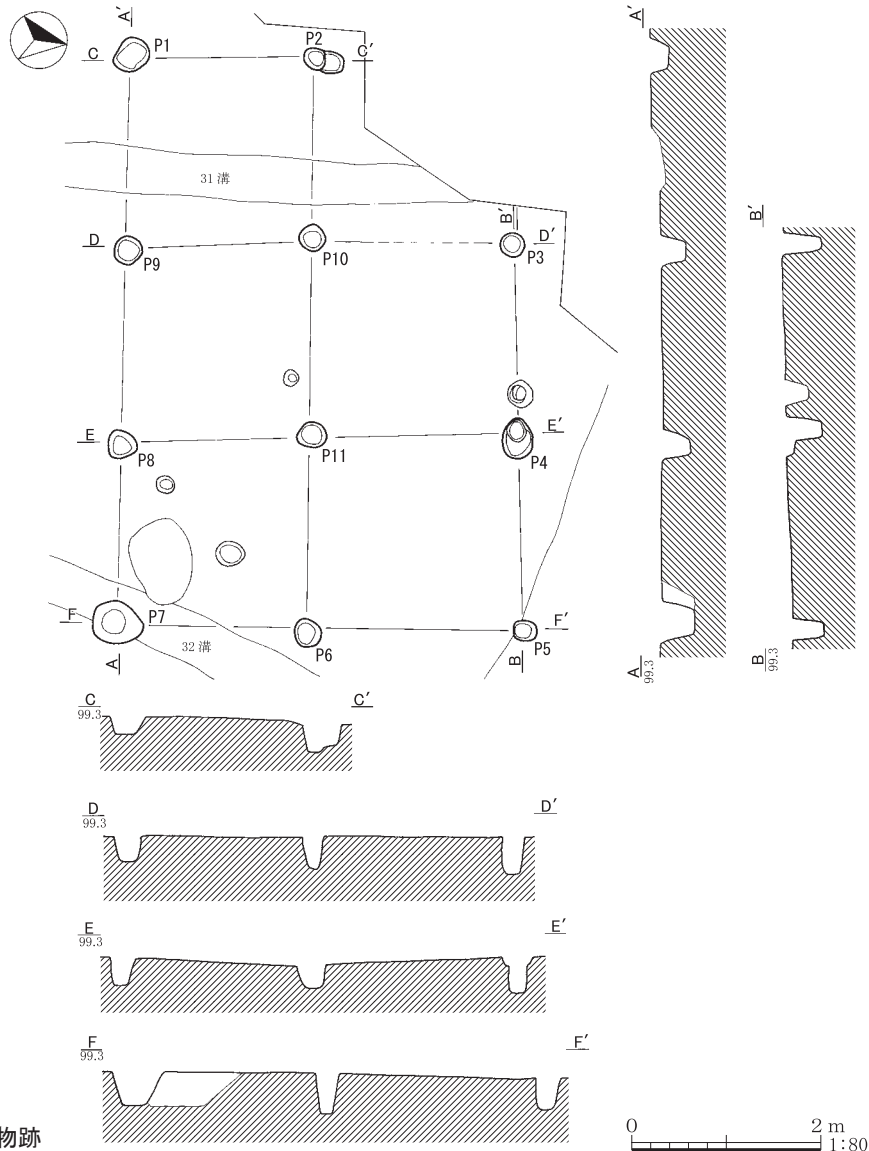
柱穴：直径20~30cm程度

の円形を呈し、深さは20

~40cm。覆土：不明。遺

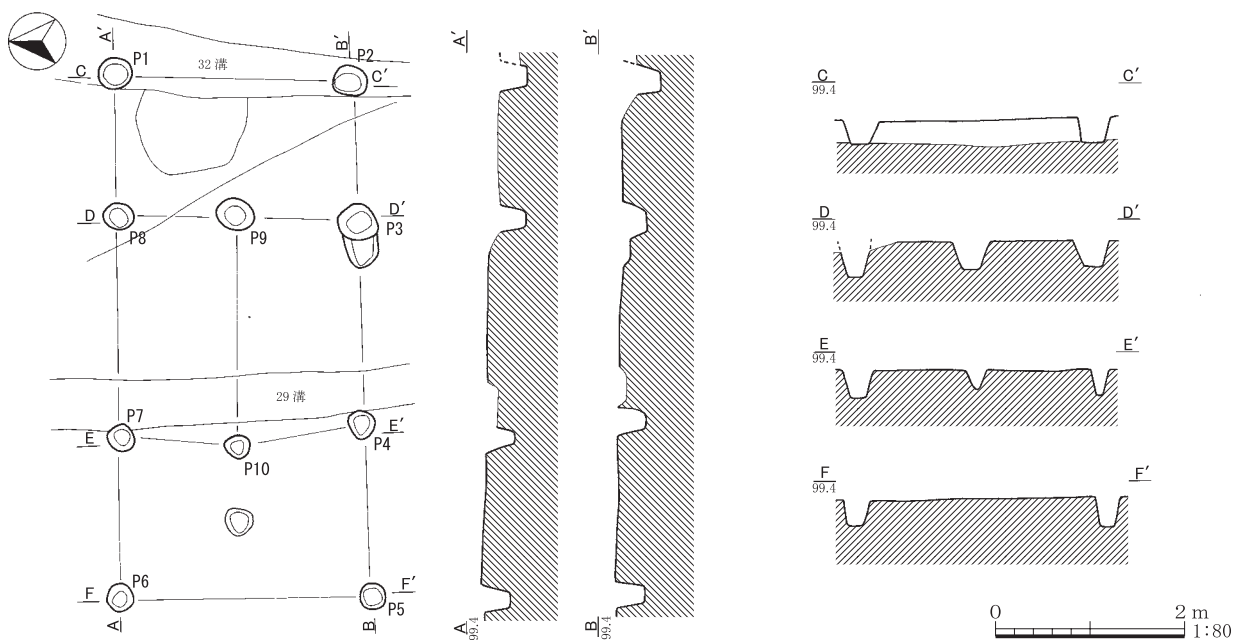
物：出土していない。時

期：中世。



第275図

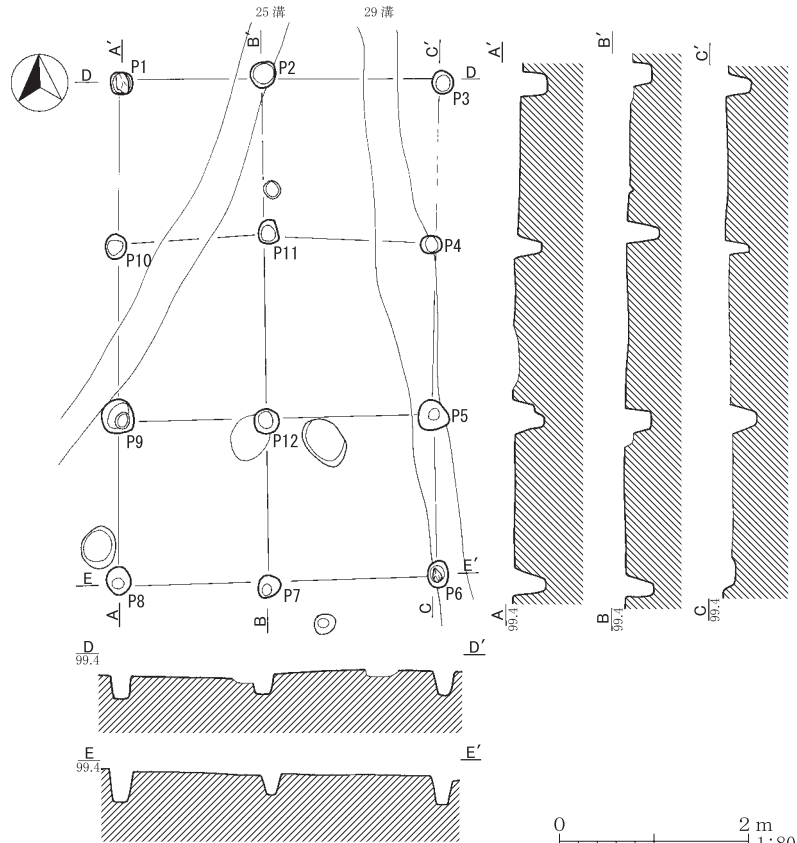
30号掘立柱建物跡



第276図 31号掘立柱建物跡

31号掘立柱建物跡(第276図、図版40)

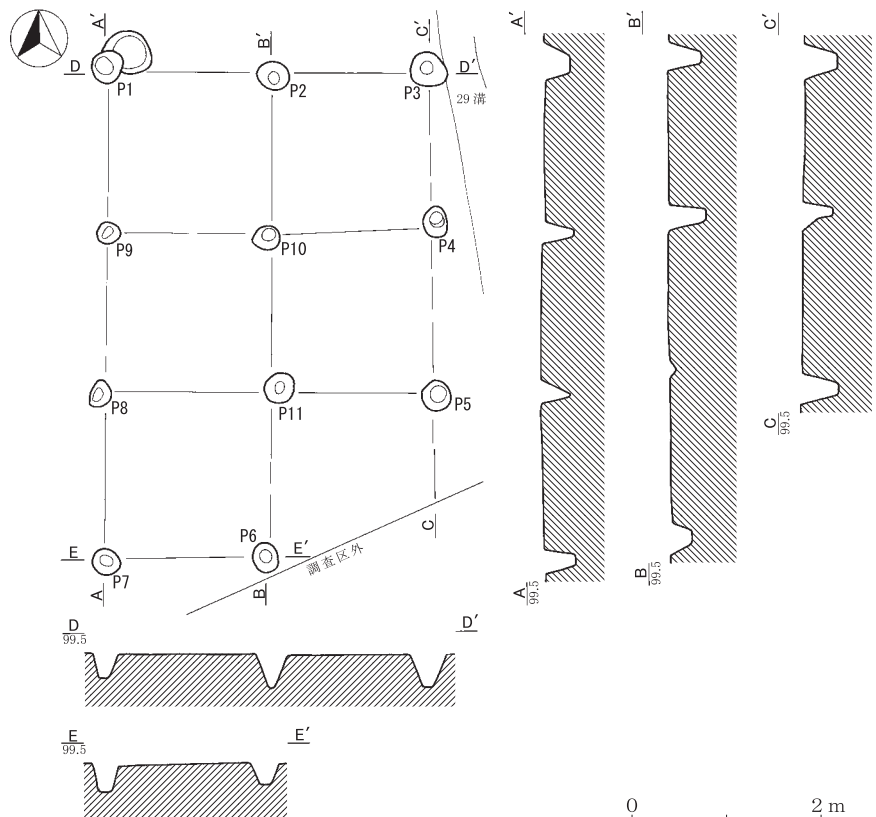
位置：E地点の西に位置している。29号溝・32号溝と重複し、新旧関係は不明。形態：南北方向2間、東西方向3間の長方形を呈する総柱式。長軸方位：N-86°-E。規模：長軸5.85m、短軸2.94m。柱心間は東西一間1.50~2.30mで東西の1間が短く中央が長い。南北一間1.20~1.30mを測る。柱穴：直径30~40cm程度の円形を呈し、深さは30cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。



32号掘立柱建物跡(第277図、図版40)

位置：E地点の西に位置している。形態：南北方向3間、東西方向2間の長方形を呈する総柱式で、長軸方位：N-2°-E。規模：長軸5.52m、短軸3.64m。柱心間は東西一間1.50~1.90m、南北一間1.70~1.80mを測る。柱穴：直径30~40cm程度の円形を呈し、深さは20~30cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

第277図 32号掘立柱建物跡



33号掘立柱建物跡(第278図、図版40)

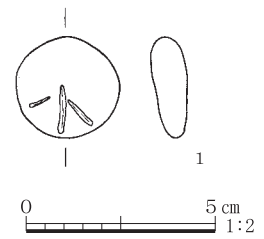
位置：E地点の南に位置している。形態：南北方向3間、東西方向2間の長方形を呈する総柱式。長軸方位：N-2°-E。規模：長軸5.52m、短軸3.82m。柱心間は東西一間1.60~1.80m、南北一間1.60~1.90mを測る。柱

第278図 33号掘立柱建物跡

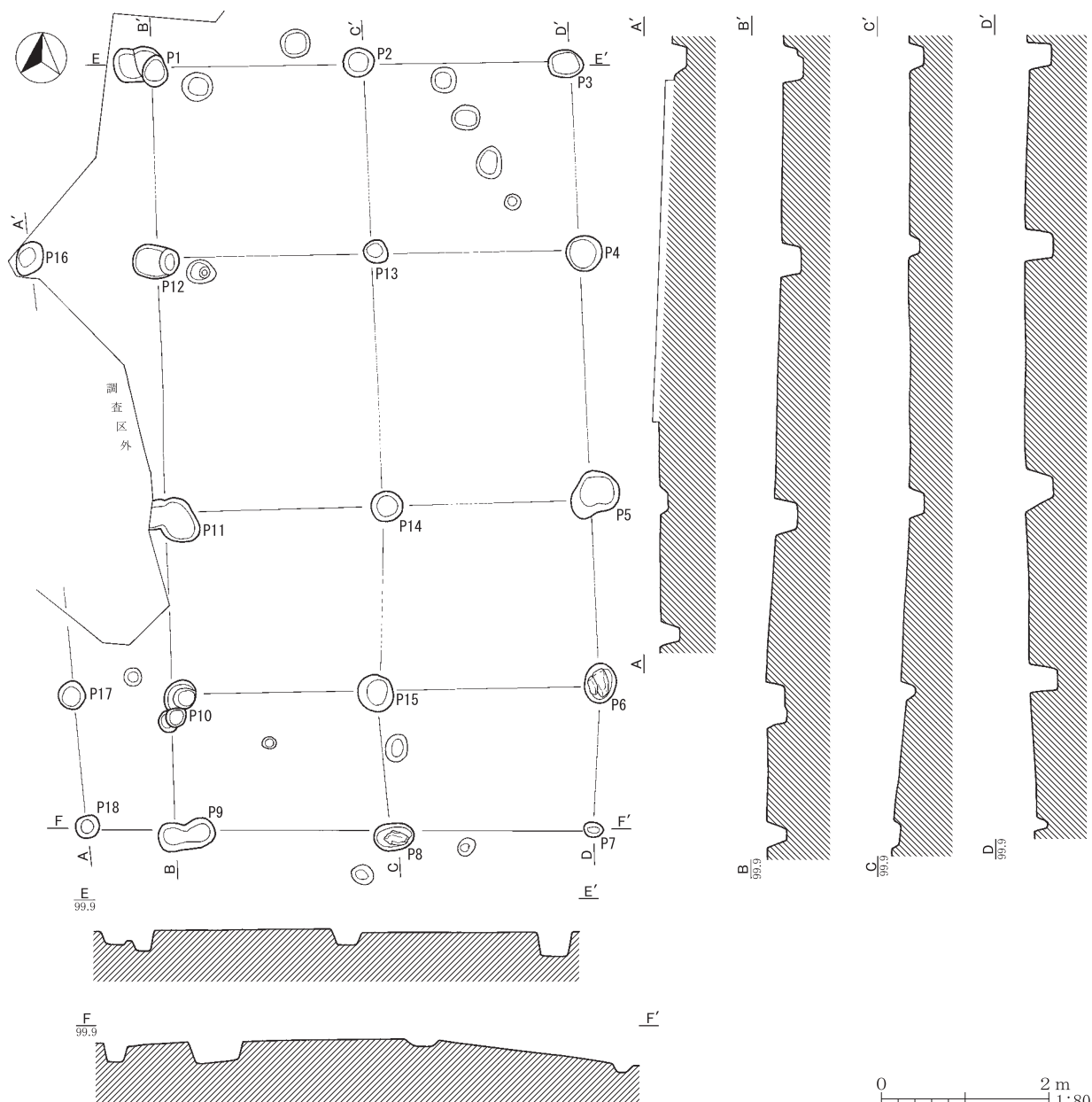
穴：直径30cm程度の円形を呈し、深さは20～40cmと均一ではない。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

34号掘立柱建物跡(第279・280図、図版40・89)

位置：E地点の南西に位置している。西の底部分は調査区外となり、部分的な検出である。形態：南北方向4間、東西方向2間の長方形を呈する側柱式で、西面に庇を伴う。長軸方位：N-6°-W。規模：長軸7.70m、短軸6.70m。身舎部分は短軸5.40m。柱心間は東西一間2.40～2.70m、南北一間2.20～3.00mを測る。庇の幅は1.30mである。柱穴：直径40～50cm程度の円形を呈し、深さは10～30cm。庇部分の柱穴は直径40cm程度の円形を呈し、深さは10～20cmと身舎よりもやや小ぶりである。覆土：不明。遺



第279図
34号掘立柱建物跡
出土遺物



第280図 34号掘立柱建物跡

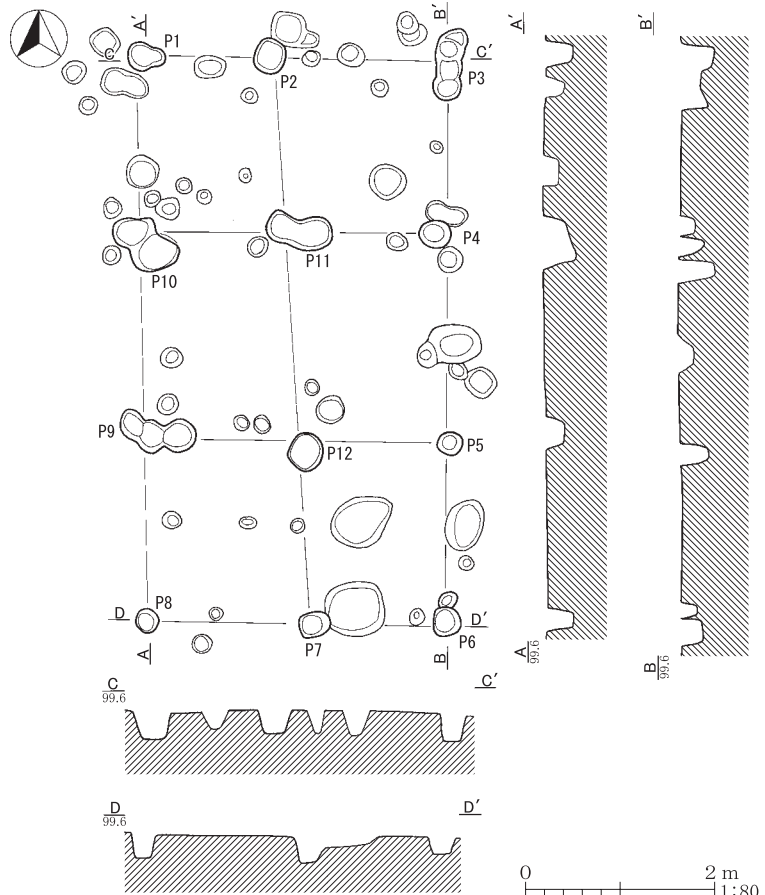
34号掘立柱建物跡 出土遺物観察表

1	石製品	A. 径5.4。厚1.9。重63.74。D. 砂岩。F. 完形。G. 線刻あり。H. P6覆土。
---	-----	--

物：石製品が出土している。時期：中世。

35号掘立柱建物跡(第281図、図版40)

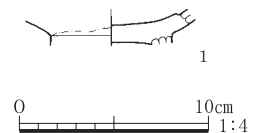
位置：E地点の南に位置している。41号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向3間、東西方向2間の長方形を呈する総柱式。長軸方位：N-2°-W。規模：長軸6.20m、短軸3.45m。柱心間は東西一間1.20~1.70m、南北一間2.00~2.10mを測る。側柱の柱通りは良好である。柱穴：直径40~70cm程度の円形ないしは楕円形を呈し、深さは20~30cm。ピットの形状が2本繋がったものや楕円形が多いことから、抜き取りないしは建て替えが想定できる。しかし、土層観察が不明のため追求はできない。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。



第281図 35号掘立柱建物跡

36号掘立柱建物跡(第282・283図、図版40・89)

位置：E地点の南に位置する大型の掘立柱建物跡である。37号掘立柱建物跡・39号掘立柱建物跡・40号掘立柱建物跡、147号住居跡と重複し、住居跡より新しく、掘立柱建物跡との新旧は不明である。形態：南北方向4間、東西方向2間の長方形呈する総柱式で、北面と南面の側柱が抜けている。また、東西南北4面に庇を伴う。長軸方位：N-1°-E。規模：長軸14.32m、短軸6.14m。身舎部分は長軸12.10m、短軸4.20m。柱心間は東西一間1.70~1.90m、南北一間2.80~2.90mを測り、柱通りは良好。庇の幅は、東・西面1.00m、北面1.20m、南面1.10mである。柱穴：直径40~50cm程度の円形を呈し、深さは20~40cm。庇部分の柱穴は直径30~40cm程度の円形を呈し、深さは10~20cmとやや小規模である。身舎の床柱

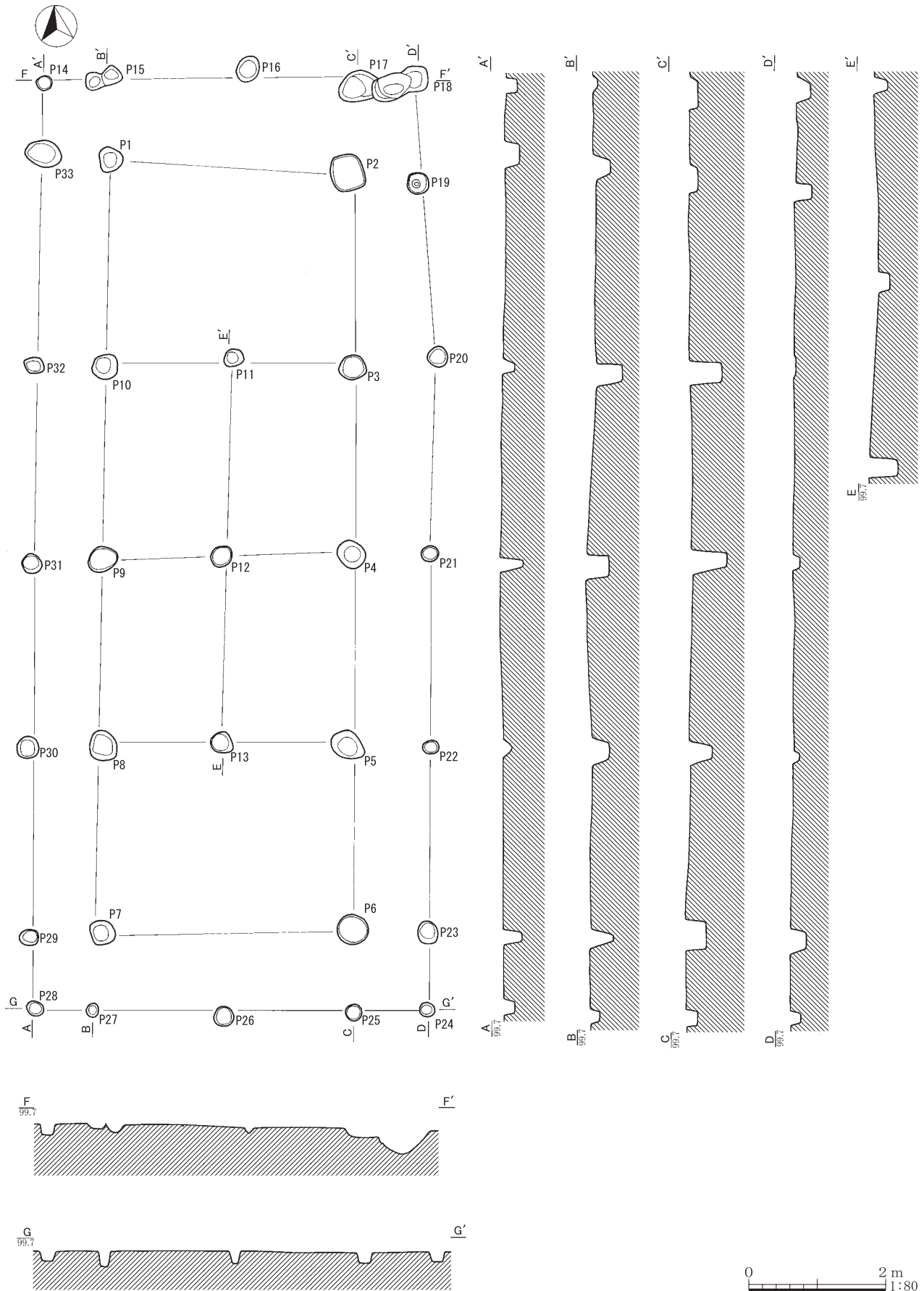


第282図

36号掘立柱建物跡
出土遺物

36号掘立柱建物跡 出土遺物観察表

1	磁器	A. 残存高1.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。削り出し高台。E. 内-灰白色。外-灰オリーブ。F. 破片。G. 内外面体部に施釉。高台・高台内は施釉。H. P4。
---	----	---

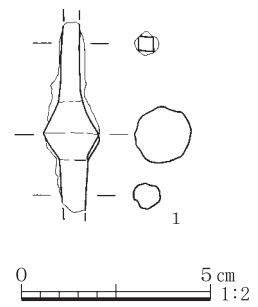


第283图 36号掘立柱建物跡

も底のそれとほぼ同規模である。覆土：不明。遺物：柱穴より磁器が出土している。時期：中世。

37号掘立柱建物跡(第284・285図、図版40・89)

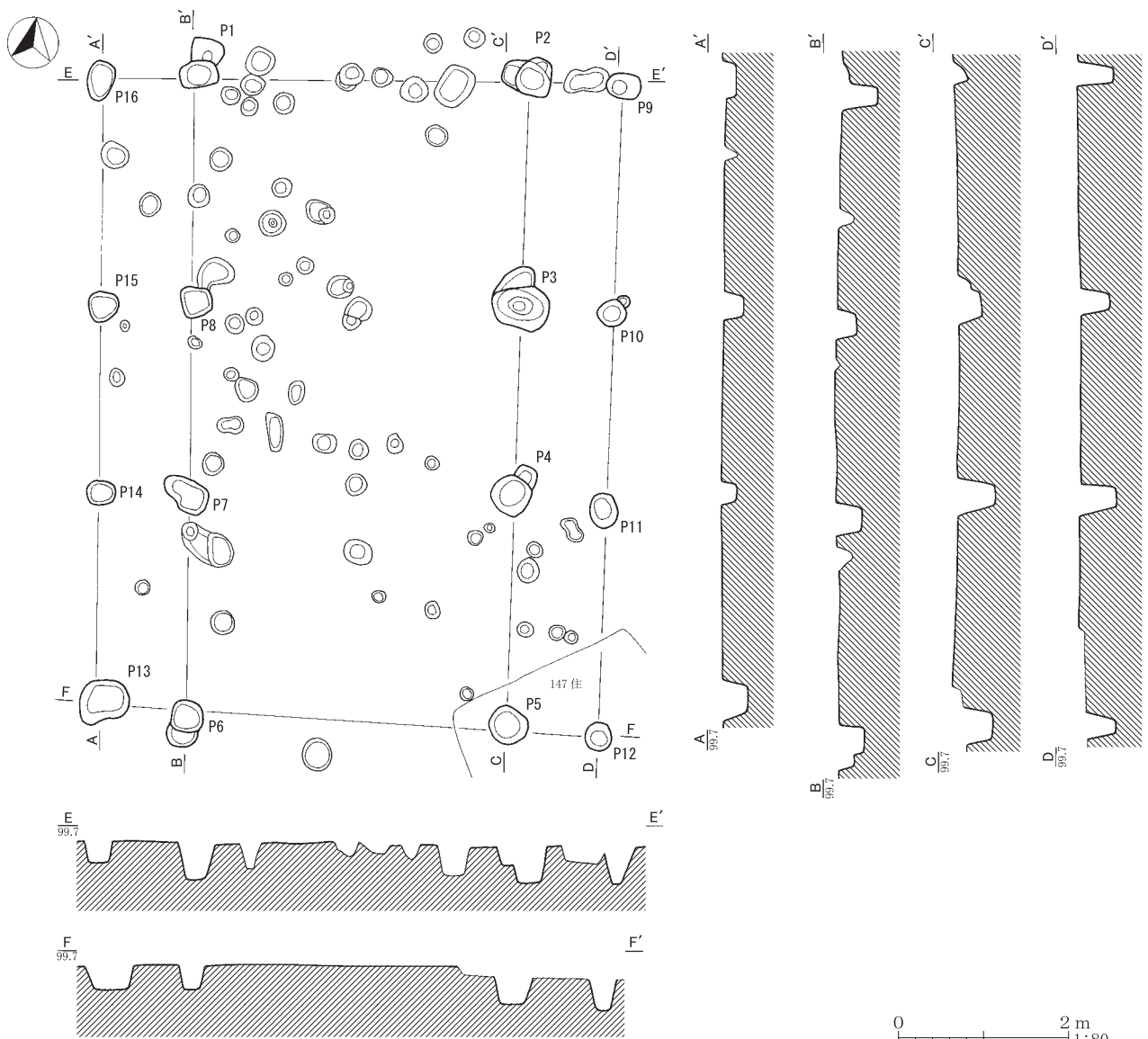
位置：E地点の南西に位置している。147号住居跡、34号掘立柱建物跡・36号掘立柱建物跡と重複し、住居跡より新しく、掘立柱建物跡との新旧関係は不明。形態：南北方向3間、東西方向2間の長方形を呈する総柱式で、東西2面に底を伴う。長軸方位N-7°-W。長軸8.64m、短軸6.75m。身舎部分は短軸4.54m。柱心間は東西一間1.80~2.00m、南北一間2.80m、中央の一間のみ2.30mと50cm短い。底の幅は1.10mである。柱穴：直径40~70cm程度の円形を呈し、深さは20~40cm。身舎の床柱がやや小規模とな



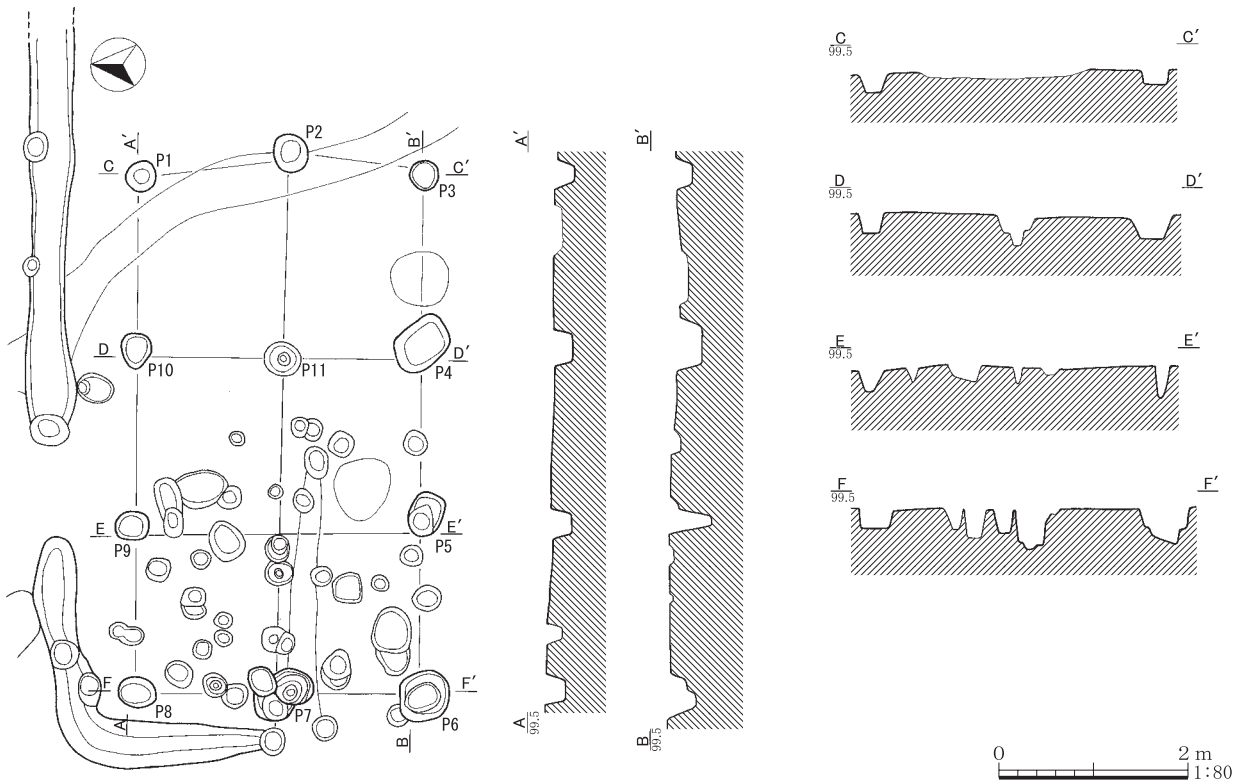
第284図
37号掘立柱建物跡
出土遺物

37号掘立柱建物跡 出土遺物観察表

1	不明鉄製品	A. 残長5.0。幅1.5。残重8.03。D. 鉄製。F. 破片。H. P7。
---	-------	---



第285図 37号掘立柱建物跡

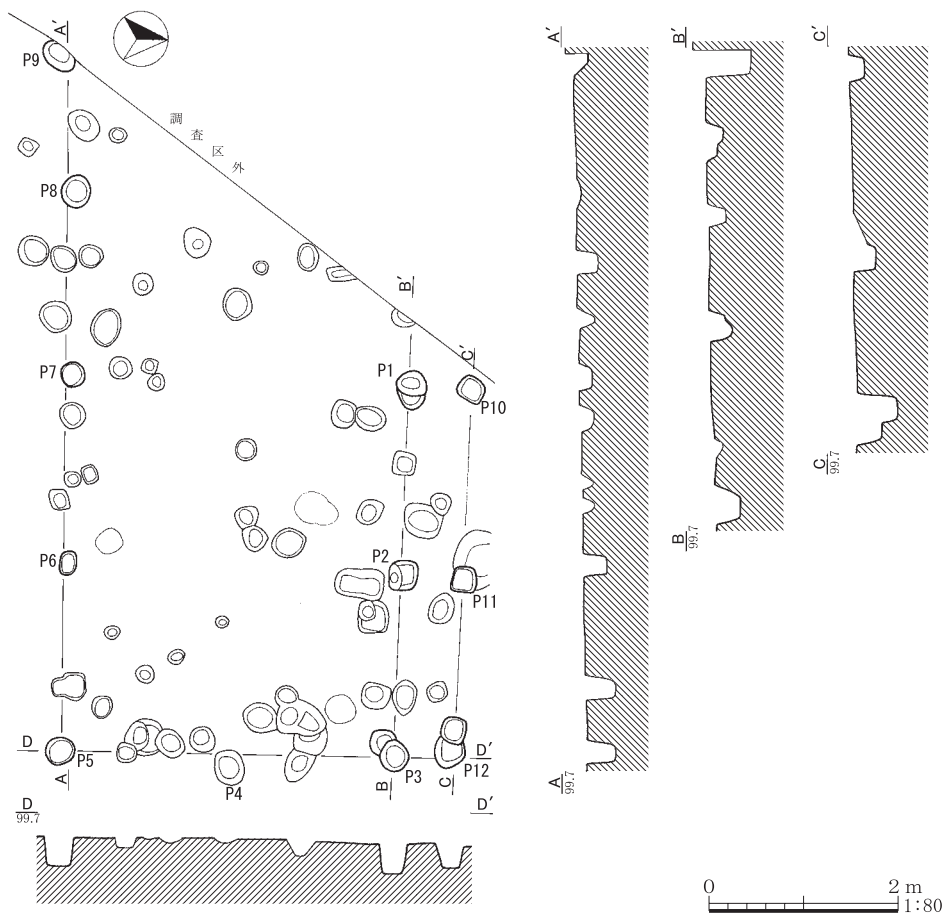


第286図 38号掘立柱建物跡

っている。また、側柱のピットが2本ほど重複しているため、造り換えの可能性もある。覆土：不明。遺物：鉄製品が出土している。時期：中世。

38号掘立柱建物跡 (第286図、図版41)

位置：E地点の西に位置している。40号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明。北西コーナーから北面には溝が平行して検出され、雨樋の溝だと思われる。形態：南北方向2間、東西方向3間の長方形を呈する総柱式。長軸方位：N-89°



第287図 39号掘立柱建物跡

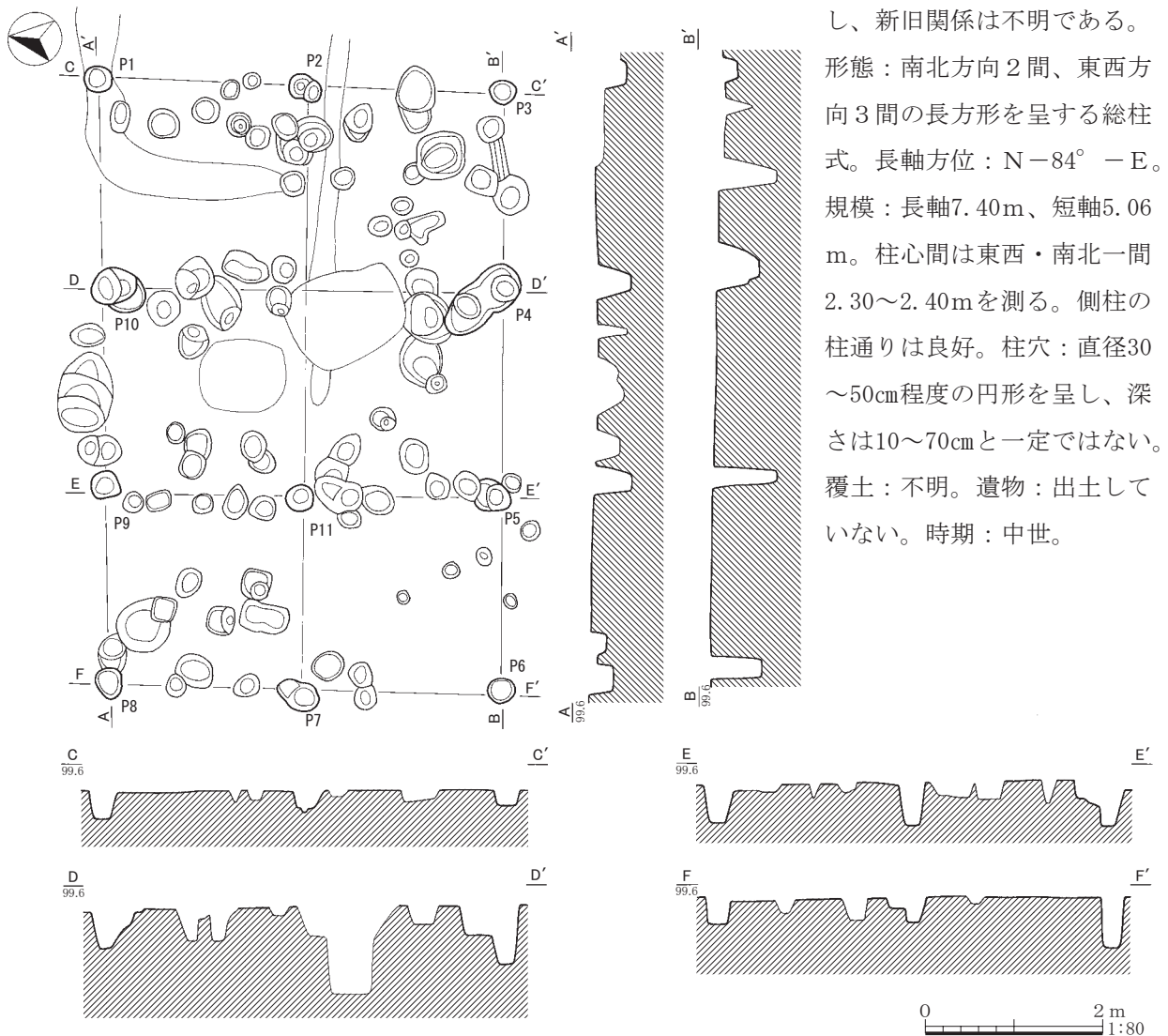
—E。規模：長軸6.22m、短軸3.76m。柱心間は東西一間1.90～2.00m、南北一間1.60～1.70mを測る。柱穴：直径70～40cm程度の円形や方形を呈し、深さは20～50cm。柱穴の規模・形態・深さにばらつきがある。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

39号掘立柱建物跡(第287図、図版41)

位置：E地点の西壁に位置しており、全容は確認されていない。36号掘立柱建物跡・40号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向1間、東西方向4間以上の長方形を呈する側柱式で、北面に庇を伴う。長軸方位：N-88°-W。規模：長軸8.20m以上、短軸4.80m。身舎部分は短軸4.12m。柱心間は東西一間2.10～2.20m、南北一間3.80mを測る。庇の幅は0.70mである。柱穴：直径30～40cm程度の円形ないしは方形を呈し、深さは20～50cm。庇部分の柱穴もほぼ同規模であるが、方形を呈する。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

40号掘立柱建物跡(第288図、図版41)

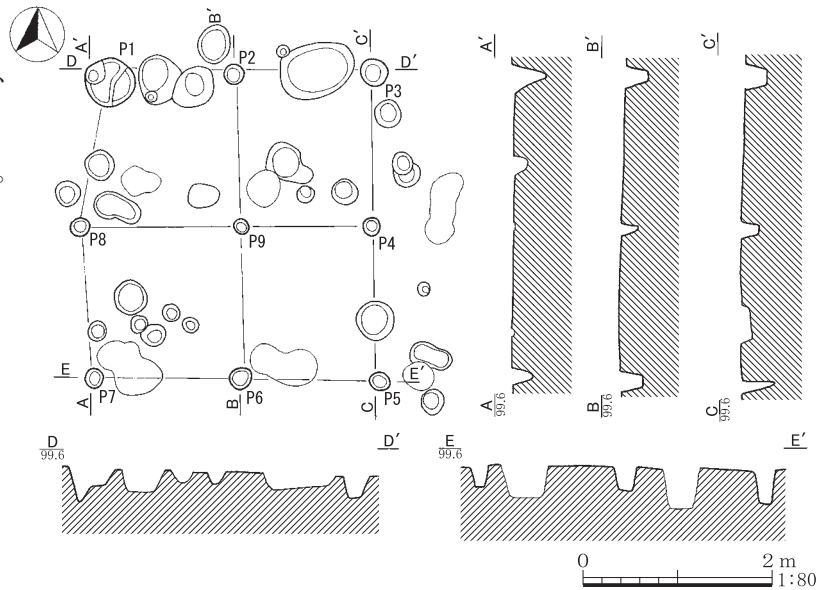
位置：E地点の西に位置している。36号掘立柱建物跡・38号掘立柱建物跡・39号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。



第288図 40号掘立柱建物跡

41号掘立柱建物跡(第289図、図版41)

位置：E地点の南西に位置している。35号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明。形態：南北・東西方向2間の方角を呈する総柱式。長軸方位：N-3°-W。規模：長軸3.50m、短軸3.20m。柱心間は東西一間1.40~1.70m、南北一間1.60mを測る。柱穴：直径20~50cm程度の円形を呈し、深さは20~30cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。



第289図 41号掘立柱建物跡

3. 井戸・溜井

1号井戸(第290図、図版41・89)

位置：B地点の南東に位置している。形態：平面形は楕円形を呈する。規模：長軸2.72m、短軸1.93m。深さは不明である。埋没状況：不明。遺物：覆土より常滑窯系甕とともに麻布らしき遺物が出土している。時期：中世。

3号井戸(第290図、図版41)

位置：D地点の北に位置している。12号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：平面形は円形を呈する。規模：長軸1.20m、短軸1.08m。深さ1.86mを測る。埋没状況・遺物・時期：不明。

4号井戸(第290図、図版41)

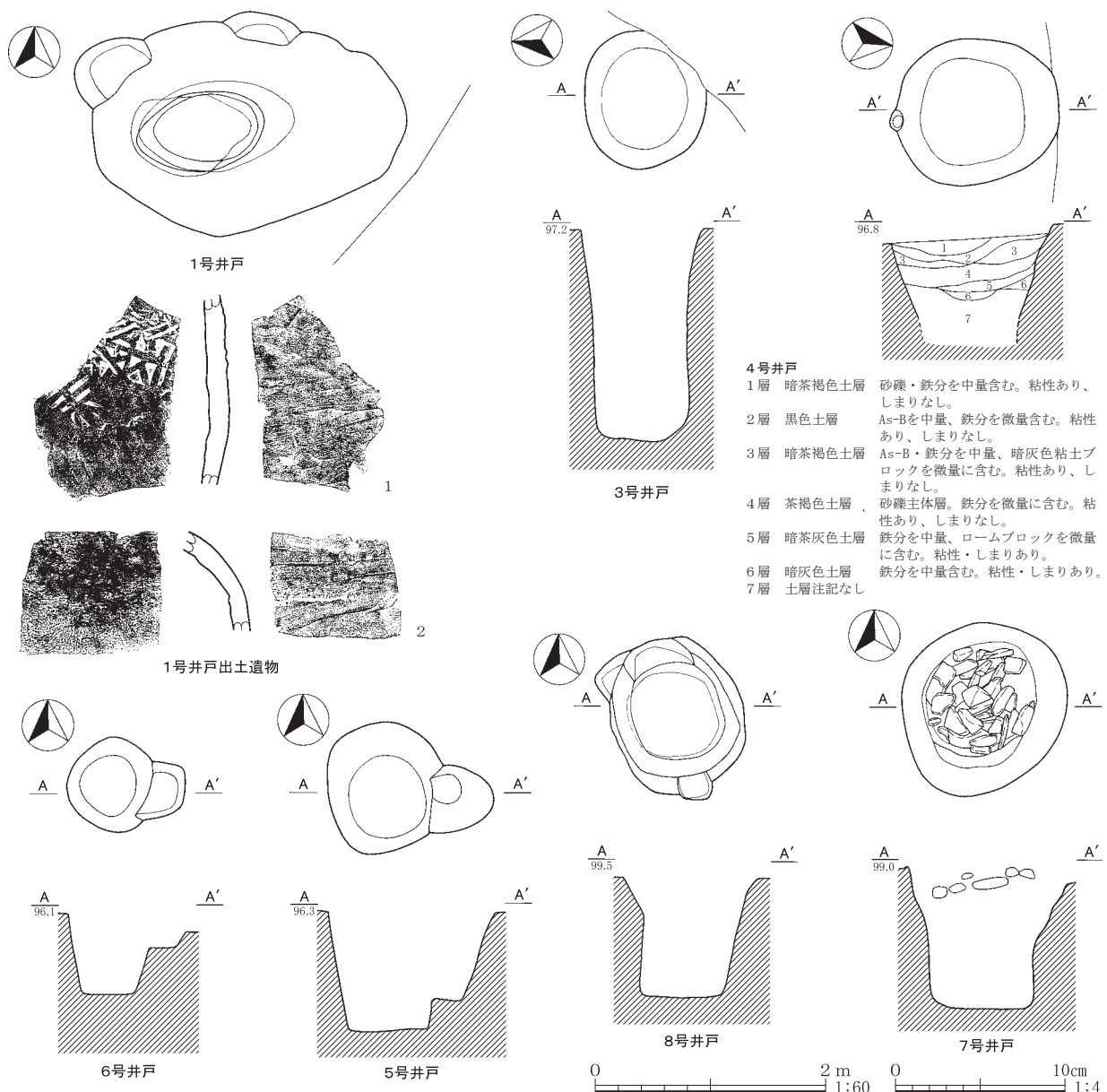
位置：E地点の東に位置している。1号溜井の西端部と重複し、新旧関係は不明である。形態：平面形は円形を呈する。規模：長軸1.42m、短軸1.30m。確認面からの深さは0.75m以上であろうが、途中で掘削を中止しているため、詳細は不明である。埋没状況：上層に浅間B軽石を含む。レンズ状堆積を示し、自然埋没であろう。遺物：出土していない。時期：古代以降。

5号井戸(第290図、図版42)

位置：E地点の東に位置している。1号溜井の北部分と重複し、新旧関係は不明である。形態：平面形は円形だが、東にテラスを持つ。規模：長軸1.48m、短軸1.28m。確認面からの深さは1.05mを測る。埋没状況：不明。遺物：出土していない。時期：古代以降。

6号井戸(第290図、図版42)

位置：E地点の東に位置している。1号溜井の南部分と重複し、新旧関係は不明である。形態：平面



1号井戸 出土遺物観察表

第290図 井戸

1	常滑窯系甕	B. 粘土紐積み上げ後タタキ成形。C. 外面上位押印文。下位ナデ。内面ナデ。D. 白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。外面に自然釉。H. 覆土。
2	常滑窯系甕	B. 粘土紐積み上げ後ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 白色粒子。E. 内-黄灰色。外-灰色。F. 破片。G. 外面自然釉。H. 覆土。

形は円形だが、東にテラスを持つ。規模：長軸1.05m、短軸0.81m。確認面からの深さは0.70mを測る。埋没状況：不明。遺物：出土していない。時期：古代以降。

7号井戸(第290図、図版42)

位置：E地点の西に位置している。33号溝と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は円形を呈する。規模：長軸1.53m、短軸1.40m。確認面からの深さは1.20mを測る。埋没状況：不明だが、覆土の上層に礫を多量に含む。遺物：出土していない。時期：古代以降。

8号井戸(第290図、図版42)

位置：E地点の西に位置している。40号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明。形態：平面形は円

形を呈する。規模：長軸1.35m、短軸1.18m。確認面からの深さは1mを測る。埋没状況：不明。遺物：出土していない。時期：古代以降。

1号溜井(第291~301図、図版42・43・89~95)

位置：E地点の東に位置している。上層を中世面、4層はAs-B降下直前の層で、これより下を古墳面として調査している。23号溝・26号溝は、1号溜井の西端に繋がっている。遺物は、上・中・下層として取り上げている。上層が中世面、中・下層が古墳面に比定される。遺物は、土師器・須恵器・陶磁器・石製品・鉄製品・古銭(北宋銭・12世紀前半)・鞆羽口・モモヤクルミ等の種子が出土している。土師器・須恵器は6世紀後半が主流となっている。

中世面

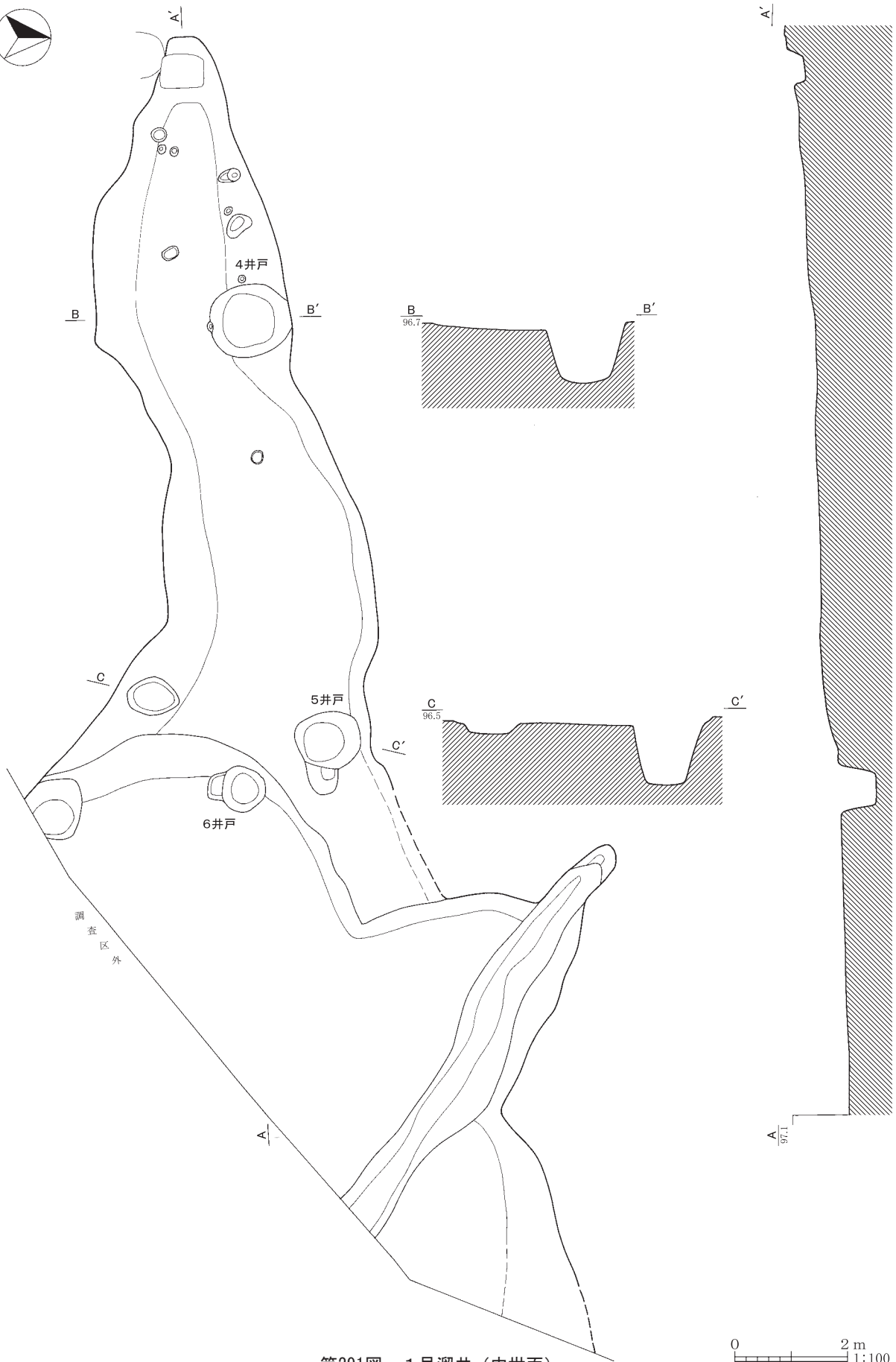
規模：長軸22.6m以上、短軸3.4m。確認面からの深さは約0.1~0.9m。構造：西から東にかけて緩やかに傾斜している。西からは23号・26号溝の導水や、4~6号井戸からの湧水がある。調査区の南壁と接する箇所が最も深く、約90cmを測る。ここが冷え堀としての役割を担っていると思われる。埋没状況：As-Bを含む土で埋没している。

古墳面

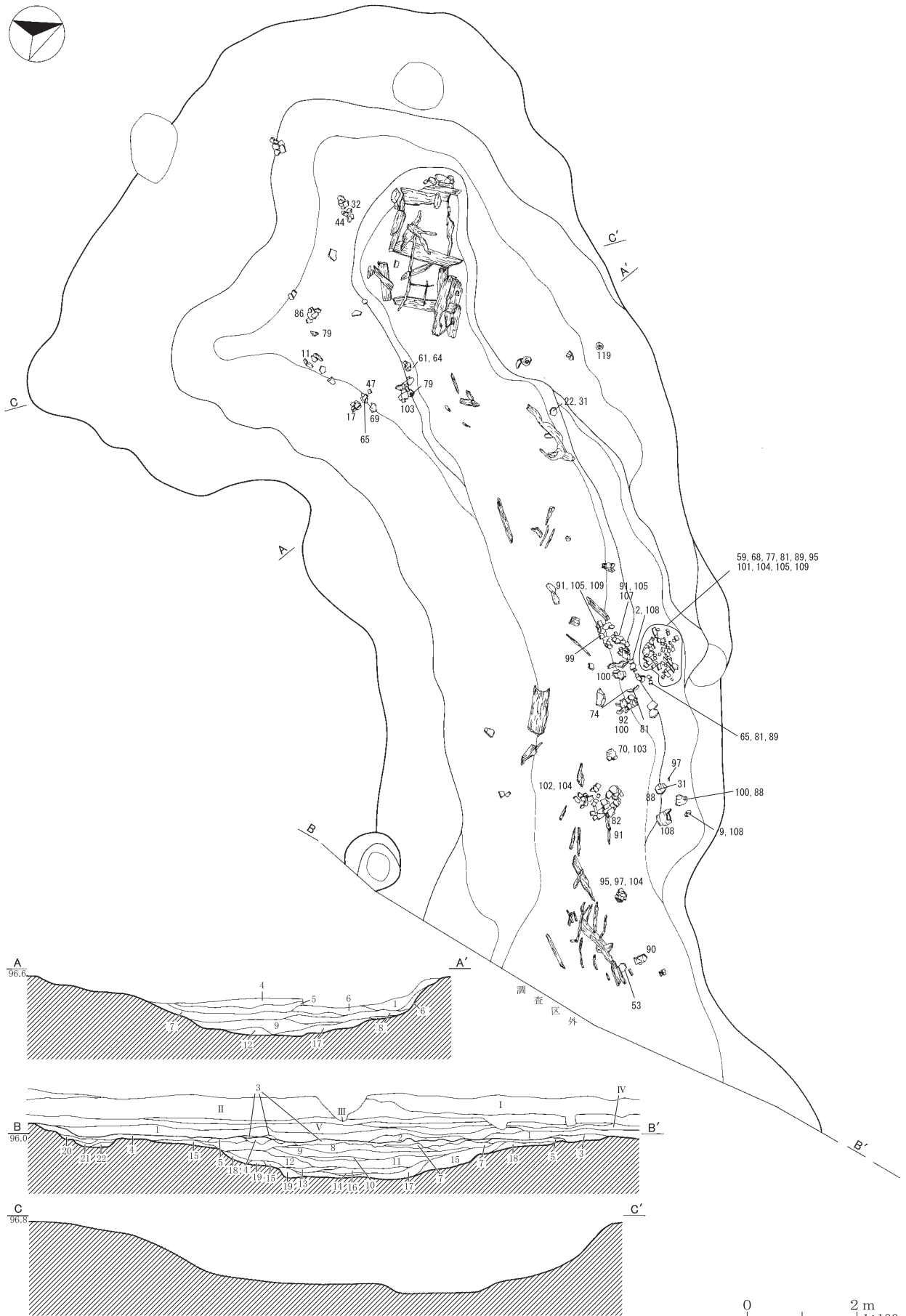
規模：長軸18.9m、短軸6.7m。確認面からの深さは最も深いところで約1.3mを測る。構造：中世面と同じく、西に向けて緩やかに傾斜する。23号・26号溝からの流水は、木組みの冷え堀に貯められ、更に西へと流れて行ったのであろう。冷え堀の南は一部スロープ状になっており、通路の可能性がある。溜井としての機能とともに水場として機能していたことも考えらる。なお26号溝は、古墳時代後期の147号住居跡と重複し、住居跡を壊して構築されている。よって、26号溝を用いて1号溜井へと水を引き入れ始めた時期は古墳時代後期以降と考えられる。埋没状況：As-B降下以降は、自然に埋没している。17層は黒褐色を呈し、腐食した木等を含む。

1号溜井 出土遺物観察表(1)

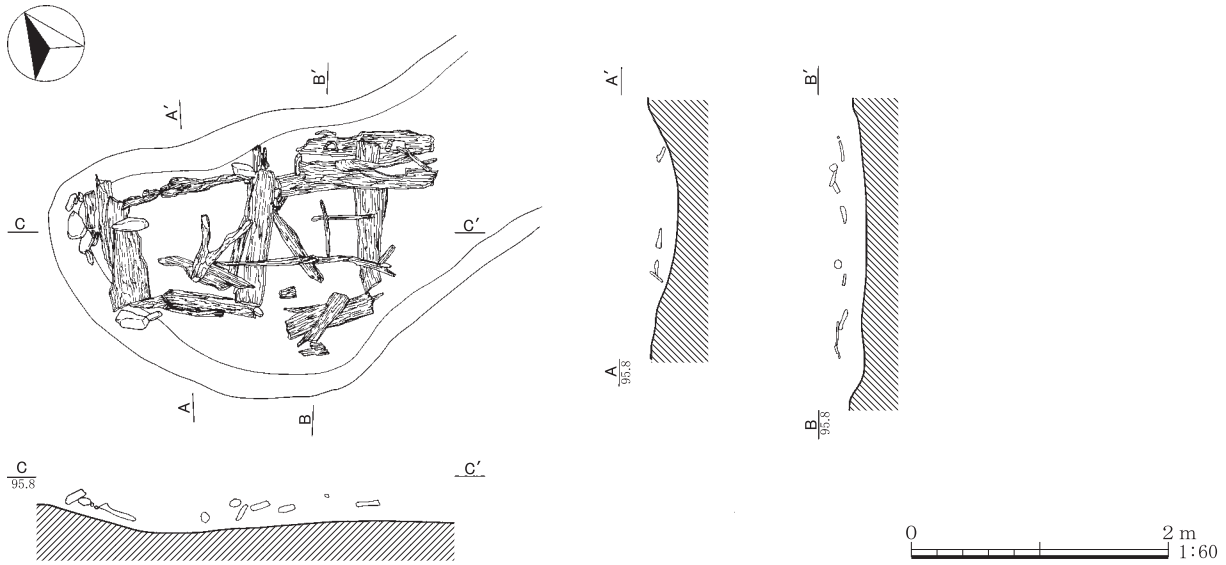
1	ミニチュア	A. 底径3.7。残存高3.1。B. 手捏ね。C. 外面、ナデ。内面、上半ユビオサエ。下半ヨコナデ。D. チャート。E. 内-灰褐色。外-にぶい橙色。F. 胴部1/4。H. 覆土下層。
2	ミニチュア	A. 口径6.0。器高5.3。B. 手捏ね。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコ~ナメナデ。内面、ヨコナデ。一部ユビオサエD. 片岩・雲母。E. 内外-灰黄褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.3。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/3。H. 覆土。
4	坏	A. 口径10.8。器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→上位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・雲母・白色粒子。E. 内外-にぶい橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
5	坏	A. 口径12.5。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 2/3。G. 内面に焼成時の黒斑あり。外面、黒色処理の痕跡があるが、剥落。H. 覆土下層。
6	坏	A. 口径12.8。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部摩滅。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・チャート。E. 内外-橙色。F. 3/4。H. 覆土上層・下層。
7	坏	A. 口径12.6。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外-橙色。F. 5/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
8	坏	A. 口径12.6。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部、ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-灰。F. 3/4。H. 覆土上層。
9	坏	A. 口径12.4。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部、ケズリ。内面、ヨコナデ。D. チャート・角閃石。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
10	坏	A. 口径13.9。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部、ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外-にぶい橙色。F. 2/3。H. 覆土下層。
11	坏	A. 口径12.7。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・赤色粒子。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
12	坏	A. 口径11.8。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土下層。



第291图 1号溜井（中世面）



第292图 1号溜井 (古墳面①)



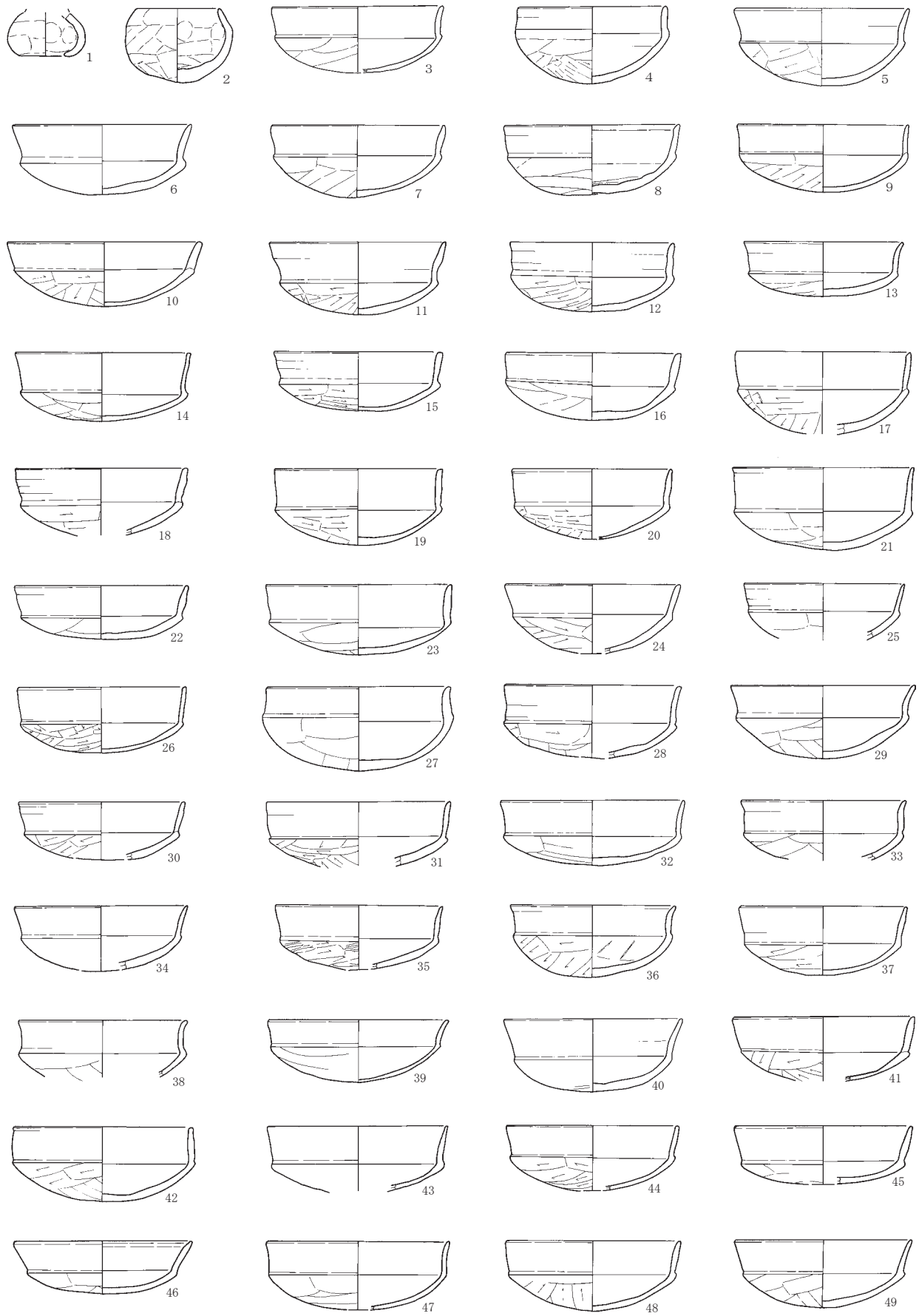
1号溜井

I	現耕作土層	As-Aを多量に含む。	6層	暗灰色粘土層	鉄分を中量、片岩を微量に含む。粘性・しまりあり。	15層	暗灰色粘土層	炭化物粒子・小礫・緑色片岩を微量に含む。粘性・しまりあり。
II	淡褐色土層	As-A降下以前の水田層。2～3面の田床層を形成する。	7層	暗灰色粘土層	炭化物粒子・細砂ブロックを中に含む。粘性・しまりあり。	16層	淡灰色粘土層	細砂主体層。粘性・しまりなし。
III	淡灰色土層	As-B・鉄分・マンガン粒子を中量含む。粘性・しまりあり。	8層	灰色粘土層	炭化物粒子・細砂・緑色片岩を微量に含む。粘性・しまりあり。	17層	黒灰色粘土層	炭化物粒子・木片を中量、緑色片岩を微量に含む。粘性あり、しまりなし。
IV	淡灰色土層	片岩・細砂を多量に含む。粘性・しまりあり。	9層	暗灰色粘土層	緑色片岩を中量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。	18層	暗灰色粘土層	緑色片岩を微量に含む。粘性・しまりあり。
V	暗灰色土層	As-B・鉄分を中量、褐色片岩を微量に含む。粘性・しまりあり。	10層	黒灰色粘土層	炭化物粒子を中量、緑色片岩を微量に含む。粘性・しまりあり。	19層	黒灰色粘土層	小礫を多量、炭化物粒子・木片を中量含む。粘性あり、しまりなし。
1層	暗茶灰色粘土層	As-Bを多量、鉄分・褐色片岩を中量含む。粘性・しまりあり。	11層	暗灰色粘土層	炭化物粒子・小礫・緑色片岩を微量に含む。粘性・しまりあり。	20層	暗灰色粘土層	小礫・鉄分を中量含む。粘性あり、しまりなし。
2層	暗灰色粘土層	As-Bを多量、炭化物粒子・鉄分・褐色片岩を微量含む。粘性・しまりなし。	12層	暗灰色粘土層	炭化物粒子・細砂を中量含む。粘性・しまりあり。	21層	黒色粘土層	炭化物粒子・小礫を中量含む。粘性あり、しまりなし。
3層	暗灰褐色砂層	細砂主体層。粘性・しまりなし。	13層	黒灰色粘土層	炭化物粒子・木片を中量含む。粘性あり、しまりなし。	22層	暗灰色粘土層	小礫・細砂を中量含む。粘性あり、しまりなし。
4層	黒灰色粘土層	緑色片岩を微量に含む。粘性・しまりあり。	14層	暗茶灰色粘土層				
5層	暗茶灰色粘土層	緑色片岩・鉄分を中量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。						

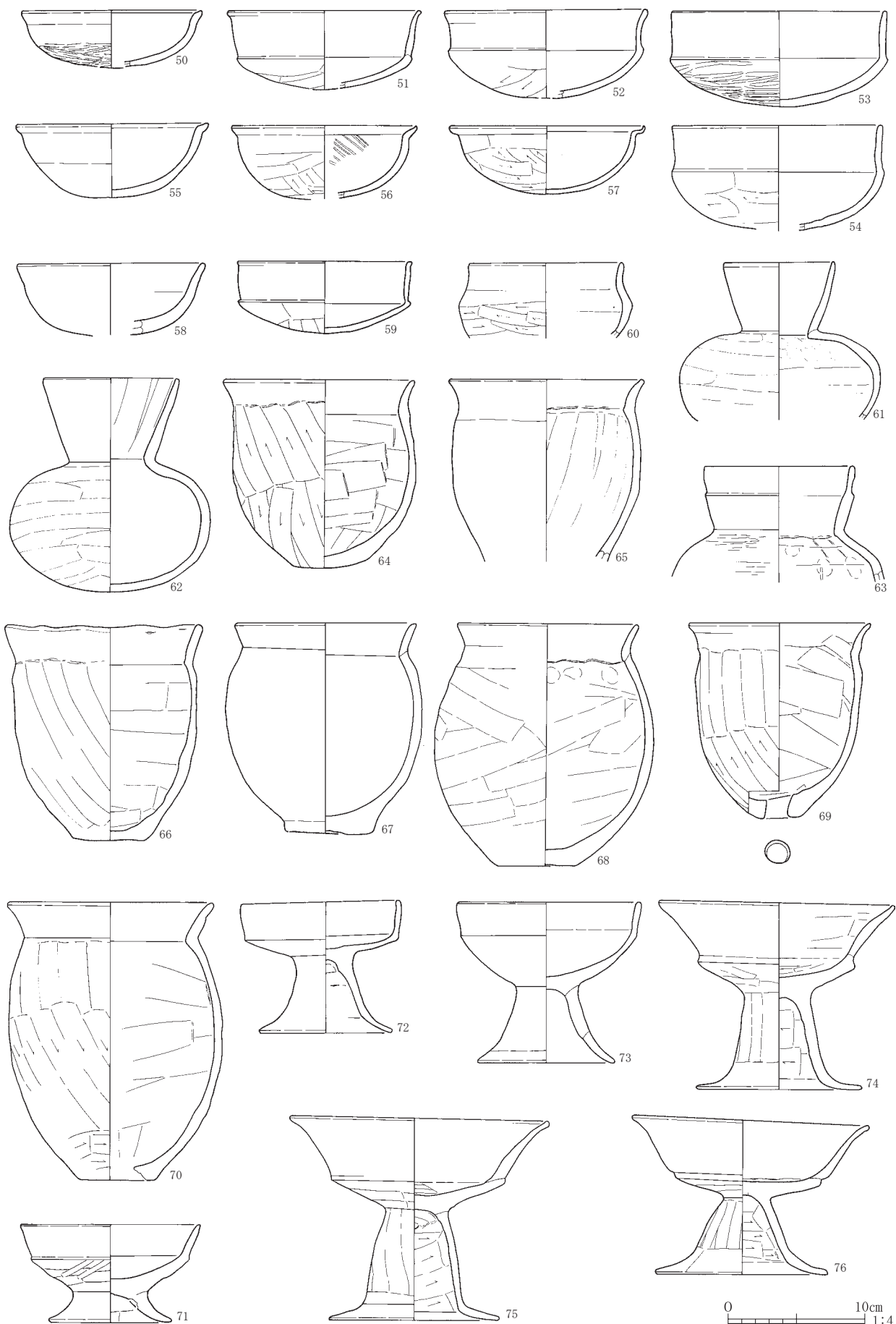
第293図 1号溜井 木組み遺構

1号溜井 出土遺物観察表(2)

13	坏	A. 口径11.4。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 雲母。E. 内一橙色。外一灰色。F. 1/4。G. 外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
14	坏	A. 口径12.5。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面ナデ。D. 角閃石・赤色粒子。E. 内一にぶい黄橙色。外一にぶい橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土下層。
15	坏	A. 口径12.1。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子・石英。E. 内外一にぶい橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
16	坏	A. 口径12.6。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・摩滅。内面、ナデ。D. チャート。E. 内一橙色。外一にぶい黄橙色。F. 1/2。G. 外面、黒色処理あり。H. 覆土下層。
17	坏	A. 口径(12.6)。器高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい褐色。F. 1/5。G. 内外口縁部にスス附着。H. 覆土下層。
18	坏	A. 口径(12.3)。残存高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部、ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・チャート。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土下層。
19	坏	A. 口径12.0。器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土下層。
20	坏	A. 口径11.5。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. チャート・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/3。H. 覆土下層。
21	坏	A. 口径13.0。器高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・雲母。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/3。H. 覆土下層。
22	坏	A. 口径(12.4)。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
23	坏	A. 口径13.5。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・片岩。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/3。H. 覆土下層。
24	坏	A. 口径(12.6)。残存高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/2。G. 内面体部にスス附着。H. 覆土下層。
25	坏	A. 口径(11.5)。残存高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・雲母。E. 内外一橙色。F. 1/4。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
26	坏	A. 口径12.0。器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。



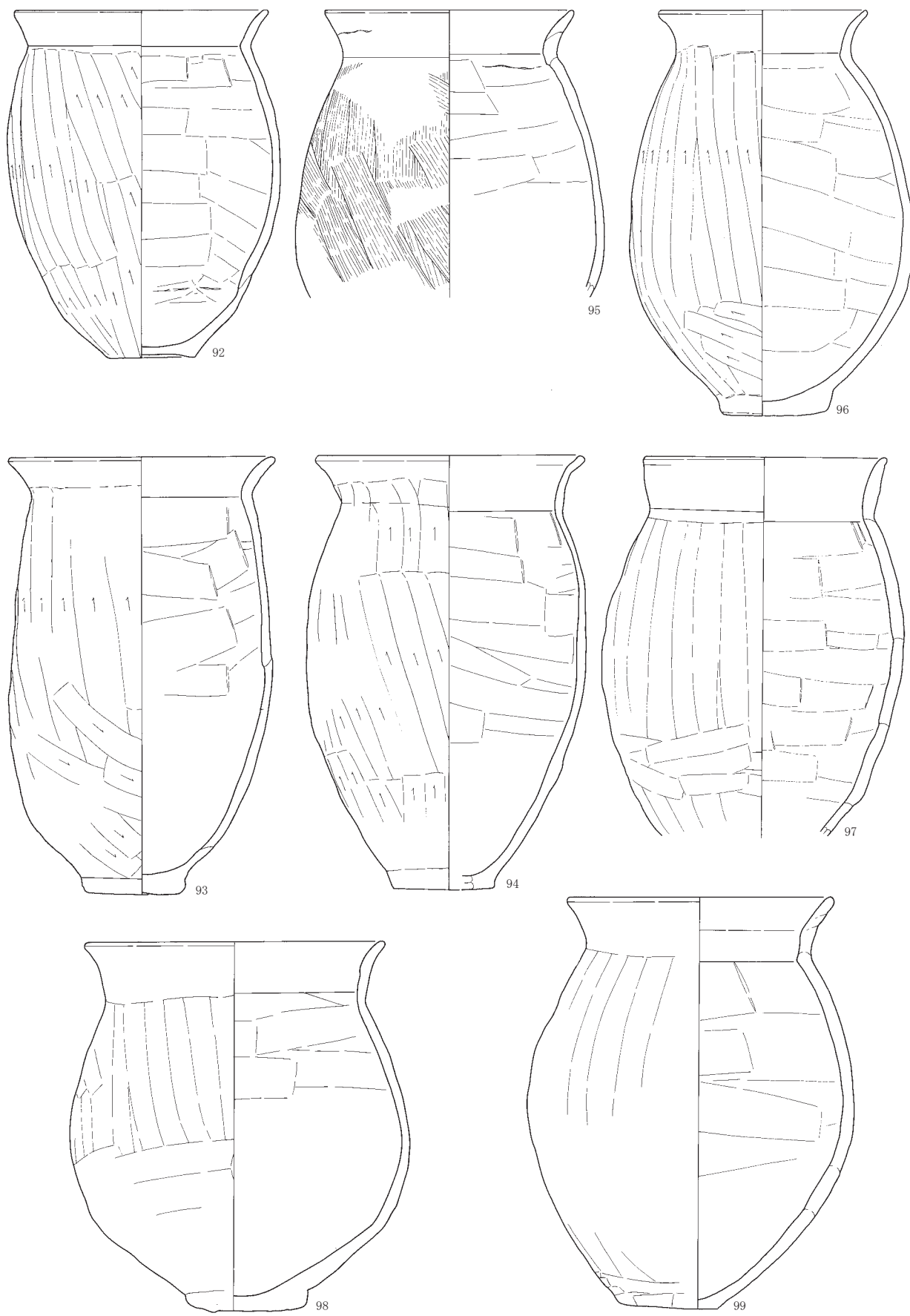
第294图 1号溜井 出土遗物(1)



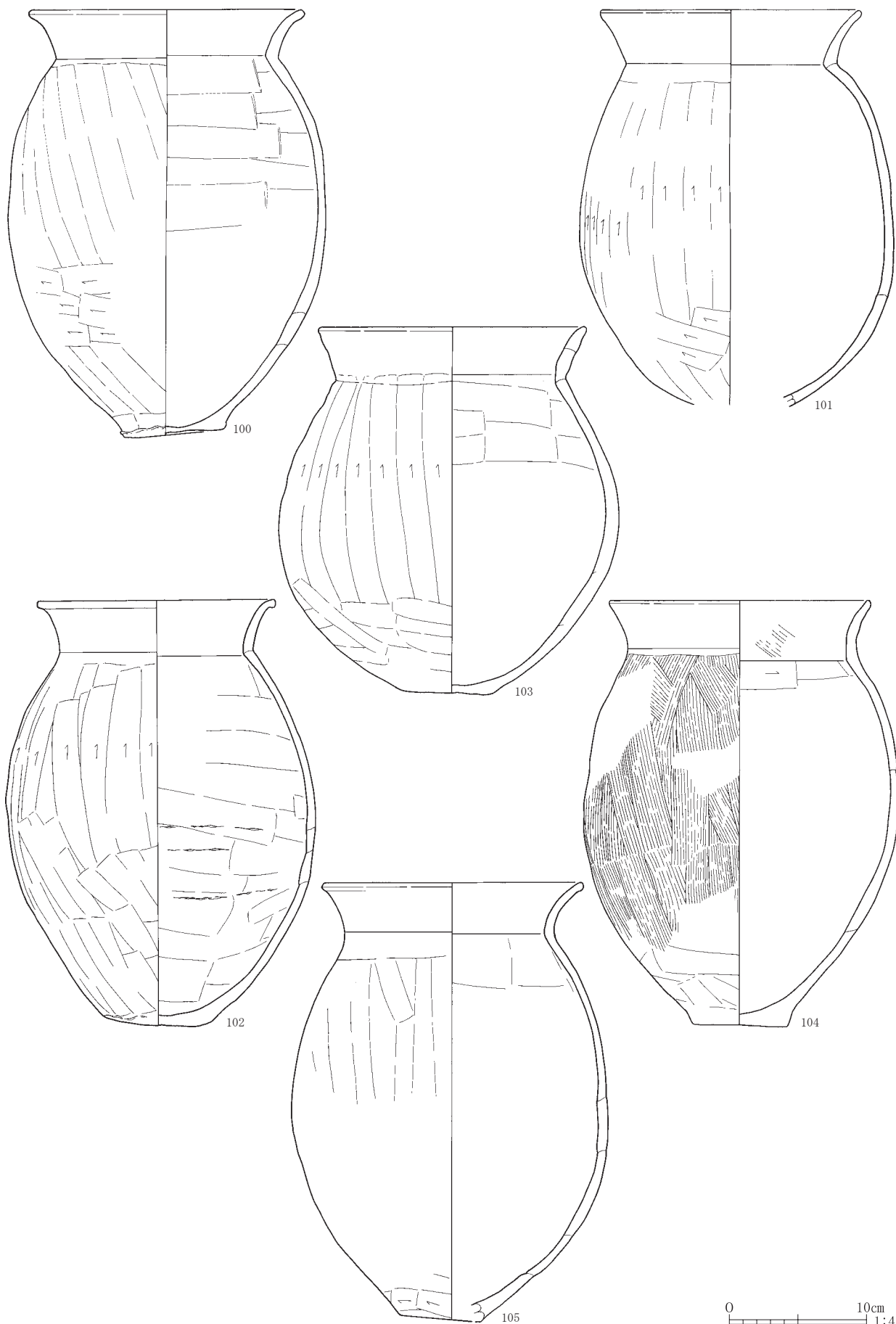
第295图 1号溜井 出土遗物(2)



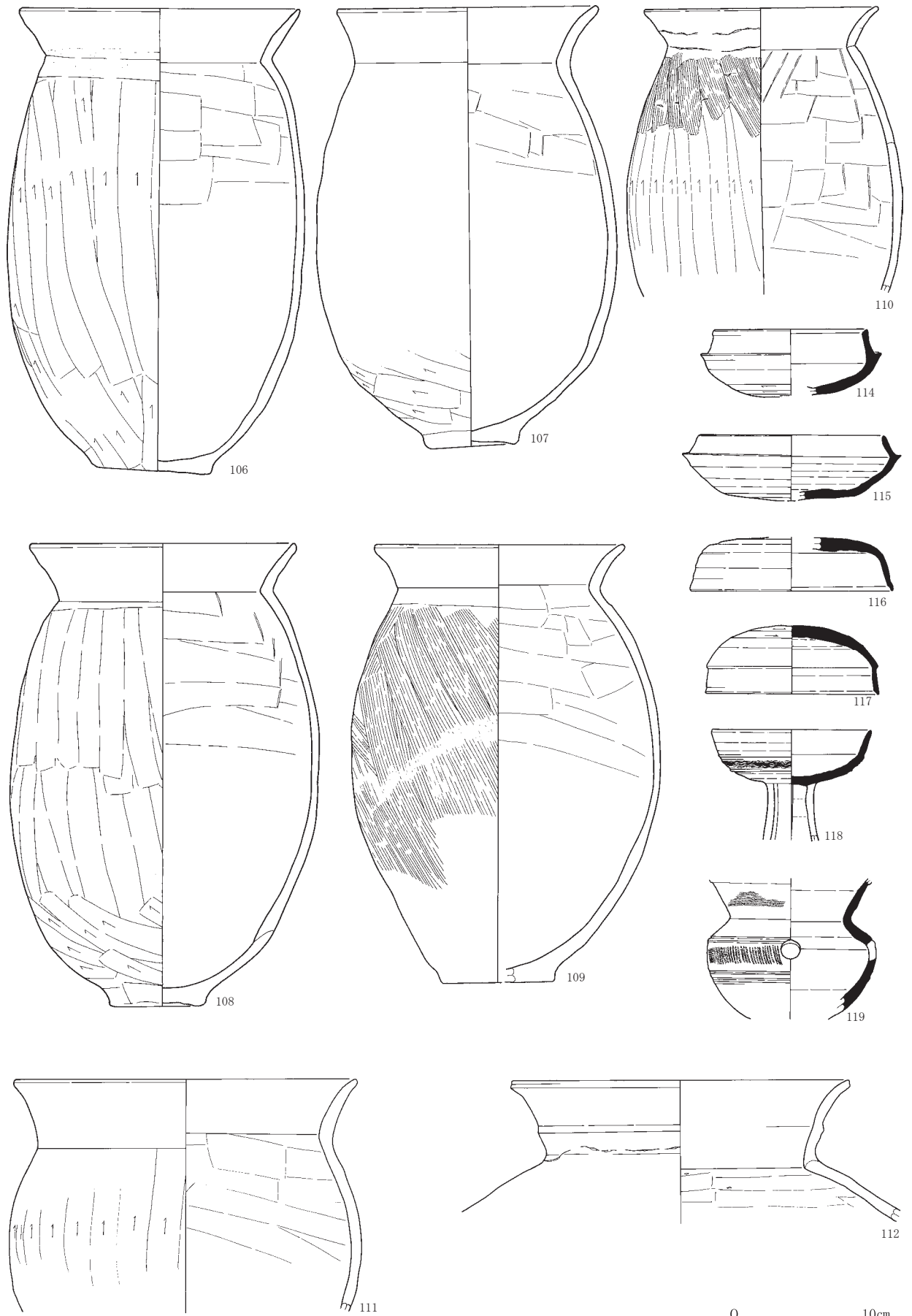
第296图 1号溜井 出土遗物(3)



第297图 1号溜井 出土遺物(4)

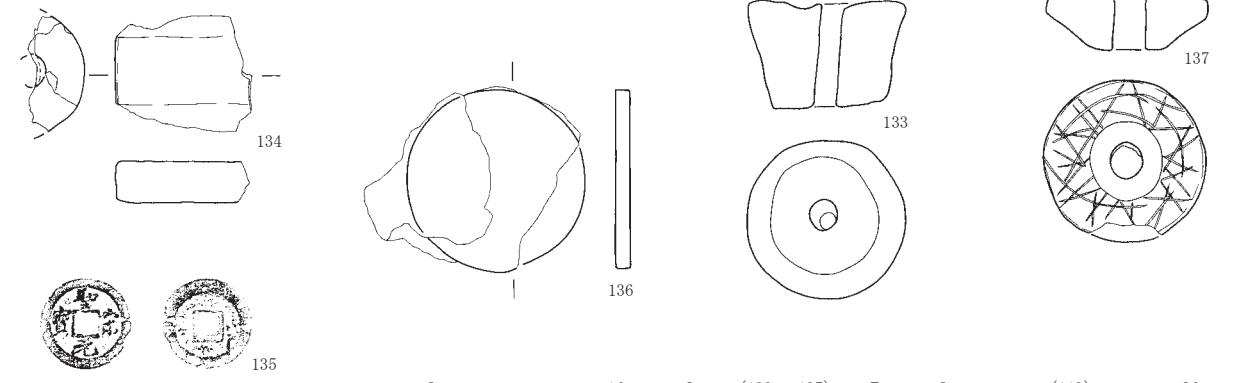
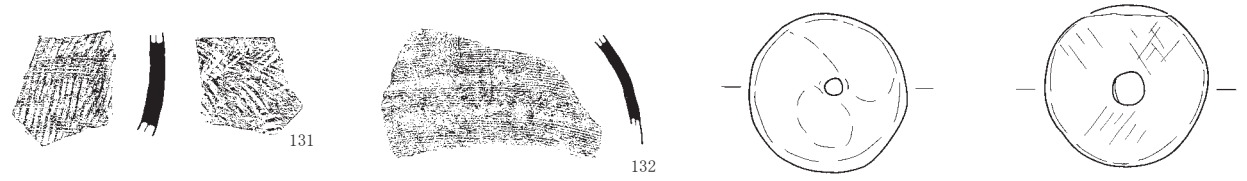
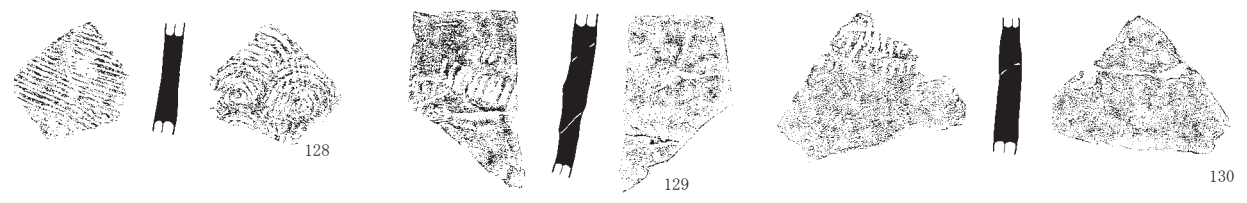
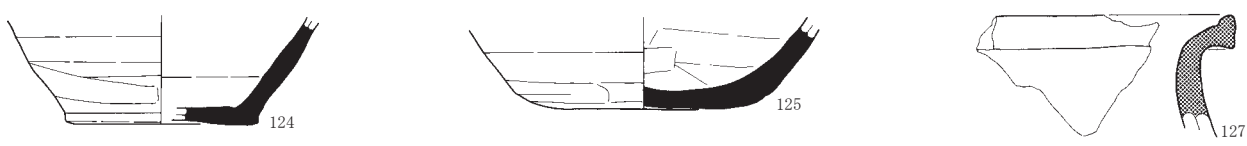
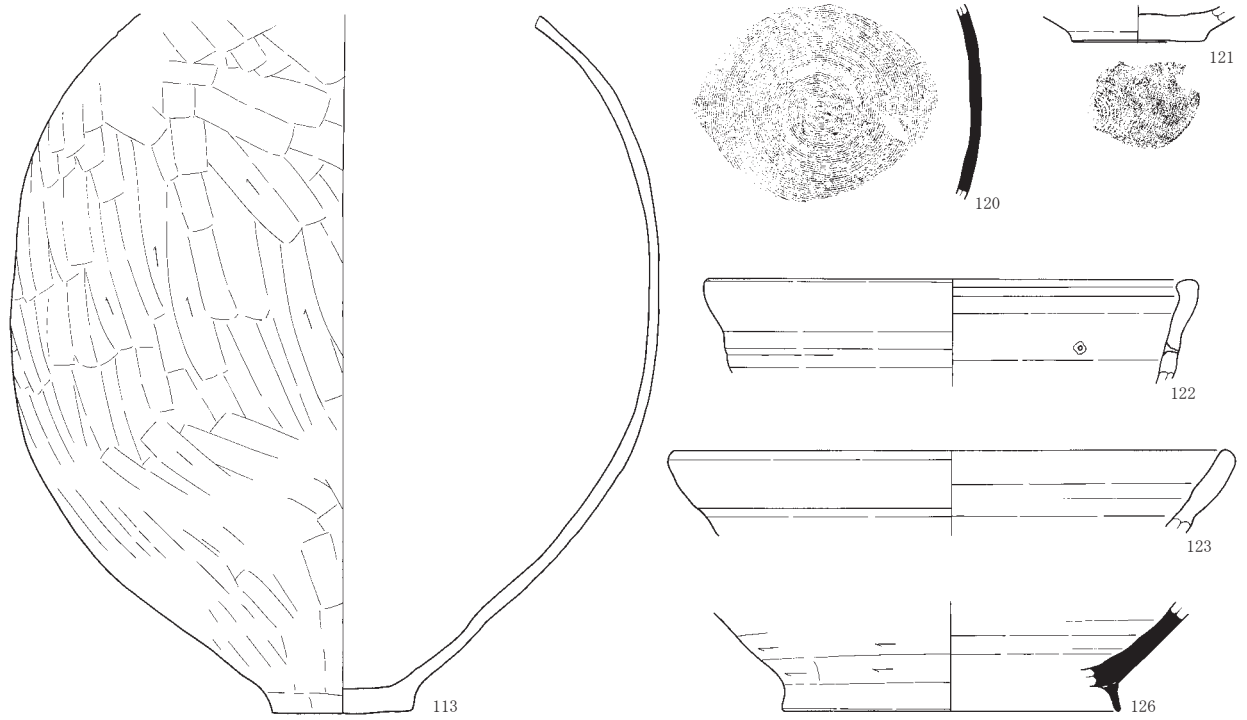


第298图 1号溜井 出土遺物(5)



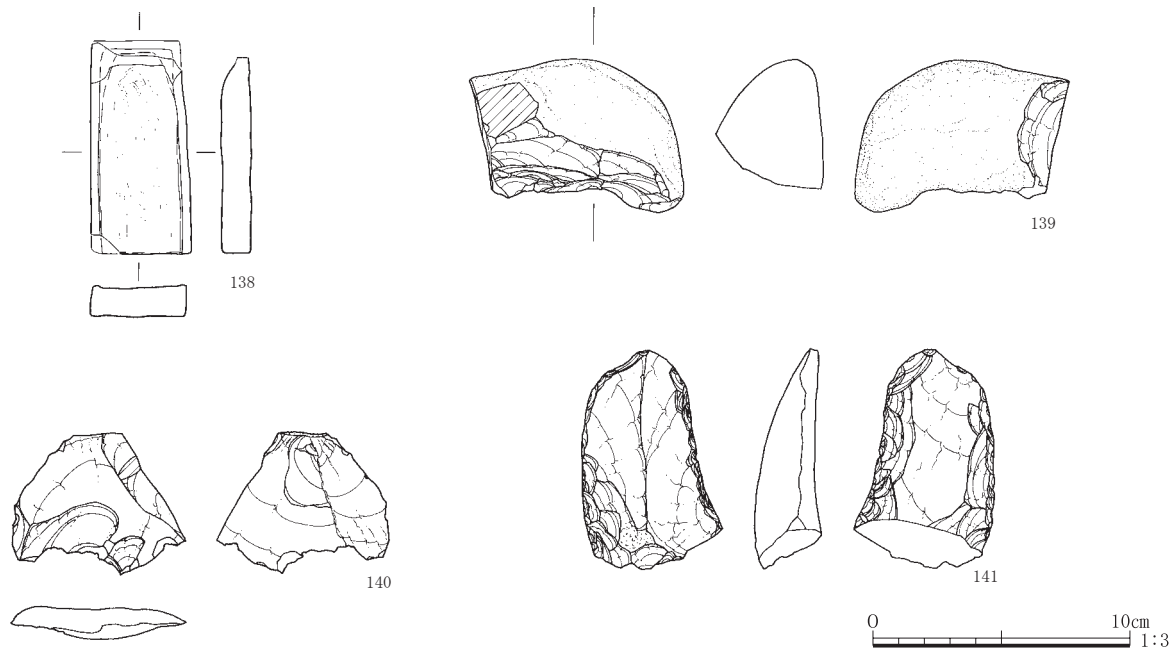
第299图 1号溜井 出土遗物(6)

0 10cm 1:4



0 10cm 1:4 0 (133~137) 5cm 1:2 0 (113) 20cm 1:6

第300图 1号溜井 出土遗物(7)



第301図 1号溜井 出土遺物(8)

1号溜井 出土遺物観察表(3)

27	坏	A. 口径(13.2)。器高6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・雲母。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 1/2。H. 覆土下層。
28	坏	A. 口径12.7。残存高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土下層。
29	坏	A. 口径(13.2)。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外-灰黄褐色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
30	坏	A. 口径11.9。残存高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外-橙色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
31	坏	A. 口径(13.2)。残存高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 2/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。内外面口縁部にスス附着。H. 覆土。
32	坏	A. 口径13.2。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/2。G. 内面、痘痕状に剥離する。H. 覆土。
33	坏	A. 口径11.8。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・赤色粒子。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 1/3。H. 覆土下層。
34	坏	A. 口径(12.4)。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部剥離。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/4。G. 内部口縁部にスス附着。H. 覆土下層。
35	坏	A. 口径(12.0)。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→部分的にミガキ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外-橙色。F. 1/3。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
36	坏	A. 口径11.9。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 口縁部にスス附着。H. 覆土下層。
37	坏	A. 口径(12.0)。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/2。G. 内面体部にスス附着。H. 覆土下層。
38	坏	A. 口径12.0。残存高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
39	坏	A. 口径13.0。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外-橙色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
40	坏	A. 口径(12.8)。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部摩滅。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-橙色。F. 2/3。H. 上層・下層。
41	坏	A. 口径13.0。残存高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・石英。E. 内外-にぶい橙色。F. 2/3。H. 覆土下層。
42	坏	A. 口径(12.9)。器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 2/3。H. 覆土下層。
43	坏	A. 口径(13.0)。残存高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部摩滅。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-浅黄橙色。F. 1/4。H. 覆土下層。
44	坏	A. 口径(12.4)。残存高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 1/2。H. 覆土。
45	坏	A. 口径(12.7)。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・赤色粒子。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/3。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
46	坏	A. 口径12.7。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/2。H. 覆土下層。

1号溜井 出土遺物観察表(4)

47	坏	A. 口径12.7。器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 覆土下層。
48	坏	A. 口径12.6。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・石英。E. 内一にぶい橙色。外一浅黄橙色。F. 1/2。H. 覆土下層。
49	坏	A. 口径(12.8)。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/3。H. 覆土下層。
50	坏	A. 口径(13.2)。器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ→ヨコミガキ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一褐灰色。外一暗灰色。F. 2/3。G. 内外面、黒色処理。H. 覆土下層。
51	坏	A. 口径(14.2)。器高5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 口唇部にスス付着。H. 覆土下層。
52	坏	A. 口径(15.0)。器高6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 覆土下層。
53	坏	A. 口径(15.8)。器高7.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ→ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 3/4。H. 覆土下層。
54	坏	A. 口径(15.5)。残存高7.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 上層・下層。
55	坏	A. 口径14.0。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁～体部上半ヨコナデ。以下は調整不明瞭。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・片岩。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土下層。
56	坏	A. 口径13.6。残存高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁～胴部上位ヨコナデ。体部中位以下ケズリ・ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ→タテミガキ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土下層。
57	坏	A. 口径14.4。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁～体部上位ヨコナデ。体部中位以下ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 3/4。H. 覆土下層。
58	坏	A. 口径13.7。残存高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、器面の荒れ著しい。D. 石英・片岩。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/3。H. 覆土下層。
59	坏	A. 口径12.8。器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 内外面口縁部にスス付着。H. 覆土下層。
60	罎	A. 口径11.4。残存高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部中位ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 口縁部4/5。G. 内外面口縁部にスス付着。H. 上層・下層。
61	罎	A. 口径8.1。残存高11.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ユビオサエ→ヨコナデ。D. チャート・片岩・雲母。E. 内外一橙色。F. 口縁部ほぼ完形、胴部4/5。H. 覆土下層。
62	罎	A. 口径9.9。器高15.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ。胴部丁寧なヨコナデ。内面、口縁部タテナデ。胴部観察不可。D. 雲母・石英。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 口縁部1/2、胴部完形。G. 外面胴部上半に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
63	罎	A. 口径11.0。残存高(8.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ→ヨコミガキが摩滅。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ユビオサエ→ヨコナデ。D. 石英・白色粒子・角閃石。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. 口縁部4/5。G. 頸部は絞り成形。H. 覆土下層。
64	小形甕	A. 口径14.0。底径5.5。器高13.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・雲母。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
65	小形甕	A. 口径(14.4)。残存高13.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部器面の荒れ激しく調整剥落。D. 片岩・石英。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/3。G. 外面口縁部・胴部、内面胴部下半にスス付着。H. 上層・下層。
66	小形甕	A. 口径(14.5)。底径5.5。器高15.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテ～ナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・石英。E. 内一にぶい黄橙色。外一灰黄色。F. 1/2。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
67	小形甕	A. 口径13.3。底径6.5。器高15.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、調整摩滅。D. 片岩・石英。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内面にスス付着。H. 覆土。
68	小形甕	A. 口径(13.2)。底径5.8。器高17.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。底部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ユビオサエ。中位以下ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・雲母。E. 内外一橙色。F. 2/3。G. 内面胴部下位にスス付着。H. 覆土下層。
69	小形甕	A. 口径(13.3)。底径2.9。器高14.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→上半タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・赤色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/2。G. 底部焼成前穿孔。H. 覆土。
70	小形甕	A. 口径15.0。底径(5.6)。器高20.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→中位タテケズリ→下位ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 3/4。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。内面胴部にスス付着。底部は輪積みで外れる。H. 覆土下層。
71	高坏	A. 口径13.1。底径(9.0)。器高7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・雲母。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土下層。
72	高坏	A. 口径11.5。底径9.8。器高9.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、摩滅のため調整不明。D. 雲母・片岩・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土下層。
73	高坏	A. 口径13.5。底径10.0。器高11.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ナデ調整だが摩滅のため単位が不明。D. 石英。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 外面赤彩の可能性あり。H. 覆土下層。

1号溜井 出土遺物観察表(5)

74	高坏	A. 口径(17.3)。底径12.0。器高(13.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ヨコナデ。脚部上半タテナデ→下半ヨコナデ。内面、口縁部～体部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ→下半ヨコナデ。D. 角閃石・片岩。E. 内外-橙色。F. 1/3。G. 内面口縁部にスス付着。H. 覆土下層。
75	高坏	A. 口径(17.3)。底径(12.6)。器高(11.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ヨコナデ。脚部上半タテナデ→下半ヨコナデ。内面、口縁部～体部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ→下半ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土下層。
76	高坏	A. 口径(19.1)。底径12.4。器高(15.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ヨコナデ。脚部上半タテナデ→下半ヨコナデ。内面、口縁部～体部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ→下半ヨコナデ。D. 赤色粒子・角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
77	高坏	A. 口径17.8。底径(12.2)。器高(14.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ヨコナデ。脚部上半タテナデ→下半ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外-にぶい橙色。F. 2/3。G. 口唇部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
78	高坏	A. 口径13.0。残存高6.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコミガキ(剥落)。内面、ヨコナデ→ヨコミガキ。体部下半は剥落。D. 石英・片岩・チャート。E. 内-赤橙色。外-赤色。F. 坏部完形。G. 内外面赤彩。H. 覆土下層。
79	高坏	A. 口径(14.7)。残存高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ→体部タテミガキ。D. 片岩。E. 内外-橙色。F. 坏部3/4。H. 覆土下層。
80	高坏	A. 口径14.6。残存高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、調整摩滅。D. 赤色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. 坏部3/4。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
81	高坏	A. 口径17.0。残存高9.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 雲母・角閃石。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 坏部2/3。H. 覆土下層。
82	小形甌	A. 口径18.4。底径5.4。器高10.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ヨコナデ。底部焼成前穿孔→ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外-灰黄褐色。F. ほぼ完形。G. 外面、口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
83	鉢	A. 口径19.4。残存高14.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・片岩。E. 内-にぶい橙色。外-浅黄褐色。F. 底部以外ほぼ完形。G. 内外面にスス付着。器面荒れる。H. 覆土。
84	鉢	A. 口径(19.5)。底径5.9。器高16.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。G. 外面口縁部～胴部上位に焼成時の黒斑あり。内外器面荒れる。H. 上層・下層。
85	鉢	A. 口径(17.2)。底径7.0。器高15.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/2。G. 外面胴部下半にスス付着。H. 覆土下層。
86	壺	A. 口径(14.0)。底径7.0。器高10.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁～胴部中位摩滅。胴部下位ヨコケズリ。底部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ユビオサエ。中位は摩滅。下位ヨコナデ。D. 石英・チャート。E. 内外-灰白色。F. 3/4。G. 外面底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
87	大形甌	A. 口径17.6。底径9.6。器高22.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテナデ。内面、ナデ(単位不明)D. 雲母・白色粒子・石英。E. 内外-灰黄褐色。F. 4/5。G. 内外面、胴部上位にスス付着。外面胴部中位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
88	大形甌	A. 口径21.8。底径8.2。器高24.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ・ヨコナデ。底部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・赤色粒子。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 1/2。G. 外面胴部下半に焼成時の黒斑あり。H. 上層・下層。
89	大形甌	A. 口径21.0。底径8.1。器高25.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ヨコケズリ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内-橙色。外-灰白色。F. 4/5。G. 内外面、胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 上層・下層。
90	大形甌	A. 口径21.9。底径8.8。器高28.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部上半タテナデ。下半ナメケズリ→ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい黄褐色。F. 2/3。G. 外面焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
91	大形甌	A. 口径26.1。底径9.6。器高30.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→タテハケ。内面、上半ヨコナデ。下半ヨコケズリ→ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 内外面胴部下位にスス付着。H. 上層・下層。
92	甕	A. 口径18.0。底径9.4。器高24.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下位～底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
93	甕	A. 口径(19.0)。底径7.2。器高31.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ナメケズリ。底部ケズリ。D. 片岩・石英。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい橙色。F. 2/3。G. 外面中位にスス付着。H. 覆土下層。
94	甕	A. 口径19.3。底径7.3。器高30.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい黄褐色。F. 4/5。G. 外面胴部下半にスス付着。H. 覆土下層。
95	甕	A. 口径17.8。残存高20.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内外-灰白色。F. 胴部中位以上1/3。G. 外面胴部上位～口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
96	甕	A. 口径14.9。底径7.5。器高29.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内-灰黄褐色。外-灰黄色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部にスス付着及び、焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

1号溜井 出土遺物観察表(6)

97	甕	A. 口径17.3。残存高27.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・石英。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 底部以外4/5。G. 外面胴部にスス附着。H. 上層・下層。
98	甕	A. 口径(21.4)。底径8.6。器高26.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメケズリ→タテナデ→下半ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・石英。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 2/3。G. 外面胴部にスス附着。H. 覆土下層。
99	甕	A. 口径18.9。底径(7.2)。器高29.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/3。H. 上層・下層。
100	甕	A. 口径(20.0)。底径7.8。器高31.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→中位ヨコケズリ・下位ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコケズリ。D. 石英・角閃石・片岩。E. 内一にぶい黄橙色。外一にぶい橙色。F. 2/3。G. 外面胴部下スス附着。H. 覆土下層。
101	甕	A. 口径19.0。残存高29.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、身迂遠部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデが摩滅。D. 石英。E. 内外一にぶい橙色。F. 4/5。G. 内外面、口縁部～胴部上半にスス附着。H. 覆土下層。
102	甕	A. 口径17.2。底径8.0。器高31.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下半タテナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面、胴部・底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
103	甕	A. 口径19.5。底径7.1。器高26.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一にぶい橙色。F. 4/5。G. 内外面、胴部にスス附着。H. 覆土下層。
104	甕	A. 口径19.0。底径(7.0)。器高31.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部下位ヨコナデ→上半タテハケ。底部ナデ。内面、口縁部ヨコハケ→ヨコナデ。胴部ナデ→上位ヨコケズリ。D. 石英・片岩。E. 内外一灰黄色。F. 4/5。G. 外面胴部にスス附着。H. 覆土下層。
105	甕	A. 口径19.0。底径(6.0)。器高32.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ、下位ヨコケズリ。中位は摩滅。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 3/4。G. 内外面、胴部にスス附着。H. 覆土下層。
106	甕	A. 口径20.4。底径8.7。器高33.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ→ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一橙色。外一赤褐色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。内外面胴部にスス附着。H. 上層・下層。
107	甕	A. 口径(19.0)。底径6.9。器高31.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、胴部中位以上摩滅。胴部下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一浅黄橙色。F. 3/4。G. 器面荒れる。H. 覆土下層。
108	甕	A. 口径19.2。底径6.9。器高35.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ナナメケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・チャート・白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下位～底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
109	甕	A. 口径18.2。底径(8.2)。器高(31.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一灰白色。F. 3/4。G. 外面胴部中位・内面底部にスス附着。H. 覆土下層。
110	甕	A. 口径16.9。残存高20.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→上位タテハケ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部中位1/2。H. 覆土。
111	甕	A. 口径24.8。残存高17.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一橙色。F. 胴部中位以上2/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土上層・下層。
112	壺	A. 口径(24.5)。残存高10.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内一灰白色。外一橙色。F. 口縁部1/3。G. 外面器面荒れる。H. 覆土。
113	大形壺	A. 底径11.0。残存高55.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、胴部上位ヨコ～ナナメナデ。中位以下タテケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。底部ケズリ。D. 石英・片岩・角閃石・橙色粒子。E. 内一明褐灰色。外一にぶい橙色。F. 胴部3/4。G. 外面胴部下位～底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
114	須恵器 坏身	A. 口径(113)。器高4.8。B. ロクロ成形。C. 外面、体部下半回転ケズリ。D. 石英。E. 内外一灰色。F. 1/2。G. 藤岡産。H. 覆土下層。
115	須恵器 坏身	A. 口径(13.4)。器高4.7。B. ロクロ成形。C. 外面、体部下位回転ケズリ。D. 白色粒子・石英。E. 内外一灰色。断一灰赤色。F. 破片。H. 上層・下層。
116	須恵器 坏蓋	A. 底径(14.8)。器高4.8。B. ロクロ成形。C. 外面、天井部回転ケズリ。D. 片岩・石英。E. 内外一灰白色。F. 1/2。G. 在地産。H. 覆土下層。
117	須恵器 坏蓋	A. 底径(12.6)。器高4.9。B. ロクロ成形。C. 外面、天井部回転ケズリ。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 1/3。G. 藤岡産。H. 覆土下層。
118	須恵器 高坏	A. 口径11.6。残存高8.0。B. ロクロ成形。C. 外面、体部中位に櫛描波状文を施文。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 1/4。G. 外面脚部・内面に自然釉附着。搬入か。H. 上層・下層。
119	須恵器 甕	A. 残存高10.3。B. ロクロ成形。C. 外面、頸部櫛描波状文。胴部上位自然釉。中位、沈線間に櫛歯状工具による刺突文。下位ロクロ成形→ヨコナデ。内面、頸部自然釉。胴部上位ユビオサエ。中位以下自然釉。D. 白色粒子。E. 内外一灰。F. 3/4。G. 搬入か。H. 覆土。
120	須恵器 瓶	A. 残存高10.5。B. ロクロ成形。C. 外面、同心円状のカキ目。内面、ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰白色。F. 破片。G. 外面の一部に自然釉。H. 覆土下層。
121	かわらけ	A. 底径(7.0)。残存高1.9。B. ロクロ成形。C. 底部回転糸切り。内面、剥落激しい。D. 雲母・白色粒子。E. 内外一灰黄色。F. 底部3/4。H. 中世面。

1号溜井 出土遺物観察表（7）

122	内耳鍋	A. 口径(26.2)。残存高5.5。B. ロクロ成形。C. 回転ナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内外一灰色。F. 口縁部破片。G. 胴部に焼成後穿孔あり。補修痕か。H. 中世面。
123	片口鉢	A. 口径(30.0)。残存高4.4。B. ロクロ成形。C. 回転ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一灰色。F. 口縁部破片。G. 在地産。H. 中世面。
124	須恵器壺	A. 底径(10.1)。残存高5.7。B. ロクロ成形。C. 外面、ヨコナデ。底部ナデ。内面、自然釉により調整不明。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 底部1/4。G. 内面に自然釉。H. 中世面。
125	須恵器壺	A. 底径(11.7)。残存高4.8。B. ロクロ成形。C. 外面、上位ナデ・ユビオサエ。下位回転ケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一灰色。F. 底部1/2。H. 中世面。
126	山茶碗窯系片口鉢	A. 底径(17.9)。残存高5.8。B. ロクロ成形。高台貼付。C. 外面、体部回転ケズリ。高台部回転ナデ。内面、回転ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰白色。F. 底部破片。H. 中世面。
127	常滑窯系甕	A. 残存高6.6。B. ロクロ成形。C. 回転ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰褐色。F. 口縁部破片。G. 内外面自然釉・鉄釉。H. 中世面。
128	須恵器甕	A. 残存高5.9。B. 粘土紐積み上げ。タタキ成形。C. 外面、平行タタキ目。内面、同心円状の当て具痕。D. 白色粒子・石英。E. 内外一灰白色。F. 口縁部破片。H. 覆土上層。
129	常滑窯系甕	A. 残存高8.9。B. 粘土紐積み上げ。タタキ成形。C. 外面、押印文→ナデ。内面、ナデ。D. 石英。E. 内外一灰。F. 破片。H. 中世面。
130	常滑窯系甕	A. 残存高7.2。B. 粘土紐積み上げ。タタキ成形。C. 外面、押印文→ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。H. 中世面。
131	須恵器甕	A. 残存高5.2。B. 粘土紐積み上げ。タタキ成形。C. 外面、平行タタキ目→ナデ。内面、同心円状の当て具痕。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。H. 覆土上層。
132	須恵器壺か	A. 残存高5.7。B. 粘土紐積み上げ。タタキ成形。C. 外面、カキ目。内面、回転ナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外一灰色。F. 破片。H. 覆土上層。
133	土製紡錘車	A. 径4.2。厚3.1。重48.1。C. ナデ。D. 雲母・角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 完形。H. 覆土下層。
134	羽口	A. 径(5.3)。残存長7.1。C. ナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。G. 内面に鉄分付着。H. 中世面。
135	古銭	A. 径2.45。孔径0.5。厚0.05。重2.10。D. 銅銭。F. 完形。G. 「聖宋元寶」北宋建中元(1101)年。H. 中世面。
136	鉄製品紡錘車	A. 径(4.9)。残存重37.1。D. 鉄製。F. 3/4。G. 錆の付着が著しい。H. 覆土。
137	石製紡錘車	A. 径4.3。厚1.4。重32.0。C. 表・側面とも丁寧なミガキ。側面に線刻あり。D. 滑石製。F. ほぼ完形。H. 覆土下層。
138	硯	A. 残長8.3。幅4.0。残重72.4。C. 全体的に良く研磨される。裏面は剥落が著しい。F. 4/5。H. 中世面。
139	礫器	A. 長6.1。幅8.5。厚4.3。重280.41。D. 頁岩。F. 完形。G. 自然礫を素材とする。H. 覆土上層。
140	剥片	A. 長4.6。幅6.8。厚1.3。重41.74。D. 頁岩。F. ほぼ完形。G. 刃部は欠損している箇所が多い。H. 覆土上層。
141	打製石斧	A. 長8.7。幅5.6。厚2.6。重111.85。D. 頁岩。F. 2/3。G. 刃部欠損。両面調整。H. 覆土上層。

4. 土坑

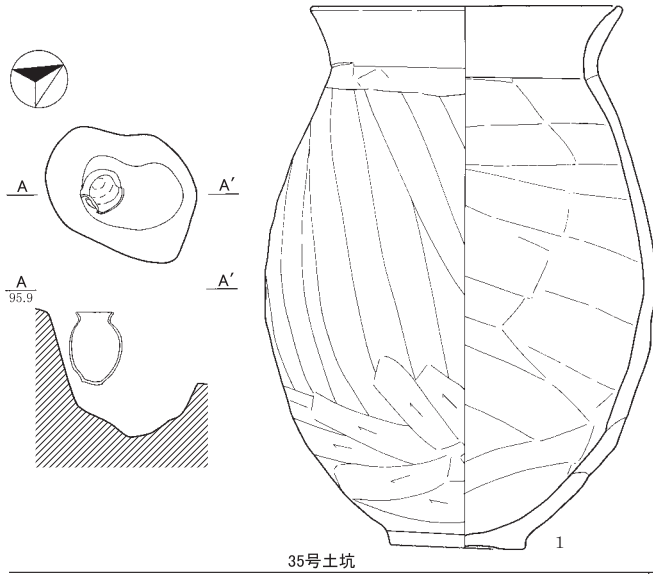
秋山大町遺跡からは173基の土坑が検出された。長方形や円形を呈するものが多い傾向にある。遺物が出土していないものは、土坑表として示し、特徴的なものを以下に記載する。

35号土坑(第302図、図版43・95)

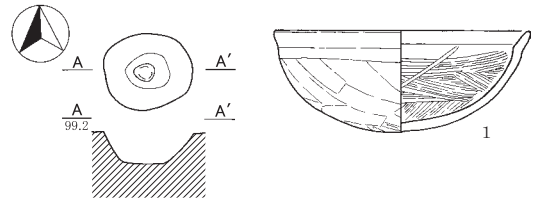
位置：B地点の北に位置している。24号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は不整形を呈する。主軸方位：N-64°-E。規模：長軸0.61m、短軸0.47m。埋没状況：不明。遺物：土師器の甕が正位の状態で出土している。時期：古墳時代後期。

36号土坑(第302図、図版43・95)

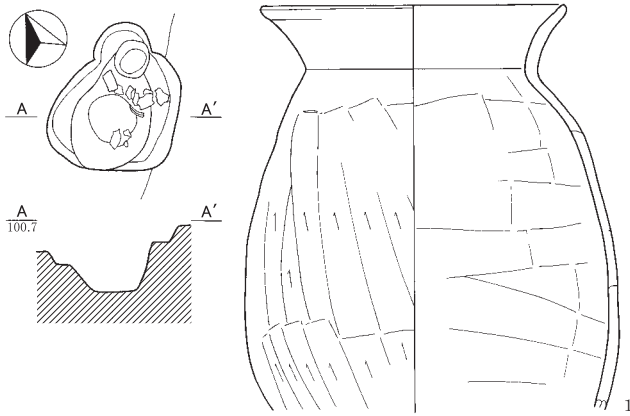
位置：B地点の北東に位置している。21号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は楕円形を呈する。主軸方位：N-89°-W。規模：長軸0.70m、短軸0.61m。埋没状況：不明。遺物：覆土中より土師器の坏が出土している。時期：古墳時代後期。



35号土坑



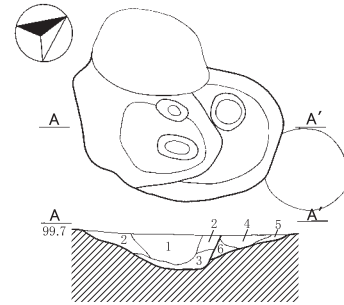
36号土坑



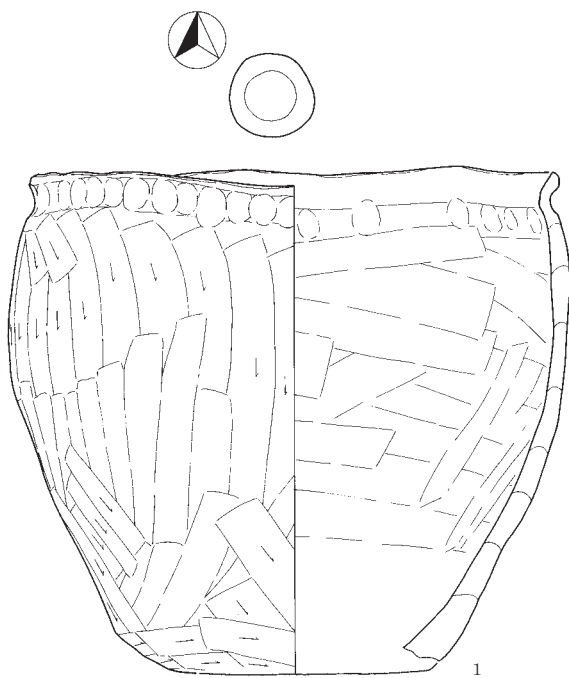
49号土坑

61号土坑

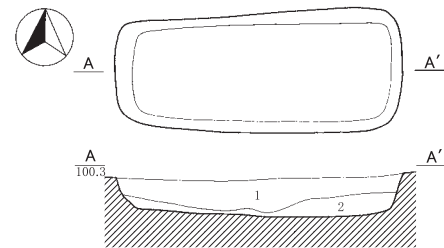
- 1層 黒褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
 - 2層 暗茶褐色土層 ローム粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
 - 3層 暗黄褐色土層 ロームブロックを中量含む。粘性・しまりなし。
- 62号土坑
- 4層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
 - 5層 暗褐色土層 ロームブロック・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
 - 6層 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性・しまりなし。



61号・62号土坑



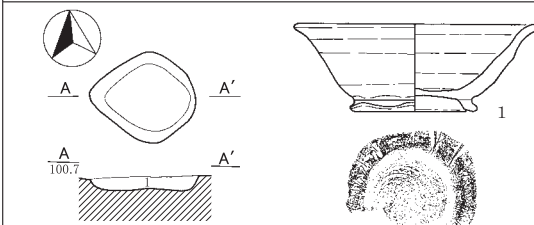
64号土坑



84号土坑

84号土坑

- 1層 暗茶褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを中量、白色粘土粒子・焼土粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。
- 2層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを多量、焼土粒子を少量含む。粘性・しまりあり。



86号土坑

- 1層 暗茶褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりあり。

86号土坑

0 2 m 1:60

0 10 cm 1:4

第302図 土坑 (1)

49号土坑(第302図、図版43・95)

位置：B地点の中央に位置している。48号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は不整形を呈する。主軸方位：N-29°-E。規模：長軸1.18m、短軸0.98m。埋没状況：不明。遺物：覆土より土師器の甕が出土している。時期：古墳時代後半。

61号土坑(第302図、図版43・95)

位置：B区の中央に位置している。120号住居跡・62号土坑と重複する。土坑より新しく、住居跡との新旧関係は不明である。形態：平面形は楕円形を呈する。主軸方位：N-11°-E。規模：長軸0.79m以上、短軸0.91m。埋没状況：自然埋没である。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：平安時代。

62号土坑(第302図、図版43・95)

位置：B地点の中央に位置している。120号住居跡・61号土坑と重複する。土坑より古く、住居跡との新旧関係は不明である。形態：平面形は不整形を呈する。主軸方位：N-45°-E。規模：長軸0.41m以上、短軸0.99m。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より脚付きの羽釜が出土している。時期：平安時代。

64号土坑(第302図、図版44・95)

位置：B地点の中央に位置している。120号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：平面形は円形を呈する。規模：径0.70m。埋没状況：セクション及び、レベルリングの記録が残っておらず、遺構の深さ・埋没状況は不明。遺物：覆土より土師器の甕が出土している。時期：平安時代。

84号土坑(第302図、図版44・95)

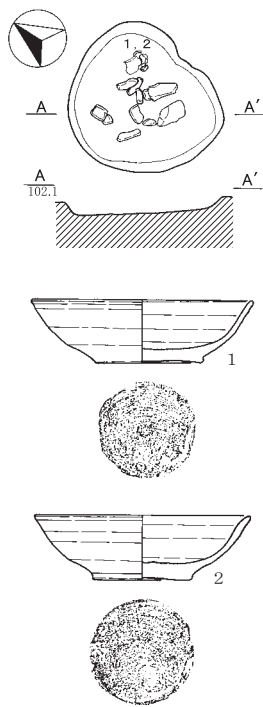
位置：B地点の中央よりやや南に位置している。107号住居跡と重複し、新旧関係は不明。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-85.5°-E。規模：長軸2.32m、短軸1.00m。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：須恵器の高台付碗が出土している。時期：平安時代。

86号土坑(第302図、図版44・95)

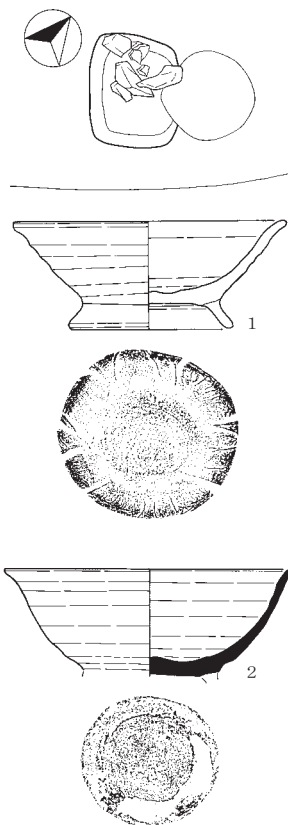
位置：B地点の南に位置している。形態：平面形は隅丸方形を呈する。主軸方位：N-84°-W。規模：一辺0.62m。埋没状況：単層だが自然埋没であろう。遺物：須恵器の高台付碗が出土している。時期：平安時代。

87号土坑(第303図、図版44・95)

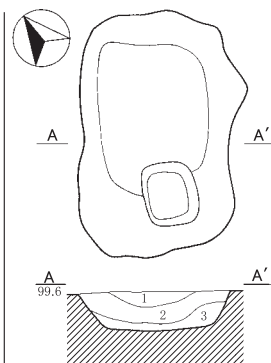
位置：B地点のほぼ中央に位置している。69号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：平面形は不整形を呈する。主軸方位：N-18°-W。規模：長軸1.24m、短軸1.14m。埋没状況：不明。遺物：覆土から須恵器の坏とともに礫が出土している。時期：平安時代。



87号土坑



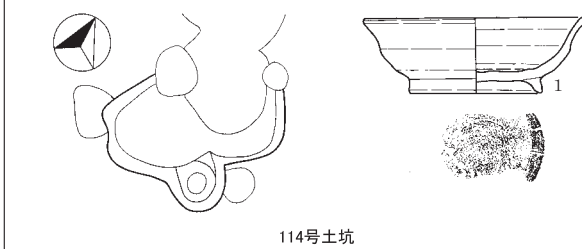
91号土坑



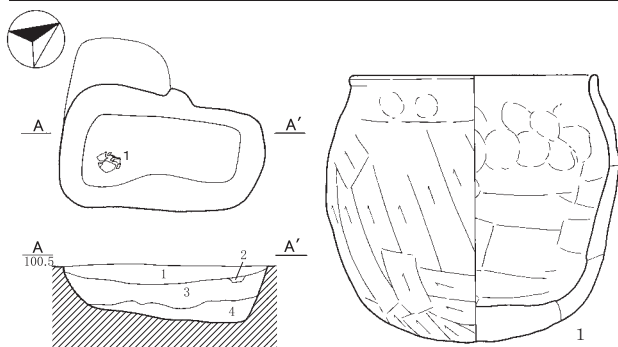
101号土坑

- 1層 褐色土層 ロームブロックを多量含む。粘性・しまり強。
 2層 褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を少量、ローム粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
 3層 褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性・しまり強。

101号土坑



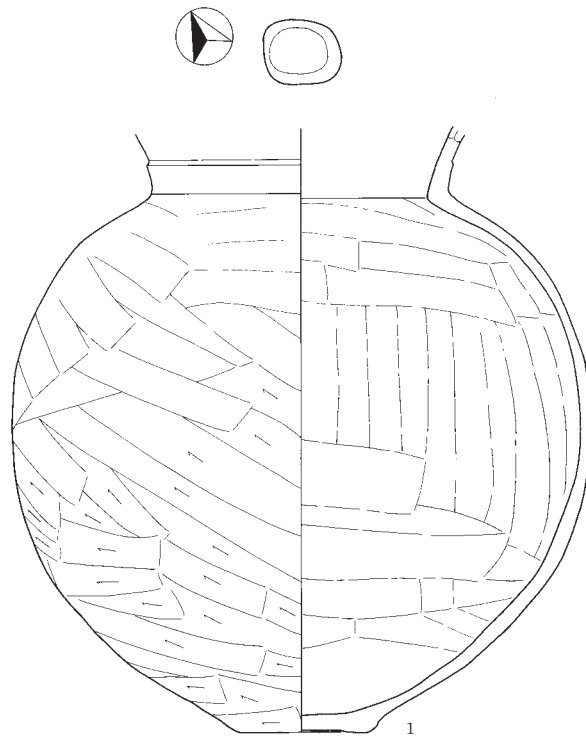
114号土坑



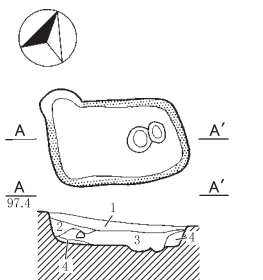
125号土坑

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 2層 暗赤褐色土層 焼土ブロックを含む。
 3層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を中量、炭化物粒子を含む。粘性・しまりあり。
 4層 暗褐色土層 ロームブロックを中量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。

125号土坑



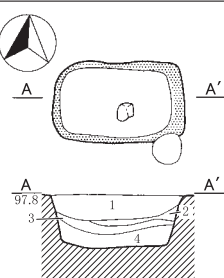
132号土坑



147号土坑

- 1層 暗褐色土層 As-Bを中量、焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 2層 黒褐色土層 As-B・炭化物粒子を中量含む。粘性・しまりあり。
 3層 暗茶褐色土層 ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 4層 暗茶褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。

147号土坑



148号土坑

- 1層 暗茶褐色土層 As-B・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりあり。
 2層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を中量含む。粘性・しまりあり。
 3層 暗褐色土層 ロームブロック・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 4層 暗褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子を中量、ローム粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。

148号土坑



第303図 土坑 (2)

91号土坑(第303図、図版44・95)

位置：調査区の南に位置している。117号住居内に位置し、新旧関係は不明であるが出土遺物から見ると本遺構が新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-29° -W。規模：長軸0.89m、短軸0.70m。埋没状況：不明。遺物：須恵器の高台付碗とともに礫が出土している。時期：平安時代。

101号土坑(第303図、図版44・95)

位置：B地点の南西隅に位置している。形態：平面形は不整形を呈する。主軸方位：N-36° -E。規模：長軸2.00m、短軸1.19m。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：土師器の高坏脚部が出土している。時期：古墳時代後期。

114号土坑(第303図、図版44・95)

位置：B地点の南に位置している。99号土坑と重複し、新旧関係は不明である。なお、セクション及び、レベリングの記録が残っておらず、詳細は不明である。形態：平面形は不整形を呈する。主軸方位：N-55° -E。規模：長軸1.41m、短軸0.85m。埋没状況：不明。遺物：須恵器の高台付碗が出土している。時期：平安時代。

125号土坑(第303図、図版44・95)

位置：B地点の西に位置している。形態：平面形は隅丸長方形を呈する。主軸方位：N-44° -E。規模：長軸1.61m、短軸0.97m。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：土師器の小形甕が出土している。時期：古墳時代後期。

132号土坑(第303図、図版45・95)

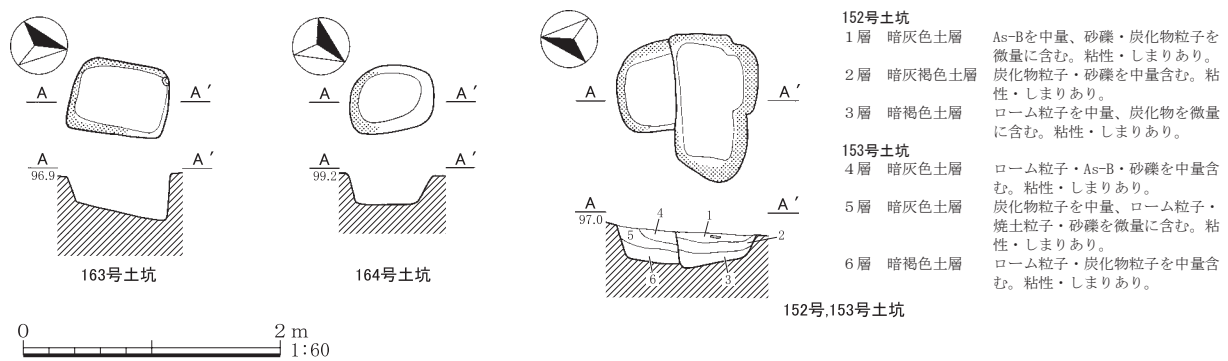
位置：B地点の南に位置している。形態：平面形は円形を呈する。なお、セクション及び、レベリングの記録が残っておらず、詳細は不明である。規模：長軸0.60m、短軸0.50m。埋没状況：不明。遺物：覆土から土師器の壺が出土している。時期：古墳時代後期。

147号土坑(第303図)

位置：E地点の東に位置している。形態：平面形は長方形を呈し、北西コーナーが突出する。底面にはピットが2本確認される。主軸方位：N-64.5° -E。規模：長軸1.08m、短軸0.68m。埋没状況：覆土には、焼土・炭化物の他に、上層にAs-Bの混入が認められる。遺構の壁面は被熱している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：火葬墓ないしは、炭等の焼成遺構であろう。

148号土坑(第303図)

位置：E地点の東に位置している。15号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-84° -E。規模：長軸1.04m、短軸0.65m。埋没状況：覆土には、焼土・炭化物の他に、上層にAs-Bの混入が認められる。遺構の壁面は被熱している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：火葬墓ないしは、炭等の焼成遺構であろう。



第304図 土坑（3）

152号土坑（第304図）

位置：E地点の東に位置している。153号土坑と重複し、本遺構が新しい。また、163号土坑とも近接する。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-84.5°-E。規模：長軸1.18m、短軸0.55m。埋没状況：覆土には、焼土・炭化物の他に、上層にAs-Bの混入が認められる。遺構の壁面は被熱している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：火葬墓ないしは、炭等の焼成遺構であろう。

153号土坑（第304図）

位置：E地点に位置している。152号土坑と重複し、本遺構が古い。163号土坑とは近接するかが、重複はない。形態：平面形は長方形を呈するだろう。主軸方位：N-5°-W。規模：長軸1.14m、短軸0.67m。埋没状況：覆土には、焼土・炭化物の他に、上層にAs-Bの混入が認められる。遺構の壁面は被熱している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：火葬墓ないしは、炭等の焼成遺構であろう。

163号土坑（第304図）

位置：E地点の東に位置している。153号土坑と近接するが、重複しない。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-1°-E。規模：長軸0.78m、短軸0.59m。埋没状況：不明だが、壁面は著しく被熱する。遺物：覆土から土器片が出土している。時期：火葬墓ないしは、炭等の焼成遺構であろう。

164号土坑（第304図）

位置：E地点の西に位置している。形態：平面形は隅丸長方形を呈する。主軸方位：N-37°-W。規模：長軸0.69m、短軸0.54m。埋没状況：不明。南壁の被熱が顕著である。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：火葬墓ないしは、炭等の焼成遺構であろう。

土坑出土遺物観察表（1）

49土	1	甕	A. 口径(16.2)。残存高21.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部上半3/4。G. 外面胴部二次被熱。H. 覆土。
35土	1	甕	A. 口径16.4。底径7.2。器高28.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一にぶい黄橙色。外一にぶい黄橙色。F. 4/5。G. 外面胴部下半二次被熱。H. 覆土。
36土	1	坏	A. 口径13.6。器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。体部ミガキ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一灰褐色。外一橙色。F. 完形。G. 内面にスス附着。H. 覆土。

土坑計測表（1）

地区	遺構名	形態	規模	深さ	主軸方位
B	1号土坑	不整形	159×97	50	N-11.5°-W
	2号土坑	円形	84×83	14	-
	3号土坑	楕円形	122×68	17.5	N-56°-E
	4号土坑	長方形	294×92	9	N-87.5°-E
	5号土坑	長方形	182×95	36.5	N-1°-E
	6号土坑	円形	125×110	20	-
	7号土坑	円形	120×110	25.5	-
	8号土坑	隅丸長方形	(326)×90	56.5	N-7°-W
	9号土坑	楕円形	158×109	20.5	N-13°-E
	10号土坑	長方形	175×72	31	N-9.5°-W
	11号土坑	長方形	240×98	30	N-8°-W
	12号土坑	長方形	292×101	41.5	N-7°-W
	13号土坑	円形	292×126	41.5	N-7°-W
	14号土坑	円形	116×113	41	-
	15号土坑	円形	142×120	33.5	N-51°-E
	16号土坑	円形	128×119	32.5	-
	17号土坑	円形	115×104	23.5	-
	18号土坑	不整形	228×111	37	N-11°-W
	19号土坑	長方形	291×81	29	N-2°-W
	20号土坑	円形	128×105	15	N-46°-E
	21号土坑	円形	105×97	19.5	-
	22号土坑	円形	110×105	44	-
	23号土坑	円形	173×153	98.5	N-19°-W
	24号土坑	円形	108×98		N-64.5°-E
	25号土坑	円形	100×(79)		-
	26号土坑	円形	125×100		N-89.5°-W
	27号土坑	円形	106×103		-
	28号土坑	円形	(90)×100		-
	29号土坑	円形	119×108		-
	30号土坑	円形	124×115		-
	31号土坑	円形	98×92		-
	32号土坑	円形	110×100	45	-
	33号土坑	不整形	263×106		N-56°-W
	34号土坑	楕円形	94×(66)	19.5	N-80°-E
	37号土坑	長方形	253×86		N-20°-W
	38号土坑	隅丸長方形	(200)×84	2.5	N-1°-W
	39号土坑	不整形	(140)×(79)		N-38.5°-E
	40号土坑	円形	129×120		-
	41号土坑	不整形	202×69		N-87.5°-W
	42号土坑	長方形	125×67	22.5	N-2.5°-E
	43号土坑	長方形	153×72	14.5	N-0°-E・W
	44号土坑	欠番			
	45号土坑	円形	121×103	29	N-24.5°-E
	46号土坑	楕円形	127×108	35.5	N-9°-E
	47号土坑	長方形	360×100		N-39°-W
	48号土坑	隅丸長方形	209×82	63.5	N-27°-W
	50号土坑	円形	99×82	8	N-0°-E・W
	51号土坑	不整形	176×80	19	N-10°-E
	52号土坑	不整形	102×65	22	N-89.5°-W

地区	遺構名	形態	規模	深さ	主軸方位
B	53号土坑	隅丸長方形	159×77	5	N-31°-E
	54号土坑	隅丸方形	96×87	24.5	N-89°-W
	55号土坑	円形	135×(112)	14	N-5°-W
	56号土坑	円形	87×80	33.5	N-5.5°-E
	57号土坑	隅丸方形	107×88	18	N-43°-E
	58号土坑	円形	99×91		-
	59号土坑	不整形	136×101	28	N-31°-W
	60号土坑	長方形	(282)×70		N-36°-W
	63号土坑	円形	106×99		-
	65号土坑	円形	106×105		-
	66号土坑	楕円形	160×98		N-69°-E
	67号土坑	隅丸方形	146×134		N-52°-W
	68号土坑	不整形	(135)×112		N-72.5°-W
	69号土坑	不整形	210×194		N-0°-E・W
	70号土坑	長方形	241×114		N-13°-W
	71号土坑	長方形	92×70		N-72.5°-W
	72号土坑	不整形	131×121		-
	73号土坑	円形	71×70		-
	74号土坑	円形	116×106	11.5	-
	75号土坑	隅丸長方形	278×76	38.5	N-38°-E
	76号土坑	隅丸長方形	194×130		N-87°-E
	77号土坑	不整形	137×83	4.5	N-18.5°-W
	78号土坑	楕円形	180×126	21	N-85.5°-E
	79号土坑	円形	121×101		N-6°-E
	80号土坑	円形	122×115	73	-
	81号土坑	不整形	225×166	71	N-43°-E
	82号土坑	楕円形	(126)×87	10	N-50°-E
	83号土坑	楕円形	79×60		N-28°-E
	85号土坑	楕円形	(95)×(95)		N-17°-E
	88号土坑	長方形	187×91		N-80°-E
	89号土坑	隅丸方形	96×94		-
	90号土坑	不整形	(56)×62		N-33°-E
	92号土坑	長方形	(176)×105	52	N-25.5°-W
93号土坑	隅丸長方形	79×148		N-18°-W	
94号土坑	不整形	(185)×95	32.5	N-54.5°-E	
95号土坑	楕円形	121×85		N-16°-E	
96号土坑	長方形	300×140		N-22°-E	
97号土坑	不整形円形	99×60		N-58.5°-W	
98号土坑	楕円形	133×69		N-37.5°-W	
99号土坑a	楕円形	132×100		N-37°-W	
99号土坑b	円形	(62)×(50)		N-23°-W	
100号土坑	長方形	149×100		N-31°-W	
102号土坑	不整形	389×(105)		N-51°-W	
103号土坑	円形	90×(70)		N-32°-W	
104号土坑	隅丸長方形	108×89		N-13°-E	
105号土坑	長方形	122×55		N-34°-W	
106号土坑	隅丸方形	(80)×74		N-50°-W	
107号土坑	楕円形	96×(55)		N-78.5°-W	

土坑計測表（2）

地区	遺構名	形態	規模	深さ	主軸方位	地区	遺構名	形態	規模	深さ	主軸方位
B	108号土坑	円形	84×75		N-72°-W	D	141号土坑	長方形	(135)×74	20.8	N-85°-E
	109号土坑	円形	84×70		N-68°-E		142号土坑	長方形	386×89	49.5	N-80°-E
	110号土坑	長方形	80×63		N-64.5°-E		143号土坑	長方形	223×112	22	N-38°-E
	111号土坑	楕円形	82×64		N-81.5°-E		144号土坑	円形	(52)×89	8	-
	112号土坑	隅丸長方形	180×120		N-60.5°-E		145号土坑a	円形	87×68	15	N-21°-E
	113号土坑	長方形	109×70		N-22°-W		145号土坑b	円形	84×(48)	5	-
	115号土坑	楕円形	76×45		N-7.5°-E		146号土坑	長方形	170×77	31	N-22°-W
	116号土坑	円形	81×80		-		149号土坑	長方形	152×71	97	N-70°-E
	117号土坑	円形	95×90		-		150号土坑	円形	90×85	21.5	-
	118号土坑	不整円形	85×62		N-70°-W		151号土坑	楕円形	135×119	67	N-66°-E
	119号土坑	不整円形	80×69		N-48°-E	154号土坑	不整円形	57×53	31	-	
	120号土坑	楕円形	74×49		N-33°-W	155号土坑	円形	85×79	63	N-15°-E	
	121号土坑	円形	80×(52)		N-86°-E	156号土坑	円形	80×75	31.5	-	
	122号土坑	不整円形	91×78		N-24.5°-W	157号土坑	不整形	186×129	27	N-59.5°-E	
	123号土坑	円形	80×70		-	158号土坑	楕円形	146×125	55.5	N-59°-W	
	124号土坑	不整形	194×(38)		N-0°-E・W	159号土坑	不整形	119×90	13.5	N-86°-E	
	126号土坑	楕円形	99×80		N-70°-W	160号土坑	楕円形	86×75	19.5	N-86°-E	
	127号土坑	不整円形	102×74		N-49°-W	161号土坑	不整円形	73×65	10	N-41°-W	
	128号土坑	隅丸長方形	(260)×300		N-10°-E	162号土坑	不整円形	103×88	14	N-17.5°-W	
	129号土坑	不整形	124×(66)		N-52.5°-W	165号土坑	隅丸方形	72×66	12	N-14°-W	
	130号土坑	隅丸長方形	125×88		N-23°-E	166号土坑	不整形	86×67	19	N-29°-W	
	131号土坑	隅丸長方形	(126)×150		N-47°-W	167号土坑	円形	59×53	31	-	
	133号土坑	長方形	80×54	24.1	N-30°-W	168号土坑	不整形	117×(82)	22	N-0.5°-E	
	134号土坑	不整形	73×41	14	N-35°-E	169号土坑	不整形	90×57	18.5	N-49°-W	
	135号土坑	円形	(99)×(62)	17.8	N-0°-E・W	170号土坑	円形	66×64	8.5	-	
	136号土坑	欠番				171号土坑	長方形	120×24	12.5	N-15°-W	
	137号土坑	欠番				172号土坑	楕円形	117×87	22.1	N-84°-E	
	138号土坑	欠番				173号土坑	円形	151×144	27.9	-	
139号土坑	欠番				C	174号土坑	円形	170×130	6	N-52°-W	
140号土坑	欠番					175号土坑	円形	120×110	13	N-30°-E	
						176号土坑	円形	120×90	9	N-66°-W	
						177号土坑	円形	110×100	10	N-26°-E	
						178号土坑	長方形	470×70	9	N-55°-W	
						179号土坑	円形	70×60		N-0°-E・W	

土坑出土遺物観察表（2）

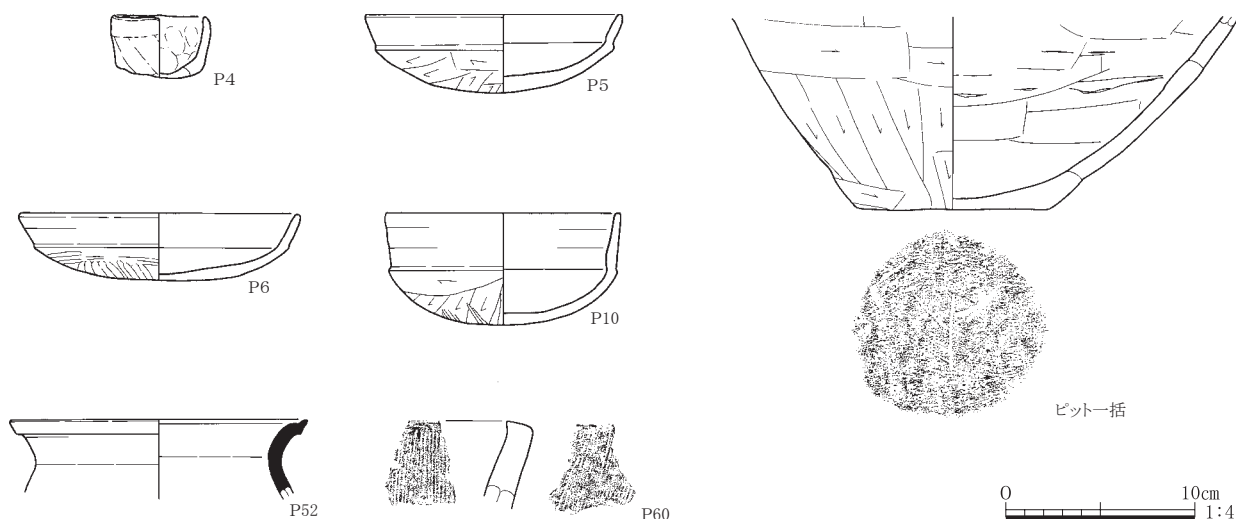
62土	1	三足鍋	A. 口径(11.2)。底径(8.6)。器高7.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ→上位ヨコミガキ。内面、ヨコナデ。底部ナデ。鏝貼付。脚部欠失。D. 片岩・角閃石。E. 内外-にぶい褐色。F. 1/5。H. 覆土。
64土	1	甕	A. 口径28.0。残存高26.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ユビオサエ。胴部タテケズリ・タテナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ→上位ユビオサエ。D. 石英・白色粒子。E. 内-暗赤褐色。外-赤褐色。F. 3/4。G. 内面胴部下半は器面荒れる。H. 覆土。
84土	1	須恵器高台付碗	A. 口径(14.0)。底径(6.2)。器高6.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 片岩。E. 内外-灰白色。F. 1/5。G. 還元焰焼成。H. 覆土。
86土	1	須恵器高台付碗	A. 口径(12.8)。底径6.7。器高4.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 角閃石。E. 内外-淡黄褐色。F. 1/3。G. 酸火焰焼成。H. 覆土。
87土	1	須恵器坏	A. 口径11.8。底径5.5。器高3.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 4/5。G. 酸火焰焼成、底部に黒斑あり。H. 覆土。
	2	須恵器坏	A. 口径11.4。底径5.2。器高3.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英・角閃石。E. 内外-淡褐色。F. ほぼ完形。G. 酸火焰焼成。H. 覆土。
91土	1	高台碗	A. 口径14.6。底径8.7。器高5.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 角閃石・石英・片岩。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 酸火焰焼成。H. 覆土。
	2	須恵器高台付碗	A. 口径15.4。残存高5.6。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り、高台欠失。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外-黄灰色。F. 高台部以外ほぼ完形。G. 還元焰焼成。H. 73号土坑と接合。
101土	1	高坏	A. 底径(9.9)。残存高6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、脚部タテナデ→下半ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. チャート・角閃石・白色粒子。E. 内-赤色。外-橙色。F. 脚部3/4。G. 外面、坏部内面に赤彩あり。H. 覆土。

土坑出土遺物観察表(3)

114土	1	須恵器 高台付碗	A. 口径(11.8)。底径(7.0)。器高4.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 角閃石・石英。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 1/4。G. 酸火焼成。H. 覆土。
125土	1	小形甕	A. 口径(13.1)。器高14.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部タテケズリ。内面、口縁部～胴部上位ユビオサエ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内-灰黄褐色。外-明赤褐色。F. 4/5。G. 外面胴部二次被熱。内面胴部にヨゴレ。H. 覆土。
132土	1	壺	A. 底径6.9。残存高17.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコ～ナナメケズリ→上位ヨコ～ナナメナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→上位・下位ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 1/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

5. ピット(第305図・図版96)

秋山大町遺跡からは、多数のピットも検出された。住居跡や掘立柱建物跡に伴わずに単独で確認されたものは、全体図(第9・10・11図)にて図示してある。以下は各柱穴から出土した遺物である。



第305図 ピット 出土遺物

ピット出土遺物観察表

P 4	ミニチュア	A. 口径5.0。底径4.3。器高3.2。B. 手捏ね。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面、ナデ・ユビオサエ。D. 石英・片岩・チャート。E. 内-灰黄褐色。外-橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
P 5	坏	A. 口径15.0。器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-明赤褐色。外-にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面、黒色処理。H. 覆土。
P 6	坏	A. 口径13.7。器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 1/2。H. 覆土。
P10	坏	A. 口径12.5。器高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
P52	常滑窯系 甕	A. 口径(15.8)。残存高4.2。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。E. 内外-灰オリーブ。F. 破片。G. 内外面、自然釉。H. 覆土。
P60	埴輪	A. 残存高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテハケ。口唇部ヨコハケ。内面、タテハケ→ナデ。D. 雲母・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 破片。G. ハケ、外面9本/2cm。内面11本/2cm。H. 覆土。
ピット 一括	甕	A. 底径10.1。残存高10.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテケズリ→ヨコケズリ。底部木葉痕→ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・片岩。E. 内-灰黄色。外-にぶい黄褐色。F. 底部～胴部下位2/3。G. 外面に焼成時の黒斑あり。内外底部スス付着。H. 覆土。

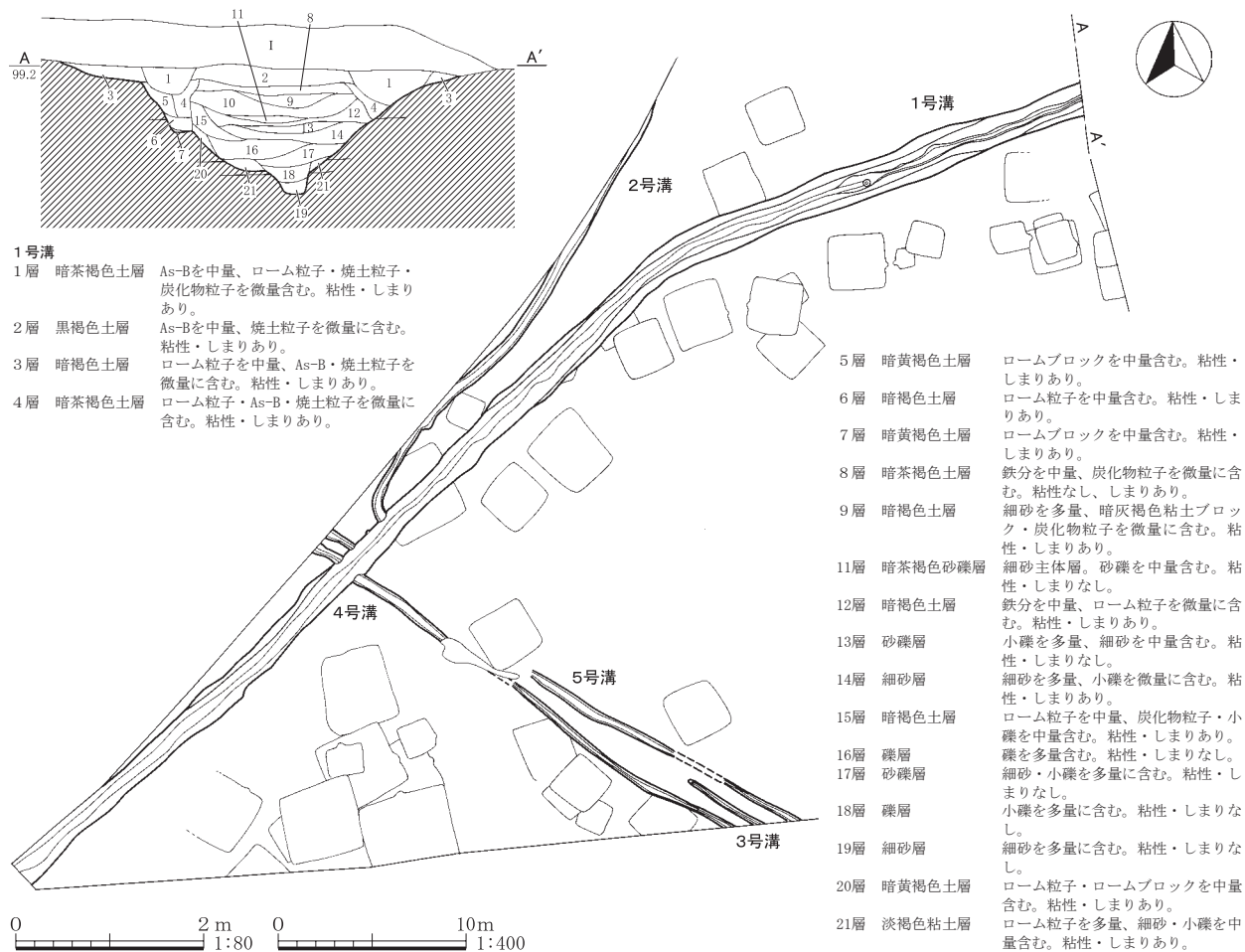
6. 溝

1号溝(第306~310図・図版45・96~98)

位置：B地点に位置している。32号・35号・36号・50号・116号住居跡と重複し、本遺構が新しい。
 形態：断面は逆台形を呈し、底面は平坦である。途中、井戸状に深く掘り下がる部分を確認されている。主軸方位：N-70° - Eであるが、途中で曲がり、N-50° - Eとなる。等高線に対して、縦走している。規模：上幅110~220cm、下幅20~50cm。確認面からの深さは約120cmを測る。埋没状況：長期間、継続して維持された痕跡はなく、自然に埋没である。9層では流水の痕跡を確認した。1層は中世の掘り返しで、道路状遺構の側溝の可能性もある。遺物：上層から下層にかけて数多くの土師器や須恵器などが出土している。覆土の上~中層より、滑石製の子持ち勾玉が1点出土している。時期：平安時代。9世紀末に掘削され、10世紀代に埋没している。

2号溝(第306図)

位置：B地点の西壁沿いに検出した。35号住居跡と重複し、本遺構が新しい。1号溝とも切り合うが、新旧関係は不明である。形態：やや蛇行している。主軸方位：N-42° - E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅50cm、下幅30~40cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。



第306図 溝(1)

3号溝(第306図)

位置：B地点に位置している。4号・5号溝と併走している。形態：直線的である。主軸方位：N-54°-W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅約40cm、下幅20cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

4号溝(第306図)

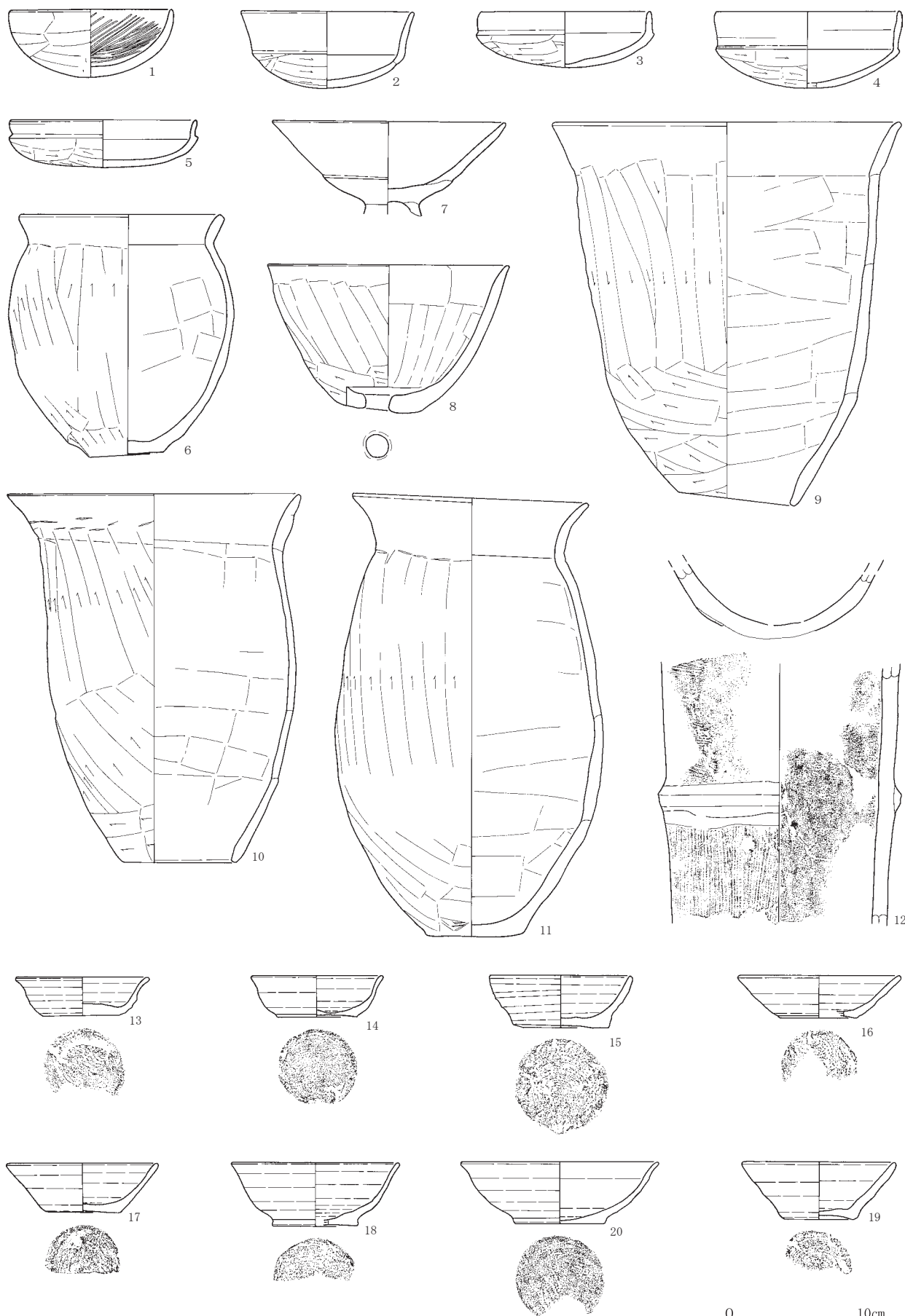
位置：B地点に位置している。87号・89号住居跡と重複し、本遺構が新しい。1号溝とも切り合うが、新旧関係は不明である。3号・5号溝とはほぼ併走している。形態：直線的である。主軸方位：N-55°-W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅45~30cm、下幅10~30cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

5号溝(第306図)

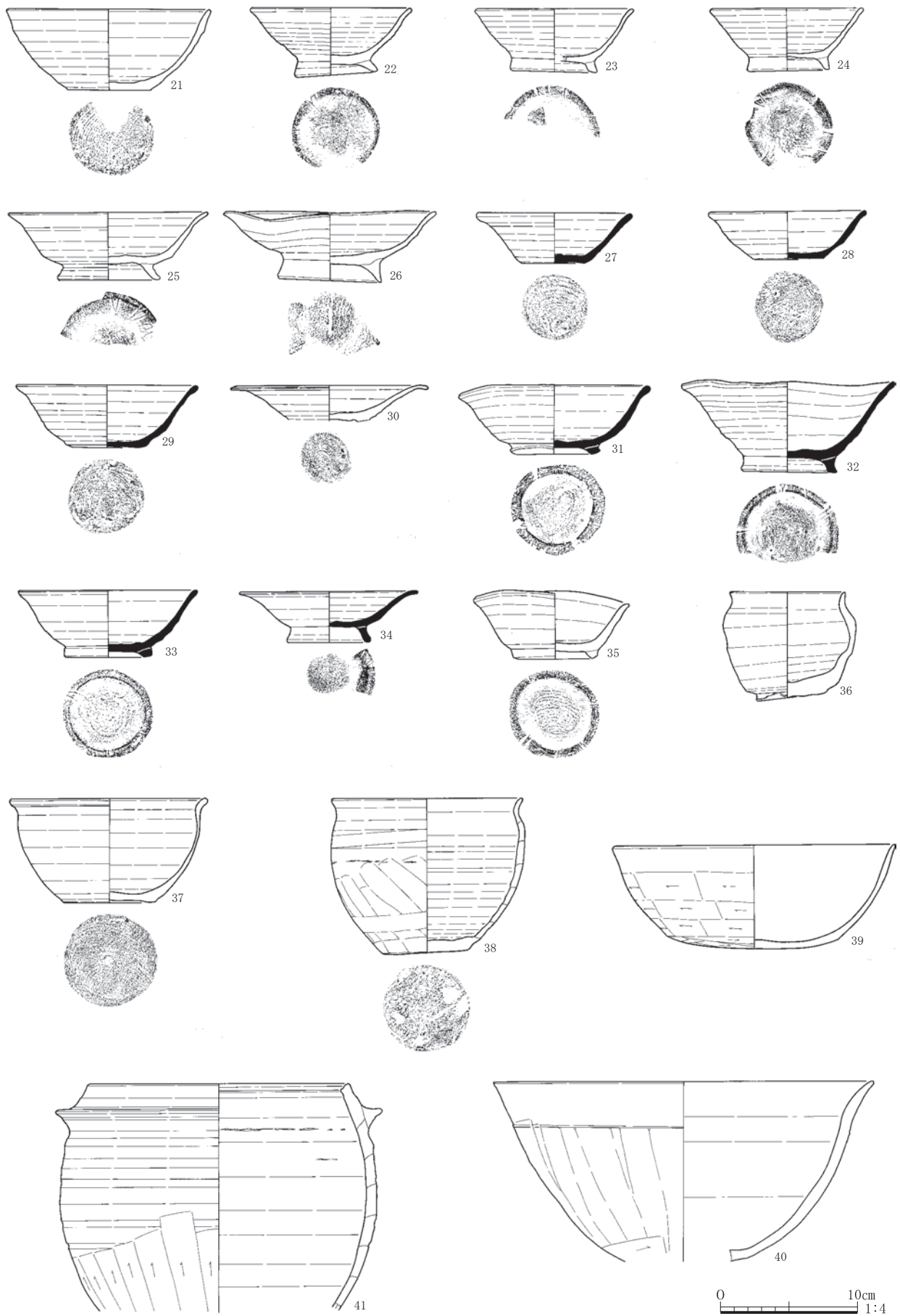
位置：B地点に位置している。54号住居跡と重複し、本遺構が新しい。3号・4号溝と併走する。形態：直線的である。主軸方位：N-59°-W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅40cm、下幅30cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

1号溝 出土遺物観察表(1)

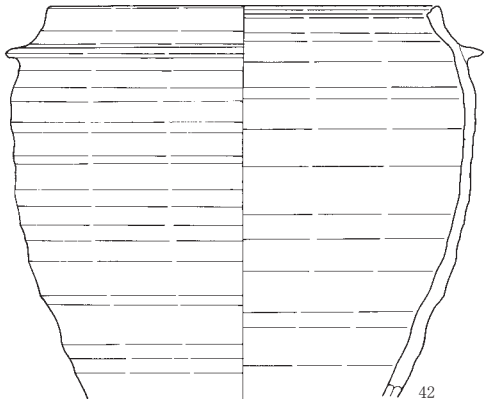
1	坏	A. 口径11.9。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ→放射状ミガキ。D. 角閃石。E. 内外-橙色。F. 2/3。G. 外面底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土上層。
2	坏	A. 口径12.6。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。H. 覆土上層。
3	坏	A. 口径(12.4)。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 1/2。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい橙色。F. 1/2。H. 覆土上層。
4	坏	A. 口径(12.4)。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土上層。
5	坏	A. 口径(13.4)。器高2.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→上位ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/2。G. 内面体部に黒色の付着物あり。H. 覆土上層。
6	小形甕	A. 口径14.9。底径(5.3)。器高17.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 2/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土上層。
7	高坏	A. 口径(17.0)。残存高6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、調整摩滅。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 坏部1/2。H. 覆土上層。
8	小形甕	A. 口径(17.6)。底径6.3。器高10.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部焼成前穿孔→ナデ。内面、タテナデ→口縁部ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・片岩。E. 内外-橙色。F. 4/5。H. 覆土下層。
9	大形甕	A. 口径25.3。底径8.5。器高27.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 3/4。G. 内外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土上層。
10	大形甕	A. 口径21.1。底径(8.2)。器高26.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外-橙色。F. 2/3。H. 覆土上層。
11	甕	A. 口径(17.2)。底径7.2。器高32.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ナメナデ。底部ケズリ→ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 2/3。G. 外面胴部下二次被熱。内面胴部中に带状ヨゴレ。H. 覆土下層。
12	器材埴輪か	A. 残存高19.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテハケ(10本/2cm)。貼付突帯(幅2.2高0.5)。内面、ナデ。D. 白色粒子・チャート・角閃石。E. 内-橙色。外-明赤褐色。F. 破片。G. 外面に剥離痕あり。H. 覆土上層。
13	須恵器坏	A. 口径9.6。底径5.7。器高2.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石・石英。E. 内外-明赤褐色。F. 3/4。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
14	須恵器坏	A. 口径(9.6)。底径5.7。器高3.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石・石英。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 酸化焰焼成。外面体部に黒色の付着物あり。H. 覆土。



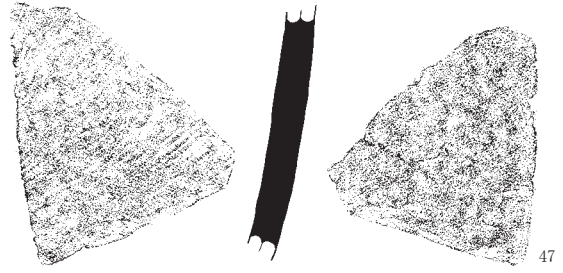
第307图 1号溝 出土遺物(1)



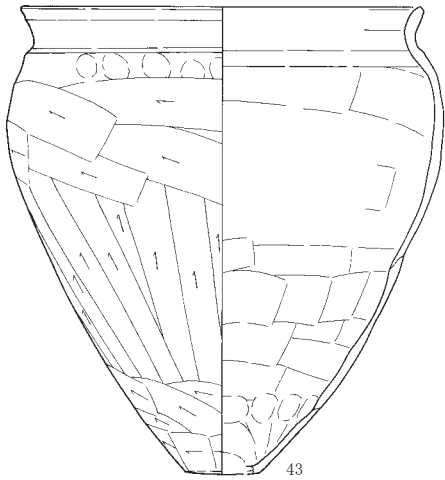
第308图 1号溝 出土遺物(2)



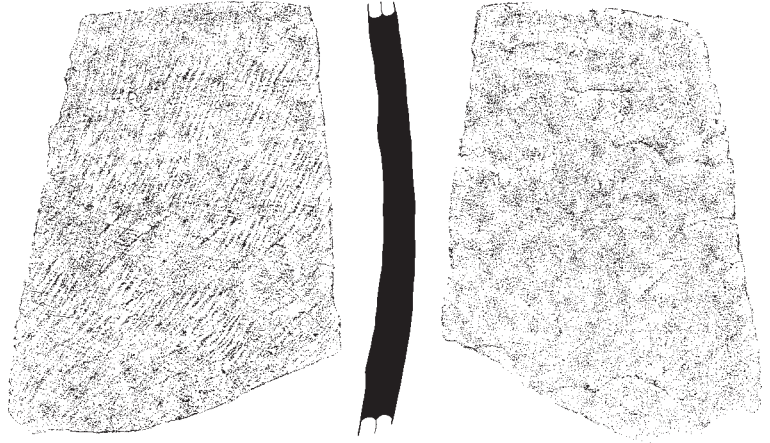
42



47



43

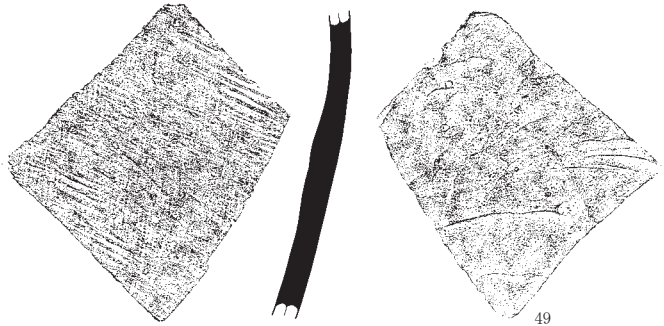


48



44

46



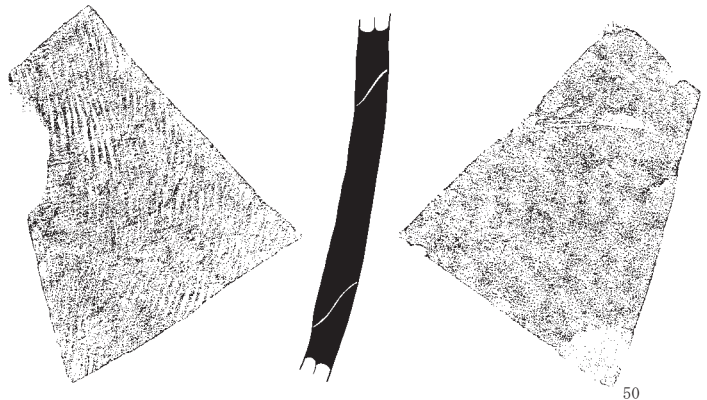
49



45



52



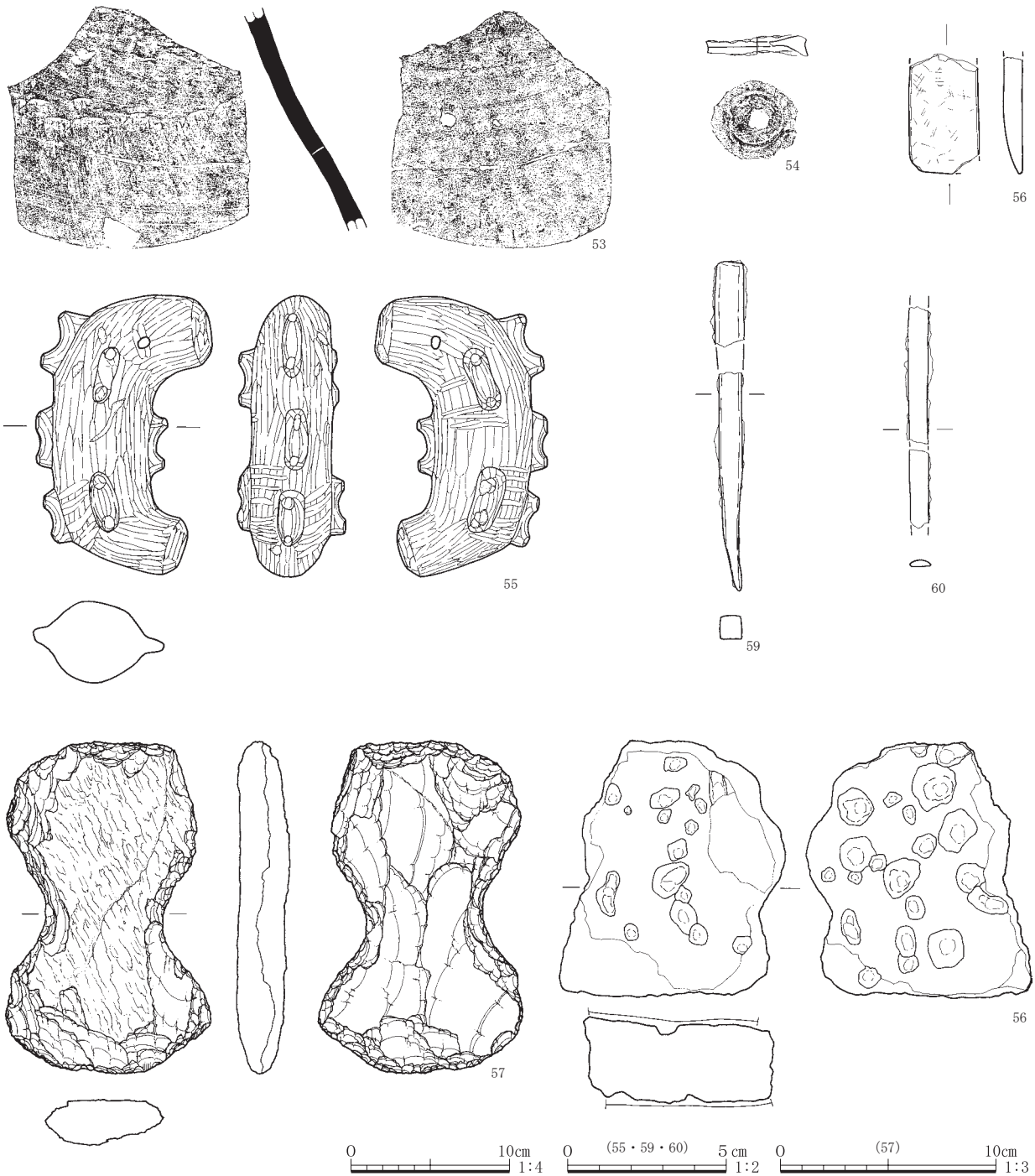
50



51

第309图 1号溝 出土遺物(3)





第310図 1号溝 出土遺物(4)

1号溝 出土遺物観察表(2)

15	須恵器 坏	A. 口径10.4。底径7.0。器高3.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英・角閃石。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
16	須恵器 坏	A. 口径(11.8)。底径5.6。器高3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-にぶい黄橙色。外-橙色。F. 1/2。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
17	須恵器 坏	A. 口径(11.0)。底径5.5。器高3.6。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→ナデ。D. 片岩・白色粒子・赤色粒子。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/2。G. 酸化焰焼成。外面底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土下層。
18	須恵器 坏	A. 口径(12.2)。底径(6.2)。器高4.6。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 雲母。E. 内外-橙色。F. 1/4。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
19	須恵器 坏	A. 口径(11.2)。底径(5.6)。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/4。G. 酸化焰焼成。内外面二次被熱か。H. 覆土上層。

1号溝 出土遺物観察表(3)

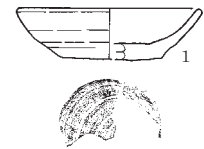
20	須恵器 坏	A. 口径(14.4)。底径6.6。器高4.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 雲母・白色粒子・石英。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。酸化焰焼成。H. 覆土上層。
21	須恵器 坏	A. 口径(14.8)。底径6.0。器高5.9。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 橙色粒子・角閃石。E. 内外-灰白色。F. 1/4。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
22	須恵器 高台付碗	A. 口径11.8。底径6.1。器高5.1。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。高台貼付。底部回転糸切り。D. 角閃石・石英。E. 内外-明褐色。F. 1/3。G. 酸化焰焼成。H. 覆土下層。
23	須恵器 高台付碗	A. 口径(11.6)。底径6.4。器高4.7。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。高台貼付。底部ナデ。D. 角閃石・橙色粒子。E. 内外-橙色。F. 2/3。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
24	須恵器 高台付碗	A. 口径(11.2)。底径6.0。器高4.6。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付ナデ。D. 角閃石・橙色粒子・石英。E. 内外-橙色。F. 2/3。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
25	須恵器 高台付碗	A. 口径(14.6)。底径7.4。器高4.9。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付ナデ。D. 雲母。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/5。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
26	須恵器 高台付碗	A. 口径15.6。底径(7.5)。器高5.2。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付ナデ。D. 角閃石・橙色粒子。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 酸化焰焼成。内外面に黒色の付着物あり。H. 覆土。
27	須恵器 坏	A. 口径(11.4)。底径4.6。器高3.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩。E. 内外-灰黄色。F. 2/3。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
28	須恵器 坏	A. 口径(11.6)。底径5.0。器高3.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・白色粒子・橙色粒子。E. 内外-にぶい黄色。F. 2/3。G. 還元やや不良。外面黒色の付着物あり。H. 覆土上層。
29	須恵器 坏	A. 口径(13.2)。底径5.8。器高4.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 白色粒子。E. 内外-灰黄色。F. 1/3。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
30	須恵器 皿	A. 口径(14.4)。残存高2.6。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。高台欠失。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外-にぶい黄色。F. 1/2。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
31	須恵器 高台付碗	A. 口径12.7~14.0。底径6.6。器高5.1。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-褐色。F. 完形。G. 内面に黒色付着物あり。H. 覆土上層。
32	須恵器 高台付碗	A. 口径15.4。底径6.9。器高6.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外-黄灰色。F. 4/5。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
33	須恵器 高台付碗	A. 口径(13.0)。底径6.4。器高4.9。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 石英・白色粒子。E. 内外-黄灰色。F. 1/3。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
34	須恵器 高台付皿	A. 口径(13.0)。底径6.1。器高3.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-灰黄色。F. 1/2。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
35	須恵器 高台付碗	A. 口径11.3。底径6.2。器高5.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 石英・チャート・角閃石。E. 内外-暗灰黄色。F. 完形。G. 酸化焰焼成。内面に黒色の付着物あり。H. 覆土下層。
36	小形甕	A. 口径8.4。底径5.2。器高8.0。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部ケズリ。D. 石英・角閃石・片岩・白色粒子。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
37	小形甕	A. 口径(14.4)。底径6.8。器高7.6。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転ケズリ。D. 石英・白色粒子・片岩。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 1/3。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
38	小形甕	A. 口径(14.0)。底径6.2。器高11.4。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→胴部下半タテナデ→ヨコナデ。底部ナデ。内面、回転ナデ。D. 石英・橙色粒子。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 酸化焰焼成。H. 覆土上層。
39	鉢	A. 口径(20.6)。底径12.6。器高7.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. 1/3。G. 内面口縁部が痘痕状に剥離。H. 覆土上層・下層。
40	鉢	A. 口径17.7。残存高13.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土上層。
41	羽釜	A. 口径(19.0)。残存高16.5。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→胴部下位タテケズリ。鏝貼付。内面、回転ナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外-褐色。F. 口縁部~胴部上半1/3。G. 外面二次被熱か器面荒れる。H. 覆土上層。
42	羽釜	A. 口径20.6。残存高20.8。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。鏝貼付。D. 石英・白色粒子。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部~胴部上半1/2。G. 胴部外面にスス付着。H. 覆土上層。
43	甕	A. 口径21.2。底径(3.3)。器高24.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~胴部上位ヨコナデ・ユビオサエ。胴部タテケズリ→上位・下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ→胴部下位一部ユビオサエ。D. 石英・角閃石。E. 内外-橙色。F. 1/2。G. 外面胴部上位帯状にスス付着。内面胴部下半にヨゴレ。H. 覆土上層・下層。
44	須恵器 壺	A. 口径(7.7)。残存高2.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
45	須恵器 壺	B. ロクロ成形。C. 外面、カキ目。内面、回転ナデ。D. 黒色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。

1号溝 出土遺物観察表(4)

46	須恵器甕	B. 粘土紐積み上げ→タタキ。C. 外面、格子タタキ目。内面、同心円状の当て具痕→ナデ。D. 白色粒子。E. 内外-暗黄灰色。外-黄灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
47	須恵器甕	B. 粘土紐積み上げ→タタキ。C. 外面、平行タタキ目。内面、ナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 外面に鉄分付着。還元焰焼成。H. 覆土上層。
48	須恵器甕	B. 粘土紐積み上げ→タタキ。C. 外面、平行タタキ。内面、ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
49	須恵器甕	B. 粘土紐積み上げ→タタキ。C. 外面、平行タタキ目→部分的にナデ。内面、ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. 覆土。
50	須恵器甕	B. 粘土紐積み上げ→タタキ。C. 外面、平行タタキ目→部分的にナデ。内面、ナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
51	須恵器甕	B. 粘土紐積み上げ→タタキ。C. 外面、平行タタキ目。内面、ナデ。D. 白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
52	須恵器甕	B. 粘土紐積み上げ→タタキ。C. 外面、平行タタキ目。内面、ナデ。D. 白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
53	須恵器甕	B. 粘土紐積み上げ→タタキ調整→回転ナデ。C. 外面、タタキ→ナデ。内面、ナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. 覆土上層。
54	転用紡錘車	A. 径6.1。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 完形。H. 覆土上層。
55	石製品子持勾玉	A. 全長8.9。身幅3.1。身厚2.5。最大幅4.1。最大厚3.3。C. 発掘時の傷が多い。全体的に細かく研磨される。D. 蛇紋岩。F. ほぼ完形。H. 覆土上～中層。
56	板状石製品	A. 残長5.7。幅3.4。厚0.9。重31.32。D. 粘板石。G. 全体的に摩耗し、擦痕も多く見られる。H. 覆土上層。
57	打製石斧	A. 長15.7。幅9.6。厚2.5。重24210。D. 結晶片岩。F. 完形。G. 直接打撃による内面調整。刃部周辺に摩滅痕あり。H. 覆土上層。
58	石皿多孔石	A. 長16.1。幅14.3。厚5.4。重1640。D. 砂岩。G. 表・裏面とも摩耗。二次被熱か。H. 覆土下層。
59	棒状鉄製品	A. 長2.6、6.9。幅・厚0.7。重12.40。G. 断面四角。釘か。H. 覆土上層。
60	不明鉄製品	A. 長4.3、2.5。幅0.6。厚0.2。重3.91。G. 断面扁平。鉄鎌か。H. 覆土上層。

8号溝(第311・312図・図版46・98)

位置：D地点とE地点において検出され、同一の溝として調査した。E地点では18号・23号・30号溝と重複し、本遺構が新しい。D地点でも、121号・123号・125号・126号・130号・131号住居跡と重複し、本遺構が新しい。11号溝とも重複するが、新旧関係は不明である。形態：E地点では直線的だが、D地点においてはやや湾曲している。底面は平坦である。主軸方位：N-4°-W。～N-15°-W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅150～100cm、下幅30～50cm。確認面からの深さは30～40cmを測る。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土中より土器等が出土している。E地点では上層より、馬と思しき獣骨が検出されている。時期：覆土にAs-Bを含むことから、中世だと思われる。



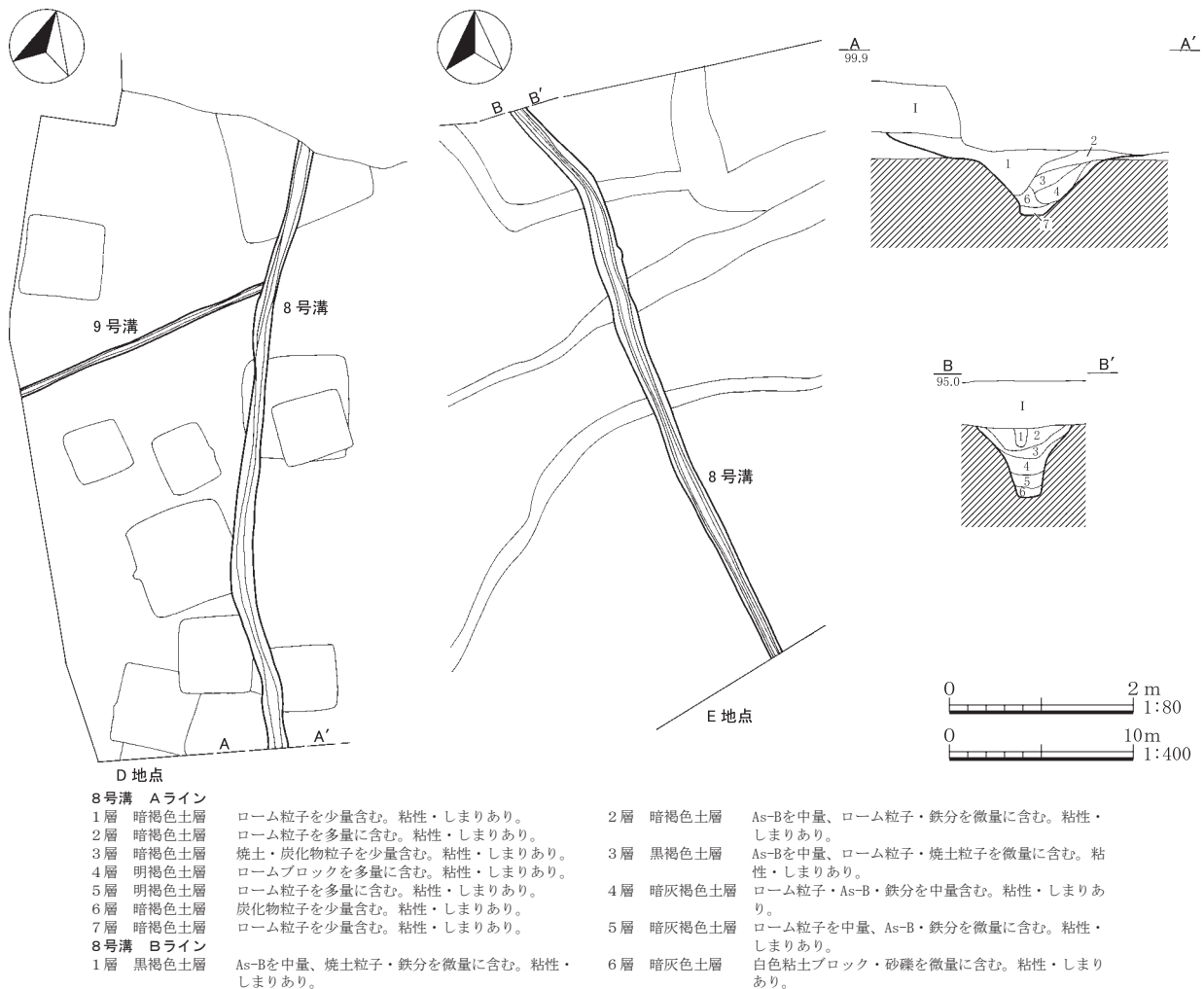
第311図 8号溝
出土遺物

8号溝 出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 口径9.8。底径5.3。器高2.7。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ。底部回転糸切り。内面、回転ナデ。D. 雲母。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 1/3。G. 外面、体部にスス付着。H. 覆土。
---	------	---

9号溝(第312図)

位置：D地点に位置している。8号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：直線的な形態を呈する。主軸方位：N-54°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅約40cm、下幅約20cm。確認面からの深さは10～20cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。



10号溝(第314図)

位置：D地点に位置している。139号住居跡・11号溝と重複する。前者より新しく、後者との新旧関係は不明である。形態：やや湾曲している。主軸方位：N-73°-W。等高線に対して、横走する。規模：上幅40~60cm、下幅20~40cm。確認面からの深さは5~10cmを測る。埋没状況：同一の覆土で一度に埋没している。遺物：覆土より土器片が出土した。時期：不明。

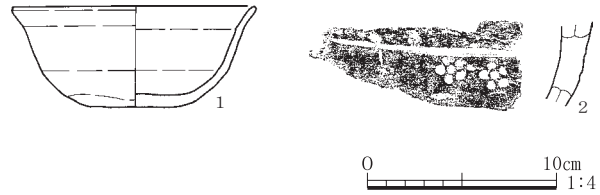
11号溝(第314図・図版45)

位置：D地点に位置している。130号住居跡と重複し、本遺構が新しい。8号・10号・12号溝と重複するが、新旧関係は不明である。形態：全容は不明である。南の立ち上がりは、130号住居跡との重複箇所周辺から非常に傾斜が緩くなる。主軸方位：N-89°-W。等高線に対して、横走している。規模：上幅450~760cm、下幅400~450cm。確認面からの深さは最深で110cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

12号溝(第313・314図・図版45・98)

位置：D地点に位置している。11号・13号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：底面にはやや凹凸があり、断続的に土坑状に一段落ち込むんでいる。主軸方位：N-89°-W。等高線に対して、

縦走している。規模：上幅440~570cm、下幅110~280cm。確認面からの深さは130cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。As-Bは観察されなかった。遺物：覆土よりカワラケや火鉢が出土している。時期：出土遺物から中世に比定される。



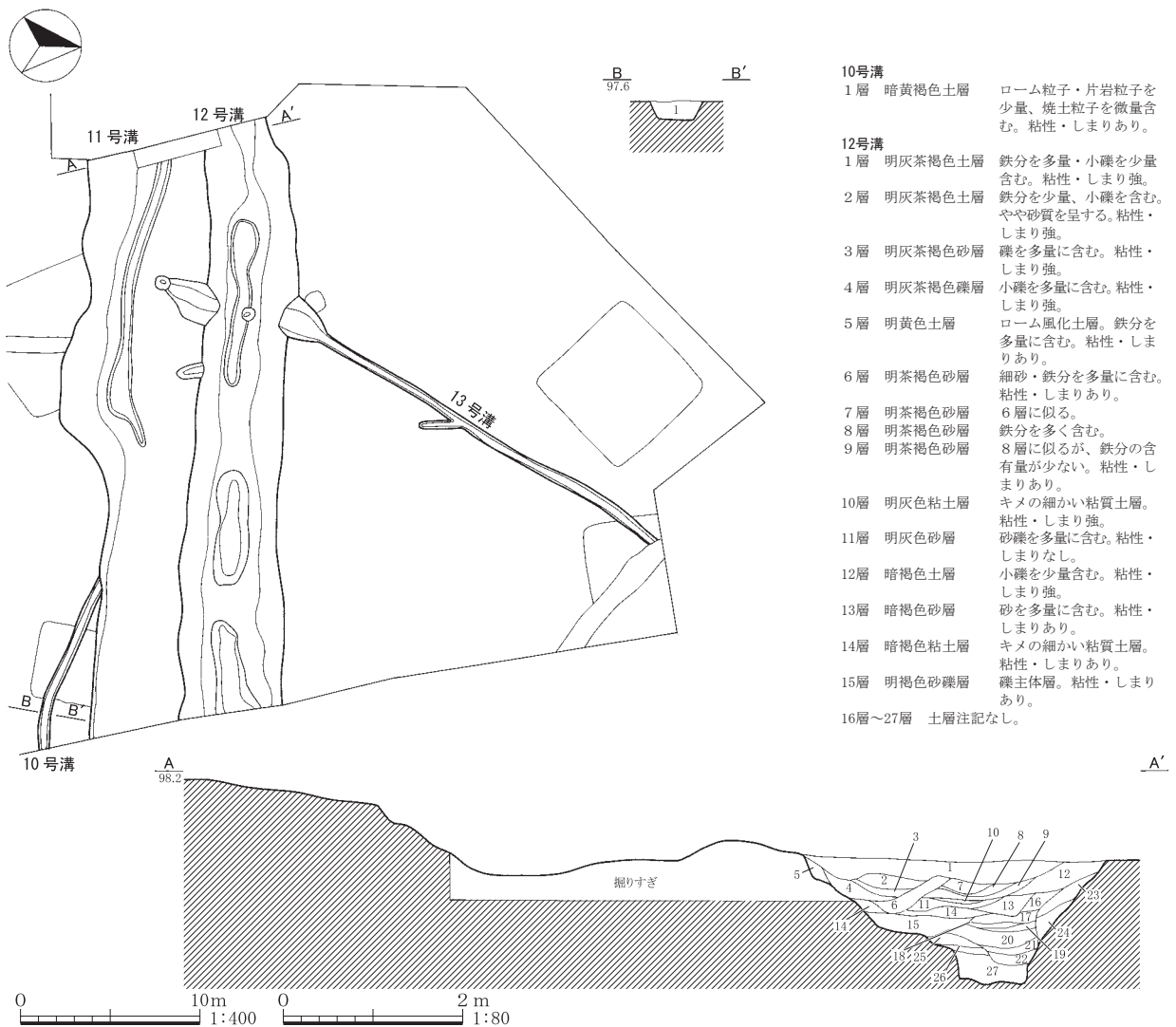
第313図 12号溝 出土遺物

12号溝 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.9)。底径5.2。器高5.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 石英。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/3。G. 酸化焰焼成。H. 覆土。
2	火鉢	A. 残存高4.3。B. ロクロ成形。C. 外面、横位沈線以上に花押文、以下はミガキ。D. 角閃石・赤色粒子。E. 内-灰白色。外-にぶい橙色。F. 破片。H. 覆土。

13号溝(第314図・図版45)

位置：D地点に位置している。12号溝・3号井戸と重複し、新旧関係は不明である。形態：一定の幅を保つが、12号溝と接する部分の上幅が広がっている。主軸方位：N-32°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅50~170cm、下幅40~110cm。確認面からの深さは10~30cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。



第314図 溝(3)

15号溝(第317図)

位置：E地点に位置している。23号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：直線的である。主軸方位：N-8°-W。等高線に対して、横走している。規模：上幅20~40cm、下幅20~30cm。確認面からの深さは5cm未満である。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

16号溝(第317図)

位置：E地点に位置している。22号・43号溝、13号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：直線的である。主軸方位：N-74°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅40cm、下幅10~20cm。確認面からの深さは5cm未満であった。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

17号溝(第317図)

位置：E地点に位置している。25号・26号溝、18号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：ほぼ均一な幅で、直線的である。主軸方位：N-72°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅60~80cm、下幅20~40cm。確認面からの深さは平均10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

18号溝(第317図・図版46)

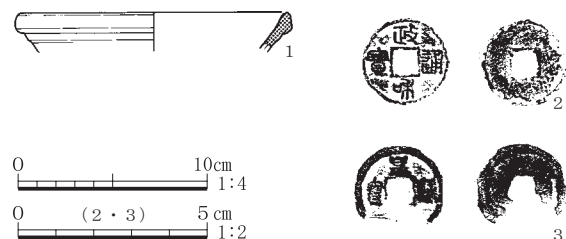
位置：E地点に位置している。19号・21号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北軸から東西軸へ80°程度曲がっている。主軸方位：N-6°-WからN-72°-Eとなる。等高線に対して、東西軸では縦走し、南北軸では横走している。規模：上幅30~50cm、下幅20~30cm。確認面からの深さは平均10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

19号溝(第317図・図版46)

位置：E地点に位置している。8号・18号・21号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北から東西へ約110°曲がっている。幅は一定ではなく、広狭の差が激しい。主軸方位：N-41°-WからN-75°-E。等高線に対して、南北軸では横走し、東西軸では縦走している。規模：上幅20~90cm、下幅10~50cm。確認面からの深さは平均10cm程度を測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

20号溝(第315・317図・図版46・98)

位置：E地点に位置している。23号・43号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：直線的であるが、調査区の南で幅広で蛇行する箇所が認められた。主軸方位：N-21°-W。等高線に対して、横走している。規模：上幅30~120cm、下幅20~40cm。確認



第315図 20号溝 出土遺物

面からの深さは平均約10cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より北宋銭が出土している（「政和通寶」北宋政和元（1111）年）。時期：出土遺物から中世だと思われる。

20号溝 出土遺物観察表

1	白磁碗	A. 口径(14.6)。残存高2.1。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。E. 内外一灰白色。F. 破片。G. 内外面に施釉。H. 覆土。
2	古銭	A. 径2.35。孔径0.5。厚0.05。重1.67。D. 銅銭。F. 完形。G. 「政和通寶」北宋政和元（1111）年。H. 覆土。
3	古銭	A. 径2.4。孔径0.5。厚0.05。重1.58。D. 銅銭。F. 4/3。G. 「皇因通宝」（初鑄1039年。）か。H. 覆土。

21号溝(第317図・図版46)

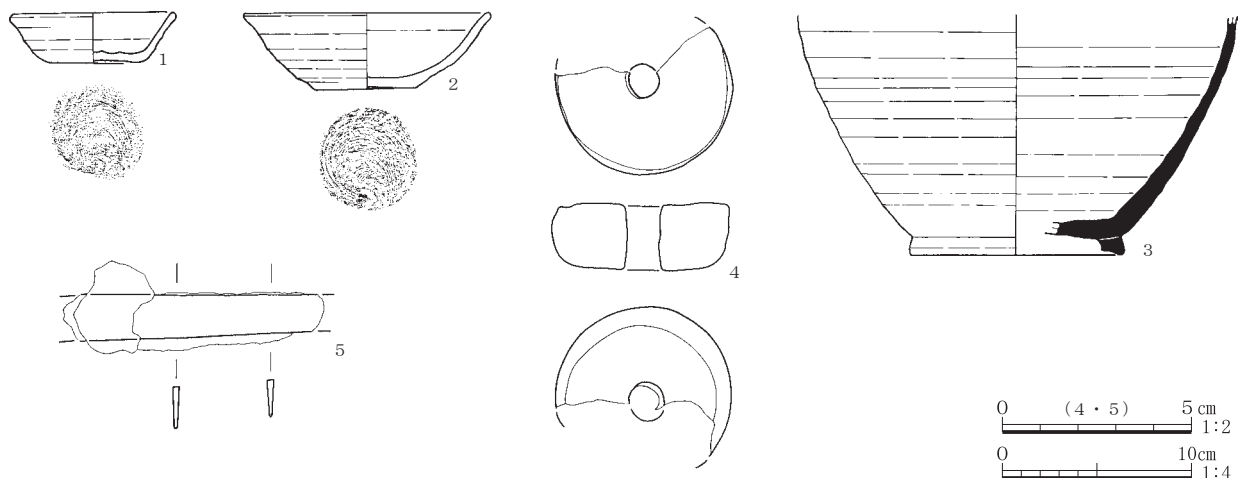
位置：E地点に位置している。19号・23号・43号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：直線的である。主軸方位：N-84°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅40~50cm、下幅20~30cm。確認面からの深さは平均10cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

22号溝(第317図・図版46)

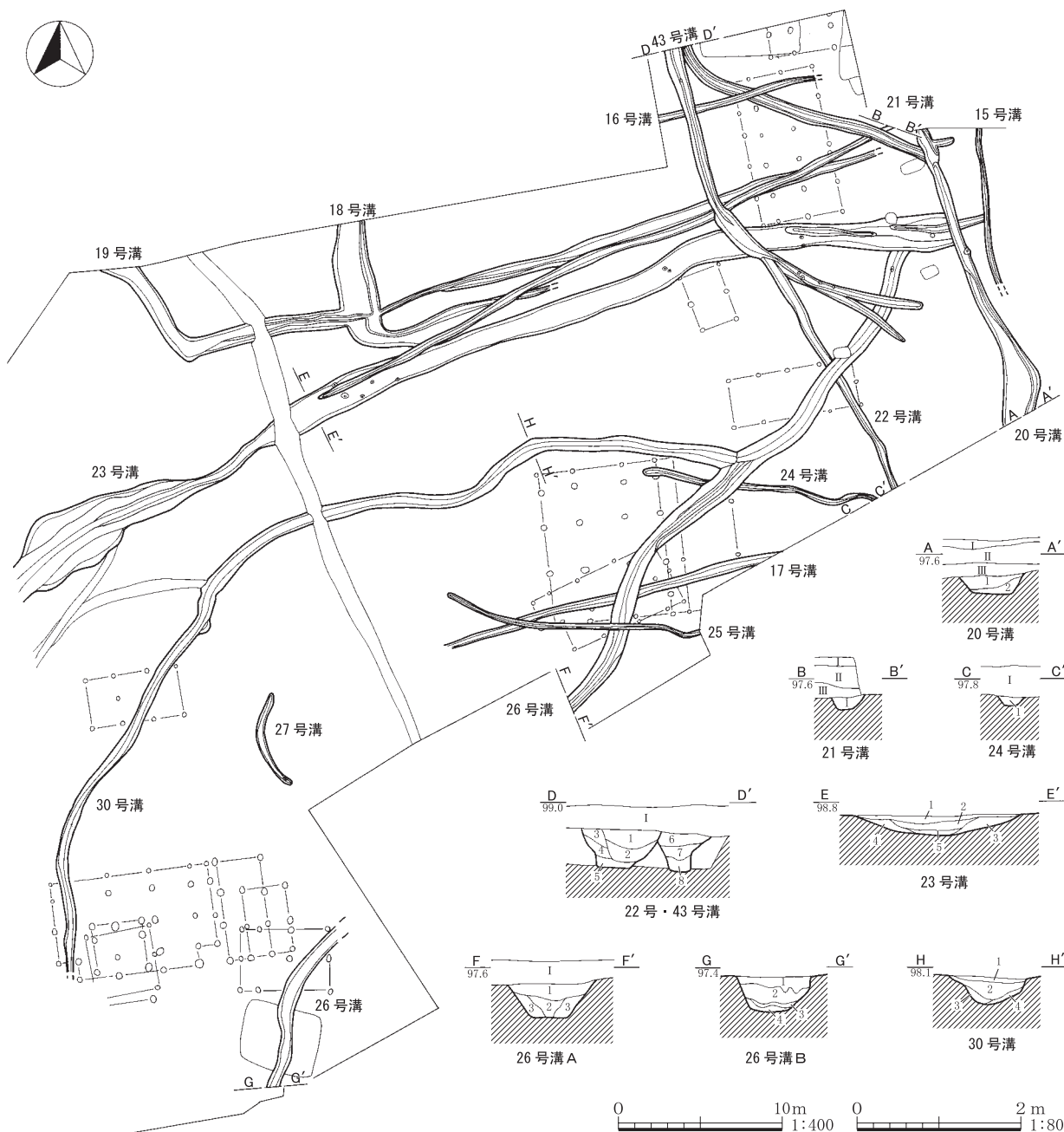
位置：E地点に位置している。153号住居跡、19号・21号・23号溝と重複し、住居跡より新しく、溝との新旧関係は不明である。形態：23号溝と重複する箇所から分岐し、枝分かれている。底面はピット状の落ち込みがある。主軸方位：N-20°-W。分岐部N-58°-W。等高線に対して、横走している。規模：上幅40~60cm、下幅20~30cm。確認面からの深さは20~30cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期以降。

23号溝(第316・317図・図版46・98)

位置：E地点に位置している。複数の溝と重複するが、新旧関係は不明である。形態：蛇行し、幅も一定ではない。覆土の観察により、自然流路だと思われる。底面もまた、凹凸が多い。主軸方位：N-63°-E・W。等高線に対して、縦走・横走している。規模：上幅370~60cm、下幅90~30cm。確認面からの深さは5~10cmを測る。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土中より土器片が出土している。時期：出土遺物から平安時代だと思われる。



第316図 23号溝 出土遺物



- 20号溝**
 1層 明黒褐色土層 マンガン粒子を少量、焼土粒子・片岩粒子を微量含む。粘性弱、しまりやや強。
 2層 明黒褐色土層 鉄分を中量、マンガン粒子を少量、焼土粒子・片岩粒子を微量含む。粘性弱、しまりやや強。
- 21号溝**
 1層 明黒褐色土層 ローム粒子を少量、焼土粒子・片岩粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 2層 明灰褐色土層 マンガン粒子を多量に含む。粘性強、しまりあり。
- 22号溝**
 1層 黒色土層 As-Bを中量、焼土粒子・炭化物粒子・鉄分・砂礫を微量に含む。粘性・しまりあり。
 2層 黒褐色土層 As-B・砂礫を中量、ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 3層 黒褐色土層 As-B・鉄分を中量含む。粘性・しまりあり。
 4層 黒褐色土層 As-B・ローム粒子を中量、焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 5層 暗褐色土層 鉄分を中量、ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 23号溝**
 1層 暗褐色土層 焼土粒子を微量に含む。粘性弱、しまりやや強。
 2層 暗褐色土層 焼土粒子を中量、ロームブロックを少量、ローム粒子を微量に含む。粘性弱、しまり強。
 3層 暗褐色土層 ロームブロック・炭化物粒子を少量、焼土粒子を微量に含む。粘性弱、しまり強。
 4層 暗褐色土層 ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を少量、焼土粒子を微量に含む。粘性弱、しまり強。
 5層 黄茶褐色土層 ローム粒子を多量、炭化物粒子を中量、焼土粒子を少量含む。粘性弱、しまり強。

- 24号溝**
 1層 明黒褐色土層 ローム粒子を微粒に含む。粘性・しまり弱。
- 26号溝 Aライン**
 1層 明白褐色土層 マンガン粒子を多量に含む。粘性・しまり弱。
 2層 明灰褐色土層 マンガン粒子を少量、白色粒子を微量に含む。粘性やや強、しまり強。
 3層 明灰褐色土層 マンガン粒子を多量、白色粒子を微量に含む。粘性やや強、しまり強。
- 26号溝 Bライン**
 1層 明白黄褐色土層 鉄分を多量、マンガン粒子を少量含む。粘性あり、しまり強。
 2層 明灰褐色土層 鉄分を多量、マンガン粒子を少量含む。粘性・しまり強。
 3層 明灰褐色土層 鉄分を多量に含む。粘性・しまり強。
 4層 明灰褐色土層 マンガン粒子を少量含む。粘性・しまり強。
- 30号溝**
 1層 暗黄茶褐色土層 マンガン粒子を少量含む。粘性弱、しまりやや弱。
 2層 明灰褐色土層 マンガン粒子を多量、鉄分を微量に含む。粘性なし、しまり強。
 3層 暗灰褐色土層 マンガン粒子・鉄分を少量含む。粘性弱、しまりあり。
 4層 暗灰褐色土層 鉄分を中量、マンガン粒子を少量含む。粘性弱、しまりあり。
43号溝
 6層 暗褐色土層 鉄分を中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 7層 暗茶褐色土層 鉄分を多量、焼土粒子・小礫を微量に含む。粘性・しまりあり。
 8層 暗褐色土層 鉄分を多量、焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。

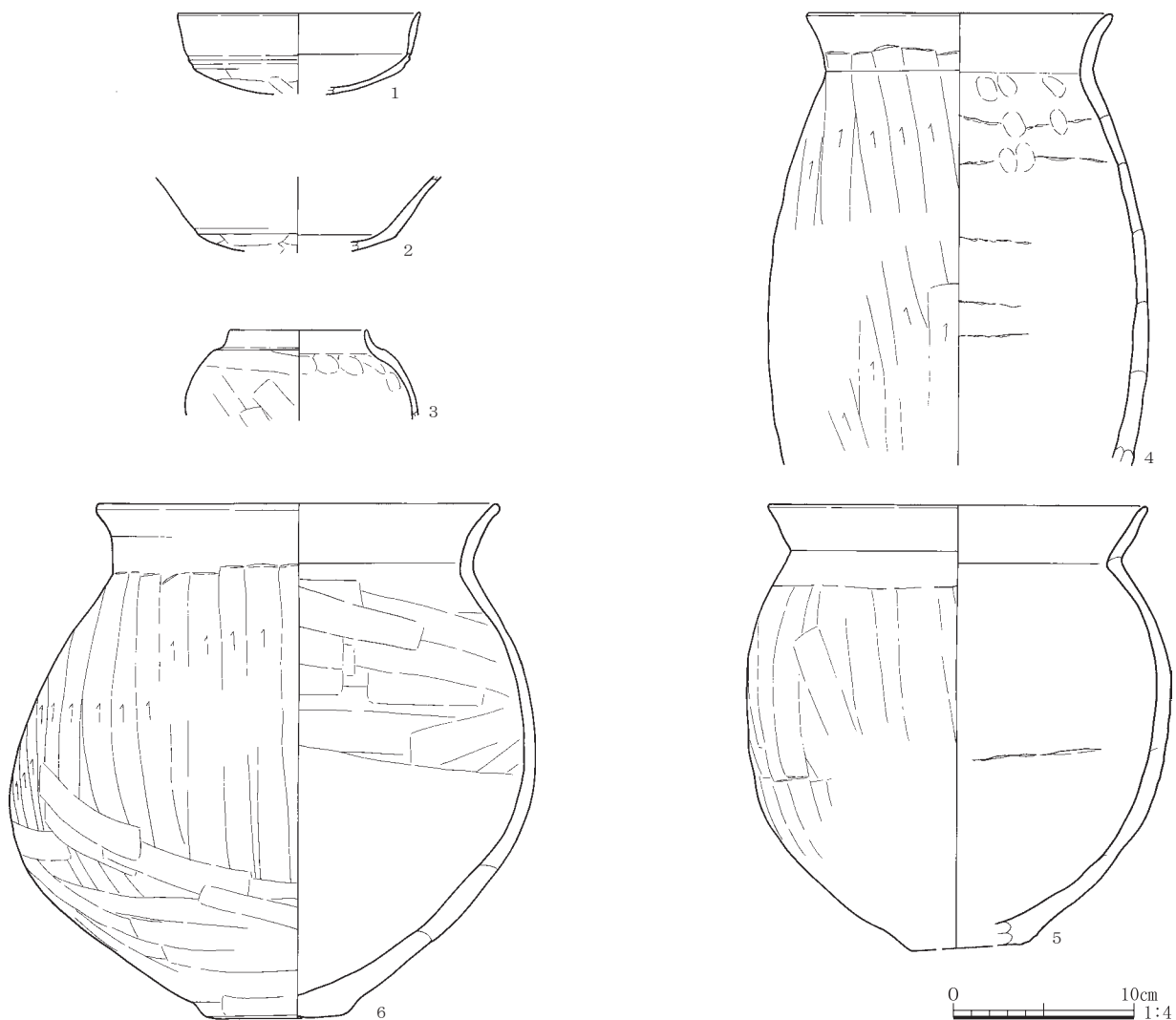
第317図 溝 (4)

23号溝 出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 口径8.8。底径5.0。器高2.6。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→ナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 内面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	かわらけ	A. 口径13.2。底径5.5。器高4.1。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 3/4。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	須恵器 高台付壺	A. 底径(11.2)。残存高12.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付→ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 外面と底部内面に自然釉。H. 覆土。
4	石製紡錘車	A. 径(4.7)。残存重38.2。D. 安山岩製。F. 1/2。H. 覆土。
5	鉄製品 刀子か	A. 残長6.8。幅1.2。残重14.8。D. 鉄製。F. 破片。H. 底面。

24号溝(第317・318図・図版46・98)

位置：E地点に位置している。26号溝、16号掘立柱建物跡・17号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：やや蛇行している。主軸方位：N-84°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅30~40cm、下幅20~30cm。確認面からの深さは平均約10cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：17号掘立柱建物跡と重複する付近で、覆土上層より土師器が集中して出土している。時期：古墳時代後期。



第318図 24号溝 出土遺物

24号溝 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径13.4。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	高坏	A. 残存高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 破片。H. 覆土。
3	小形甕	A. 口径7.6。残存高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメナデ→上位ヨコナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ユビオサエ。D. チャート・石英・片岩。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部中位 3/4。H. 覆土。
4	甕	A. 口径17.0。残存高24.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ユビオサエ→ヨコナデ。ヨコナデは摩滅。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 口縁部～胴部 2/3。H. 覆土。
5	壺	A. 口径21.0。底径(7.0)。器高24.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデは摩滅。D. 石英・角閃石・赤色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	壺	A. 口径22.3。底径(8.2)。器高28.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下半ヨコ～ナナメナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石・赤色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 外面胴部中位、内面胴部にスス附着。H. 覆土。

25号溝(第317・325図・図版46)

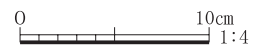
位置：E地点に位置している。17・26・29・32・33・34号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：蛇行し、調査区の中央付近で一度消滅するが、30号溝との重複部分より、再度掘り込みが確認された。主軸方位：N-29° - EからN-86° - Wへと緩やかに曲がっていく。等高線に対して、縦走している。規模：上幅40～70cm、下幅20～40cm。確認面からの深さは10～20cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

26号溝(第317図・図版47)

位置：E地点に位置している。148号住居跡、17・22・24・25・30号溝と重複し、住居跡より新しく、溝との新旧関係は不明である。23号溝に合流し、1号溜井へと導水していると考えられる。形態：蛇行しているが、掘り込みは明瞭である。主軸方位：N-39° - E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅80～100cm、下幅30～50cm。確認面からの深さは30～40cmを測る。埋没状況：自然埋没である。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期以降。

27号溝(第317・319図・図版47・98)

位置：E地点に位置している。重複はなく、単独で検出される。形態：弧状を呈する。等高線に対して、横走している。規模：上幅40～50cm、下幅20～30cm。確認面からの深さは平均して10cm未満であった。埋没状況：不明。遺物：覆土より土師器の坏が出土している。時期：出土遺物から古墳時代後期に比定される。



第319図 27号溝
出土遺物

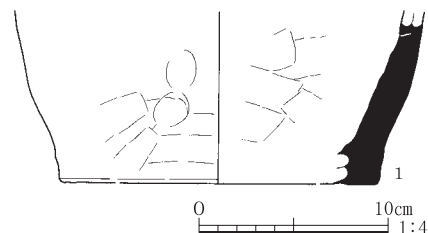
27号溝 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径14.3。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. チャート・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
---	---	---

28号溝(第320・325図・図版98)

位置：E地点の南西隅に位置している。南にある近代の流路跡と軸を共にしている。形態：掘り込みが明瞭で底面は平坦である。主軸方位：N-66° - W。等高線に対して、横走している。規模：上幅

90～110cm、下幅50～70cm。確認面からの深さは20～30cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。



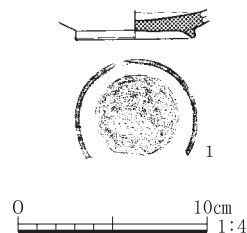
第320図 28号溝 出土遺物

28号溝 出土遺物観察表

1	須恵器壺	A. 底径(17.0)。残存高10.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ナデ・ユビオサエ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一灰。F. 破片。G. 内面に自然釉。H. 覆土。
---	------	---

29号溝(第321・325図・図版98)

位置：E地点に位置している。25号溝、掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：調査区の北では2条並行しているが、25号溝と重複するあたりで合流している。主軸方位：N-7°-W。等高線に対して、横走している。規模：上幅30～50cm、下幅10～30cm。確認面からの深さは平均して10cm未満となっている。埋没状況：不明。遺物：陶器片などが覆土より出土している。時期：古代以降。



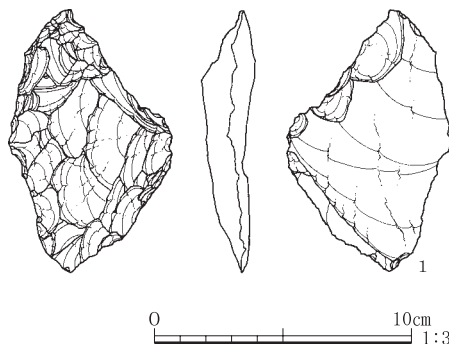
第321図 29号溝
出土遺物

29号溝 出土遺物観察表

1	灰釉陶器高台付碗	A. 底径6.4。残存高1.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。E. 内外一灰黄色。F. 破片。G. 内面体部に灰釉。H. 覆土。
---	----------	---

30号溝(第317・322図・図版47・99)

位置：E地点に位置している。8・29号溝と重複し、新旧関係は不明である。調査区の西で26号溝と合流している。形態：蛇行しながら、大きく西に曲がっている。掘り込みは部分的には不明瞭であった。主軸方位：N-33°-EからN-77°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅40～50cm、下幅20～30cm。確認面からの深さは平均して5cm未満となる。埋没状況：自然に埋没している。遺物：覆土より石器が出土しているが、流れ込みであろう。時期：古墳時代以降。



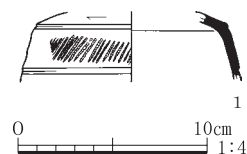
第322図 30号溝 出土遺物

30号溝 出土遺物観察表

1	スクレイパー	A. 長10.4。幅6.5。厚2.1。重92.76。D. 頁岩。F. ほぼ完形。G. 半両面調整。H. 覆土。
---	--------	---

31号溝(第323・325図・図版46・98)

位置：E地点に位置している。23号溝と合流するが、新旧関係は不明である。形態：弧状を呈する。底面は平坦であるが、ピット状に落ち込む箇所が見られる。主軸方位：N-23°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅110～140cm、下幅80～90cm。確認面からの深さは30～40cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：23号溝と合流しているため、同時期の可能性がある。



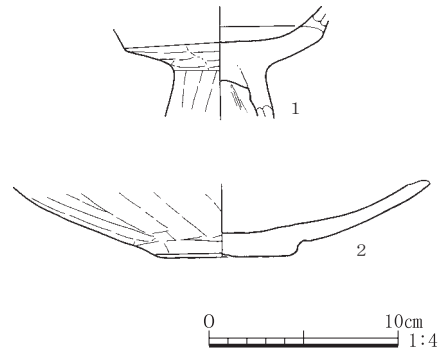
第323図 31号溝
出土遺物

31号溝 出土遺物観察表

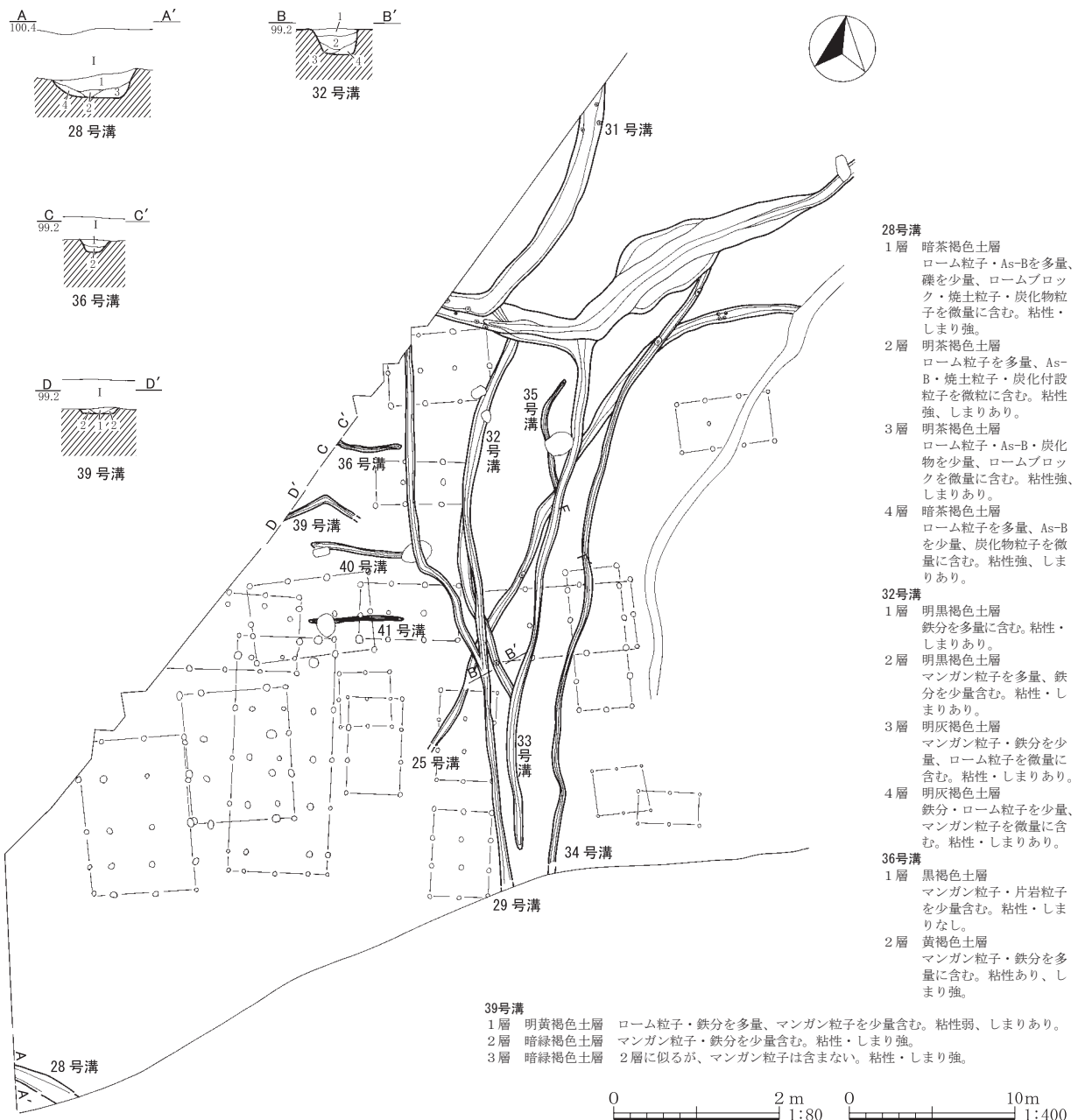
1	須恵器 蓋	A. 残存高3.7。B. ロクロ成形。C. 外面、上位回転ケズリ、中位横位沈線間に櫛歯状工具による刺突文。内面、回転ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。H. 覆土。
---	----------	--

32号溝(第324・325図・図版47・99)

位置：E地点に位置している。29・30号溝と重複し、新旧関係は不明、23号溝に合流する。形態：蛇行している。底面は凹凸がある。主軸方位：N-16°-W。等高線に対して、横走している。規模：上幅50~70cm、下幅30cm。確認面からの深さは20~30cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。



第324図 32号溝 出土遺物



- 28号溝**
- 1層 暗茶褐色土層
ローム粒子・As-Bを多量、礫を少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
 - 2層 明茶褐色土層
ローム粒子を多量、As-B・焼土粒子・炭化付設粒子を微量に含む。粘性強、しまりあり。
 - 3層 明茶褐色土層
ローム粒子・As-B・炭化物を少量、ロームブロックを微量に含む。粘性強、しまりあり。
 - 4層 暗茶褐色土層
ローム粒子を多量、As-Bを少量、炭化物粒子を微量に含む。粘性強、しまりあり。
- 32号溝**
- 1層 明黒褐色土層
鉄分を多量に含む。粘性・しまりあり。
 - 2層 明黒褐色土層
マンガン粒子を多量、鉄分を少量含む。粘性・しまりあり。
 - 3層 明灰褐色土層
マンガン粒子・鉄分を少量、ローム粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 - 4層 明灰褐色土層
鉄分・ローム粒子を少量、マンガン粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 36号溝**
- 1層 黒褐色土層
マンガン粒子・片岩粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
 - 2層 黄褐色土層
マンガン粒子・鉄分を多量に含む。粘性あり、しまり強。

- 39号溝**
- 1層 明黄褐色土層 ローム粒子・鉄分を多量、マンガン粒子を少量含む。粘性弱、しまりあり。
 - 2層 暗緑褐色土層 マンガン粒子・鉄分を少量含む。粘性・しまり強。
 - 3層 暗緑褐色土層 2層に似るが、マンガン粒子は含まない。粘性・しまり強。

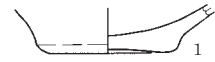
第325図 溝(5)

32号溝 出土遺物観察表

1	高坏	A. 残存高 5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部ヨコナデ。脚部タテナデ。内面、体部ヨコナデ。脚部絞り痕。D. 片岩・チャート・角閃石。E. 内外一橙色。F. 破片。H. 覆土。
2	壺	A. 底径 7.5。残存高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテナデ→下位ヨコナデ。底部ナデ。内面、摩滅。D. 石英・片岩・赤色粒子。E. 内一にぶい黄橙色。外一橙色。F. 底部のみ。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

33号溝(第325・326図・図版47・98)

位置：E地点に位置している。25号溝・7号井戸と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向へ直線的に延び、23号溝にぶつかる。主軸方位：N-9°-E。等高線に対して、横走している。規模：上幅20～50cm、下幅10～40cm。確認面からの深さは平均10cm未満となる。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。



第326図 33号溝
出土遺物

33号溝 出土遺物観察表

1	甕	A. 底径 8.5。残存高 2.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面摩滅。D. 石英・片岩。E. 内一浅黄橙色。外一にぶい黄橙色。F. 底部のみ破片。H. 覆土。
---	---	--

34号溝(第325図・図版47)

位置：E地点に位置している。25号溝と重複し、新旧関係は不明である。南北方向に緩やかに曲がり、23号溝に合流する。形態：蛇行しながら、東西方向に曲がっている。主軸方位：N-6°-E。等高線に対して、横走している。規模：上幅30～50cm、下幅10～30cm。確認面からの深さは平均して10cm未満を測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

35号溝(第325図)

位置：E地点に位置している。7号井戸と重複し、本遺構が古い。形態：弧状を呈する。等高線に対して、横走している。規模：上幅20～30cm、下幅10～20cm。確認面からの深さは10～20cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：中世以前。

36号溝(第325図)

位置：E地点に位置している。調査区外へと延びている。形態：直線的であろう。主軸方位：N-82°-W。等高線に対して横走する。規模：上幅20～30cm、下幅10cm。確認面からの深さは平均約20cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

39号溝(第325図)

位置：E地点に位置している。形態：東西軸から約115°曲がって南北軸をとる。主軸方位：N-61°-EからN-57°-W。等高線に対して、縦走ののち横走している。規模：上幅20～40cm、下幅10～30cm。確認面からの深さは平均10cm未満を測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

40号溝(第325図・図版47)

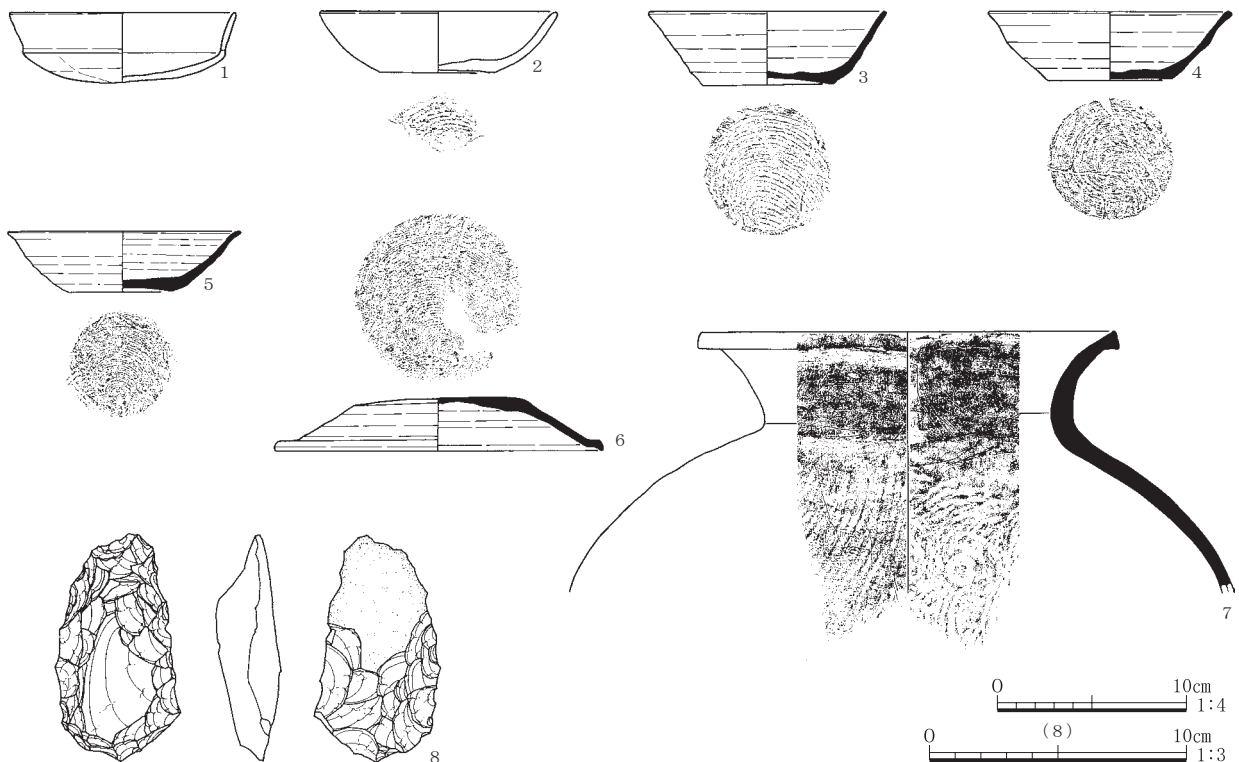
位置：E地点に位置している。157号土坑と重複し、新旧関係は不明である。形態：直線的である。主軸方位：N-85°-W。等高線に対して、横走している。規模：上幅30~40cm、下幅20cm。確認面からの深さは平均10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より遺物が出土している。時期：不明。

41号溝(第325図)

位置：E地点に位置している。掘立柱建物群と重複し、新旧関係は不明だが、主軸方位を共にする建物もある。形態：直線的である。主軸方位：N-85°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅平均約20cm、下幅平均約10cm。確認面からの深さは5cm未満を測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

43号溝(第317・327図・図版99)

位置：E地点に位置している。153号住居跡、21号・22号溝と重複し、住居跡よりも新しく、溝との新旧関係は不明。形態：蛇行している。底面は平坦である。主軸方位：N-70°-W。等高線に対して、横走している。規模：上幅60~80cm、下幅20~30cm。確認面からの深さは20~30cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：覆土にAs-Bを多量に含むので、中世の溝であろう。



第327図 43号溝 出土遺物

43号溝 出土遺物観察表(1)

1	坏	A. 口径(12.0)。器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外-橙色。F. 1/3。H. 覆土。
2	かわらけ	A. 口径(12.6)。底径(6.0)。器高3.2。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英・白色粒子。E. 内外-灰黄色。F. 1/4。G. 内外面、口縁部にスス附着。H. 覆土。

43号溝 出土遺物観察表(2)

3	須恵器 坏	A. 口径(12.6)。底径7.1。器高3.9。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一灰白色。F. 4/5。H. 覆土。
4	須恵器 坏	A. 口径(12.9)。底径6.5。器高3.6。残存高。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英・赤色粒子。E. 内外一灰白色。F. 3/4。H. 覆土。
5	須恵器 坏	A. 口径12.4。底径5.4。器高3.2。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. 3/4。H. 覆土。
6	須恵器 蓋	A. 口径17.5。底径9.2。器高2.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 4/5。H. 覆土。
7	須恵器 甕	A. 口径21.9。残存高13.8。B. 胴部タタキ調整。頸部以上ロクロ調整。C. 外面、口縁部回転ナデ。胴部平行タタキ目。内面、口縁部回転ナデ。胴部同心円状の当て具痕。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 口縁部～胴部上半2/3。H. 覆土。
8	打製石斧	A. 長9.0。幅5.0。厚2.6。重92.76。D. 頁岩。F. 完形。G. 両面調整。表面上半部に自然面が残る。H. 覆土。

7. 水田址(第328～330図、図版47・48・99)

本遺跡のC1地点より小規模な谷戸状地形に形成された水田址が発見された。調査区の北や、16・17区画間、13区画東、31・35区画東には微高地が確認されている。

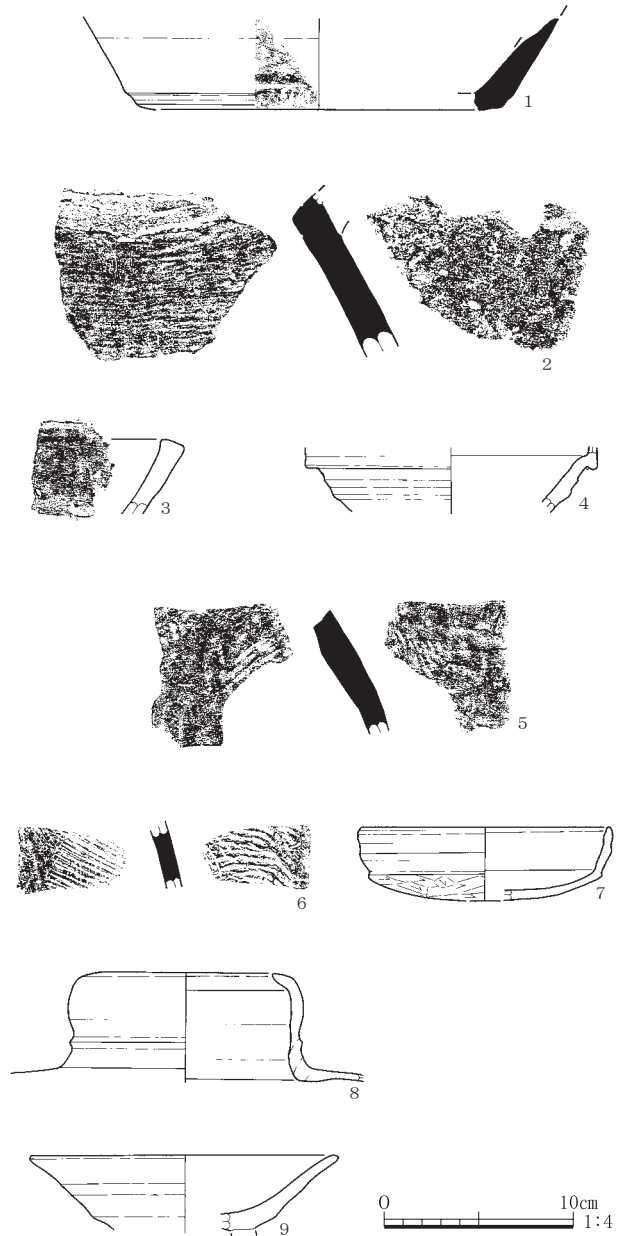
畦畔：高まりはほとんど残存しておらず、鉄分の凝縮がない範囲を畦畔の痕跡として捉えている。最も南に位置する畦畔の幅は1.5mを測り、大畦畔の可能性も指摘される。水田面：全部で56区画の水田面が検出された。規模・主軸方位は地形に沿って変化している。詳細は計測表に記載してある。1～6区画、7～14区画、17～22区画、23～26区画、27・28区画、29～31区画、32～35区画、36～39区画、40～42区画、43～48区画、49～52区画、53～56区画に分けられる。水口：17カ所で検出される。

水田面計測表(1)

区画	主軸方位	規模		面積 (m ²)	畦畔		備考
		長軸 (m)	短軸 (m)		東幅 (m)	南幅 (m)	
1	N-64°-E	7	(1.6)	(5.6)	-	0.4	
2	N-24°-W	7	6.2	21.6	-	0.4	
3	N-79°-E	5.3	3.4	8.4	-	0.4	水口あり
4	N-80°-E	5.4	3.2	9.6	-	0.2~0.3	
5	N-83°-E	(5.0)	3.6	(7.8)	-	0.2~0.3	
6	N-82°-E	(2.2)	3.9	(4.8)	-	-	
7	N-64°-E	7.8	-3.4	(9.6)	0.4~0.6	0.4~0.5	
8	N-73°-E	9.1	5.1	23	0.4	0.3~0.4	
9	N-77°-E	6.9	3.4	11.4	0.3~0.4	0.2~0.4	
10	N-80°-E	9.1	2.8	14	0.2~0.4	0.2~0.4	
11	N-87°-E	8.5	2.4	4	0.3~0.4	0.3~0.7	
12	N-88°-E	8	3.7	13.6	0.2~0.4	0.3~0.4	
13	N-85°-E	5.6	3.4	9.0	-	0.15	
14	N-79°-E	(3.0)	(4.0)	(4.6)	-	-	
15	N-66°-E	(3.2)	(3.0)	(2.8)	0.3~0.4	0.4	
16	N-73°-E	(5.4)	3.2	(7.2)	0.3	-	
17	N-81°-E	7.7	4.3	17.6	0.5~0.6	0.2~0.5	
18	N-70°-E	9.2	4.2	19.6	0.4~0.8	0.3~0.4	
19	N-70°-E	6.6	3.4	12.2	0.4~0.6	0.3~0.5	
20	N-60°-E	5.4	5	13.6	0.4~0.5	0.2~0.4	水口あり
21	N-39°-E	5.7	(0.4)	(1.4)	0.5	-	
22	N-21°-W	(3.8)	3.2	(4.4)	(0.4)	(0.5)	
23	N-47°-E	6.1	5.6	(13.6)	0.5~0.7	0.3	水口あり

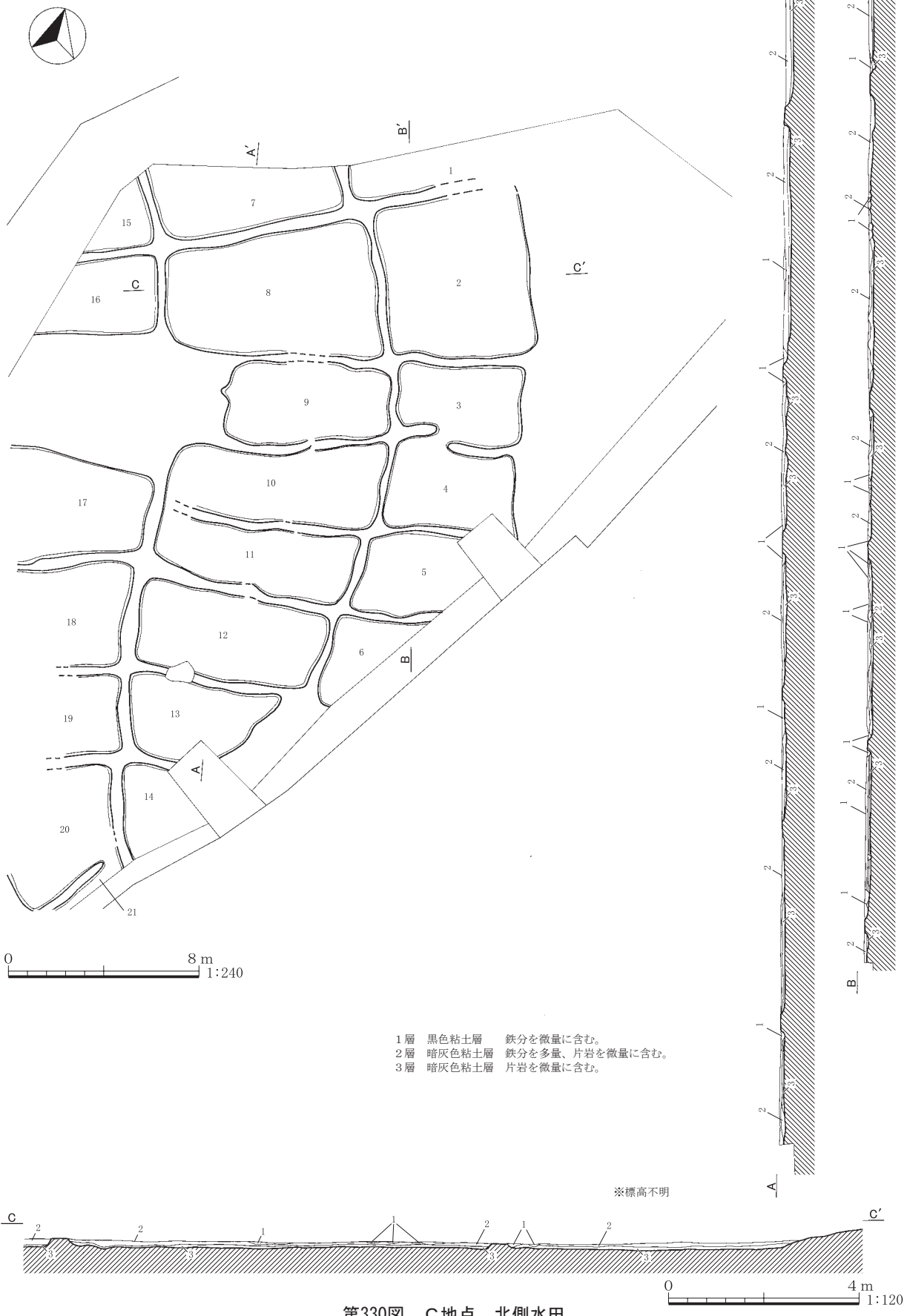


第328図 C1地点 全体図



第329図 C地点 出土遺物

部分的な規則性は確認できるが、全体としては統一されていない。流水：南から北に流れている様子である。底面：凹凸が多く、足跡等も確認されている。埋没状況：As-Bの一次堆積土で埋没している。遺物：As-B層、As-B混土層より遺物が出土している。遺物の時期は古墳時代後期・平安時代・中世と幅が広い。時期：As-B直下であることより、12世紀以前の水田だと思われる。



- 1層 黒色粘土層 鉄分を微量に含む。
- 2層 暗灰色粘土層 鉄分を多量、片岩を微量に含む。
- 3層 暗灰色粘土層 片岩を微量に含む。

※標高不明

第330図 C地点 北側水田

水田面計測表(2)

区画	主軸方位	規模		面積 (㎡)	畦畔		備考
		長軸 (m)	短軸 (m)		東幅 (m)	南幅 (m)	
24	N-45°-E	5.9	4.4	13.8	0.6	0.4	水口あり
25	N-52°-E	5.9	4.1	11.4	0.4~0.8	0.2~0.6	水口あり
26	N-50°-E	4.8	(1.1)	(3.2)	0.6	-	
27	N-40°-W	6.5	5.9	20.8	0.4	0.3	
28A	N-48°-E	5.6	4.2	11.8	0.3	-	
28B	N-48°-E	5.2	5.4	(8.8)	0.3	-	
29	N-35°-W	7.7	2.2	8.4	0.2~0.6	0.5	水口あり
30	N-40°-W	3.2	2.2	3.2	0.4	0.4	水口あり
31	N-50°-E	3.6	3.2	5.6	0.5	-	水口あり
32	N-51°-E	3.2	(3.0)	(6.2)	0.3	0.4	
33	N-34°-W	5.2	4.6	12.4	0.2~0.4	0.4	水口あり
34	N-50°-E	5.0	4.7	11.0	0.4	0.2~0.4	水口あり
35	N-45°-E	3.5	2.5	4.6	0.5	-	
36	N-35°-W	(1.7)	2.2	(2.0)	0.4	0.4	水口あり
37	N-35°-W	5.0	3.4	6.0	0.3	0.4	水口あり
38	N-39°-W	6.1	1.8	5.6	0.4~0.6	0.4	水口あり
39	N-39°-W	3.0	1.7	2.2	0.5	-	
40	N-43°-W	5.8	(4.4)	(8.2)	0.2~0.7	0.4	
41	N-45°-W	6.2	(3.2)	(9.8)	0.3~0.6	0.4	
42	N-46°-W	(3.1)	(2.2)	(3.6)	0.6	-	
43	N-40°-W	3.0	(1.8)	(1.6)	-	0.5	
44	N-45°-W	(12.7)	2.5	(18.0)	0.2~0.6	-	
45	N-40°-W	(4.4)	3.5	(8.0)	0.4	0.5	水口あり
46	N-45°-W	(12.6)	3.0	(18.4)	0.2~0.6	-	水口あり
47	N-39°-W	(3.4)	4.0	(7.8)	0.2~0.4	0.4	
48	N-50°-W	13.2	3.2	20.2	0.2~0.4	-	
49	N-46°-E	(4.2)	(1.2)	(2.2)	0.4~0.6	0.2	水口あり
50	N-48°-W	4.1	3.9	2.8	0.8	0.2~0.4	
51	N-50°-W	5.9	4.0	(10.2)	0.6	0.4	
52	N-50°-E	(4.4)	2.8	(5.8)	0.6	-	
53	N-45°-W	4.3	2.5	5.4	0.4	0.5	水口あり
54	N-44°-W	5.0	3.2	(6.4)	0.6	-	
55	N-45°-W	(4.0)	3.1	(5.6)	0.6	0.4	
56	N-45°-W	5.0	3.0	7.2	0.2~0.4	-	

C地点 出土遺物観察表

1	鉢	A. 残存高4.8。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→屈曲部に横走沈線→下位タテハケ。内面、回転ナデ。D. 石英・雲母・白色粒子・赤色粒子。E. 内外-灰白色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. As-B下。
2	須恵器甕	A. 残存高8.8。B. タタキ成形。C. 外面、口縁部欠落。平行タタキ目→ナデ。内面、当て具痕→ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. As-B下。
3	土鍋	A. 残存高4.0。B. ロクロ成形。C. 内・外面、回転ナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外-暗灰黄色。F. 破片。H. As-B混土層。
4	鉢	A. 残存高3.5。B. ロクロ成形。C. 内・外面、回転ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-灰色・オリーブ黒色。F. 破片。G. 外面に顕著にスス附着。H. As-B混土層。
5	須恵器甕か	A. 残存高6.5。B. タタキ成形。C. 外面、平行タタキ目→ナデ。内面、ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-灰白色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. As-B混土層。
6	須恵器甕	A. 残存高3.5。B. タタキ成形。C. 外面、平行タタキ目→ナデ。内面、同心円文の当て具痕→ナデ。D. 白色粒子・黒色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. As-B混土層。
7	坏	A. 口径(13.2)。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・赤色粒子。E. 内-灰黄褐色。外-灰褐色。F. 1/3。G. 内外面黒色処理か。H. 包含層。
8	壺	A. 口径(16.4)。残存高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ。胴部上位ヨコケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ヨコケズリ。D. 石英・片岩・白色粒子・角閃石。E. 内-明黄褐色。外-にぶい黄橙色。F. 口縁部1/2破片。G. 内外面とも器面の荒れ激しい。H. 包含層。
9	須恵器高台付埴	A. 口径(12.1)。残存高5.7。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ。内面、回転ナデ。底部、貼付高台欠落。D. 角閃石・赤色粒子。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 破片。G. 酸火焼成。H. 包含層。

8. 埋甕

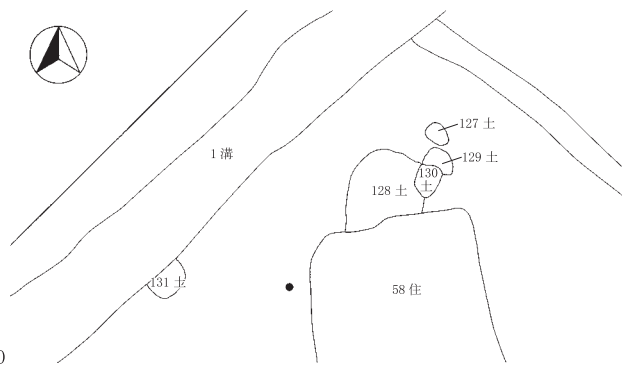
1号埋甕(第331図、図版49・99)

位置：B地点の南、58号住居跡の西に位置している。形態：掘り込みは不明瞭であったが、平面形は円形だろう。規模：幅等は不明、確認面からの深さは68cmを測る。埋没状況：暗褐色から黒褐色の覆土で埋没する。焼土を含む。遺物：覆土より逆位の状態で深鉢が出土している。時期：縄文時代中期後葉。



1号埋甕

- | | |
|------------|--------------------------------------|
| 1層 暗褐色土層 | 白色粒子を中量、焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりややあり。 |
| 2層 茶褐色土層 | ローム粒子を中量、焼土粒子・白色粒子を微量に含む。粘性・しまりややあり。 |
| 3層 黒褐色土層 | 焼土粒子・白色粒子を微量に含む。粘性・しまりややあり。 |
| 4層 暗茶褐色土層 | 白色粒子を少量、焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりややあり。 |
| 5層 淡灰黄褐色土層 | ローム粒子・白色粒子を微量含む。粘性・しまりややあり。 |
| 6層 暗褐色土層 | ローム粒子を中量、焼土粒子を少量、粘性・しまりややあり。 |
| 7層 灰白色粘土層 | 黒褐色土ブロックを中量、白色粒子を微量に含む。粘性・しまりややあり。 |



第331図 1号埋甕

1号埋甕 出土遺物観察表

1埋	深鉢	A. 口径43.3。残存高40.0。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は口縁部を弧状及び楕円形の隆帯で区画する。区画内及び胴部に単節RL縄文を施文する。隆帯脇には幅広沈線を施す。胴部は2本1組の縦位沈線を施文する。沈線間は磨り消し。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鉱物。E. 外-橙。F. 口縁部~胴部4/5。H. 8E-3GR。
----	----	---

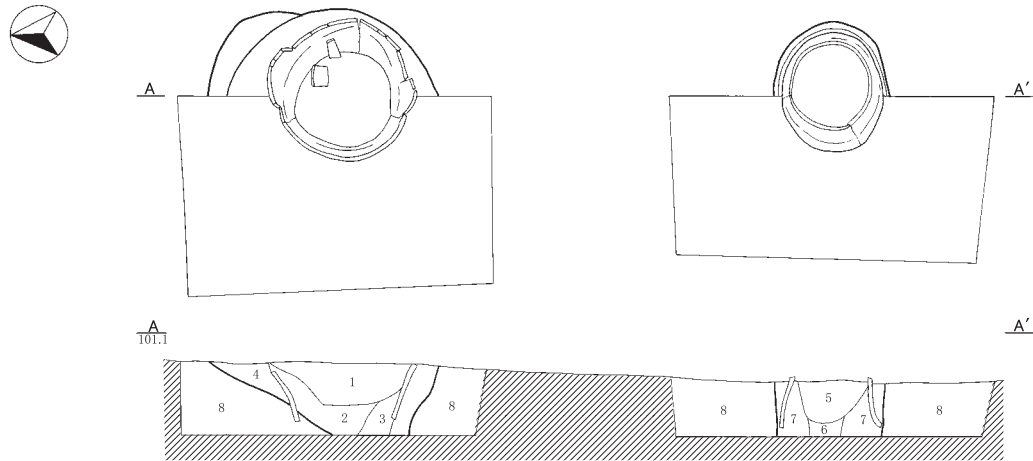
2号埋甕(第332図、図版99)

位置：B地点の南、74号住居跡の西に位置している。3号埋甕とは近接して検出されている。形態：平面形は円形だろう。南壁は直線的に立ち上がり、北壁は対極的に緩やかなものとなっている。規模：幅1.7m、確認面からの深さは57cmを測る。埋没状況：ロームブロックとローム粒子を多量に含む

覆土で埋没している。遺物：覆土より正位の状態です鉢が出土している。時期：縄文時代中期後葉。

2号埋甕 出土遺物観察表

2埋	深鉢	A. 残存高25.5。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は口縁部は楕円形の隆帯で区画されると想定される。区画内及び胴部に単節RL縄文を施文。隆帯脇には幅広沈線を施す。胴部は2本1組の縦位沈線を施す。沈線間は磨り消し。内面は横位のナデ。D. チャート、砂粒。E. 外-明黄褐。F. 胴部1/3。H.B埋めカメ2。
----	----	---



2号埋甕

- 1層 黒褐色土層 ローム粒子を多量、灰色粘土ブロックを少量、白色粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 2層 茶褐色土層 ロームブロックを多量、焼土粒子を少量、白色粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 3層 黒褐色土層 ロームブロックを多量、白色粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 4層 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量、白色粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。

3号埋甕

- 5層 黒褐色土層 白色粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 6層 黒褐色土層 ローム粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
- 7層 黒褐色土層 ローム粒子を少量、白色粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 8層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、焼土粒子・白色粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。



第332図 2号・3号埋甕

3号埋甕(第332図、図版99)

位置：B地点の南、74号住居跡の西に位置している。2号埋甕とは近接して検出されている。形態：平面形は円形だろう。壁は直線的な立ち上がりを呈する。規模：幅87cm、確認面からの深さは44cmを測る。埋没状況：ロームブロックとローム粒子を多量に含む覆土で埋没している。遺物：覆土より逆位の状態で深鉢が出土している。時期：縄文時代中期後葉。

3号埋甕 出土遺物観察表

3埋	深鉢	A. 残存高24.7。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は単節RL縄文を施文後、2本1組の縦位沈線を施す。沈線間は磨り消し。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、黒色鉱物、砂粒。E. 外-橙。F. 胴部1/3。H. B埋めカメ3。
----	----	--

9. 包含層・遺構外出土遺物(第333~338、図版49・100~102)

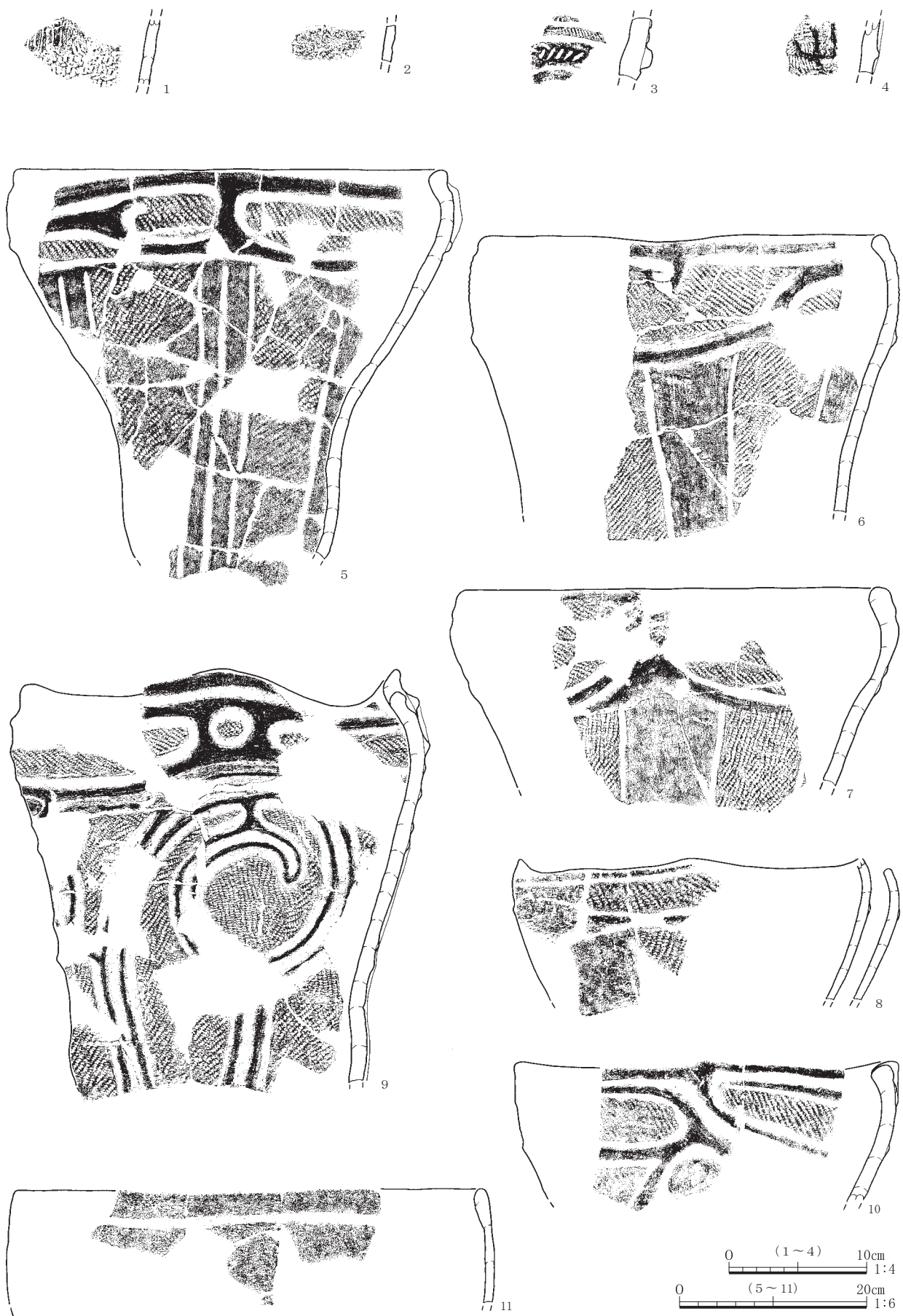
B地点の南西周辺において縄文時代の包含層が確認された。出土遺物の時期は、前期前葉・関山式、次いで中期中葉・勝坂式、後期初頭・称名寺式に及ぶ。主体となる土器群は、加曾利EⅢ式の古い部分を中心としたまとまりを示し、前述した埋甕と略同時期のものと考えられる。

同じくB地点では、住居跡の覆土より弥生時代前期末から中期中葉の土器片が出土している。

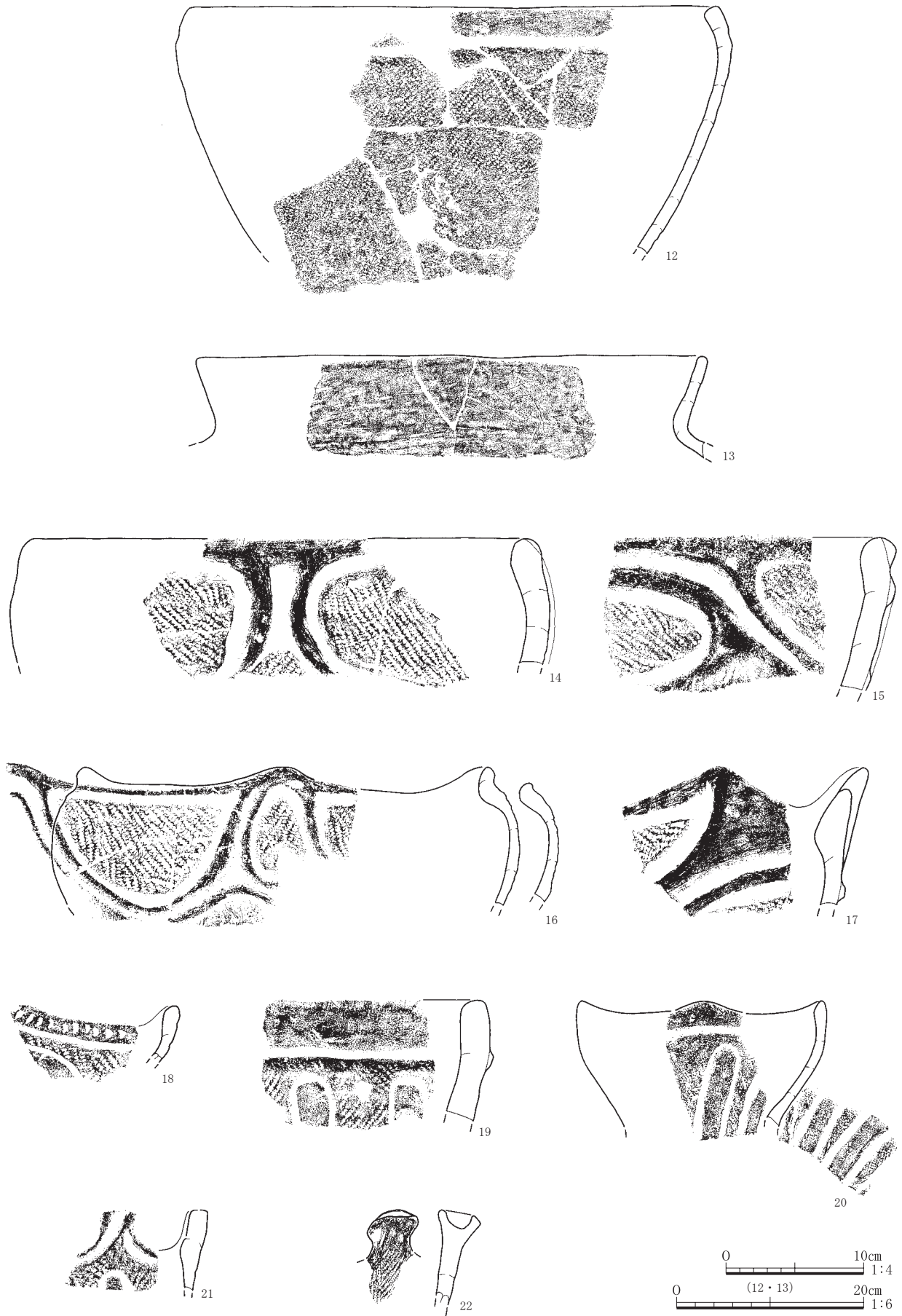
これらの遺物が帰属するであろう遺構は、本調査において検出されていない。

包含層・遺構外 出土遺物観察表 縄文土器(1)

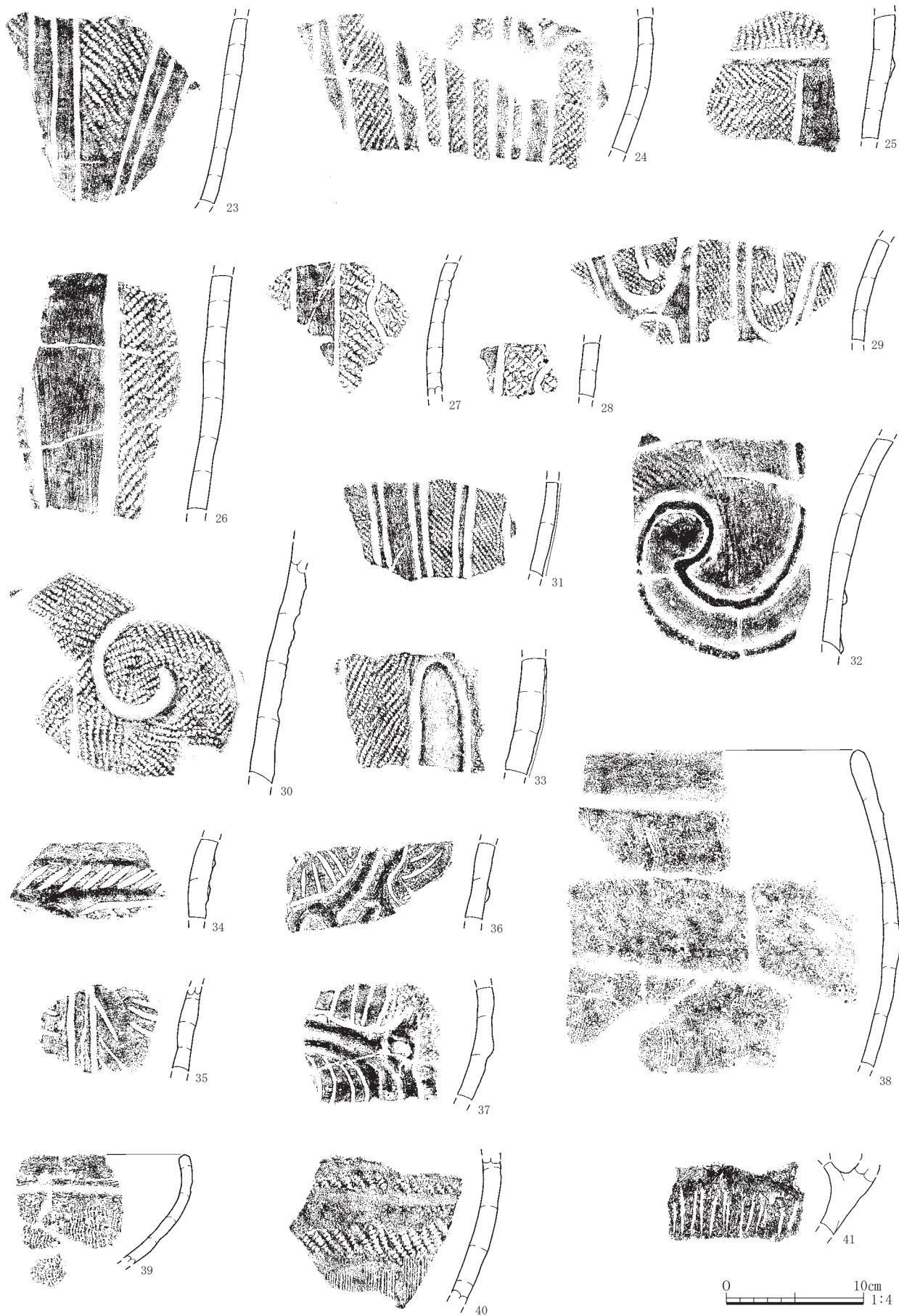
1	深鉢	A. 残存高4.8。B. 粘土紐輪積み。C. 外面はループ文を多段に施文後、半截竹管状工具によるコンパス文。内面は横位のナデ。D. 繊維、砂粒、黒色鉱物、白色粒。E. 外-にぶい橙。F. 胴部破片。H. A-DGR。
2	深鉢	A. 残存高2.8。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は単節RL・LR縄文を羽状に施文。内面は横位のナデ。D. 繊維、砂粒、黒色鉱物。E. 外-にぶい橙。F. 胴部破片。H. B-1GR。
3	深鉢	A. 残存高4.6。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は隆帯を弧状に添付した後、隆帯脇に棒状工具による沈線。隆帯上には刻みを施す。内面は横位のナデ。D. チャート、片岩、砂粒。E. 外-明赤褐。F. 胴部破片。H. SX-1. フク土。
4	深鉢	A. 残存高4.4。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は隆帯で楕円形状、弧状に区画。区画内には棒状工具による刻みを充填する。内面は横位のナデ。D. 片岩、砂粒。E. 外-にぶい褐。F-胴部破片。H. 41. フク土。
5	深鉢	A. 口縁部径46.4、残存高47.4。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は口縁部を隆帯で楕円形に区画後、区画内及び胴部に単節RL縄文を施文する。隆帯脇には幅広沈線を施す。胴部は3本1組の縦位沈線を施文する。沈線間は磨り消し。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外-黄。F. 口縁部~胴部1/4。H. B-1GR。
6	深鉢	A. 口縁部径43.0、残存高30.6。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は口縁部を隆帯で弧状、楕円形状に区画後、区画内及び胴部に単節RL縄文を施文。隆帯脇に幅広沈線及び端部蕨手状の横位沈線を施す。胴部は2本1組の幅広沈線を縦位に施す。2本1組の沈線間は磨り消し。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鉱物。E. 外-明褐。F. 口縁部~胴部1/8残存。H. B-1GR。
7	深鉢	A. 口縁部径44.0、残存高20.4。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は口縁部を隆帯で楕円形に区画する。区画内及び胴部に単節RL縄文を施文する。隆帯脇には幅広沈線を施す。胴部は2本1組の縦位の幅広沈線を施す。沈線間は磨り消し。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鉱物。E. 外-明黄褐。F. 口縁部~胴部片。H. B-1GR。
8	深鉢	A. 口縁部径37.4、残存高15.7。B. 4単位波状口縁と想定される。外面は口縁部を隆帯で弧状に区画し、区画内に単節RL縄文を施文する。口縁部直下に幅広沈線を施し、口縁部を楕円形に区画する。隆帯脇には幅広沈線を施す。胴部は単節RL縄文施文後、2本1組の幅広沈線を縦位に施文する。沈線間は磨り消し。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鉱物。E. 外-黄褐。F. 口縁部~胴部破片。H. D-2GR 2、E-2GR 1。
9	深鉢	A. 口縁部径40.8、残存高45.2。B. 粘土紐輪積み。C. 4単位波状口縁。外面は口縁部を隆帯で弧状、円形に区画し、胴部には渦巻き状の隆帯を施す。口縁部区画内及び胴部に単節RL縄文を施文する。隆帯脇には幅広の沈線を施す。内面は横位のナデ。D. チャート、砂粒、黒色鉱物。E. 外-にぶい黄褐。F. 口縁部~胴部4/5。H. B1号溝土層。
10	深鉢	A. 口縁部径39.6、残存高15.3。B. 粘土紐輪積み。C. 4単位の波状口縁と想定される。外面は口縁部を楕円形、弧状の隆帯で区画し、胴部には逆U字状と想定される隆帯を施す。区画内及び胴部に単節RL縄文を施文後、隆帯脇に幅広沈線を施す。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外-橙。F. 口縁部~胴部片。H. B-1GR。



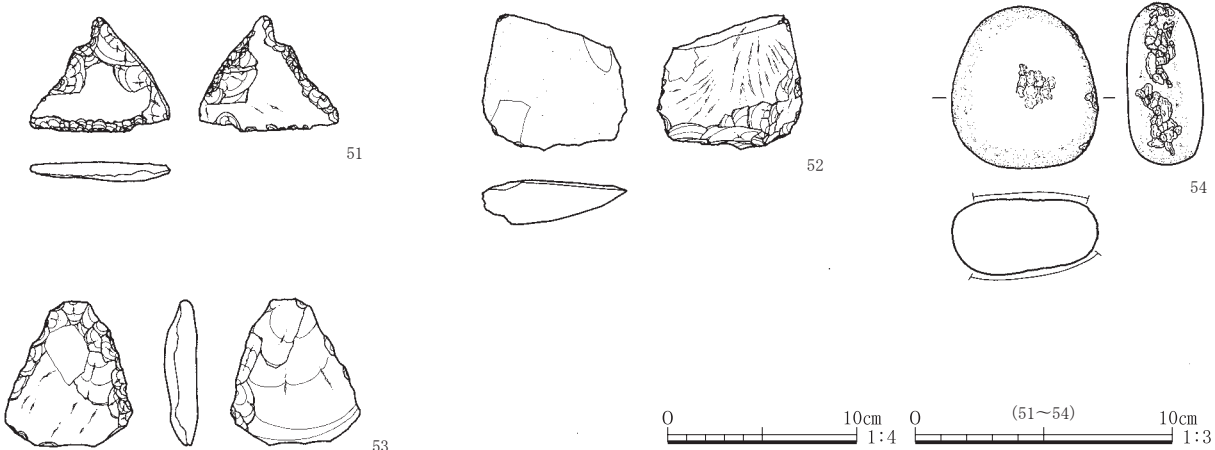
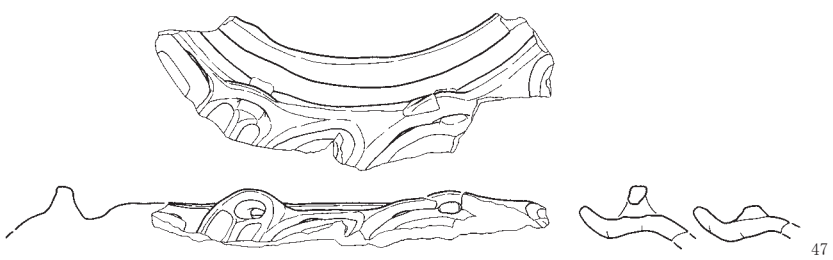
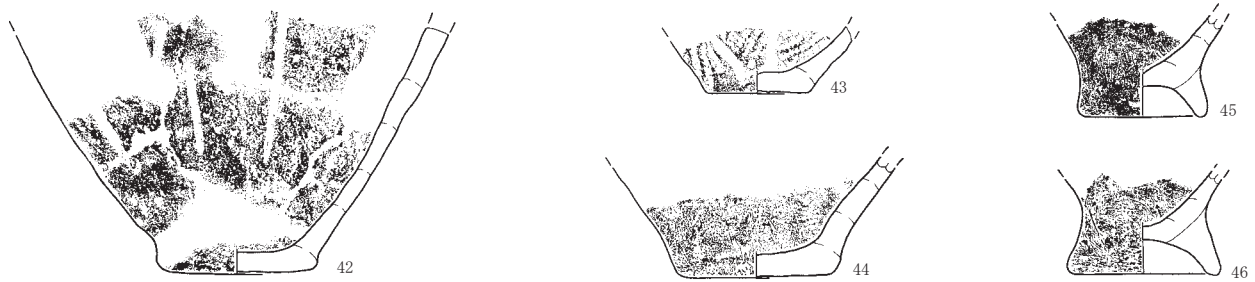
第333図 包含層・遺構外出土 縄文土器 (1)



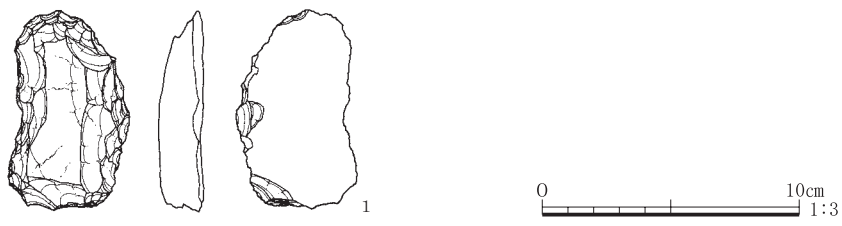
第334図 包含層・遺構外出土 縄文土器（2）



第335図 包含層・遺構外出土 縄文土器 (3)



第336図 包含層・遺構外出土 縄文土器 (4)



第337図 包含層・遺構外出土 石器

包含層・遺構外 出土遺物観察表 縄文土器(2)

11	深鉢	A. 口縁部径 50.6、残存高 12.5。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は口縁部を横位の幅広沈線で区画する。口縁部は無文。胴部は残存部では無文。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鈹物。E. 外-明褐。F. 口縁部~胴部破片。H. B-2、E-2GR 3、E-3GR 4。
12	深鉢	A. 口縁部径 56.9、残存高 27.1。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は胴部を単節 RL 縄文で施文後、口縁部を横位の幅広沈線で区画する。口縁部は無文。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鈹物。E. 外-明褐。F. 口縁部~胴部破片。G. E-3GR 4。
13	深鉢	A. 口縁部径 54.0、残存高 11.1。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。残存部位は無文。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外-橙。F. 口縁部 1/4 残存。H. B-1GR。
14	深鉢	A. 口縁部径 36.0、残存高 9.2。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は口縁部を隆帯で楕円形に区画後、区画内及び胴部に単節 RL 縄文を施文。隆帯脇には幅広沈線を施す。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鈹物。E. 外-にぶい黄橙。F. 口縁部~胴部破片。H. E-2GR 3。
15	深鉢	A. 残存高 11.1。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は口縁部を楕円形、もしくは弧状に隆帯で区画後、区画内及び胴部に単節 RL 縄文を施文する。隆帯脇には幅広沈線を施す。内面は横位のナデ。D. 片岩、砂粒、黒色鈹物。E. 外-橙。F. 口縁部~胴部破片。H. B-1GR。
16	深鉢	A. 口縁部径 29.5、残存高 10.1。B. 粘土紐輪積み。C. 4 単位波状口縁と想定される。外面は口縁部を隆帯で弧状、楕円形に区画する。区画内及び胴部に単節 RL 縄文を施文する。隆帯脇には幅広沈線を施す。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外-褐。F. 口縁部 1/2 残存。H. E-2GR 2。
17	深鉢	A. 残存高 9.4。B. 粘土紐輪積み。C. 波状口縁。外面は口縁部に弧状の隆帯で区画し、胴部には弧状の隆帯が施される。区画内及び胴部に単節 RL 縄文を施文する。隆帯脇には幅広沈線を施す。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鈹物。E. 外-にぶい黄橙。F. 口縁部~胴部破片。H. 44 住掘り方。
18	深鉢	A. 残存高 4.2。B. 粘土紐輪積み。C. 波状口縁。外面は単節 RL 縄文施文後、棒状工具による沈線で口縁部と胴部を区画する。口縁部は半截竹管状工具による刺突が施される。胴部は棒状工具による沈線で弧状に区画される。区画内は磨り消し。内面は横位のナデ。D. 片岩、砂粒、黒色鈹物。E. 外-にぶい黄橙。F. 口縁部~胴部破片。H. B-1GR。
19	深鉢	A. 残存高 8.8。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は口縁部と胴部を横位隆帯で区画し、胴部に単節 RL 縄文を施文する。横位隆帯上位に幅広沈線を施す。口縁部は無文。胴部は棒状工具で逆 U 字状の沈線を施す。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鈹物。E. 外-にぶい黄橙。F. 口縁部~胴部破片。H. E-2GR 1。
20	深鉢	A. 口縁部径 17.5、残存高 9.1。B. 粘土紐輪積み。C. 4 単位波状口縁と想定される。外面は口縁部を横位の幅広沈線で区画する。口縁部は無文。胴部は縦位及び逆 U 字状の幅広沈線を施す。内面は横位のナデ。D. チャート、砂粒、黒色鈹物、褐色粒。E. 外-にぶい褐。F. 口縁部~胴部破片。H. D-2GR 2、E-2GR 2。
21	深鉢	A. 残存高 5.9。B. 粘土紐輪積み。C. 円柱状突起を伴う波状口縁と想定される。外面は単節 RL 縄文施文後、口縁部に沿わせて幅広沈線を施す。胴部は逆 U 字状の沈線を施文する。内面は横位のナデ。D. チャート、長石、砂粒、黒色鈹物。E. 外-明赤褐。F. 口縁部破片。G. D-5GR 4。
22	深鉢	B. 粘土紐輪積み。C. 円柱状突起を伴う波状口縁と想定される。外面は単節 LR 縄文を施文後、突起上部には磨り消しを施す。内面は突起部は縦位の磨き、突起以下では横位のナデを施す。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外-にぶい黄橙。F. 口縁部破片。H. 74 住フク土。
23	深鉢	A. 残存高 9.4。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は横位隆帯を施した後、単節 RL 縄文施文。隆帯上部には幅広横位沈線を施す。2 本 1 組と想定される縦位沈線を施し、沈線間は磨り消し。内面は横位のナデ。D. チャート・砂粒。E. 外-橙。F. 胴部破片。H. E-2GR 2。
24	深鉢	A. 残存高 13.5。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は単節 LR 縄文施文後、3 本 1 組の沈線を縦位に施す。沈線間は磨り消し。内面は縦位の丁寧な磨き。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鈹物。E. 外-橙。F. 胴部破片。H. E-2GR 2。
25	深鉢	A. 残存高 10.0。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は単節 RL 縄文施文後、逆 U 字状及び縦位の沈線を施す。逆 U 字状沈線の両脇は磨り消しと想定される。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鈹物。E. 外-橙。F. 胴部破片。H. E-3GR。
26	深鉢	A. 残存高 17.0。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は単節 RL 縄文施文後、2 本 1 組の幅広沈線を縦位に施す。沈線間は磨り消し。内面は横位のナデ。D. チャート、砂粒、黒色鈹物。E. 外-黄褐。F. 胴部破片。H. B-1GR。
27	深鉢	A. 残存高 9.7。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は単節 LR 縄文施文後、2 本 1 組の沈線及び蛇行する沈線を縦位に施す。2 本 1 組の沈線間は磨り消し。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、褐色粒。E. 外-にぶい黄橙。F. 胴部破片。H. A-1GR。
28	深鉢	A. 残存高 4.0。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は付加状第 1 種を施文後、2 本 1 組と想定される縦位の沈線、蛇行する縦位の沈線を施す。2 本 1 組と想定される沈線間は無文。内面は横位のナデ。D. チャート、砂粒、褐色粒。E. 外-にぶい黄橙。F. 胴部破片。H. 58 住。
29	深鉢	A. 残存高 7.4。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は単節 RL 縄文施文後、縦位沈線、U 字状沈線及び逆 U 字状沈線を施す。U 字状沈線区画内には端部蕨手状の沈線を縦位に施文する。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鈹物。E. 外-橙。F. 胴部破片。H. B-1GR。
30	深鉢	A. 残存高 17.6。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は単節 RL 縄文施文後、渦巻き状の沈線を施す。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鈹物。E. 外-にぶい黄橙。F. 胴部破片。H. 90 住 No. 15、33、フク土。
31	深鉢	A. 残存高 7.9。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は縦位の隆帯で区画後、単節 RL 縄文を施文する。区画間は 2 区画ごとに磨り消し。隆帯脇には沈線を施す。内面は横位のナデ。D. チャート、砂粒。E. 外-橙。F. 胴部破片。H. E-2GR 2。

包含層・遺構外 出土遺物観察表 縄文土器（3）

32	深鉢	A. 残存高 15.6。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は、2本1組でJ字状に隆帯を添付し区画する。区画外は単節RL縄文を施文する。区画内は磨り消し。隆帯脇に幅広沈線を施す。内面は横位のナデ。D. チャート、砂粒、黒色粒、褐色粒。E. 外-灰。F. 胴部破片。H. SK128。
33	深鉢	A. 残存高 8.5。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は逆U字状の隆帯を添付し区画する。区画外には単節LR縄文を施文する。区画内は磨り消し。隆帯脇には幅広沈線を施す。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色粒。E. 外-浅黄。F. 胴部破片。H. 66住フク土。
34	深鉢	A. 残存高 5.8。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は2本1組の横位隆帯で区画後、区画内に斜位の沈線を施文する。区画外には横位沈線を施す。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鉱物。E. 外-明褐。F. 胴部破片。H. 31住フク土。
35	深鉢	A. 残存高 6.2。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は2本1組の縦位沈線施文後、斜位の沈線を施す。内面は横位のナデ。D. 片岩、砂粒、黒色鉱物。E. 外-にぶい黄橙。F. 胴部破片。H. B-1GR。
36	深鉢	A. 残存高 5.7。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は弧状の隆帯で区画後、隆帯脇に沈線を施す。区画内は隆帯に沿う沈線、斜位の沈線を施文する。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外-にぶい黄橙。F. 胴部破片。H. B-1GR。
37	深鉢	A. 残存高 8.2。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は弧状の隆帯で区画後、隆帯脇に沈線を施す。区画内には隆帯に沿った沈線を施文後、斜位の沈線を施す。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鉱物。E. 外-橙。F. 胴部破片。H. 31住フク土。
38	深鉢	A. 残存高 23.1。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。外面は口縁部を幅広沈線で横位に区画。口縁部は無文。胴部は蛇行気味の縦位の条線が施される。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外-にぶい黄橙。F. 口縁部~胴部破片。H. B-1GR、B-2GR。
39	鉢	A. 残存高 8.0。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は、横位沈線で口縁部を区画する。口縁部は無文。胴部は縦位の条線。内面は横位のナデ。D. チャート、砂粒。E. 外-橙。F. 口縁部~胴部破片。H. E-2GR。
40	深鉢	A. 残存高 10.7。B. 粘土紐輪積み。C. 外面の上位は単節RL縄文施文後幅広沈線を横位に施す。下位は縦位の条線を施文。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鉱物。E. 外-にぶい黄橙。F. 胴部破片。H. E-2GR 3。
41	鉢	A. 残存高 5.3。B. 粘土紐輪積み。C. 側面に橋状の把手が付く。外面は縦位の条線。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外-橙。F. 胴部破片。H. 1号溝下層。
42	深鉢	A. 底径 8.5、残存高 13.0。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は単節RL縄文施文後、2~3本1組の縦位沈線を施す。縦位沈線間は磨り消し。内面は横位のナデ。D. チャート、砂粒、黒色鉱物。E. 外-にぶい黄橙。F. 胴部~底部。H. B-1GR。
43	深鉢	A. 底径 5.5、残存高 3.6。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は単節LR縄文施文後、縦位、弧状の沈線を施文する。内面は横位のナデ。D. チャート、砂粒。E. 外-にぶい橙。F. 胴部~底部。H. E-2GR 2。
44	深鉢	A. 底径 8.5、残存高 6.4。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は残存部では無文。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒。E. 外-明赤褐。F. 胴部~底部。H. E-2GR 1。
45	深鉢	A. 底径 6.8、残存高 5.3。B. 粘土紐輪積み。C. 底部には高台が付く。外面は残存部では無文。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鉱物。E. 外-橙。F. 胴部~底部。H. E-2GR 2。
46	深鉢	A. 底径 8.2、残存高 5.5。B. 粘土紐輪積み。C. 底部には高台が付く。外面は残存部では無文。内面は横位のナデ。D. 片岩、チャート、砂粒、黒色鉱物。E. 外-明赤褐。F. 胴部~底部。H. E-2GR 2。
47	鉢	A. 口縁部径 24.8、残存高 3.0。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁。2つ1組の把手が4単位付く。外面は隆帯を弧状に添付後、隆帯脇に幅広沈線を施す。口縁部には横位の幅広沈線が施される。内面は横位のナデ。D. チャート、砂粒、黒色鉱物。E. 外-にぶい黄橙。F. 口縁部~胴部片。G 赤彩。H. 1号溝上層、B-1GR。
48	鉢	A. 残存高 2.7。B. 粘土紐輪積み。C. 平縁口縁と想定される。外面は横位隆帯で口縁部を区画する。口縁部は無文。胴部は2本1組の逆U字状隆帯を添付後、隆帯脇に幅広沈線を施す。口縁部を区画する横位隆帯と逆U字状隆帯の頂部は小把手により連結される。内面は横位のナデ。なお、外面には赤彩が施される。D. 片岩、砂粒。E. 外-にぶい黄橙。F. 口縁部~胴部破片。H. E-2GR 1。
49	深鉢	A. 残存高 4.9。B. 粘土紐輪積み。C. 波状口縁と想定される。口縁部はやや肥厚する。外面は単節RL縄文施文後、2本1組の横位沈線で口縁部を区画する。口縁部及び沈線以下の胴部は無文。内面は横位のナデ。D. チャート、砂粒。E. 外-にぶい黄橙。F. 口縁部~胴部破片。H. SK-70。
50	深鉢	A. 残存高 4.5。B. 粘土紐輪積み。C. 外面は横位沈線、L字状沈線を施す。内面は横位のナデ。D. チャート、砂粒、黒色鉱物。E. 外-淡黄。F. 胴部破片。H. 22住フク土。
51	石匙	A. 長 4.5。幅 5.5。厚 0.8。重 17.22。D. 頁岩。G. 横型の欠損品。H. B-1グリッド。
52	スクレイパー	A. 長 5.3。幅 5.7。厚 1.7。重 61.08。D. 頁岩。G. 片面加工。H. A-1グリッド。
53	スクレイパー	A. 長 5.7。幅 5.1。厚 1.3。重 29.78。D. ホルンフェス。H. D-3グリッド。
54	磨・敲石	A. 長 8.5。幅 7.7。厚 4.1。重 404.00。D. 安山岩。F. 完形。G. 敲打痕あり。表・裏2面が摩耗する。H. B1グリッド。

遺構外 出土遺物観察表 縄文・弥生土器（1）

1	鉢	A. 残存高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口唇部面取り。口縁部浮線網状文。内面、ヨコミガキ。D. 金雲母・石英。E. 内外-にぶい褐色。F. 破片。H. 55号住居跡カマド覆土。
2	甕	A. 残存高 5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、細密条痕。内面、ナデ。D. 石英・片岩。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 破片。G. 内面に黒色の付着物あり。H. 27号住居跡覆土。
3	不明 胴部片	A. 残存高 1.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、細密条痕。内面、ナデ。D. 白色粒子・片岩。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 破片。H. 27号住居跡覆土。
4	不明 胴部片	A. 残存高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 雲母・チャート。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 破片。H. 27号住居跡覆土。



第338图 遺構外出土 弥生土器

遺構外 出土遺物観察表 縄文・弥生土器（2）

5	不明 胴部片	A. 残存高 5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、条痕文。D. 石英・雲母・片岩。E. 内外一にぶい橙色。F. 破片。H. 41号住居跡覆土。
6	甕	A. 口径(24.6)。残存高 8.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部 LR 単節縄文→横位 2 条沈線。頸部ヨコナデ。肩部 LR 単節縄文→横位 2 条沈線。内面、ナデ。D. 石英・片岩・雲母。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。G. 9と同一個体か。H. 52号住居跡覆土。
7	甕	A. 残存高 2.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 白色粒子・石英・片岩。E. 内外一褐色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。
8	甕	A. 残存高 2.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ヨコナデ。D. 石英・博白色粒子・雲母。E. 内一にぶい橙色。外一黒褐色。F. 破片。G. 10と同一個体か。H. 27号住居跡覆土。
9	甕	A. 残存高 5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、LR 単節縄文→横位 2 条沈線。内面、ヨコナデ。D. チャート・石英・片岩。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。G. 6と同一個体か。H. 52号住居跡覆土。
10	不明 胴部片	A. 残存高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 石英・白色粒子・雲母。E. 内一にぶい橙色。外一黒褐色。F. 破片。G. 8と同一個体か。H. 27号住居跡覆土。
11	甕	A. 残存高 5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 白色粒子・片岩・石英。E. 内外一明褐色。F. 破片。H. 52号住居跡覆土。
12	不明 胴部片	A. 残存高 1.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 破片。G. 13と同一個体。H. 52号住居跡覆土。
13	不明 胴部片	A. 残存高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 破片。G. 12と同一個体。H. 52号住居跡覆土。
14	不明 胴部片	A. 残存高 3.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 白色粒子・片岩。E. 内外一赤褐色。F. 破片。H. 52号住居跡覆土。
15	不明 胴部片	A. 残存高 2.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一浅黄橙色。F. 破片。G. 器面がやや摩耗している。H. 52号住居跡覆土。
16	不明 胴部片	A. 残存高 6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 片岩・白色粒子・石英。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 破片。G. 内面に黒色の付着物あり。17と同一個体。H. 52号住居跡覆土。
17	不明 胴部片	A. 残存高 4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。G. 16と同一個体。H. 52号住居跡覆土。
18	不明 胴部片	A. 残存高 3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 白色粒子・片岩・石英。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。H. 52号住居跡覆土。
19	不明 胴部片	A. 残存高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。H. 52号住居跡覆土。
20	不明 胴部片	A. 残存高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 白色粒子・片岩。E. 内一にぶい黄褐色。外一橙色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。
21	不明 胴部片	A. 残存高 6.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 石英・白色粒子・片岩。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。
22	不明 胴部片	A. 残存高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。
23	不明 胴部片	A. 残存高 3.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 白色粒子・片岩。E. 内外一赤褐色。F. 破片。H. 1号溝覆土。
24	不明 胴部片	A. 残存高 4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。
25	不明 胴部片	A. 残存高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 片岩・白色粒子・石英。E. 内外一明赤褐色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。
26	不明 胴部片	A. 残存高 4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。
27	不明 胴部片	A. 残存高 3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。H. 52号住居跡覆土。
28	不明 胴部片	A. 残存高 3.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外一灰黄褐色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。
29	壺または甕	A. 底径(7.2)。残存高(10.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。底部網代痕。内面、ナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 底部～胴部下位破片。接点はなく、図上復元となる。G. 内面に黒色付着物あり。H. 49号住居跡覆土。
30	不明 胴部片	A. 残存高 2.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内一にぶい黄褐色。外一灰黄褐色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。
31	不明 胴部片	A. 残存高 2.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内一灰黄褐色。外一にぶい黄褐色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。
32	不明 胴部片	A. 残存高 2.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。
33	不明 胴部片	A. 残存高 2.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、条痕文。内面、ナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。
34	壺	A. 残存高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、沈線文。内面、ナデ。D. 片岩・チャート。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. 破片。H. 55号住居跡床下。
35	壺または甕	A. 残存高 2.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、LR 単節縄文→沈線文。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内一にぶい黄褐色。外一橙色。F. 破片。G. 内面に黒色の付着物あり。H. 49号住居跡覆土。
36	壺	A. 残存高 2.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、横位 2 条沈線・羽状文。内面、ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明黄褐色。F. 破片。G. 器面やや摩耗。H. 49号住居跡覆土。

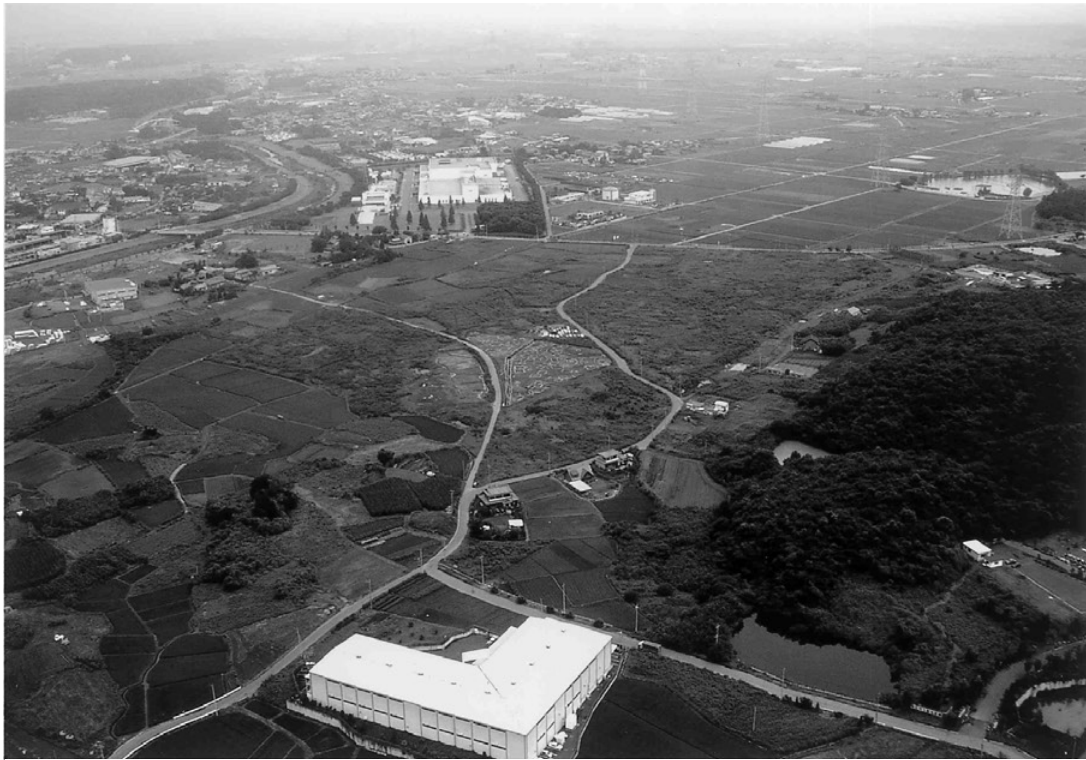
遺構外 出土遺物観察表 縄文・弥生土器（3）

37	壺	A. 残存高 5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、縦位羽状沈線文。内面、ナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一浅黄橙色。F. 破片。H. 1号溝覆土。
38	壺	A. 残存高 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、沈線文。内面、ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内一にぶい黄橙色。外一浅黄橙色。F. 破片。G. 内面に黒色の付着物あり。H. 27号住居跡覆土。
39	壺	A. 残存高 (8.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、頸部横位沈線文。肩部斜位沈線文。胴部上位横位沈線文。内面、ナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英・片岩。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。G. 頸部破片は接点がないため、図上復元となっている。H. 49号住居跡覆土。
40	壺	A. 残存高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、LR単節縄文→沈線文。内面、ナデ。D. チャート・白色粒子・片岩。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。
41	壺または筒	A. 残存高 2.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、LR単節縄文→沈線文→沈線間を磨り消し。内面、ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 破片。H. 49号住居跡覆土。

遺構外 出土遺物観察表 石器

1	石器 打製石斧	A. 長 7.9。幅 4.8。厚 1.8。重 79.42。D. 頁岩。F. ほぼ完形。G. 両面調整。裏面は摩耗している。H. III区包含層。
---	------------	--

写真図版



B地点 遠景



B地点 垂直方向から



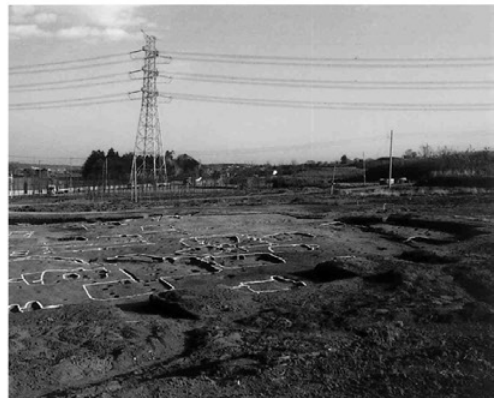
B地点 全景 (1)



D地点 全景 (1)



B地点 全景 (2)



D地点 全景 (2)



C地点 全景 (1)



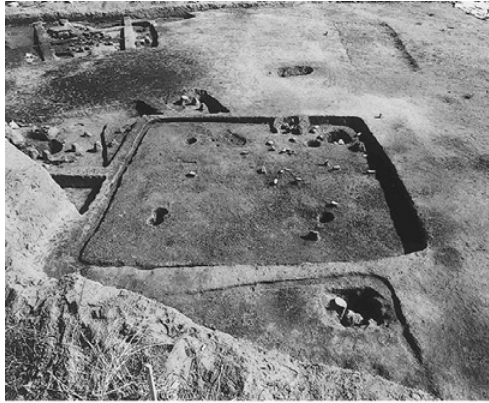
E地点 全景 (1)



C地点 全景 (2)



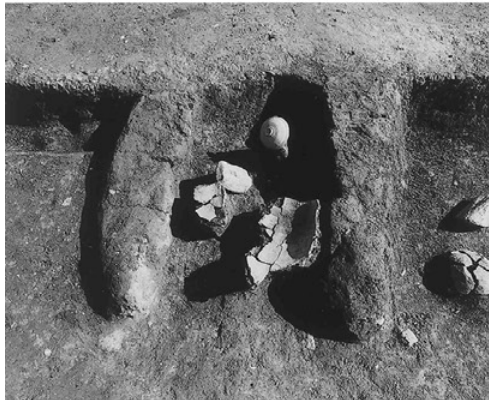
E地点 全景 (2)



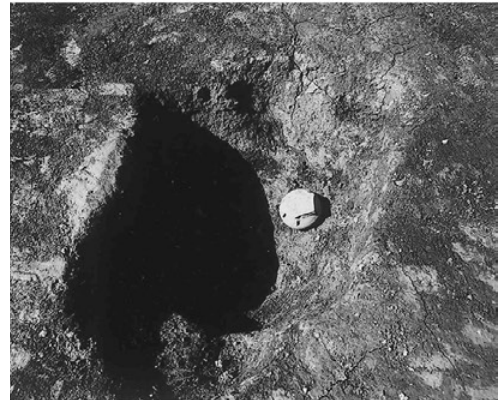
6号住居跡 全景



8号住居跡 遺物出土状況



6号住居跡 カマド



8号住居跡 須恵器出土状況



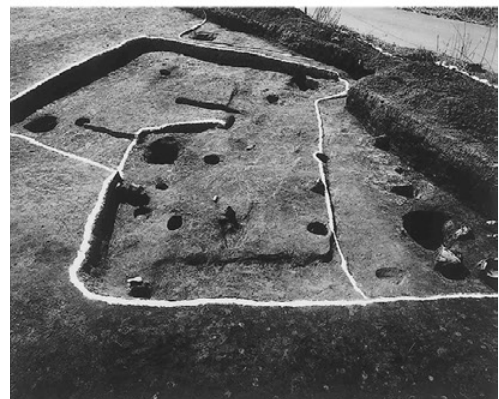
6号住居跡 貯蔵穴



6・7・8号住居跡 全景(1)



8号住居跡 全景



6・7・8号住居跡 全景(2)



9・10号住居跡 全景



11号住居跡 貯蔵穴



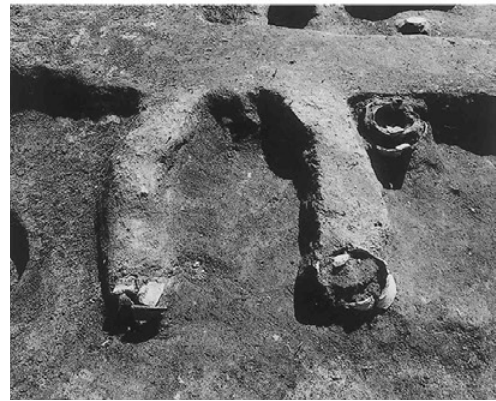
9号住居跡 全景



12号住居跡 全景



10号住居跡 貯蔵穴



12号住居跡 カマド



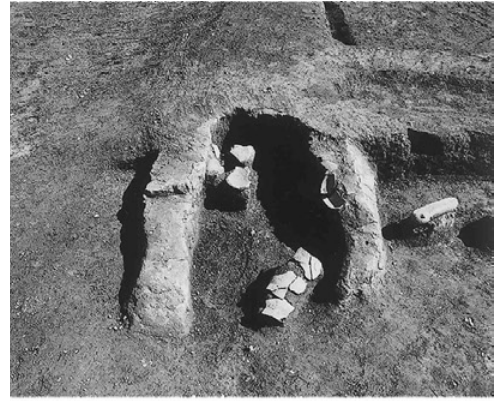
11号住居跡 全景



13号住居跡 全景



13号住居跡 カマド



15号住居跡 カマド



14号住居跡 全景



16号住居跡 全景



12・13・14号住居跡 全景



17号住居跡 全景



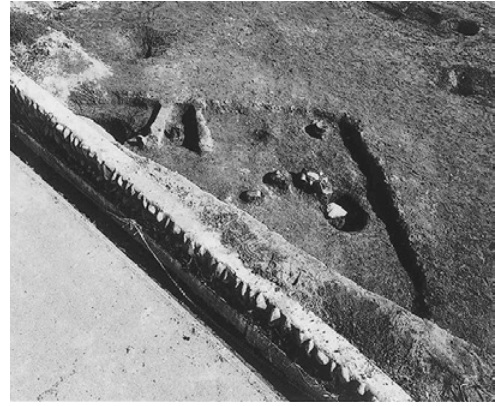
15・16号住居跡 全景



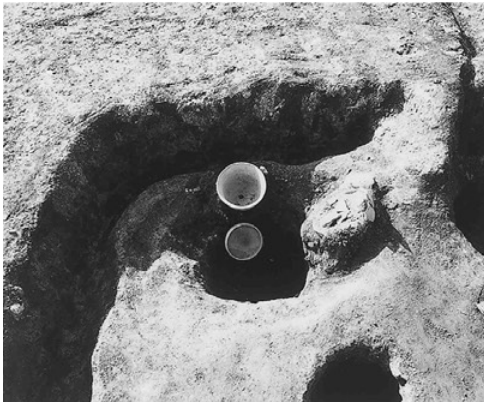
18号住居跡 全景



18号住居跡 カマド



20号住居跡 全景



18号住居跡 貯蔵穴



20号住居跡 カマド



19号住居跡 全景



21・23号住居跡 全景



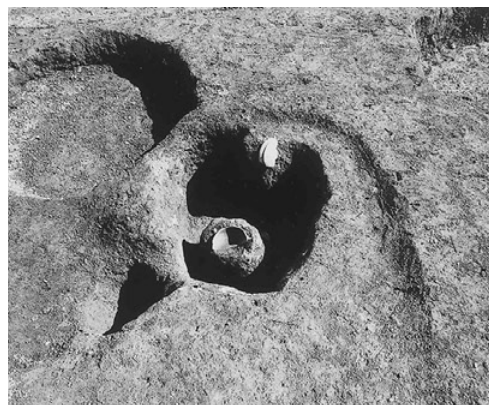
19号住居跡 カマド



21号住居跡 貯蔵穴



22号住居跡 全景



25号住居跡 貯蔵穴



24号住居跡 全景



26号住居跡 全景



24号住居跡 カマド



26号住居跡 カマド



25号住居跡 全景



27号住居跡 全景



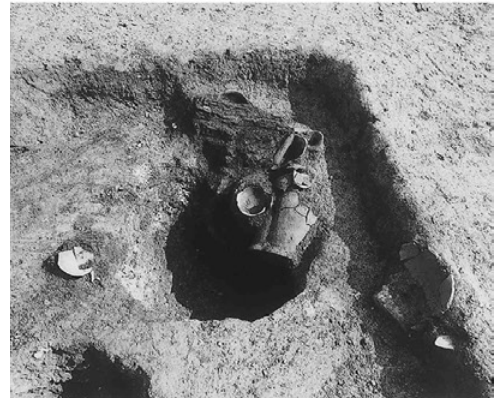
27号住居跡 貯蔵穴



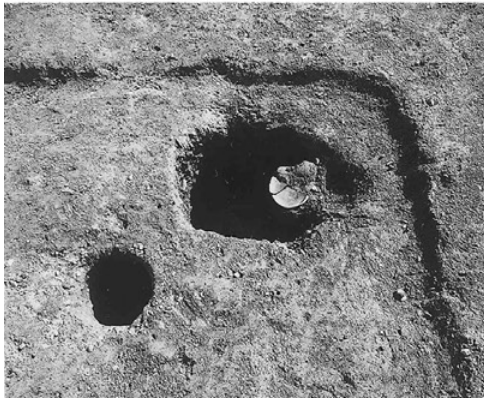
30号住居跡 カマド



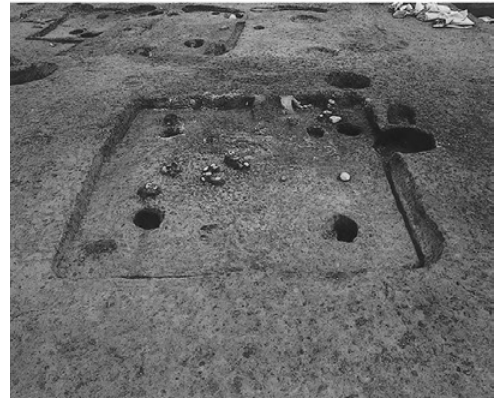
28・29号住居跡 全景



30号住居跡 貯蔵穴



29号住居跡 貯蔵穴



31号住居跡 全景



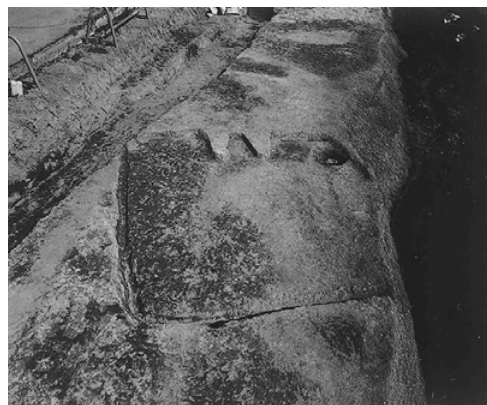
30号住居跡 全景



31号住居跡 カマド



32号住居跡 全景



36号住居跡 全景



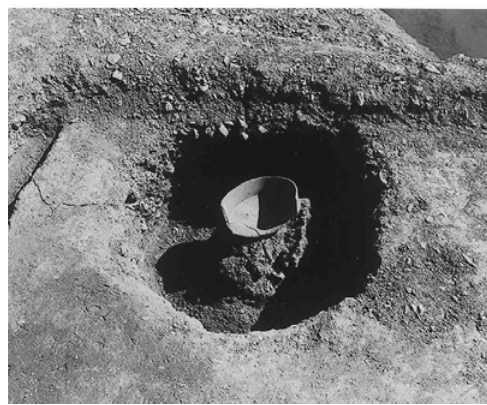
32号住居跡 カマド



36号住居跡 カマド



32号住居跡 貯蔵穴



36号住居跡 貯蔵穴



35号住居跡 全景



37号住居跡 全景



38号住居跡 全景



40号住居跡 全景



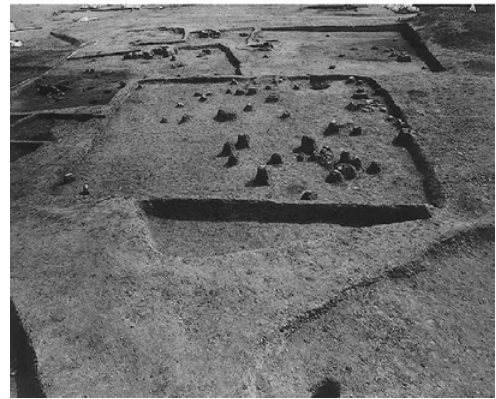
38号住居跡 カマド



40号住居跡 カマド



39号住居跡 全景



41号住居跡 全景



39号住居跡 カマド



41号住居跡 カマド



42号住居跡 全景



44号住居跡 全景



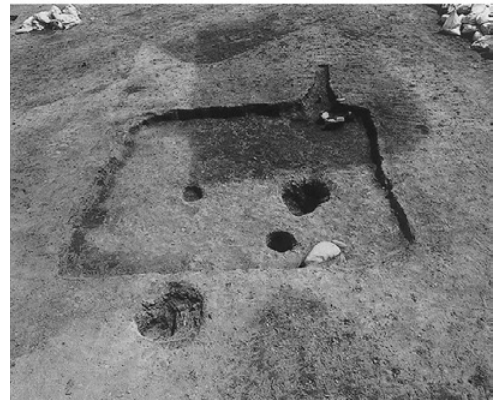
42号住居跡 貯蔵穴



44号住居跡 カマド



43・53号住居跡 全景



45号住居跡 全景



43号住居跡 カマド



45号住居跡 カマド



46号住居跡 全景



49号住居跡 全景



46号住居跡 カマド



49号住居跡 カマド



47号住居跡 全景



50号住居跡 全景



47・48号住居跡 全景



51号住居跡 全景



52号住居跡 全景



53号住居跡 カマド



52号住居跡 カマド



54号住居跡 全景



52号住居跡 貯蔵穴



55号住居跡 全景



53号住居跡 全景



55号住居跡 カマド



55号住居跡 貯蔵穴



57号住居跡 全景



56号住居跡 全景



57号住居跡 カマド



56号住居跡 カマド



57号住居跡 貯蔵穴



56号住居跡 貯蔵穴



58号住居跡 全景



58号住居跡 カマド



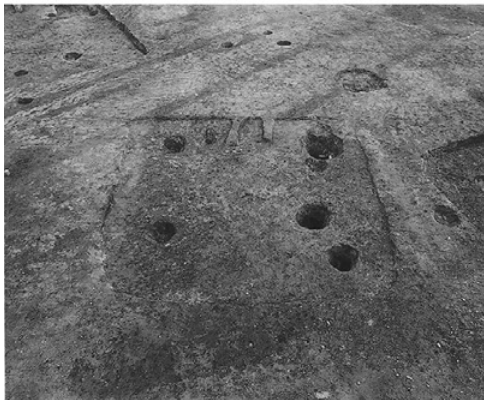
59号住居跡 貯蔵穴



58号住居跡 遺物出土状況



60号住居跡 全景



59号住居跡 全景



60号住居跡 カマド



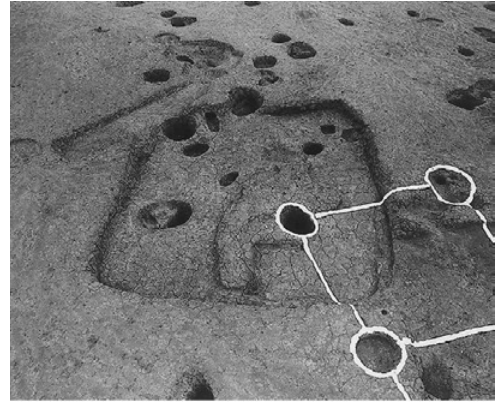
59号住居跡 カマド



60号住居跡 貯蔵穴



62号住居跡 全景



63号住居跡 掘り方



62号住居跡 カマド



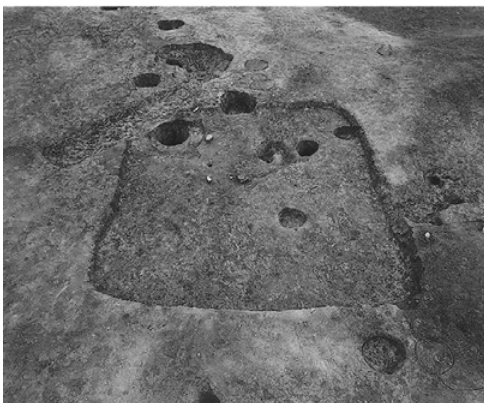
64号住居跡 全景



62号住居跡 貯蔵穴



65号住居跡 全景



63号住居跡 全景



65号住居跡 貯蔵穴



66号住居跡 全景



68・69・70号住居跡 全景



66号住居跡 カマド



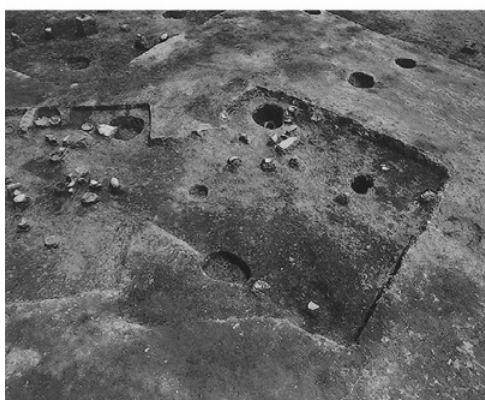
68号住居跡 カマド



66号住居跡 貯蔵穴



69号住居跡 全景



67号住居跡 全景



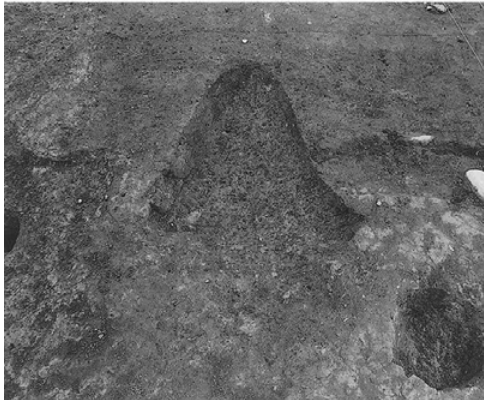
69号住居跡 カマド



71号住居跡 全景



72号住居跡 貯蔵穴



71号住居跡 カマド



72号住居跡 遺物出土状況 (1)



72号住居跡 全景



72号住居跡 遺物出土状況 (2)



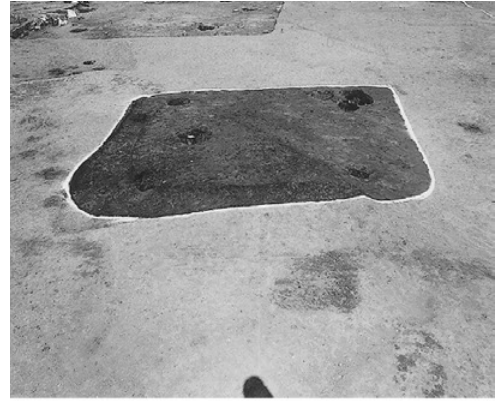
72号住居跡 カマド



73・75号住居跡 全景



75号住居跡 カマド



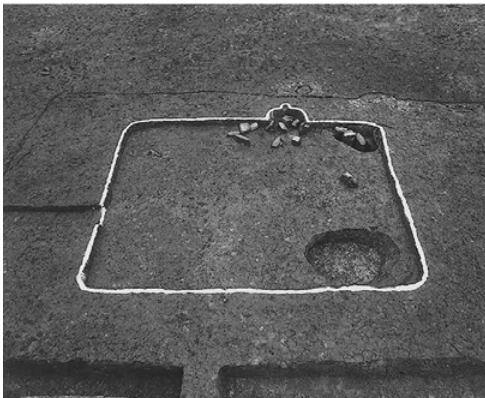
77号住居跡 全景



74号住居跡 全景



77号住居跡 貯蔵穴



76号住居跡 全景



78号住居跡 全景



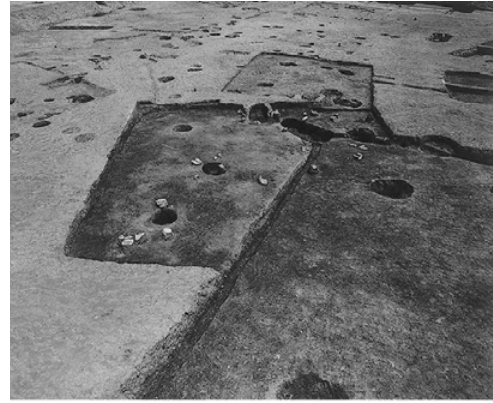
76号住居跡 カマド



78号住居跡 貯蔵穴



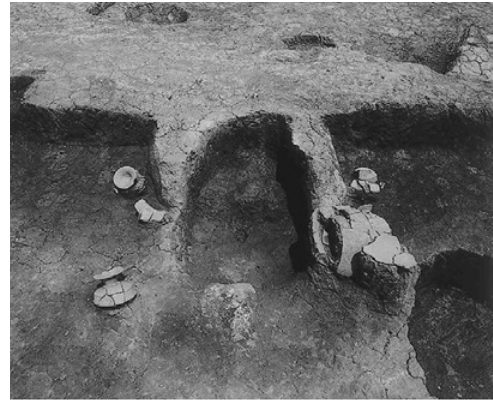
79号住居跡 全景



81号住居跡 全景



79号住居跡 カマド



81号住居跡 カマド



79号住居跡 貯蔵穴



81号住居跡 貯蔵穴



80号住居跡 全景



82・83・84号住居跡 全景



82号住居跡 カマド



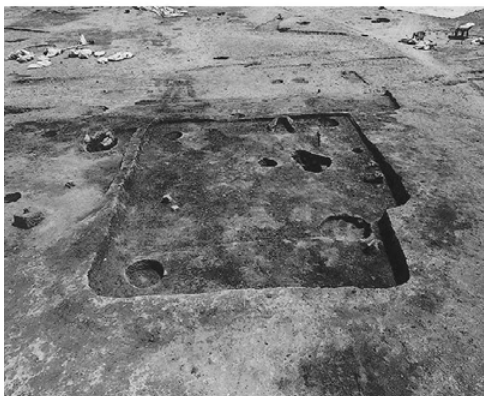
87号住居跡 全景



83号住居跡 貯蔵穴



87号住居跡 貯蔵穴



85・86号住居跡 全景



88号住居跡 全景



85号住居跡 カマド



89号住居跡 全景



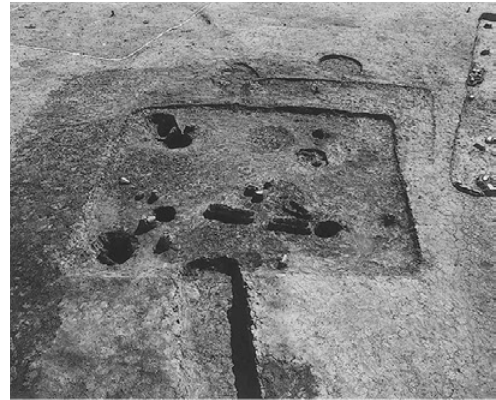
90号住居跡 全景



91号住居跡 カマド



90号住居跡 カマド



92号住居跡 全景



90号住居跡 貯蔵穴



93号住居跡 全景



91号住居跡 全景



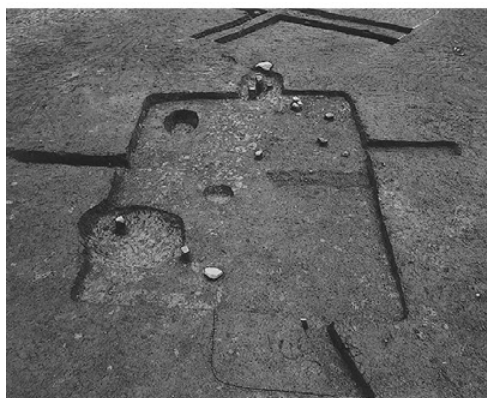
94号住居跡 全景



95号住居跡 全景



97号住居跡 カマド



96号住居跡 全景



97号住居跡 貯蔵穴



96号住居跡 カマド



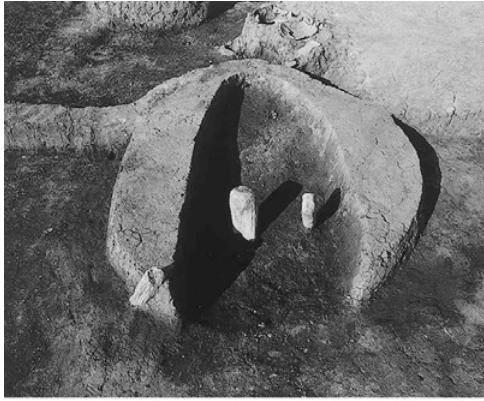
98号住居跡 全景



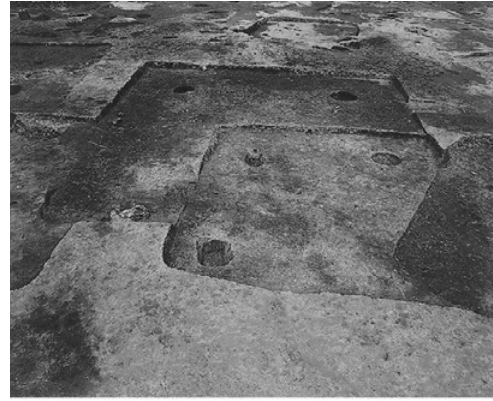
97号住居跡 全景



99号住居跡 全景



99号住居跡 カマド



101号住居跡 全景



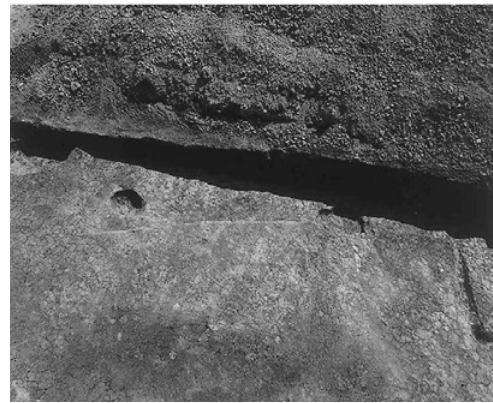
100号住居跡 全景



102号住居跡 全景



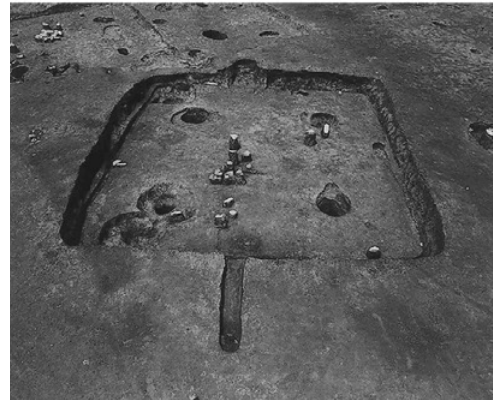
100号住居跡 カマド



103号住居跡 全景



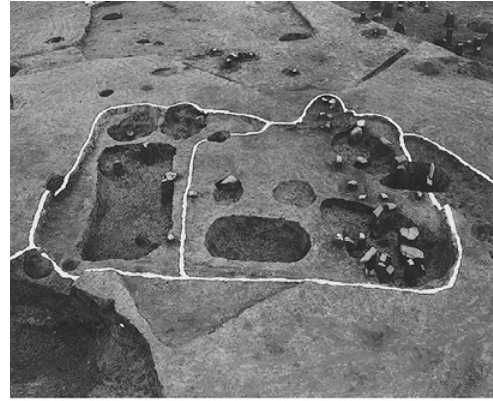
100号住居跡 貯蔵穴



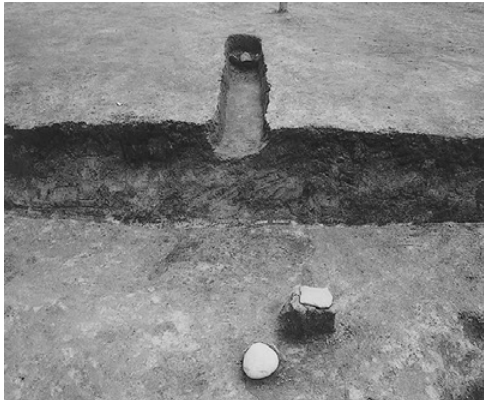
104号住居跡 全景



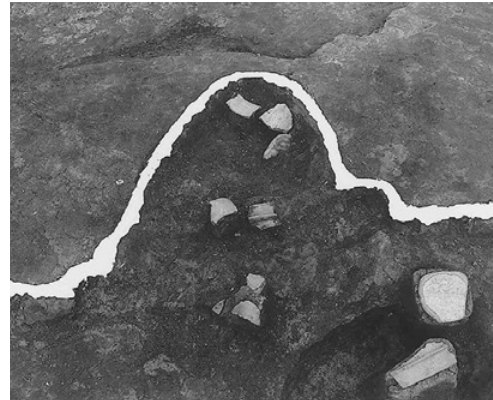
104号住居跡 新カマド



106・107・108号住居跡 全景



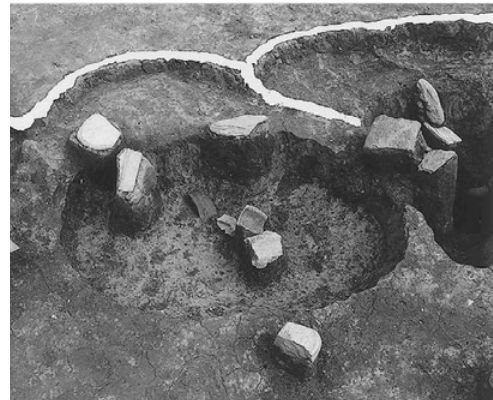
104号住居跡 旧カマド



106号住居跡 カマド



105号住居跡 全景



106号住居跡 貯蔵穴



105号住居跡 カマド



107号住居跡 カマド



107号住居跡 貯蔵穴



109号住居跡 埵形滓出土状況



109号住居跡 全景



110号住居跡 全景



109号住居跡 新カマド



110号住居跡 カマド



109号住居跡 旧カマド



110号住居跡 貯蔵穴



111号住居跡 全景



112号住居跡 カマド



111号住居跡 カマド



113号住居跡 全景



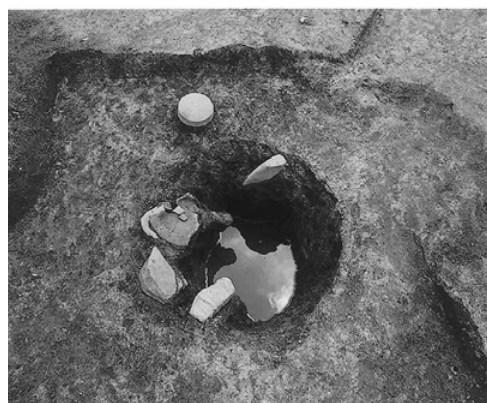
111号住居跡 貯蔵穴



113号住居跡 カマド



112号住居跡 全景



113号住居跡 貯蔵穴



114号住居跡 全景



115号住居跡 カマド



114号住居跡 カマド



116号住居跡 全景



114号住居跡 貯蔵穴



117号住居跡 全景



115号住居跡 全景



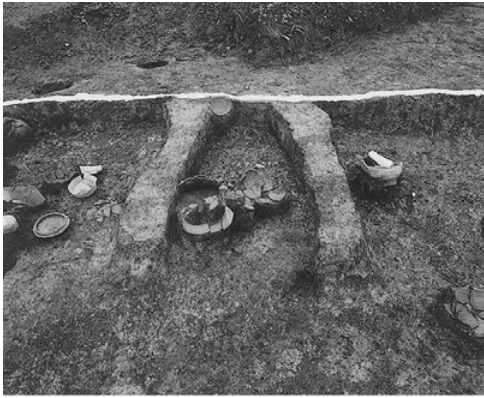
117号住居跡 貯蔵穴



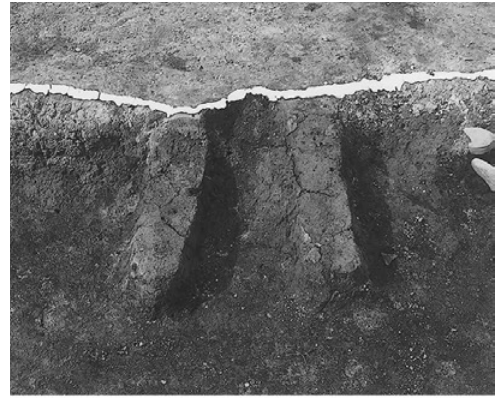
118・119号住居跡 全景



122・124号住居跡 全景



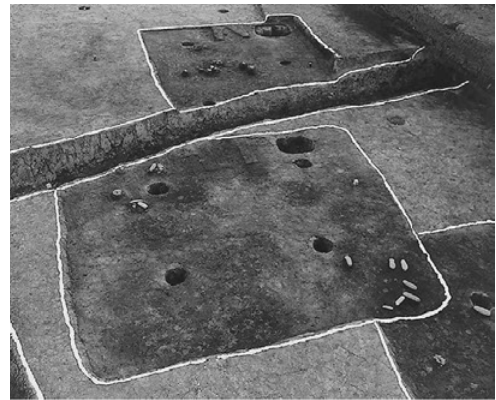
118号住居跡 カマド



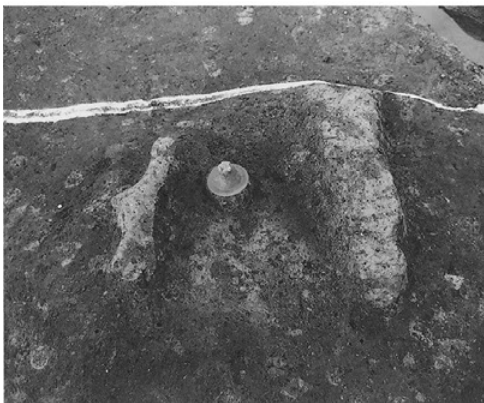
122号住居跡 カマド



118号住居跡 遺物出土状況



123号住居跡 全景



121号住居跡 カマド



123号住居跡 カマド



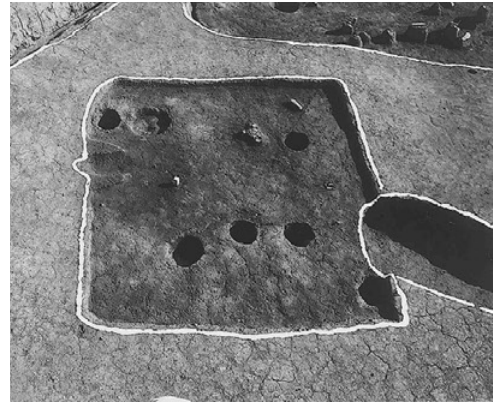
125号住居跡 全景



126号住居跡 カマド



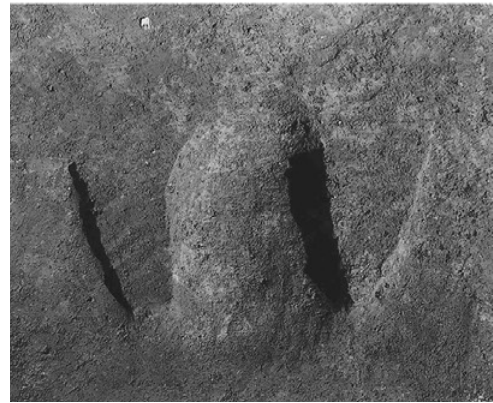
125号住居跡 カマド



127号住居跡 全景



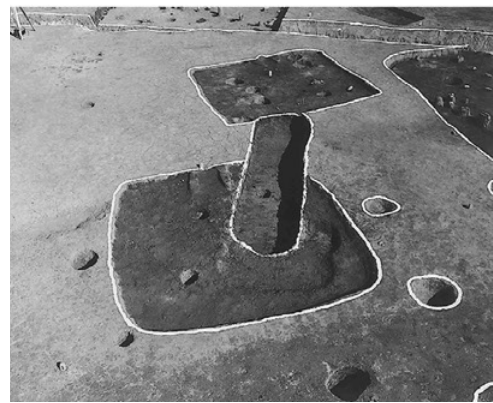
125号住居跡 貯蔵穴



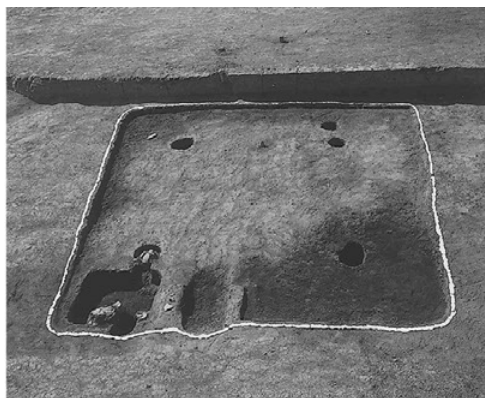
127号住居跡 カマド



126号住居跡 全景



128号住居跡 全景



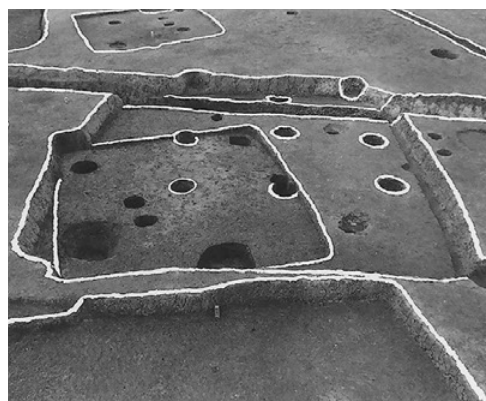
129号住居跡 全景



130号住居跡 カマド(2)



129号住居跡 カマド



131a・b号住居跡 全景



130号住居跡 全景



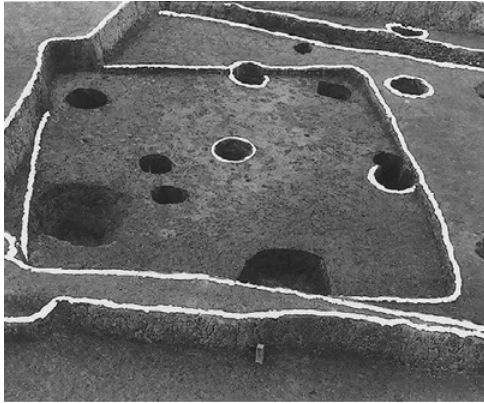
131a号住居跡 全景



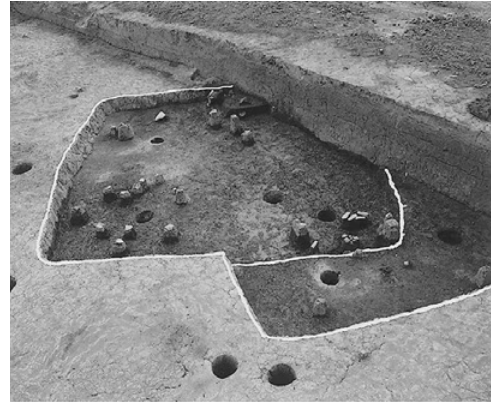
130号住居跡 カマド(1)



131a号住居跡 カマド



131b号住居跡 全景



134号住居跡 全景



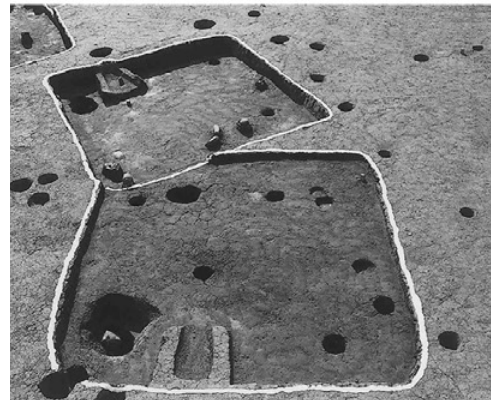
132号住居跡 全景



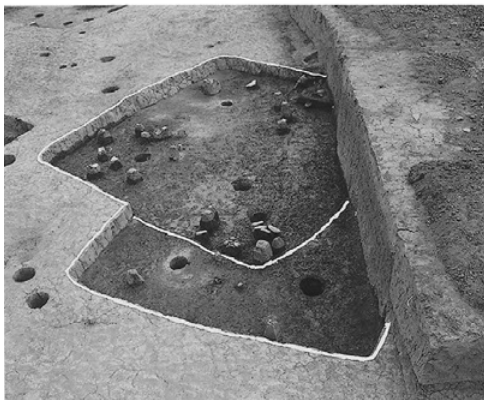
134号住居跡 カマド



132号住居跡 カマド



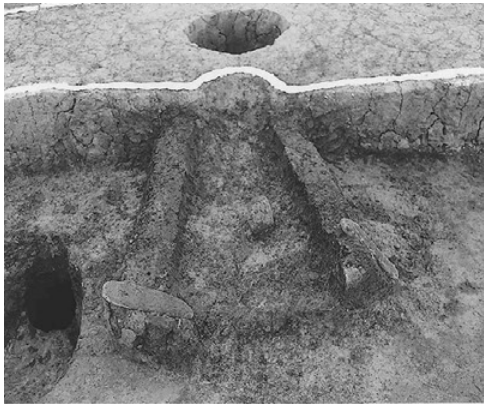
135・136号住居跡 全景



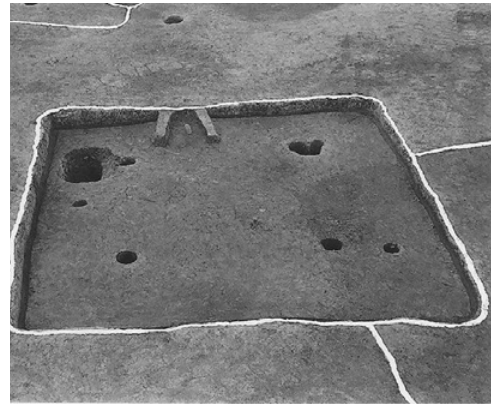
133・134号住居跡 全景



135号住居跡 全景



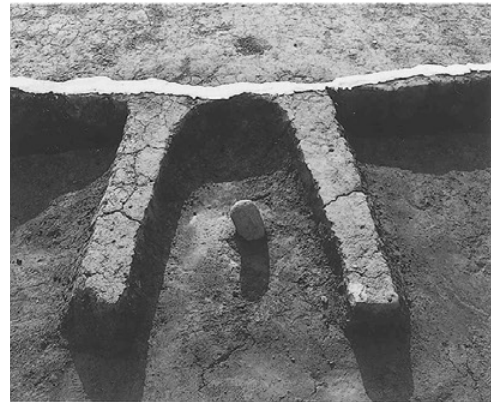
135号住居跡 カマド



138号住居跡 全景



136号住居跡 カマド



138号住居跡 カマド



137号住居跡 全景



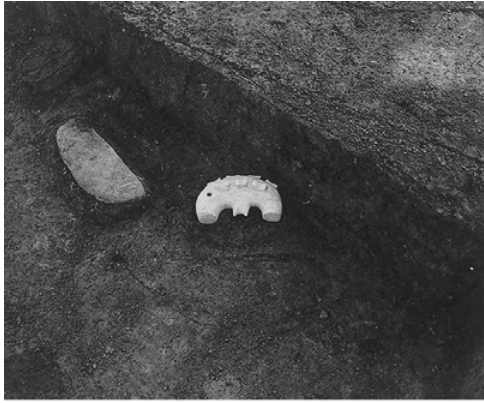
138号住居跡 遺物出土状況 (1)



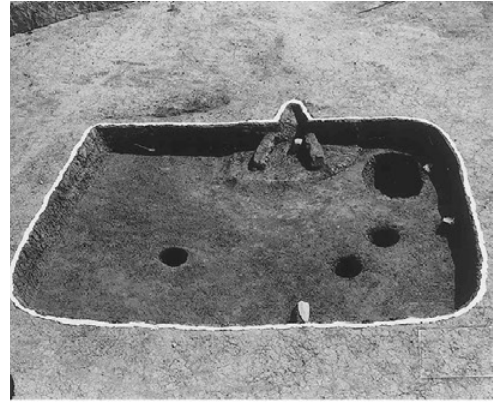
137号住居跡 カマド



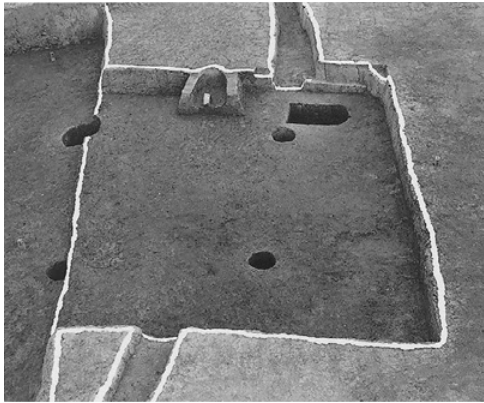
138号住居跡 遺物出土状況 (2)



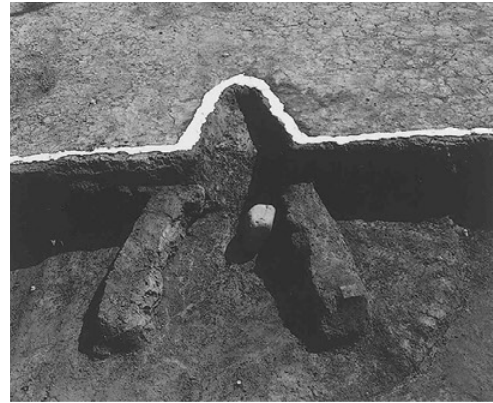
138号住居跡 遺物出土状況 (3)



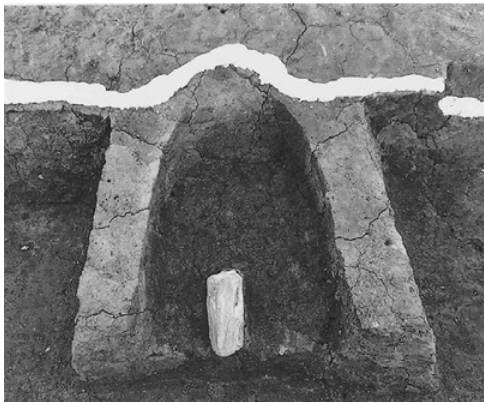
141号住居跡 全景



139号住居跡 全景



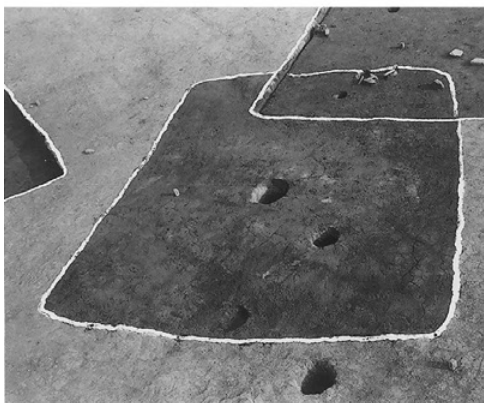
141号住居跡 カマド



139号住居跡 カマド



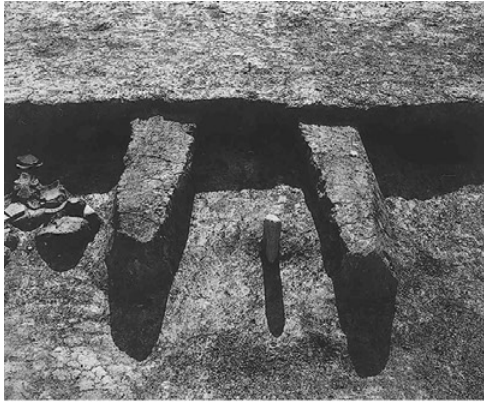
142号住居跡 全景



140号住居跡 全景



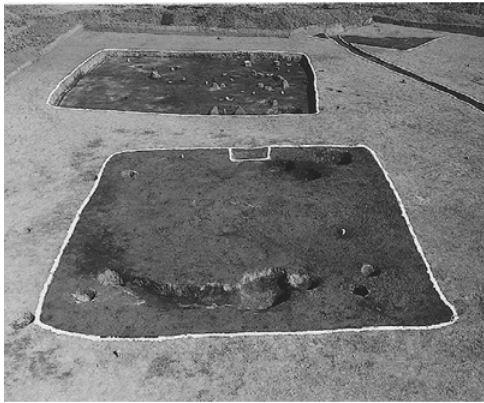
143号住居跡 全景



143号住居跡 カマド



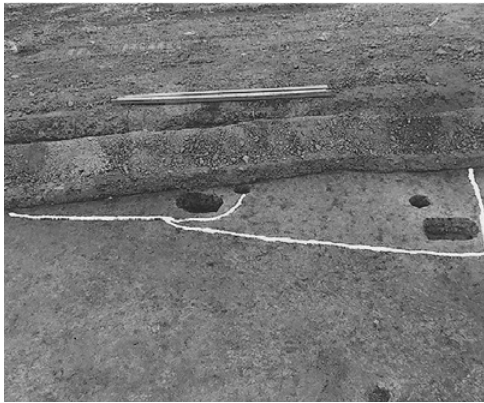
147号住居跡 カマド



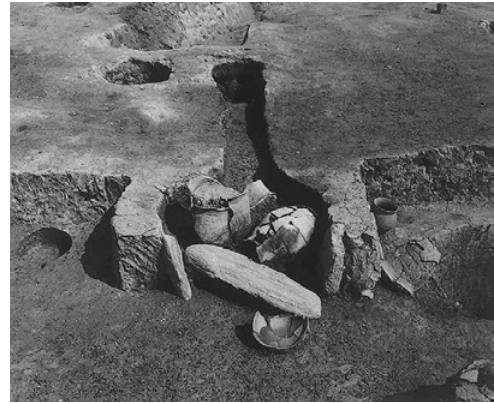
144号住居跡 全景



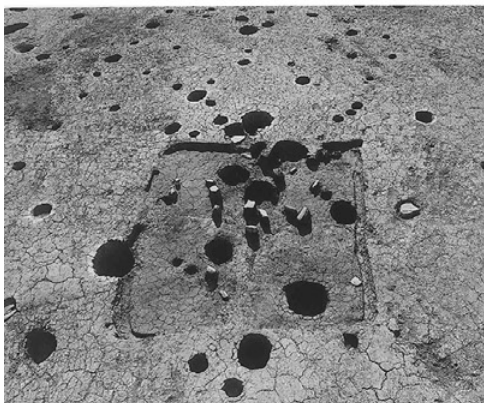
148号住居跡 全景



145・146号住居跡 全景



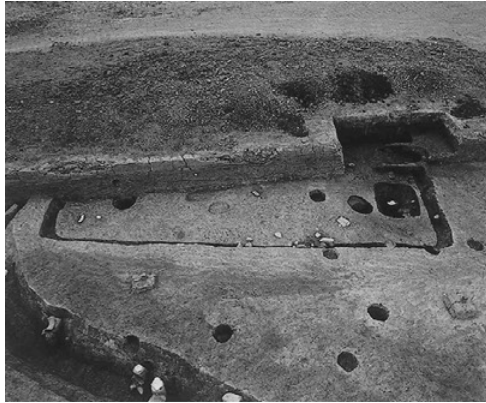
148号住居跡 カマド



147号住居跡 全景



149号住居跡 全景



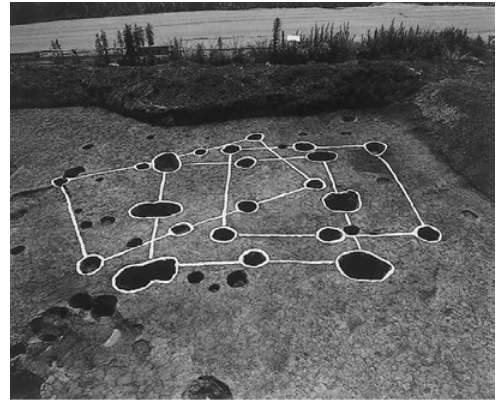
150号住居跡 全景



1号掘立柱建物跡 全景



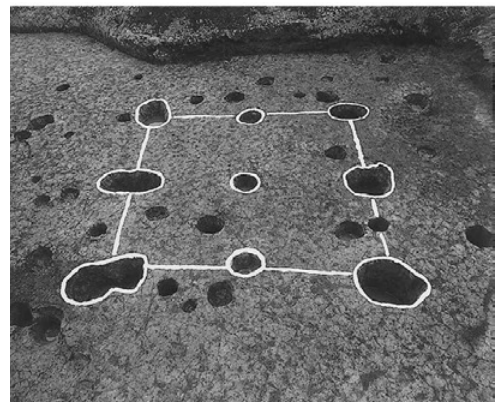
150号住居跡 カマド・貯蔵穴



2・3・4号掘立柱建物跡 全景



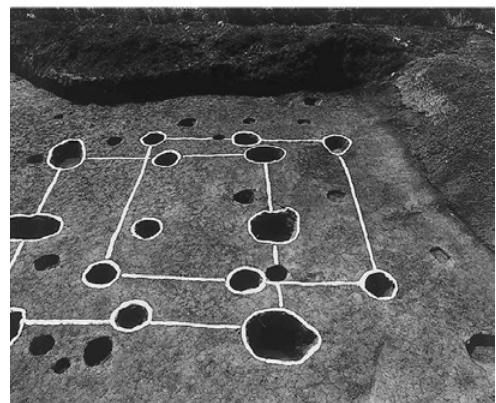
151・152号住居跡 全景



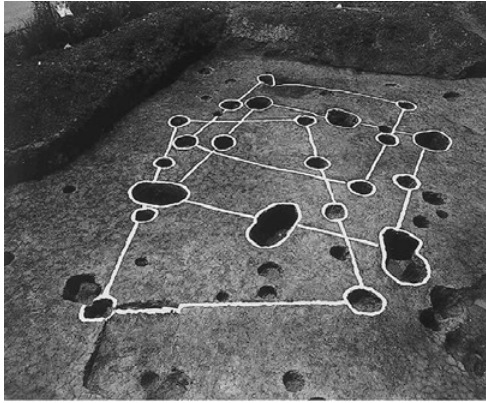
2号掘立柱建物跡 全景



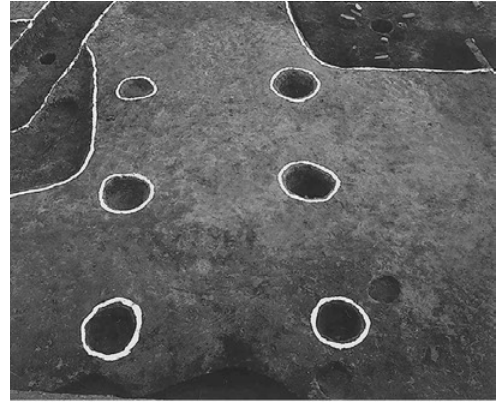
153号住居跡 全景



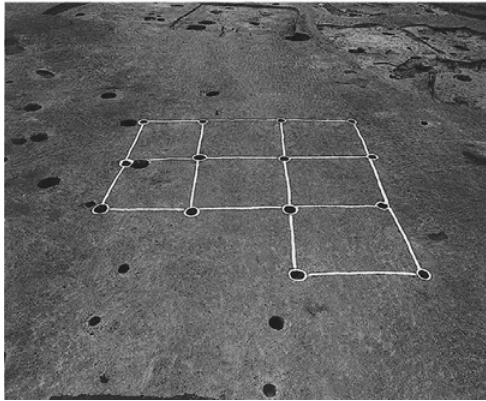
3号掘立柱建物跡 全景



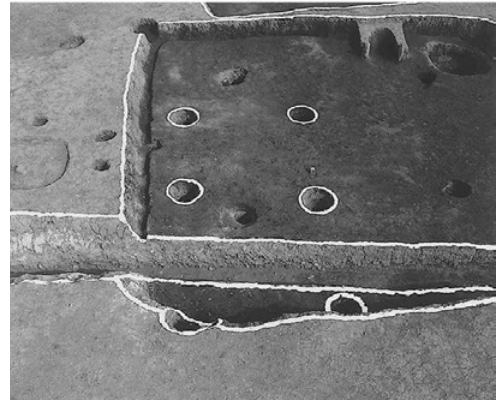
4号掘立柱建物跡 全景



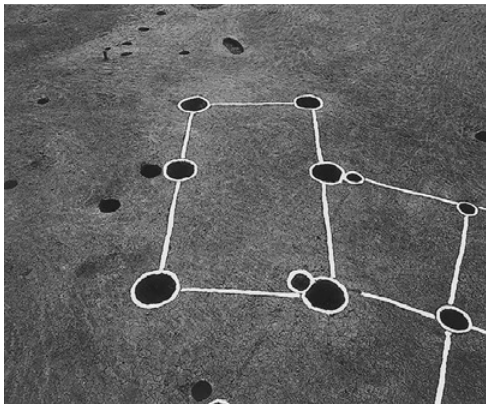
8号掘立柱建物跡 全景



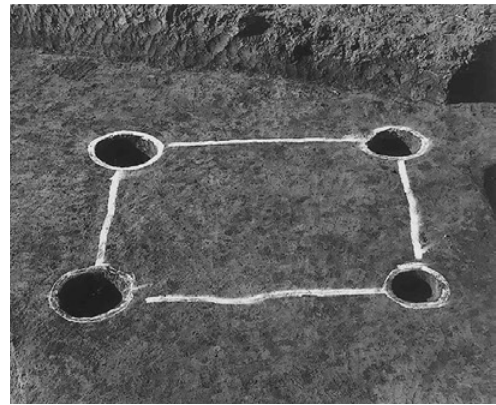
5号掘立柱建物跡 全景



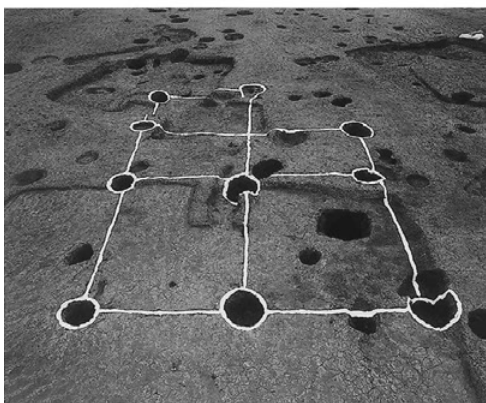
9号掘立柱建物跡 全景



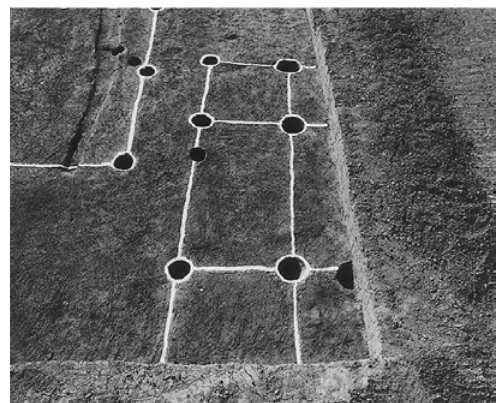
6号掘立柱建物跡 全景



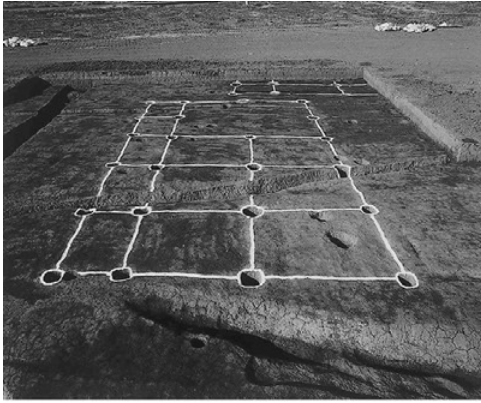
11号掘立柱建物跡 全景



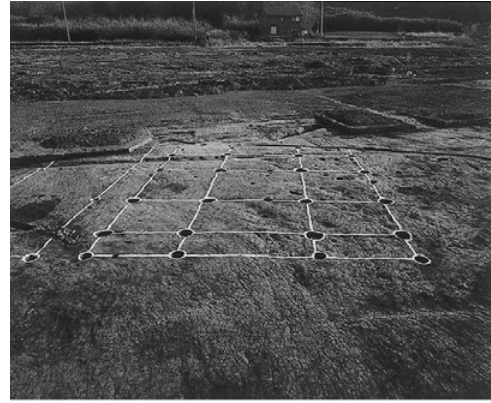
7号掘立柱建物跡 全景



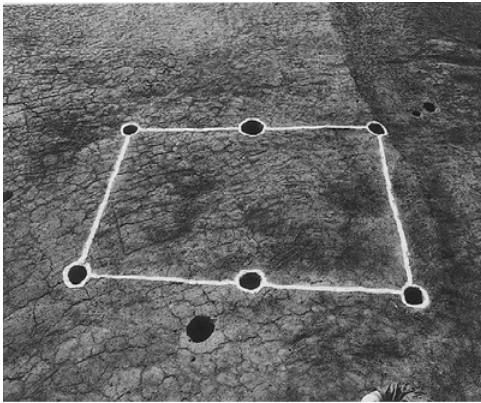
12号掘立柱建物跡 全景



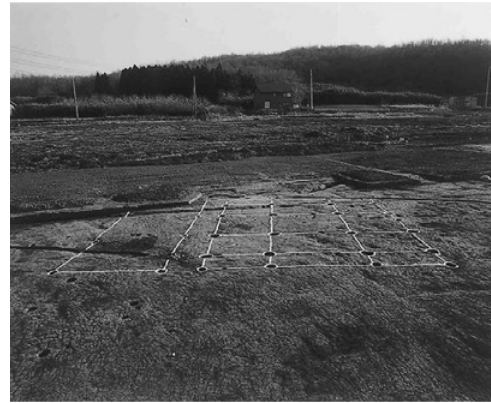
13号掘立柱建物跡 全景



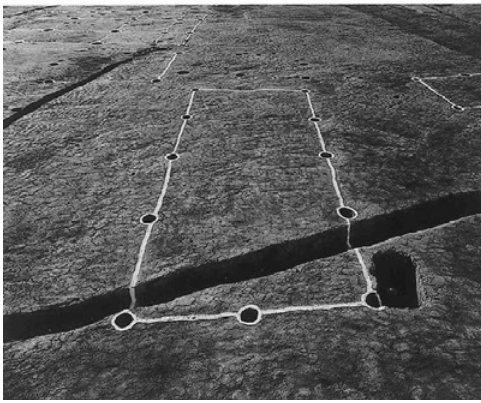
17号掘立柱建物跡 全景



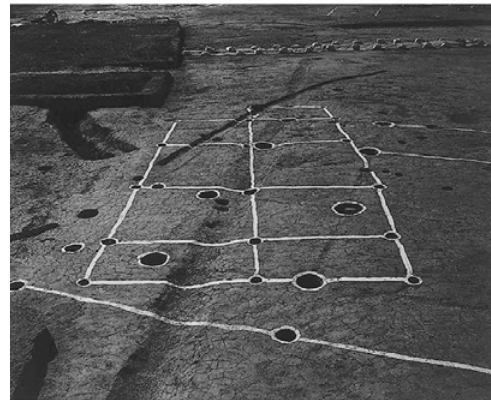
14号掘立柱建物跡 全景



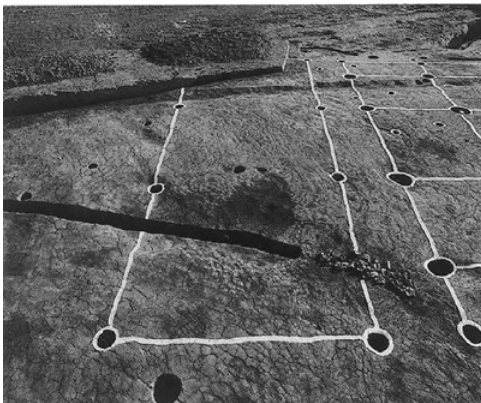
16・17号掘立柱建物跡 全景



15号掘立柱建物跡 全景



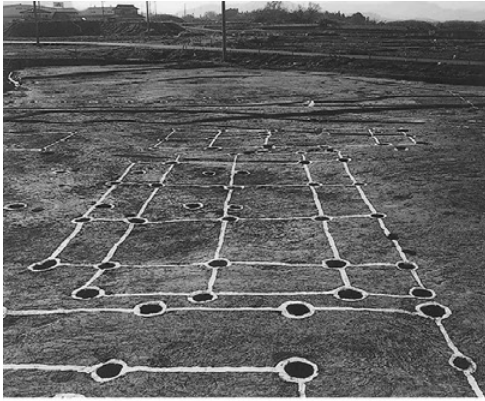
18号掘立柱建物跡 全景



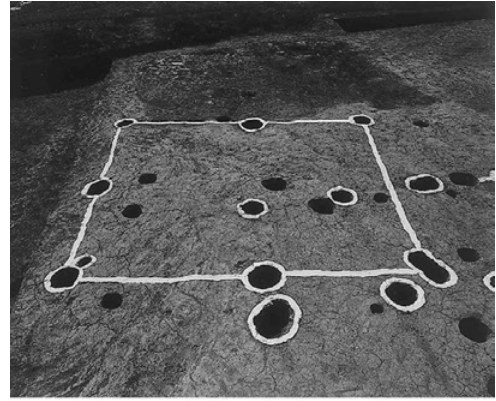
16号掘立柱建物跡 全景



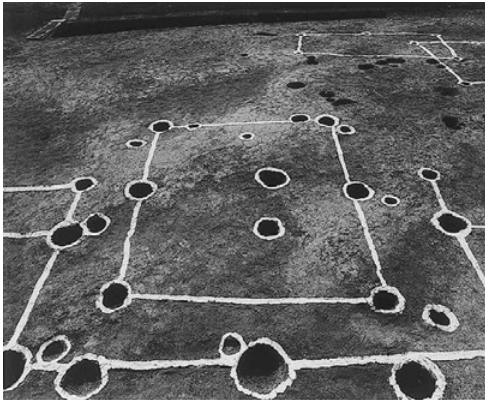
19号掘立柱建物跡 全景



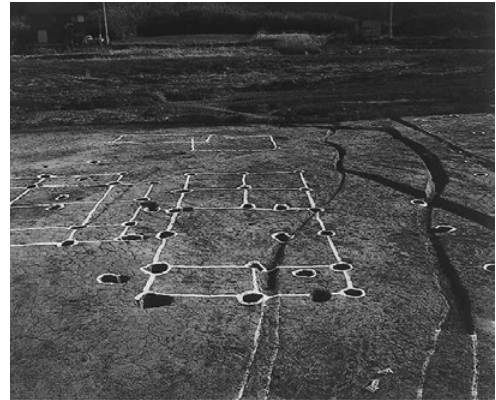
20号掘立柱建物跡 全景



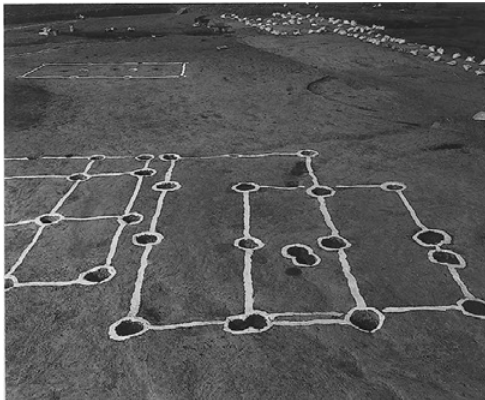
25号掘立柱建物跡 全景



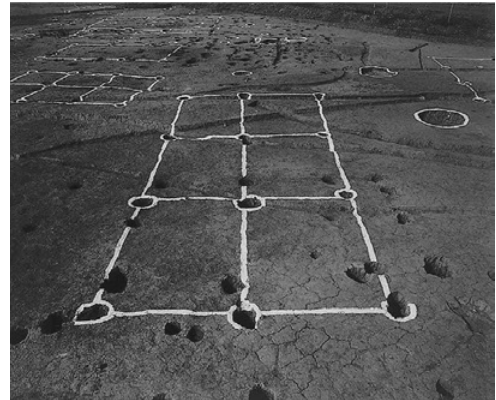
21号掘立柱建物跡 全景



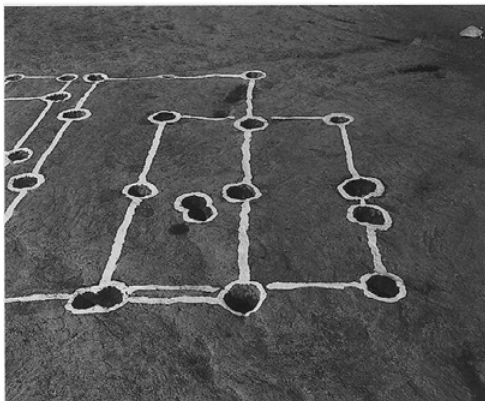
26号掘立柱建物跡 全景



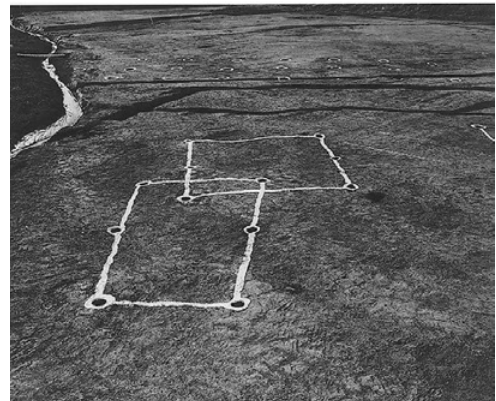
23・24号掘立柱建物跡 全景



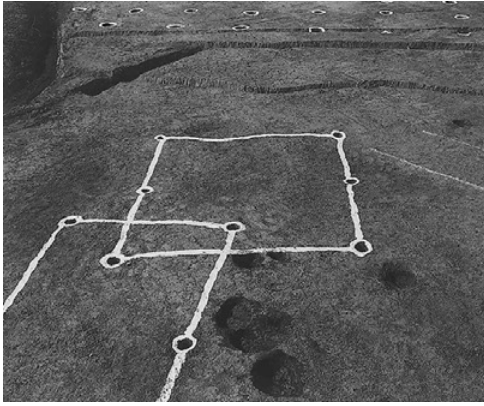
27号掘立柱建物跡 全景



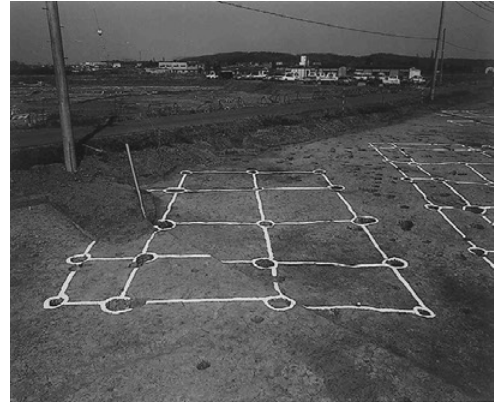
24号掘立柱建物跡 全景



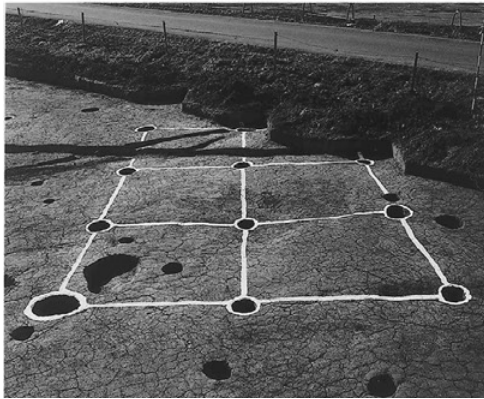
28・29号掘立柱建物跡 全景



29号掘立柱建物跡 全景



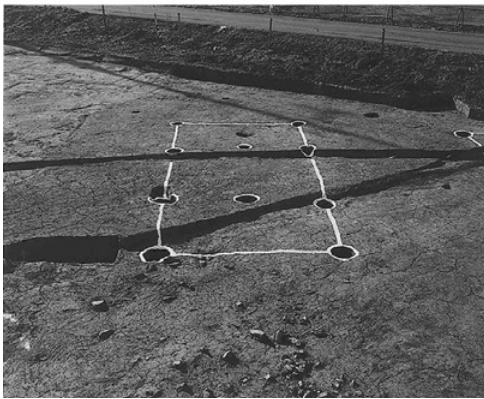
34号掘立柱建物跡 全景



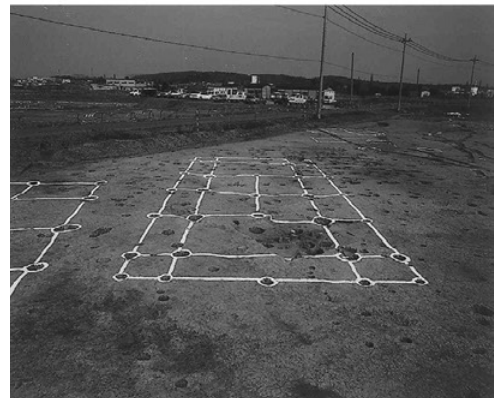
30号掘立柱建物跡 全景



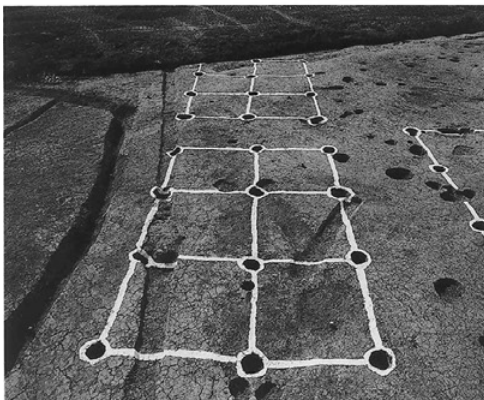
35号掘立柱建物跡 全景



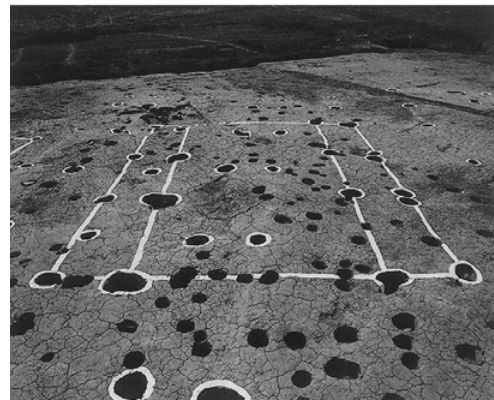
31号掘立柱建物跡 全景



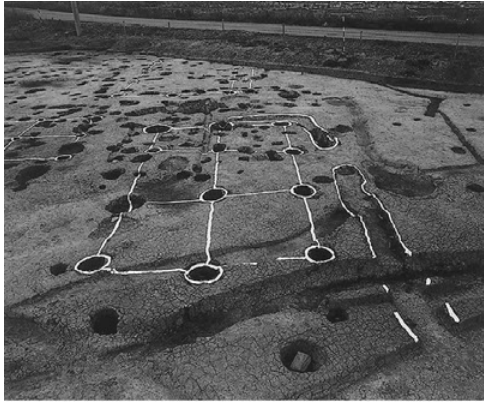
36号掘立柱建物跡 全景



32・33号掘立柱建物跡 全景



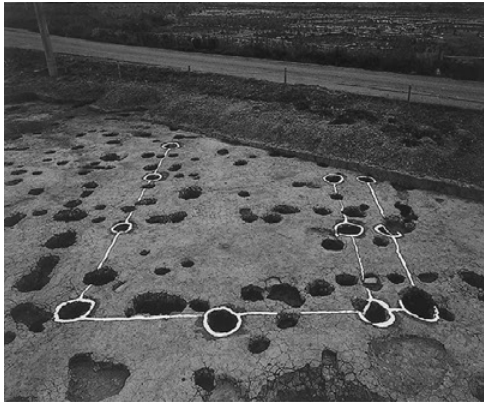
37号掘立柱建物跡 全景



38号掘立柱建物跡 全景



1号井戸 全景



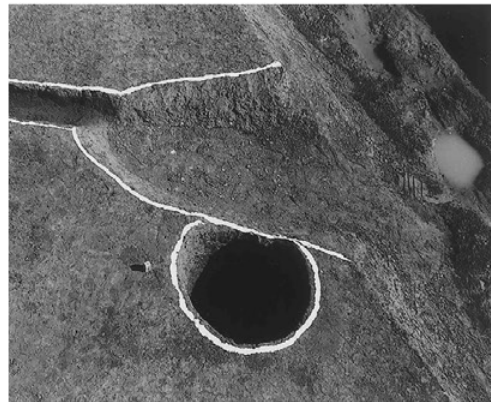
39号掘立柱建物跡 全景



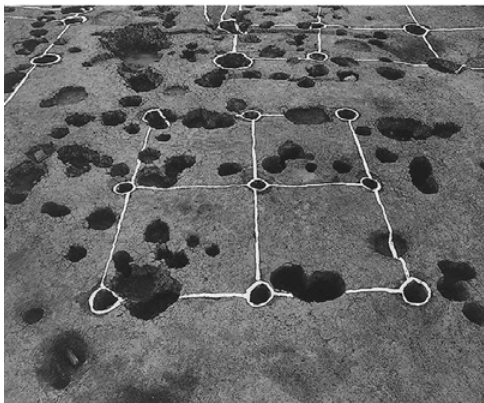
2号井戸 全景



40号掘立柱建物跡 全景



3号井戸 全景



41号掘立柱建物跡 全景



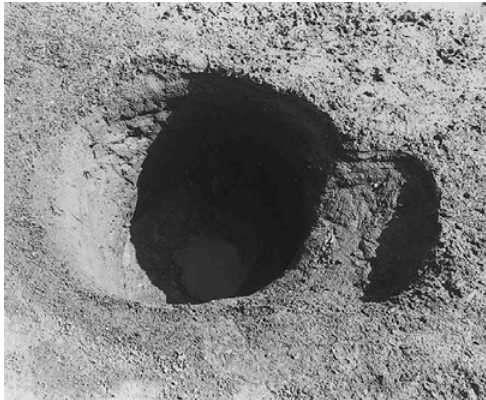
4号井戸 全景



5号井戸 全景



1号溜井 全景 (1)



6号井戸 全景



1号溜井 全景 (2)



7号井戸 全景



1号溜井 全景 (3)



8号井戸 全景



1号溜井 木材検出状況



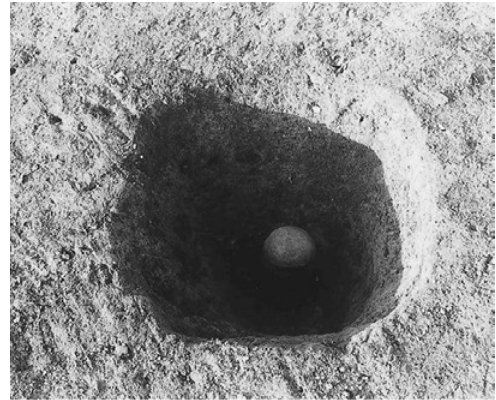
1号溜井 遺物出土状況（1）



35号土坑 全景



1号溜井 遺物出土状況（2）



36号土坑 遺物出土状況



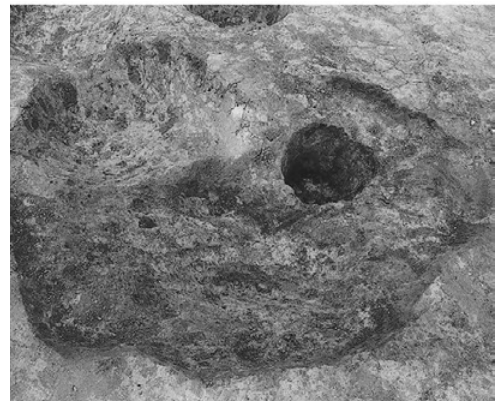
1号溜井 遺物出土状況（3）



49号土坑 遺物出土状況



1号溜井 遺物出土状況（4）



62号土坑 全景



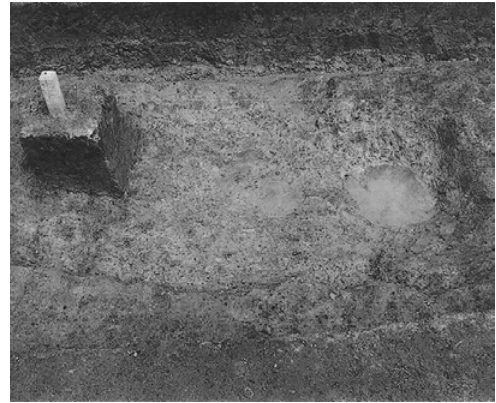
64号土坑 遺物出土状況



91号土坑 遺物出土状況



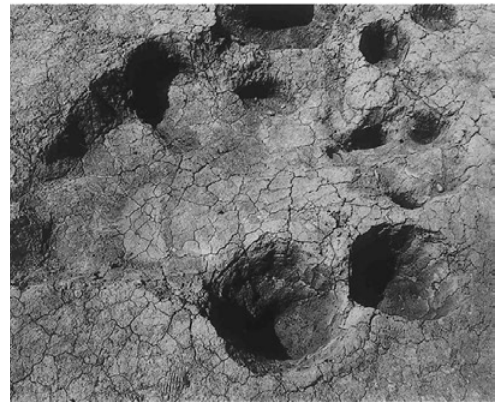
84号土坑 遺物出土状況



101号土坑 遺物出土状況



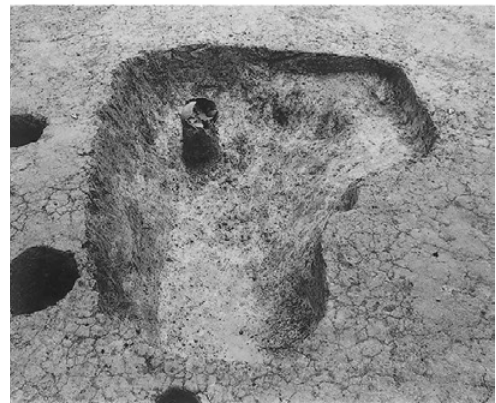
86号土坑 全景



114号土坑 全景



87号土坑 遺物出土状況



125号土坑 遺物出土状況



132号土坑 遺物出土状況



1号溝 遺物出土状況(2)



1号溝 全景(1)



1号溝 土層堆積状況



1号溝 全景(2)



11・12号溝 全景



1号溝 遺物出土状況(1)



13号溝 全景



8号溝 全景



21・23号溝 全景



20号溝 全景



23・31号溝 全景



18・19号溝 全景



24号溝 全景



22号溝 全景



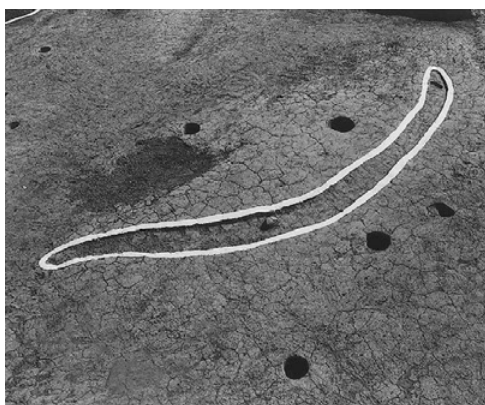
25号溝 全景



26号溝 全景



32号溝 全景



27号溝 全景



40号溝 全景



30・33号溝 全景



C地点水田址 全景 (1)



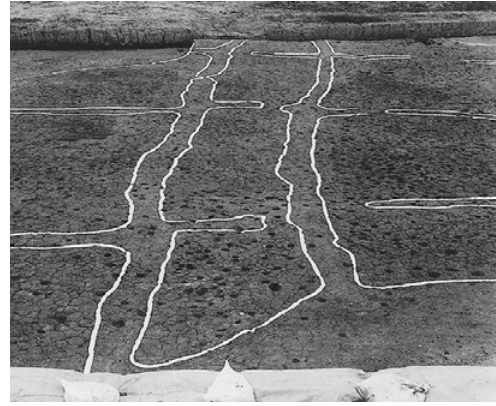
29・33・34号溝 全景



C地点水田址 全景 (2)



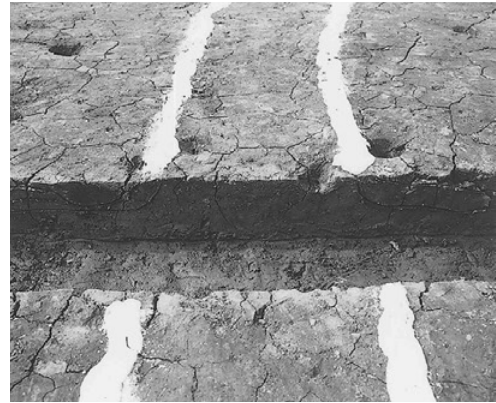
C地点水田址 全景 (3)



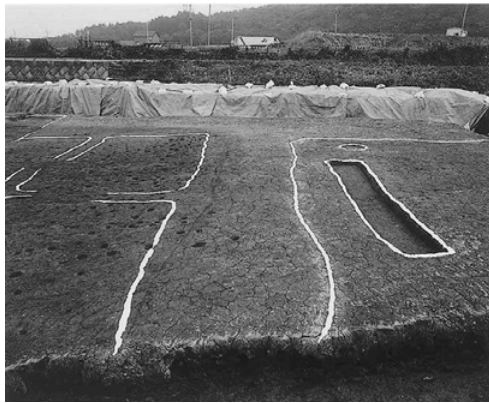
C地点水田址 水口



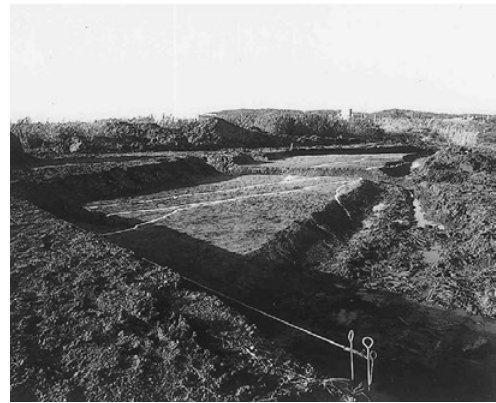
C地点水田址 全景 (4)



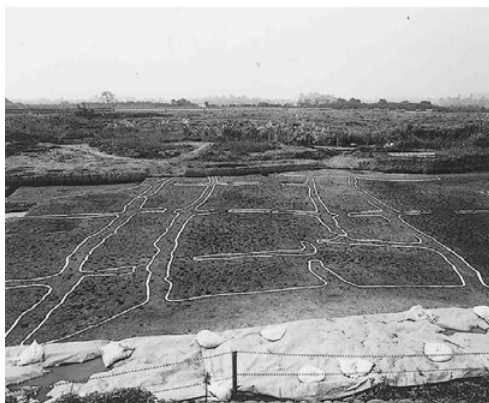
C地点水田址 畦畔土层断面



C地点水田址 全景 (5)



C2地点 全景



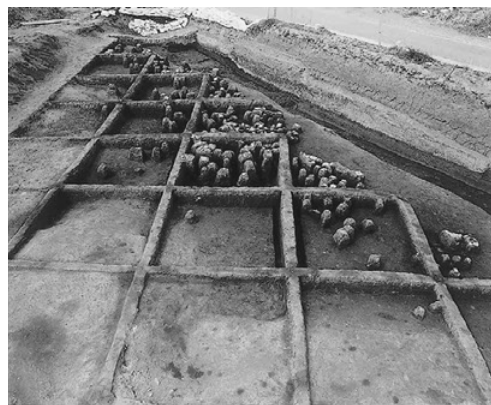
C地点水田址 全景 (6)



C3地点 全景



1号埋甕



B地点 縄文遺物包含層(2)



B地点 縄文遺物包含層(1)



B地点 縄文遺物包含層(3)



B地点 作業風景



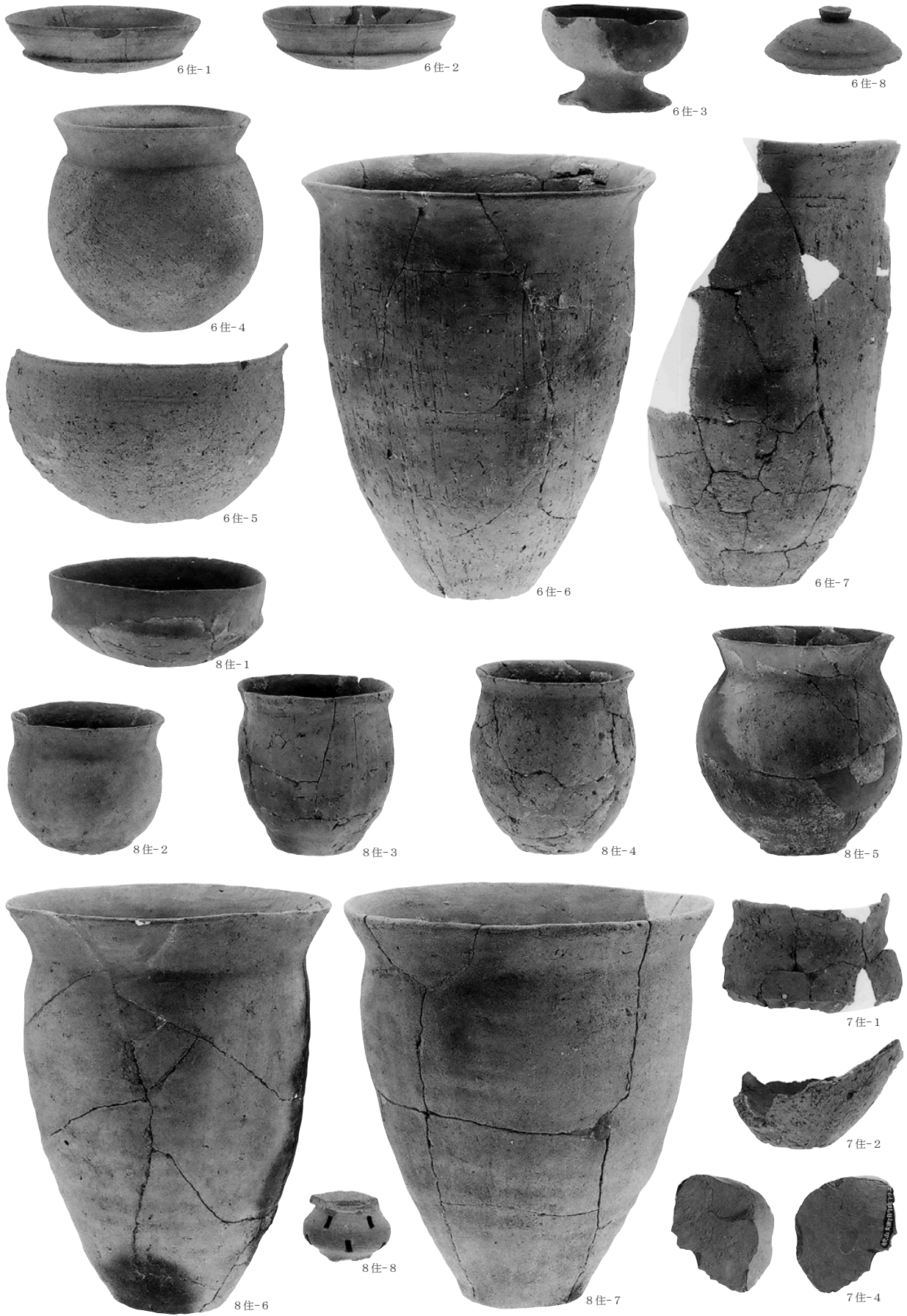
D地点 作業風景



C地点 作業風景



E地点 作業風景



住居跡出土遺物（1）



住居跡出土遺物 (2)



住居跡出土遺物 (3)



住居跡出土遺物（4）



21住-3



21住-4



22住-1



22住-2



22住-3



22住-4



22住-5



22住-6



24住-3



24住-1



25住-1



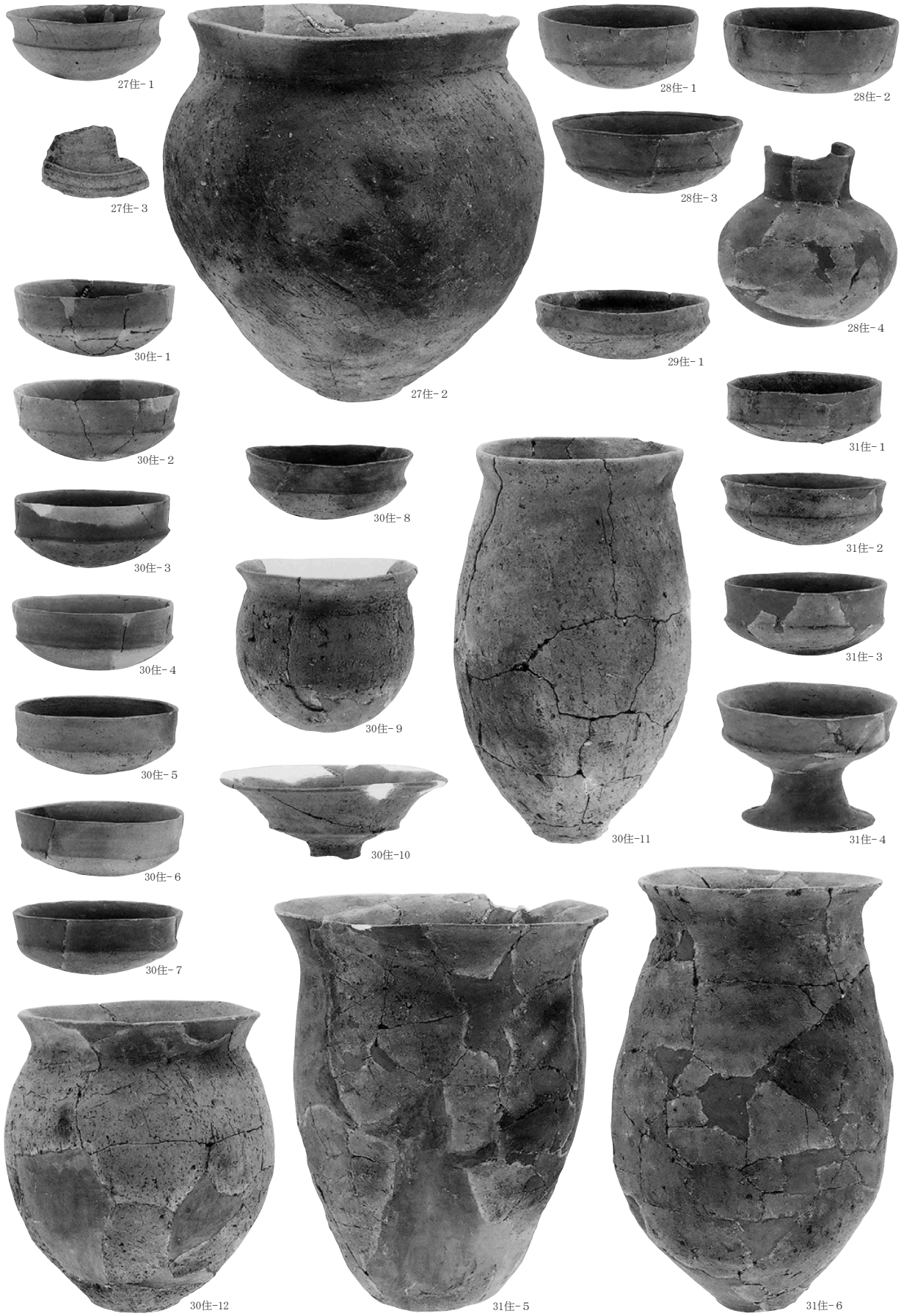
25住-2



25住-3



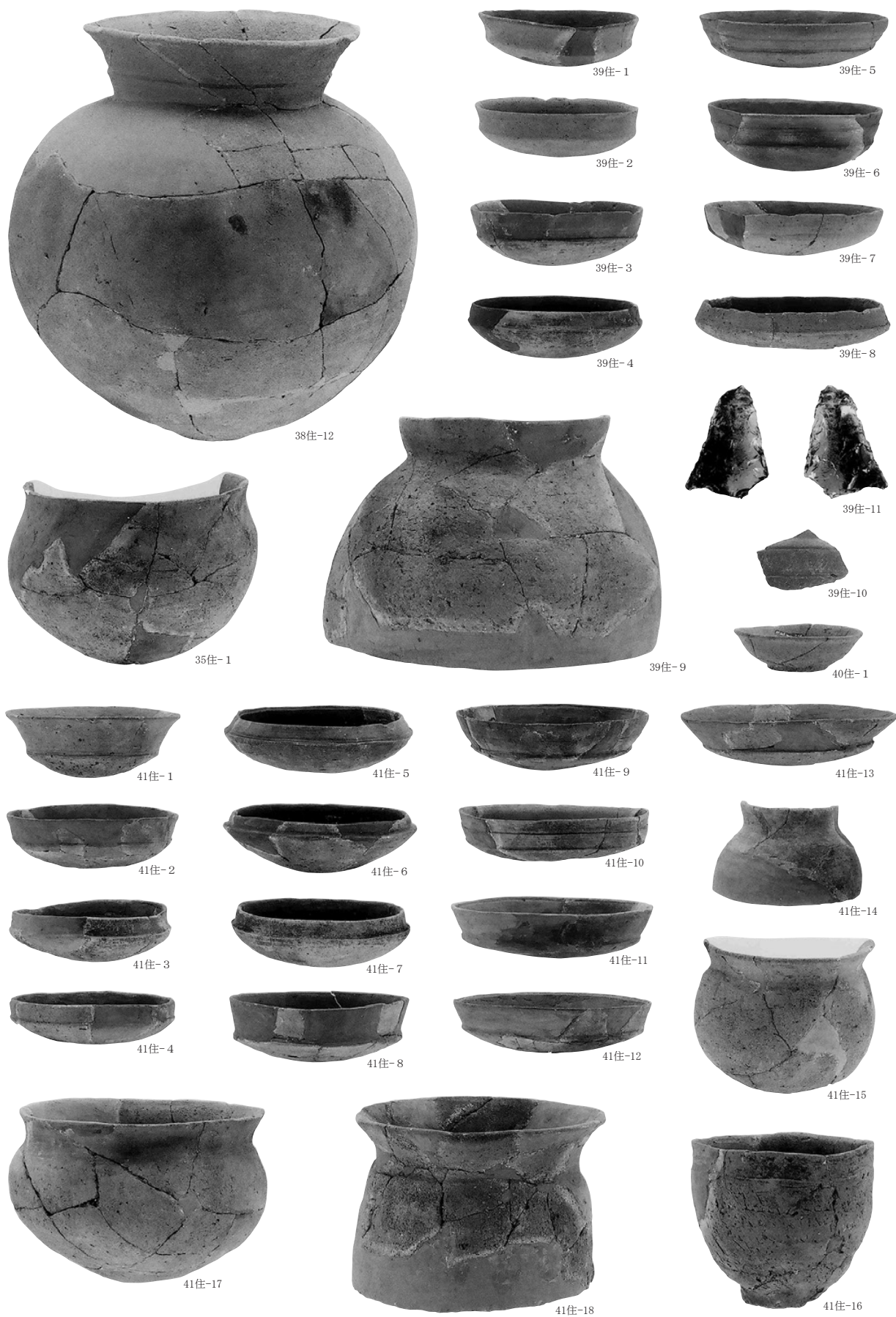
24住-2



住居跡出土遺物（6）



住居跡出土遺物（7）



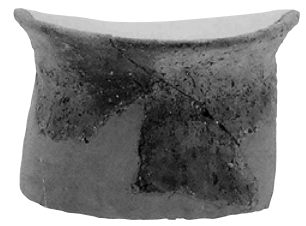
住居跡出土遺物（8）



41住-19



41住-20



42住-1



43住-1



43住-2



41住-21



43住-3



43住-4



43住-5



43住-6



43住-7



43住-8



43住-10



43住-9



43住-11



43住-12



43住-13



住居跡出土遺物 (10)



住居跡出土遺物 (11)



住居跡出土遺物 (12)



住居跡出土遺物 (13)



住居跡出土遺物 (14)



住居跡出土遺物 (15)



住居跡出土遺物 (16)



72住-7



72住-10



72住-13



72住-12



72住-8



72住-11



72住-9



72住-14



72住-15



72住-18



72住-19



72住-16



72住-17



72住-20



72住-21



72住-22



住居跡出土遺物 (18)



79住-10



79住-11



74住-1



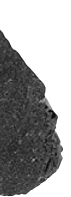
74住-3



74住-2



74住-4



74住-5



79住-12



81住-1



81住-2



81住-3



81住-8



81住-4



81住-5



81住-6



81住-7

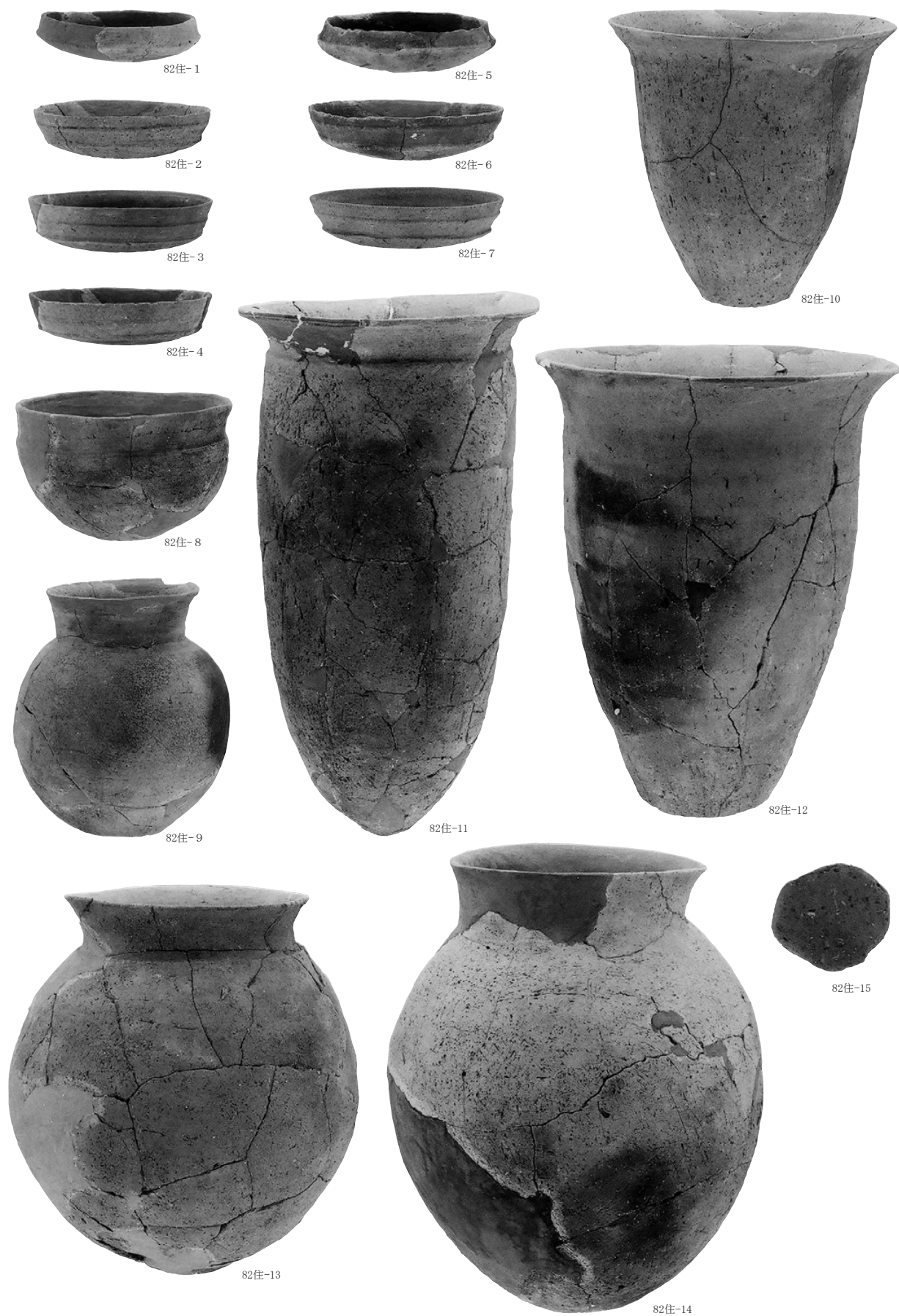


81住-9

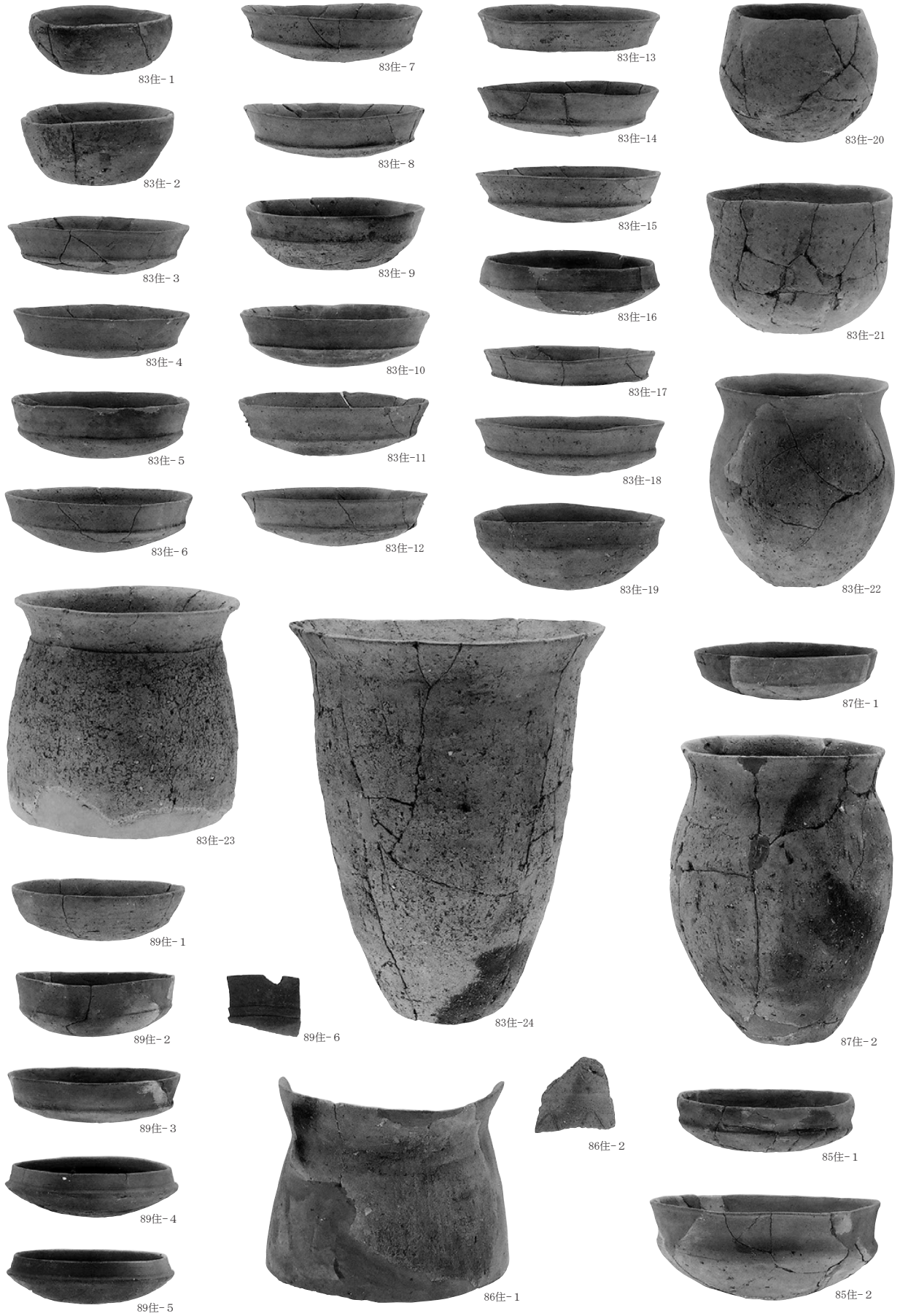


81住-10

住居跡出土遺物 (19)



住居跡出土遺物 (20)



住居跡出土遺物 (21)



住居跡出土遺物 (22)



住居跡出土遺物 (23)



100住-13



100住-14



100住-15



100住-16



100住-17



100住-18



101住-1



101住-4



101住-2



107住-1



107住-2



101住-3



101住-5



101住-6



104住-1

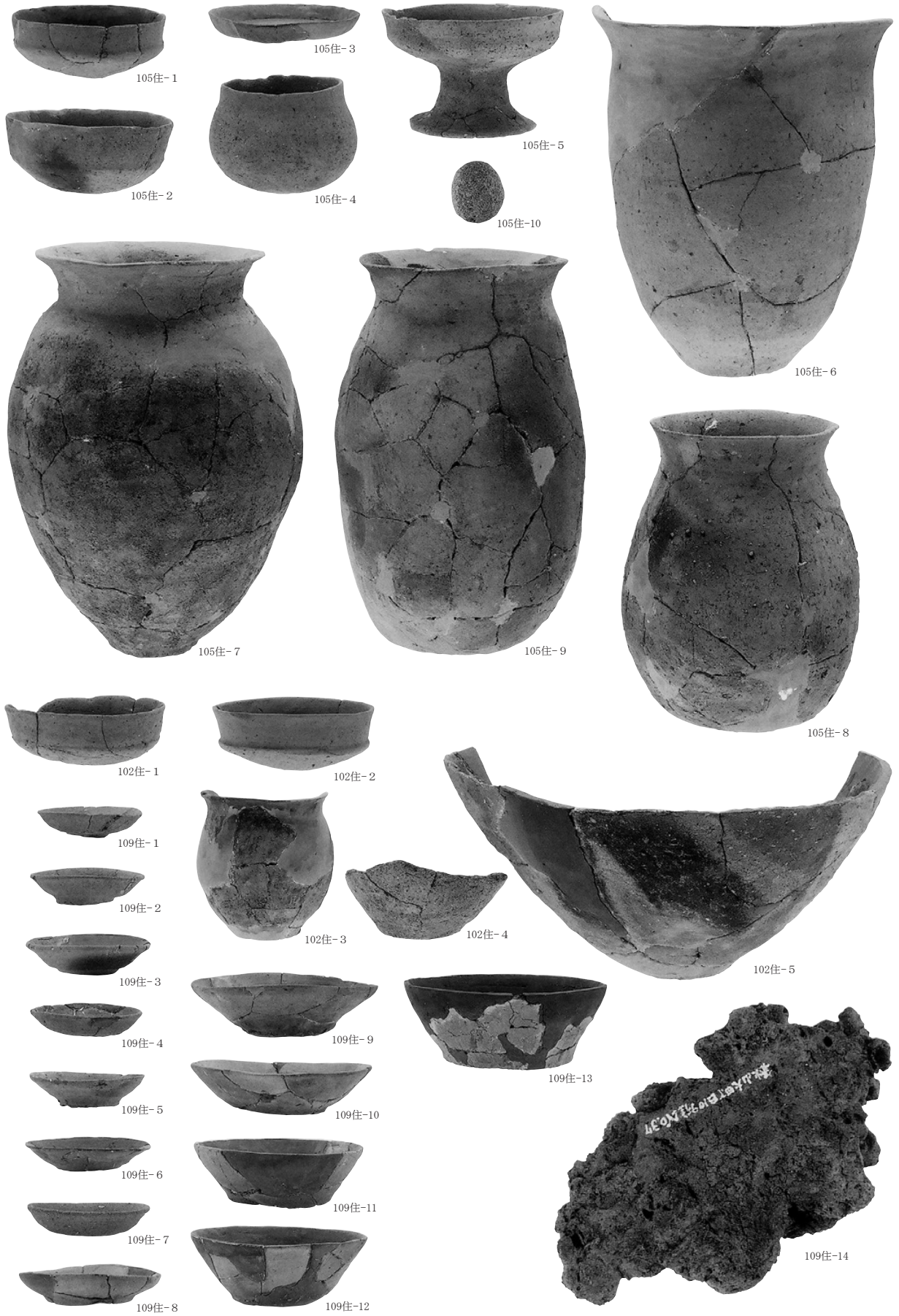


104住-2



104住-3

住居跡出土遺物 (24)



住居跡出土遺物 (25)



110住-1



110住-2



110住-3



110住-4



110住-5



110住-6



110住-7



110住-8



110住-9



110住-10



110住-11



110住-12



110住-13



110住-14



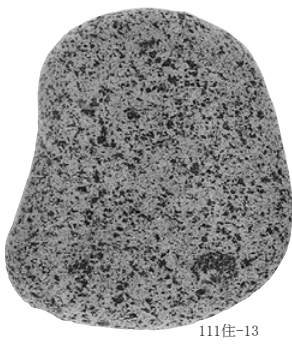
110住-15



110住-16



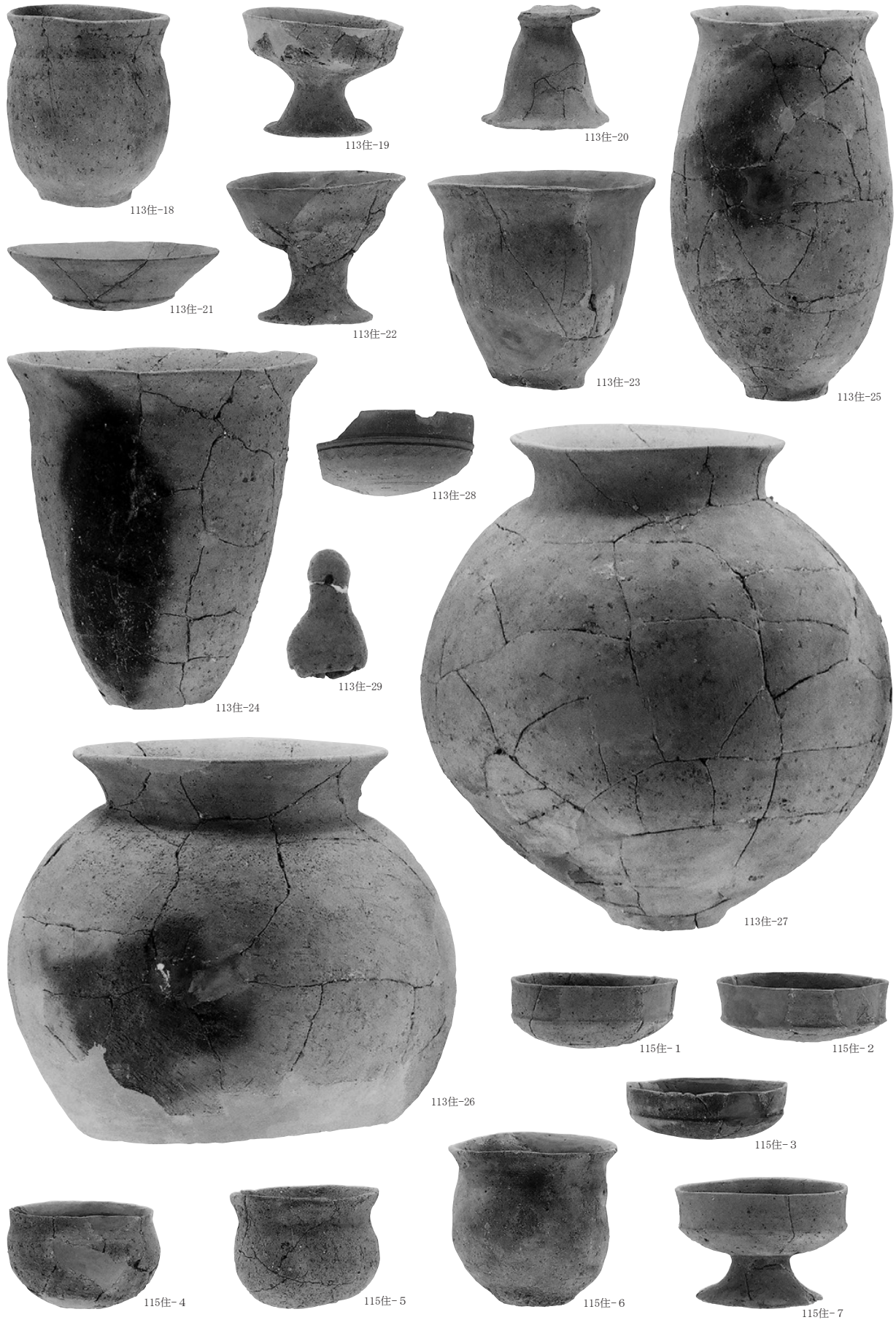
110住-17



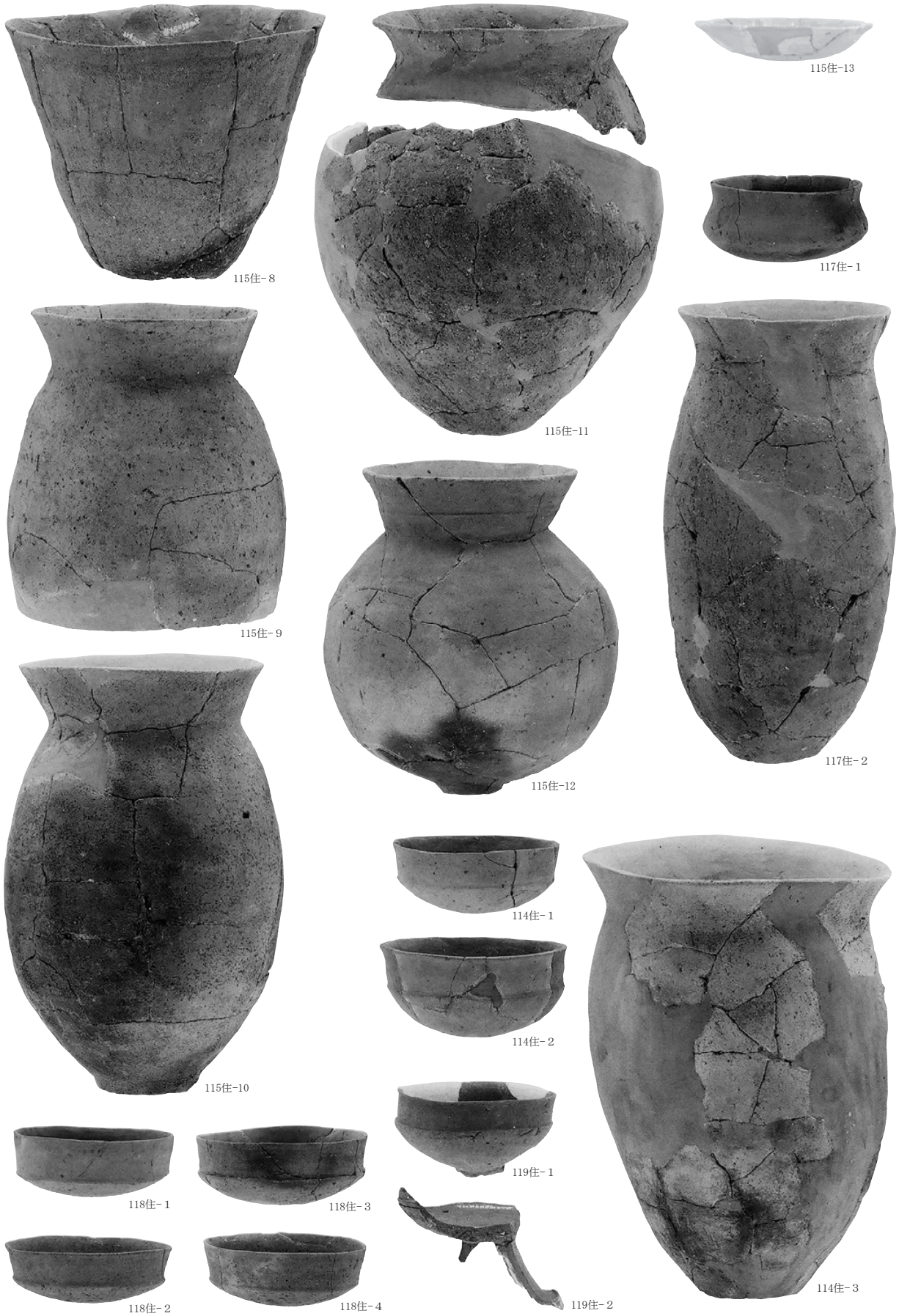
住居跡出土遺物 (27)



住居跡出土遺物 (28)



住居跡出土遺物 (29)



住居跡出土遺物 (30)



118住-5



118住-6



118住-7



118住-8



118住-9



118住-10



118住-11



118住-18



118住-12



118住-16



118住-13



118住-14



118住-17



118住-19



118住-15



118住-20



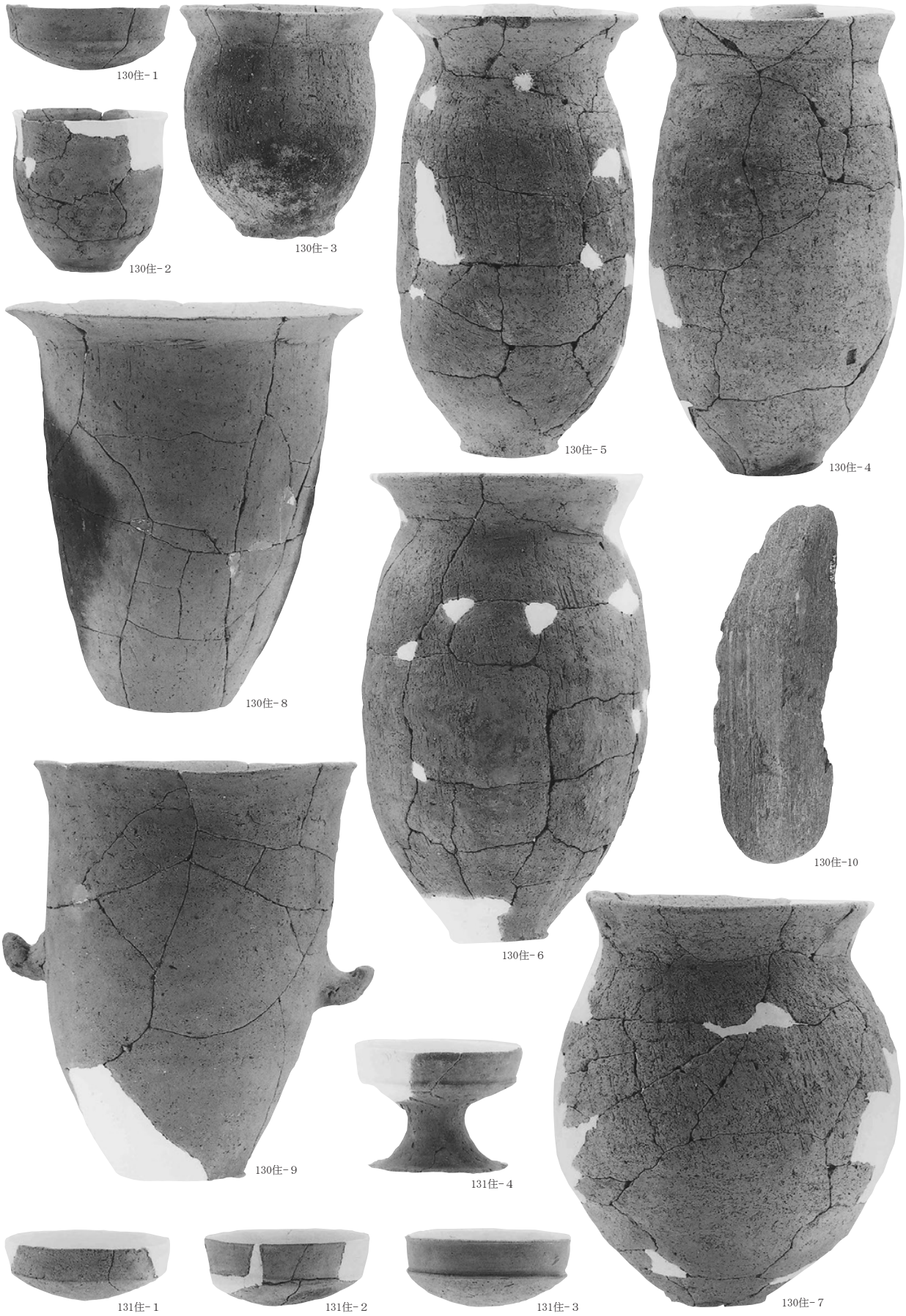
118住-21



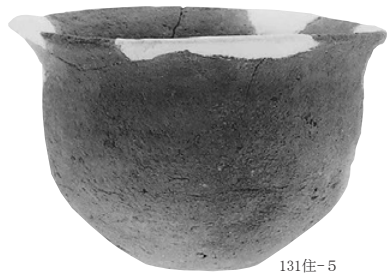
住居跡出土遺物 (32)



住居跡出土遺物 (33)



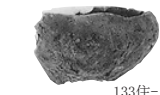
住居跡出土遺物 (34)



131住-5



131住-6



133住-1



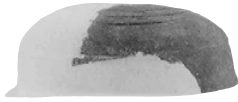
132住-1



136住-1



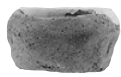
134住-12



131住-7



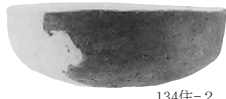
131住-8



134住-1



131住-9



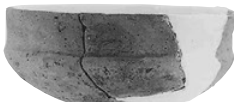
134住-2



134住-3



134住-4



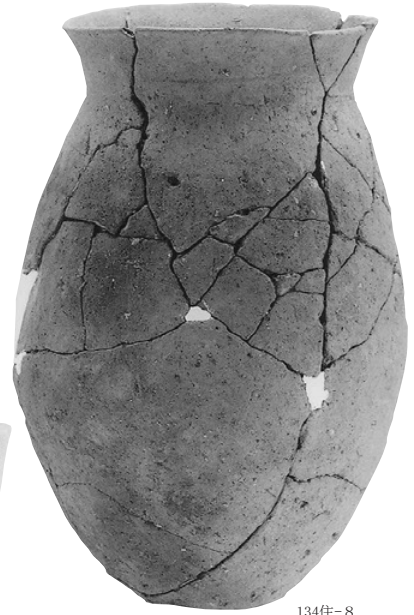
134住-5



134住-6



134住-7



134住-8



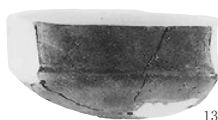
134住-11



134住-10



134住-9



135住-1



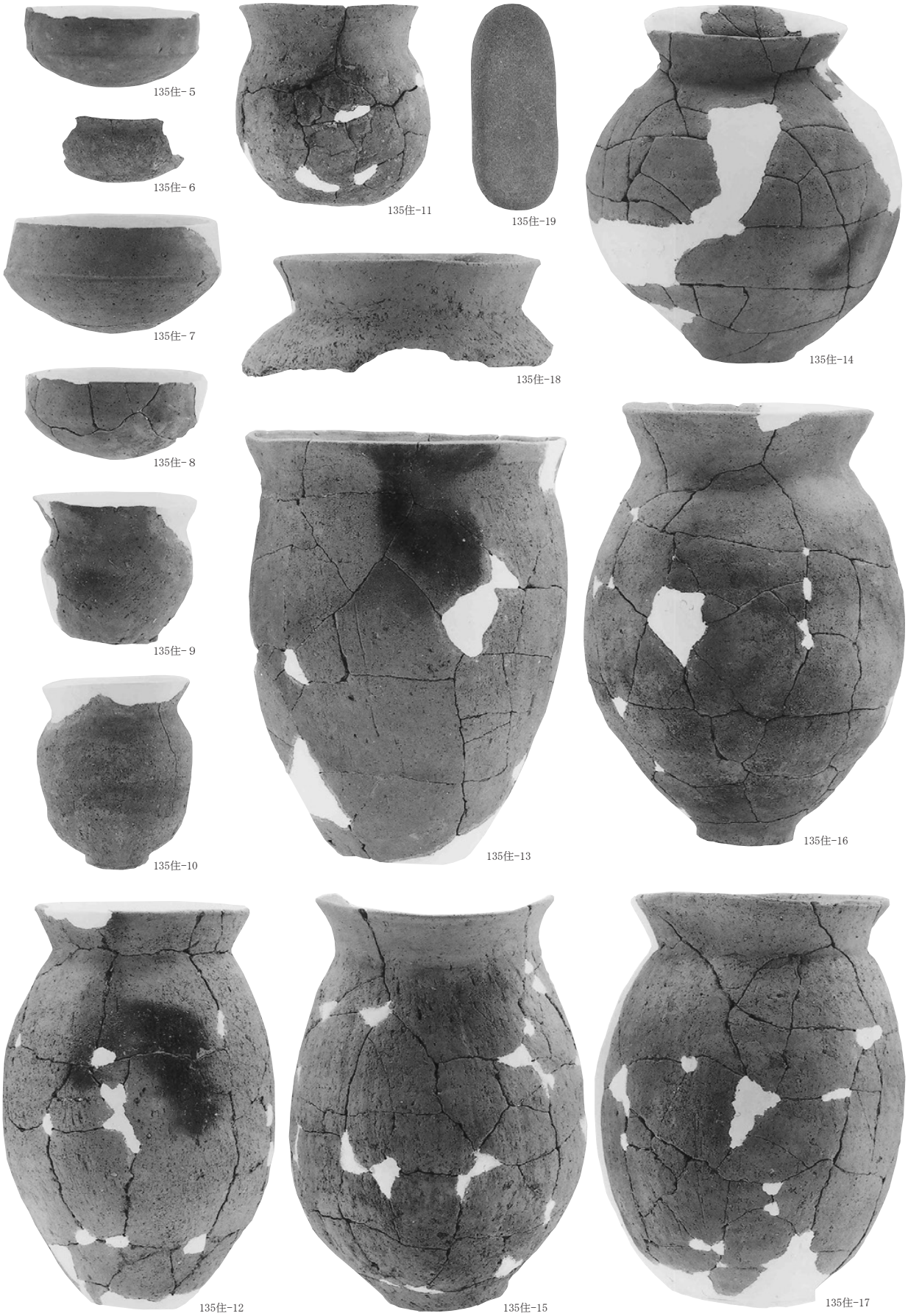
135住-2



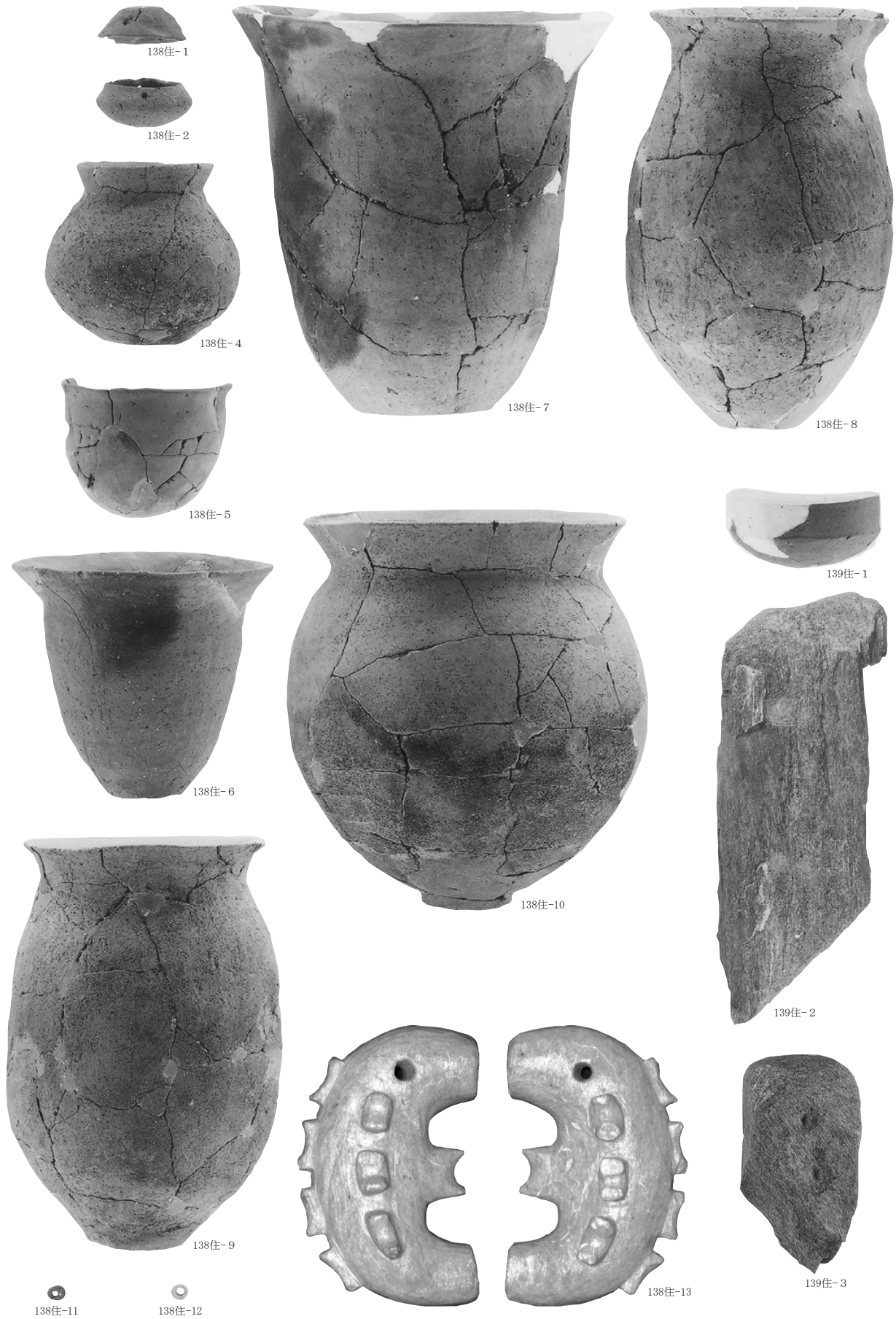
135住-3



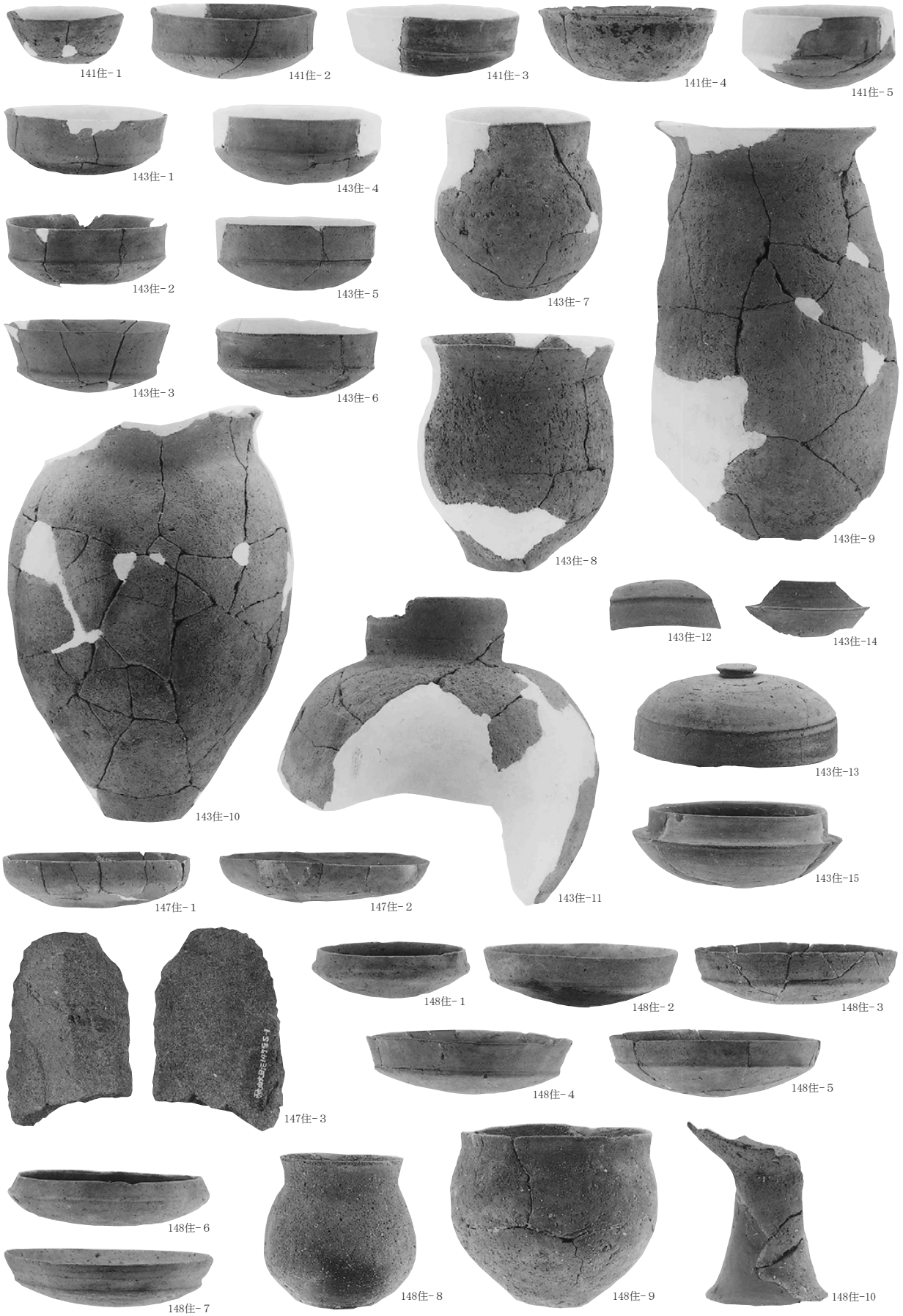
135住-4



住居跡出土遺物 (36)



住居跡出土遺物 (37)

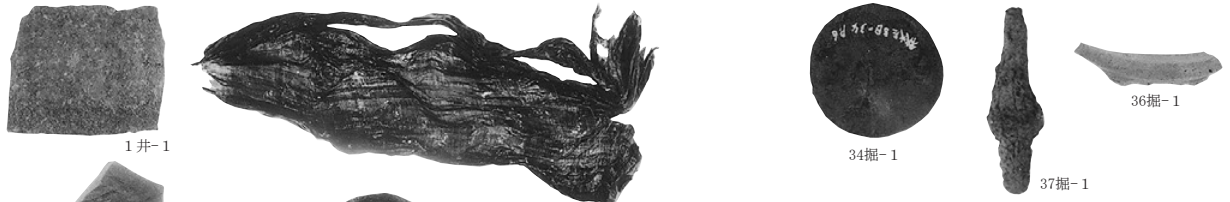


住居跡出土遺物 (38)

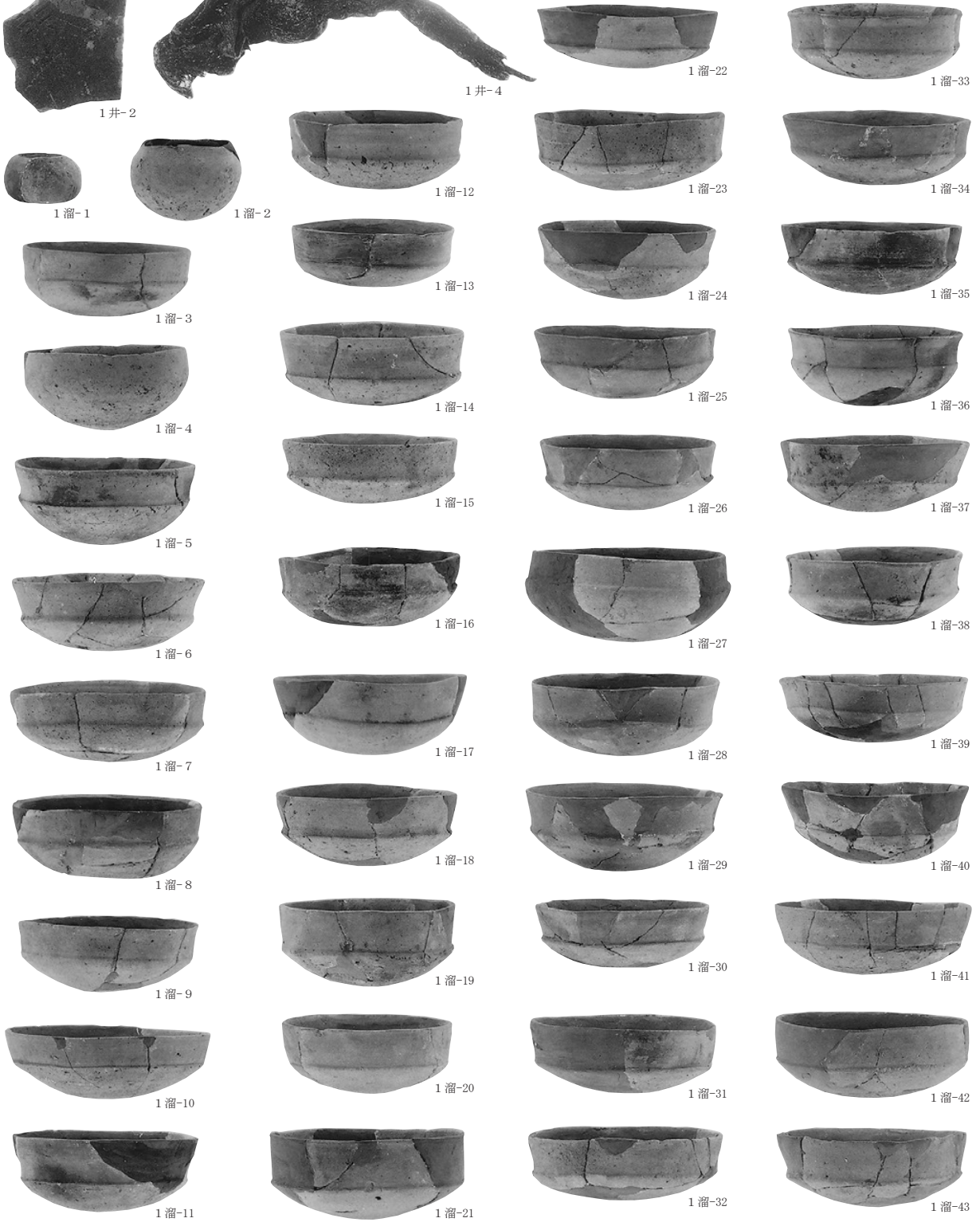


住居跡出土遺物 (39)

掘立柱建物跡出土遺物 (1)



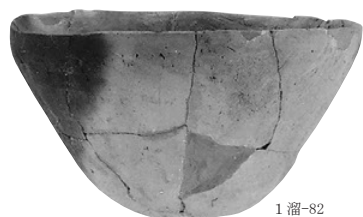
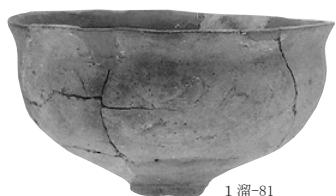
掘立柱建物跡出土遺物 (2)



井戸・溜井出土遺物 (1)



溜井出土遺物（2）



溜井出土遺物 (3)



1溜-91



1溜-94



1溜-97



1溜-92



1溜-95



1溜-98



1溜-93



1溜-96



1溜-99



1溜-100



1溜-103



1溜-104



1溜-101



1溜-105



1溜-102

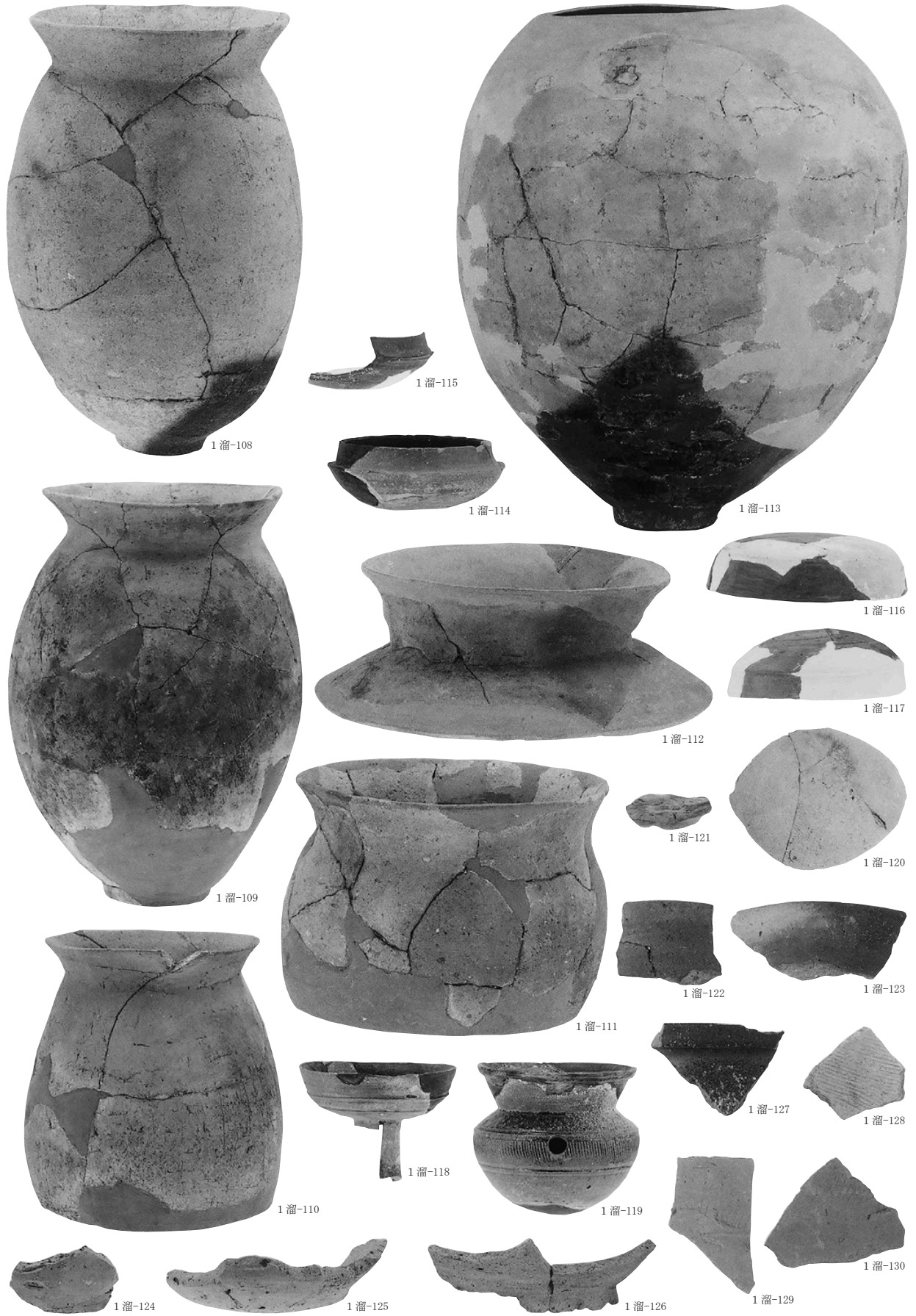


1溜-106

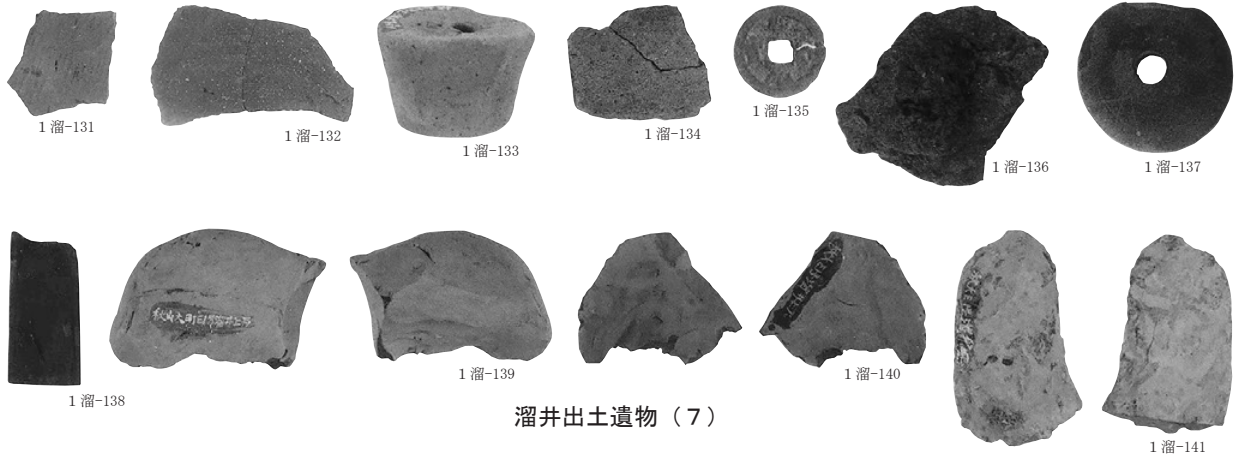


1溜-107

溜井出土遺物 (5)



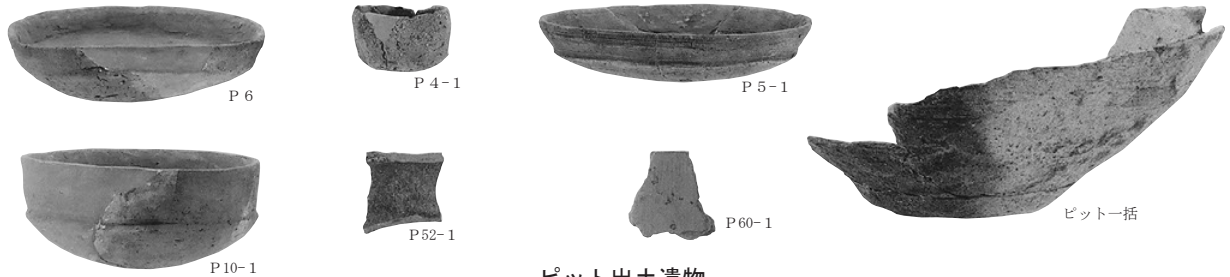
溜井出土遺物（6）



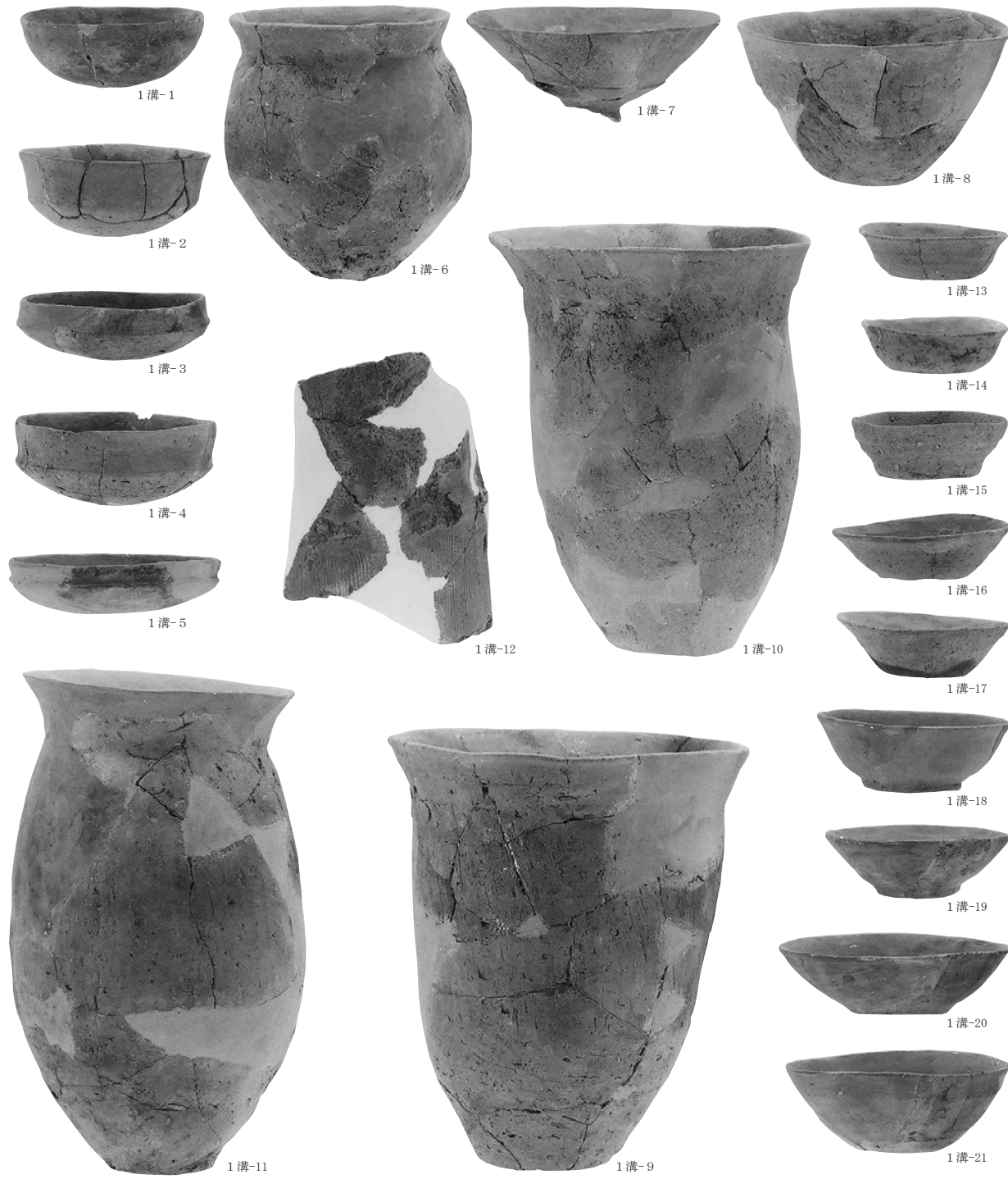
溜井出土遺物 (7)



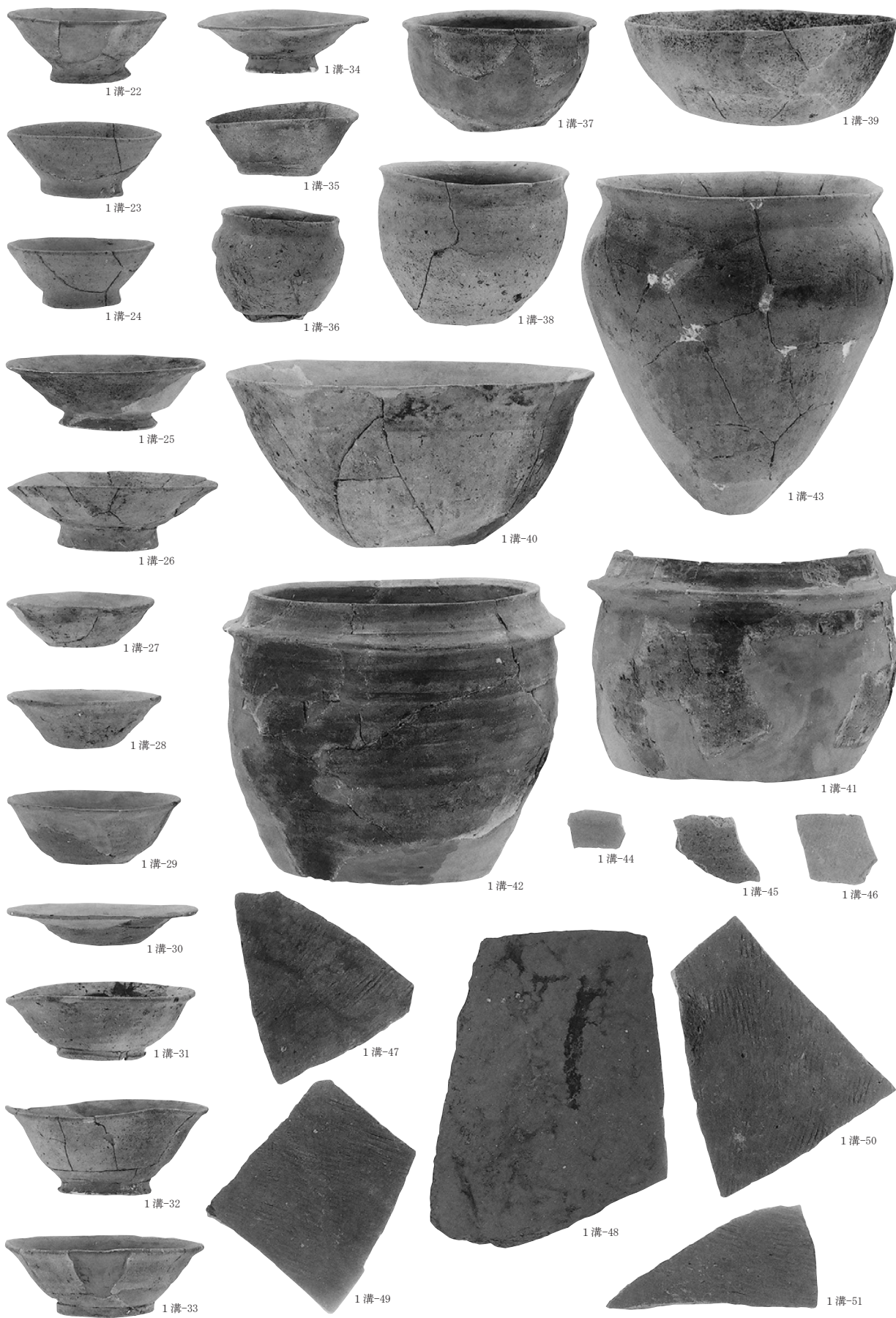
土坑出土遺物



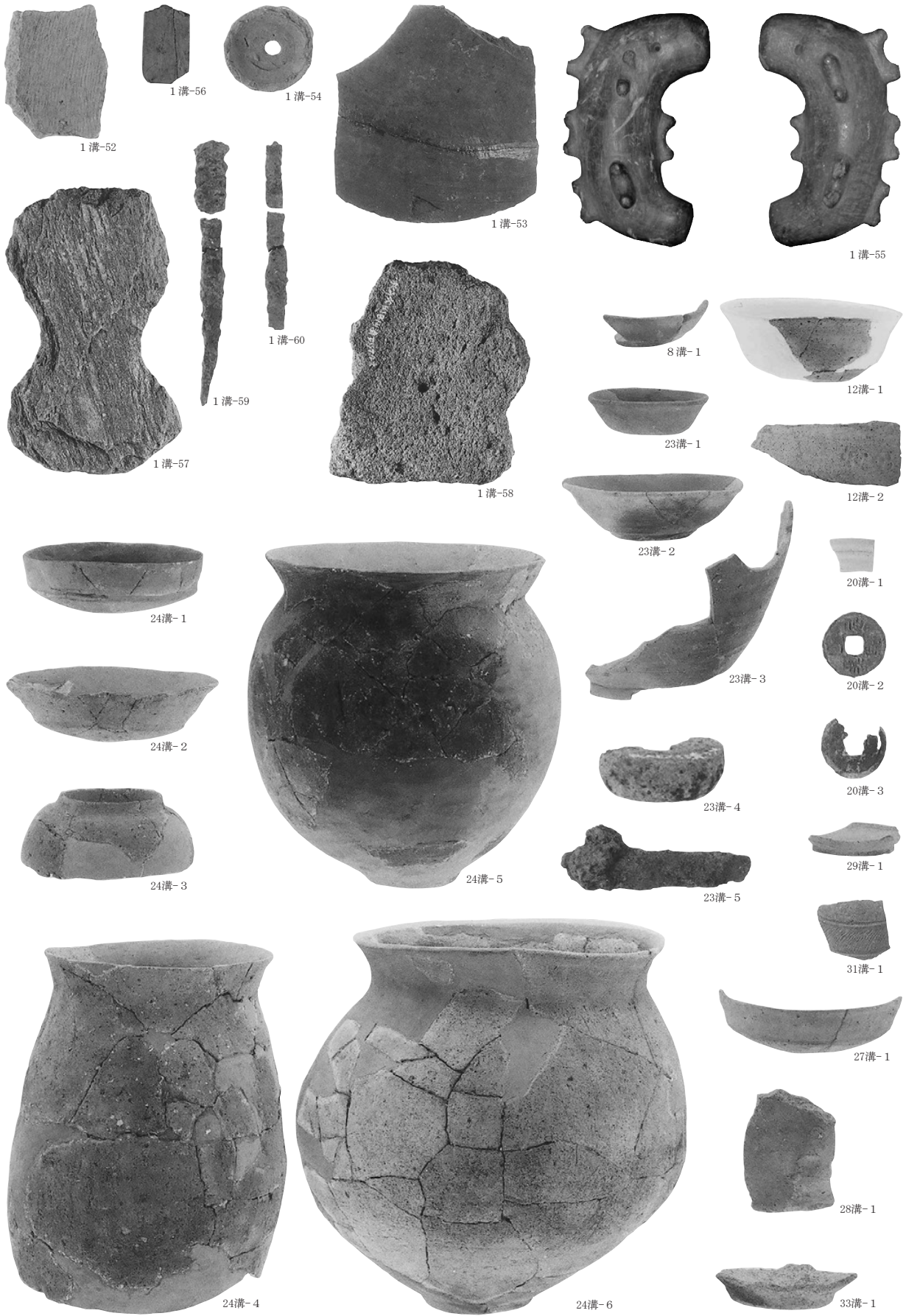
ピット出土遺物



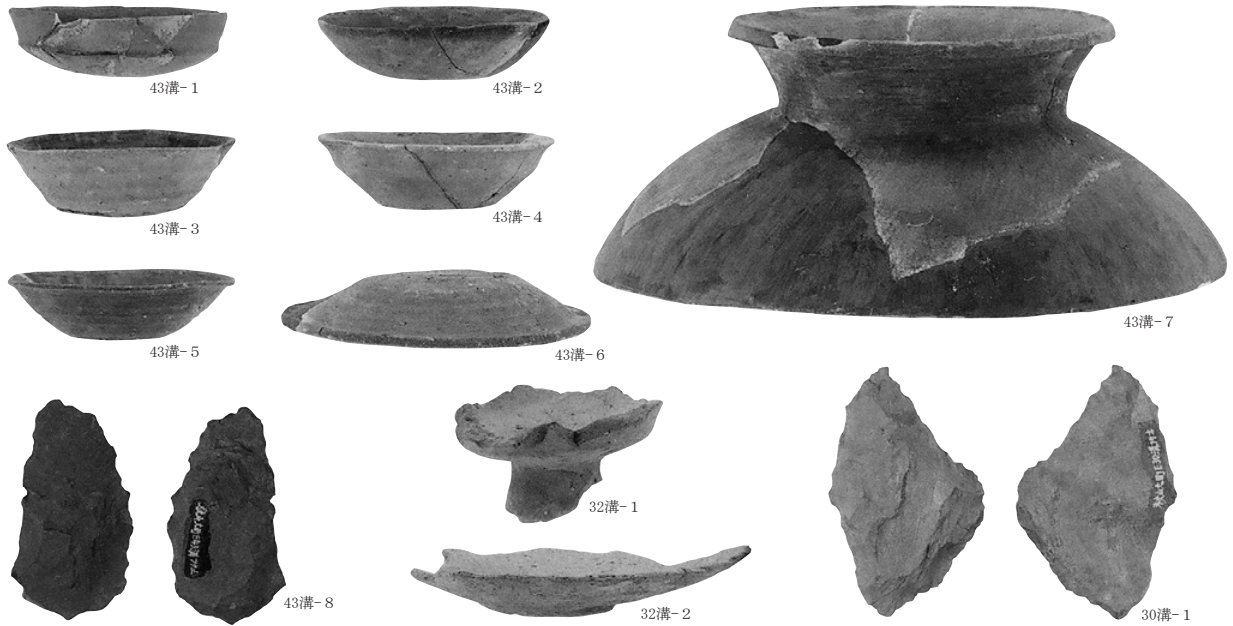
溝出土遺物 (1)



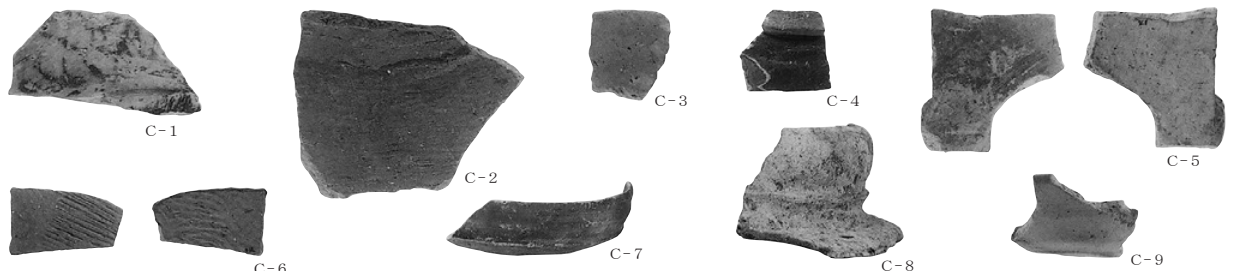
溝出土遺物(2)



溝出土遺物 (3)



溝出土遺物 (4)



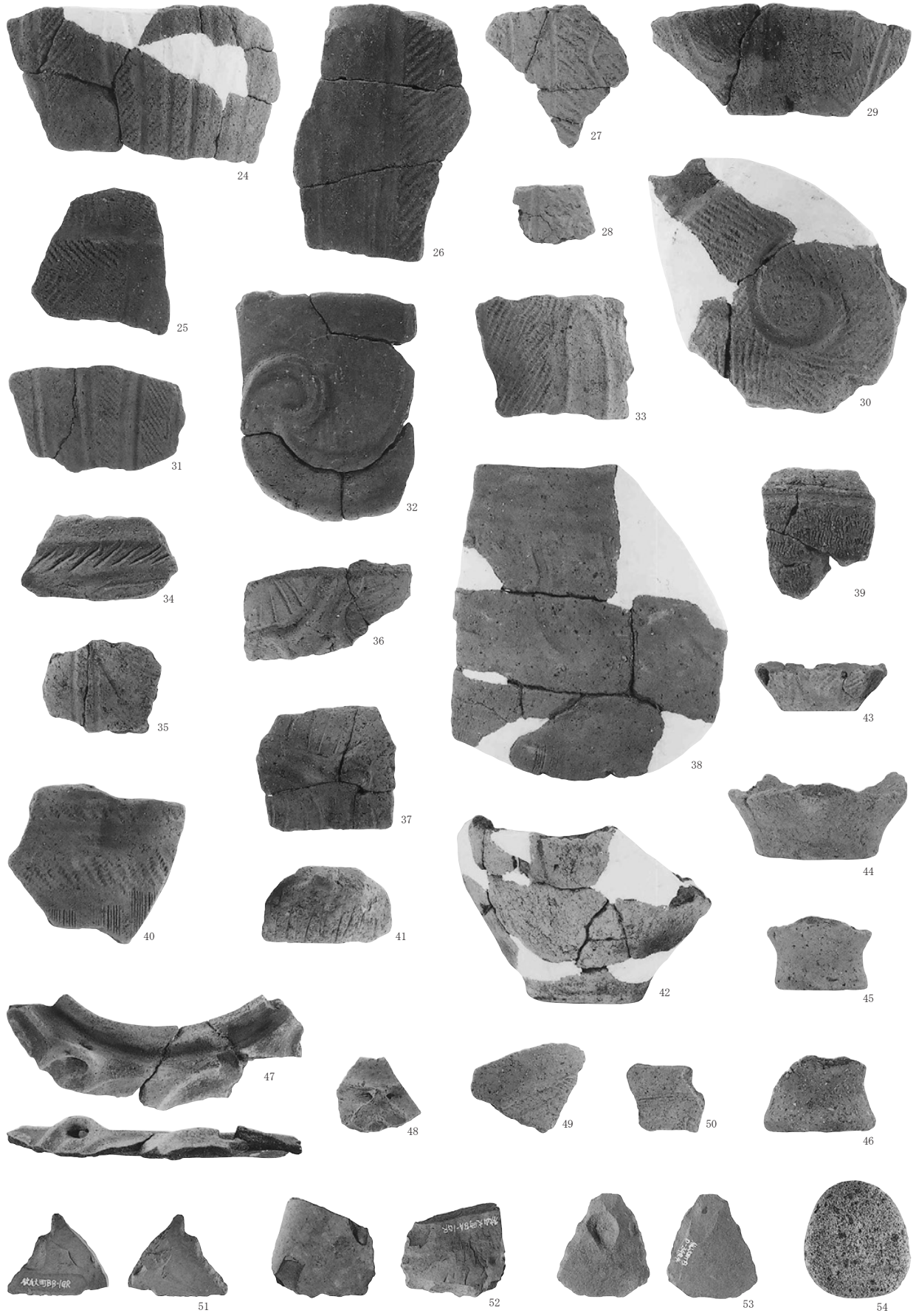
C地点出土遺物



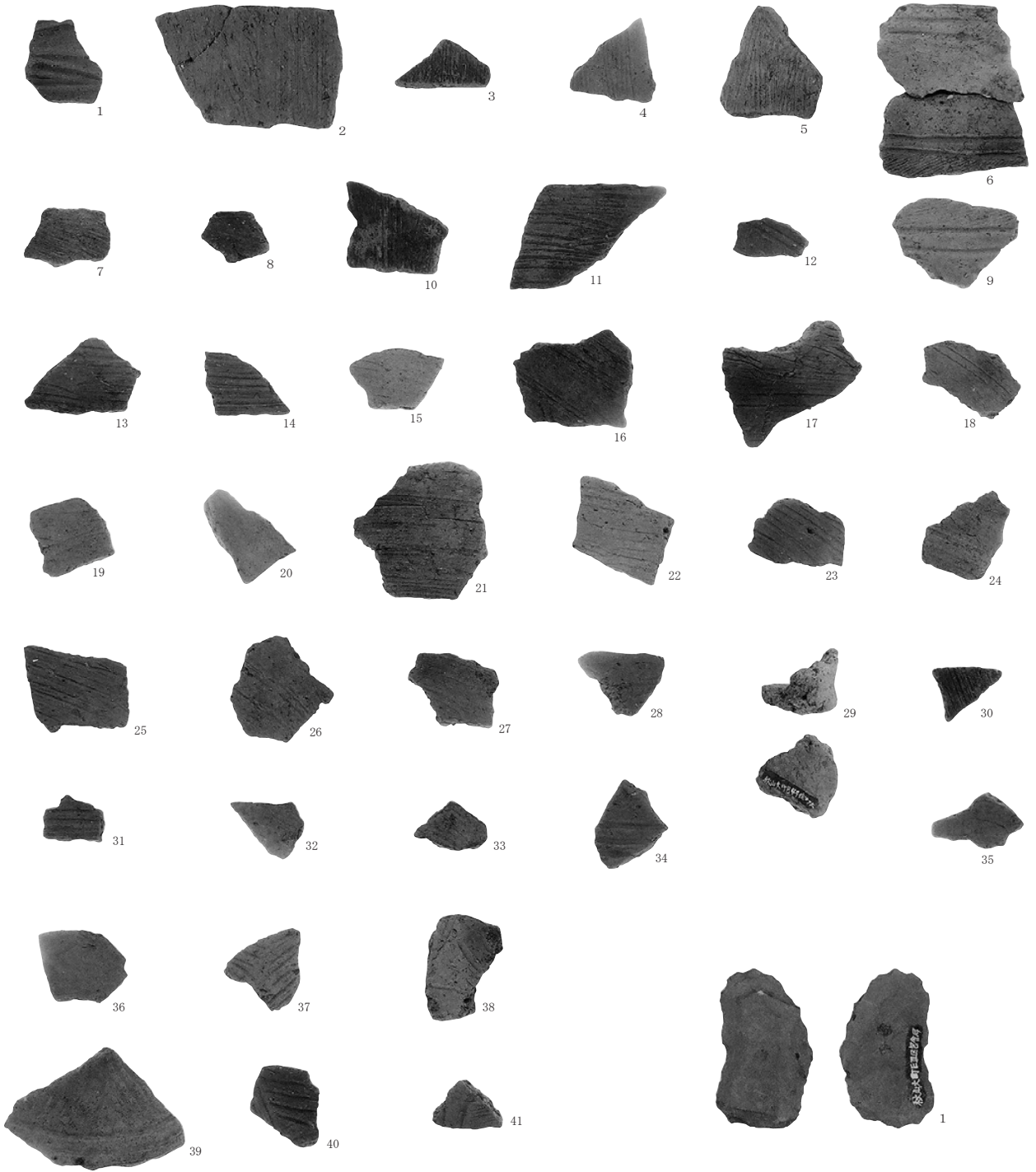
埋甕出土遺物



包含層出土遺物（1）



包含層出土遺物（2）



遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	あきやまおおまちいせき							
書名	秋山大町遺跡							
副書名	B・C・D・E地点の調査							
巻次								
シリーズ名	本庄市遺跡調査会報告書							
シリーズ番号	第36集							
編著者名	宮本久子							
編集機関	本庄市遺跡調査会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 ☎ 0495-25-1185							
発行年月日	西暦2010(平成22)年12月28日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 。'〃	東経 。'〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
秋山大町遺跡 B地点	埼玉県本庄市 児玉町秋山 743-1外	112119	54-267	36°10'39"	137°48'53"	1997.12.10 } 1998.06.19	7,760 m ²	工場造成
秋山大町遺跡 C地点	埼玉県本庄市 児玉町秋山 748-1外			36°10'38"	137°48'51"	1998.07.01 } 1998.09.30	2,090 m ²	
秋山大町遺跡 D地点	埼玉県本庄市 児玉町秋山 737-1外			36°10'40"	137°48'55"	1998.11.16 } 1999.08.31	2,120 m ²	
秋山大町遺跡 E地点	埼玉県本庄市 児玉町秋山696 外			36°10'37"	137°48'57"	1998.11.16 } 1999.08.31	3,660 m ²	
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な出土遺物		特記事項
秋山大町遺跡	集落 水田 掘立柱建物群 包含層	縄文時代 弥生時代 古墳時代 平安時代 中世 近世		竪穴住居跡 149軒 掘立柱建物跡 41棟 土坑 173基 井戸 7基 溜井 1基 溝 37条 水田址 1面 埋甕 3基		縄文土器 弥生土器 石器 土師器 須恵器 石製模造品 鉄製品 陶磁器 木製品 古銭		1号溝・138号住居跡より子持勾玉出土。

本庄市遺跡調査会報告書 第36集

秋山大町遺跡

-B・C・D・E地点の調査-

平成22年12月24日 印刷

平成22年12月28日 発行

発行／本庄市遺跡調査会

〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号
本庄市教育委員会内
電話 0495-25-1185

印刷／山進社印刷株式会社